大仁町埋蔵文化財調査報告 第11集

# 公蔵免遺跡発掘調査報告書

昭和51年度（第Ⅰ次調査）　　昭和52年度（第Ⅱ次調査）

―伊豆における勝坂式および北屋敷式土器大量出土の遺跡―

1990

静岡県大仁町教育委員会

大仁町埋蔵文化財調査報告　第11集

# 公蔵免遺跡発掘調査報告書

1990

静岡県大仁町教育委員会

巻首図版 1

北屋敷式土器・1類f種

巻首図版 2

北屋敷式土器・3類h種

# 例　　言

1、本書は、静岡県田方郡大仁町田京字公蔵免３３８－２番地に所在する、「公蔵免遺跡」の昭和５１年度（第Ⅰ次調査）、昭和５２年度（第Ⅱ次調査）の発掘調査についての報告書である。

2、発掘調査は、大仁町教育委員会が主体となりこれを実施した。調査は、第Ⅰ次調査を漆畑稔・関野哲夫が、第Ⅱ次調査を秋本真澄・漆畑稔・鍵山一郎がそれぞれ担当して行った。

3、第Ⅰ次調査　（昭和５１年７月２５日～８月３１日）
　第Ⅱ次調査　（昭和５２年８月４日～９月３０日）

4、本書の執筆は、第Ⅰ章・第Ⅱ章・第Ⅲ章第１節１、２のア、３のＡ、Ｂ、４、第２節１、２のＡ、Ｂア、ウ、３のＡ、Ｂ、４、第Ⅳ章・第Ⅴ章は漆畑が、第Ⅲ章第１節２のイ、第２節２－Ｂのイは鳥海・勝又・碓井がそれぞれ行った。

5、動物骨については金子浩昌氏に鑑定して頂き、併せて第Ⅲ章第２節Ｂ－ウを執筆して頂いた。

6、文体の統一および総括的編集・校正は漆畑が行った。

7、遺物の整理・各実測図のトレース・拓本等の作業は、秋本の指導のもとに漆畑、鍵山の他鳥海嘉奈子・勝又裕代・碓井恵美子・山下静子・笠井初枝・友野直亮が行った。また、写真撮影については漆畑が行った。

8、勝坂式土器および北屋敷式土器については、小野真一氏、瀬川裕市郎氏、谷口康浩氏、加藤賢二氏、渋谷昌彦氏、松井一明氏、松本一男氏のご指導を頂いた。

9、石器の材質については、高木空穂氏に鑑定して頂いた。

１０、本書にかかる出土品、図面等はすべて大仁町教育委員会で保管している。

※調査体制は次のとおりである。

＜第Ⅰ次調査＞

調査主体者　大仁町教育委員会　教育長　堀江三郎

事　務　局　大仁町教育委員会　事務局長　柳原一彦　　職員　野沢俊英、浜口昭、梅原フサ子、服部のり子、塩谷由美子

調査担当者　漆畑　稔　（日本考古学協会々員・大仁町文化財保護審議会委員）
　関野哲夫　（成城大学大学院生）

調査参加者　小林義典、佐々木博昭、鎌田隆徳、鈴木秀男、中野貢、羽畑敏、萩原秀俊、鈴木英夫、石川日出夫、大沼秀秋、雨宮守正、立見宗弘、木下昌彦、杉山克雄、植松茂美、土屋肇、羽畑由美、漆畑裕江、芹沢清美、秋山君代、三枝和則、小野田一夫、鈴木宏士、杉山富男、平野信政、石川善教、遠藤和年、遠藤幹雄、小沢喜雄、内山栄一、室伏豊、川口勇治、小沢仁志、堀井洋介、

西島和仁、光永豊、草茅秀茂、浅井吉春、太田雄司、内田昌士、豊竹洋已、斎藤道明、堀江伸次、萩原英美、守野和弘、河野政洋、松井和昭、菊池輝洋望月透、土屋博進、西島宏一、牧野昌夫、公野真理子、堀郁子、谷光弘、菊池孝則、鈴木洋一、石井精一、佐藤俊幸、小坂義雄、吉田貴子、石和一弘稲葉建、谷口孝、杉山隆英、石坂勝則、吉川稔、田中貞彦、小森千絵、井村明美、宗藤さゆみ、堀江美恵子、杉村諭、田中出英、鈴木英、塩谷明美、杉山文子、杉崎祐美、西島みゆき、土屋千賀子、久保真理子、鈴木守之、塚本良、伊郷恵次、近田直人、金子英生、相原隆、山口文生

＜第Ⅱ次調査＞

調査主体者　大仁町教育委員会　教育長　堀江三郎

事　務　局　大仁町教育委員会　事務局長　柳原一彦　　職員　野沢俊英、上野泰英、梅原フサ子、塩谷由美子

調査担当者　漆畑　稔　（日本考古学協会々員・大仁町文化財保護審議会委員）
秋本真澄　（日本考古学協会々員・加藤学園高等学校教諭）
鍵山一郎　（土肥町文化財保護審議会委員）

調査参加者　後藤清隆、植松基至、渡辺秀治、関川哲哉、梅原邦一、高橋よし子、沢木みゆき、菊田花子、小原はるえ、塩崎美代江、秋山幸子、渡辺かつえ、沢木慶子、若城くみ子、三枝博雄、鈴木宏士、佐藤和雄、杉山利雄、山口道雄、北川輝繁、遠藤和年、杉山信義、石川善教、杉山由紀夫、杉山富男、松本芳昭、平野信政、小野田一夫、遠藤幹雄、村松勇、増井清、鈴木政雄、大井辰雄、三枝和則、稲葉、山田、大川、鈴木、木村、室野、三沢、佐藤、須田、黒石、石井、斎藤、山下、梅原、小川、中島、玉井、芹沢清美、漆畑裕江、羽切みち子、原田、田村、小林、大島、矢田秀実、杉山雅也、渡辺利彦、萩野恵造、川口博史、三栖俊夫、飯田雄浩、小出政勝、河合向一小川栄治、三浦正人、鈴木晴寿、土方悟、渡辺宏利、太田昌男、山本毅、佐藤恵吾、守野充義、岡崎裕紀、梶山禎秋、吉田和正、吉川稔、石坂勝則、光永豊、西島宏一、菊池孝則、菊池輝洋、八木沢洋子、武田和子、豊竹洋已牧野昌夫、小坂義雄

※調査期間中、小野真一氏には再三来町頂き、種々ご指導頂いた。

# 目　　次


巻首図版

例言

第Ⅰ章　発掘調査の経過 …… 1

第1節　調査に至る経緯 …… 1

第2節　調査の経緯 …… 1

第Ⅱ章　遺跡の位置と地理的環境 …… 6

第1節　遺跡の位置と環境 …… 6

第2節　周辺の遺跡 …… 7

第Ⅲ章　発掘調査報告 …… 10

第1節　第Ⅰ次調査 …… 10

1層序 …… 10

2縄文時代の遺物 …… 11

ア土器、土製品 …… 11

イ石器 …… 27

3古墳時代の遺構と遺物 …… 38

A遺構 …… 38

B出土遺物 …… 42

土師器と須恵器 …… 42

4小結 …… 60

第2節　第Ⅱ次調査 …… 62

1層序 …… 62

2縄文時代の遺構と遺物 …… 64

A遺構 …… 64

B出土遺物 …… 65

ア土器、土製品 …… 65

イ石器 …… 242

ウ植物遺存体・骨片類 …… 309

3古墳時代の遺構と遺物 …… 311

A遺構 …… 311

B出土遺物 …… 311

土師器と須恵器 …… 311

4小結 …… 322

第Ⅳ章　北屋敷式土器について …… 323

第1節　研究略史 …… 323

第2節　公蔵免遺跡出土の北屋敷式土器及び関連土器 …… 324

第Ⅴ章　結語 …… 354


# 挿　図　目　次


第1図　公蔵免遺跡の遠景（西方より） … 6

第2図　公蔵免遺跡の位置図（●印・×印は仲道A遺跡） … 8

第3図　公蔵免遺跡の調査区域図 …… 9

第4図　第Ⅰ次調査・土層セクション … 10

第5図　〃　・出土土器拓影 (1) … 13

第6図　〃　・　〃　(2) … 14

第7図　〃　・　〃　(3) … 15

第8図　〃　・　〃　(4) … 16

第9図　〃　・　〃　(5) … 17

第10図　〃　・　〃　(6) … 18

第11図　第Ⅰ次調査・出土土器拓影 (7) … 21

第12図　〃　・　〃　(8) … 22

第13図　〃　・　〃　(9) … 23

第14図　〃　・　〃　(10) … 24

第15図　〃　・　〃　(11) … 25

第16図　〃　・出土土器実測図 …… 26

第17図　〃　・出土石器実測図 (1) … 27

第18図　〃　・　〃　(2) … 28

第19図　〃　・　〃　(3) … 29

第20図　〃　・　〃　(4) … 30

第21図　第Ⅰ次調査・出土石器実測図（5）　33
第22図　〃　・　〃　（6）　34
第23図　〃　・遺構関連実測図　…　39
第24図　〃　・第１・２号住居址実測図40
第25図　第１・２号住居址（北西方より）　41
第26図　第Ⅰ次調査・出土土器拓影（1）…　44
第27図　〃　・　〃　（2）…　45
第28図　〃　・　〃　（3）…　46
第29図　〃　・　〃　（4）…　47
第30図　〃　・　〃　（5）…　48
第31図　〃　・　〃　（6）…　49
第32図　〃　・　〃　（7）…　50
第33図　〃　・出土土器実測図（1）　51
第34図　〃　・　〃　（2）　52
第35図　第Ⅱ次調査・発掘調査風景　…　61
第36図　〃　・Ａ・Ｄグリッド東壁
セクション　……　62
第37図　第Ⅱ次調査・遺構関連実測図　…　63
第38図　〃　・配石遺構実測図　…　64
第39図　〃　・出土土器拓影（1）…　68
第40図　〃　・　〃　（2）…　69
第41図　〃　・　〃　（3）…　70
第42図　〃　・　〃　（4）…　71
第43図　〃　・　〃　（5）…　93
第44図　〃　・　〃　（6）…　94
第45図　〃　・　〃　（7）…　95
第46図　〃　・　〃　（8）…　96
第47図　〃　・　〃　（9）…　97
第48図　〃　・　〃　（10）…　98
第49図　〃　・　〃　（11）…　99
第50図　〃　・　〃　（12）…100
第51図　〃　・　〃　（13）…101
第52図　〃　・　〃　（14）…102
第53図　〃　・　〃　（15）…103
第54図　〃　・　〃　（16）…104
第55図　第Ⅱ次調査・出土土器拓影（17）…105
第56図　〃　・　〃　（18）…106
第57図　〃　・　〃　（19）…107
第58図　〃　・　〃　（20）…108
第59図　〃　・　〃　（21）…109
第60図　〃　・　〃　（22）…110
第61図　〃　・　〃　（23）…111
第62図　〃　・　〃　（24）…112
第63図　〃　・　〃　（25）…113
第64図　〃　・　〃　（26）…114
第65図　〃　・　〃　（27）…115
第66図　〃　・　〃　（28）…116
第67図　〃　・　〃　（29）…117
第68図　〃　・　〃　（30）…118
第69図　〃　・　〃　（31）…119
第70図　〃　・　〃　（32）…120
第71図　〃　・　〃　（33）…121
第72図　〃　・　〃　（34）…122
第73図　〃　・　〃　（35）…123
第74図　〃　・　〃　（36）…124
第75図　〃　・　〃　（37）…125
第76図　〃　・　〃　（38）…126
第77図　〃　・　〃　（39）…127
第78図　〃　・　〃　（40）…128
第79図　〃　・　〃　（41）…129
第80図　〃　・　〃　（42）…130
第81図　〃　・　〃　（43）…131
第82図　〃　・　〃　（44）…132
第83図　〃　・　〃　（45）…133
第84図　〃　・　〃　（46）…134
第85図　〃　・　〃　（47）…135
第86図　〃　・　〃　（48）…136
第87図　〃　・　〃　（49）…137
第88図　〃　・　〃　（50）…138
第89図　〃　・　〃　（51）…139

第90図　第Ⅱ次調査・出土土器拓影　(52) …140
第91図　〃　・　〃　(53) …141
第92図　〃　・　〃　(54) …142
第93図　〃　・　〃　(55) …143
第94図　〃　・　〃　(56) …144
第95図　〃　・　〃　(57) …145
第96図　〃　・　〃　(58) …146
第97図　〃　・　〃　(59) …147
第98図　〃　・　〃　(60) …148
第99図　〃　・　〃　(61) …149
第100図　〃　・　〃　(62) …150
第101図　〃　・　〃　(63) …151
第102図　〃　・　〃　(64) …151
第103図　〃　・　〃　(65) …152
第104図　〃　・　〃　(66) …154
第105図　〃　・　〃　(67) …155
第106図　〃　・　〃　(68) …156
第107図　〃　・　〃　(69) …157
第108図　〃　・　〃　(70) …158
第109図　〃　・　〃　(71) …159
第110図　〃　・　〃　(72) …160
第111図　〃　・　〃　(73) …161
第112図　〃　・　〃　(74) …162
第113図　〃　・　〃　(75) …163
第114図　〃　・　〃　(76) …164
第115図　〃　・　〃　(77) …165
第116図　〃　・　〃　(78) …166
第117図　〃　・　〃　(79) …167
第118図　〃　・　〃　(80) …168
第119図　〃　・　〃　(81) …169
第120図　〃　・　〃　(82) …170
第121図　〃　・　〃　(83) …171
第122図　〃　・　〃　(84) …172
第123図　〃　・　〃　(85) …173
第124図　〃　・　〃　(86) …174
第125図　第Ⅱ次調査・出土土器拓影　(87) …175
第126図　〃　・　〃　(88) …176
第127図　〃　・　〃　(89) …177
第128図　〃　・　〃　(90) …178
第129図　〃　・　〃　(91) …179
第130図　〃　・　〃　(92) …180
第131図　〃　・　〃　(93) …181
第132図　〃　・　〃　(94) …182
第133図　〃　・　〃　(95) …183
第134図　〃　・　〃　(96) …184
第135図　〃　・　〃　(97) …185
第136図　〃　・　〃　(98) …186
第137図　〃　・　〃　(99) …187
第138図　〃　・　〃　(100) …188
第139図　〃　・　〃　(101) …189
第140図　〃　・　〃　(102) …190
第141図　〃　・　〃　(103) …191
第142図　〃　・　〃　(104) …192
第143図　〃　・　〃　(105) …193
第144図　〃　・　〃　(106) …194
第145図　〃　・　〃　(107) …195
第146図　〃　・　〃　(108) …196
第147図　〃　・　〃　(109) …197
第148図　〃　・　〃　(110) …198
第149図　〃　・　〃　(111) …199
第150図　〃　・　〃　(112) …200
第151図　〃　・　〃　(113) …201
第152図　〃　・　〃　(114) …202
第153図　〃　・　〃　(115) …203
第154図　〃　・　〃　(116) …204
第155図　〃　・　〃　(117) …205
第156図　〃　・　〃　(118) …206
第157図　〃　・　〃　(119) …207
第158図　〃　・　〃　(120) …208
第159図　〃　・　〃　(121) …209

第160図 第Ⅱ次調査・出土土器拓影 (122) …210
第161図 〃 ・ 〃 (123) …211
第162図 〃 ・ 〃 (124) …212
第163図 〃 ・ 〃 (125) …213
第164図 〃 ・ 〃 (126) …214
第165図 〃 ・ 〃 (127) …215
第166図 〃 ・ 〃 (128) …216
第167図 〃 ・ 〃 (129) …217
第168図 〃 ・ 〃 (130) …218
第169図 〃 ・出土土製品拓影 (1) …219
第170図 〃 ・ 〃 (2) …220
第171図 〃 ・ 〃 (3) …221
第172図 〃 ・ 〃 (4) …222
第173図 〃 ・出土土偶実測図 …223
第174図 〃 ・出土土器実測図 (1) …224
第175図 〃 ・ 〃 (2) …225
第176図 〃 ・ 〃 (3) …226
第177図 〃 ・ 〃 (4) …227
第178図 〃 ・ 〃 (5) …228
第179図 〃 ・ 〃 (6) …229
第180図 〃 ・ 〃 (7) …230
第181図 〃 ・ 〃 (8) …231
第182図 〃 ・ 〃 (9) …232
第183図 〃 ・ 〃 (10) …233
第184図 〃 ・ 〃 (11) …234
第185図 〃 ・ 〃 (12) …235
第186図 〃 ・ 〃 (13) …236
第187図 〃 ・ 〃 (14) …237
第188図 〃 ・ 〃 (15) …238
第189図 〃 ・ 〃 (16) …239
第190図 〃 ・ 〃 (17) …240
第191図 〃 ・ 〃 (18) …241
第192図 〃 ・出土石器実測図 (1) …245
第193図 〃 ・ 〃 (2) …246
第194図 〃 ・ 〃 (3) …247
第195図 第Ⅱ次調査・出土石器実測図 (4) …248
第196図 〃 ・ 〃 (5) …249
第197図 〃 ・ 〃 (6) …250
第198図 〃 ・ 〃 (7) …251
第199図 〃 ・ 〃 (8) …252
第200図 〃 ・ 〃 (9) …253
第201図 〃 ・ 〃 (10) …254
第202図 〃 ・ 〃 (11) …255
第203図 〃 ・ 〃 (12) …256
第204図 〃 ・ 〃 (13) …257
第205図 〃 ・ 〃 (14) …258
第206図 〃 ・ 〃 (15) …261
第207図 〃 ・ 〃 (16) …262
第208図 〃 ・ 〃 (17) …263
第209図 〃 ・ 〃 (18) …264
第210図 〃 ・ 〃 (19) …265
第211図 〃 ・ 〃 (20) …266
第212図 〃 ・ 〃 (21) …267
第213図 〃 ・ 〃 (22) …268
第214図 〃 ・ 〃 (23) …269
第215図 〃 ・ 〃 (24) …270
第216図 〃 ・ 〃 (25) …271
第217図 〃 ・ 〃 (26) …272
第218図 〃 ・ 〃 (27) …273
第219図 〃 ・ 〃 (28) …274
第220図 〃 ・ 〃 (29) …275
第221図 〃 ・ 〃 (30) …276
第222図 〃 ・ 〃 (31) …277
第223図 〃 ・ 〃 (32) …278
第224図 〃 ・ 〃 (33) …279
第225図 〃 ・第1号住居址実測図 …314
第226図 〃 ・出土土器拓影 …315
第227図 〃 ・出土土器実測図 …316
第228図 北屋敷式土器及び関連土器拓影 (1) …336
第229図 〃 〃 (2) …337

第230図 北屋敷式土器及び関連土器拓影(3) 338
第231図 〃 〃 (4) 339
第232図 〃 〃 (5) 340
第233図 〃 〃 (6) 341
第234図 〃 〃 (7) 342
第235図 〃 〃 (8) 343
第236図 〃 〃 (9) 344
第237図 〃 〃 (10) 345
第238図 〃 〃 (11) 346
第239図 〃 〃 (12) 347
第240図 北屋敷式土器及び関連土器実測図 (1) 348
第241図 〃 〃 (2) 349
第242図 〃 〃 (3) 350
第243図 〃 〃 (4) 351
第244図 〃 〃 (5) 352
第245図 〃 〃文様模式図 353

# 図　表　目　次

第1表 第Ⅰ次調査・石器計測一覧表 (1) 35
第2表 〃 〃 (2) 36
第3表 〃 〃 (3) 37
第4表 〃 ・石器石質表 …… 37
第5表 第Ⅰ次調査・土師器観察表 …… 55
第6表 第Ⅱ次調査・縄文復元土器観察表 84
第7表 第Ⅱ次調査・石器計測一覧表 (1) 280
第8表 〃 〃 (2) 281
第9表 〃 〃 (3) 282
第10表 〃 〃 (4) 283
第11表 〃 〃 (5) 284
第12表 〃 〃 (6) 285
第13表 〃 〃 (7) 286
第14表 〃 〃 (8) 287
第15表 〃 〃 (9) 288
第16表 〃 〃 (10) 289
第17表 〃 〃 (11) 290
第18表 第Ⅱ次調査・石器計測一覧表 (12) 291
第19表 〃 〃 (13) 292
第20表 〃 〃 (14) 293
第21表 〃 〃 (15) 294
第22表 〃 〃 (16) 295
第23表 〃 〃 (17) 296
第24表 〃 〃 (18) 297
第25表 〃 〃 (19) 298
第26表 〃 〃 (20) 299
第27表 〃 〃 (21) 300
第28表 〃 〃 (22) 301
第29表 〃 〃 (23) 302
第30表 〃 〃 (24) 303
第31表 〃 〃 (25) 304
第32表 〃 〃 (26) 305
第33表 〃 ・石器石質表 …… 306
第34表 〃 ・土師器・須恵器観察表 317

# 図　版　目　次


図版1　公蔵免遺跡遠景（南東側より）
公蔵免遺跡近景（南側より）
図版2　第Ⅰ次調査区近景（東側より）
第Ⅰ次調査風景（北西側より）
図版3　第Ⅰ次調査風景－1（南西側より）
第Ⅰ次調査風景－2（南東側より）
図版4　遺物の出土状態（B－5グリッド）
同上
図版5　曾利Ⅲ式土器（B－6グリッド）
磨製石斧の出土状態（A－4グリッド）
図版6　第Ⅰ次調査出土の石器（1）
図版7　第Ⅰ次調査出土の石器（2）
図版8　第Ⅰ次調査出土の石器（3）
図版9　第Ⅰ次調査出土の石器（4）
図版10　第Ⅰ次調査出土の土製円板
図版11　第Ⅰ次調査出土の縄文土器・土師器（甕・坩）
図版12　第Ⅰ次調査出土の土師器（坩・手捏土器・坏・高坏・台）
図版13　坩の出土状態（A－3グリッド）
同上
図版14　坏の出土状態（A－3グリッド）
同上
図版15　高坏の出土状態（A－3グリッド）
高坏と坩の出土状態（A－3グリッド）
図版16　第1号・2号住居址（北西側より）
第1号住居址（西側より）
図版17　第1号住居址ピット内出土の甕（東側より）
同上（西側より）
図版18　B－6グリッドの調査風景
第2号住居址検出状況
図版19　第2号住居址（北側より）
同上
図版20　A・B－4グリッド内検出の竈
同上
図版21　第Ⅱ次調査区近景（西側より）
同上（北側より）
図版22　第Ⅱ次調査区近景（北側より）
調査風景（北側より）
図版23　帯状配石遺構・Dグリッド（南側より）
遺物の出土状態・Aグリッド（南側より）
図版24　遺物の出土状態・Aグリッド（南側より）
同上（北側より）
図版25　遺物の出土状態・Aグリッド
同上
図版26　遺物の出土状態・Aグリッド
同上
図版27　遺物の出土状態・Aグリッド
同上
図版28　勝坂式Ⅲ土器の出土状態・Aグリッド
曾利Ⅰ式土器の出土状態・Aグリッド
図版29　曾利Ⅰ式土器の出土状態・Aグリッド
有孔鍔付土器の出土状態・Aグリッド
図版30　曾利系土器の出土状態・Aグリッド

打製石斧の出土状態・Aグリッド
図版31　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（1）
図版32　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（2）
図版33　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（3）
図版34　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（4）
図版35　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（5）
図版36　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（6）
図版37　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（7）
図版38　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（8）
図版39　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（9）
図版40　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（10）
図版41　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（11）
図版42　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（12）
図版43　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（13）
図版44　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（14）
図版45　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（15）
図版46　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（16）
図版47　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（17）
図版48　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（18）
図版49　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（19）
図版50　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（20）
図版51　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（21）
図版52　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（22）
図版53　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（23）
図版54　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（24）
図版55　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（25）
図版56　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（26）
図版57　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（27）
図版58　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（28）
図版59　第Ⅱ次調査出土の縄文土器（29）
図版60　第Ⅱ次調査出土の縄文土器・土師器（30）
図版61　第Ⅱ次調査出土の石器（1）
図版62　第Ⅱ次調査出土の石器（2）
図版63　第Ⅱ次調査出土の石器（3）
図版64　第Ⅱ次調査出土の石器（4）
図版65　第Ⅱ次調査出土の石器（5）
図版66　第Ⅱ次調査出土の石器（6）
図版67　第Ⅱ次調査出土の石器（7）
図版68　第Ⅱ次調査出土の石器（8）
図版69　第Ⅱ次調査出土の石器（9）
図版70　第Ⅱ次調査出土の石器（10）
図版71　第Ⅱ次調査出土の石器（11）
図版72　第Ⅱ次調査出土の石器（12）
図版73　第Ⅱ次調査出土の石器（13）
図版74　第Ⅱ次調査出土の石器（14）
図版75　第Ⅱ次調査出土の石器（15）
図版76　第Ⅱ次調査出土の石器（16）
図版77　第Ⅱ次調査出土の石器（17）
図版78　第Ⅱ次調査出土の土製円板（1）
図版79　第Ⅱ次調査出土の土製円板（2）
図版80　第Ⅱ次調査出土の土製円板（3）
図版81　第Ⅱ次調査出土の土偶・玦状耳飾・硬玉製大珠・植物遺存体
図版82　第Ⅱ次調査出土の骨片
図版83　古墳時代住居址（西南側より）
同上（南側より）

# 第Ⅰ章　発掘調査の経過

## 第1節　調査に至る経緯

本遺跡の発掘調査は、第Ⅰ次調査が役場庁舎改築工事計画に基づき、また、第Ⅱ次調査は幼稚園舎建設工事計画に基づいてそれぞれ実施されたものである。このうち、当初予定されていた庁舎改築については、これまでの木造から鉄筋に変えてのものに計画した訳であるが、地盤等の関係から計画変更をよぎなくされたため、現在の位置（伊豆箱根鉄道田京駅西側）に建設されることとなった。これにより、当該地には幼稚園舎が建設されることになり、従ってその規模もやや大きくなることから、第Ⅰ次・第Ⅱ次調査として第3図の位置が対象となった。

本遺跡からはこれまで、弥生時代後期所産の壺型土器が発見されているが、本格的な調査は今回が初めてである。建設予定地は、その大部分が既存の庁舎建設の際に削土されており、調査不可能と判断したが、取り壊しの後念のため数ケ所に試掘坑を入れて確認調査を行った。その結果、やはり遺構・遺物の痕跡は認められなかった。

昭和51年度の第Ⅰ次調査は西側の畑部分の約140㎡について実施し、同52年度の第Ⅱ次調査は、東側の駐車場100㎡についてこれを実施した。

## 第2節　調査の経緯

### 1、第Ⅰ次調査

昭和51年6月25日に大仁中学校・大仁高校・修善寺工業高校・三福消防団等に調査協力の依頼文書を出した。このうち、中学・高校生については調査前半の10日間について参加協力を願い、主として表土の排除作業を行ってもらうこととした。また消防団については、アスファルト舗装部分の削土を、機械を使って作業してくれるよう依頼した。7月24日に現場での事前の打合わせを行い、調査期間を7月25日～8月31日までとする事と、また、調査地点の再確認をした後、器材の搬入・グリッドの設定などの諸準備作業を行った。

予定どおり7月25日より調査を開始し、南西側のA－1グリッドより表土の排除を行った。31日までは中学生の参加を得て予定のグリッド総ての第Ⅰ層を排除した。続いて8月1日～3日は高校生によって第Ⅱ層の削土および遺構の検出作業を行った。翌4日～7日は雨天のため作業は中止となった。8日は、三福消防団の応援により、機械（ユンボ・ダンプ）を使ってアスファルトの掘り起こし作業を行った。

9日～14日までは調査員・作業員の都合により休みとし、15日より作業を再開する。A・B－1グリッドより古墳時代中期の住居址が検出されこれを第1号住居址とする。さらに、これに重複して住居址が検出されたため、これを第2号住居址として調査を進めた。このうち、第2号住居址については竈が確認されている。遺構は、この2つの住居址のみであった。また、A・B－5グリッド付近はかなり傾斜しており、その深部より縄文時代中期後葉の土器が出土した。

同8月30日に器材等の片付け・撤収を行い、現地作業の総てを終了した。実動作業日数26日、調査員・作業員の延べ人数は210人、調査経費222250円であった。

2、第Ⅱ次調査

昭和52年5月13日付け（大教第113号）にて、文化財保護法第57条第1項の規定に基づいて、「埋蔵文化財発掘届」を文化庁に提出する。同6月5日付け（52教文第143号）にて、静岡県教育委員会（文化課文化財調査係）より、文化財保護法第98条の2第1項の規定により地方公共団体が行う発掘に関する通知書（公蔵免遺跡）を文化庁が受理した旨の通知があった。

この決定に基づいて、以下のような「委託調査契約書」が作成され締結された。

## 委託調査契約書

| | | |
|---|---|---|
| 1、 | 委託事業の名称 | 大仁町公蔵免遺跡発掘調査会 |
| 2、 | 調　査　名 | 同　　上 |
| 3、 | 遺跡等の所在地 | 静岡県田方郡大仁町田京338－2 |
| 4、 | 委　託　期　間 | 昭和52年8月4日から |
| | | 昭和52年9月30日まで |
| 5、 | 委　託　料　金 | ￥　600,000.－ |

頭書の業務について委託者大仁町長土屋酉一を甲とし、受託者大仁町公蔵免遺跡発掘調査会代表、大仁町教育長堀江三郎を乙として、次の条項により委託調査契約を締結する。

（総　則）

第1条　乙は、別冊「大仁町公蔵免遺跡発掘計画書」に基づき、頭書の委託金額をもって、頭書の履行期間までに、頭書の委託業務を完了しなければならない。

（権利業務の譲渡）

第2条　乙は、この契約によって生ずる権利または義務を第三者に譲渡し、または継承してはならない。

（委託業務の調査等）

第3条　甲は、必要と認めるときは乙に対して委託業務の処理状況を調査し、または報告を求めることができる。

（報告等）

第4条　乙は、委託業務が完了したときは、遅滞なく委託業務完了報告書に委託費用清算書を添えて甲に提出しなければならない。

（委託料の支払い等）

第５条　甲は、乙が必要とするその都度、本契約の委託料金を支払うものとする。この場合、乙はその明細書を添付するものとする。

２　乙は、委託料に剰余が生じたときは、これを甲に返還しなければならない。

３　乙は、委託料を本委託事業以外に支出してはならない。

（発生品等の処理）

第６条　本調査に伴い発生した出土品等については、大仁町教育委員会において保管、管理するものとする。

（経費負担の特例）

第７条　天災または不可抗力、その他乙の故意または重大な過失によらない事由のために必要を生じた経費については、甲において負担するものとして、その負担額については、甲、乙協議の上決定するものとする。

（協議事項）

第８条　甲または乙は、やむおえない事由により契約の変更をする必要が生じたときは、甲、乙協議の上これを変更するものとする。

（違反行為）

第９条　甲は、乙が本契約による委託業務を履行しないときは、契約の解除及び委託金の返還を求めることができる。

（契約以外の事項）

第１０条　この契約に定めのない事項または契約について疑義が生じた事項については、必要に応じて甲、乙協議して定めるものとする。

本契約の証として本書2通をつくり、当事者記名押印の上各自1通保有する。

昭和52年7月31日

甲　住　所　静岡県田方郡大仁町田京328番地

　　氏　名　大仁町長　　土　屋　酉　一　　印

乙　住　所　静岡県田方郡大仁町田京167番地の7

　　氏　名　大仁町公蔵免遺跡発掘調査会

　　代表　大仁町教育長　堀　江　三　郎　　印

## 大仁町公蔵免遺跡発掘計画書

1、調査事由

大仁町所有（役場跡地）の幼稚園予定地が、縄文～弥生時代にかけての遺跡であるため、工事に先立ち文化財保護の目的により発掘調査を行い、記録の作成および遺物の保存等学術的見地から発掘調査を行うものである。

2、調査場所

田方郡大仁町田京338－2

3、調査期間

昭和52年8月4日～昭和52年9月30日

4、今回行われる調査は工事により破壊される区域に限り実施し、遺跡の性格の解明や年代、その出土資料の発見に努めるものである。

5、調査経費

600,000円　　内訳は別紙の通り

## 委託調査変更契約書

昭和52年7月31日付けで委託者大仁町長土屋酉一を甲とし、大仁町公蔵免遺跡発掘調査会代表、大仁町教育長堀江三郎を乙として締結した委託契約を、次とおり変更する。

記

4、委託期間　　昭和52年8月4日から
　　昭和53年3月31日までとする。

5、委託料金　　880.000　円也

第1条中、「大仁町公蔵免遺跡発掘計画書」を別紙のとおり変更する。

昭和52年　月　日

甲　大仁町長　　土屋酉一　印

乙　大仁町公蔵免遺跡発掘調査会
　　代表　大仁町教育長　　堀江三郎　印

以上のような契約書・計画書に沿って、発掘調査を行うことになった。まず8月4日午前9時、堀江教育長を始め公蔵免遺跡発掘調査会のメンバーおよび調査担当者が現地に集合し、調査開始にあたって諸事の打合わせを行った。調査範囲は約100㎡（10ｍ×10ｍ）であり、これを4分割しＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄグリッド（第3図）を設定した。

翌5日、Ａグリッド～Ｄグリッドにかけて、順次第Ⅱ層の削土を開始した。早速Ａグリッド攪乱層より縄文時代中期中葉と思われる土偶片が出土した。調査地点は以前駐車場であったため土が固く締まっており、スコップやツルハシだけではままならないので、第Ⅰ次調査と同様三福消防団の応援を得て、機械（小型ブルドーザー・ユンボ・ダンプ）により削土を実施した。12日、Ｄグリッドより柱穴らしきものが検出される。続いて、Ｂグリッドより古墳時代中期の住居址が検出される。竈を北に設けてあり、周溝が回っている。西側半分は攪乱のため破壊されていた。調査地点は、ＣグリッドよりＡグリッドにかけて大きく落ち込んでおり、特にＣグリッドについては第Ⅴ層まで削土されており、第179図4・図版37の復元土器が顕著なものである。また遺構は残されていなかった。さらにＤグリッドは第38図・図版23のような帯状配石（縄文中期後葉）が検出された。Ａグリッドについては、第36図・図版24に見るように凡そ1ｍ余にも及ぶ遺物の堆積があり、8月中旬以降は専らＡグリッドを中心に調査が進められた。

しかし、中旬に入り長雨が続き調査は遅々として進まなかった。そのため役場跡地に残されていた倉庫を借り受け、雨天の時は土器洗浄を行い、時間内に回復すれば調査にとりかかるという方法をとった。そうした中で、調査地点がＡグリッドのみに絞られてきたため、グリッド上にテントを据えて、雨でも調査ができるような体制をとった。しかし、8月後半までは中学・高校生の協力が得られたが、夏休み終了後についての作業員の新たな雇用が問題となった。そこで、8月下旬より参加している大学生３名には引き続いてお願いし、さらに町内の主婦など9名をお願いして後半の調査に臨んだ。

前述のとおり、Ａグリッドは大量の遺物（ほとんどが縄文時代中期前葉～中葉のもの）が堆積しており、上層より少しづつ剥ぐようにして遺物を検出して、測量・写真撮影の後取り上げるということで、非常に手間のかかる作業であった。とりわけ第Ⅴ層以下についてはその量が夥しく、足の踏み場もない状態であった。おそらく、台地上で生活していた人々は、使わなくなった土器や石器の廃棄場としてここを選んだのであろう。

第Ⅶ層～Ⅷ層に至っては、縄文時代前期～早期の遺物が若干ではあるが出土している。このうち、早期については楕円押型文土器があり、楕円粒および尖底部破片から古手のものであろうと思われる。

当初の予定よりやや遅くはなったが10月5日、第Ⅷ層以下には遺物が全く検出されない事を確認し、併せて最終的な測量・写真撮影等の作業を行い夕刻調査の総てを終了した。翌6日に器材等の片付け・撤収を行った。実動作業日数60日、調査員・作業員の延べ人員320人、調査経費1,480,000円であった。

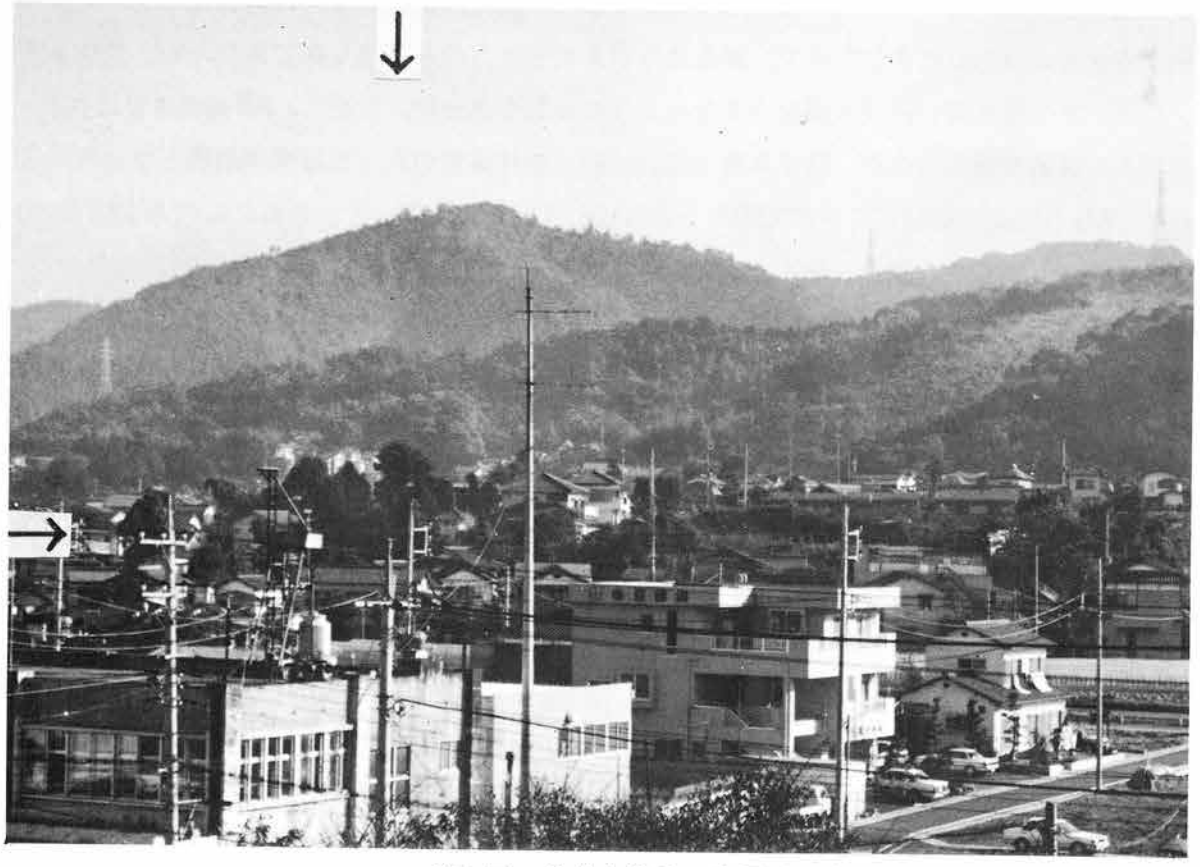
# 第Ⅱ章　遺跡の位置と地理的環境

## 第１節　遺跡の位置と環境

公蔵免遺跡は、静岡県田方郡大仁町田京字公蔵免315～340番地に所在している。伊豆箱根鉄道田京駅の南東約200ｍの平坦な台地上に位置しており、調査地点はその台地北西端の窪地にあたる。標高30～32ｍである。当地からの富士山の眺望は素晴らしく、また西方に目を転ずれば、本町のシンボル的な山である城山（じょうやま・標高342ｍ）がそびえ、直下を鮎釣りで知られる狩野川が北に流れている。居住の場所としては誠に好適地である。

台地は全体が遺跡であるが、 便宜上大庭・段・殿坂・公蔵免の4遺跡に分けて呼称している。このうち、縄文時代の遺物は公蔵免・殿坂遺跡に集中分布し、段・大庭遺跡になると古墳時代の遺物が広く分布している。狩野川の支流である深沢川が大きく開けるあたりには遺跡が密集しており、本遺跡を始め三福の仲道Ａ遺跡など主要な遺跡が存在する。

遺跡のすぐ西側下には旧下田街道が通り、押手川（おしてんがわと発音）が平行して流れている。（現在は改修され大部分が暗渠となっているが、かつては水車が見られる風情のある川であった）大正9年に起きた深沢川大洪水の時には、この台地下は濁流に洗われ多くの尊い人命・家財が失われている。



第１図　公蔵免遺跡の遠景（西方より）

## 第２節　周辺の遺跡

遺跡の所在する台地は、通称「田京台…たきょうだい」と呼ばれ、古くから城あるいは館などがあったのではないかと伝えられている場所である。前述のとおり、段・殿坂・大庭の他、隣接して城（じょう）・堂城（どうじょう）などの地名が残されており、こうした伝えの根拠となっているものである。

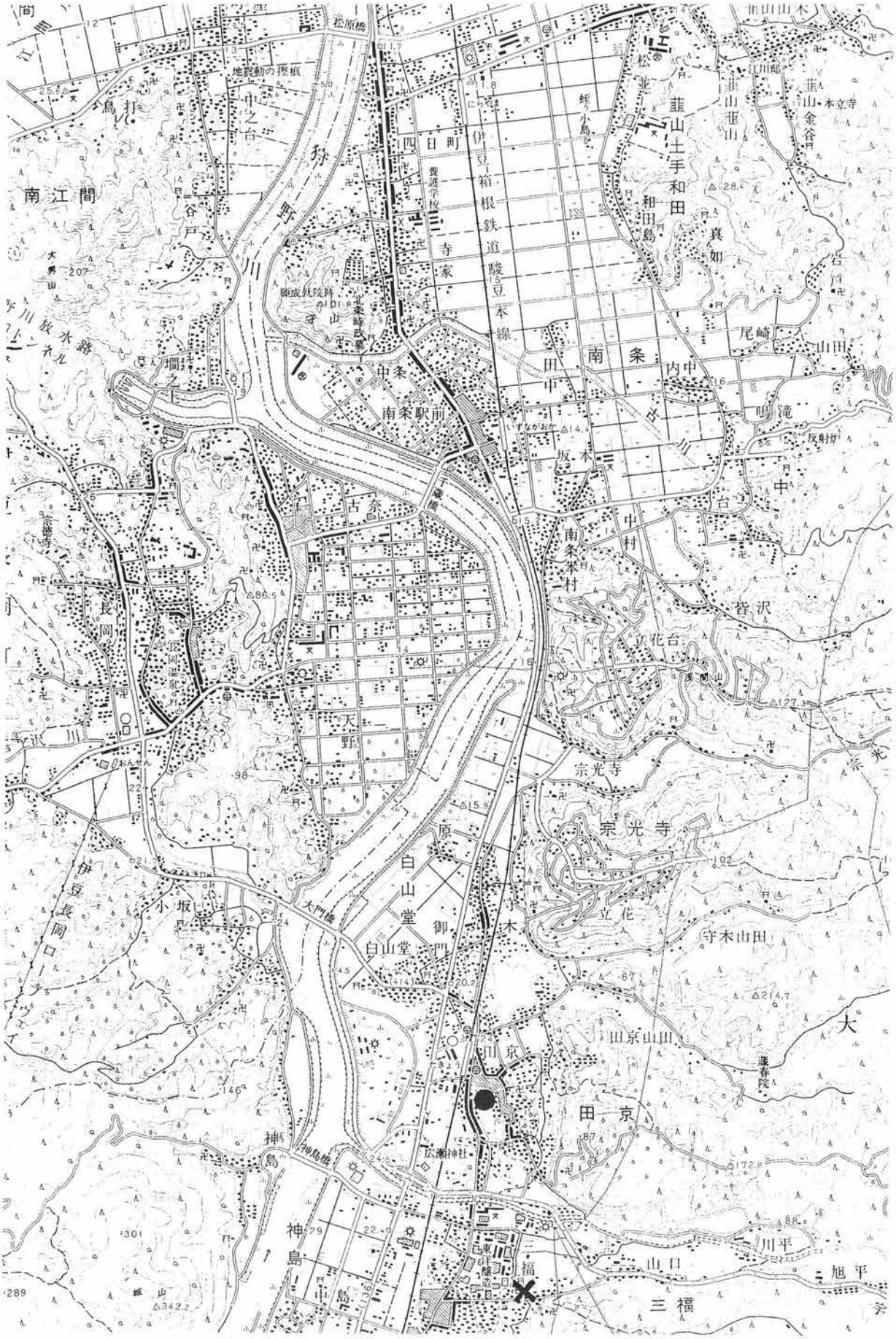
本遺跡の南東約800ｍには、縄文時代草創期後半の多縄文系土器群が大量出土した仲道Ａ遺跡が所在する。復元された半置半転文土器や原体側面圧痕文土器を始め、自縄自巻・絡条体圧痕・半截竹管文・縄文・撚糸文等の文様に分類されており、該期を特徴づけるそのほとんどのものが出土している。さらに南西約500ｍには、住居址に伴って阿玉台Ⅰａ式の完形土器や曾利Ⅰ・Ⅱ式土器が出土した向原遺跡が所在する。

また、本遺跡の北方約800ｍには、古墳時代中期（和泉期）の住居址が見つかった山崎遺跡（未発表）が所在する。往時、狩野川の大洪水に遭ったらしく、住居内には冠水の痕跡が残されており、また住居址群の西側からはそれを示す厚い砂層が確認されている。この山崎遺跡のすぐ南東方には、古墳時代中期（和泉期）の住居址が見つかった山畑遺跡が所在する。

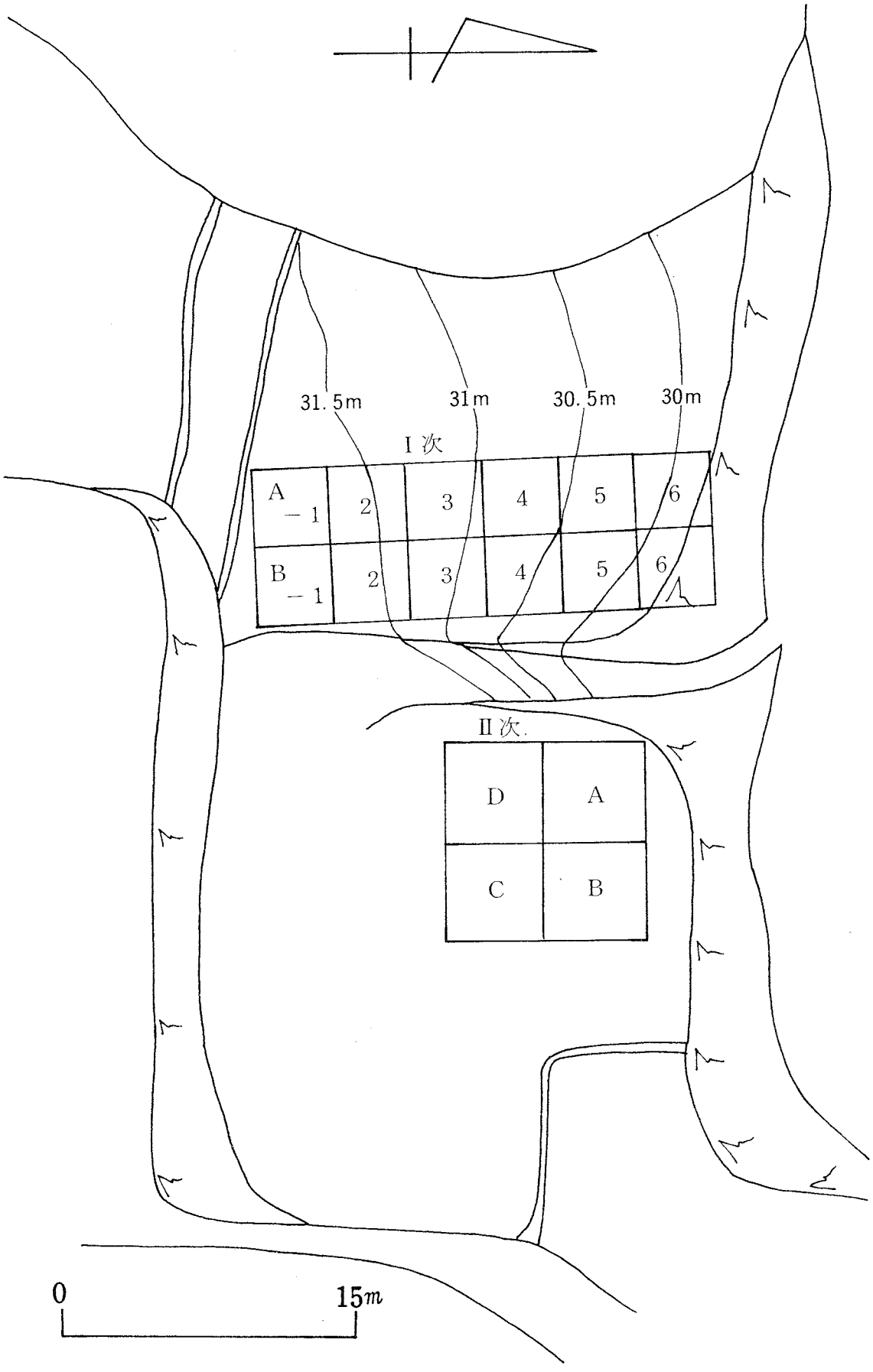
これより北方の守木・宗光寺の丘陵には、円墳・横穴群が残されている。わけても、守木の平石古墳（第4号墳）は伊豆石を組み合せて造った「変形家形石棺」を伴っており、当地方にあっては駿東郡長泉町の新屋後1号墳、同山ノ神道古墳、同下土狩1～3号墳などとともに知られている。また、宗光寺の神明塚古墳は墳丘20ｍ余であり、本町にあって現在残されている古墳としては最大級のものである。これより北東約400ｍには宗光寺横穴群（19基）が所在する。ここからは、凝灰岩製の刳抜式箱形蔵骨器（石櫃）が見つかっている。さらに、神明塚古墳北方下の長伝院前庭部付近には、白鳳時代の建立といわれる宗光寺廃寺址が所在する。

このように、現在本町の低位地帯（とりわけ三福・田京・守木・宗光寺の標高30～50ｍ付近）には、扇状地となって大きく開けたあたりの段丘上、あるいは鍋沢川や谷戸川、さらには宗光寺川の浸食谷を挟んだ丘陵・台地上に多く存在している事が分かる。上記した遺跡は、総て戦後に調査されたものばかりである。本町では、戦前において正式な発掘調査らしきものが行われたという記録がなく、筆者の知見では昭和22年長田実・浅野信雄氏によって行われた、宗光寺横穴墳墓の調査が最初であると考えられる。

このうち、白鳳期といわれる宗光寺廃寺址の存在は、田方の中心地としての当地方の様子を知るものであり重要である。平安～室町時代については、仲道Ａ遺跡より該期の住居址や河川の址、陶磁器・カワラケ類が出土したことにより、これまで空白であった部分を埋める極めて良好な資料となっている。とくに、中世の遺物では三島大社文書等に見られる「狩野庄三福郷」の所在や、豪族脇田氏あるいは脇田氏より古くから土着していたといわれる田中氏とのかかわりにつながるものではないかと期待している。また、本遺跡を含めた台地一帯も国府あるいは郡家所在地問題にからんで注目される場所である。




第２図　公蔵免遺跡の位置図　（●印）、×印は仲道Ａ遺跡




第3図　公蔵免遺跡の調査区域図

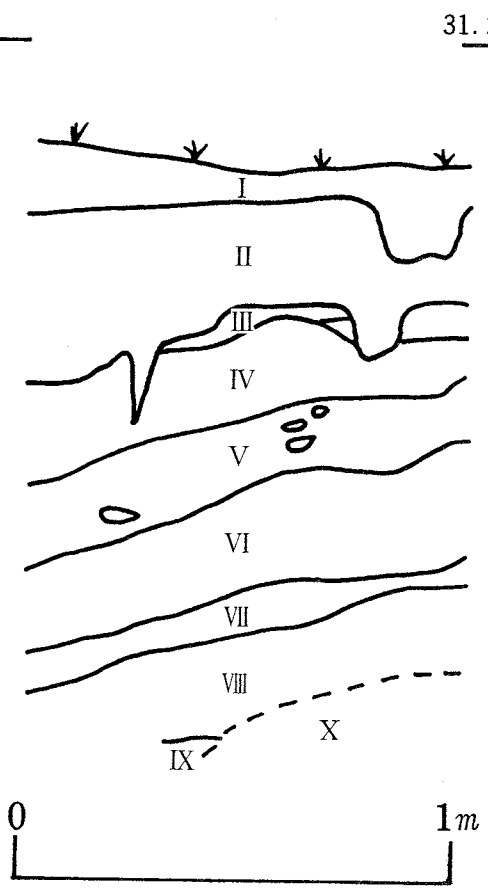
# 第Ⅲ章　発掘調査報告

## 第１節　第Ⅰ次調査

### １．層　序

第Ⅰ次調査の遺物包含層及び遺構発見地は、台地の西端部に位置しているがわりあい標準的な堆積状態となっている。ただ、調査区Ａ・Ｂ－5グリッドの中程より北側でやや急な斜面となっていた。このため、標準土層はＢ－3・4区東側断面にこれを求めた。以下、第Ⅰ層から第Ⅹ層について説明する。

第Ⅰ層　表土層（耕作土）　明褐色土層。乾くとサラサラしておりしまりがない。層厚は10cm～20cm。第Ⅱ層　黒褐色土層。若干のスコリアと細粒の白色パーミス及び微量の炭化物を含有している。しまりはあるが粘性はない。層厚は25cm～40cm。第Ⅲ層－黒褐色土層。Ⅱ層より明るくなりパーミスは見られない。若干粘性がある。層厚は3cm～8cm。第Ⅳ層－褐色土層。色調に若干の差はあるが、性質はⅢ層に類似している。層厚は8cm～25cm。第Ⅴ層－明褐色土層。若干の白色パーミス及びスコリアを含有している。しまりがあり粘性もある。層厚は20cm～25cm。古墳時代住居址の検出面であり、縄文時代中期の遺物包含層でもある。第Ⅵ層－暗褐色土層。若干のパーミスを含有している。層厚は20cm～28cm。縄文時代中期の主たる遺物包含層である。第Ⅶ層－褐色土層。層厚は4cm～10cm。遺物は少なくなる。第Ⅷ層－茶褐色土層。ソフトローム漸移層である。若干の赤色スコリアを含有している。第Ⅸ層－黄褐色土層。ソフトローム層である。第Ⅹ層－黄茶褐色土層。確認面での最下層でありⅨ層より硬くしまっている。




第４図第Ⅰ次調査・土層セクション

## 2．縄文時代の遺物

### ア．土器（第5図～15図）

本遺跡出土の縄文土器については、第Ⅰ次・第Ⅱ次調査のいずれを問わず共通の分類でこれを説明する。下記のように分類したが、第Ⅲ群以下の中期については細分類した。なお、第Ⅰ次調査では第Ⅰ・第Ⅱ群土器は検出されなかった。

第Ⅰ群土器　縄文時代早期前半の土器群

第Ⅱ群土器　縄文時代前期前半の土器群

第Ⅲ群土器　縄文時代中期前半の土器群（第1類－阿玉台式、第2類－勝坂式、第3類－北屋敷式）

第Ⅳ群土器　縄文時代中期後半の土器群（第1類－曾利式、第2類－加曽利Ｅ式）

**第Ⅲ群土器**（第5～6図）

**第2類土器**－勝坂式系土器群であり、ａ種が出土している。

ａ種：角押文の系統に属するもので、隆帯と巾広の竹管状工具による密接な爪形文（キャタピラ文）とペン先状工具の押し引きが施されている。第５図１は、口縁に約1.8cmの無文帯があり、その下から斜めの隆帯が付けられている。この区画内に、大小のペン先状工具によって押し引き文が丁寧に施されている。口唇は角頭状に先細りになっている。器厚11mm前後、焼成はわりあい良い。胎土中に多量の白色砂粒及び雲母が含まれている。色調は赤褐色を呈する。3・4は、巾広の竹管状工具によって爪形文が施され、この区画内にペン先状工具による押し引き文が施されている。3は口縁がやや外反しているが、これに粘土粒を貼り付けて突起としている。またこの上端は、粘土紐を「ねじり飴」状にして装飾効果を出している。器面内外にヘラによる整形痕や指頭圧痕が見られる。焼成は良く堅緻、胎土中に白色砂粒及び黒雲母が含まれている。色調は明黄褐色を呈する。6は、一部剥落しているが粘土紐を貼り付けて隆帯としている。ヘラの先端を様々に角度を変えて刺突している。口縁はかなり外反している。器厚13mm前後、焼成はわりあい良い。胎土中に多量の金雲母と細砂が含まれている。色調は褐色を呈する。9は、口縁部が平縁で口唇上にヘラによって爪形文が付けられている。また口縁には1条の隆帯が見られ、これに沿ってやはりヘラによる爪形文が施されている。さらにこの上位には、工具の先端によって連続して刻み目が付けられており、あたかも波状沈線のような表現となっている。（2・16・19も同様の手法が用いられている）また隆帯下には、僅かではあるがヘラの先端で縦横につついたような跡が見られる。器面内外には、ヘラによる整形痕や指頭圧痕が顕著に認められる。器厚10mm前後、焼成は良好である。胎土中に白色砂粒及び雲母が含まれている。

11・12はいずれも底部破片である。11は下部がやや膨らんでいる。爪形文が施されており、その下は隆帯による区画が見られ、この区画内を隆帯に沿ってペン先文が施されている。焼成は良く堅緻、胎土中に多量の金雲母と白色砂粒及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は赤褐色を呈する。13は、口縁に2.4cmほどの無文帯があり、この下に爪形文が施されさらに角頭状工具の先端によって、3回を1単位として押し引き文が斜位に施されている。これは下部にも続い

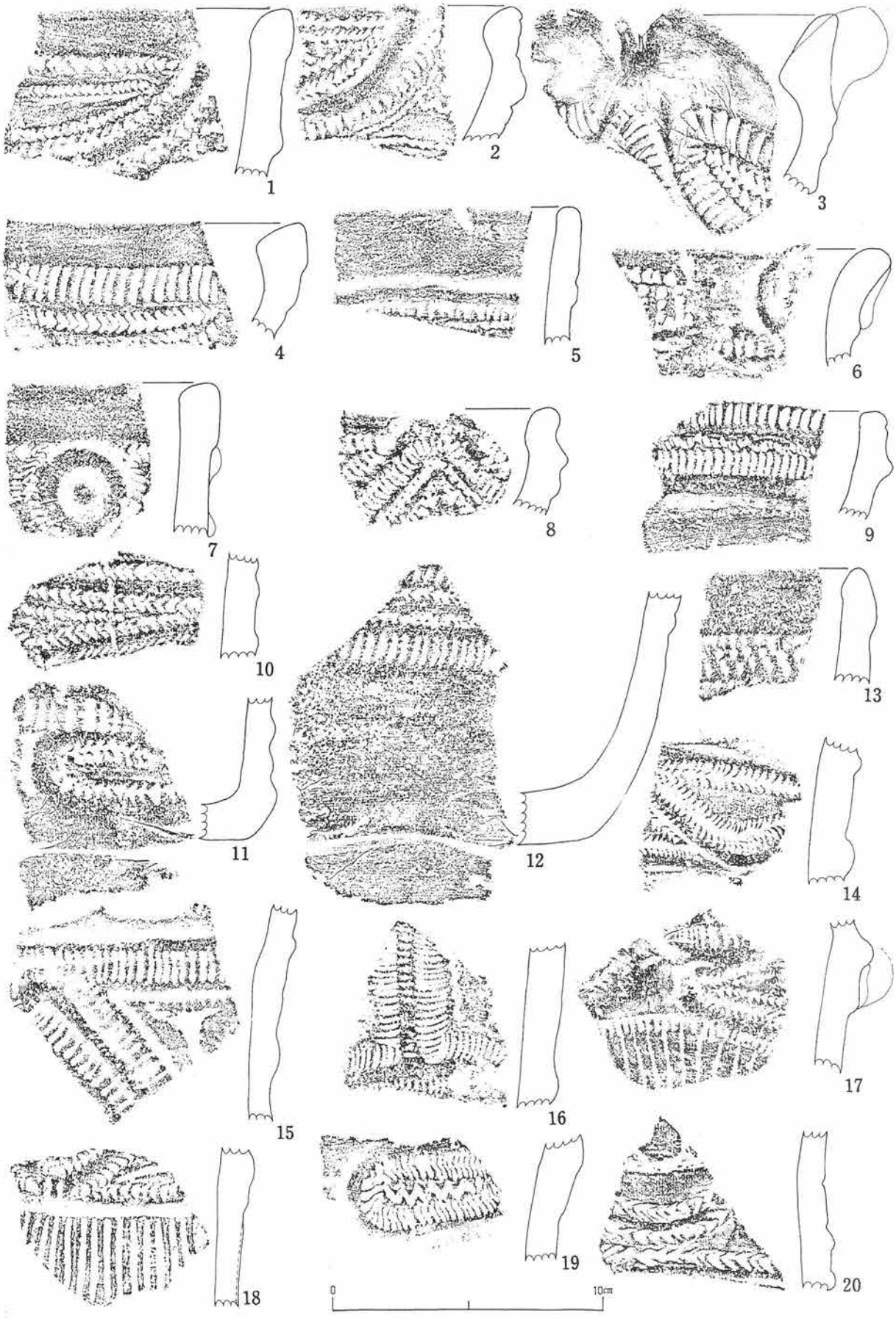
ているようである。器厚12㎜前後、焼成は良好。胎土中に白色砂粒が含まれている。色調は暗褐色を呈する。15は、爪形文及びペン先文からなる重三角の区画内に三叉文が施されている。17・18は、隆帯に沿って爪形文が施されているが、截割竹管によって縦位に平行沈線が施されている。17は爪形文18は半截竹管によって、それぞれ上部文様帯との区画を行っている。

第6図2は、爪形文やペン先文によって重三角に区画された中に、ヘラの先端により波状沈線が横位に描出されている。（6・9・11も同様である）器厚13㎜前後、焼成はわりあい良い。胎土中に多量の白色砂粒と淡黄褐色粒及び金雲母が含まれている。色調は黒褐色を呈する。5は隆帯の区画内にこれに沿ってヘラによる沈線が三角形に描出されている。さらにその中に三叉文が施されている。また隆帯の接合部にはそれぞれ2本、ヘラによる刺突が付けられている。焼成は良く堅い。胎土中に細砂が含まれている。色調は褐色を呈する。9・11は、爪形文とヘラの先端による刺突文とによって構成されているが、9はヘラを交互に刺突する事によって波状沈線のようになっており、さらに隆帯の一部に刻み目が付けられている。11はペン先文によって区画された中にやはりヘラによって9と同様に交互の刺突が見られる。10は、隆帯上全体に刻み目が付けられている。12は、爪形文やペン先文の他ヘラを刺突するのではなく、縦位に連続して波状沈線を付けている。

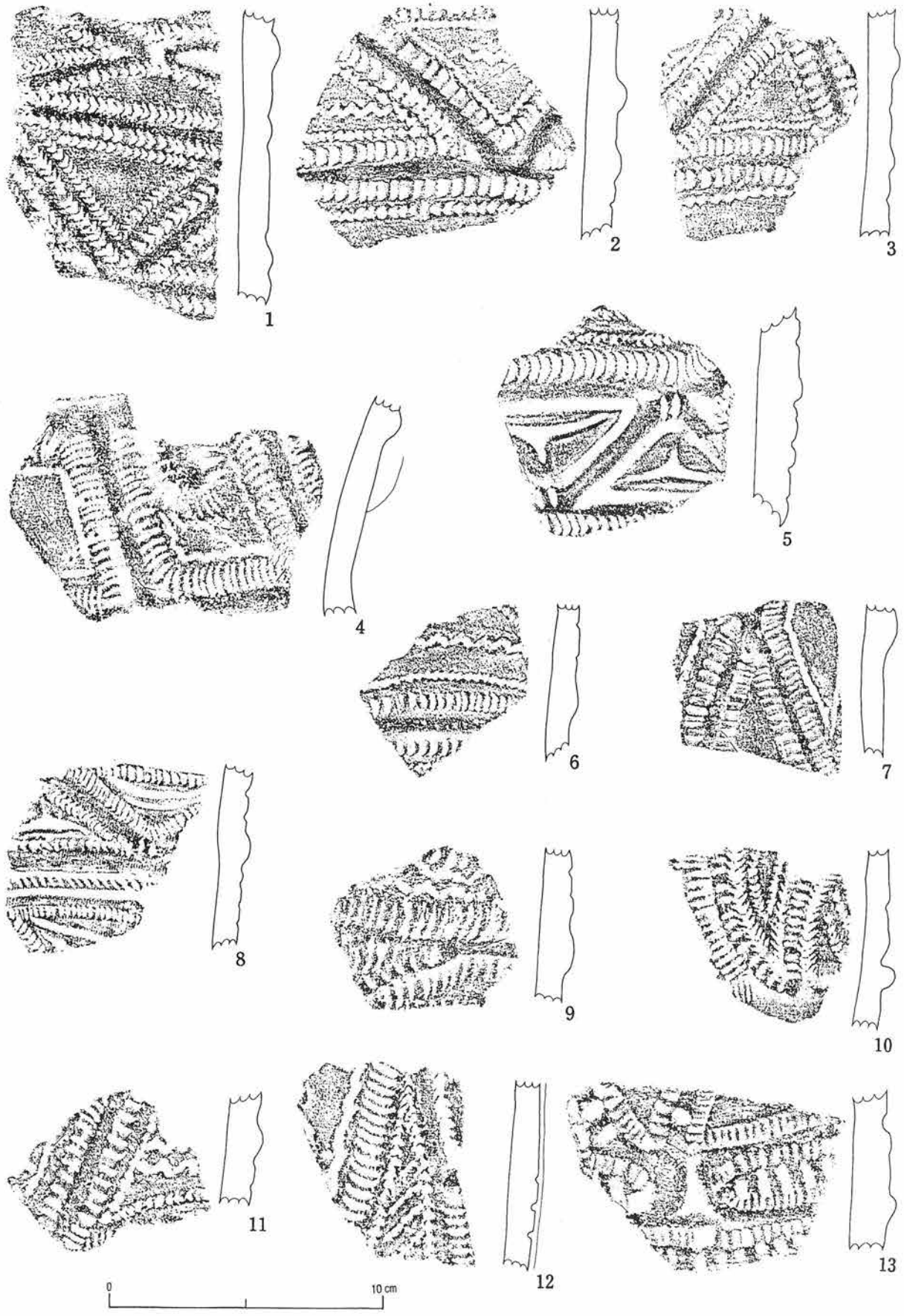
**第Ⅳ群土器**（第7～15図）

**第1類土器**ー曾利式系土器群であり、ｂ種・ｃ種・ｄ種・ｅ種が出土している。

ｂ種：曾利Ⅱ式併行に属するもので、口縁部が粘土紐や条線で装飾され、地文に条線や縄文を施してある。第7図1は、口縁部がかなり強く内彎しており、格子目文になっている。斜条線の上に逆方向から細い粘土紐を斜めに貼り付けてある。この文様は口唇上から続き、また口唇の上端には2条の平行沈線が走る。2・3・8・11は、口唇から口縁部にかけて条線を同心円状に描出している。2はこの条線上に粘土紐による蛇行懸垂文が付けられている。8・11は同一個体であるが2・3のそれと違って力強さはなく、細いヘラを使用してしかも柔らかい線が描かれている。4・5・7・9は、口唇より一気に斜めの条線が描出されている。このうち3・4・5は胎土中に極めて粗い砂粒が含まれている。6は多量の白色砂粒と淡黄褐色粒及び金雲母が含まれている。10・12～16は、頸部から胴部にかけての破片であるが、縄文及び条線を地文としており、この上に粘土紐を横位帯状若しくは波状に付け、これに接続させて蛇行懸垂文が付けられている。また10・15（同一個体）のように、接続部上に「瘤」状の粘土粒を貼り付けたものもある。焼成はあまり良くない。胎土中に多量の白色砂粒と金雲母が含まれている。色調は黒褐色を呈する。16は、波状に付けた粘土紐の上位に、ヘラによって横位に沈線の区画がなされ、さらにこの中に「ハ」の字状の刺突が施されている。また下位には横Ｓ字状の渦巻き隆帯が見られる。器厚10㎜前後、焼成はわりあい良い。胎土中に細砂が含まれている。色調は淡褐色を呈する。17は、胴部下半の破片であるが斜条線の上に太い粘土紐により蛇行懸垂文が付けられている。器厚15㎜前後、焼成は良く堅い。胎土中に細砂と橙褐色粒が含まれている。色調は明褐色を呈する。

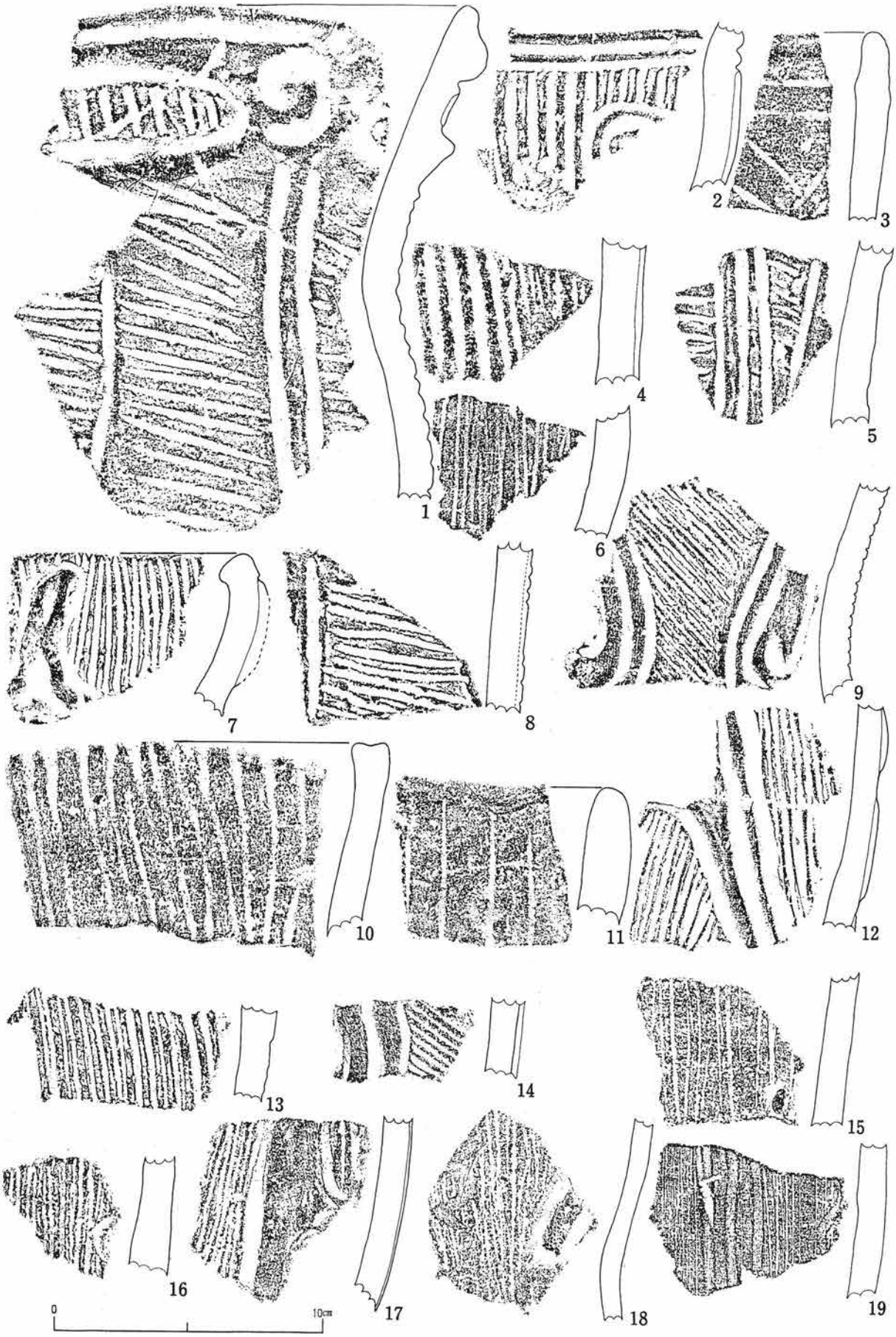



第5図　第Ⅰ次調査出土土器拓影（1）

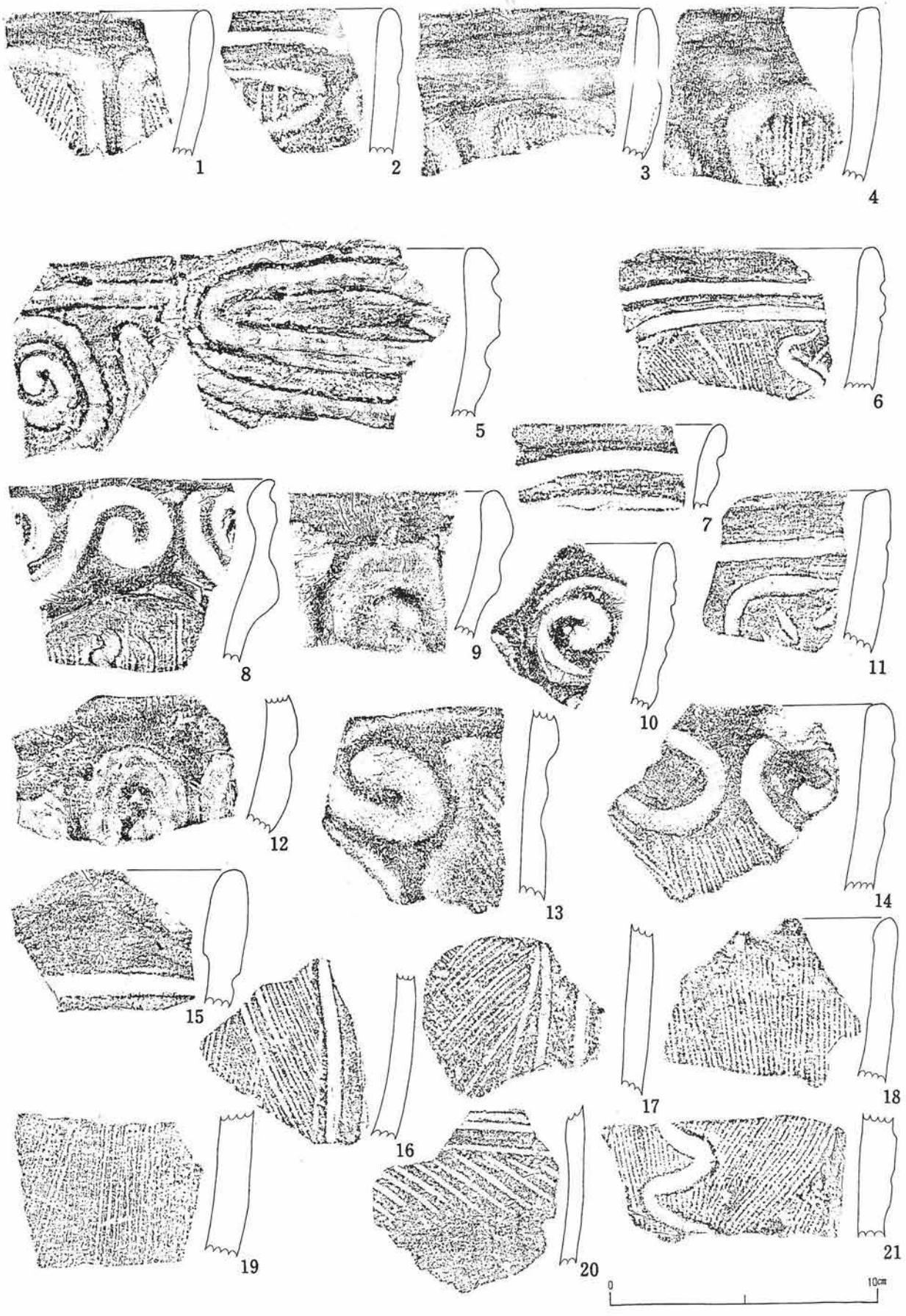



第6図　第Ⅰ次調査出土土器拓影（2）

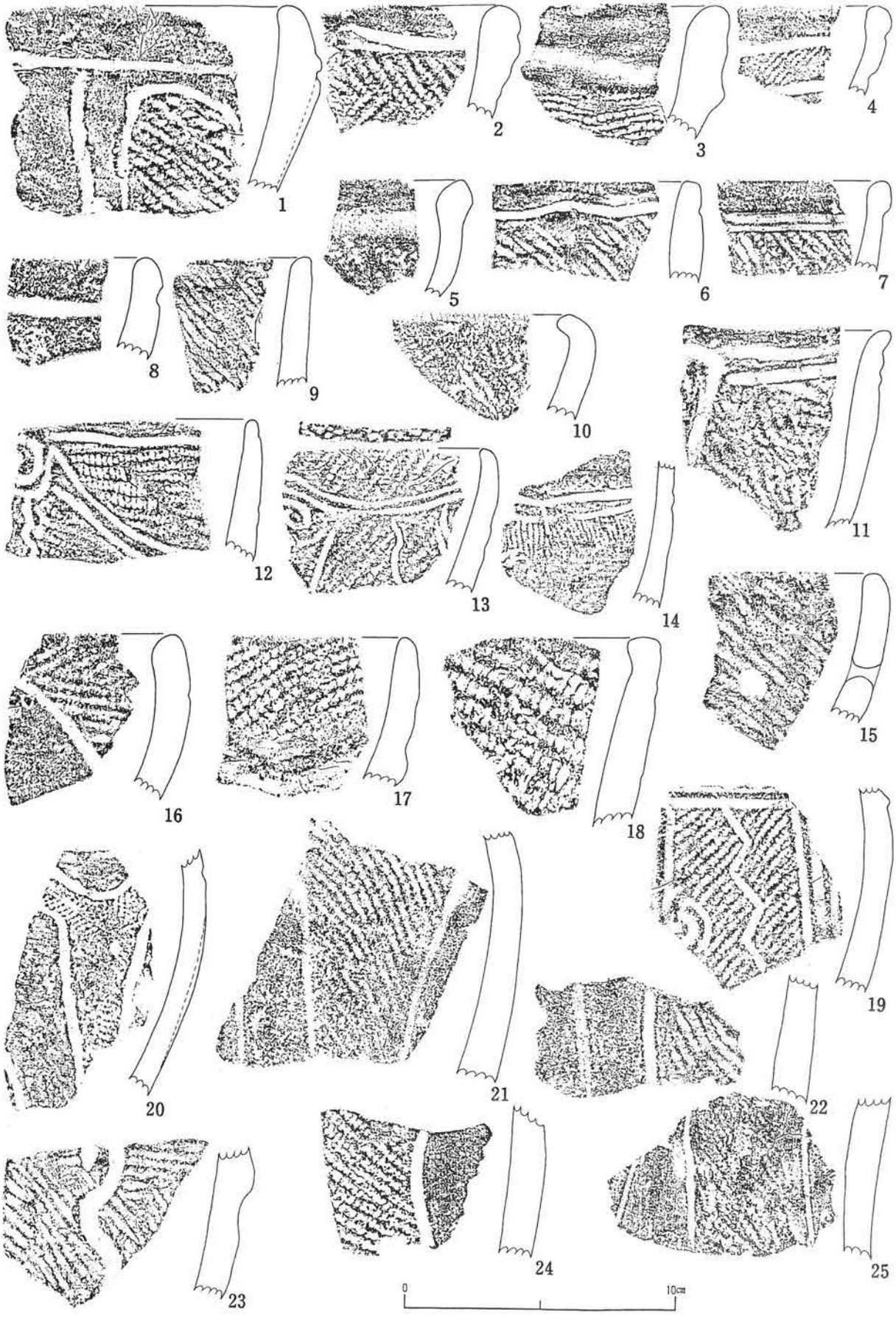
第７図　第Ｉ次調査出土土器拓影（３）




第8図　第Ⅰ次調査出土土器拓影（4）




第９図　第Ⅰ次調査出土土器拓影（５）




第10図　第Ⅰ次調査 出土土器拓影（６）

第16図2の復元土器は、その器形及び文様構成から第7図の土器と同様曾利Ⅱ式併行と思われるが、口唇から頸部までの斜条線や胴部に付けられた縦位条線は、いずれもやや巾広の半截竹管によって施されており、また頸部から胴部の粘土紐の隆帯や懸垂文などから、第7図のそれに比べて簡略化している点を見ると、若干の時期差があるのかも知れない。口径22.5cm、高さ23.5cmを測る。焼成は良く堅い。胎土中に細砂及び白色砂粒が含まれている。色調は明褐色を呈する。第8図2・4も曾利Ⅱ式に属するものであろう。

C種：曾利Ⅲ式併行に属するもので、口縁部に文様帯を持っており胴部に条線や渦巻文を施してある。第8図1・7及び第16図3は、口縁に渦巻の隆帯と半円の連続区画が施され、この区画の内側を巾広の半截竹管によって沈線が巡っている。さらにこの中にヘラの先端による縦位の条線や、丸棒状工具による刺突文が付けられている。頸部から胴部にかけて巾広の半截竹管文が1条ないし2条縦位に走り、この条間に斜位の条線が見られる。第16図3は、この半截竹管文が細長いヘアピン状に描出されている。口径44cm、現在高32.5cmを測る。焼成は良く堅い。胎土中に白色砂粒と金雲母が含まれている。第8図5・8も同様の破片である。9・12・14・18は、胴部に渦巻文が施されている。10は、第16図2（復元土器）の口縁に近似した土器で、半截竹管文をやや斜位に施してある。

d種：曾利Ⅳ式併行に属するもので、口縁に1条あるいは2条の巾広で浅い沈線が横位あるいは逆U字に施され、この区画の中を櫛歯状工具によって縦位及び斜位の条線が施されている。（第9図1～4・6・7）11はハの字文。また5・8～14のように、口縁に渦巻が描出されこの区画内に条線が施されるもの（8）や、区画外及び下部に施されるもの（13・14）がある。10・12のように波状突起のものもある。8・21のように条線の間にヘラ描沈線を施したものなどがある。20は、横位及び斜位の細い沈線が施されたもので器厚は6㎜前後と薄い。焼成は良く堅緻であり、胎土中に白色砂粒及び金雲母が含まれている。色調は明褐色を呈する。

e種：曾利Ⅴ式併行に属するもので、沈線で大きく区画された中には「ハの字」文や綾杉文が施されている。第13図1、第14図13、第15図2～4のように退化した渦巻文があり、巾広の隆帯によって区画された中にヘラの先端によって、短い刻みの刺突文がハの字に付けられている。第13図3は、巾広い隆帯の区画内に綾杉状の条線が施されている。4は、波状口縁の下に1条の沈線があり、下部には渦巻文が見られる。そしてこの空白を埋めるようにヘラを縦あるいは斜めにして深い刻み目を付けている。焼成は良く堅いが、裏面の調整は比較的粗く仕上げている。胎土中に多量の白色砂粒と金雲母が含まれている。色調は灰褐色を呈する。5は、外反する無文の口縁で肩部の隆帯が「鍔状」になっている。縦位隆帯との接合部には丸棒状工具の先端による刺突文が見られる。また半円状に隆帯区画されている。この隆帯の外側はヘラによって巾広の浅い沈線となっている。胴部には細い櫛歯状工具による条線が付けられている。焼成は良く堅い。胎土中に白色砂粒・石英粒・金雲母が含まれている。色調は黒褐色を呈する。第14図6･7は、2条の沈線区画内にヘラの先端によって「雨垂状」の刺突文が付けられている。器厚は7㎜前後と薄いが、口唇は肥厚し丸頭状になっている。焼成は極めて良く堅緻。胎土中に細砂

が含まれている。色調は赤褐色を呈する。１６は、ヘラによる刺突文が横位に付けられこの上に蛇行する沈線が見られる。

**第2類土器**－加曽利Ｅ式系土器群であり、ｄ種が出土している。

ｄ種：加曽利Ｅ4式併行に属するもので、口縁部文様帯がなくなり胴部の文様が口縁部にまで及んでいる。第10図1～25は、口縁を半截竹管によって沈線を一巡させており、以下は曲線的な沈線を描出している。この沈線間には磨消縄文がつくり出されている。また無文帯も多く見られる。このうち、12・13については、口縁部の文様が連弧文状に区画され、この中に磨消縄文が付けられており、3式に入れるべきかも知れない。13は口唇上に縄文が施されている。18は、角頭状の口縁であるが内側に粘土の折り返しが見られる。口縁には磨消縄文が施されている。第11図1～4は同一個体である。また第16図4の復元土器も同様のものである。大きな波状口縁で4つの突起を持っている。口縁に1条の隆帯を巡らし、胴部に「コの字」や渦巻の隆帯が施され、この隆帯間に磨消縄文が施されている。口径約53cm、現在高37cmを測る。器厚は口唇の肥厚部分で27mm、胴部で15mm前後である。焼成は極めて良く堅緻。胎土中に粗い砂粒が多量に含まれている。色調は淡黄褐色を呈する。第12図1～4・6は、口縁から縦位にヘアピン状の沈線が垂下している。そしてこの間に磨消縄文が施されている。5・7・8は第11図1～4及び第16図2に極めて近似した土器である。

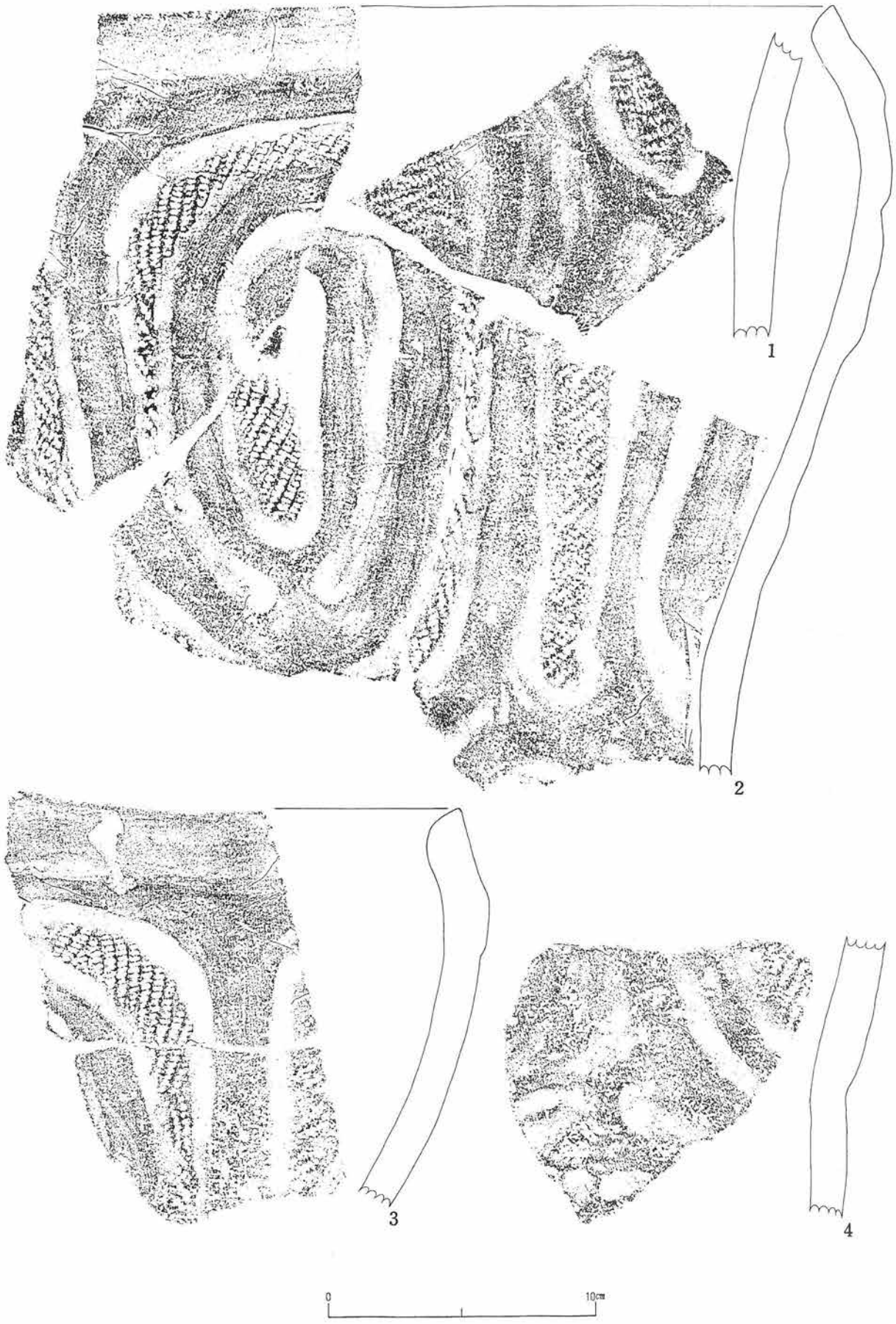
**土製品**

**土器片錘**（第15図5、6・図版10）

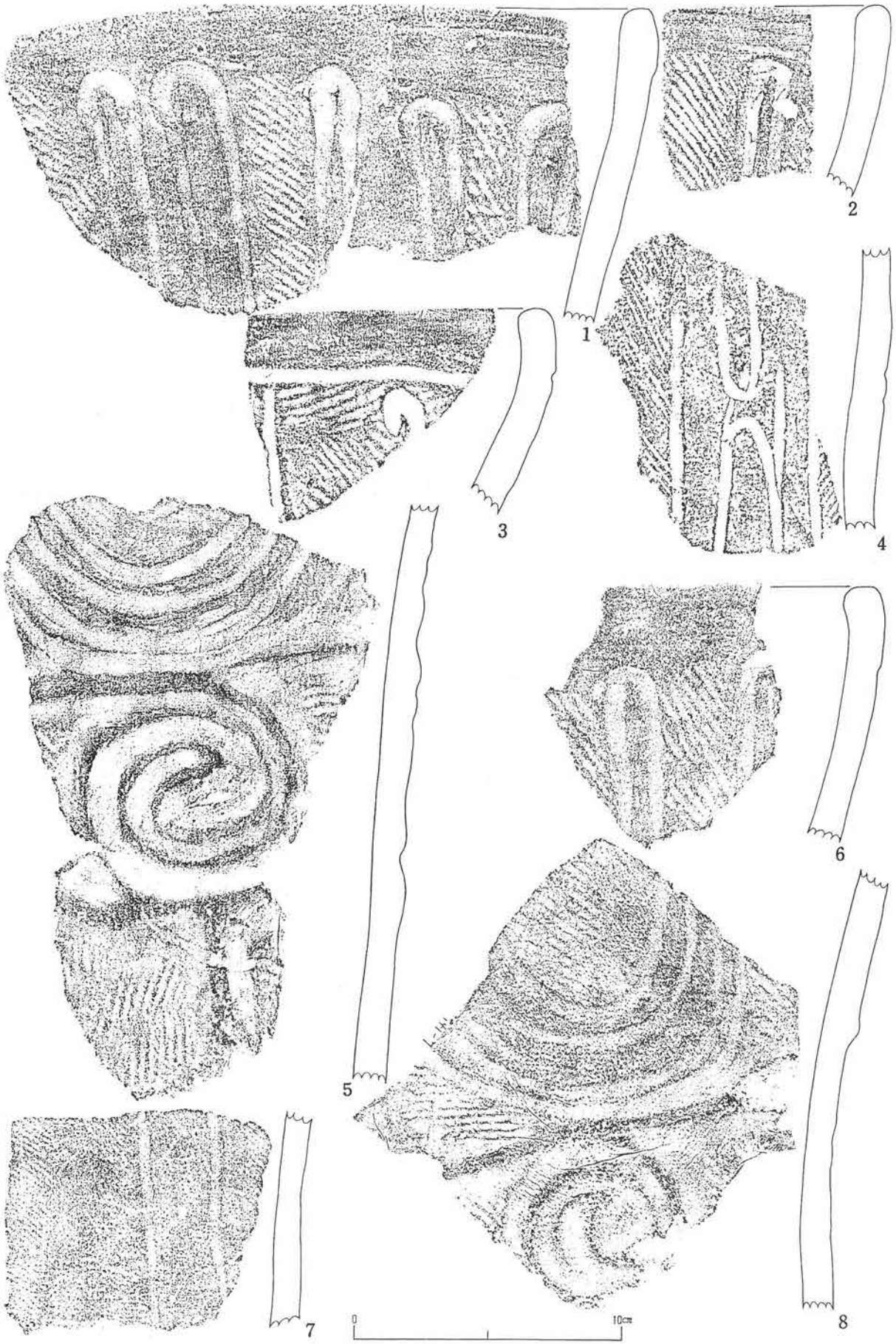
2点出土している。勝坂式・曾利式等の土器片を転用して錘としている。周囲を良く磨いてあり長楕円形に成形している。5は若干ではあるが両端を削り込んであり凹部をつくっている。6は上端に僅かな刻みを入れ、下部は両側面を大きく抉ってあり縊れている。5・6共大きさでは長軸が5.5cm前後と近似している。

**土製円板**（第15図7～25・図版10）

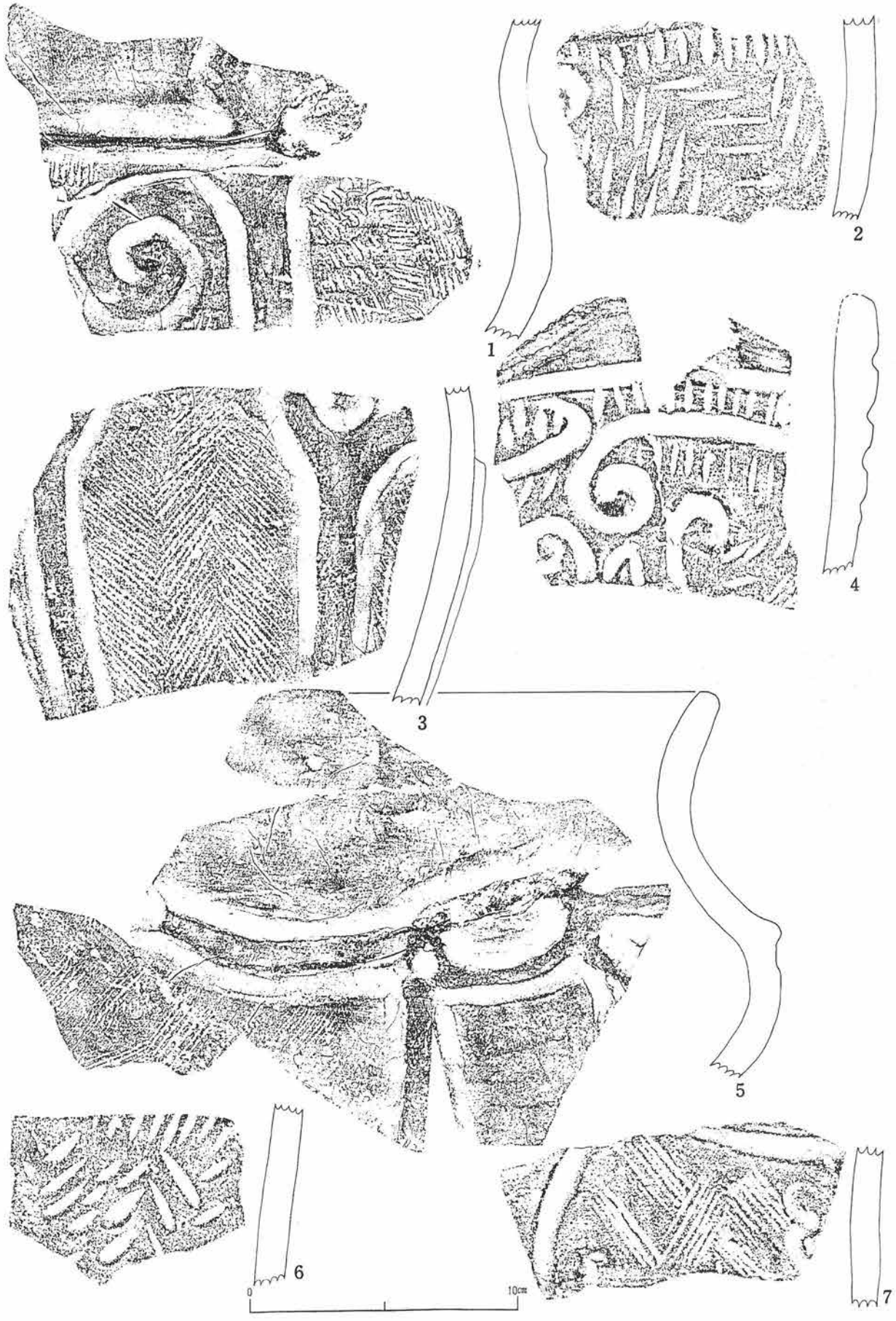
19点出土している。土器片を転用して周囲を研磨し成形してある。形状は円形又は不整円形・楕円形とがある。最大のものは8（不整円形）の4.6×4.5cm、最小のものは25（楕円形）の2.3×2.1cmである。8・11・20・24・25については特に丁寧に磨いてある。無文土器の転用が8点、曾利式が7点、縄文が2点、勝坂式が1点である。この中には若干刻みがあり土錘としても良いようなものがあるが、明瞭でないため円板として扱った。



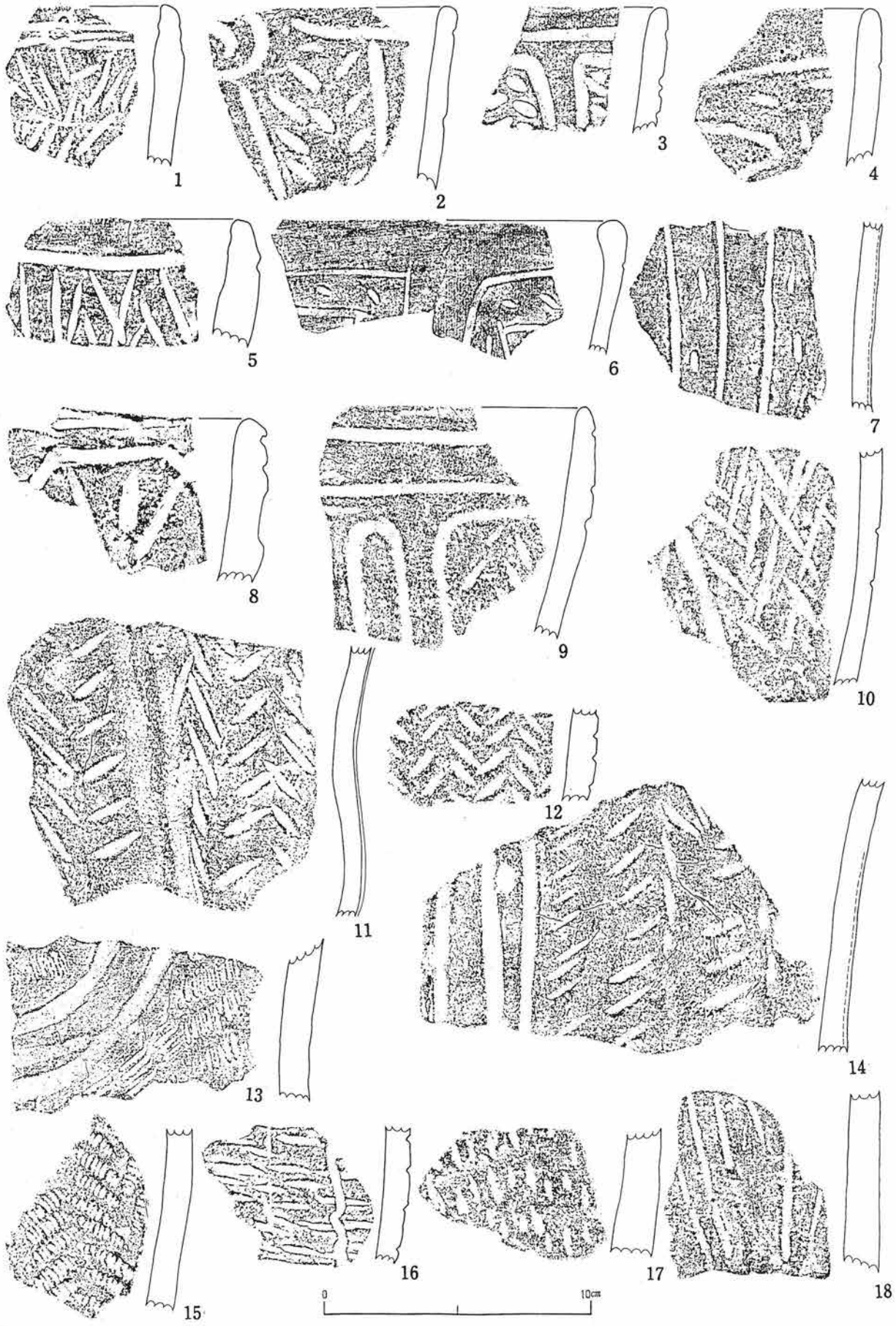

第11図　第Ⅰ次調査出土土器拓影（７）



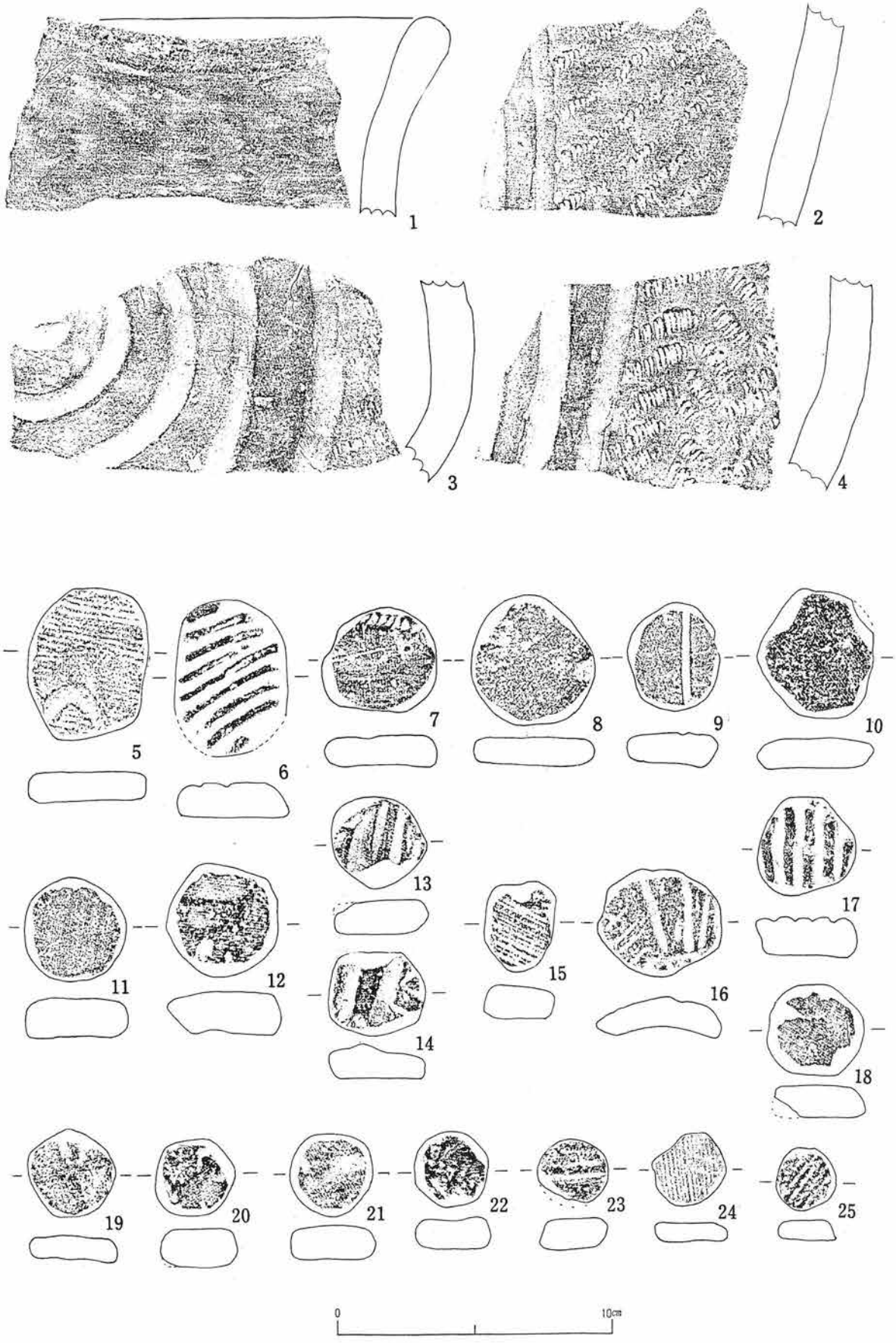

第12図　第Ⅰ次調査出土土器拓影（８）



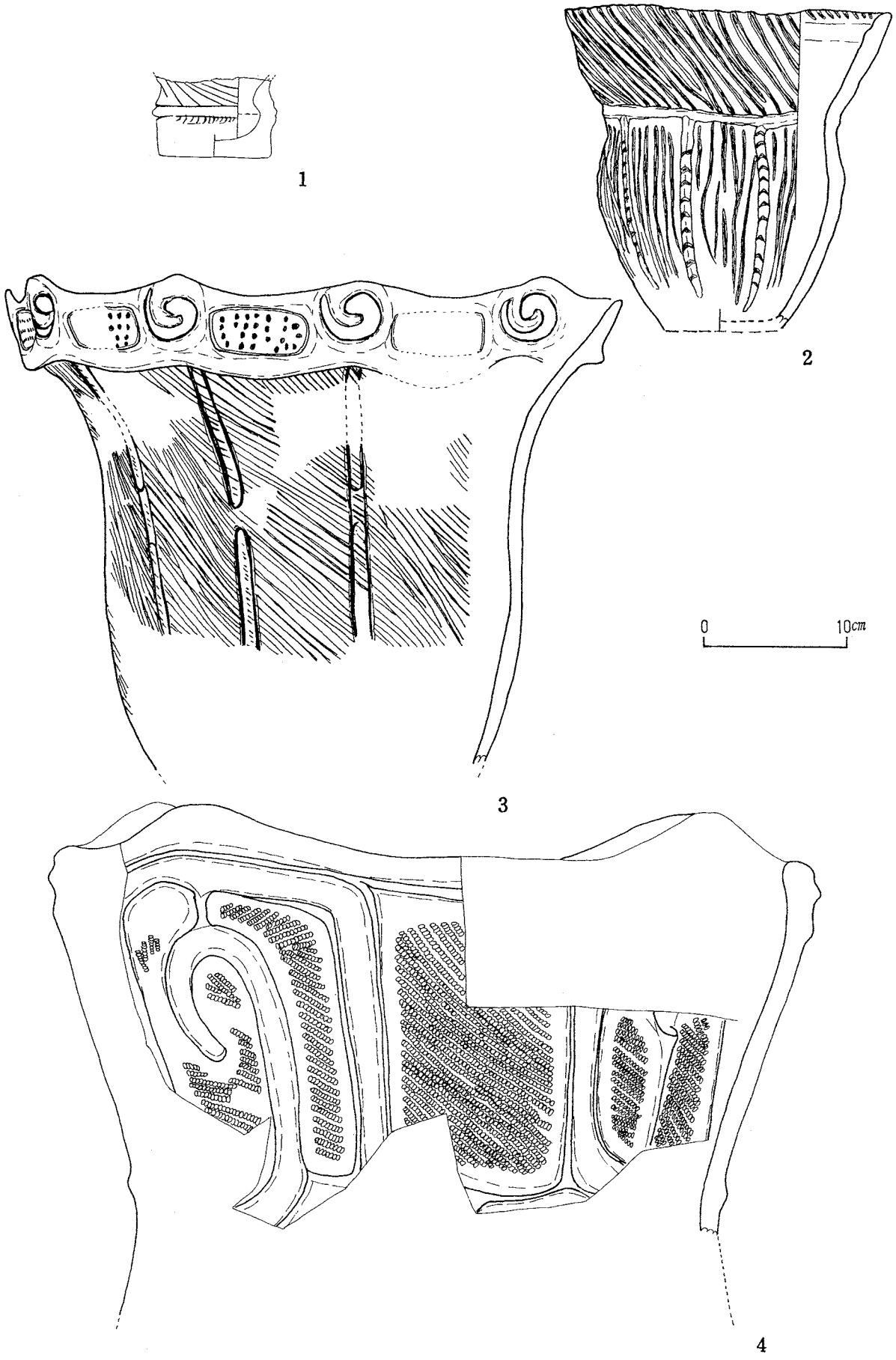

第13図　第Ⅰ次調査出土土器拓影（９）




第14図　第Ⅰ次調査出土土器拓影（10）




第15図　第Ⅰ次調査 出土土器拓影（11）



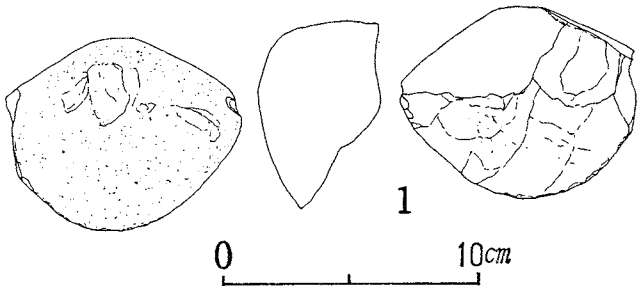

第16図　第Ⅰ次調査出土土器実測図

イ、石器

第Ⅰ次調査における石器の出土状況は、隣接する第Ⅱ次調査区域とは異なり、量的には極めて少ない。遺物は、縄文時代中期の土器が主体であり、石器もそのほとんどが該期のものと思われる。

**礫器**（第17図・図版6－1）

1点出土している。円礫の片面を打ち欠いただけの片面礫器である。刃部は円形で薄く両刃をなし、剥離面より細部調整が行われている。




第17図　第Ⅰ次調査出土石器実測図（1）

**石鏃**（第18図・図版6－2～24）

23点出土している。完形品は1点のみで、他の22点は脚部及び先端部を欠損している。石材は5の頁岩を除いて他はすべて黒曜石である。破損品が多いが形状はほとんど無茎鏃と思われ、抉りのある凹基式の石鏃である。

**石匙**（第19図25～27・図版6－25～27）

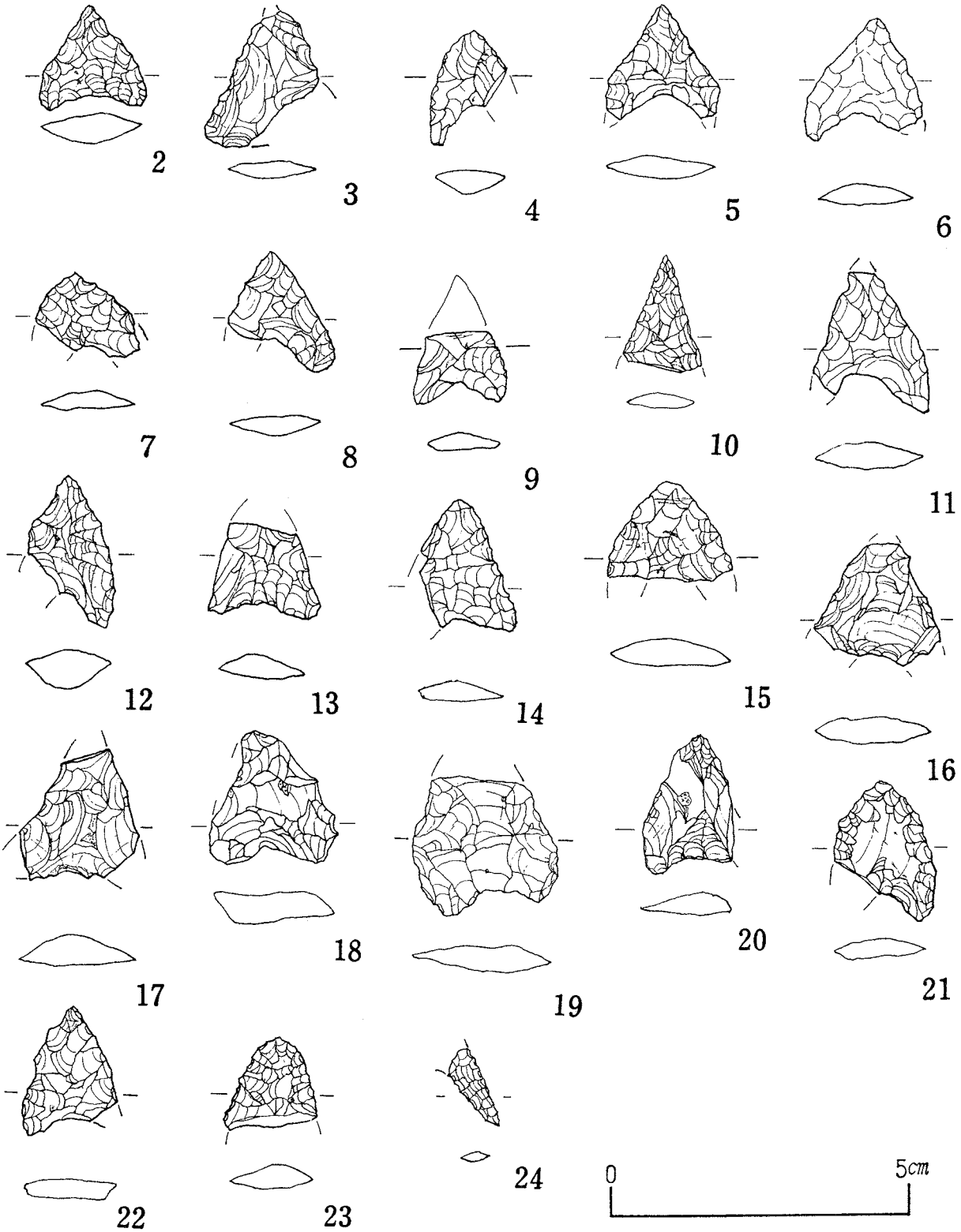
3点出土している。石材はいずれも頁岩である。25は一部破損しているが横形の石匙である。刃部及びつまみ部の加工は主に素材の表面から行われている。26・27の形状は縦形である。小型の石匙で刃部は半円状を呈し、加工は主として26が表面から又27は裏面から行われ、あたかも円形掻器を思わせる。3点とも基部には切り取ったままの平坦面が残されている。

**打製石斧**（第19～20図・図版7－28～37）

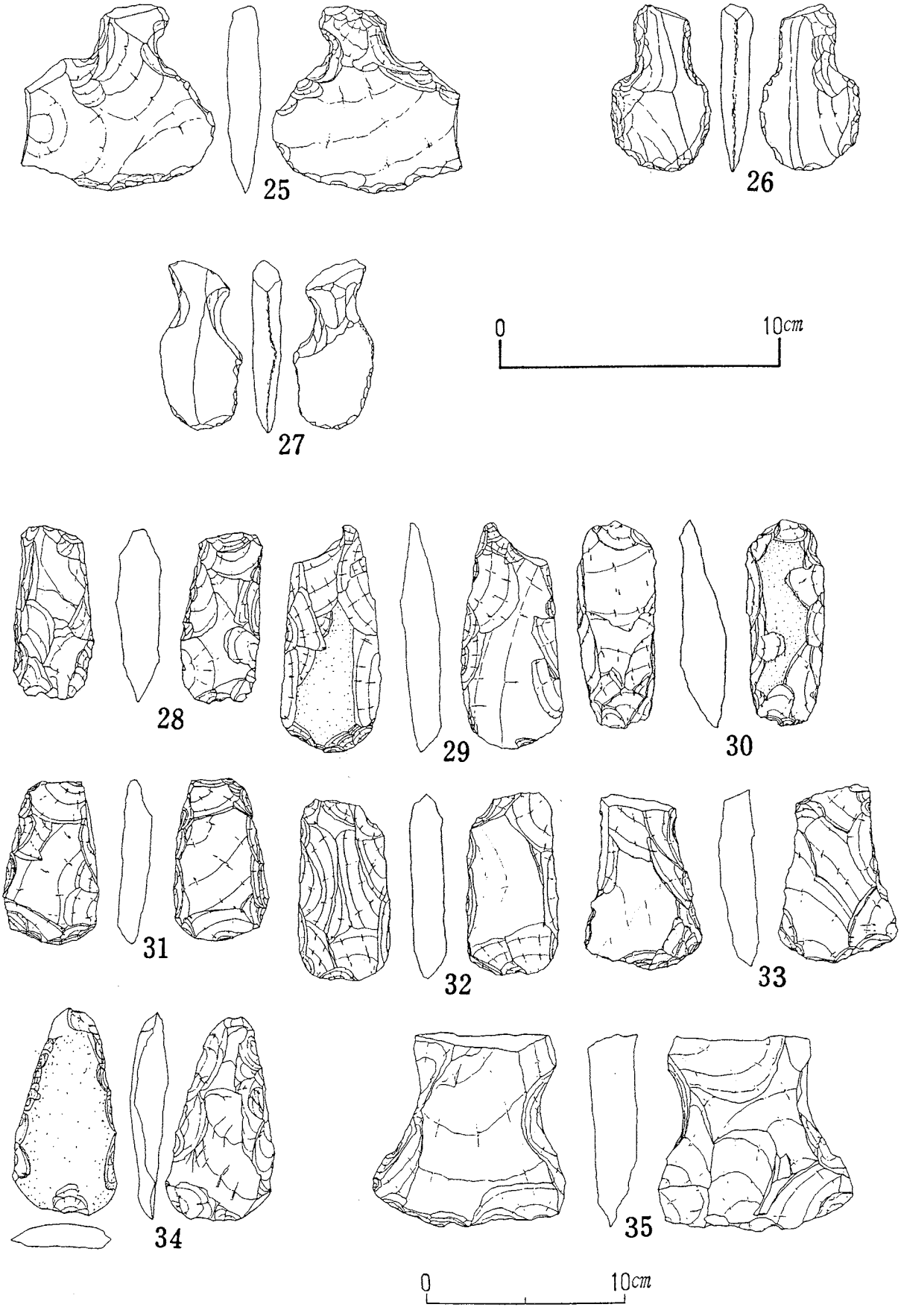
30点出土しているが、完形品は11点であり他は各部位が欠損している。これらの石斧を、分銅形3点、撥形8点、短冊形18点と分類したが、中間形態も多くそれらは短冊形として一括した。石材は頁岩が最も多く、安山岩・砂岩がこれに続く。このうち10点を図化した。28～31は短冊形である。28は刃部の一部が欠損し29は基部が欠損している。刃部は4点とも円刃をなして、両面より調整が加えられている。32～34は撥形である。32・34の刃部は円刃であるが、33は直刃状を呈する。又34は、表面に若干湾曲した礫面を残す。35・36は分銅形である。35は、刃部が欠損しているが比較的大形で、加工は粗く仕上げてある。36は、細身の石斧で上下の刃部は偏刃、円刃をなす。37は、表面に礫面を大きく残し、刃部を薄く仕上げた小形の石器である。これは石斧というよりむしろヘラ状の掻器といって良いと思われる。

**磨製石斧**（第20図・図版7－38～41）

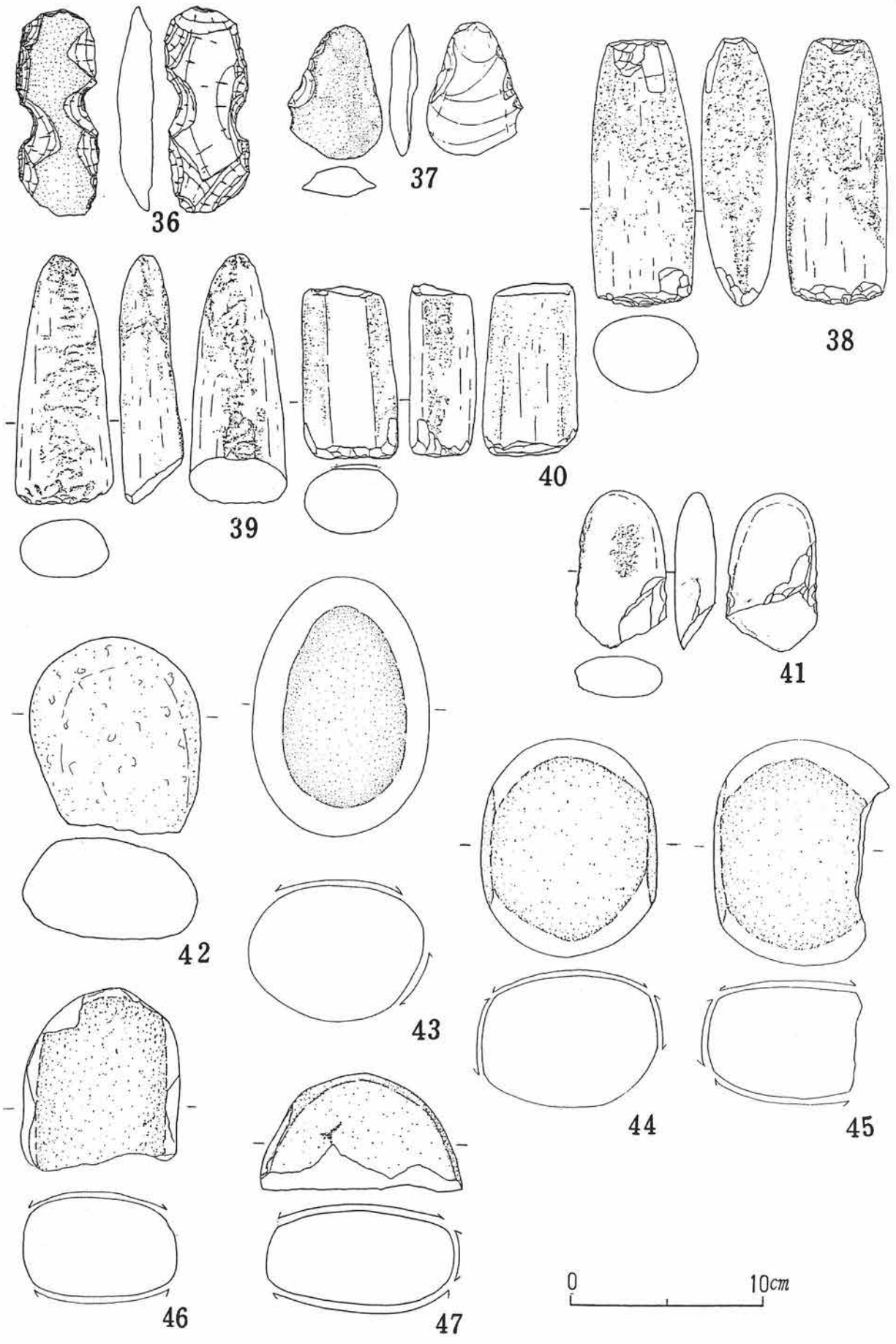
7点出土している。完形品は38の1点のみであるが、それも刃こぼれのためか刃部が明確でない。39は、円錐状の斧頭を持つ乳棒状を呈するが、頭身の断面は楕円形である。40は、胴部のみで明らかに刃部側の切断面が使用されたものか摩滅している。磨製石斧の破損品には、こうした断面が整形されているものが多々見られる。41は、刃部が欠損しているが胴部の薄い石斧である。石材は、1点を除いてすべて緑色砂岩である。




第18図　第Ⅰ次調査出土石器実測図（２）




第19図　第Ⅰ次調査出土石器実測図（３）




第20図　第Ⅰ次調査出土石器実測図（4）

**磨石**（第20～21図・図版7・8－42～53）

31点出土している。このうち完形品は2点である。他は欠損または小破片であるため12点を図化した。石材は安山岩・玄武岩が多く石英安山岩・石英閃緑岩がこれに続く。いわゆる磨石と他の機能を持つものを含めて磨石とした。形状から4つに大別される。

Ⅰ類－円形（a）、楕円形（b）を呈し、曲面的な磨面を持つもの。Ⅱ類－箱形（c）棒状（d）を呈し、平坦的な磨面を持つもの。Ⅲ類－上記以外の形状を持つもの。Ⅳ類－凹みを有するもの。

Ⅰ類（42・43）

Ⅰ－a　円形及び円形に近いものが17点出土しているが、そのほとんどが欠損している。磨面は片面及び両面にも見られるようである。

Ⅰ－b　楕円形を呈し自然面を残している。42は、欠損しているが軽石からなり全体が摩滅している。43は、主な磨面を側縁部に持つ大型品である。

Ⅱ類（44～47）

Ⅱ－c　5点出土している。側面及び表裏両面に平坦な磨面を持つため、形状が箱形をなすものである。

Ⅲ類

4点出土しているが、すべてが欠損品である。

Ⅳ類（48～53）

9点出土している。凹みと磨面を併せ持つものを本類とした。形状は、円形1点、楕円形8点でありこのうち6点を図化した。凹みは浅く不規則で1孔ないし2孔を表裏に有する。

**蜂の巣石**（第21図54・図版8－54）

多角形の礫に多数の凹みがあり、これが蜂の巣状を呈している。凹みは緩やかな円錐状である。用途は明確ではないが、発火具の台石等が考えられる。石材は、石英安山岩である。

**石皿**（第21～22図55～57・図版8－55、9－56・57）

8点出土している。このうち、完形品もしくは一部欠損のものが各1点、他は欠損品であるが3点を図化した。使用面は平坦な摩滅痕を表裏又は片面に持つもの、大きく緩やかな凹みを表裏に持つものがある。石材は、玄武岩・安山岩・石英安山岩である。

**石錘**（第22図・図版9－58～61）

5点出土している。偏平な自然礫の端を打ち欠いたもの（Ⅰ類）、溝状に削って作られたもの（Ⅱ類）に大別される。

Ⅰ類（59～61）

長軸の両端を打ち欠いたもの2点、長軸の一端だけ打ち欠いたもの1点で、小型の錘も含まれる。石材は全て砂岩である。

Ⅱ類（58）

両端に切込みが施された小型の切目石錘で、石材は黒色頁岩である。

Ⅰ類、Ⅱ類共に漁網錘と思われるが、同時期のものかあるいは、Ⅰ類の礫石錘は布を織る際の重りなのか、用途は明確ではない。

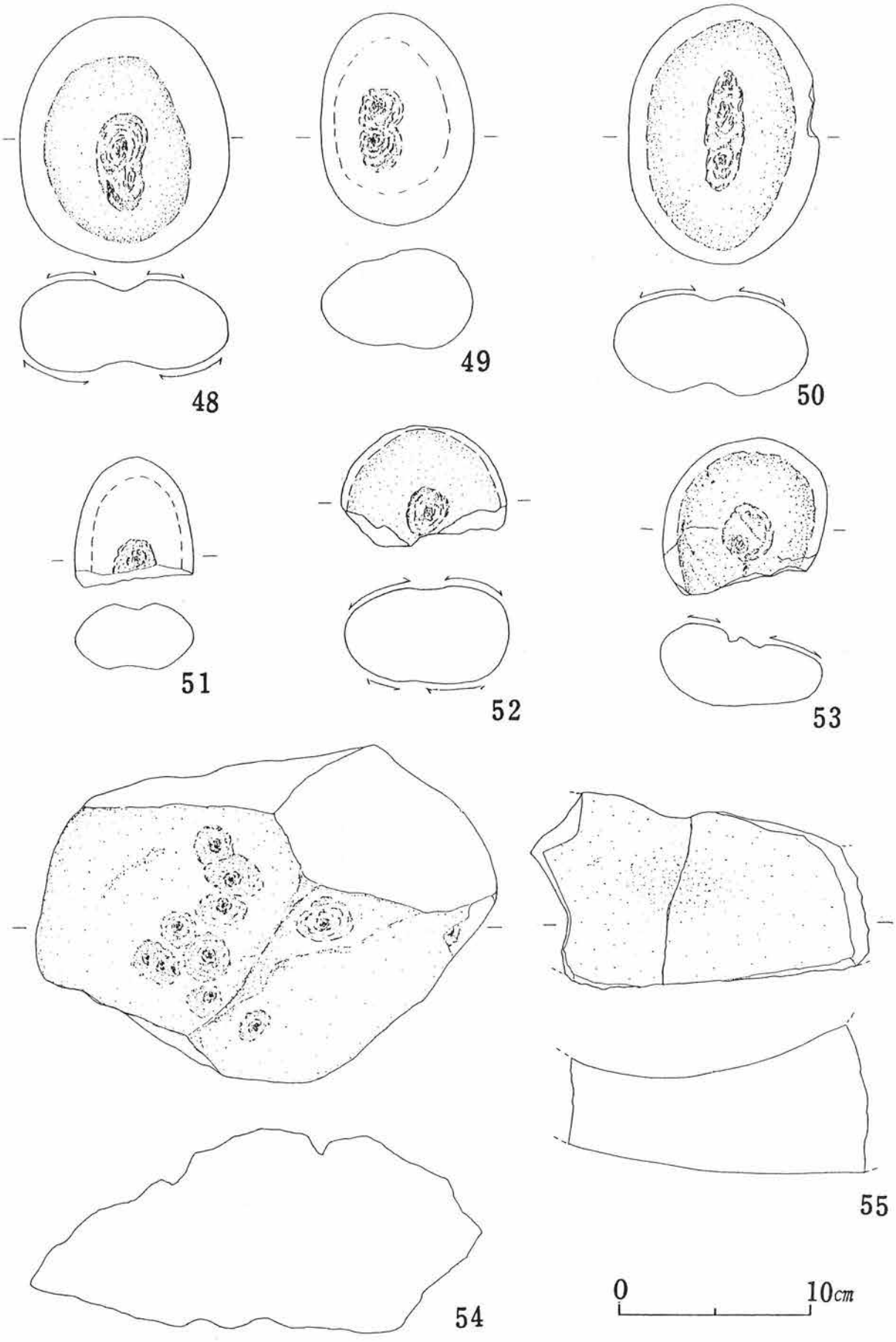
**円板状石器**（第22図・図版9－62）

1点出土している。頁岩製であり、自然面は片面のみで周囲を打ち欠いて円形に仕上げている。この石器は第Ⅱ次調査において多数出土しているが用途は不明である。

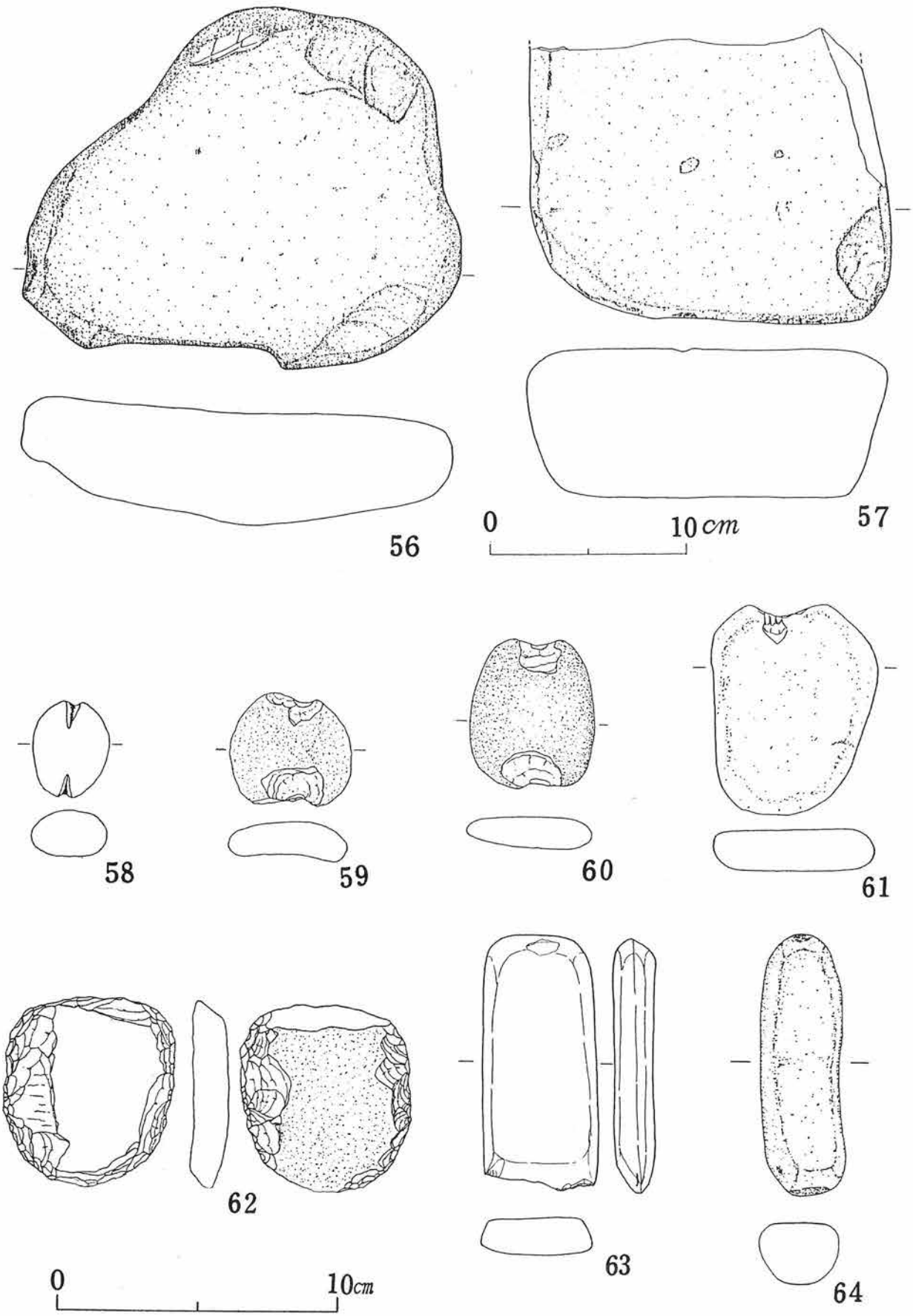
**その他の石器**（第22図・図版9－63・64）

63は器厚が薄く偏平であり、側辺部は整形の為か研磨されている。長軸端部は敲打痕が有り刃部として使用した可能性もある。

64は、円柱形に近い自然礫の長軸端部に僅かな敲打痕と摩滅痕を持つ。おそらくその部分を使用して擦る道具としたものであろう。他に黒曜石・赤石の剥片を素材とし、その縁辺に剥離痕を持つものが4点出土している。




第21図　第Ⅰ次調査出土石器実測図（５）




第22図　第Ⅰ次調査出土石器実測図（6）

（単位mmおよびg）

| 種別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 礫器 1 | | | 17−1 | 6 | 73.0 | 84.0 | 42.0 | 244 | | |
| 石鏃 1 | 2住 | | 18−2 | 〃 | 18.0 | 17.0 | 4.5 | 0.8 | 黒曜石 | |
| 2 | A | | −3 | 〃 | 24.0 | 15.5 | 4.0 | 1.2 | 〃 | 左脚左側面欠損 |
| 3 | | | −4 | 〃 | 19.0 | 9.5 | 3.5 | 0.55 | 〃 | 右脚部欠損 |
| 4 | B | | −5 | 〃 | 20.0 | 18.5 | 3.5 | 0.9 | 〃 | 両脚部欠損 |
| 5 | B | | −6 | 〃 | 22.2 | 19.5 | 4.0 | 1.6 | 頁岩 | 左脚部欠損 |
| 6 | A | | −7 | 〃 | 18.0 | 11.0 | 3.5 | 0.7 | 黒曜石 | 両脚部欠損 |
| 7 | B | | −8 | 〃 | 21.5 | 13.5 | 3.0 | 0.85 | 〃 | 左脚部欠損 |
| 8 | 2住 | | −9 | 〃 | 11.0 | 15.0 | 3.0 | 0.45 | 〃 | 頭部欠損 |
| 9 | B | | −10 | 〃 | 19.0 | 12.5 | 3.0 | 0.5 | 〃 | 下部欠損 |
| 10 | B | | −11 | 〃 | 24.0 | 19.5 | 4.0 | 1.6 | 〃 | 頭部左脚欠損 |
| 11 | | | −12 | 〃 | 26.5 | 15.0 | 7.5 | 1.8 | 〃 | 左脚欠損 |
| 12 | | | −13 | 〃 | 15.0 | 18.5 | 4.0 | 0.9 | 〃 | 頭部欠損 |
| 13 | A | | −14 | 〃 | 24.5 | 13.0 | 3.0 | 1.0 | 〃 | 左脚欠損 |
| 14 | B | | −15 | 〃 | 18.0 | 20.0 | 4.5 | 1.0 | 〃 | 下部欠損 |
| 15 | 1住 | | −16 | 〃 | 20.0 | 20.0 | 5.5 | 1.7 | 〃 | 頭部両脚欠損 |
| 16 | B | | −17 | 〃 | 20.0 | 19.5 | 5.0 | 1.7 | 〃 | 頭部脚先欠損 |
| 17 | B | | −18 | 〃 | 25.0 | 22.0 | 7.0 | 2.5 | 〃 | 左側面欠損 |
| 18 | | | −19 | 〃 | 23.0 | 23.0 | 5.0 | 2.65 | 〃 | 頭部欠損 |
| 19 | | | −20 | 〃 | 24.0 | 15.0 | 4.0 | 1.25 | 〃 | 右脚欠損 |
| 20 | | | −21 | 〃 | 23.5 | 16.0 | 4.0 | 1.3 | 〃 | 左脚欠損 |
| 21 | B | | −22 | 〃 | 22.5 | 17.5 | 5.0 | 1.1 | 〃 | 左脚右側面欠損 |
| 22 | B | | −23 | 〃 | 17.5 | 16.0 | 5.0 | 1.1 | 〃 | 両脚部欠損 |
| 23 | B | | −24 | 〃 | 25.0 | 10.0 | 4.0 | 1.0 | 〃 | 左脚部のみ |
| 石匙 1 | | | 19−25 | 〃 | 66.0 | 66.0 | 13.0 | 50 | 頁岩 | |
| 2 | | | −26 | 〃 | 59.0 | 35.0 | 9.5 | 21 | 〃 | |
| 3 | | | −27 | 〃 | 59.5 | 28.0 | 10.0 | 16 | 〃 | |
| 打製石斧 1 | B | 短冊形 | 図化せず | | 100.5 | 55.0 | 20.0 | 180 | 安山岩 | 一部欠損 |
| 2 | A | 〃 | 〃 | | 78.0 | 51.5 | 21.5 | 121 | 黒色頁岩 | 〃 |
| 3 | A | 〃 | 〃 | | 94.0 | 52.5 | 18.5 | 104 | | |
| 4 | A | 〃 | 19−28 | 17 | 84.0 | 39.0 | 20.0 | 83 | | |
| 5 | | 〃 | −29 | 〃 | 111.0 | 48.0 | 18.0 | 121 | | 一部欠損 |
| 6 | B | 〃 | −30 | 〃 | 102.5 | 33.0 | 21.0 | 100 | | |
| 7 | B | 〃 | 図化せず | | 94.0 | 47.0 | 13.0 | 75 | 砂岩 | |
| 8 | | 〃 | 〃 | | 111.0 | 40.5 | 17.0 | 101 | 黒色頁岩 | |
| 9 | | 〃 | 〃 | | 174.5 | 58.0 | 24.0 | 125 | | 一部欠損 |
| 10 | B | 〃 | 〃 | | 103.0 | 58.0 | 14.0 | 110 | 黒色頁岩 | |
| 11 | 1住床面 | 〃 | 〃 | | 78.0 | 54.0 | 18.0 | 125 | | 一部欠損 |
| 12 | B | 〃 | 〃 | | 120.0 | 91.0 | 18.5 | 280 | 黒色頁岩 | |
| 13 | A | 〃 | 〃 | | 71.0 | 72.0 | 23.0 | 149 | 〃 | 半截 |
| 14 | | 〃 | 〃 | | 65.5 | 61.0 | 19.0 | 108 | 安山岩 | 〃 |
| 15 | B | 〃 | 〃 | | 78.0 | 59.5 | 30.0 | 169 | 黒色頁岩 | 一部欠損 |
| 16 | | 〃 | 〃 | | 70.0 | 55.0 | 17.0 | 74 | 〃 | 〃 |
| 17 | | 〃 | 〃 | | 87.5 | 60.0 | 18.0 | 141 | | 〃 |
| 18 | | 〃 | 19−31 | | 80.0 | 47.0 | 15.0 | 72 | | 〃 |
| 19 | | 〃 | −32 | | 91.0 | 45.0 | 16.0 | 90 | | |

第1表　第Ⅰ次調査石器計測一覧表　（1）

（単位㎜および g）

| 種　別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 打製石斧 20 | A | 撥形 | 19－33 | 9 | 85.0 | 58.0 | 15.0 | 87 | 黒色頁岩 | 一部破損 |
| 21 | 2住覆土 | 〃 | －34 | | 102.0 | 53.5 | 18.0 | 98 | 〃 | |
| 22 | A | 〃 | 図化せず | | 87.5 | 50.5 | 17.0 | 74 | 〃 | |
| 23 | B－3 | 〃 | 〃 | | 58.0 | 57.0 | 14.5 | 52 | 黒色頁岩 | 半截 |
| 24 | | 〃 | 〃 | | 87.0 | 49.0 | 17.0 | 79 | | |
| 25 | | 〃 | 〃 | | 90.5 | 50.0 | 25.0 | 126 | | |
| 26 | | 〃 | 〃 | | 48.5 | 40.5 | 14.0 | 30 | 黒色頁岩 | 半截 |
| 27 | B－5 | 分銅形 | 19－35 | | 96.0 | 97.0 | 22.0 | 241 | | 一部破損 |
| 28 | A | 〃 | 20－36 | | 104.0 | 41.0 | 15.5 | 90 | | |
| 29 | B－3 | 〃 | 図化せず | | 80.5 | 52.5 | 25.0 | 140 | 黒色頁岩 | 一部欠損 |
| 30 | | 石篦状 | 20－37 | | 66.5 | 49.0 | 13.0 | 44 | | |
| 磨製石斧 1 | A－4 | | －38 | | 135.0 | 53.0 | 39.5 | 475 | | |
| 2 | B－5 | | －39 | | 127.5 | 50.0 | 32.0 | 290 | | 刃部欠損 |
| 3 | B－4 | | －40 | | 89.0 | 50.0 | 34.5 | 324 | | 頭部刃部欠損敲打痕あり |
| 4 | 2住 | | －41 | | 79.5 | 47.5 | 22.0 | 100 | | 刃部欠損 |
| 5 | 2住 | | 図化せず | | 46.5 | 37.0 | 18.5 | 51 | | 刃部のみ |
| 6 | A－4 | | 〃 | | 60.0 | 39.0 | 31.0 | 94 | | 頭部のみ |
| 7 | A－4 | | 〃 | | 90.0 | 56.5 | 34.5 | 290 | | 頭部刃部欠損 |
| 磨石 1 | | 円形 | 〃 | | 75.0 | 100.5 | 55.5 | 537 | | 半截 |
| 2 | B | 〃 | 〃 | | 77.5 | 107.0 | 58.5 | 456 | | 半截 |
| 3 | A－5 | 〃 | 〃 | | 42.0 | 81.5 | 52.0 | 215 | | 破片 |
| 3 | 2住 | 〃 | 〃 | | 54.0 | 67.0 | 52.0 | 247 | | 〃 |
| 4 | B－6 | 〃 | 〃 | | 42.5 | 83.0 | 44.0 | 145 | | 〃 |
| 6 | | 〃 | 〃 | | 78.0 | 43.5 | 51.0 | 170 | | 〃 |
| 7 | B | 〃 | 〃 | | 65.0 | 38.0 | 27.5 | 84 | | 〃 |
| 8 | | 楕円形 | 20－42 | | 101.0 | 88.5 | 50.5 | 135 | | |
| 9 | B－5 | 〃 | －43 | | 133.0 | 90.0 | 68.5 | 1100 | 玄武岩 | |
| 10 | | 〃 | 図化せず | | 57.0 | 56.5 | 34.0 | 78 | | 破片 |
| 11 | A－5 | 〃 | 〃 | | 31.0 | 69.0 | 52.0 | 107 | | 〃 |
| 12 | | 箱形 | 〃 | | 67.5 | 79.5 | 48.5 | 321 | | |
| 13 | A－4 | 〃 | 20－44 | | 112.0 | 90.0 | 64.5 | 865 | 玄武岩 | |
| 14 | 集石 | 〃 | －45 | | 117.5 | 86.5 | 57.0 | 845 | 〃 | 一部欠損 |
| 15 | A－3表土 | 〃 | －46 | 8 | 88.0 | 81.5 | 51.5 | 664 | 石英安山岩 | 一部欠損 |
| 16 | B－6 | 〃 | －47 | 〃 | 63.5 | 103.5 | 51.5 | 395 | | |
| 17 | A | 棒状 | 図化せず | | 73.5 | 50.5 | 34.0 | 175 | | 半截 |
| 18 | | 不定形 | | | 72.0 | 72.0 | 69.0 | 438 | | 一部欠損 |
| 19 | A－4 | 〃 | 〃 | | 45.0 | 61.5 | 18.0 | 68 | | 半截 |
| 20 | B－2 | 〃 | 〃 | | 68.0 | 43.0 | 17.0 | 58 | | 〃 |
| 21 | B－6 | 〃 | 〃 | | 73.0 | 40.5 | 38.0 | 174 | | 破片 |
| 22 | | 凹石 | 21－48 | 8 | 12.3 | 104 | 47 | 750 | 安山岩 | |
| 24 | | 〃 | －49 | 〃 | 108 | 76.5 | 52.5 | 536 | 石英閃線岩 | |
| 25 | | 〃 | －50 | 〃 | 127.5 | 94.5 | 47 | 738 | 安山岩 | |
| 26 | B－4 | 〃 | －51 | 〃 | 61.5 | 59.0 | 32.0 | 126 | 〃 | 半截 |
| 27 | A－4 | 〃 | －52 | 〃 | 61.0 | 84.5 | 49.0 | 311 | 〃 | 〃 |
| 28 | ABベルト | 〃 | －53 | 〃 | 86.5 | 79.0 | 40.5 | 326 | 石英安山岩 | 〃 |
| 29 | 2住覆土 | 〃 | －54 | | 69.5 | 64.0 | 44.0 | 253 | | 一部欠損 |

第2表　第Ⅰ次調査石器計測一覧表　（2）

（単位mmおよびg）

| 種　別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 30 | 〃 | 凹石 | 図化せず | | 65.5 | 52.0 | 46.0 | 256 | | 破　片 |
| 31 | A－3 | 〃 | 〃 | | 53.0 | 47.0 | 24.5 | 142 | | 一部欠損 |
| 蜂の巣石 1 | A－5 | | 21－54 | 8 | 257.0 | 163.0 | 106.0 | 3.700 | 石英安山岩 | |
| 石皿 1 | B－6 | | －55 | 〃 | 136.0 | 167.0 | 79.0 | 3.700 | ち密石 | |
| 2 | | | 22－56 | 9 | 248.0 | 185.0 | 80.5 | 4.000 | 〃 | 一部欠損 |
| 3 | | | －57 | 〃 | 161.0 | 87.0 | 88.0 | 1.100 | 玄武岩 | 〃 |
| 4 | B－5 | | 図化せず | | 170.5 | 88.0 | 57.5 | 1.400 | | 破　片 |
| 5 | 〃 | | 〃 | | 116.5 | 95.0 | 59.0 | 786 | | 〃 |
| 6 | B－6 | | 〃 | | 176.0 | 68.0 | 58.5 | 833 | | 〃 |
| 7 | | | 〃 | | 169.0 | 122.0 | 52.0 | 1.300 | | 〃 |
| 8 | | | 〃 | | 74.5 | 37.0 | 61.0 | 249 | | 〃 |
| 石錘 1 | 2住 | | 22－58 | 9 | 34.5 | 27.0 | 17.0 | 24 | 黒色頁岩 | |
| 2 | A－5 | | －59 | 〃 | 38.0 | 42.0 | 13.5 | 30 | 砂岩 | |
| 3 | B－4 | | －60 | 〃 | 53.5 | 44.0 | 11.5 | 38 | 〃 | |
| 4 | 〃 | | －61 | 〃 | 73.0 | 55.5 | 18.0 | 120 | | |
| 5 | A | | 図化せず | | 51.5 | 36.5 | 29.0 | 49 | | |
| 円板状石器1 | | | 22－62 | 9 | 67.0 | 59.0 | 14.0 | 85 | 頁岩 | |
| その他の石器1 | A－5 | | －63 | 〃 | 89.0 | 40.0 | 14.0 | 82.0 | | |
| 〃 2 | B | | －14 | 〃 | 132.5 | 41.5 | 37.0 | 366 | | |
| 〃 3 | | | 図化せず | | 60.0 | 24.0 | 16.5 | 21 | 黒曜石 | |
| 4 | 1住床面 | | 〃 | | 43.0 | 20.0 | 14.0 | 10.6 | 赤石 | |
| 5 | | | 〃 | | 49.0 | 29.0 | 9.0 | 13.5 | 黒曜石 | |
| 6 | | | 〃 | | 50.0 | 30.0 | 8.0 | 11.6 | 〃 | |

第3表　第Ⅰ次調査石器計測一覧表　（3）

| 岩石名＼石器名 | | 磨　石 | 凹　石 | 石　錘 | 円板状石器 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 玄武岩 | | 2 | | | | 2 |
| 安山岩 | 長石多輝少 | 1 | 2 | | | 3 |
| | 長石輝石微晶等量 | | 2 | | | 2 |
| 石英安山岩 | | 1 | 1 | | | 2 |
| 砂岩 | 細粒砂岩 | | | 1 | | 1 |
| | アル砂岩・アル粗砂岩 | | | 1 | | 1 |
| 黒色頁岩 | | | | 2 | 1 | 3 |
| 石英閃緑岩 | | | 1 | | | 1 |
| 合　計 | | 4 | 6 | 4 | 1 | 15 |

第4表　第Ⅰ次調査石器石質表

## 3．古墳時代の遺構と遺物

### A、遺構

**第1号住居址**（第23・24図・図版16・17）

位置　調査区域中央やや南側のA・B－2～3グリッド内で発見された住居址である。標高31～31.5m付近にあたる。調査区の最高位に位置している。第2号住居址に重複して検出されたものである。

構造　形状はおそらく長方形を呈するものと思われるが、東西は調査区域外のため不明である。確認された南側のプランは約7mでコーナーは角ばっている。上部は耕作等によって削られていた。壁高は南東側で50cmを測る。南東隅には径1.3×0.9mの浅い楕円形のピットがあり、この中に甕形土器（復元土器・第33図1・図版11、17）が置かれていた。柱穴と思われるものは、ピットの横にあり径40cm弱である。

**第2号住居址**（第23・24図・図版16・18・19）

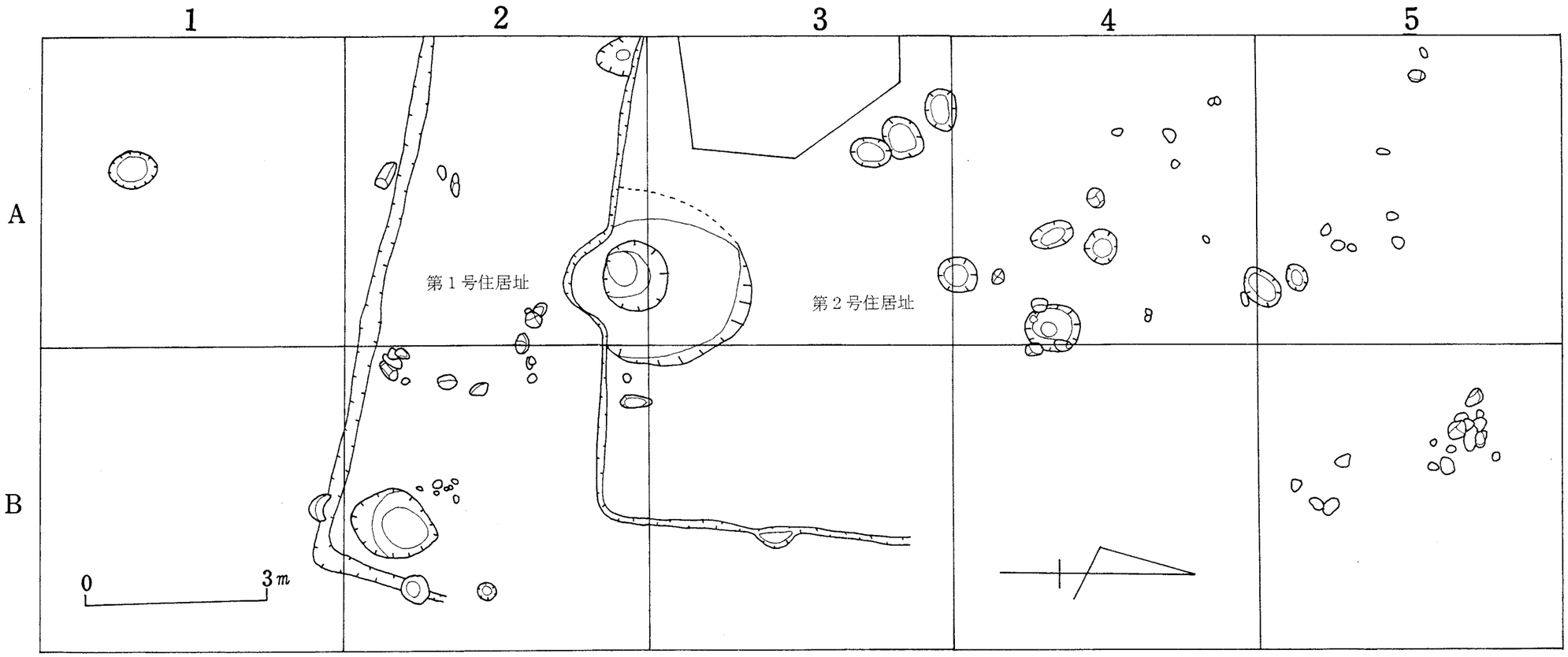
位置　第1号住居址の北側に構築されており、第1号住居址より一段下がっている。プランの短軸は第1号住居址の長軸と平行になっている。

構造　形状は第1号住居址と同様長方形を呈するものと思われる。確認されたプランは、南側6m余、東側4m余である。他の部分については未調査のため不明。壁高は南側付近で35cm前後を測る。上部は耕作等により削土されている。竈は住居址南壁中央やや東寄りに位置している。柱穴は、本住居に伴うと思われるものは確認できなかった。竈は、両袖を消失しているが掘り込みの状態はよく残存していた。この掘り込みは楕円形で長さ130cm、巾90cm、深さ10cmの浅い皿状のもので、内側に粘土を貼ってある。火床面ははっきりとは認められなかったが第Ⅴ層下部がこれになるのかも知れない。また住居北側床面は貼床となっており固くしまっている。

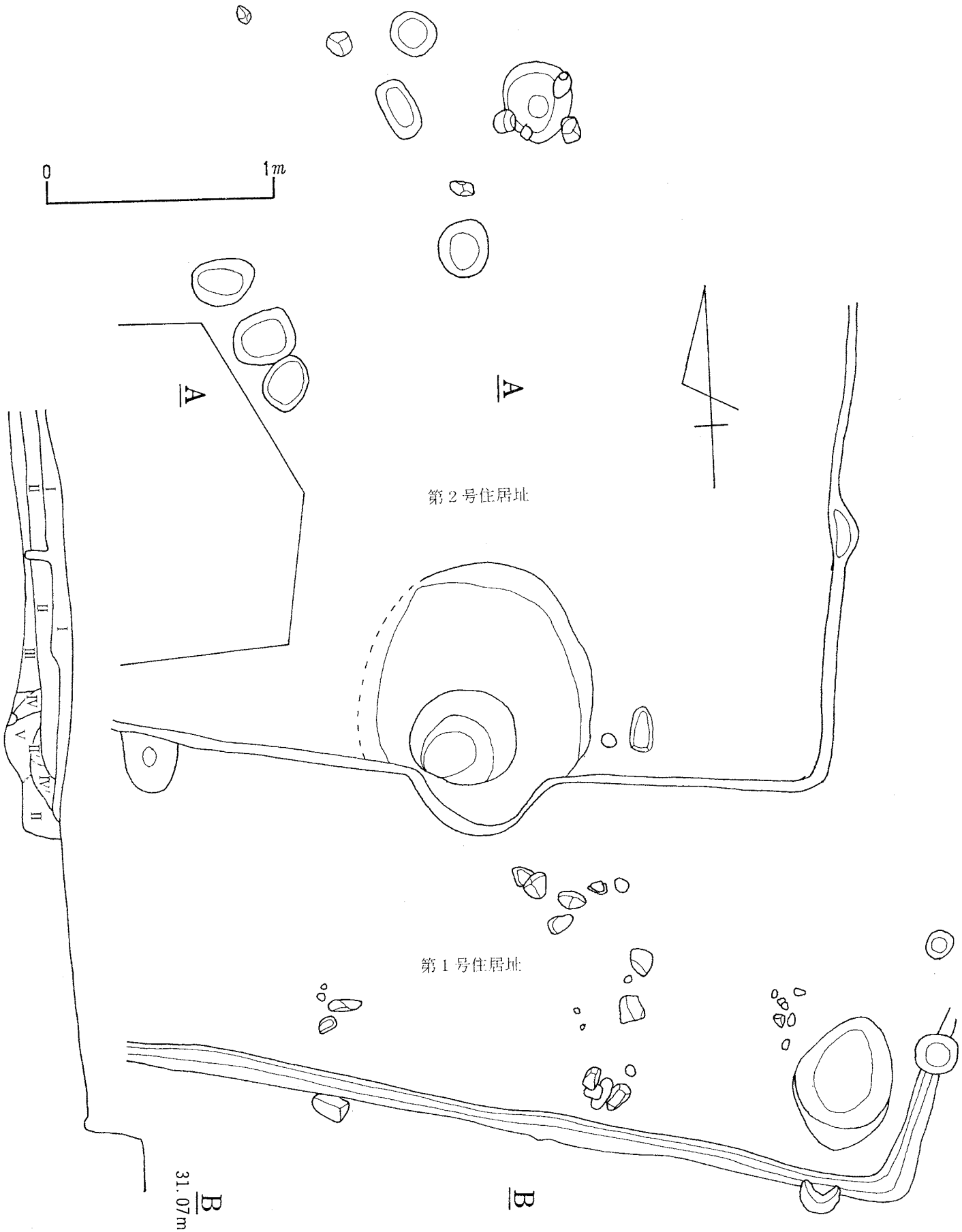
住居及び竈の層序は次のとおりである。第Ⅰ層－耕作土（明褐色土層）。乾くとサラサラしておりしまりがない。第Ⅱ層－暗褐色土層。パーミスを含んでおりしまりがある。縄文土器及び土師器が混在している。第Ⅱ'層－Ⅱ層に近くパーミスが含まれている。第Ⅲ層－褐色土層。しまりがあり、上層に比べるとパーミスの量は少ない。床面上に乗る土である。

竈の層序は第Ⅳ層～第Ⅴ層がこれにあたる。第Ⅳ層－黄褐色土層。第Ⅱ層＋地山が堅くしまっており、この下部には白色シルトを貼ってある。第Ⅳ'層－Ⅳ層に近いが若干暗い感じである。第Ⅴ層－褐色土層。しまりがなくパーミスも含まれない。

遺物は比較的多く残されており、甕・坩・坏・高坏・台付甕・手捏土器など多器種にわたっている。いずれも床面に散乱したような状態で検出されている。時期としては中期の和泉式に併行するものであろう。本住居址は第1号住居址を切り込んで構築しており、従って本住居址の方が新しい。また、住居址中央付近において、竈が検出されたが、攪乱が激しく切り合い関係が不明であるため、新たな住居址とするには難があるため写真撮影にとどめてしまった。




第23図　　第Ⅰ次調査 遺構関連実測図




第24図　　第Ⅰ次調査第１・２号住居址実測図

第25図　第１・２号住居址（北西方より）

## B、出土遺物

**土師器と須恵器**（第26～34図・図版11・15・17）

第Ⅰ次調査によって出土した古墳時代の遺物は土師器と須恵器に分けられる。甕・坩・坏・高坏・台付甕・手捏土器であり、調査区全体から見つかっているが、ここでは第1号・第2号住居址出土のものについて説明してゆく。

**第1号住居址出土の土器**（第26図、第33図1～4）

第1号住居址からの出土は図で見るように極めて少ない。しかし、住居址東南隅のピットからはやや大きい甕が出土（図版11・17）している。

**甕形土器**（第26図1～11・第33図1～3）

第26図1は、口縁が外側に折り返されて凸帯を呈するもので強く外反している。折り返された口縁部の口唇及び外面はナデ整形が施され、内面は丁寧に磨かれている。4は、口縁が外反しており斜位のハケ目を施した後に口縁上端部については横位のナデを行っている。また内面は横位のハケ目が施されている。7・8は、口唇外縁に刻み目を有するもので、棒状工具により付けられている。器形全体を知り得ないが、おそらく甕形土器の口縁部であろうと思われる。外面は斜位のハケ目、内面は横位のハケ目が施されている。7は拓影図からは判断できないが、ハケによって刻み目が付けられている。小型の甕形土器であろうと思われる。外面はナデ整形が行われ、内面は横位のハケ目が施されている。第33図1は、口縁部が短く緩やかに外反しており、折り返しはなく口唇は面取りされている。胴部は球状を呈している。外面は斜行する粗いハケ目、内面は横位のハケ目が施されている。口径は18.5cm、胴径33.7cm、器高（現存部）28.2cmを測る。

**坏形土器**（第26図12・13）

第26図12は、底部よりゆるやかに内彎して開き、口縁部が立っている。器面内外ともナデ整形が施されている。13は小型で口縁が強く内彎している。外面は斜位のハケ目の後ナデが施され、内面は横位のハケ目が施されている。

**高坏形土器**（第26図14、第33図4）

高坏形土器は2点出土している。第26図14は坏部と口縁部との境に稜を有しないもので、下部はやや膨らみを持っている。口唇はやや外反している。器面内外にハケ目が施されている。第33図4は、脚部が大きく広がっている。外面は縦位のハケ目、内面は横位及び斜位のハケ目が施されている。

**台付甕形土器**（第26図15）

台付甕形土器の台部である。大きく開いてやや内彎している。上部はなくその器形全体を知り得ないが、かなり大きい台付甕になるものと思われる。外面は縦位及び斜位のハケ目、内面は横位のハケ目が施されている。また、台部上部はヘラによって調整が行われている。

第1号住居址からは以上のような土器が出土しているが、その特徴からおそらく古墳時代中期の和泉式に属するものと思われる。

**第2号住居址出土の土器**（第27～29図、第33図5～18、第34図19～46）

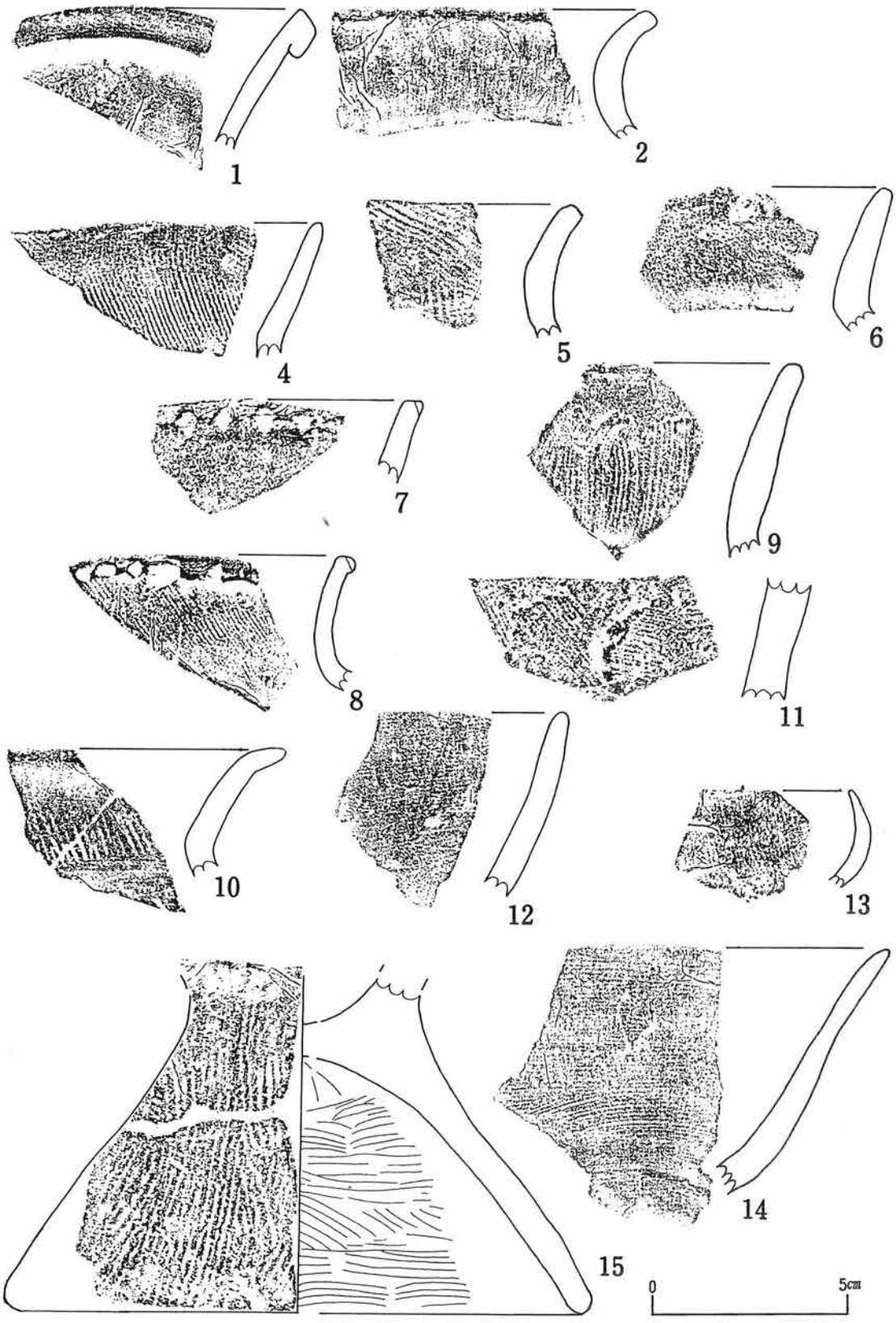
第2号住居址からはわりあい多くの遺物が出土している。第28図22及び第34図46はやや時期を異にするが、これについてはその他の土器の所で述べる。

**甕形土器**（第27図1～22）

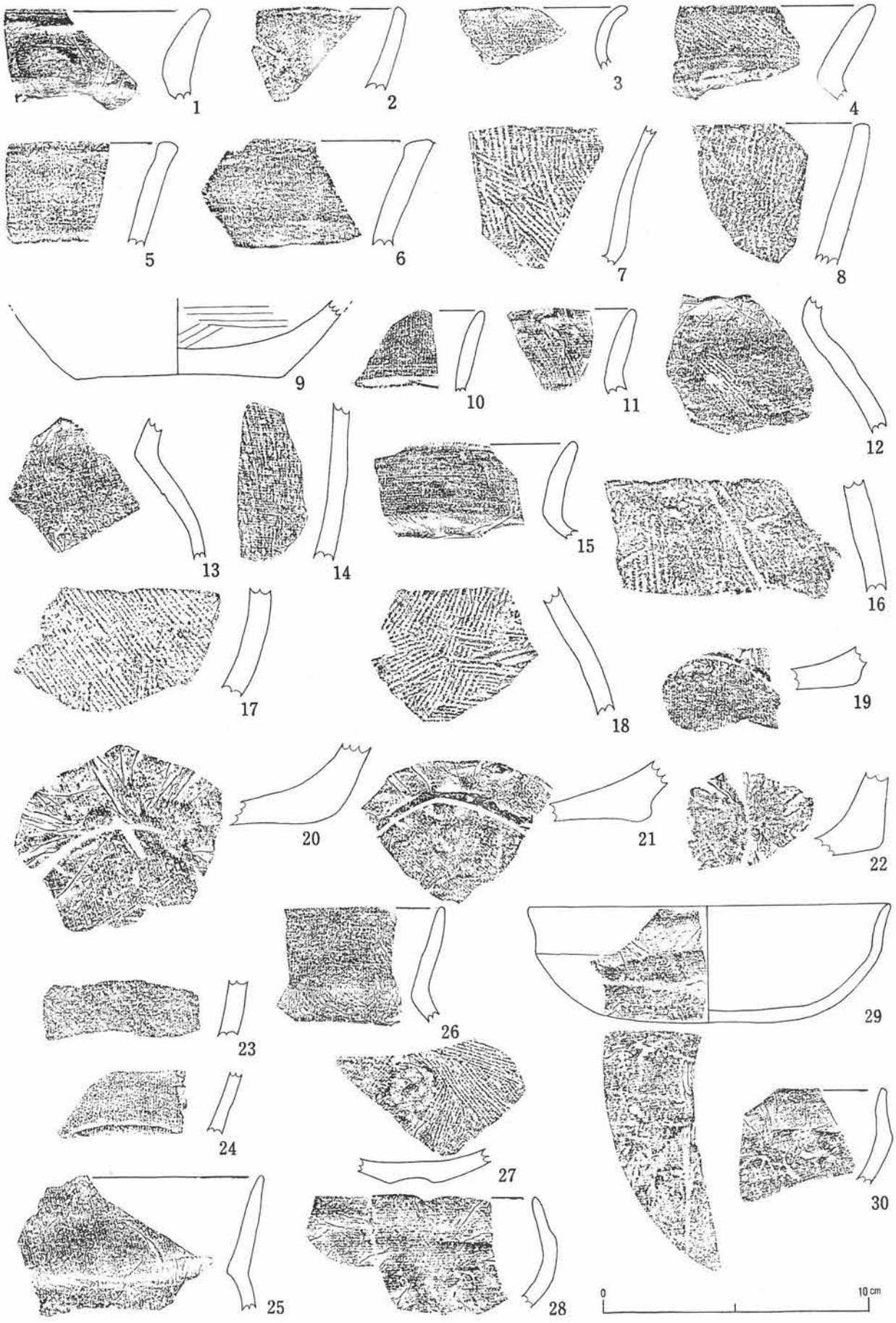
第27図1は、短い口縁がかなり外反しており、器面内外は横位のハケ目が施されている。口唇の外面直下はこのナデ整形によりわずかな隆起帯を呈している。2は、ほぼ直行する口縁であるが上端近くでやや内彎している。外面は斜位及び横位ハケ目を施した後上端部付近にナデ整形を行っている。内面は横位及び斜位のハケ目が施されている。4は、口縁がかなり大きく外反しており頸部も強く縊れている。外面は斜位のハケ目を施した後に横位のナデ整形を行っている。また頸部にはハケの先端によって刺突が付けられている。内面は横位のハケ目が施されている。9は、甕形土器の底部破片であり木の葉圧痕を有する。底径は7.7cm前後を測る。胴部にかけては緩やかに立ち上がっている。外面はヘラによる縦位のナデ整形が行われており、内面は横位及び斜位のハケ目が施されている。また内面中心部付近はナデ整形が見られる。12は、口縁を欠いており、頸部下の破片である。外面は斜位のハケ目が簡単に付けられた後にヘラ磨きが行われている。内面は横位のハケ目を施した後にやはりヘラ磨きを行っている。

**坩形土器**（第27図25～27、第28図4、第33図9～12）

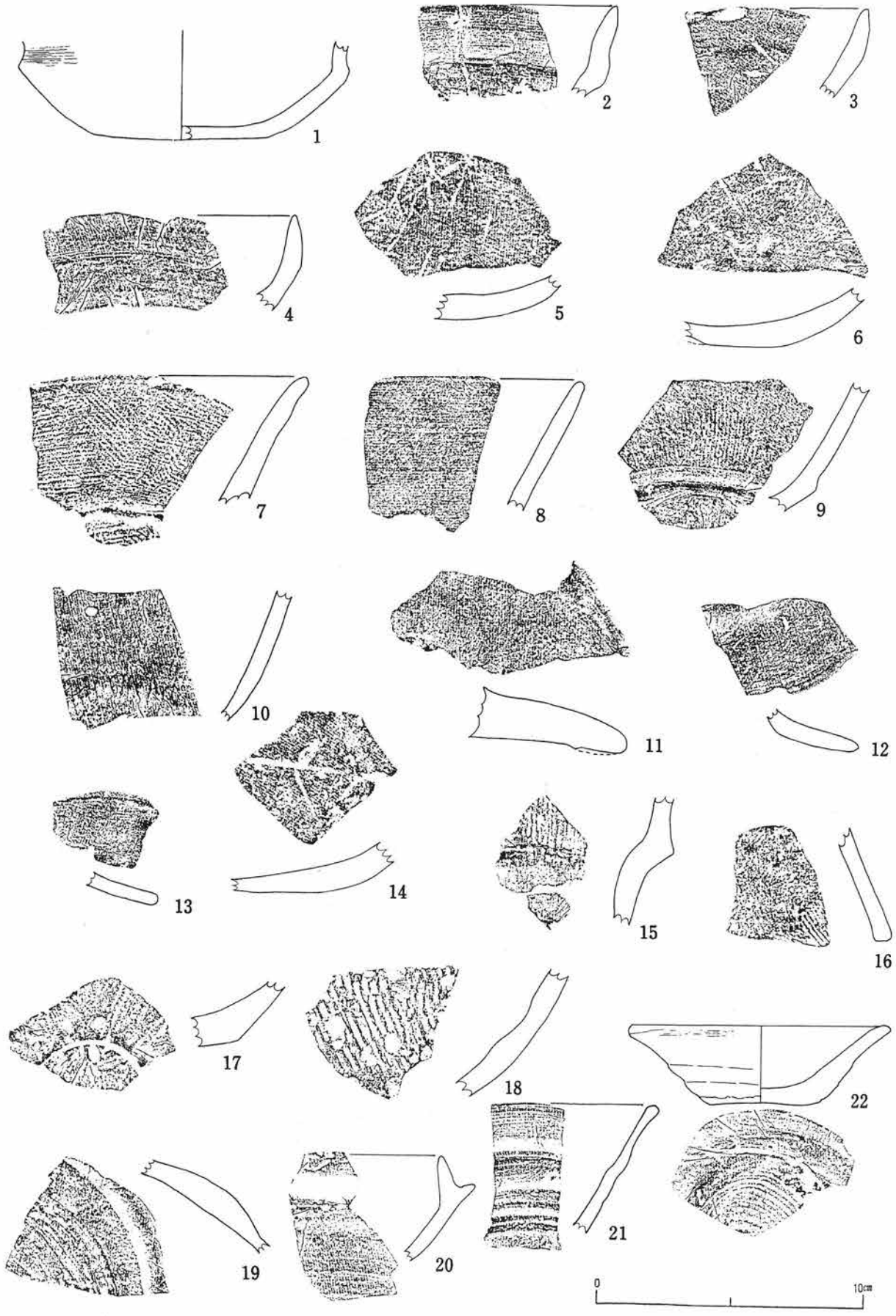
坩形土器は比較的小型のものが出土している。第27図25は、上端部がわずかに口縁部としての証拠を留めており、また頸部の形状から坩形土器と判断した。口縁部はやや内彎して開くが口唇部で外反する。器面内外とも横位のナデ整形が施されている。口縁部と胴部の接合痕が顕著に残されている。26は、口縁がやや内彎している。外面頸部にわずかに斜位のハケ目が施されているが、口縁全体は横位のナデ整形が行われている。内面は横位及び斜位のハケ目が施されている。第33図9は、口縁部がやや内彎して開き、胴部最大径より口径のほうが大きい。底部は丸底で凹みを有する。器面内外とも横位のナデが施されており、口縁部ではこれが斜行している。下部にはヘラ削りが見られる。10は、口縁部の大部分を欠損している。胴部は丸く張り出している。底部は上底風で凹みを有する。器面内外はナデによる整形が行われている。また外面の一部にはヘラ削りも見られる。さらに胴部内面の下半から底部にかけては指頭による整形痕が残されている。11は、口縁部があまり広がらずに立ち、ゆるやかに外反している。胴部中央付近は張っている。底部はわずかな凹みを有する。口縁部は巾2.5cm～2.8cmの粘土を使用して接合してあるが、十分な接合がなされていない。また指頭圧痕が顕著に残されており、いわゆる「手捏土器」風である。口縁部は横位のナデが施され、胴部は縦位のナデが施されている。内面は口縁部が横位のナデで、以下はヘラ削りが行われている。12は、口縁部が内彎気味に大きく開き、口径と胴部の径はほぼ等しく、胴部の中央が張っている。底部は平底である。外面は横位及び斜位のナデが施されている。胴部はヘラ削りが行われている。また口縁部内面は横位のナデが施されている。



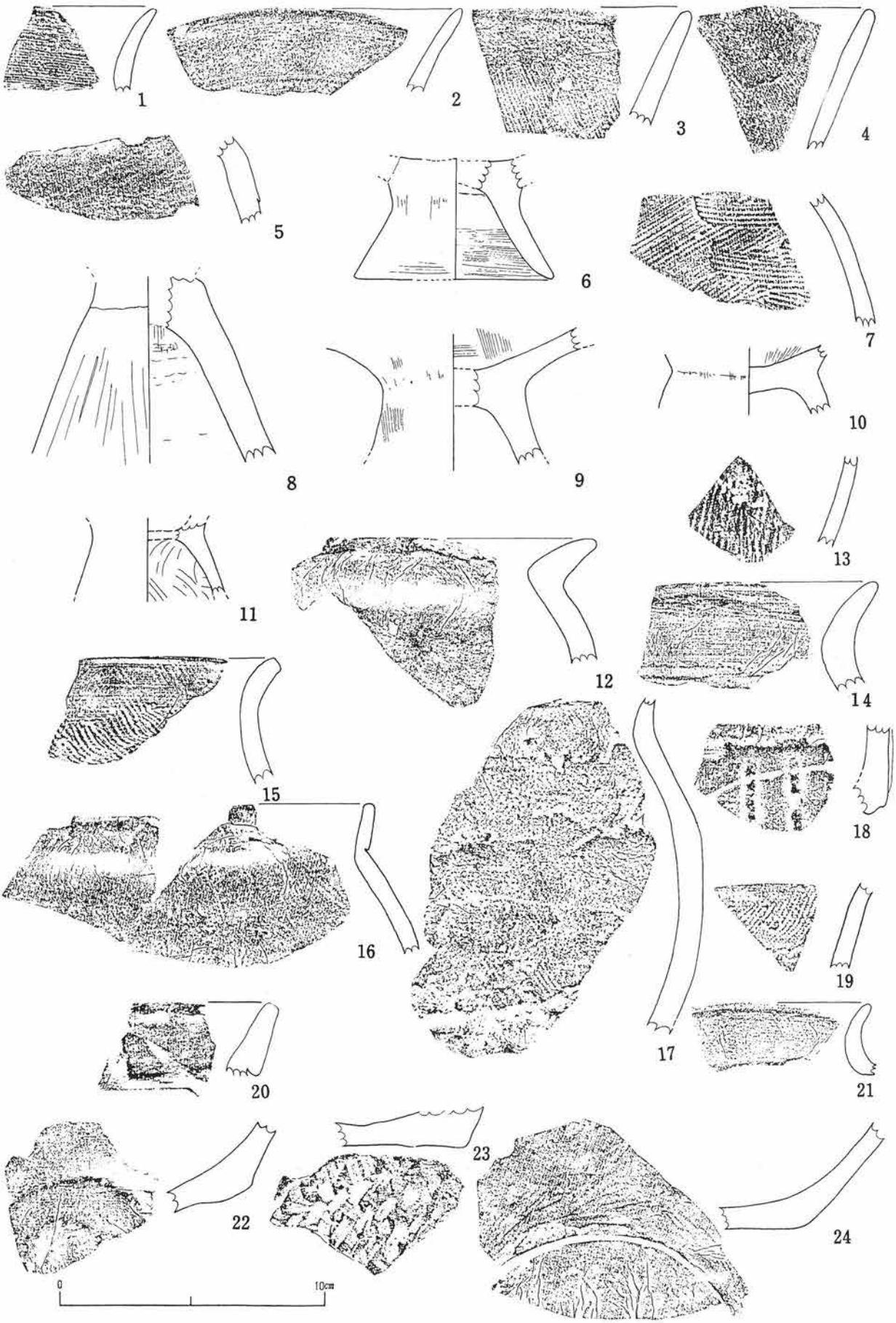

第26図　第Ⅰ次調査 出土土器拓影（1）



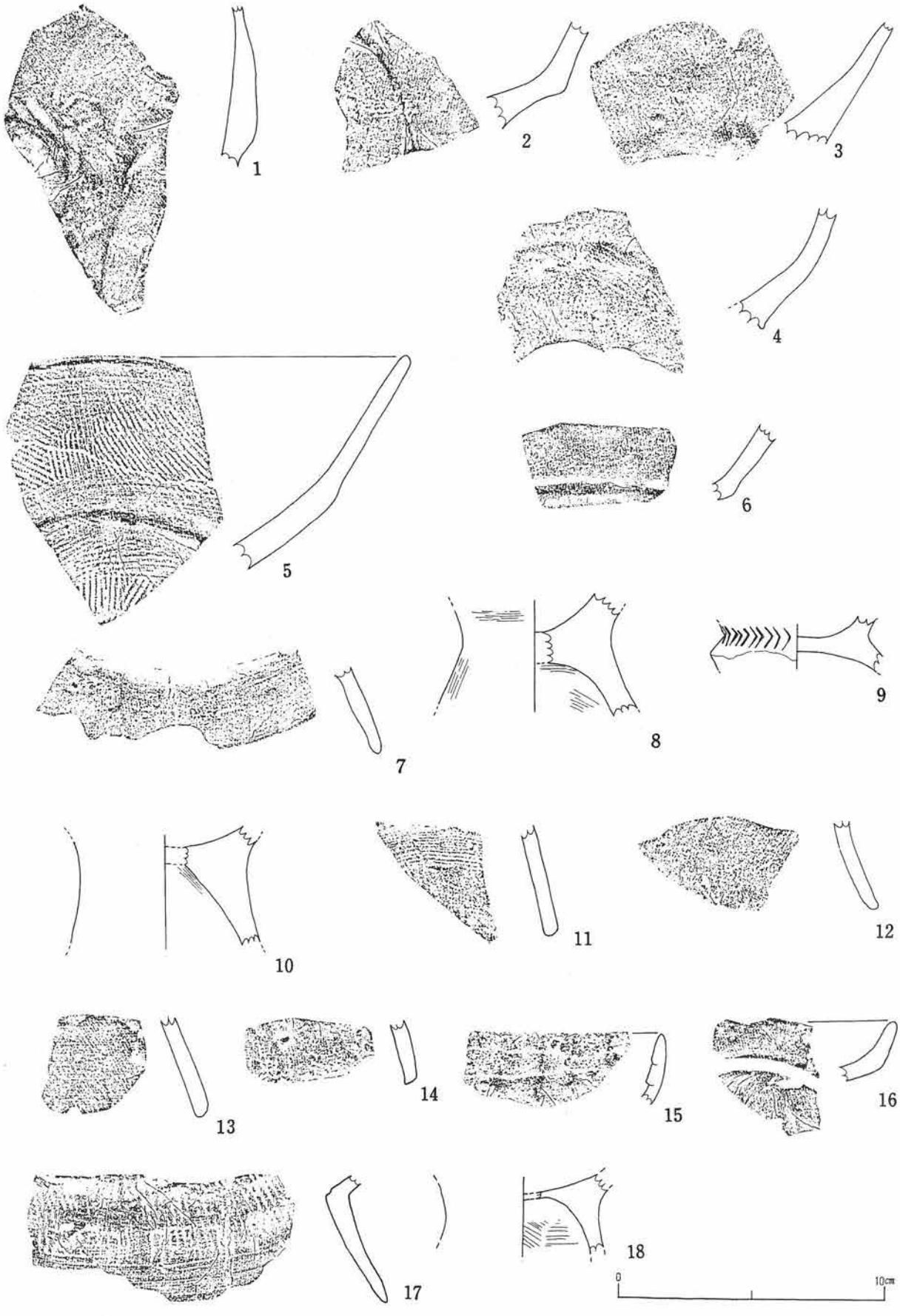

第27図　第Ⅰ次調査出土土器拓影（２）



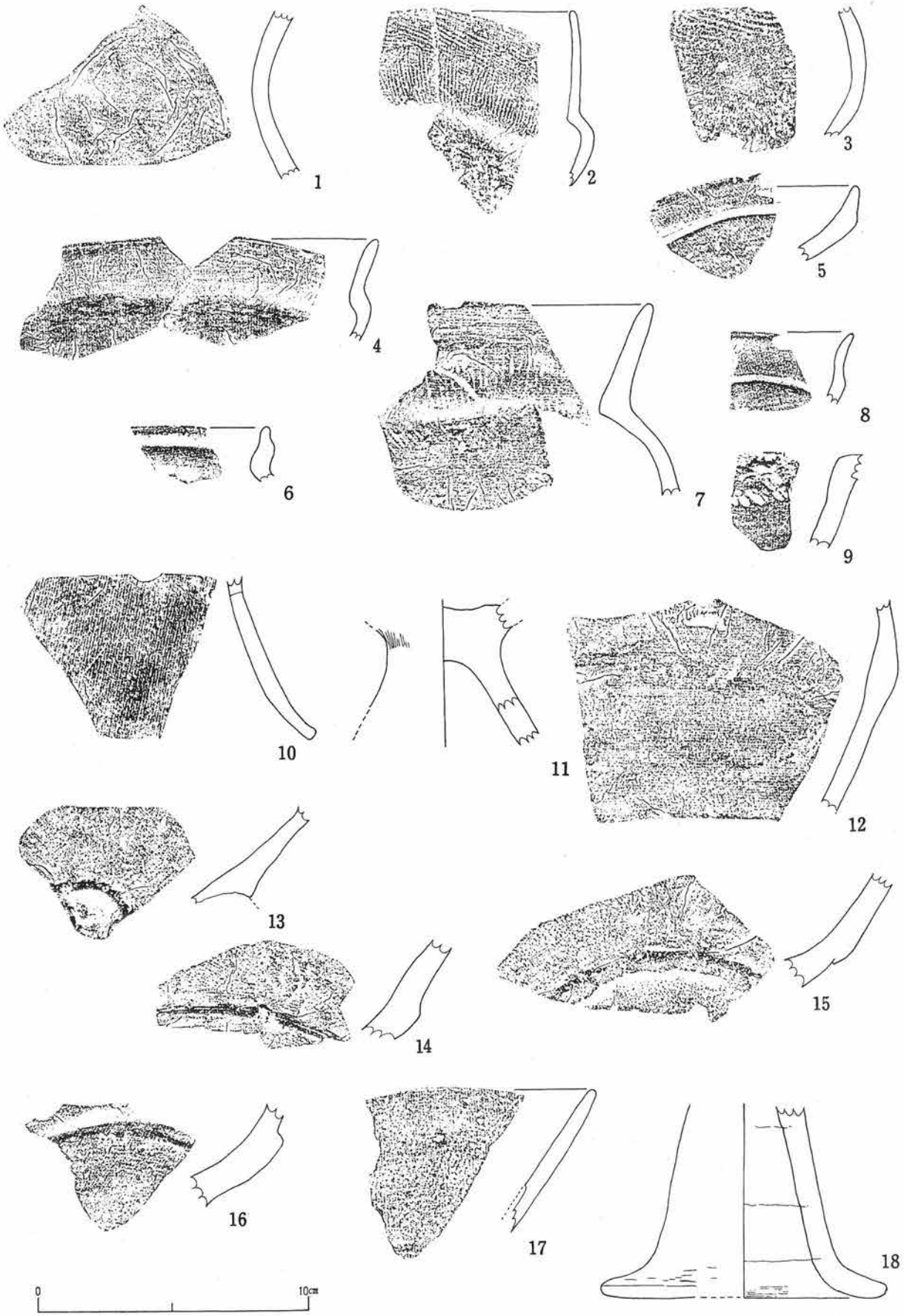

第28図　第Ⅰ次調査出土土器拓影（３）



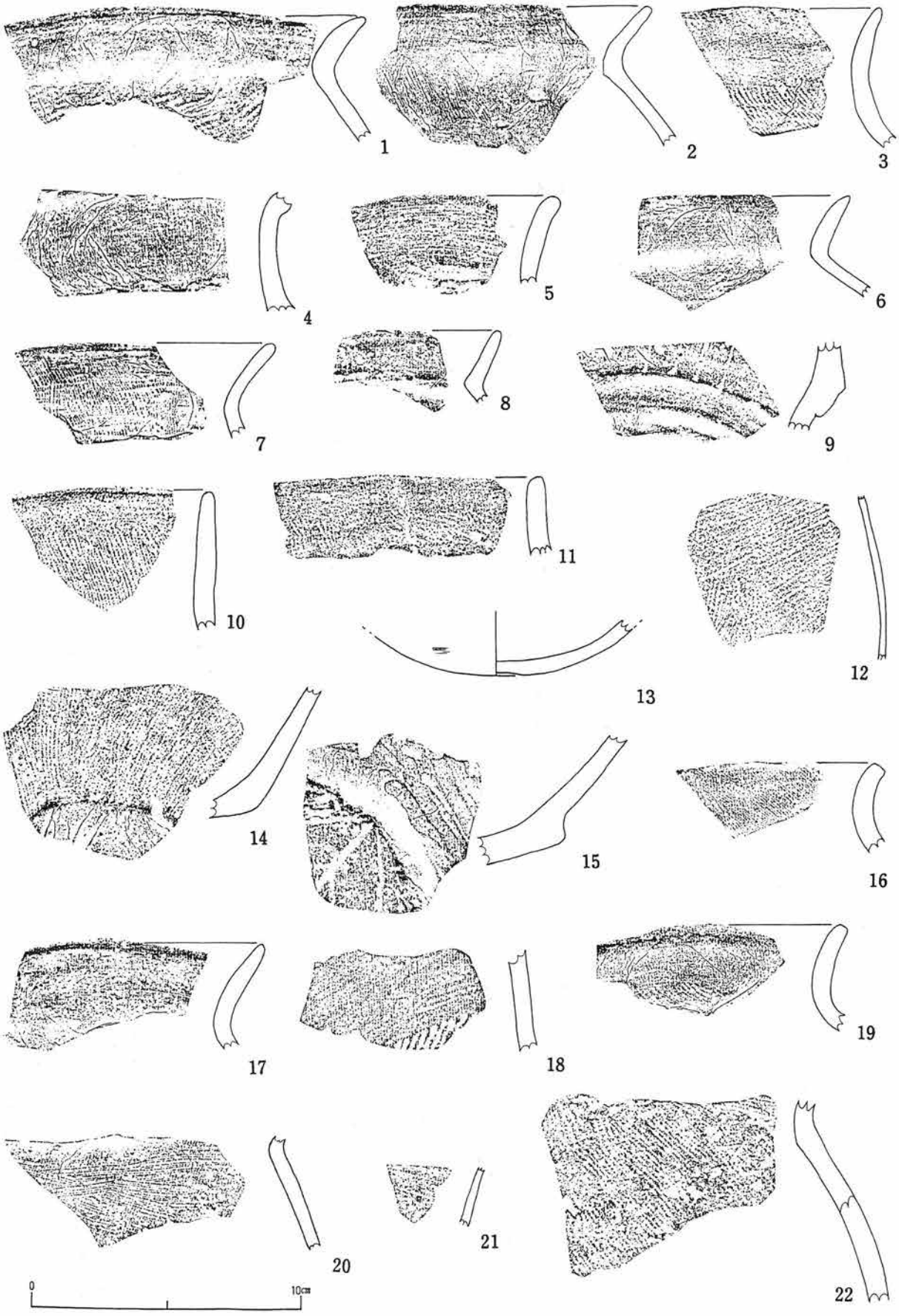

第29図　第Ⅰ次調査出土土器拓影（４）



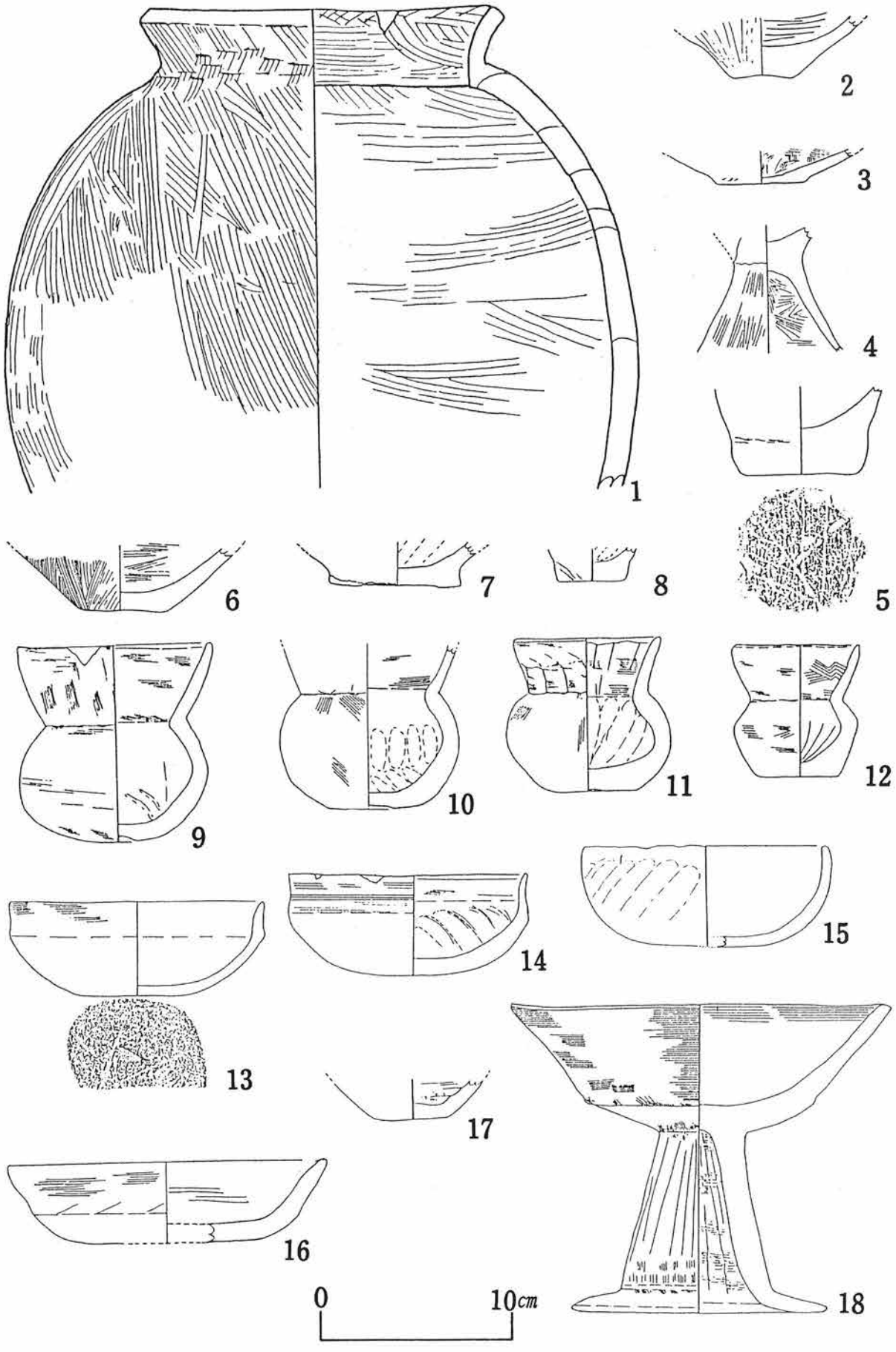

第30図　第Ⅰ次調査出土土器拓影 (5)



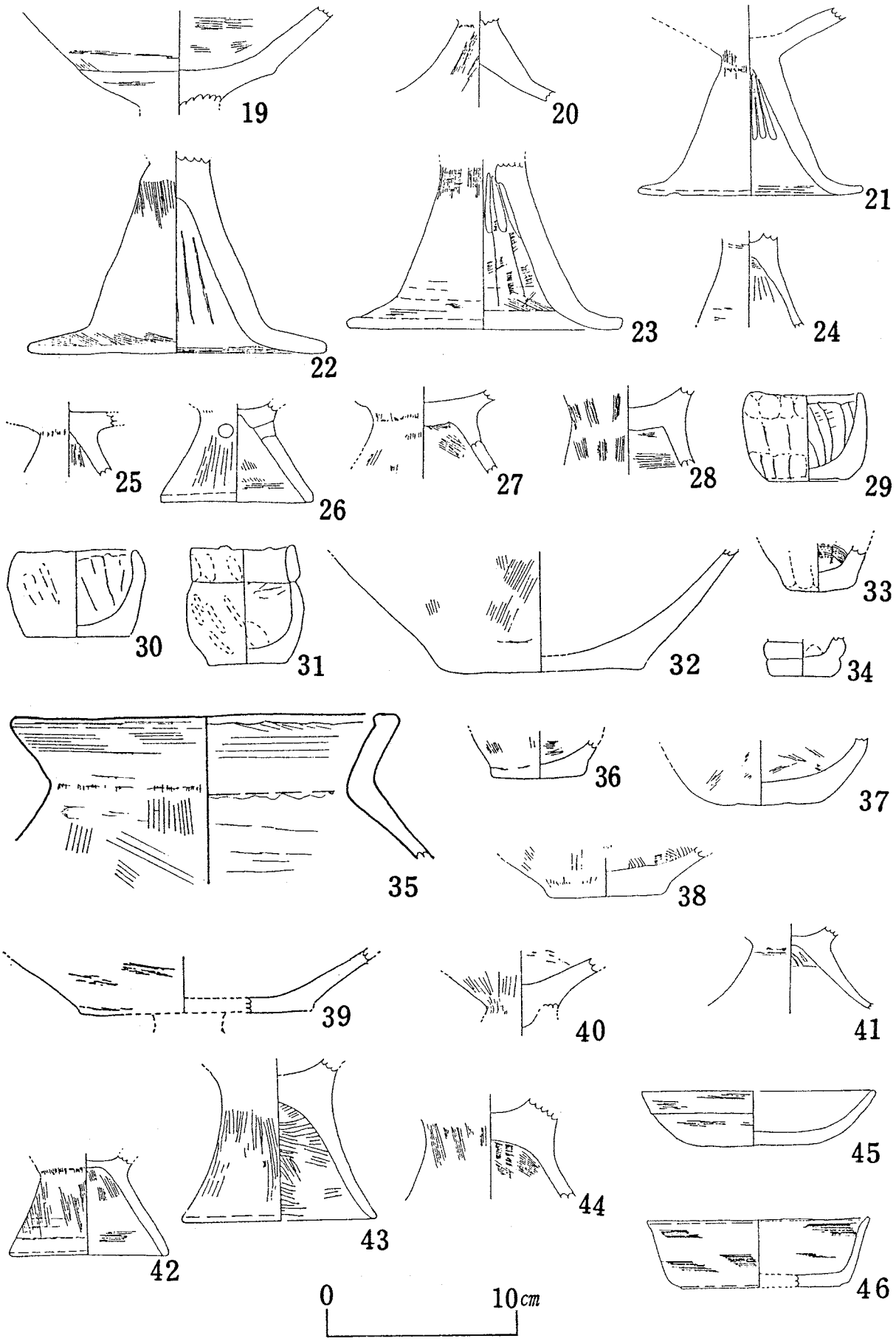

第31図　第Ⅰ次調査 出土土器拓影（６）




第32図　第Ⅰ次調査出土土器拓影（７）




第33図　第Ⅰ次調査出土土器実測図（1）




第34図　第Ⅰ次調査出土土器実測図（２）

**坏形土器**（第27図28～30、第28図1～6･18･19、第33図13～16）

第27図28～30は、その胎土及び形状から同一個体であろうと思われる。底部から緩やかに立ち上がるが口縁において外反している。口縁の中位やや上に若干の稜を有している。器面内外ともナデによる整形が施されている。底部には木の葉圧痕が残されている。第28図1は、摩滅が激しいが口縁下部に横位のナデが施され、その他器面内外に横位及び斜位のナデ整形が施されている。口縁下部に稜を有している。4は、底部から強く内彎しており口唇は直行する。器面内外に横位のナデ整形が施されている。18・19（須恵器）は、蓋坏及び坏身である。18は蓋坏であり、偏平な天井となっており、口縁端部は段を有する。上面及び内面には回転カキ目が施されている。19は立ち上がりが内傾した後外反している。受部は水平よりやや上向きに引き出されており、回転カキ目が施されている。第33図13は、口縁がやや外反しており稜を有する。底部は丸底に近い平底になっている。風化が激しく摩滅しているが、口縁部には横位のナデが見られ、底部には木の葉圧痕が残されている。14は、口縁がやや外反しており若干の稜を有する。器面内外に口縁部は横位にナデが施され、内外下半部にはヘラ削りが施されている。底部は丸底に近く木の葉圧痕が見られる。15は、底部から口縁にかけて内彎している。底部は丸底に近い平底である。器面全体が摩滅しているが、口縁部に若干横位のナデや指頭圧痕が残されている。底部には、木の葉圧痕が見られる。16は、口縁が外傾し若干の稜を有する。器面内外に横位のナデが施されており、底部は平底になっている。17は、口縁のほとんどが欠損しており形状は不明であるが、やや外傾するものと思われる。底部は平底を呈している。器面内外にヘラによるナデ整形が施されている。坏形土器とするにはやや難がある。

**高坏形土器**（第28図7～14、第33図18、第34図19～25）

第28図8は、口縁部外面に横位のハケ目を施した後に斜位のハケ目、さらにナデによって整形している。内面は横位のハケ目の後ナデ整形を施している。9は、高坏の裾部破片である。脚部接合部が残り高坏それと分かる。器面内外はヘラ削りが施されている。第33図18は、唯一の復元土器である。坏部の口縁と底との境に稜を有し、脚部は下半部がやや張っており裾は強く屈曲して開いている。器外面は口縁と裾部が横位のナデ、脚部はハケ目の後ヘラ磨きを施してある。坏部及び裾部の内面は横位のナデ、胴部はヘラ削りが施されている。口径19.2cm、底径12.7cm、器高15.6cmを測る。第34図19は、坏部の破片で坏部の口縁と底との境に稜を有する。脚台の先端を差し込む穴が坏部底にあけられた痕跡が認められる。器外面はヘラ削り及び縦位のハケ目が施されており、内面は横位・斜位のハケ目が施されている。20は、小型の高坏で脚裾部は大きく広がるが径は小さい。器面内外ともヘラ削りが行われている。 21は、脚部が円錐形に開き緩やかに屈曲しており、裾部末端は2mm強の縁取りが行われている。坏部は一部残存するのみであるが、その立ち上がりは緩やかなようである。器外面はヘラ磨き、裾部は横位のナデが施されている。脚部内面はヘラ削りによって整形されている。22は、脚部が円錐形に開き、裾は屈曲して水平に近く大きく広がっている。胴部はやや張っている。外面接合部付近は縦位のハケ目を施し、後に全体をヘラ磨きしている。また内面はヘラ削りの後横位のハケ目

を施している。23は、脚部が円錐形で太くなっており、上部中央が穿孔されている。裾部は屈曲して水平に近く広がっている。外面の接合部は縦位のハケ目、裾部に横位のハケ目が施され、後に全体にヘラ磨きを行っている。内面はヘラ削りの後横位のハケ目を施してある。24は、脚部中央のみであるが小型の高坏と思われる。外面はヘラ磨き、内面はヘラ削りが施されている。17は、坏部底の破片である。脚部接合部の突起が見られる。外面は斜位及び縦位のハケ目、内面はヘラ整形が行われている。25は、小型の高坏脚部と思われる。風化が激しく整形痕等は不明である。

**台付甕形土器**（第34図27・28）

27は、かなり外傾して開いている。外面接合部近くに斜位のハケ目が、また内面はヘラ削りの後横位のハケ目が施されている。28は、台部がかなり外傾して大きく開いている。外面は斜位のハケ目、内面は横位のハケ目がそれぞれ施されている。

**手捏土器**（第34図29～31）

鉢型（29・30）及び壺型（31）の手捏土器である。29は、完形品であり平底を呈する。全体がわずかに内彎しており、口縁で強く内彎する。外面はヘラおよび指頭によって整形し、内面はヘラ削りが見られる。また口唇近くは指頭痕が顕著に認められる。底部には若干凹みがあり上底風になっている。口径6.1cm、底径4.4cm、器高4.6cmを測る。30は、ゆるやかに立ち上がっているが、口縁でかなり強く内彎しており、平底を呈する。外面はほとんど指頭で整形し、若干ヘラを使用している。内面はヘラ削り及び指頭整形が施されている。29と同様に口唇部は粘土を雑に折り返してある。口径約7.2cm、底径約5.3cm、器高4.4cmを測る。31は、壺型を呈する土器である。口縁は垂直に立ち上がり、胴部はわずかに張っている。平底を呈する。器面内外とも指頭整形され、内面の口縁部のみヘラナデが施されている。

**その他の土器**（第28図21・22、第34図45・46）

本住居址の遺物中に、平安時代の所産と思われる土師器（坏）が4点確認されている。第28図21は、底部から直線的に弱く立ち上がっており、口縁部でやや外反している。器面内外にロクロ整形の痕跡が明瞭に残されている。薄手である。22は、凹面な底部より外傾して開き立ち上がっている。ロクロ整形が行われており、底部は回転糸切りの後ヘラ削りが行われている。第34図45は、底部より緩かに立ち上がり、口縁部で直線的になっている。ロクロ整形された後、底部は回転糸切りを行い、さらにヘラによる整形を行っている。また内面にはナデ整形が行われている。46は、やや凹面な底部より直線的に立ち上がっており、口縁端部で外反している。ロクロ整形を行った後、ヘラ磨きが行われている。また、底部には若干の溝が付けられているが、高台と呼ぶにはあまりにも浅くしかも低い、これらはその器形から平安時代と思われるが、第28図22については、あるいはもっと時期が降るのかも知れない。

| 遺物番号<br>(図版NO) | 器種<br>器形 | 法量<br>(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 色調<br>胎土・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第33図 1<br>(11) | 土師器<br>甕 | 口径18.5<br>胴径33.7<br>器高28.2<br>(現) | 口縁部は短くゆるやかに外反し、口唇は面取りされる。<br>胴部は球状を呈す。 | 外面は粗い斜行するハケ目<br>内面は横位のハケ目 | 明褐色<br>小礫及び砂粒・淡黄褐色粒<br>焼成は良く堅緻 | 第1号住居址 |
| 第33図 2 | 土師器<br>底部 | 底径 3.5 | 平底で内彎ぎみに大きく開く。上底である。 | 外面縦位のヘラミガキ<br>内面粗い横位ハケ目 | 明赤褐色<br>細砂<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第33図 3 | 土師器<br>底部 | | 平底で大きく外傾し広がる。 | 外面ヘラナデ<br>内面横位と斜位のハケ目 | 淡褐色<br>細砂<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第33図 4 | 土師器<br>高坏 | 脚接合部<br>最小径<br>3.9 | 脚部は外傾して開く。 | 外面縦位のハケ目<br>内面横位斜位のハケ目 | 淡赤褐色<br>細砂<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第33図 5 | 土師器<br>底部 | 底径 6.2 | 垂直に近く立ち上がりゆるやかに広がって行く。 | 木の葉圧痕を有する。 | 灰褐色<br>細砂<br>焼成は良く堅緻 | 第2号住居址 |
| 第33図 6 | 土師器<br>底部 | 底径 3.8 | 平底で内彎ぎみに大きく開く。<br>上底である。 | 外面斜行するハケ目が底部まで及ぶ。<br>内面は横位のハケ目 | 赤褐色<br>小礫及び砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第33図 7 | 土師器<br>底部 | | 平底で大きく外傾し広がる。 | 内面はヘラ及び指頭で整形されている。 | 暗赤褐色<br>小礫及び砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第33図 8 | 土師器<br>底部 | 底径 3.5 | 小形土器の平底の底部。 | 内面にヘラ痕が見られる。 | 褐色<br>淡黄褐色粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第33図 9<br>(11) | 土師器<br>坩 | 口径 9.8<br>胴径 9.3<br>底径 2.2<br>器高 9.9 | 口縁部はやや内彎して開き、胴部の最大径より口径が大きく底は丸底で凹みを有する。 | 内外面とも横ナデされ、外面の口縁部は斜行する。<br>下部はヘラ削りが見られる | 褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第33図 10<br>(11) | 土師器<br>坩 | 胴径 8.9<br>底径 4.1<br>器高 8.3<br>(現) | 口縁部は大半を欠損しており、胴部は丸く張り出している。底部は、上底となっている。 | 器面内外は、ナデによる整形が行われている。外面の一部にはヘラ削りも見られる。また内面胴部の下半から底部にかけては指頭による整形痕が残されている。 | 淡褐色<br>淡黄褐色粒及び細砂<br>焼成は良好 | 〃 |

第5表　第Ⅰ次調査土師器観察表

| 遺物番号（図版NO） | 器種 器形 | 法量 | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 色調 胎土・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第33図 11 (11) | 土師器 坩 | 口径 7.4<br>胴径 8.2<br>底径 4.2<br>器高 7.6 | 口縁部はあまり広がらずに立ちゆるやかに外反し、胴部中央近くが張る。底部はわずかな凹みを有する。 | 外面口縁部は指頭で整形の後横ナデ<br>胴部は縦位のナデ<br>内面はヘラ削り、口縁部だけ横ナデ | 黒褐色<br>細砂<br>焼成はあまり良くない | 第2号住居址 |
| 第33図 12 (12) | 土師器 坩 | 口径 6.6<br>胴径 6.7<br>底径 4.5<br>器高 6.6 | 口縁部は内彎気味に大きく開き胴部の径と口径はほぼ等しく、胴部の中央が張る。<br>平底である。 | 外面横位と斜行するナデ<br>内面の口縁部は横位のナデ<br>胴部はヘラ削り | 暗赤褐色<br>淡黄褐色粒<br>焼成は良くない | 〃 |
| 第33図 13 (12) | 土師器 坏 | 口径12.6<br>底径 4.9<br>器高 4.9 | 丸底の底部から弱い稜を有し、やや外反する。 | 風化が激しく摩滅しているが、口縁部には横ナデが見られ、底部には木の葉圧痕 | 淡赤褐色<br>小礫及び砂粒<br>焼成はわりあい良い | 〃 |
| 第33図 14 (12) | 土師器 坏 | 口径12.2<br>底径 3.5<br>器高 4.7 | 丸底の底部から内彎しながら立ち上がり弱い稜をなし、口縁中央で外反する。 | 内外面ともに口縁部に横ナデ<br>内面にヘラナデ、底部に木の葉圧痕 | 淡橙褐色<br>小礫及び細砂<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第33図 15 (12) | 土師器 坏 | 器高 5.2 | 丸底の底部から内彎しながら広がり口縁にいたる。 | 全体に摩滅しており整形痕は不明であるが、底部には木の葉圧痕 | 淡褐色<br>細砂<br>焼成は良く堅緻 | 〃 |
| 第33図 16 | 土師器 坏 | | 底部から緩やかに内彎して開き、底部と口縁の境に弱い稜を持つ。 | 内外面ともに横ナデ | 明褐色<br>細砂<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第33図 17 | 土師器 坏 | 底径 3.5 | 底部から内彎して大きく開く。 | 内外面ともヘラナデ | 褐色<br>淡黄褐色粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第33図 18 (12) | 土師器 高坏 | 口径19.2<br>底径12.7<br>器高15.6 | 坏部の底に稜をもち口縁に向けて外傾する。脚部は円筒形に近く、強く屈折して水平に近く裾が広がる。 | 外面口縁と裾部は横位のナデ、脚部はハケ目の後ヘラミガキ<br>内面坏部裾部は横ナデ脚部はヘラ削り、風化が激しい。 | 褐色<br>小礫及び砂粒<br>淡黄褐色<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図 19 | 土師器 高坏 | | 坏部の破片で底部と口縁部の境に稜をもち脚台先端に差し込む穴が坏底部にあけられた痕跡が残る。 | | 明赤褐色<br>細砂<br>焼成は良く堅緻 | 〃 |
| 第34図 20 | 土師器 高坏 脚部 | 脚接合部最小径 2.3 | 脚先端の径は小さく外反して大きく開き小形である。 | 内外面ともヘラ削り | 淡橙褐色<br>細砂<br>焼成は良好 | 〃 |

| 遺物番号<br>(図版NO) | 器種<br>器形 | 法　量 | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 色調<br>胎土・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第34図　21<br>(12) | 土師器<br>高坏 | 脚接合部<br>最小径<br>3.4 | 脚部は円錐形に開き緩やかに屈折して水平近くに裾が広がる。<br>坏部は底部が一部残存するのみで他は欠損している。 | 内外面ともに裾部に横ナデ<br>外面はヘラミガキ<br>内面脚部はヘラ削りで整形 | 暗赤褐色<br>小礫及び淡黄褐色<br>焼成は良好 | 第2号<br>住居址 |
| 第34図　22<br>(12) | 土師器<br>高坏<br>脚部 | 脚接合部<br>最小径<br>3.8 | 脚部は円錐形に開き、裾は屈折して水平に近く大きく広がる。 | 外面接合部近くは縦位のハケ目、裾に横位のハケ目後に全体をヘラミガキ<br>内面ヘラ削りの後横位のハケ目 | 橙褐色<br>細砂<br>焼成は良く堅緻 | 〃 |
| 第34図　23<br>(12) | 土師器<br>高坏<br>脚部 | 脚接合部<br>最小径<br>4.6 | 脚部は太く円錐形に近く、裾は屈折して水平に近く広がる。 | 外面接合部近くは縦位のハケ目、裾部に横位のハケ目後に全体をヘラミガキ<br>内面ヘラ削りの後横位のハケ目 | 赤褐色<br>細砂<br>焼成はわりあい良い | 〃 |
| 第34図　24 | 土師器<br>高坏<br>脚部 | 脚接合部<br>最小径<br>2.8 | 小形の高坏と思われる。 | 外面ヘラミガキ<br>内面ヘラ削り | 明褐色<br>淡黄褐色粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図　25 | 土師器<br>高坏<br>脚部 | 脚接合部<br>最小径<br>3.0 | 小形の高坏の脚部と思われる。 | 風化が激しく整形痕は不明 | 淡赤褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図　26<br>(12) | 土師器<br>高坏<br>脚部 | 脚接合部<br>最小径<br>3.4 | 外傾して開き開き円孔を3個もつ。 | 外面縦位のヘラミガキ<br>脚の内面は横位のヘラ削りの後横ナデ | 明褐色<br>細砂<br>焼成は良く堅緻 | 〃 |
| 第34図　27 | 土師器<br>台付甕<br>台部 | 台接合部<br>最小径<br>6.8 | 外傾し開く。 | 外面接合部近くに斜位のハケ目<br>内面ヘラ削りの後横位のハケ目 | 明赤褐色<br>細砂<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図　28 | 土師器<br>台付甕<br>台部 | 台接合部<br>最小径<br>5.2 | 台部は外傾して大きく開く。 | 外面斜位のハケ目<br>内面横位のハケ目 | 淡褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図　29<br>(12) | 手捏土器<br>鉢 | 口径6.1<br>底径4.4<br>器高4.6 | 完形品。平底でわずかに広がり内彎しながら立ち上がり、口唇で強く内彎する。 | 外面はヘラ及び指頭で整形<br>内面はヘラ削り、口唇近くは指頭痕が見られる。 | 褐色～黒褐色<br>小礫及び細砂<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図　30<br>(12) | 手捏土器<br>鉢 | 底径5.3<br>器高4.2 | 平底で緩やかに広がり口唇で強く内彎する。 | 外面は指頭で整形<br>内面はヘラ削り、口縁部は指頭痕が見られる。 | 明褐色～黒褐色<br>砂粒<br>焼成はわりあ | 〃 |

| 遺物番号<br>(図版NO) | 器種<br>器形 | 法量 | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 色調<br>胎土・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第34図 31<br>(12) | 手捏土器<br>壺 | 口径5.9<br>底径3.6<br>器高6.1 | 小型の壺で口縁は垂直に立ち胴部はわずかに張る。 | 内外面とも指頭で整形<br>内面口縁部のみヘラナデ | 明褐色～黒褐色<br>砂粒<br>焼成はわりあ | 第2号住居址 |
| 第34図 32 | 土師器<br>底部 | | 平底で外傾し広がる。 | 外面は斜行するハケ目<br>底部には木の葉圧痕<br>内面風化が激しく不明 | 灰褐色<br>砂粒<br>焼成はあまり良くない | 〃 |
| 第34図 33 | 土師器<br>底部 | 底径3.6 | 平底で外反しながら広がる。 | 外面縦位ナデ<br>内面ヘラ削りの後横位ナデ | 暗褐色<br>細砂<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図 34 | 土師器<br>底部 | 底径3.5 | 小形土器の平底の底部。 | 外面はヘラミガキがなされ<br>内面は指頭で整形 | 暗褐色<br>細砂<br>焼成は良く堅緻 | 〃 |
| 第34図 35 | 土師器<br>甕 | 口径<br>19.5 | 口縁から胴部上位までで以下は欠損している頸部で「く」の字状に屈曲し口縁はわずかに外反する。頸部内部に稜をもつ。 | 外面、口唇、口縁は横ナデ<br>頸部は横ナデの後斜位のハケ目が胴部に向かって続く | 明褐色<br>砂粒及び淡黄褐色粒<br>焼成は良く堅緻 | 〃 |
| 第34図 36 | 土師器<br>底部 | 底径4.7 | 平底で内彎ぎみに開く。 | 外面斜位のハケ目<br>内面ヘラによるナデ | 暗灰褐色<br>細砂<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図 37 | 土師器<br>坏？<br>底部 | 底径6.5 | 微力に凹面の平底から内彎し大きく開く。 | 外面斜位のハケ目<br>内面横位のハケ目 | 明褐色<br>小礫及び細砂<br>焼成は良く堅緻 | 〃 |
| 第34図 38 | 土師器<br>底部 | | 平底から大きく外傾して開く。 | 外面縦位のヘラミガキとハケ目<br>内面横位斜位のハケ目 | 赤褐色<br>淡黄白色粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図 39 | 土師器<br>高坏 | | 坏部の破片であり口縁と底部の境に稜を有する。 | 外面横位のナデ<br>内面は風化が激しく不明 | 橙褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図 40 | 土師器<br>高坏 | | 坏部の底の破片 | 外面斜位のハケ目<br>内面ヘラによるナデ | 橙褐色<br>小礫及び淡黄褐色粒 | 〃 |

| 遺物番号<br>(図版NO) | 器種<br>器形 | 法量 | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 色調<br>胎土・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第34図 41 | 土師器<br>高坏<br>脚部 | 脚接合部<br>最小径<br>3.8 | 脚部は大きく外傾し開く。 | 外面縦位のヘラミガキ<br>内面横位のナデ | 褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 第2号<br>住居址 |
| 第34図 42<br>(12) | 土師器<br>台付甕<br>台部 | 台接合部<br>最小径<br>4.4<br>底径6.8 | 台部は直線的に開く。 | 外面斜位のハケ目の後横ナデ<br>内面ヘラ削りの後接合部近くは斜位のハケ目、下部は横ナデ | 淡赤褐色<br>細砂<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図 43 | 土師器<br>台付甕<br>台部 | | 緩やかに外反し開く。 | 外面縦位のハケ目<br>台部内面は横ナデ<br>内面横位、斜位のハケ目 | 淡灰褐色<br>小礫及び砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図 44 | 土師器<br>台付甕<br>台部 | 台接合部<br>最小径<br>6.8 | 台部はあまり広がらずに開く。 | 外面縦位のハケ目<br>内面ヘラ削りの後ハケ目 | 淡褐色<br>細砂<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図 45 | 土師器<br>坏 | 器高3.0 | 平底から内彎しながら広がり口縁にいたる。 | 底部は回転糸切りされている。 | 淡褐色<br>細砂<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第34図 46<br>(12) | 土師器<br>坏 | | 平底から緩やかに開き口唇でやや外反する。 | ロクロ整形？ | 赤褐色<br>細砂<br>焼成は良く堅緻 | 〃 |

## 4．小　結

第Ⅰ次調査で検出された遺構や遺物によって、本遺跡は縄文時代中期中葉～後葉、古墳時代中期、平安時代から室町時代にわたっての複合遺跡であることが確認された。

縄文時代中期の遺物は、第Ⅲ群とした土器のうち第2類の勝坂式土器、第Ⅳ群第1類の曾利式土器、第2類の加曽利Ｅ式土器がＡ・Ｂグリッドを中心に第Ⅵ層～第Ⅶ層にかけて出土している。とりわけ、Ｂ－5グリッドにおいては急傾斜地となっており、大量に投棄された状態で見つかっている。全体的には中期後葉のものが多い。

石器は、やはり縄文時代中期の所産であり、礫器・石鏃・石匙・打製石斧・磨製石斧・磨石・蜂の巣石・石皿・石錘・円板状石器・その他が出土している。石質については第Ⅰ次、第Ⅱ次調査のいずれも高木空穂氏によつて分類されており、第4表及び第33表に示すとおりである。また第Ⅲ章第2節2Ｂ－イのまとめで種々述べている。

古墳時代中期では、住居址2基が検出されている。第23図～第25図のように重複関係にあり、その切り合いから第1号住居址の方が時期的にはやや古いものであろう。なお、第2号住居址の中央付近において竈が見つかったが、非常に攪乱が激しくまた切り合い関係が不明であるため、住居址としてのプラン確認は不可能であった。

遺物は、第2号住居址を中心に多く出土している。甕形土器・坩形土器・坏形土器・高坏形土器・台付甕形土器・手捏土器などが出土している。第26図～34図で見るように、中期和泉式期に併行するものであろうし、従って住居址も該期のものであろうと思われる。

平安時代～室町時代の遺物は、第Ⅲ章第1節3Ｂのその他の土器で述べてあるように、坏が出土している。また、カワラケの類も若干見られたが図化しなかった。前者は平安時代、後者は室町時代の所産である。

今回の調査によって検出された古墳時代の住居址はその全容が把握できなかった。本町ではかって、山畑遺跡（昭和38年調査）から同時期の住居址1基が、また山崎遺跡（昭和58年調査・未発表）から10基が発見されており、山崎遺跡の第1号住居址だけがそのプランの全容が分かるものであった。

## 第２節　第Ⅱ次調査

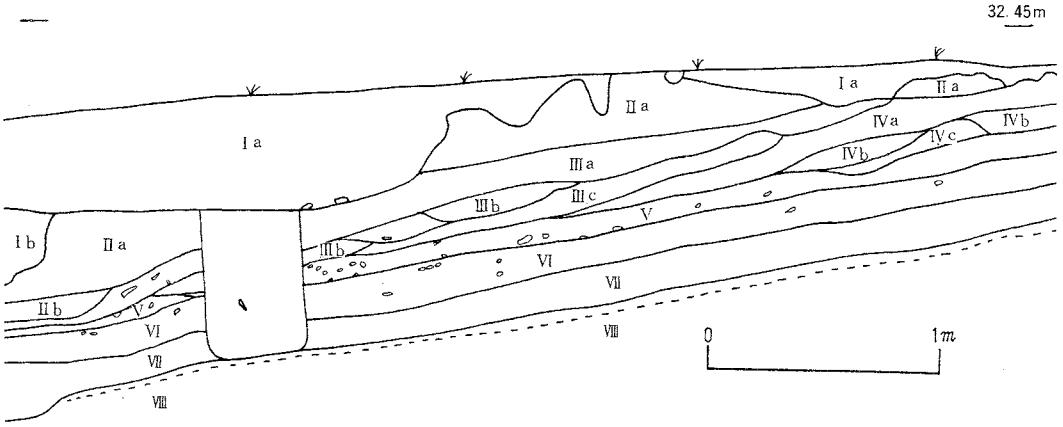
### １．層　序

第Ⅱ次調査によって確認された層序は、表土の攪乱層から最下層のローム層まで第Ⅰａ層～第Ⅷ層に分ける事ができる。調査地点は前述のとおり、遺跡の北西端にあたる窪地であり、ゆるやかな傾斜をなしている。基本的な層序は、遺物の堆積状況が良く分かるＡグリッド～Ｄグリッドにこれを求めた。

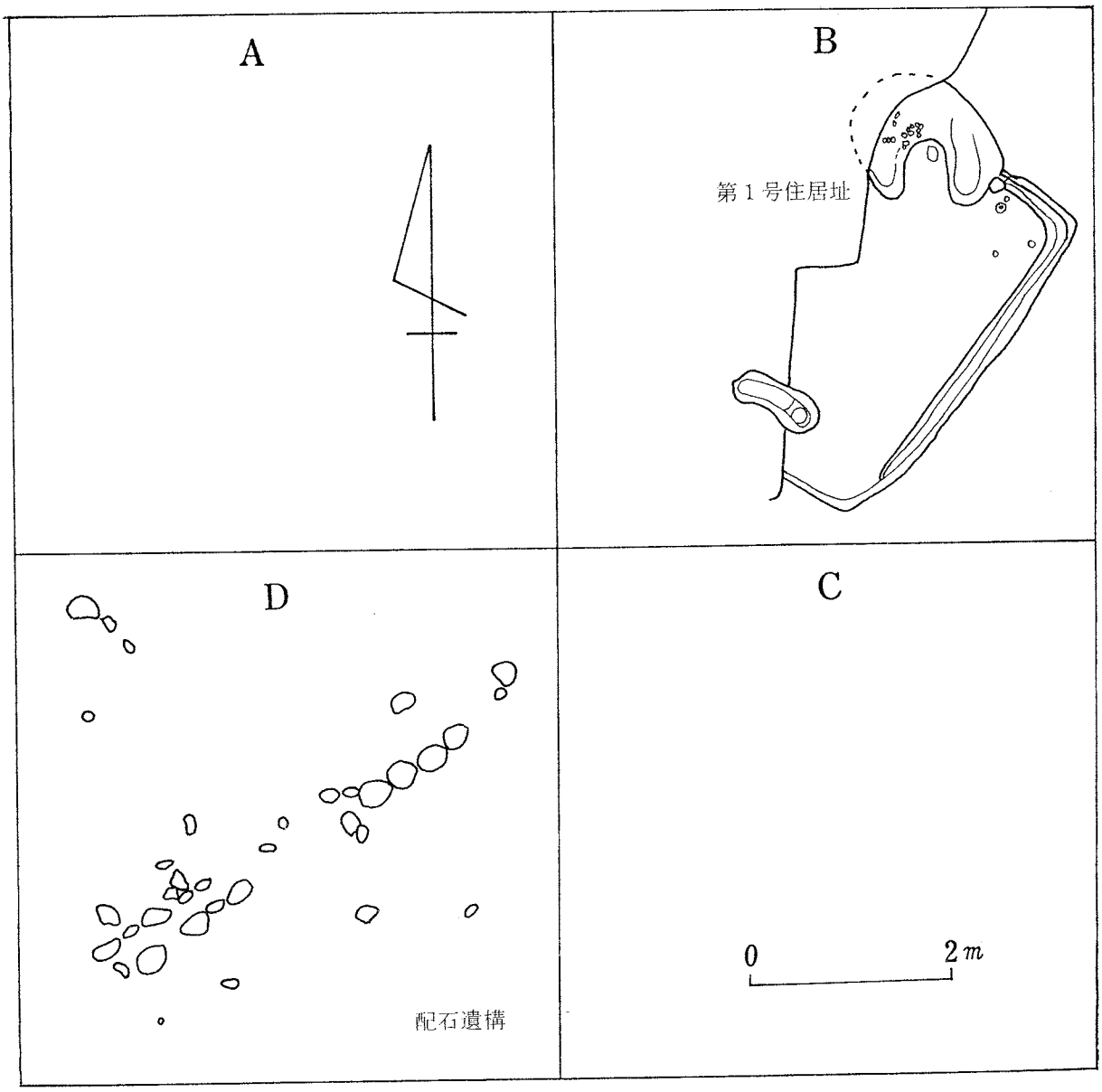
調査区はかつて畑地であり、これを駐車場として造成する際に削平されているため、Ｃグリッドにおいては、古墳時代から縄文時代中期の包含層はかなり破壊されてしまっていたのである。しかし、幸いな事に第36図で見るようにＡ・Ｄグリッドでは整然とした堆積層が確認された。とりわけ第Ⅴ層以下についてはこれが顕著である。以下、この部分について第36図にそって説明してゆく。

第35図　第Ⅱ次調査 発掘調査風景

第Ⅰａ層ー表土層（暗褐色・攪乱層）。駐車場として造成するため、天地返しを行った際の攪乱層である。層厚は、数cm～50cm。第Ⅰｂ層ー黒褐色土層。攪乱層であり、調査区最先端で確認された。層厚は30cm前後。第Ⅱａ層ー明褐色土層。古墳時代住居址の確認面である。第Ⅱｂ層ー焼土層であり層厚は10cm前後。第Ⅲａ層ー暗褐色土層。層厚は数cm～10数cm。第Ⅲｂ層ー褐色土層。焼土を多量に含んでいる。層厚は10cm前後。第Ⅲｃ層ー褐色土層。焼土を若干含んでいる。層厚は数cm～10cm。第Ⅳａ層ー褐色土層。焼土を若干含んでいる。層厚は数cm～10数cm。第Ⅳｂ層ー褐色土層。焼土を含んでいる。層厚は10cm前後。第Ⅳｃ層ー褐色土層。焼土を多量に含んでいる。層厚は数cm。第Ⅴ層ー黒褐色土層。縄文時代中期の主たる包含層であり、Ｃ・Ｄグリッドではこれが露出している。層厚は10cm～20cm。第Ⅵ層ー褐色土層。第Ⅴ層と同様に縄文時代中期の遺物が多量に包含されている地層である。層厚は10cm～20cm。第Ⅶ層ー暗褐色土層。中期の遺物は少なくなっており、本層の下部からは縄文時代前期～早期の遺物が見つかっている。層厚は12～20cm。第Ⅷ層ー黄褐色土層。最下層のソフトローム層である。この面から遺物は検出されなかった。




第36図　第Ⅱ次調査Ａ・Ｄグリッド東壁セクション




第37図　第Ⅱ次調査遺構関連実測図

## 2．縄文時代の遺構と遺物

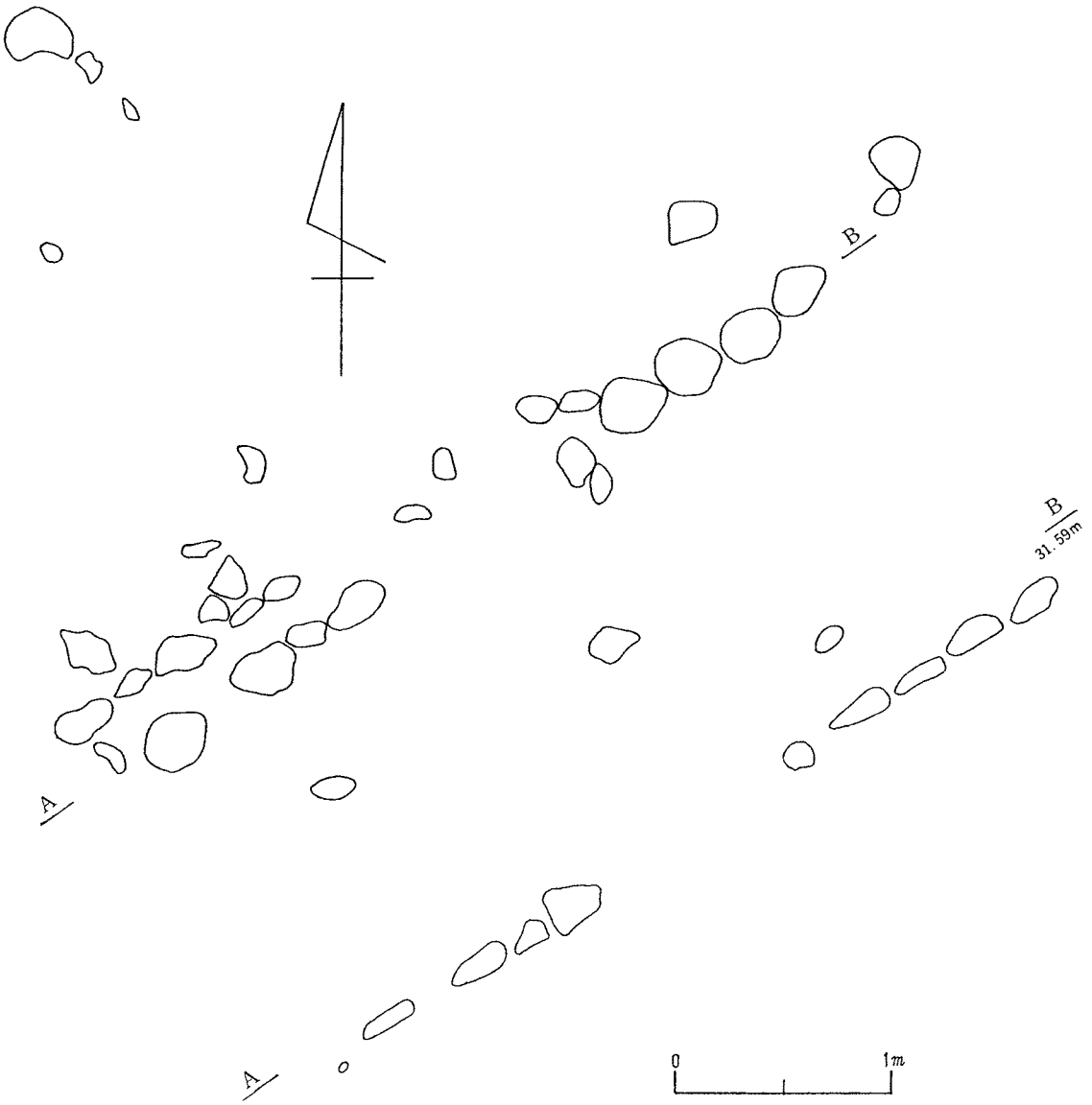
### A、遺構

**配石遺構**（第37、38図・図版23）

調査区においては削土がかなり深いために、第Ⅱ次調査では遺構の存在は予想していなかったが、Dグリッドのほぼ中央から帯状の配石遺構1ケ所が見つかっている。4mの長さで20～40cm前後の石を直線的に並べてある。（方向はN－45°－Eを示す）

この配石の中程から、勝坂Ⅲ式土器の口縁部が出土しているが、おそらくこの配石には伴わないものと思われる。調査区が狭く全容は把握できなかったが、検出面は第Ⅴ層上面であり、従って縄文時代中期後葉に属するものであろう。

本町ではこの他に、長者ケ原大平C遺跡から曾利Ⅲ式期と思われる配石遺構が見つかっているだけであり、今後の検出例の増加を待ってさらに検討してゆきたい。




第38図　第Ⅱ次調査配石遺構実測図

B、出土遺物

ア、土器・土製品

**第Ⅰ・Ⅱ群土器**（第39～第42図）

第Ⅱ次調査では、第Ⅰ次調査で見られなかった縄文時代早期および前期の土器が121点出土している。前者は早期前半の楕円押型文土器であり、後者は前期前半の関山式土器である。本町ではこれまで、早期の押型文土器についてはその出土例も多く、町内各所から発見されている。しかし、前期の土器についてはこれまでのところ、長者ケ原の大平遺跡群、田原野の上ノ田・阿原遺跡など、東部地区に限って出土しており、かって行われた、三福の南原・向原遺跡、田京の山畑遺跡など西部地区における遺跡の調査では、該期の土器は発見されていなかったのである。

**第Ⅰ群土器**（第39図1～3）

早期の土器は、楕円押型文土器に限られており3点出土している。第39図1は、胴部下半の破片であり、器面には形の良い長楕円粒が見られる。その粒は小さく（径5×3㎜）、縦位に密接施文されており、しかもそれは極めて丁寧に押捺されている。これに対して、内面はかなり粗雑な調整となっており、器壁はデコボコになっている。器厚11㎜、焼成は良く堅い。胎土中に繊維と若干の砂粒が含まれている。色調は赤褐色を呈する。2は、底部に極めて近い破片である。直径6㎜前後の楕円粒が一部押し潰されたような状態で、しかも不規則に押捺されている。器厚9.5㎜、焼成はわりあいに良い。胎土中に若干の砂粒が含まれている。色調は明褐色を呈する。器壁内面には調整時の指頭痕が残されている。3は、いわゆる乳房状をなした尖底部破片である。長径5㎜前後の楕円粒が、最下部まで縦横に施文されている。器厚6.5㎜、焼成は良く堅い。色調は褐色を呈する。

**第Ⅱ群土器**（第39図4～22・第40～42図）

前期の土器は、第39図～第42図のように118点出土している。第39図4・5は、口唇上に鋸歯状の小突起が付けられている。このうち4については、口縁を平縁状に成形した後に、さらにその上から粘土紐が口縁を跨ぐようにかぶせてある。その付け方はわりあいに粗雑で、裏面の貼り付け部は十分に接着されていない。また口縁については、一旦縄文を施した後に、半截竹管状工具により平行沈線が施され、幾何学文様となっている。小突起はソロバン玉に似た形状をなしている。器厚12㎜、焼成は良く堅い。胎土中に多量の繊維と白色粒が含まれている。色調は明褐色を呈する。この土器は、やや内彎する器形を呈する深鉢形土器であると思われる。器壁内面は工具による調整痕が残されている。9･10･12･13･14･16･17･19･20は、半截竹管による沈線文の間に竹管による刺突文が施されている。また、その刺突文上には円形の貼付文が見られる。このうち、10については円形貼付文上にさらに先端の細い丸棒状工具によって刺突文が付けられている。そして下部には縄文が施されている。口縁はやや波状をなしており、また口唇は内側に向かって斜めに成形されている。やや外反する器形を呈している。器厚は10㎜前後、焼成はあまり良くなく脆い。胎土中に多量の繊維が含まれている。色調は赤褐色を呈する。19

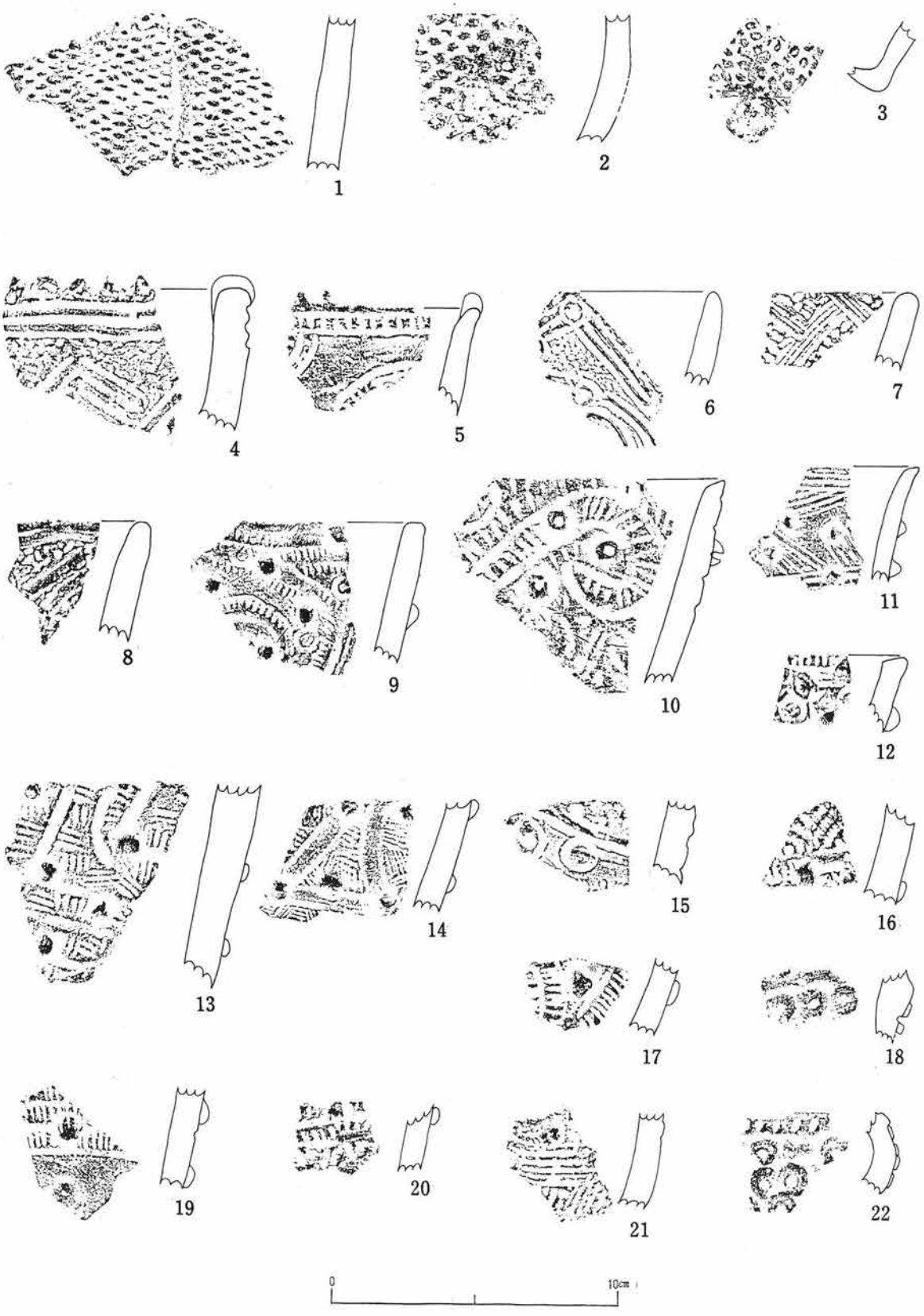
は、無文帯の中に円形貼付文が見られる。また11は、半截竹管による集合沈線文上に円形刺突文が付けられている。口縁部はかなり外反しており、口唇は内側に向かって斜めに成形されている。器壁内面は丁寧な調整がなされている。器厚は6㎜と薄いが、焼成は良く堅緻である。胎土中に繊維と雲母が含まれている。色調は黒褐色を呈する。6は、波状口縁の破片でありその頂部は三角形をなしている。半截竹管により平行沈線が施され、この沈線上にやはり半截竹管による円形沈線が描出されている。また、沈線間には縄文が施されている。口縁はやや内彎する器形の深鉢形土器である。器厚9㎜、焼成は良く堅い。胎土中に多量の繊維と砂粒が含まれている。色調は黒褐色を呈する。15も同じ様な文様が付けられているが、半截竹管による沈線は渦巻状をなしている。また、竹管による三日月状の刺突文もみられる。22・23は、ドーナツ状の円形貼付文が連続してみられる極めて特徴的な土器片である。このうち22は、口縁部とするにはやや難のある土器であるが、少なくとも3段以上の連続した円形貼付文があり、また上端には棒状工具の尖端部により刺突文が見られる。器厚8㎜前後、焼成はわりあい良く堅い。胎土中に多量の雲母と砂粒が含まれている。色調は黒褐色を呈する。第40図1～8・11・12は、コンパス文と組紐文が施された土器である。1は、コンパス文と組紐文がかすかに判別できるが、磨消しによるものなのか摩滅によるものかは分からない。口唇は肥厚し直行している。器厚10㎜前後、焼成は良く堅い。胎土中に多量の繊維と砂粒が含まれている。色調は赤褐色を呈する。2は、地文である組紐文を施した後にコンパス文が2段施されている。また3は連続してコンパス文を施しているが、その「繋ぎ目」は微妙にズレていることが分かる。器厚11㎜、焼成はあまり良くない。胎土中に多量の繊維が含まれている。色調は黒褐色を呈する。9・10は、半截竹管による同心円状の渦巻文および直線が施されている。10の土器片を見る限り、その渦は完全な円をなすのではなく、半円に留まっている。そして、これを異方向へ描出する事によって独特の文様効果を表している。器厚9㎜前後、焼成は良く堅い。胎土中に砂粒が含まれている。色調は明褐色を呈する。13は、口唇上に截割竹管によって刻み目が付けられている。また、器面全体に組紐による施文が見られる。器厚13㎜前後と厚い。焼成は良く堅い。胎土中に多量の繊維と砂粒が含まれている。色調は赤褐色を呈する。15は、波状口縁部の破片である。その隆起部は外側に向かって張り出している。また器面には羽状縄文が施されている。器厚9㎜前後、焼成は良く堅い。胎土中に多量の繊維と砂粒が含まれている。色調は明黄褐色を呈する。19及び第41図2・6・15・27はループ文が施されている。このうち、第40図19と第41図6・15は環状にした原体の開口部が下方にあり、その他は上方にある。19は、器厚9㎜前後、焼成はわりあい良い。胎土中に多量に繊維が含まれている。色調は赤褐色を呈する。内面は、指頭痕及び工具による調整痕が見られる。

第41図12は、胴部下半の大形破片であるが、器面全体にループ文を充填して施してある。やや縊れた部分には半截竹管によるコンパス文状の文様が施されている。いわば、文様帯の仕切と見る事ができよう。器厚8㎜前後、焼成は良く堅い。胎土中に多量の繊維と砂粒が含まれている。色調は赤褐色を呈する。内面はかなり剥落しているが、調整の際の指頭痕が随所に見ら

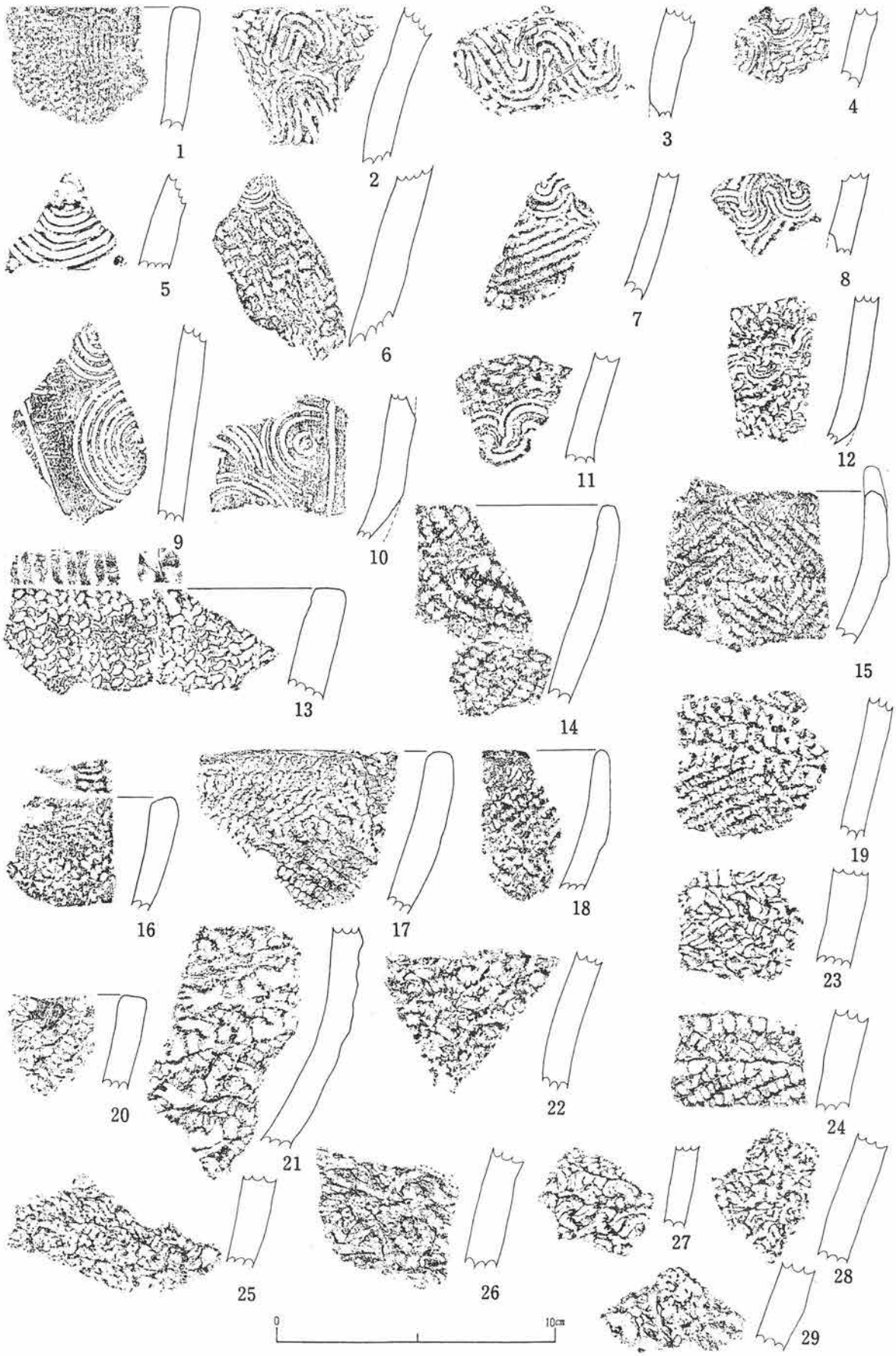
れる。

第42図1～9は、器面全体に組紐を充填させて施している。1はかなり外反する口縁部破片であり、波状をなすものと思われる。器厚11㎜前後、焼成は良く堅い。胎土中に多量の繊維と砂粒が含まれている。色調は褐色を呈する。口唇上の一部は、繊維がそのまま露出している。おそらく焼成の際粘土の一部が剥落したものと思われる。3は、組紐がびっしりとしかも丁寧に施されている。器厚8㎜前後、焼成はわりあい良い。胎土中に多量の繊維と砂粒が含まれている。内面は丁寧に調整がなされている。色調は褐色を呈する。6は、胴部破片であり若干張り出している。10～13は、羽状縄文のみの土器片である。このうち10は、口唇上にも縄文が施されている。口縁はやや外反しており、その先端は肉薄となっており器厚7㎜前後と薄い。焼成は良く堅い。胎土中に繊維が含まれている。色調は灰褐色を呈する。内面は指頭痕が残されている。14・16・17～21・24・25は、複節の縄文原体により羽状縄文が施されている。14は、やや外反する口縁部破片である。口唇上には成形の際に付いたと思われるヘラの跡が残っている。口縁は、先端の方が肉薄である。器厚8㎜前後、焼成は良く堅い。胎土中に繊維を含んでいる。色調は明褐色を呈する。17は、複節の縄文原体を縦位に施文した後に、細い丸棒状の先端部によって刺突文が付けられている。器厚10㎜前後、焼成は良く堅い。胎土中に繊維と粗い砂粒が含まれている。色調は明黄褐色を呈する。27・30・32・33は、第39図9・10・12・13・14・16・17・19・20のように半截竹管による沈線文の間に竹管の刺突文が施されている。このうち33は、「）」状の細かい刺突が密接に施されている。器厚8㎜前後、焼成はわりあい良い。胎土中に繊維と砂粒が含まれている。色調は赤褐色を呈する。第42図29は、器面に組紐文を施した後に、巾7㎜程の半截竹管によって沈線文が直角あるいは弧状に描出されている。器厚12㎜前後、焼成は良く堅い。胎土中に多量の繊維と砂粒が含まれている。色調は黄褐色を呈する。34～36は、細い沈線あるいは条線を施した後に、丸棒状工具の先端によって刺突文が施されている。34は、縦横に沈線と条線を施しているが、横位のものは一気に施文するのではなく、二度～三度と「なぞり」をしているため、ミミズ腫れ状に盛り上がっている、器厚12㎜前後、焼成は良く堅い。胎土中に多量の繊維と白色砂粒が含まれている。色調は灰褐色を呈する。器壁内面は、ヘラ状工具による調整痕が顕著に認められる。37～39は、櫛歯状工具によって波状の条線が縦位にあるいは横位に施文されている。尖頭状の口唇部を持っておりこの頂部から密接して施している。口縁はかなり内彎しており、おそらくキャリパー状の器形をなすものと思われる。器厚10㎜前後、焼成は極めて良く堅緻である。胎土中に繊維と砂粒が含まれている。色調は黒褐色を呈する。39は、胴部下半の縊れ部分にあたる破片である。

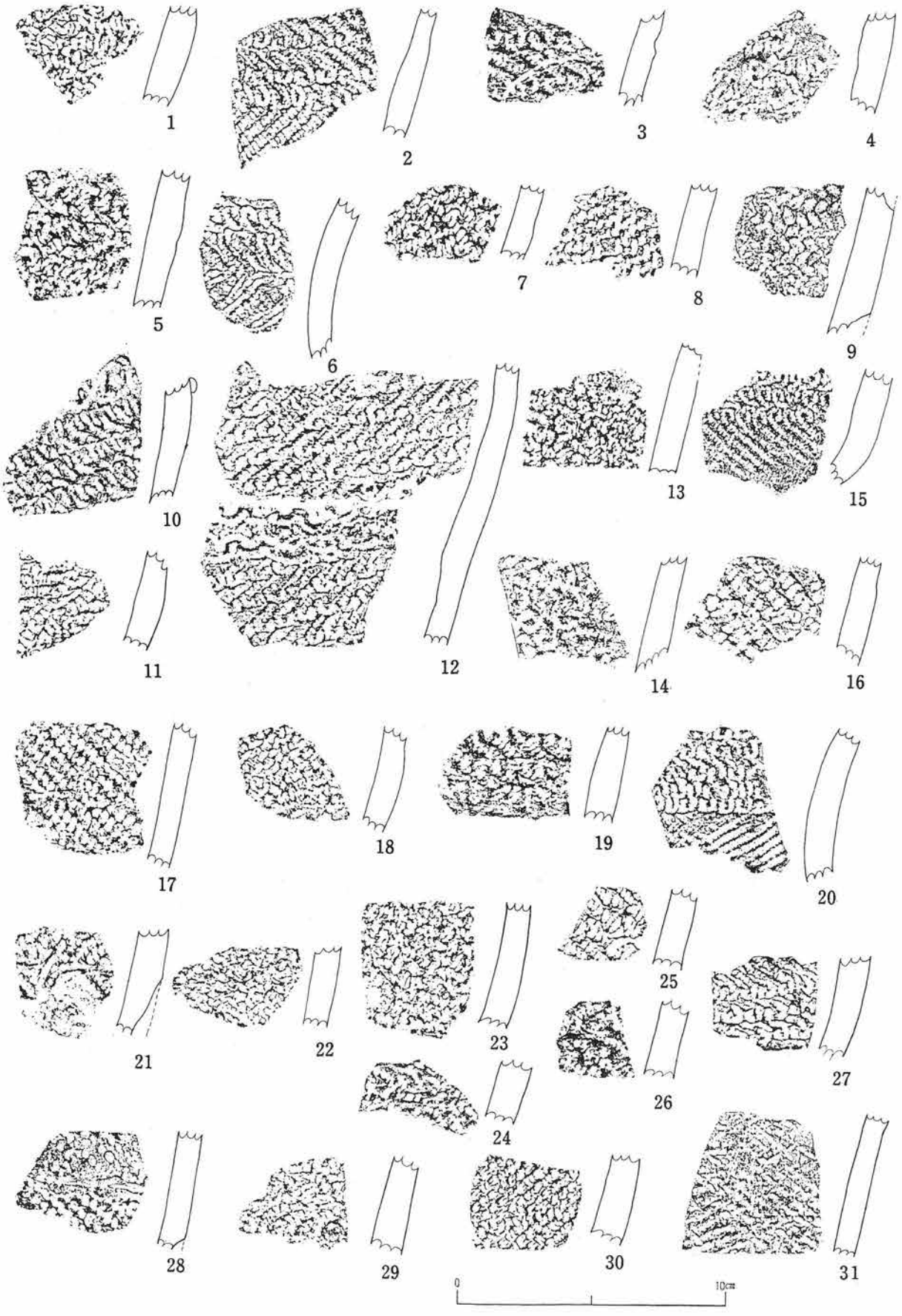
第39図4～22、第40図1～29、第41図1～31、第42図1～33についてはおそらく関山式土器の範疇に入るものと思われる土器であり、第42図34～39もこの仲間として良いであろう。



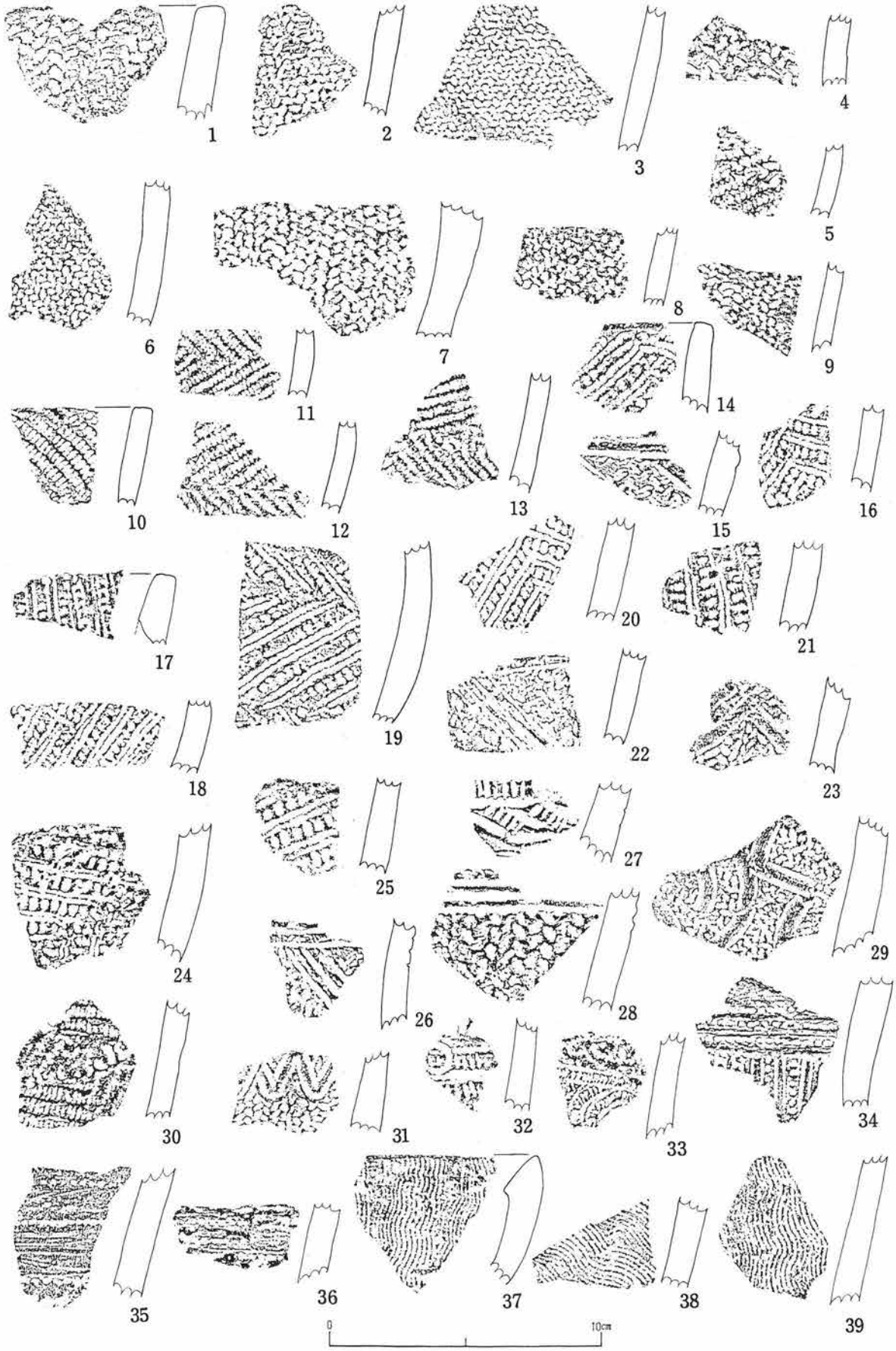

第39図　第II次調査 出土土器拓影（1）




第40図　第II次調査 出土土器拓影（２）




第41図　第II次調査 出土土器拓影（３）




第42図　第II次調査 出土土器拓影（4）

**第Ⅲ群土器**（第43～108図）

**第1類土器**－阿玉台式系土器群及び類似土器ある。a種・b種が出土している。

a種：角押文の系統に属するもので、隆帯とペン先状工具の押し引きが施されている。第43～45図がそれである。第43図1・3・4・6・7・10・13・15は同一個体である。口縁は平縁であり口唇は肥厚しかなり外反している。口唇直下より「U字・逆U字」状の隆帯が組み合わされ、また直線的に垂下する隆帯が見られる。そしてこの条間にペン先状工具によって連続の角押文が付けられている。器面はヘラによって丁寧に整形されている。器厚10～14㎜前後、焼成はわりあい良い。胎土中に多量の砂粒及び白色砂粒が含まれている。色調は明褐色を呈する。8は、波状口縁をなしており、口縁部の隆帯に添って一列の角押文が施されている。この隆帯はヘラによって整形されている。そしてこの区画内に縦位の角押文が三列施されている。また隆帯間にはこれを繋ようにに粘土紐を貼り付けている。口縁部は内彎しており波頂部でやや直行している。器厚は波頂部で11㎜前後、口縁下部で8㎜前後、焼成はわりあい良い。胎土中に多量の砂粒が含まれている。色調は暗褐色を呈する。第44図1・2は同一個体である。口縁は欠損しており不明であるが、頸部下から胴部にかけての大形破片である。頸部に横位の隆帯が巡っており、これに棒状工具によって縦位の押し引きが行われている。胴部は、巾広の大きな渦巻き文が描出されており、これに添ってヘラによる角押文が施されている。器面はヘラにより調整されている。器厚は厚く16～23㎜を測る。焼成は良く堅い。胎土中に多量の砂粒及び小礫が含まれている。色調は明褐色を呈する。第45図も同様の文様構成であるが、胎土・焼成はやや異なる。第46図1・2は同一個体である。1は、波状口縁であり突起が付けられている。この突起はやや左に傾斜している。口唇上に丸棒状工具によって押し引き文が施されている。口唇上部にはこれに添って一列の角押文が見られ、さらにその下に波状沈線が描出されている。2は、波頂部下に橋状把手が付けられ、さらに沈線により楕円の横帯区画文が施されている。この区画の下にヘラの先端によって 縦位の刺突が付けられている。1・2とも大量の金雲母・黒雲母・石英粒・小礫が含まれている。器厚は口唇部で16㎜前後、下部で7㎜前後。焼成は良く堅い。3は、縦横に隆帯区画がなされこの上にヘラによる刻み目が付けられている。この区画に添って先端が尖った工具によって連続した刺突が付けられ、また半截竹管によって沈線がそれぞれ付けられている。器厚は13㎜前後、焼成は良く堅い。胎土中に多量の砂粒と雲母が含まれている。色調は暗赤褐色を呈する。5は、2と非常によく似た文様構成である。胎土中に多量の金雲母が含まれている。

b種:爪形文の系統に属するもので、半截竹管によって連続の押し引きが施されている。第46図6～10がそれで、6・7・10は同一個体である。これらは口縁部が内彎し、口唇が大きく外反している。口縁は隆帯によって区画され、これに添って上下に一列ずつ爪形文が付けられている。7の楕円横帯文は粘土紐の貼り付けによるものであり、その接合痕は明瞭に残されている。10は、口唇下部の爪形を途中から逆方向に施している。器面内外はヘラによって丁寧な調整がなされている。器厚は12㎜前後、焼成は良く堅い。胎土中に多量の金雲母と白色砂粒が含まれ

ている。色調は淡褐色を呈する。8は、胎土中に夥しいほどの金雲母や石英粒・白色砂粒が含まれている。

**第2類土器**－勝坂式系土器群であり、a種～e種が出土している。

a種：角押文の系統に属するものであり、隆帯と巾広の竹管状工具による密接な爪形文（キャタピラ文）とペン先状工具の押し引き文が施されている。第47・49～58図がそれである。第47図1は、口唇が直行しており、口縁部は尖頭状を呈している。口縁部に3.7cmほどの無文帯を持ち、この下にヘラ状工具の先端によって爪形文が施されている。また、隆帯による区画が見られ、この区画内をやはり爪形文によって充填させている。そして中央には三叉文が付けられている。さらにこの隆帯下部には巾広の竹管状工具によって爪形文が施され、次にその下部にヘラによってジクザクの波状沈線が施されている。器厚は口唇で8㎜前後、下部で12㎜前後、焼成はわりあいに良い。胎土中に多量の白色粒が含まれている。色調は褐色を呈する。3は、直行した口縁が口唇部においてはかなり外反している。巾広の無文帯はヘラによって良く調整されている。三角形の隆帯の組み合せによって区画された中に、ヘラによる爪形文やペン先状工具による刺突文が付けられている。第49図1は、波状する口縁が肥厚して隆帯状になっており、波頂部下にも菱形に隆帯が見られる。この隆帯上にはヘラによって刻み目が付けられている。そしてこの内側には巾広のヘラにより爪形文が充填し、さらにペン先状工具によって連続した刺突文が施され、波状沈線文のような表現となっている。また口縁下部にはやや巾広の粘土紐が貼り付けられヘラ及び指頭で波状の「へこみ」を付けている。器厚は12～14㎜前後、焼成はわりあい良い。胎土中に多量の白色砂粒が含まれている。色調は暗褐色を呈する。3～5・8・11は区画内の三叉文の間あるいはその傍、若しくは渦巻文の中に竹管状工具によって刺突が付けられている。第50図2は、口縁部であるが上端を欠損している。隆帯の区画内に爪形文が充填し、この中にヘラによる波状沈線が横位に描出されている。3は、胴部上半の破片であるが、爪形文の下部に角頭状のヘラを最初は「＼」方向に付け、次に「／」方向に重ねて付けており、結果的には「×」状の独特の波状沈線文が表現されている。さらにこれにより斜め左に垂下して、同様の手法によりこの文様が付けられている。5は、隆帯間を爪形文が横位に施され、この爪形文の中をヘラによる縦位の波状沈線が描出されている。第51図3は、口縁部を欠損しているが、巾の違うヘラにより押し引き文が3段縦位に付けられている。8は、口縁下に巾の短いヘラを上下2段重ねることによってやや異質な「く」の字状の押し引き文を表現し縦位施文している。そしてこの下部には同様の手法によって横位（やや斜め）に施文され、再び縦位施文が行われている。11は、波状口縁であり渦巻の突起が付けられている。そして口縁部には押し引き文及びペン先状工具の刺突文が施されている。12は、8と同じ「く」の字状に押し引き文が見られるが、この区画の中は細いペン先状工具によって連続して刺突され、沈線のような表現がなされている。16の場合は、爪形文を施した後下段に2本の隆帯を設け、この間にヘラによる波状沈線を施してあるが、上位の隆帯下には一度爪形文を施した跡があり、これをヘラによって無文帯とした様子が観察できる。第52図2は、口唇上及び口縁の隆帯上にペン先状工具

あるいはヘラによって押し引きや刻み目が付けられている。隆帯は把手状に張り出している。区画内はヘラによる押し引き文やくずれた三叉文が施されている。焼成はわりあい良い。胎土中に砂粒・淡黄褐色粒が含まれている。色調は褐色を呈する。7は、隆帯の外側にヘラによる刺突文が見られ、隆帯及び半隆帯の区画内はペン先状工具によって連続押引文が施され、三叉文が見られる。下部には刺突文が付けられている。焼成はわりあい良い。胎土中に細砂・淡黄褐色粒が含まれている。色調は暗褐色を呈する。10は、ヘラによる連続押引文が縦横に施された区画内に、細い半截竹管によって刺突文が施されている。下部は先端が櫛歯状の工具により連続した横位の刺突文が施され、波状沈線のような表現となっている。焼成は良い。胎土中に多量の砂粒・淡黄褐色粒が含まれている。色調は淡赤褐色を呈する。第56図はいずれも底部破片である。円形及び楕円横帯文が施されている。1は、ヘラによる波状の刺突文の下に、密接な角押文、さらにペン先状工具による押し引き文が施されている。焼成はあまり良くない。胎土中に多量の淡灰白色粒・砂粒が含まれている。色調は橙褐色を呈する。5は、角押文の下に円形隆帯が付き、中に角押文が施されて「菊花」状になっている。焼成は良く堅い。胎土中に細砂が含まれている。色調は暗赤褐色を呈する。第57図は爪形文とペン先状工具による押し引き文が施されたものである。1は、爪形文の間隔が広くその付け方は緻密さを欠いている。突起した隆帯の区画内に文様はなく、ヘラによる調整が行われている。焼成はあまり良くない。胎土中に多量の砂粒及び小礫が含まれている。色調は明褐色を呈する。8は、ケムシ状の文様が施されている。第58図は押し引き文の他に、竹管文が多用されるものである。1は、隆帯上に棒状工具により斜めに押し引きが行われている。隆帯の両側は爪形文やペン先文が組み合されているが、半隆帯の区画内には横位の巾広い竹管文が走り、これを挟んで上下に細かい竹管文が描出されている。焼成はわりあい良い。胎土中に淡灰白色粒及び細砂が含まれている。色調は明褐色を呈する。7は、口縁部は隆帯による重三角の区画内を爪形文が施され、渦巻や三叉文、あるいは横位の竹管文が施されている。焼成は良く堅い。胎土中に細砂が含まれている。色調は暗褐色を呈する。19は、爪形文とペン先状工具による押し引き文が施されており、下部に細い竹管（ヘラ？）により付けたと思われる縦位沈線が見られる。焼成は良く堅い。胎土中に細砂及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は暗褐色を呈する。

b種:抽象文の系統に属するものであり、大半が平縁の口縁にあるいは胴部に磨消縄文が多用され、ケムシ状の文様が施されている。第59～61図がそれである。第59図1は、口縁がかなり内彎しており、口唇に縄文が施されている。やや磨消したような痕跡を留める。口縁の張り出し部はケムシ状の文様が横位に連続しているような表現となっている。下部は磨消縄文が施されている。焼成はわりあい良い。胎土中に淡黄褐色粒が含まれている。色調は暗褐色を呈する。2・5及び第60図1は文様構成が同じで、口縁部上端から角押文・波状沈線・縄文・波状沈線となっている。1は、頸部に楕円横帯文があり、以下はこれらの文様のくりかえしてなっている。3・4は、口縁部に無文帯があり、ペン先状工具による連続の押し引きやヘラによって波状沈線が施されている。また角押文も組み合わされている。胴部には縄文が見られる。6～8及

び第60図5は、口縁上端部に磨消縄文が施され段帯を作っている。6・8は縄文の下に爪形文とペン先状工具による波状沈線が施されている。7は、口縁上端の磨消縄文と波状沈線だけであり、下部は無文となっている。第60図5は、縄文の下に竹管文で仕切がされ、その下は波状沈線が2本見られる。第60図2・4は若干の無文帯があり、その下に磨消縄文が施されており、さらにその上端に波状沈線が見られる。また、3・9・16・17に至っては口唇部近くより磨消縄文を施しており、16・17はヘラの先端を交互に刺突して波状沈線のような表現をしている。第59図12・13は胴部破片であり、磨消縄文とケムシ状の文様が施されている。第60図14は、口縁に細い竹管により1条の押し引きが見られ、ケムシ状の文様が施されている。第61図3・22は底部破片であるが、3は、最下部まで磨消縄文が施されており、爪形文とペン先状工具による連続刺突文が施されている。

c種：パネル文の系統に属するものであり、半隆線で縦位区画され、この中に様々な文様が施されている。第62・63図がそれである。1・4は、口縁部に環状の隆帯や曲線の隆帯があり、これに刻み目が付いている。1は隆帯間にペン先状工具によって連続の押し引き文が施され、三叉文も見られる。口唇上にも刻み目がある。内面は縦位に4条連続押し引き文が付く。焼成は良い。胎土中に細砂が含まれている。色調は灰褐色を呈する。2は、内面に環状隆帯が付けられている。9は、口縁の突起部破片で口唇上に刻み目、口縁に添って竹管により半隆線が施されている。この区画内に爪形文や半截竹管の刺突文が施されている。焼成は良く堅い。胎土中に細砂及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は褐色を呈する。20は、半隆線により縦位区画し、この中を対角線に仕切をしてある。そしてそれぞれ三叉文や刺突文で充填している。22は、半隆線の渦巻の内側にさらに竹管により渦巻が描出されている。隆線上には刻み目と竹管による円形の刺突文が付けられている。焼成は良く堅い。胎土中に多量の金雲母が含まれている。色調は明褐色を呈する。第63図1は、平縁の口縁部上端より竹管によって、縦位及び斜位の半隆線が施され、この上に爪形文の刻み目が付けられている。11は、口縁上部から竹管によって集合沈線が施され、 三叉文や刻み目がある。また下部には、菊花状の角押文が見られる。18は、内彎する口縁部に若干の段帯を持ち、半隆線によって整然と区画されている。角押文が巡り、ヘラによる波状沈線や三叉文が施されている。

d種：楕円横帯文の系統に属するもので、口縁部から胴部にかけて数帯配している。第65・66、68・69、73～77、79～82がそれである。第65図2～5は同一個体である。頸部に楕円横帯文が一帯巡らされているもので、爪形文や波状沈線が施されている。また胴部は無文となっている。焼成はあまり良くない。胎土中に小礫及び淡灰白色粒が含まれている。色調は暗褐色を呈する。第66図1は、口縁部に把手状のものが付き隆帯によって区画されている。隆帯上には刻み目が付く。また区画内は竹管文が施されている。頸部に楕円横帯文が見られる。焼成はわりあい良い。胎土中に小礫・砂粒及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は暗褐色を呈する。第68図1は、隆帯によって抽象文的な曲線が表現されている。横位の隆帯の下に楕円横帯文が施されている。これは隆帯というより半隆線である。焼成はわりあい良い。胎土中に細砂及び淡黄

褐色粒が含まれている。色調は淡赤褐色を呈する。第69図8は、隆帯及び半隆線の上にヘラの先端により斜位あるいは横位に「ハ」の字状の押し引き文が見られる。焼成は良く堅い。胎土中に多量の細砂が含まれている。色調は褐色を呈する。10は、楕円横帯文を連ねてあるが、この横帯文間に環状隆帯を配している。これら隆帯上の刻み目は単純なものから交互刺突、横位の「ハ」の字などがある。焼成はあまり良くない。胎土中に小礫及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は橙褐色を呈する。第73図1は、巾広の無文口縁の下に楕円横帯文があり、上部の隆帯には角頭状工具の先端によって刻み目が付けられ、下部の隆帯には先端が尖った工具によってそれぞれ刻み目が付けられている。また、垂下する隆帯にも見られる。以下、胴部には縄文が施されている。焼成は良く堅緻である。胎土中に多量の細砂が含まれている。色調は褐色を呈する。第74図3は、口縁部下から胴部にかけて数帯の楕円横帯文を半単位づつずらしながら配しているものであり、この系統の土器の特徴的なものである。焼成は良好。胎土中に砂粒及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は褐色を呈する。第75図3・4は、波状する口縁であり上端部より半截竹管によって縦位施文されている。そして頸部から胴部にかけて楕円横帯文が横位に配されている。5も同一個体であろうと思われる。焼成はわりあい良い。胎土中に小礫及び細砂が含まれている。色調は褐色を呈する。第76・77図も広義での楕円横帯文の範疇に入れて良いと思われる。第77図の口縁部は第75図2～4及び第78図のそれと同様のものである。第79図1は、頸部に楕円横帯文が配されている。区画内は竹管文が施されているが、その条間はヘラの先端により刺突が付けられている。胴部は縄文が施されている。焼成は良好。胎土中に細砂が含まれている。色調は明赤褐色を呈する。第81図は同一個体である。口縁に突起がみられ、波頂部下の区画内は上部がペン先状工具により、また下部はヘラ状工具によってそれぞれ押し引き文が付けられている。また、楕円横帯文の区画内には半隆線の渦巻が見られる。焼成は良好。胎土中に細砂及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は淡褐色を呈する。第82図は同一個体である。胴部上位に楕円横帯文が配されている。縦横あるいは蛇行する隆帯が付けられ、これに刻み目が見られる。胴部が張る深鉢である。焼成は良く堅い。胎土中に多量の金雲母・細砂及び淡灰白色粒が含まれている。色調は暗赤褐色を呈する。

e種：パネル文崩れの系統に属するものであり、文様の区画が判然としないで、横位に曲線的に施されている。第83～94図がそれである。第84図1は、口縁部に中空の把手状のものが付いており、口唇上に蛇の頭部をイメージした突起が見られる。これはあたかも蛇がとぐろを巻いているようである。この突起下には「十字」状の隆帯が表現され、さらに竹管による半隆線の渦巻や三叉文が施されている。焼成は良く堅い。胎土中に多量の砂粒及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は明褐色を呈する。第85図及び第86図1・2・7は同一個体である。口縁部突起の波頂下には半隆線の渦巻があり、内面の波頂下は穿孔されている。胴部には、隆帯や半隆線が見られ、ヘラによる刺突文あるいは竹管文などが施されている。焼成は良く堅い。胎土中に多量の金雲母及び砂粒が含まれている。色調は暗褐色を呈する。

f種：勝坂系統のものであるが、様式が複雑なものや不明なもの、浅鉢などをこの中に入れ

た。第95～108図がそれである。第95図は同一個体である。口縁は大きく内彎しており、口縁部上端よりU字及びヘアピン状の隆帯文が組み合されて装飾されている。隆帯間は結び瘤状の粘土の貼り付けがある。また隆帯に添ってヘラによる押し引き文が施されている。焼成はあまり良くない。胎土中に多量の砂粒が含まれている。色調は褐色～暗褐色を呈する。第96図は2・9を除いて同一手法による施文が見られる。口縁部を欠損しているため器形は不明であるが、胴部上位の張った部分に同心円状の隆帯と垂下する隆帯が接続して付けられている。胴部は全体にヘラやペン先状工具によって、力や角度を変えながら様々な押し引き文が施されている。焼成はわりあい良い。胎土中に小礫及び淡黄褐色粒が含まれている。第97図1～4は同一個体である。おそらく浅鉢形であると思われる。口縁部に半隆線が巡り、これに刻み目が付けられている。また、装飾的な隆帯が見られ交互の刺突が行われている。胴部以下は無文である。焼成は良く堅い。胎土中に小礫及び細砂が含まれている。色調は灰褐色を呈する。第98図はすべて同一個体である。口縁部の隆帯区画内に2条～3条の押し引き文を施してある。この接続部に結び瘤状の粘土が貼り付けてある。胴部は条線によって充填されている。焼成は悪く脆い。胎土中に細砂が含まれている。色調は明赤褐色を呈する。第102図は、口縁部の突起が特徴的なものである。1は、大きく山形に突起した口縁部を持ち、その波頂部から鎖状の隆帯が垂下し、口縁下部の横位隆帯に接続している。この隆帯は、粘土紐を貼り付けた後指頭などで押し潰し、その中をヘラの先端によって刺突してある。また、口縁端部には連弧状の隆帯も見られ、その区画内にも刺突文が施されている。焼成は良く堅緻。胎土中に細砂が含まれている。色調は暗褐色～褐色を呈する。第103図1・3は、口縁部に小突起を持ちこれに隆帯や半隆線が付けられている。1はこの上位に角頭状工具によって押し引き文が付けられ、また3は刺突文がそれぞれ付けられている。第106図は、口縁部及び胴部は無文であるが、口縁段帯下部に1条ヘラによる押し引き文が付けられているもの（1～4）や、口縁は無文で、口唇上にヘラの先端により刺突や押し引き文が付けられているもの（5～10・12・14）などがある。第107・108図は、比較的小形の土器である。様々な文様が施されているが、いわゆるパネル文崩れに属するものも含まれている。第107図14・15は同一個体であるが、推定口径6.5cm前後と極めて小さい。無文の口縁頸部に押し引き文が巡り、胴部には波状沈線が見られる。第108図27～31は、口縁部あるいは口縁上端部から細い丸棒状工具の先端による刺突文や押し引き文が施されるものでやや特徴的である。縦横の沈線により区画も見られる。

以上、ｆ種についてはなお細分・検討してゆかなければならないし、あるいは系統・様式が異なるものも含まれているかも知れない。しかし、現段階では勝坂式系統ｆ種としておきたい。

**第Ⅳ群土器（第109～168図）**

**第1類土器**－曾利式系土器群であり、ａ種～ｅ種が出土している。

ａ種:曾利Ⅰ式の系統に属するものであり、第109～118図がそれである。このうち第109～111図は、口縁部を粘土紐や条線で装飾しており、籠目文土器あるいはバスケット形土器と呼ばれるものである。勝坂Ⅲ式土器の中にも良く似たものがあるが、ここでは曾利Ⅰ式併行としてと

らえた。粘土紐の貼り付けにより、口唇部から頸部にかけて全面に蛇行曲線が描出されている。口縁部は、キャリパー形を呈しており、頸部下より胴部にかけては隆帯による区画がある。胴部下半にかけては縦位の条線が施されている。第109図1は、富士市天間沢遺跡出土のものに酷似している。焼成は良く堅緻である。胎土中に細砂及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は明赤褐色～暗褐色を呈する。2は、かなり大形になるようで力強い蛇行曲線が施されている。胎土中に多量の金雲母が含まれている。第110図4は、口縁部に獣面?状の把手が付いており、この下部に粘土紐を「×字」状若しくは格子目状に貼り付けてある。第111図2は、口唇部を欠いているが口縁上端より粘土紐の貼り付けによる蛇行曲線が施されている。曲線の上部にはドーナツ状の粘土の貼り付けが見られる。頸部は2条の隆帯が巡り、この中を粘土紐が波状に付けられており胴部は条線が施されている。焼成は良く堅い。胎土中に多量の白色・淡黄褐色粒及び金雲母が含まれている。色調は暗褐色を呈する。第112図1は、キャリパー形の無文口縁であり、頸部に2条の隆帯が巡りこれに刻み目が見られる。胴部にはU字文が付けられ、縦位の条線が施されている。2・3は胴部に懸垂する隆帯が付けられこれに刻み目が付く。第113図1・2は、大形の深鉢であろうと思われる。頸部には4条の隆帯が見られ、これに三本の粘土紐が縦位に貼り付けられている。隆帯は内側の2条に刻み目が付けられている。これは、胴部のU字文にも同様の手法がとられている。焼成は良く堅い。胎土中に多量の砂粒及び金雲母が含まれている。色調は明褐色～暗褐色を呈する。第113図1・2は、大形の深鉢であろうと思われる。頸部には4条の隆帯が見られ、これに三本の粘土紐が縦位に貼り付けられている。隆帯は内側の2条に刻み目が付けられている。これは、胴部のU字文にも同様の手法がとられている。焼成は良く堅い。胎土中に多量の砂粒及び金雲母が含まれている。色調は明褐色～暗褐色を呈する。第114図8は、口縁上端に渦巻状の突起が付いており、頸部に1条の隆帯が巡っている。ここから胴部にかけては2本の懸垂する隆帯が付けられ、この上に押し引きによって刻み目が付いている。第117図1～4は同一個体である。口縁部が欠損しているため器形は不明であるが、比較的大形のものである。胴部は隆帯により区画が行われており、この中に条線が施されている。焼成は良く堅い。胎土中に細砂が含まれている。色調は明褐色を呈する。第118図はいずれも口縁部及び底部を欠損し短い胴部のみであるが、丁度粘土の接合部で割れており、輪積みの状態がよく分かる土器である。刻み目のある隆帯と条線が施されている。焼成は良く堅緻である。胎土中に多量の白色粒が含まれている。色調は橙褐色を呈する。

b種:曾利Ⅱ式の系統に属するものであり、第119～147図がそれである。口縁部の条線が斜めあるいは直角に描出されるもの、同心円状・格子目状に描出されるものがある。また胴部はJ字・U字状の粘土紐の貼り付けがあり、その先端が渦巻になるものなどがある。（第119～137図）また、いわゆる曾利縄文の呼ばれるもの（第138～144図）などがある。第119図1は、口縁上部を欠損しているが、頸部には粘土紐を格子目に貼り付けてある。その下部に蛇行する粘土紐が見られる。胴部は上端部に粘土の突起があり、隆帯で区画された中に条線が施されている。焼成は良く堅い。胎土中に多量の砂粒が含まれている。色調は橙褐色を呈する。4は小形の深

鉢形土器であり、推定口径は11cm前後。第121図1～3は、頸部下に粘土紐の蛇行隆帯が3段～4段にわたり装飾的に貼り付けられている。渦巻状の粘土の突起からH状懸垂文があり、この上に刻み目が付いている。胴部は条線で充填している。焼成は良く堅緻。胎土中に多量の砂粒及び橙色粒が含まれている。色調は明赤褐色を呈する。4は頸部に2条の蛇行隆帯があり、この間に横位の条線が巡っている。胴部は全面に条線文を施した後に粘土紐の懸垂文が付けられている。焼成は極めて良く堅緻。胎土中に多量の砂粒及び小礫・黒雲母が含まれている。色調は明褐色～暗褐色を呈する。第124図1は、胴部に蛇行する粘土紐を組み合せて帯状にして装飾効果を出している。この土器の場合は最初に粘土紐を貼り付けてから条線文を施してある。その施文は比較的粗雑である。焼成は良く堅い。胎土中に細砂及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は暗褐色～黒褐色を呈する。2は、条線文を施した後に粘土紐の懸垂文が付けられている。焼成は良く堅緻である。胎土中に多量の細砂及び金雲母が含まれている。色調は暗褐色を呈する。第125～127図、129・130図は、胴部の隆帯がその先端部で渦巻状になっている。このうち第129図は、頸部にヘアピン状の横位隆帯があり、胴部には隆帯の大きな渦巻文が特徴的に付いている。そして、粗雑ではあるが力強い条線が施されている。3は、渦巻の内側に竹管によって押し引き文が付けられている。1・2・4は同一個体である。焼成は良く堅い。胎土中に多量の砂粒・淡黄褐色粒及び金雲母が含まれている。色調は赤褐色～暗褐色を呈する。第131図1～3は、胴部上位にU字状の隆帯があり、その先端部の渦巻は中心部が突起している。頸部下が斜位、胴部は縦位の条線で充填している。5～9は同一個体である。横位の隆帯であるが、1段おきにヘラによって切り込みを入れ、ヘアピン状に表現している。下部はやはり渦巻と縦位の条線が施されている。焼成はあまり良くなく脆い。胎土中に小礫・砂粒及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は褐色～暗褐色を呈する。第132図は、横位の条線が特徴となっているものである。1は、条線間の隆起帯上に刻み目が付けられ、以下に縦位の条線が見られる。また4・6・9・12・14・16・17・19・21のように、条線の上を粘土紐の蛇行懸垂文が施されているものもある。8のように条線の下は全く無文というものもある。第133～137図は、籠目文土器あるいはバスケット形土器と呼ばれるものであり、第133図1は第109～111図の土器に良く似ているが、頸部の刻み目や隆帯及び胴部の条線などからやや後続のものと思われる。以下、第135図までは口縁部の条線が同心円状に、あるいは口縁に対して斜め方向に描出されているものである。第133図2～4、第134図1・6・7・11、第135図10は、いずれも条線の上に粘土紐の蛇行懸垂文が見られる。第136～137図は、口縁部の斜条線上に粘土紐を斜め逆方向から貼り付けて格子目文になっており、丁度籠のような表現になっている。条線＋粘土紐、あるいは粘土紐＋粘土紐というようにその組み合せ方はさまざまである。第136図3・4・6は、格子目文の上または下に円形浮文が並べて付けられている。第137図20は、口縁部が不明であるが、頸部に格子目文が施されており、胴部上位の張った部分に隆帯の貼り付けがあり、その中に蛇行する隆帯が見られる。以下は、条線が施されている。焼成は良く堅い。胎土中に細砂及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は明赤褐色を呈する。

c種:いわゆる曾利縄文及び曾利の系統に属するものであり、第138～144図がそれである。

第138図は頸部に横位の直線及び蛇行する粘土紐が交互に貼り付けられている。胴部にも懸垂する粘土紐の隆帯があり、他は縄文で充填されている。焼成は良く堅い。胎土中に多量の金雲母及び砂粒が含まれている。色調は灰褐色～明赤褐色を呈する。第139図は、口縁部に大形で装飾的な把手が付けられた土器である。粘土紐を渦巻あるいは蛇行して組合せることによって、文様効果を出している。また×字状の把手も付けられている。胴部は縄文が施されている。焼成は悪く脆い。胎土中に多量の砂粒及び小礫が含まれている。色調は明赤褐色を呈する。第141～143図は、頸部に隆帯や蛇行する粘土紐の貼り付けがあり、胴部は縄文が施された後に蛇行懸垂文が付けられている。1･5は、同一個体である。内面に輪積みの接合痕が明瞭に残されており、また指頭痕も見られるなど比較的粗い調整となっている。焼成はあまり良くない。胎土中に多量の金雲母及び砂粒が含まれている。色調は暗赤褐色を呈する。第141図3･6及び第142図3･5は波状口縁をなしている。このうち、第141図6は縄文を施した後に蛇行する粘土紐を貼り付けてある。またこれに接続して懸垂文が見られる。焼成は良く堅い。胎土中に多量の金雲母及び砂粒が含まれている。色調は黒褐色を呈する。第142図5は、口縁上端部から胴部にかけて縄文を施してあり、波頂部下にU字状の粘土の貼り付けがある。頸部は横位の直線及び蛇行する粘土紐、これに接続する懸垂文などが施されている。口縁のつくりは、一度平縁な口縁部を作った後に、粘土を重ねてあり波状口縁を形づくっている。焼成は良く堅い。胎土中に砂粒が含まれている。色調は暗褐色を呈する。第143図1は、口縁部に隆帯による半円区画が見られ、この上にヘラによって刻み目が付けられている。そしてこの区画内に縄文が施されている。焼成は良く堅い。胎土中に細砂が含まれている。色調は明赤褐色を呈する。3は、やや突起する口縁の波頂部下から直線的な隆帯が懸垂している。口縁部に1条の沈線が巡り、以下は縄文が施されている。第145図は、刺突文が特徴的なものである。1は、口縁上端部から棒状工具の先端により刺突文が施され、これに蛇行する粘土紐が懸垂している。4は、口縁部を欠損しており不明であるが、器形の全容がほぼわかるものである。無文の下と胴部下半にそれぞれ3条の隆帯が巡り、この区画内に半隆線の渦巻が表現されており、この上に刺突文が付けられている。また8のように10条の隆帯が施され、2条に刻みを入れて次の3条はそのまま、再び2条に刻みを入れるというものもある。いずれも焼成は良く堅い。胎土中に多量の淡黄褐色粒及び金雲母が含まれている。色調は赤褐色を呈する。第146図はすべて同一個体である。頸部に巾広の隆帯が巡り、これに懸垂する隆帯が付けられている。胴部は細い条線で充填されている。第147図は、胴部が強く張ったものであり、この張った稜部を境にU字・逆U字状の隆帯が施されいる。この接点には結び瘤状の粘土紐が見られる。またこれとは別に、粘土紐を鎖状にして胴部を垂下している。そしてこれらの中に細い条線が施されている。焼成はわりあい良い。胎土中に細砂が含まれている。色調は暗褐色～明赤褐色を呈する。

d種:曾利Ⅲ式の系統に属するものであり、第148～151図がそれである。第148図1は、口縁部に環状把手が付き、口唇上は渦巻状になっている。口縁は横S字あるいは円文が並んでいる。頸部に無文帯があり、胴部は巾広い沈線区画の中に条線が見られる。焼成は良く堅い。胎土中

に砂粒及び金雲母が含まれている。色調は暗灰褐色を呈する。3及び第149図3～14も同様の破片である。第148図2･4～6は、口縁部に波状突起を有するもの、あるいはその仲間であるが1･3のような無文帯の頸部ではなく、口縁の渦巻あるいは半円の隆帯の下には半隆線の渦巻があり(2)、その区画内に条線が施されている。第149図1･2は、口縁に渦巻及び横帯の区画があり、この中に縦位の条線が施されている。胴部の文様は不明であり、2も同様の破片である。第150図は同一個体である。口縁に横位の隆帯が鎖状に巡っており、また結び瘤状の粘土が付けられている。その下に隆帯が一巡している。胴部は無文となっている。焼成はわりあい良い。胎土中に細砂が含まれている。色調は灰褐色～淡褐色を呈する。第151図4･6･9･10は、口縁に半円の連続区画が見られ、この区画内に条線や刺突文が施されている。4はこの下に縄文が施されている。

e種:曾利Ⅳ式の系統に属するものであり、第152～155図1～15がそれである。口縁に1条～2条の幅広で浅い沈線を巡らせ、その下に浅い隆起帯によって半円区画や渦巻状のものが描出されているもの（第152図1･5･9･10･12･13）があり、また2～4･6～8のように口縁の沈線がなく、浅い隆起帯により半円区画や渦巻が施されるものもある。区画内には条線や刺突文が施されている。第153図1･2は、口縁の突起部に穿孔が見られる。また、突起部から口縁に添って沈線が描出されており、以下は縦位及び斜位の条線を施した後に、蛇行懸垂文やヘアピン状の沈線が施されている。3のように1条の沈線と条線及び蛇行懸垂文のものや、6のように条線と蛇行懸垂文のみというのもある。7のように口縁に2条の沈線が巡り、胴部は条線だけを充填しているものもある。11は、口縁に突起があり渦巻状に表現されている。口縁の上端部は、沈線とまでは呼べないまでもヘラ等によって若干のナゾリが行われており、以下に条線が施されている。第154図9は、不整円形の沈線区画の中に縦位あるいは斜位の沈線が施されており、面白い文様構成となっている。また、16のように平行沈線と直行するのものがある。第155図1～9･13～15は、竹管状工具により縦横あるいは斜位に施文されている。10～12は細い条線が施されているが、10は口縁部の内側に折り返しが付けられている。この「折り返し」はわりあいに簡単な接合が行われており、指頭痕が見られる。外面は細い条線が施されている。13もやはり内側への折り返し口縁となっているが、その返し部をよく撫でつけてある。横位の条線が施されている。

f種:曾利Ⅴ式の系統に属するものであり、第155図16～21及び第156図がそれである。無文のもの（第155図16～18）や条線のみのもの（19～21）、あるいは「ハ」の字文・綾杉文･雨垂文などが施されているもの（第156図）などがある。このうち、無文土器については全体が小型の土器である点以外、口縁が平縁であることと器面調整が比較的丁寧に行われている程度である。16は、器面内外に擦痕が見られる。19～21は、櫛歯状工具によって細い条線が描出されている。21は、口縁が指頭によって波状に形成されている。また、内面にも指頭による圧痕が見られる。第156図は、隆起帯の区画の中に「ハ」の字状沈線や綾杉文・雨垂文及び矢羽状条線が施されているものである。8･10･15は、ヘラ状工具の先端によって横位に刻み目が付けられている。12･13は、短い刻み目が左右交互に付けられている。

**第2類土器**—加曽利Ｅ式系土器群であり、ｂ種～ｅ種が出土している。

ｂ種：加曽利Ｅ2式の系統に属するものであり、第157図がそれである。これらは、口縁部文様帯が区画されており、地文に縄文が施されている。頸部は無文帯となっている。1･3･4は、口縁部がかなり内彎しておりその特徴から2式の、わけても2ｂ（神奈川考古による編年、1978･1980）に併行するものであろうし、浅鉢形をなすと思われる。16なども、おそらくⅡｂの範疇に入るものであろう。

ｃ種：加曽利Ｅ3式の系統に属するものであり、第158～161図がそれである。第158図1･2･4･6･12･15は撚糸文を地文としている。1は、口縁部に渦巻状の突起が見られるもので、やや内彎する口縁となっている。胴部にかけて撚糸文が縦位に施され、この上に竹管状工具により2条の沈線が横位及び弧状に描出されている。（6･12も同様）6は、比較的小形の深鉢であり口縁がかなり外反している。口縁部から胴部にかけて撚糸文で充填され、これに3条の沈線が施されている。第159図1･2は、やや内彎した口縁部に撚糸文が施され、横位の隆帯によって区画されている。8は、やはり撚糸文を地文としているが、これに連弧文が描出されている。第161図1は口縁に2条の沈線が巡り、この下に連弧文が施されている。8は、口縁に添って丸棒状工具によって横位の連続刺突文が2条付けられており、以下に連弧文が施されている。第160図1･4～7、第161図3は、波状口縁をなしており、口唇上は溝が切られている。また波頂部は、渦巻状になっている。口縁上部は無文となっており、頸部下に施文が見られる。器面に縄文を施した後に2条～4条の横位沈線が巡らされている。これは、少なくとも二段以上行われているものと思われる。2～4･8～13のように縦位あるいは渦巻状の文様が施されているが、こうした文様のあり方は2式期の後半に見られるパターンに似ている。第161図2は、口縁がかなり内彎しており約3cmほどの無文帯の下に1条の沈線があり、以下に縄文が施され半渦巻状の細い隆帯が見られる。焼成は良く堅い。胎土中に白色砂粒及び細砂が含まれている。色調は淡褐色を呈する。5は、口唇上にヘラによって刺突文が付けられ、口縁には縄文を施した後に細い波状の沈線が施されている。11･12は、頸部に波状あるいは直線の隆帯が巡り、この上下間に棒状工具の先端によって刺突が付けられている。胴部は縄文を施した後に竹管により渦巻文が付けられている。

ｄ種：加曽利Ｅ4式の系統に属するものであり、第162図～168図がそれである。第162図1は、キャリパー状の口縁をなしており、口縁部に1条の沈線が巡っている。口縁から胴部にかけては曲線的な沈線の区画の中に縄文が施されている。5も同様であり、逆方向から沈線を描出している。2～4･6～12および第163図は、渦巻やこれに接続して懸垂する隆帯が施され、この間に磨消縄文が施されている。第163図12は、沈線により半隆線状に区画されており、縄文が施されている。第164図1･2は、口縁を内側に折り曲げさらに等間隔で粘土をつまみ上げて小突起を付けている。口縁上端から胴部にかけては磨消縄文が施されている。内面はヘラにより粗い調整となっている。焼成はあまり良くない。胎土中に小礫及び砂粒が含まれている。色調は灰褐色～淡褐色を呈する。第165図1や第166図は大きく内彎した口縁であり、浅鉢状を呈するものと思われる。器面全体に縄文が施されている。第166図1は、胴部に懸垂する隆帯がありこれ

に刻み目が付いている。第164図～166図については、果たして該期のものとして捕らえてよいものか疑問である。第167図1･2は、肥厚外反する口縁の口唇上に細い刻み目が付けられている。2は、やや磨消した縄文が斜位に施されている。8･12は、口唇上に指頭による凹みが作られている。特に12については内面にも指頭痕が顕著に認められる。その形状はゆるやかな波状となっている。13～18･20･21のように、口縁が直行するものあるいは外反するものの差こそあれ、口縁上部に無文部があり、以下に縄文及び磨消縄文が施されるものがある。また、19や第168図1･2のように、無文帯の下に1条の沈線が巡り、以下に縄文が施されるものもある。

（参考文献）

○藤森栄一、『井戸尻』　中央公論美術出版　1965年
○大山柏、『新磯村字勝坂遺物包含地調査報告』　史前研究会小報　1968年（再版）
○中村龍雄編、『中部山地･縄文土器集成』　諏訪湖周辺考古学（2）　1980年
○静岡県袋井市教育委員会、『長者平遺跡』　1980･1984年
○江坂輝弥他、『日本考古学小辞典』　1983年
○中伊豆町教育委員会、『上白岩遺跡発掘調査報告書』　1979･1984年
○掛川市教育委員会、『掛川市遺跡分布調査報告書』　1984年
○静岡県埋蔵文化財調査研究所、『茶木畑遺跡』　1985年
○末木健、「曾利式土器様式」『縄文土器大観　3　中期』　1988年
○谷口康浩、「勝坂式土器様式」『縄文土器大観　2　中期』　1988年
○小林達雄、「縄文人の道具」『古代史復元　3』　1988年
○島田市教育委員会、『東鎌塚原遺跡発掘調査報告書』　1989年
○静岡県函南町教育委員会、『函南スプリングスゴルフ場用地内埋蔵文化財発掘調査報告書』(1)　1989年

※　勝坂式土器については、谷口康浩氏に種々ご指導頂いた。

| 図番号 | 型式 | 寸法 単位cm ()は推定 | 文様 | 器形・特徴 | 焼成・胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第174図 —1 | 勝坂Ⅱ | 口径 (19.7) 高さ (27.0) | 口縁部隆帯上に角押文、下部に爪形文が付けられている。胴部は縄文及びケムシ状の文様が施されている。 | 深鉢形 | 焼成良好 砂粒及び白色砂粒 | 赤褐色 |
| 2 | 勝坂Ⅲ | 口径 21 高さ 現高 27 | 直線、渦巻及び弧状の隆帯上にヘラ状工具によって刻み目が付けられている。区画内に渦巻文や三叉文、半截竹管文が見られる。文様帯は3つで胴部下半はなし。 | 深鉢形 口唇に隆帯頂部の4つの突起 | 焼成良好 白色砂粒 | 褐色 |
| 3 | 勝坂Ⅲ | 口径 19.5 高さ 31 | 直線、渦巻、弧状の隆帯上に刻み目及び爪形文。 文様帯は2つで胴部下半はなし。 | 深鉢形 口唇に隆帯頂部の4つの突起 | 焼成良好 多量の砂粒と小礫及び白色砂粒が含まれる | 淡褐色 |
| 4 | 勝坂Ⅲ | 口径 15 高さ 25.5 | 口縁部無文帯は2cm前後。1条の沈線隆帯による区画、隆帯上にヘラによる刻み目。区画内に半截竹管による重三角、ヘラの先端による刺突、胴部中央に2条の隆帯がめぐりヘラによる爪形文。胴部下半は縄文。 | 深鉢形 | 焼成良好 細砂及び金雲母 | 橙褐色 |
| 5 | 勝坂Ⅲ | 口径 30 高さ 36.5 | 口縁部に楕円横帯文。隆帯上に刻み目、区画内に半截竹管文。把手が2つ付く。文様帯は5つで胴部は上から半截竹管、重三角隆帯、隆帯に添って爪形文。区画内に三叉文、半截竹管文、楕円横帯文、区画内に縄文。 | 口縁が広がる深鉢 底部が張る | 焼成良好 多量の白色砂粒及び小礫 | おおむね褐色 |
| 6 | 勝坂Ⅲ | 口径 17 高さ 現高 19 | 弧状と楕円横帯文があり、半截竹管及びヘラの先端による刺突文。 | 深鉢形 | 焼成良好 多量の小礫及び白色砂粒 | 暗褐色 |
| 7 | 勝坂Ⅲ | 口径 17 高さ 現高 12 | 渦巻及び方形の隆帯、隆帯上に刻み目、隆帯区画内に三叉文、半截竹管で構成される。 | 深鉢形 口唇に隆帯頂部の突起 | 焼成わりあい良い 淡黄褐粒及び石英 | 暗褐色 |
| 8 | 勝坂Ⅲ? | 口径 (11.5) 高さ 現高 7 | 口縁部欠損。1条の幅広い沈線と連続弧状文。区画内にヘラの先端による刺突文。胴部下半は無文。 | 小形深鉢 | 焼成はあまり良くない 多量の砂粒、白色粒が含まれる | 淡褐色 |
| 9 | 勝坂Ⅲ? | 口径 16 高さ 現高 16.5 | 口縁部欠損。口縁下部にペン先状工具による連続押引文。1条の隆帯ヘラによる刺突文。胴部は縄文。 | 深鉢形 | 焼成はわりあい良い 細砂及び石英 | 明褐色 |
| 第175図 —1 | 勝坂Ⅲ | 口径 28.5 高さ 現高 34.5 | 垂下する隆帯及び弧状隆帯の組合せ。重三角や渦巻で構成され、半截竹管及び三叉文。文様帯は3つ、隆帯上にヘラによる交互の刺突文。胴部下半文様無し。 | 深鉢形 口唇に隆帯頂部の4つの突起 | 焼成は極めて良く堅緻 多量の砂粒及び白色粒 | 赤褐色 |

第6表　第Ⅱ次調査縄文復元土器観察表

| 図番号 | 型式 | 寸法 単位cm ()は推定 | 文様 | 器形・特徴 | 焼成・胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第175図 —2 | 勝坂Ⅲ | 口径 24 高さ 現高 23 | 弧状及び渦巻による隆帯。隆帯上に刺突、区画内にヘラによる交互の刺突。胴部は楕円横帯文で区画内に竹管文、口唇より垂下するヘアピン状隆帯、刻み目が付く。文様帯が付く。 | 深鉢形 | 焼成はわりあい良い 砂粒及び金雲母 | 褐色 |
| 3 | 勝坂Ⅲ | 口径 15.5 高さ 現高 18 | 口縁部に把手、胴部はヘラによる交互の刺突によって波状の隆帯が表現されている。以下は半截竹管、ヘラによる交互刺突。隆帯上に刻み目、胴部下半は横位の半截竹管。 | 深鉢形 | 焼成はわりあい良い 多量の砂粒 | 灰褐色 |
| 4 | 勝坂Ⅲ | 口径 22 高さ 現高 22.5 | 口縁部に4.1～4.6cmの無文帯。1条の沈線がありヘラによる刺突文。胴部は胴部は楕円横帯文で区画され、半截竹管文が施される。文様帯は2つ。 | 深鉢形 | 焼成はわりあい良い 多量の小礫 | 淡褐色 |
| 5 | 勝坂Ⅲ | 口径 (28.5) 高さ 現高 25.5 | 弧状、方形、重三角による区画。区画内に半截竹管文及び三叉文隆帯上に刻み目、文様帯は3つ。口唇より垂下するヘアピン状隆帯、刻み目が付く。 | 深鉢形 | 焼成良好 多量の砂粒 | 淡褐色 |
| 6 | 勝坂Ⅲ | 口径 38 高さ 現高 41.5 | 口縁に縦位の半截竹管、3条の隆帯、1条目に刻み目。以下は弧状隆帯、区画内にヘラによる刻み目及び半截竹管、三叉文。胴部中央に2条の沈線、以下に縄文。 | 深鉢形 | 焼成は極めて良く堅緻 多量の砂粒、石英 | 灰褐色 |
| 第176図 —1 | 勝坂Ⅲ | 口径 (35) 高さ 現高 39 | 口縁部は重三角及び渦巻による隆帯。口唇より垂下する隆帯、頂部に突起。胴部は隆帯区画内に竹管文。胴部下半は楕円横帯文、隆帯上に刻み目が付く。文様帯は3つ。 | 深鉢形 | 焼成良好 多量の白色砂粒 | 明褐色 |
| 2 | 勝坂Ⅲ | 口径 16 高さ 現高 24 | 口縁に5cm前後の無文帯。1条の沈線、口縁下に楕円及び楕円横帯文、隆帯上に刻み目。区画内に竹管文、胴部中位に竹管文、ヘラによる交互の刺突文。以下は無文。 | 深鉢形 | 焼成はあまり良くない 小礫及び石英 | 明褐色 |
| 3 | 勝坂Ⅲ | 口径 (14.5) 高さ 18 | 口唇は大きく内彎している。口縁より胴部下半に垂下する隆帯、これに接合する胴部下半を巡る隆帯。隆帯上に刻み目、区画内は細い竹管文が施される。 | 深鉢形 | 焼成は良好 細砂 | 褐色 |
| 4 | 勝坂Ⅲ | 口径 (15) 高さ 現高 19 | 口唇より垂下するヘアピン状隆帯。2条の隆帯が巡り、二本目の隆帯に刻み目。胴部は楕円形の隆帯、区画内に竹管文、下半にわずかな隆帯があり刻み目が付く。 | 深鉢形 | 焼成はわりあい良い 多量の小礫 | 灰褐色 |
| 5 | 勝坂Ⅲ | 口径 18 高さ 現高 16.5 | 胴下半部～底部は隆帯の組み合せで渦巻がある。隆帯上に刻み目が付く。 | 深鉢形 | 焼成は良好 多量の淡黄褐色粒 | 赤褐色 |

| 図番号 | 型式 | 寸法 単位cm ()は推定 | 文様 | 器形・特徴 | 焼成・胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第176図 —6 | 勝坂Ⅲ | 口径 16.5 高さ 現高 25.5 | 口縁はやや内彎し波状を呈する。波頂部より隆帯が垂下し逆「ハ」の字の刻み目が付く。楕円横帯文があり、区画内に竹管文、竹管による渦巻など、胴部下半に2条の隆帯が巡り、隆帯上に刻みめが見られる。 | 深鉢形 波状突起 | 焼成は良好 小礫、白色砂粒 | 橙褐色 |
| 7 | 勝坂Ⅲ | 口径 (17) 高さ 現高 13.5 | 口唇部より弧状の隆帯。区画内に竹管文が施される。胴部下半に隆帯が巡り刻み目が見られる。 | 深鉢形 隆帯頂部の4つの突起 | 焼成は良好 小礫及び長石 | 灰褐色 |
| 8 | 勝坂Ⅲ | 口径 16.5 高さ 現高 22 | 口縁に2.1～2.3cmの無文帯。2つの突起が対応してあり隆帯が垂下し、これに対応して隆帯が垂下する。口縁(隆帯間)には半円状の隆帯、区画内に「十」字状の竹管文、隆帯上に刻み目が見られる。 | 深鉢形 | 焼成は良好 細砂 | 明橙褐色 |
| 第177図 —1 | 勝坂Ⅲ | 口径 28.5 高さ 現高 28 | 口縁部に粘土紐の貼り付け、隆帯が一巡し、「　」状の刺突文、胴部は蛇行する隆帯で「　」状の刻み目、条間に竹管文、以下に2条の隆帯が巡り、ヘラの先端による刻み目。 | 深鉢形 | 焼成は良好 多量の小礫及び石英 | 淡褐色 |
| 2 | 勝坂Ⅲ | 口径 (18) 高さ 現高 18.5 | 口縁部に剣先状の突起が付く。この突起上部から裾にかけて刻み目がある。突起頂部下は粘土の貼り付けが垂下し、これに交互の刻み目、ヘラによる波状沈線が2条巡り、半隆帯が一巡、刻み目が見られる。以下は、縄文が施される。 | 深鉢形 | 焼成はわりあい良い 砂粒及び石英 | 褐色 |
| 3 | 勝坂Ⅲ | 口径 17 高さ 18.5 | 波状口縁で口縁に添って刻み目、無文帯があり、隆帯が一巡している。これにヘラあるいは棒状工具によって凹みが付けられている。胴部は縄文が施されている。 | 深鉢形 | 焼成は良好 小礫及び淡黄褐色粒 | 暗赤褐色 |
| 4 | 勝坂Ⅲ | 口径 (37) 高さ 現高 46 | 口縁部を欠損、楕円横帯文、蛇行隆帯文、楕円横帯文の3つの文様帯で構成される。隆帯上には交互刺突や刻み目が見られる。区画内には、竹管文が施されている。 | 深鉢形 | 焼成はあまり良くない 小礫及び砂粒、淡黄褐色粒、白色粒 | 明褐色 |
| 5 | 勝坂Ⅲ | 口径 22 高さ 現高 29 | 口唇に4つの突起があり、これから垂下する隆帯が付き、胴部中央と下部に一巡する隆帯につながっている。隆帯上に刻み目上半は渦巻に竹管の交互刺突と三叉文、下半は蛇行隆帯に竹管文。 | 深鉢形 | 焼成は良好 淡黄褐色粒 | 暗褐色 |
| 6 | 勝坂Ⅲ | 口径 29 高さ (21) | 口縁は大きくラッパ状に開く。5.8～6.0cmの無文帯を持ち、竹管による沈線文及び蛇行隆帯文が組み合されている。隆帯上には刻み目が見られる。胴部下半から底部にかけて縄文が施される。 | 深鉢形 口唇上に環状把手 | 焼成はわりあい良い 白色砂粒 | 暗褐色 |
| 第178図 —1 | 勝坂Ⅲ | 口径 (27.5) 高さ 現高 27.5 | 口縁を欠損しているが大きく内彎しているものと思われる。頸部に1条の隆帯が巡り、刻み目が見られる。これから2本一単位の隆帯が4つ垂下し、底部近くまで有り、条間に渦巻の隆帯が見られ三叉文が付く。下部には竹管文が施される。底部はやや張る。 | 深鉢形 | 焼成は良く堅緻 細砂 | 明褐色 |

| 図番号 | 型式 | 寸法 単位cm ()は推定 | 文様 | 器形・特徴 | 焼成・胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第178図 —2 | 勝坂Ⅲ | 口径 15 高さ 現高 28 | 口縁を欠損している。垂下する隆帯や楕円横帯文状のものが組み合されている。隆帯状に刻み目、竹管による刺突文や渦巻文が施されている。 | 深鉢形 | 焼成は良好 細砂 | 橙褐色 |
| 3 | 勝坂Ⅲ | 口径 (13) 高さ 現高 20 | 口縁部を欠損している。頸部下に隆帯が一巡し、これに接続して4本の隆帯が垂下している。隆帯上に刻み目、条間は細い竹管文が施されている。 | 深鉢形 | 焼成は良好 淡黄褐色粒 | 黒褐色 |
| 4 | 勝坂Ⅲ | 口径 15.5 高さ 現高 18 | 口縁と胴部上半及び底部の大部分を欠損している。楕円横帯文及び渦巻の隆帯などからなり、竹管により施文されている。隆帯上に刻み目が見られる。 | 深鉢形 | 焼成は良好 白色砂粒 | 褐色 |
| 5 | 勝坂Ⅲ | 口径 (20) 高さ 現高 23.5 | 口縁部を欠損している。頸部下に隆帯が巡り、胴部は垂下する4本の隆帯に接続して、三角形、半円形及び蛇行の隆帯が施されている。隆帯上に刻み目が見られる。 | 深鉢形 | 焼成はわりあい良い 小礫及び白色粒 | 明褐色 |
| 6 | 勝坂Ⅲ | 高さ 現高 34.5 | 口縁はかなり広がる。一部が残されているが、波状突起をなす。半隆帯状の区画の中に、渦巻の隆帯が見られる。 | 深鉢形 | 焼成は良好 小礫、長石及び白色粒 | 褐色 |
| 7 | 勝坂Ⅲ | 高さ 現高 14 | 口縁部を欠損している。胴部が大きく張り球状を呈する。蛇行する隆帯や半隆帯の渦巻を組合せている。隆帯上に刻み目が見られる区画内には三叉文や竹管文が施される。補修孔が2つある。 | 鉢形 | 焼成は良好 多量の白色砂粒及び黒雲母 | 黒褐色 |
| 8 | 勝坂Ⅲ | 高さ 現高 27.5 | 口縁部を欠損している。細長い胴部に様々な隆帯が組み合され、隆帯上に刻み目が見られる。区画内に細い竹管文が施される。くびれた腰部の腰のあたりに連弧状の隆帯がある。内部文様はなし | 深鉢形 | 焼成は良好 小礫及び白色粒 | 淡褐色 |
| 第179図 —1 | 勝坂Ⅲ | 口径 (23) 高さ 現高 30 | 口縁部を欠損している。頸部に渦巻状の痕跡が見られる。胴部は縄文が施される。 | 深鉢形 | 焼成はわりあい良い 小礫及び白色粒 | 淡褐色 |
| 2 | 勝坂Ⅲ | 高さ 現高 9 | 底部のみであり、ソロバン玉状を呈している。縄文が施されている。 | 深鉢形 | 焼成はわりあい良い 小礫及び細砂 | 褐色 |
| 3 | 勝坂Ⅲ | 口径 (23.5) 高さ 現高 18 | 口縁部を欠損しているが、大きく広がり内彎するものであろう器面は縄文で充填されている。 | 深鉢形 | 焼成は良好 多量の砂粒 | 赤褐色 |

| 図番号 | 型式 | 寸法 単位cm ()は推定 | 文様 | 器形・特徴 | 焼成・胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第179図 —4 | 勝坂Ⅲ | 口径 (19) 高さ 38 | 刻み目のある大きな突起が口縁に一つ見られる。渦巻及び「L」字状の半隆帯が垂下し、ヘラによる刺突文や竹管文がある。他は底部近くまで縄文で充填される。 | 深鉢形 | 焼成は良く堅緻 多量の白色砂粒及び淡黄褐色粒 | 赤褐色 |
| 5 | ? | 底径 7.5 高さ 現高 8 | 胴部下半のみで、縄文が施される。 | 小形鉢形 | 焼成は良好 砂粒 | 淡褐色 |
| 6 | 勝坂Ⅲ | 口径 14 高さ 現高 15 | 胴部下半を欠損している。口縁に2つの把手が付いている。文様は口縁部に集中し、逆「く」の字状に内彎する上面に弧状の隆帯があり、これにヘラの先端によって押し引き文が施されている。この隆帯間に「ねじりあめ」状の粘土紐の貼り付けがある。側面はヘラによる刺突が見られる。頸部には隆帯が巡り刻み目がある。胴部は縄文。 | 深鉢形 | 焼成は良好 小礫及び白色砂粒 | 明褐色 |
| 7 | 勝坂Ⅲ | 口径 21 高さ 現高 27 | 口唇上に蛇体と思われる突起が見られるが欠損している。口縁部に獣面把手が付いている。楕円横帯文が見られ区画内に竹管文が施されている。隆帯上には刻み目、胴部下半は縄文が施される。 | 深鉢形 (トロフィー形) | 焼成は良好 多量の砂粒、白色粒 | 褐色 |
| 8 | ? | 底径7.5 高さ 現高 7 | 胴部下半のみで縄文が施されている。 | 小形深鉢 | 焼成は良好 砂粒 | 淡褐色 |
| 9 | ? | 高さ 現高 19 | 口縁部を欠損している。胴部には縄文が施されている。 | 深鉢形 | 焼成は良好 小礫及び淡黄褐色粒 | 明褐色 |
| 10 | 勝坂Ⅲ | 口径 (24) 高さ 現高 26 | キヤリパー状の口縁であり、渦巻状の貼り付けがある。半円・円形の隆帯があり竹管文、頸部下は楕円横帯文が巡っている。下半は縄文が施されている。 | 深鉢形 | 焼成はわりあい良い 多量の砂粒及び白色粒、石英 | 褐色 |
| 第180図 —1 | 勝坂Ⅲ | 口径 (24.5) 高さ 現高 39.5 | 頸部に隆帯が巡り、把手が1つ付けられている。文様帯は3つで隆帯により区画されている。半円・楕円横帯文が施され、区画内に竹管文が見られる。 | 深鉢形 | 焼成はわりあい良い 小礫及び砂粒 | 明褐色 |
| 2 | 勝坂Ⅲ | 口径 (27) 高さ 現高 36 | 口唇から2条一単位の隆帯が4組み垂下している。頸部にも2条巡り、胴部はU字、逆U字の2条の隆帯、あるいは半隆帯の渦巻などが組み合されている。隆帯上に刻み目が見られる。 | 深鉢形 | 焼成は良く堅緻 小礫及び白色粒 | 淡橙褐色 |
| 3 | 勝坂Ⅲ | 口径 (18) 高さ 現高 26.5 | 底部を欠損している。頸部に隆帯が巡り、胴部下半に斜めの隆帯が垂下している。隆帯上に刻み目がある。区画内に竹管による渦巻・三叉文下部は半隆帯に刻み目がある。 | 深鉢形 | 焼成は良好 砂粒、白色粒 | 赤褐色 |

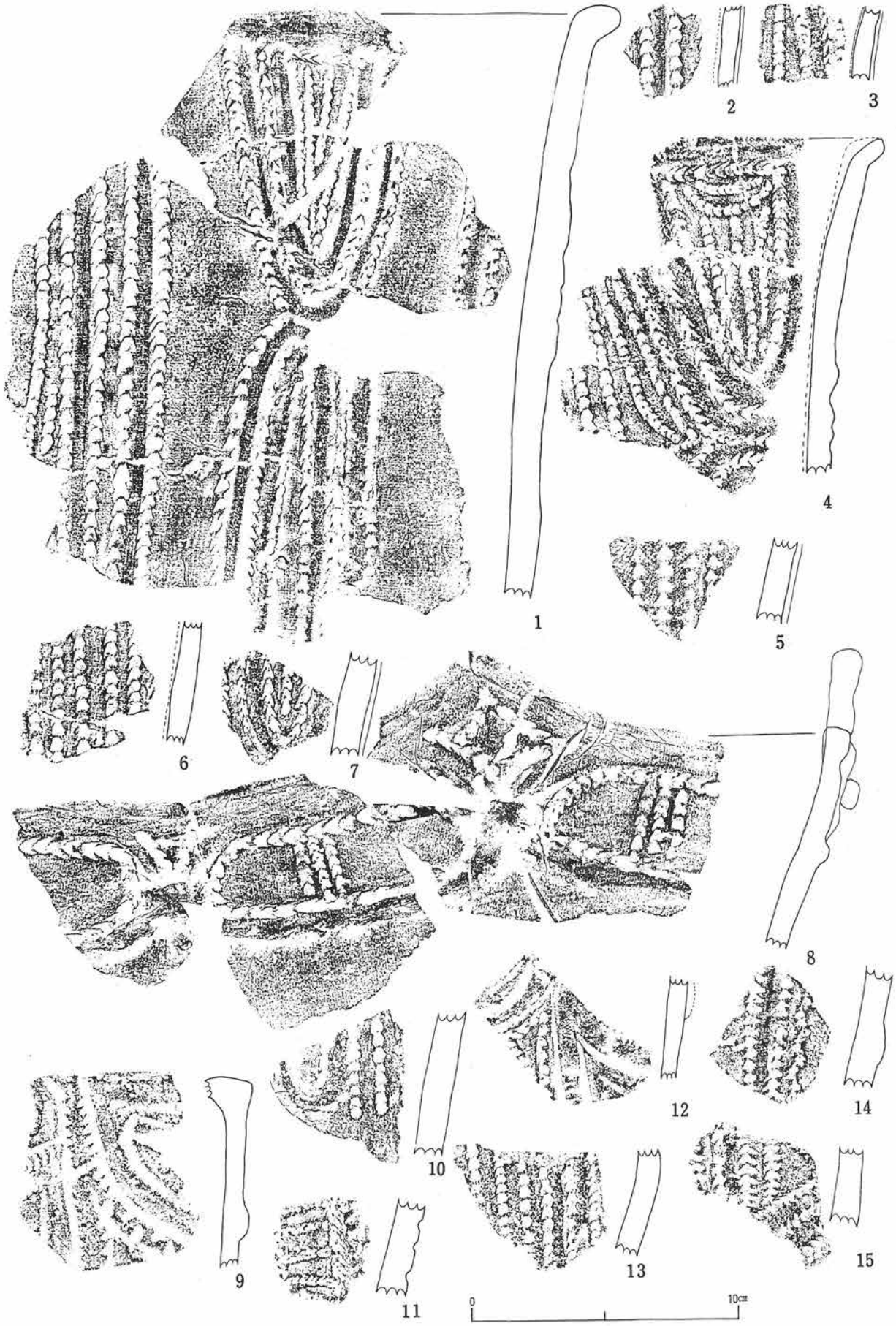
| 図番号 | 型式 | 寸法 単位cm ()は推定 | 文様 | 器形・特徴 | 焼成・胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第180図 —4 | 勝坂Ⅲ ? | 口径 (18) 高さ 現高 13 | 胴部下半を欠損している。口縁に大きな把手が付いている。頸部に隆帯が巡り、胴部は半隆帯の渦巻が施されている。下部は隆帯上に刻み目が付く。 | 深鉢形 (トロフィー形) | 焼成は良好 多量の砂粒、石英 | 明褐色 |
| 5 | 勝坂Ⅲ | 口径 (39) 高さ 現高 40 | 口縁部を欠損している。楕円横帯文が施され、以下は縄文が施されている。 | 深鉢形 | 焼成は良好 小礫及び細砂 | 淡灰褐色 |
| 第181図 —1 | 勝坂Ⅲ | 口径 (53) 高さ 現高 48 | 口縁下の頸部に隆帯が巡っている。隆帯の組み合せからなる区画内は、三叉文や竹管文が施される。円及び楕円横帯文が見られる。 | 深鉢形(大型) | 焼成は極めて良く堅緻 淡黄褐色粒及び金雲母、砂粒 | 褐色 |
| 2 | 勝坂Ⅲ | 口径 (58) 高さ 現高 43 | 同上 連続弧状文及び渦巻文が施され、鎖状の粘土紐が貼り付けられている。 | 同上 | 焼成は極めて良く堅緻 砂粒及び淡黄褐色粒 | 褐色 |
| 第182図 —1 | 勝坂Ⅲ | 口径 (43) 高さ 現高 49 | 口縁頸部に隆帯が巡り、刻み目が付く。この下に楕円横帯文が施され、胴部は縄文が見られる。底部を欠損している。 | 深鉢形 | 焼成は良く堅緻 小礫、淡黄褐色粒 | 橙褐色 |
| 2 | ? | 底径 7 高さ 現高 7.5 | 口縁部～胴部上半を欠損している。垂下する隆帯や半隆帯の渦巻が見られ、この上に刻み目が付く。細い竹管文が走り、その横に刻み目が見られる。 | 小形深鉢 | 焼成は良好 細砂 | 赤褐色 |
| 3 | 勝坂Ⅲ | 口径 16.5 高さ 現高 20 | 口縁に段帯がありキャリパー状となる。頸部に隆帯が巡り、胴部は隆帯が組み合されている。隆帯上に刻み目、区画内は三叉文や竹管文が施されている。 | 深鉢形 | 焼成はわりあい良い 多量の砂粒 | 暗褐色 |
| 4 | 勝坂Ⅳ | | 胴部下半から底部を欠損している。口唇上に突起を持ち、口縁から胴部にかけて垂下した隆帯が連続して見られ、ヘラの押し引きによる刻み目が付けられている。 | 深鉢形 | 焼成は良好 小礫及び金雲母 | 暗赤褐色 |
| 5 | 勝坂Ⅳ | 口径 (20) 高さ 19.5 | 底部を欠損している。口縁はキャリパー状となる。連続弧状や各隆帯の組み合せからなる。刻み目は見られない。 | 深鉢形 | 焼成はわりあい良い 多量の砂粒及び黒雲母 | 明橙褐色 |
| 第183図 —1 | 勝坂様式 | 口径 31 高さ 現高 12.5 | 口縁部に隆帯が5条巡り、縦位に刺突文が付けられる。 | 浅鉢形 | 焼成は良く堅緻 砂粒 | 淡褐色 |

| 図番号 | 型式 | 寸法 単位cm ()は推定 | 文様 | 器形・特徴 | 焼成・胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第185図 —6 | 勝坂系 | 口径 19 底径 (34) 高さ 現高 17.5 | 口縁は垂直に立ち上がり、鍔は平縁である。鍔元の器面にはほぼ等間隔で丸棒状工具により斜めに孔が貫通している。胴部には竹管による2条の半円が連続して施されている。胴部に最大径を持つ。 | 有孔鍔付 | 焼成は極めて良く堅緻 細砂 | 暗褐色 |
| 7 | 勝坂系 | 口径 11.5 高さ 現高 13 | 口縁は垂直に立ち上がり、短い鍔を持つ、鍔元には細い丸棒により斜めに小孔が貫通している。把手が1つ付き胴部全体に縄文が見られる。 | 有孔鍔付 | 焼成は良く堅緻 砂粒及び淡黄褐色粒 | 赤褐色 |
| 第186図 —1 | 曾利Ⅰa | 口径 26 高さ 現高 34 | 無文の口縁がキャリパー状を呈する。頸部に隆帯の区画が見られる。胴部は竹管による条線文が施される。また粘土紐の貼り付けによる直線あるいはL字状懸垂文がありこの隆帯上に刻み目が付いている。 | 深鉢形 | 焼成は良く堅緻 多量の砂粒及び金雲母 | 赤褐色 |
| 2 | 曾利Ⅰa | 口径 23 高さ 現高 25 | 大きくくびれた頸部に3条の隆帯が巡っている。その下に竹管により1cm前後の押し引きをした後、胴部に条線文を施している。またU字状の粘土紐の貼り付けが特徴的でこの中位に半隆帯の渦巻も見られる。 | 深鉢形 | 焼成は良好 砂粒及び金雲母 | 明赤褐色 |
| 3 | 曾利Ⅰ (勝坂Ⅳ) | 口径 17 高さ 現高 14.5 | 口唇部から頸部まで、全面に粘土紐を使って蛇行曲線で装飾されている。胴部は無文であるが、下位に隆帯が見られる。底部は欠損している。 | 深鉢形 | 焼成は良好 細砂 | 暗褐色 |
| 4 | 曾利Ⅰb | 口径 17 高さ 現高 (21.5) | 頸部は蛇行する粘土紐の貼り付けが見られる。胴部は変形U字文などがあり、竹管による条線文が施されている。 | 深鉢形 | 焼成は良好 砂粒及び淡黄褐色粒 | 明褐色 |
| 5 | 曾利Ⅰb | 口径 29.5 高さ 現高 31 | 頸部に1条の隆帯が巡り、下位に斜めの条線、その下から胴部にかけては縦横の隆帯で刻み目が付く。逆S字渦巻文があり、他は条線文で充填される。 | 深鉢形 | 焼成は良好 小礫及び細砂 | 灰褐色 |
| 第187図 —1 | 曾利Ⅰb | 口径 39.5 高さ 現高 58.5 | 頸部は蛇行する粘土紐の貼り付けで飾られ、胴部はU字文や直線的懸垂文が連結されている。他は竹管による条線文で充填されている。 | 深鉢形 | 焼成は極めて良く堅緻 多量の白色粒、淡黄褐色粒 | 褐色～黒褐色 |
| 2 | 曾利Ⅰb | 口径 43 高さ 現高 49.5 | 頸部は波状の粘土紐が貼り付けられ、渦巻や蛇行する隆帯が懸垂文と連続している。他は条線文によって充填されている。 | 深鉢形 | 焼成は良く堅緻 多量の金雲母及び砂粒 | 明褐色 |
| 第188図 —1 | 曾利Ⅱb | 内径 37.5 外径42 高さ 58 | 頸部は4条の隆帯が巡り、さらに波状の粘土紐が付いている。横S字文や懸垂する粘土紐がある。地文は縄文が施されている。 | 深鉢形 | 焼成は良く堅緻 多量の金雲母及び淡黄褐色粒 | 暗赤褐色 |

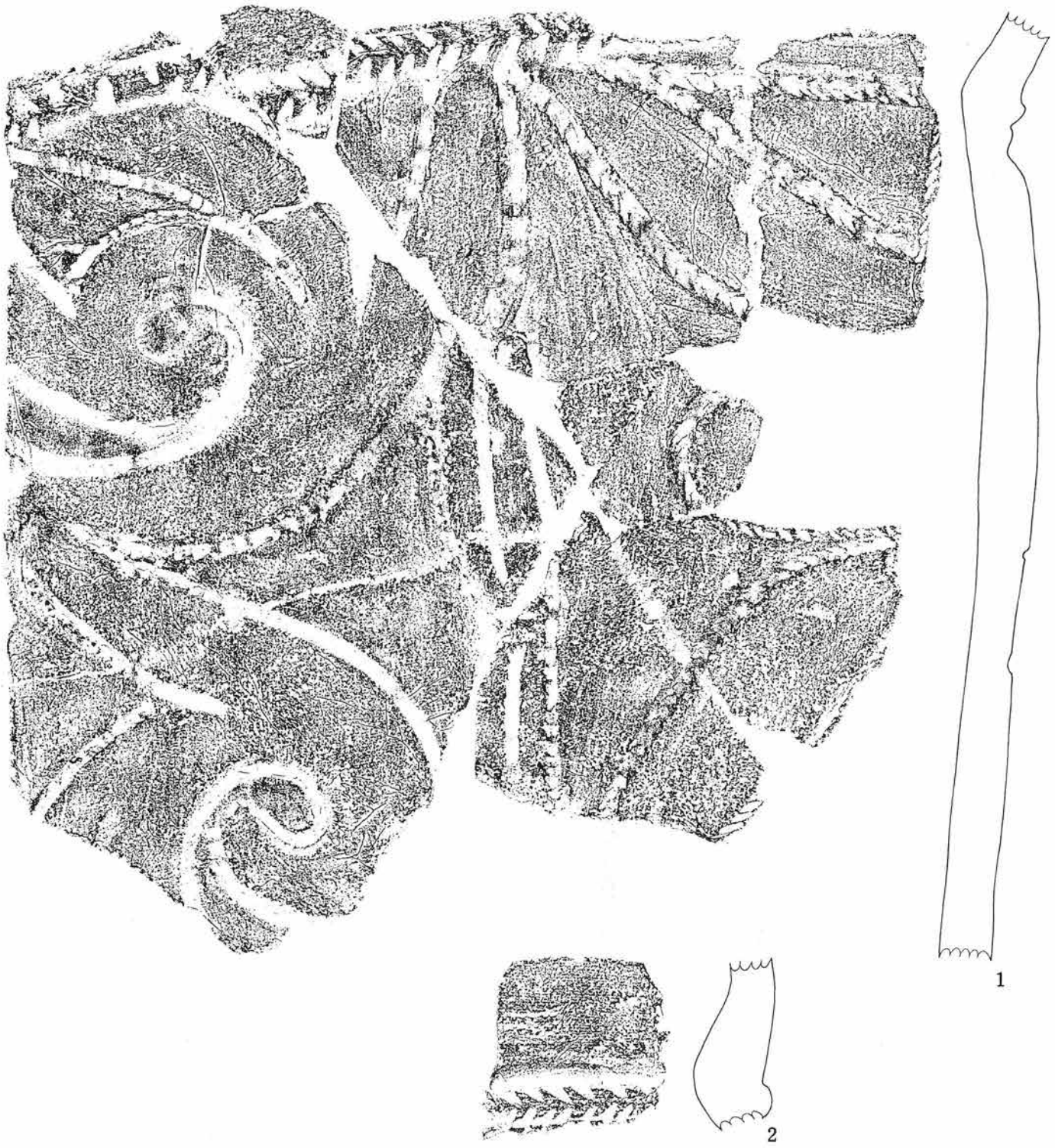
| 図番号 | 型式 | 寸法 単位cm ()は推定 | 文様 | 器形・特徴 | 焼成・胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第188図 —2 | 曾利Ⅱb | 口径 37.5 高さ 51 | 頸部に波状の粘土紐が2条貼り付けられ、条間は斜めの条線が施される。胴部はU字文が見られ両端は渦巻になる。これに蛇行する懸垂文が連続している。隆帯上に刻み目がある。地文は条線文。 | 深鉢形 | 焼成はあまり良くない 小礫及び多量の淡黄褐色粒、砂粒 | 暗灰褐色 |
| 第189図 —1 | 曾利Ⅱ | 口径 28.5 高さ 現高 21 | 口縁は大きく広がる。蛇行する粘土紐が組み合されて頸部を飾っている。胴部は逆U字や蛇行する懸垂文が見られる。他は条線文がある。 | 深鉢形 | 焼成は良好 多量の淡黄褐色粒 | 暗赤褐色 |
| 2 | 曾利Ⅱb | 口径 28 高さ 29.5 | 頸部は2条の隆帯間に蛇行する粘土紐が見られる。胴部にはU字文があり両端は渦巻となる。この隆帯上には縄文が付く。この渦巻の下やU字文に直行して蛇行懸垂文が見られる。 | 深鉢形 | 焼成は良好 細砂 | 明赤褐色 |
| 3 | 曾利Ⅱ | 口径 (27) 高さ 現高 21 | キャリパー状の口縁である。頸部に3条の隆帯が巡り、これに連結して1条及び3条の隆帯が懸垂している。地文は縄文が施されている。 | 深鉢形 | 焼成は良好 小礫及び砂粒 | 淡褐色 |
| 4 | 曾利Ⅱb | 口径 50 高さ 現高 36.5 | 頸部は隆帯上に蛇行する粘土紐の貼り付けが見られる。胴部は直線あるいは渦巻の懸垂文が付けられる。他は条線が施される。 | 深鉢形 | 焼成は良く堅緻 多量の砂粒及び淡黄褐色粒 金雲母 | 黄褐色～赤褐色 |
| 第190図 —1 | 曾利Ⅱ | 口径 15.5 高さ 現高 27.5 | 口縁部は欠損しており不明。頸部は蛇行する粘土紐を貼り付けている。胴部は粘土紐の貼り付けのみで地文はない。 | 深鉢形 | 焼成は良く堅緻 小礫及び細砂 | 赤褐色 |
| 2 | 曾利Ⅱ | | 口唇上は溝が切られており、口縁上部には渦巻が付き、条線が施されている。頸部は波状の粘土紐や半隆帯が見られ、以下は条線である。 | 深鉢形 | 焼成は良好 淡黄褐色及び金雲母 | 赤褐色 |
| 3 | 曾利Ⅱ 曾利縄文 | 口径 28 高さ 24 | 波状口縁を呈し、口唇上には竹管による溝が見られる。口縁は粘土紐の蛇行と渦巻、胴部は直線及び蛇行懸垂文が付けられている。地文には縄文が施されている。 | 深鉢形 | 焼成は良好 多量の砂粒 | 褐色 |
| 4 | 曾利Ⅱ 曾利縄文 | 口径 23.5 高さ 26 | 口縁下部から縄文が施され、頸部は蛇行する粘土紐、これに連結して蛇行懸垂文が付けられている。胴部は縄文の他、擦痕状の沈線が走る。 | 深鉢形 | 焼成は良好 細砂 | 明褐色 |
| 5 | 曾利系 | 口径 13 高さ 現高 14.5 | 口縁に蛇行する粘土紐が付き、これに連結して蛇行懸垂文が見られる。他は無文である。 | 深鉢形 | 焼成は良く堅緻 細砂 | 暗褐色 |

| 図番号 | 型式 | 寸法 単位cm ()は推定 | 文様 | 器形・特徴 | 焼成・胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第190図 —6 | 曾利Ⅱ 曾利縄文 | 口径 33.5 高さ 39.5 | 口縁上端に粘土紐による隆帯区画が見られこの中に縄文が施されている。頸部までは無文であり、2条の沈線が巡らされた下(胴部)には縄文が充填し、この中を沈線が走っている。 | 深鉢形 | 焼成は良好 細砂 | 赤褐色 |
| 第191図 —1 | 曾利Ⅲ | 口径 34.5 高さ 現高 27 | 口縁から胴部下半まで条線が充填している。頸部には2条～3条の沈線が巡っている。 | 深鉢形 | 焼成は良好 多量の砂粒及び淡黄褐色粒 | 黒褐色 |
| 2 | 曾利Ⅲ | 口径 26 高さ 現高 27.5 | 口縁部に環状把手が3つ付いている。渦巻による区画が見られる。胴部は半隆帯の渦巻が施され、区画内に条線が見られる。 | 深鉢形 | 焼成は良好 細砂 | 橙褐色 |
| 3 | 曾利Ⅲ | 口径 21 高さ 現高 24.5 | 口縁部を欠損している。地文に縄文が施され、2条一単位の竹管文が底部近くまで見られる。 | 深鉢形 | 焼成は良く堅緻 細砂及び黒雲母 | 淡灰褐色 |

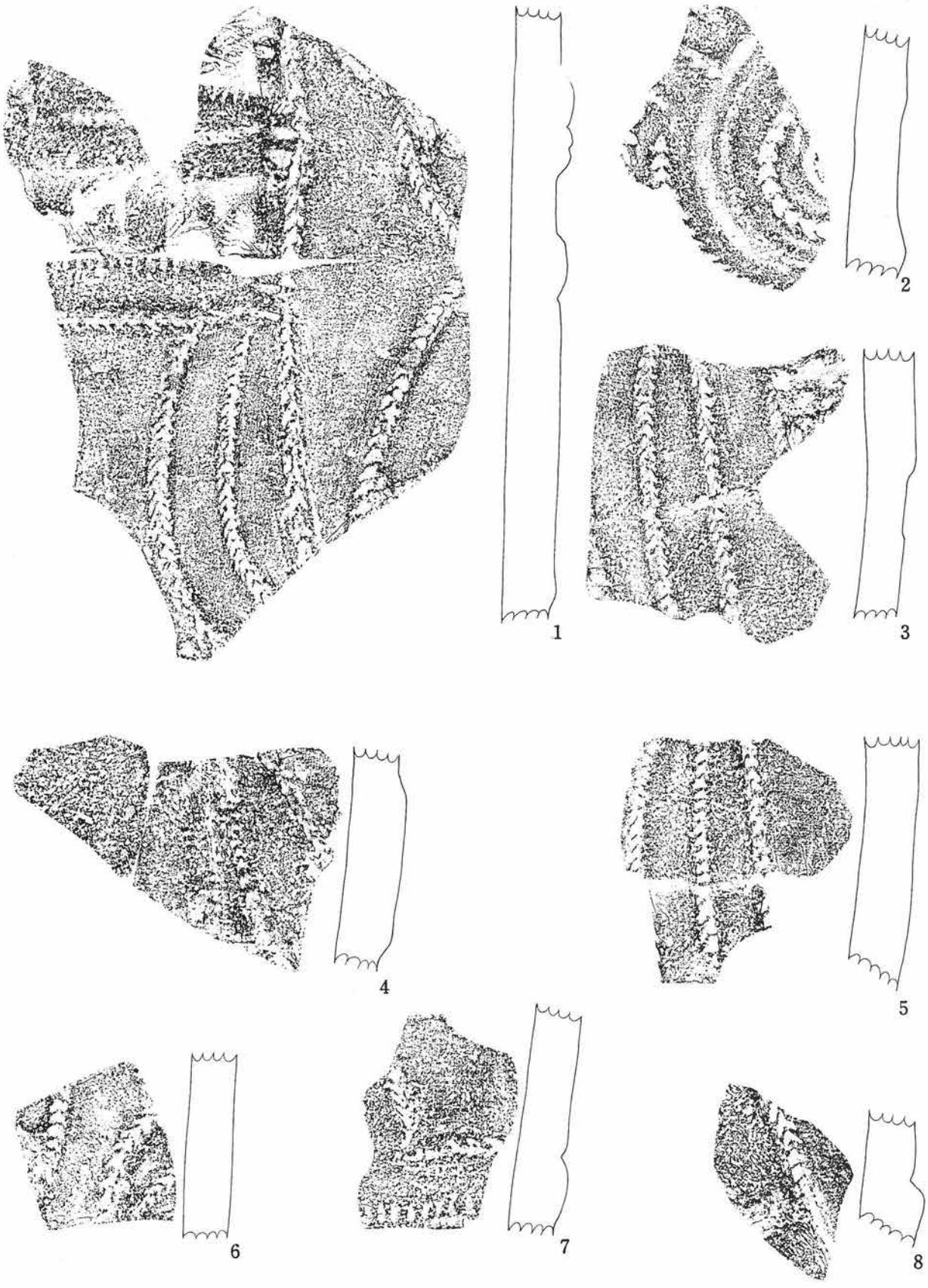
※第174図～191図と図版32～60の土器番号は共通である。



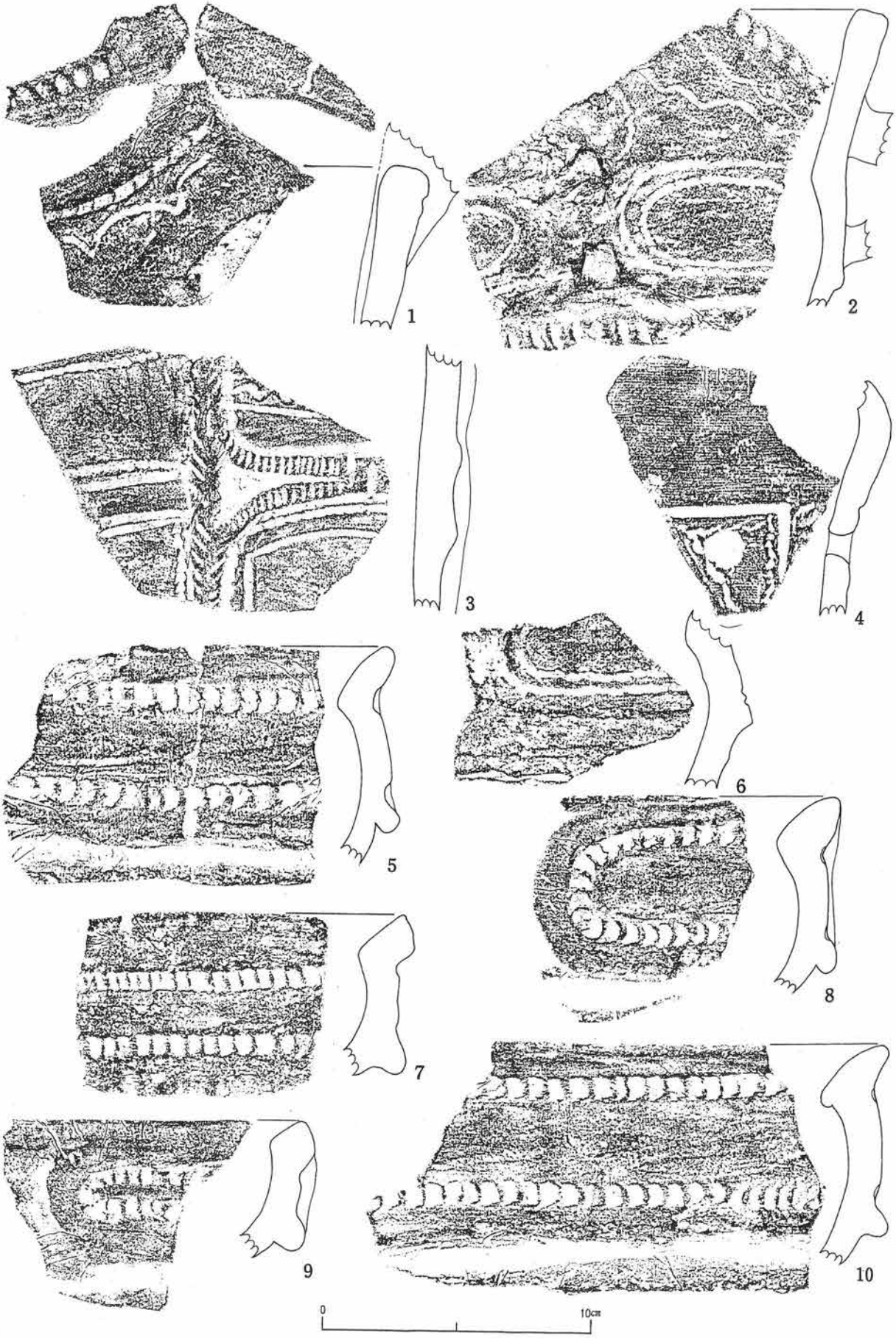

第43図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（５）



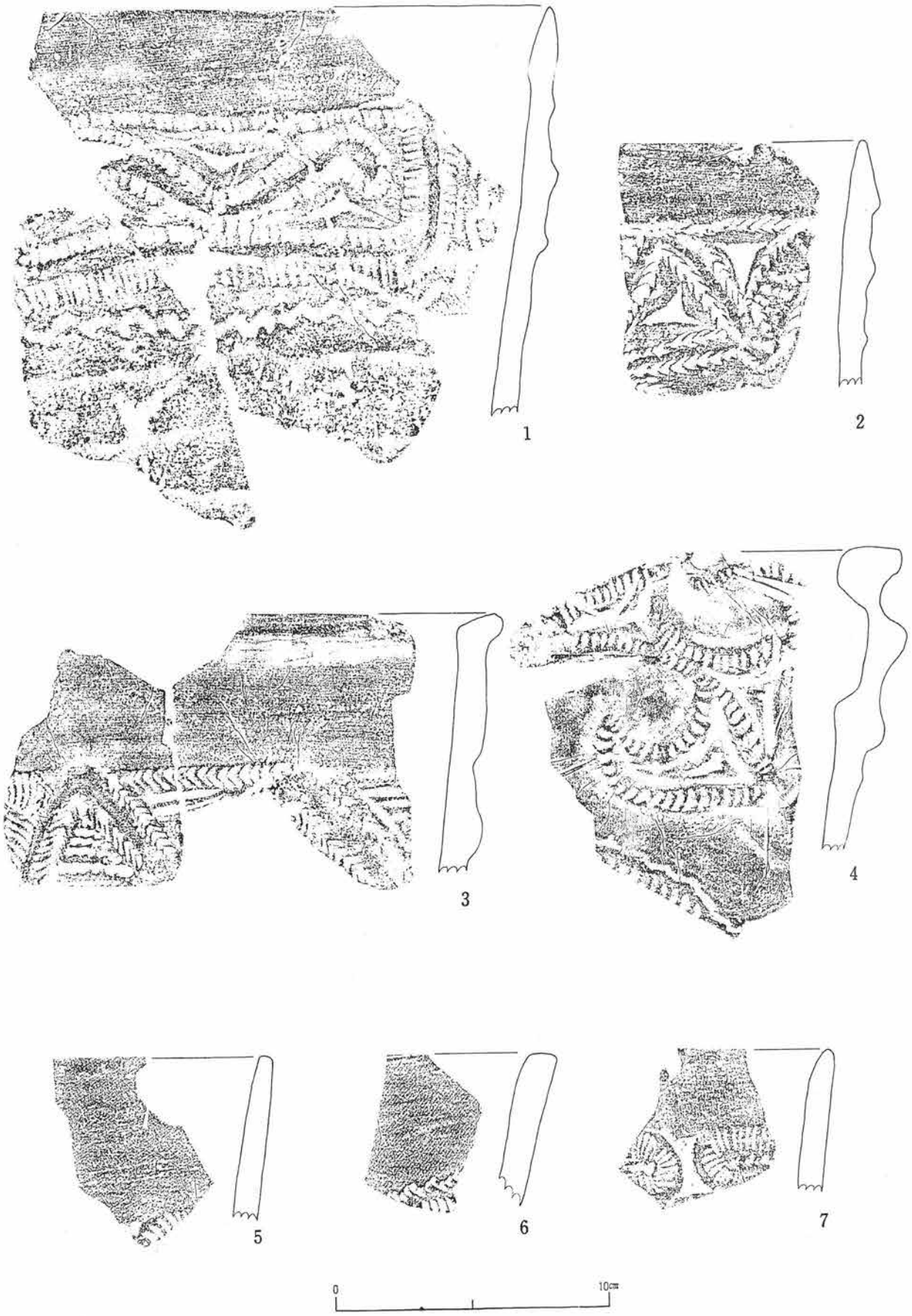

第44図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（６）



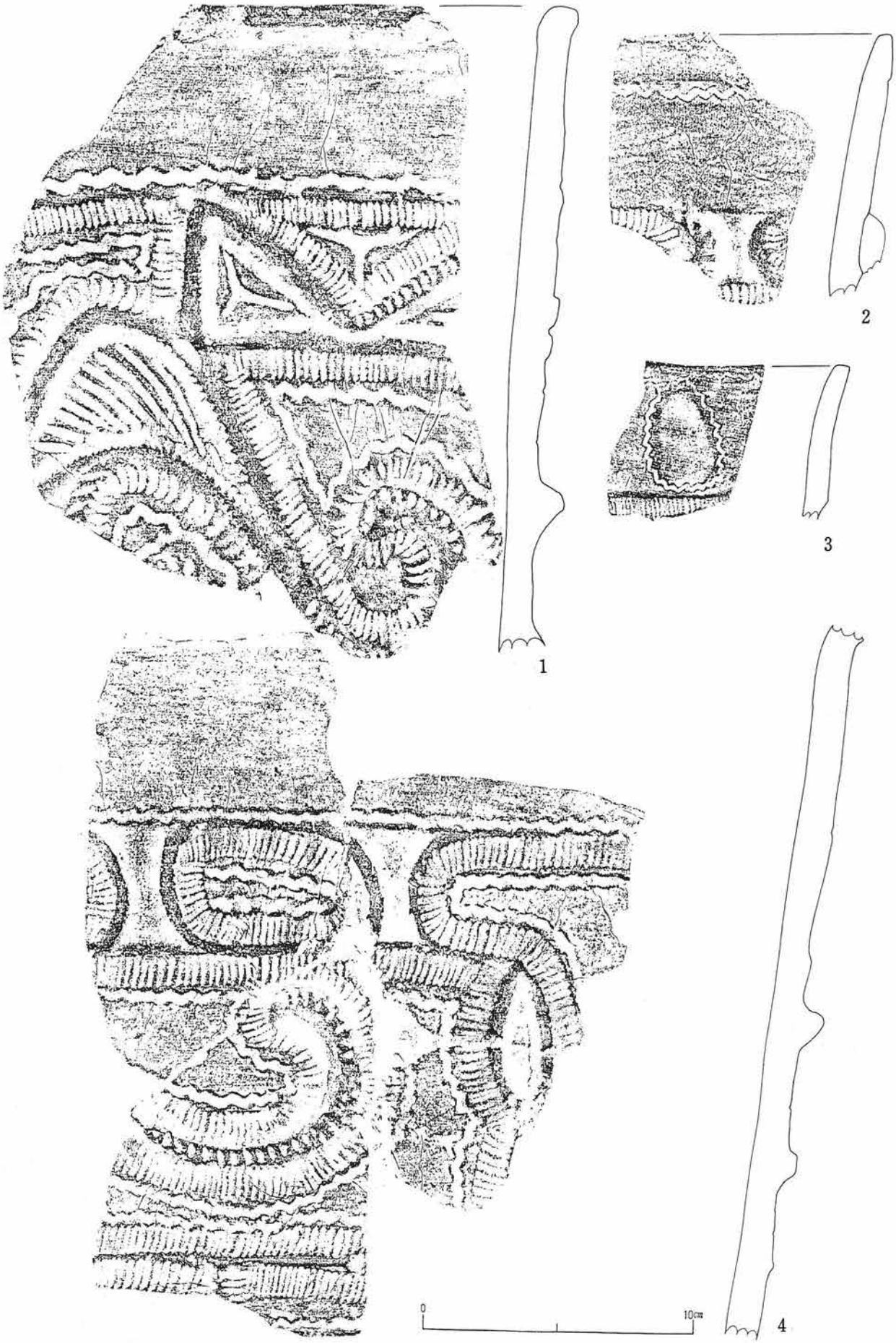

第45図　第II次調査 出土土器拓影（７）



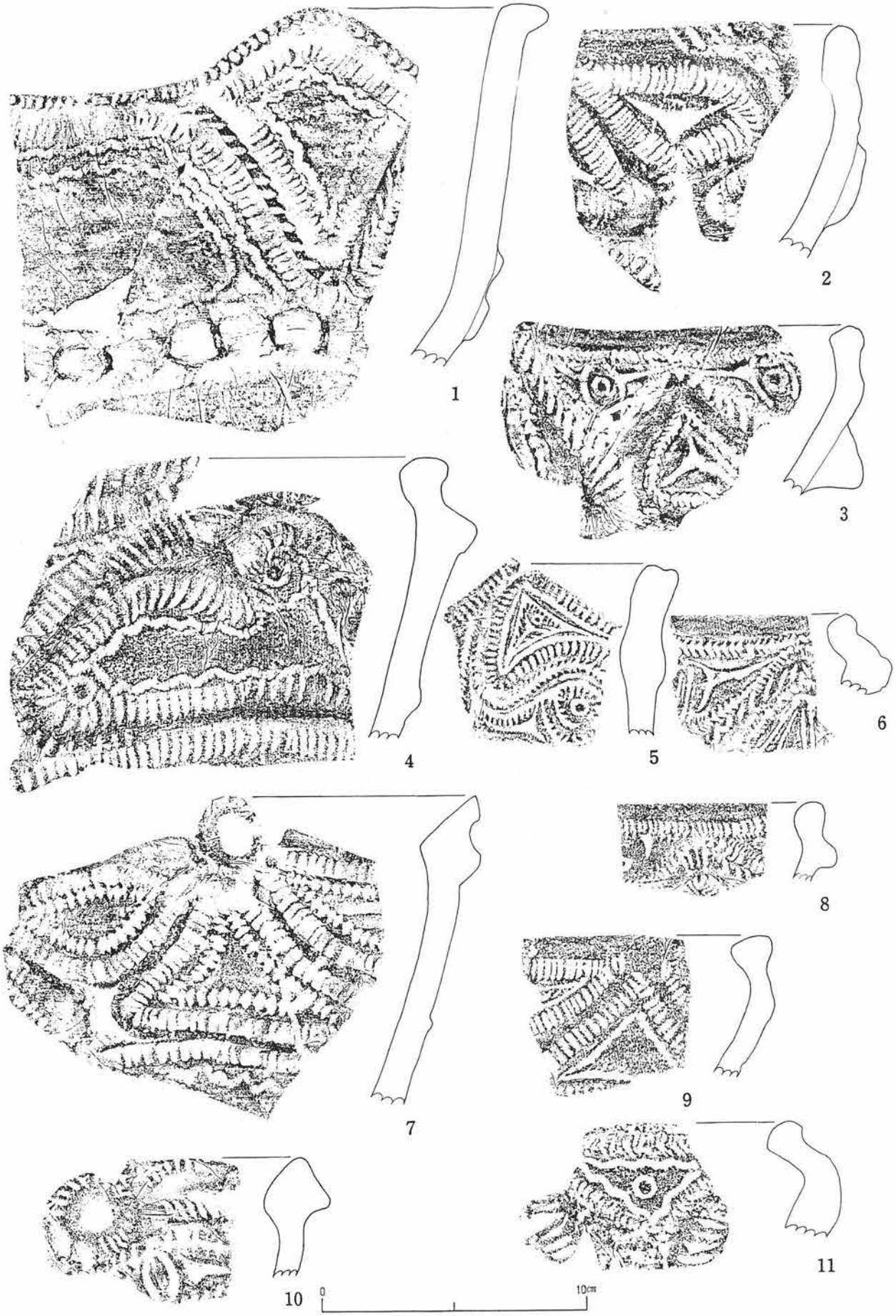

第46図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（８）



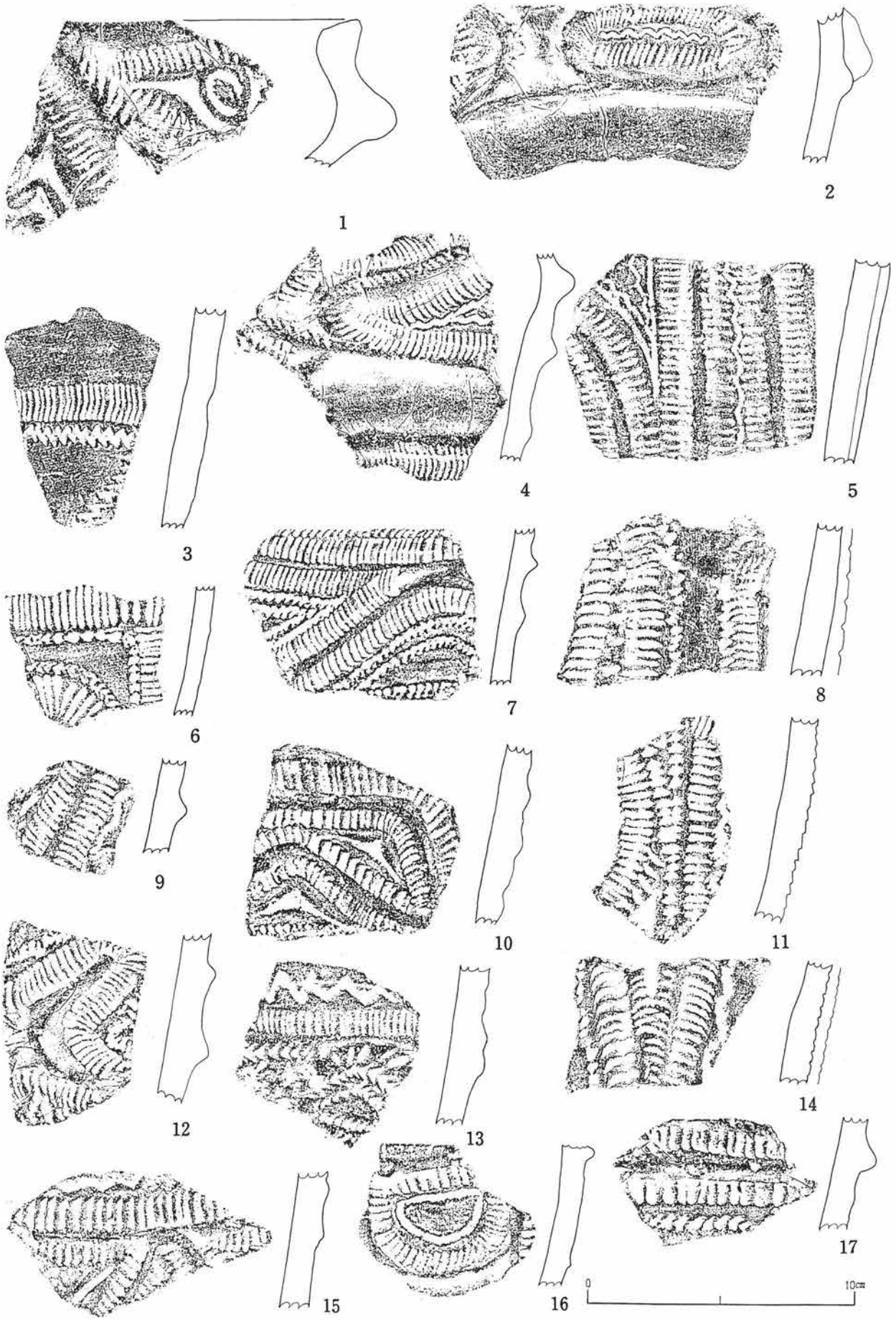

第47図　第II次調査 出土土器拓影（９）



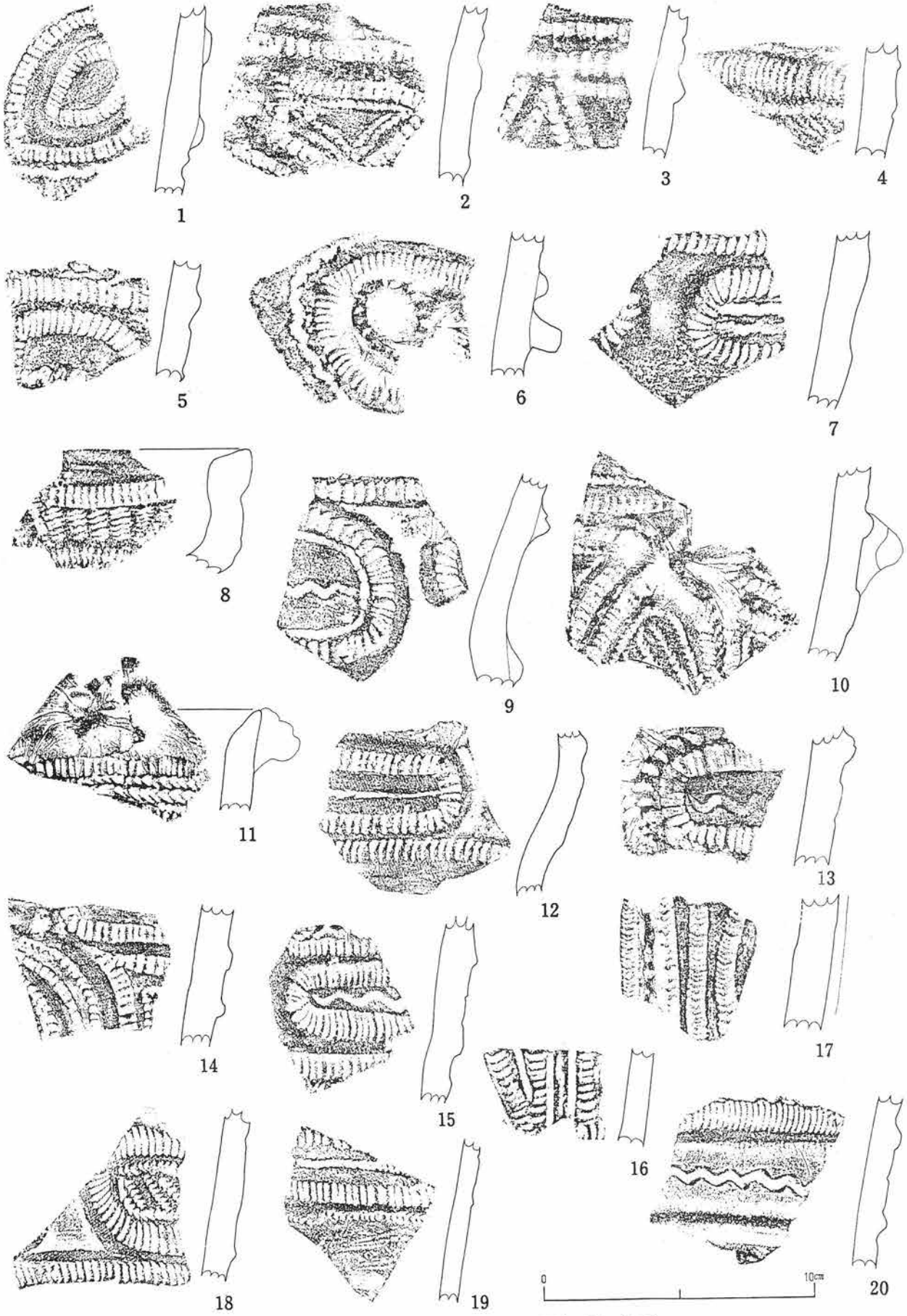

第48図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（10）



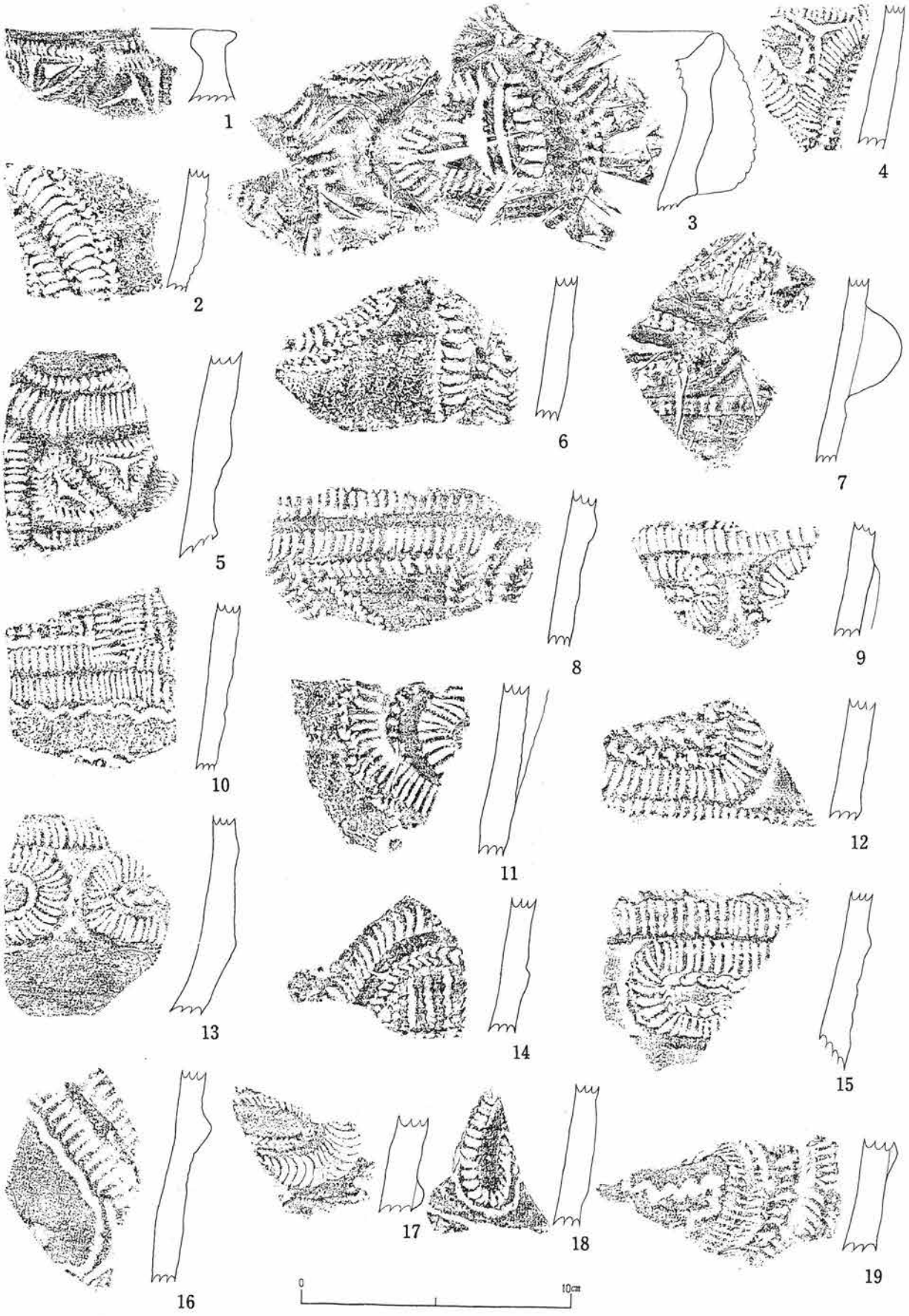

第49図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（11）



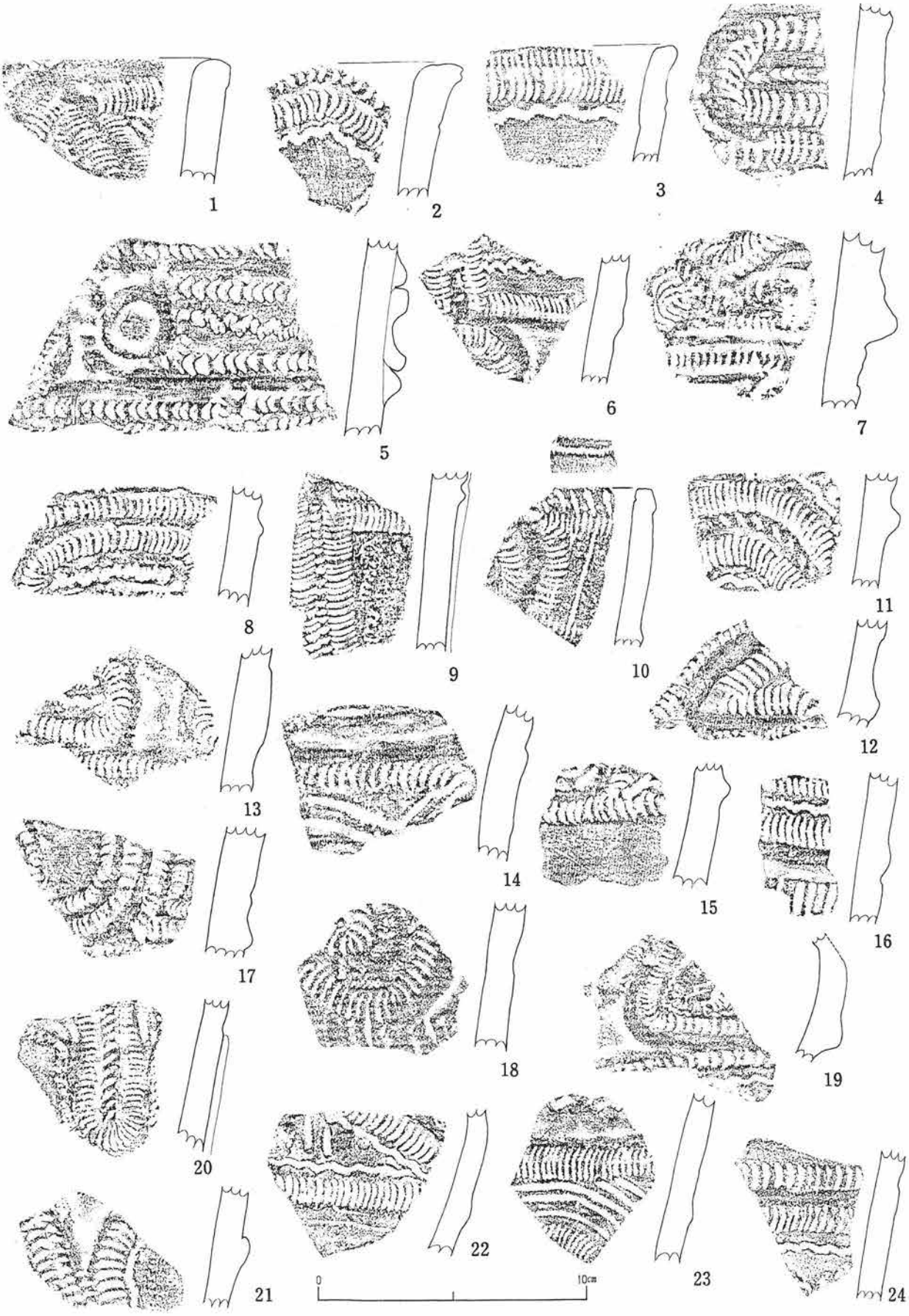

第50図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（12）



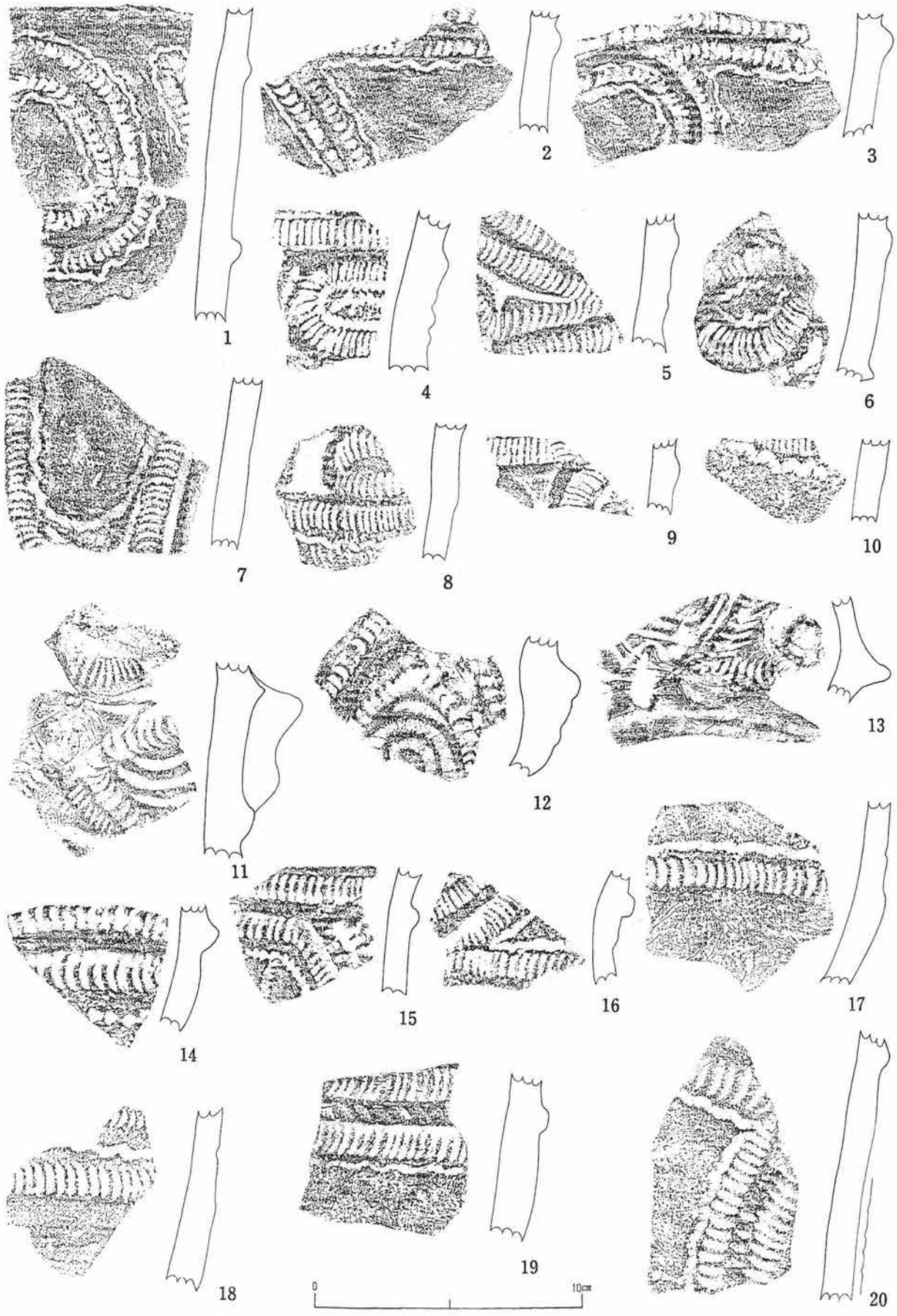

第51図　第II次調査 出土土器拓影（13）



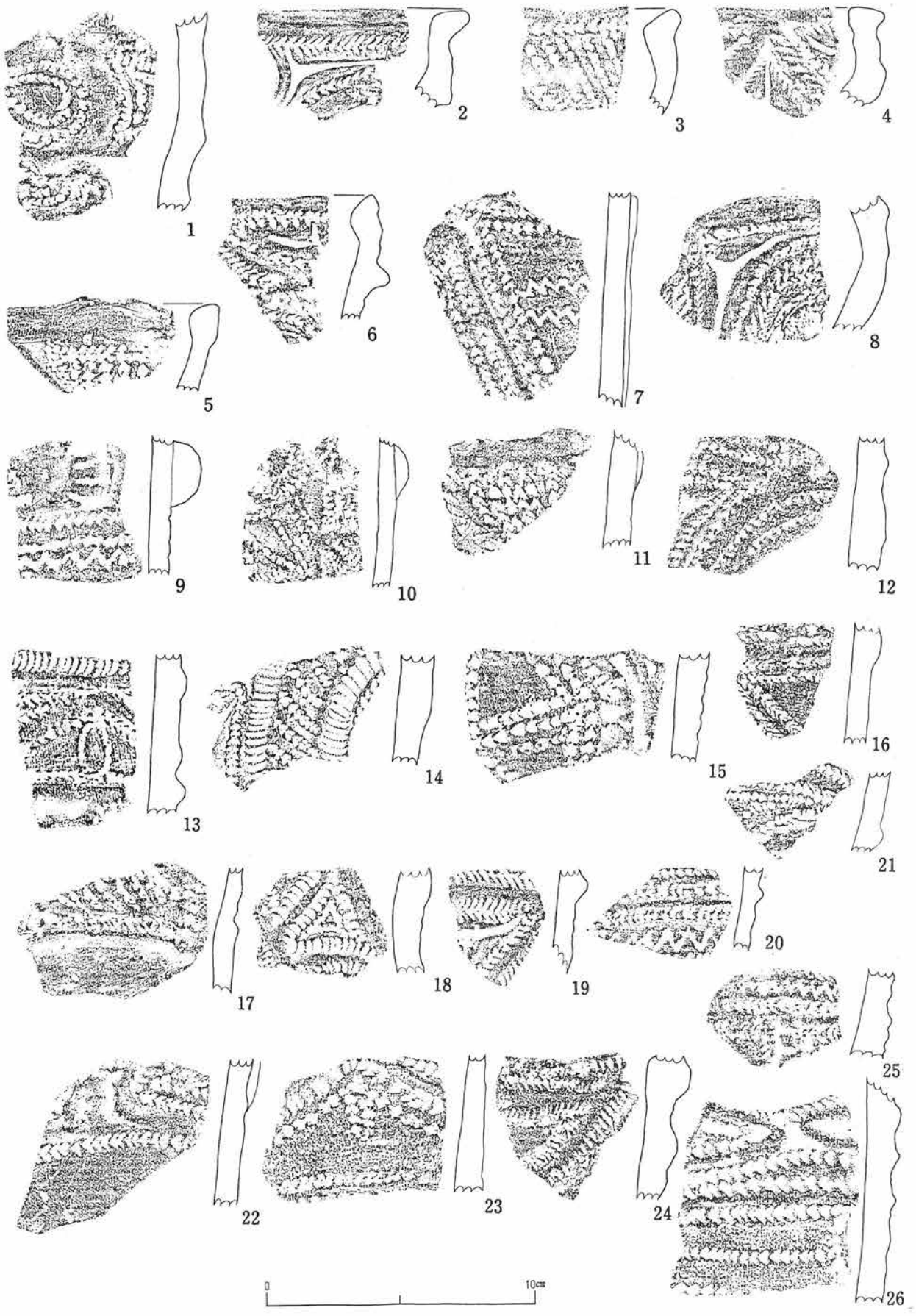

第52図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（14）



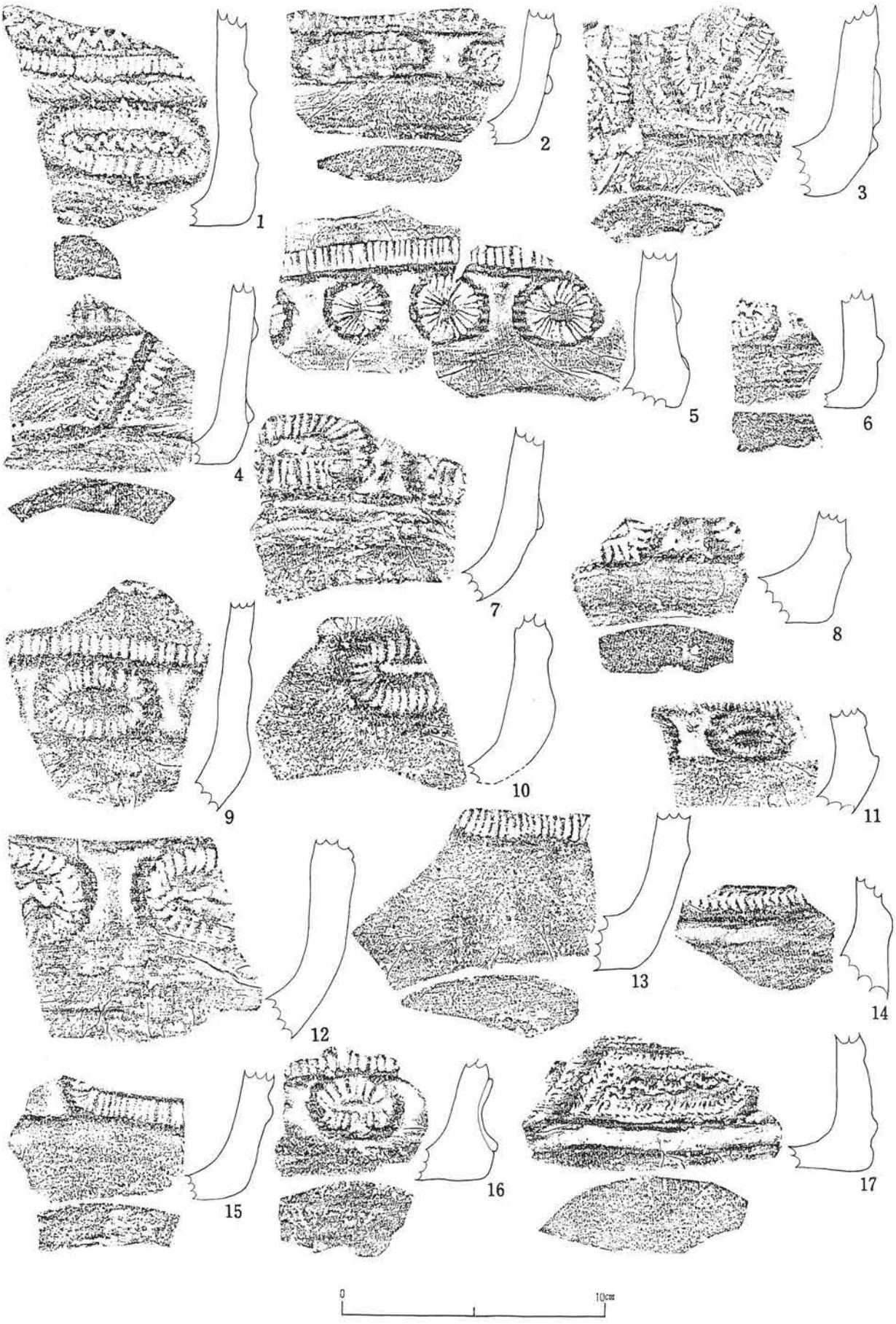

第53図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（15）



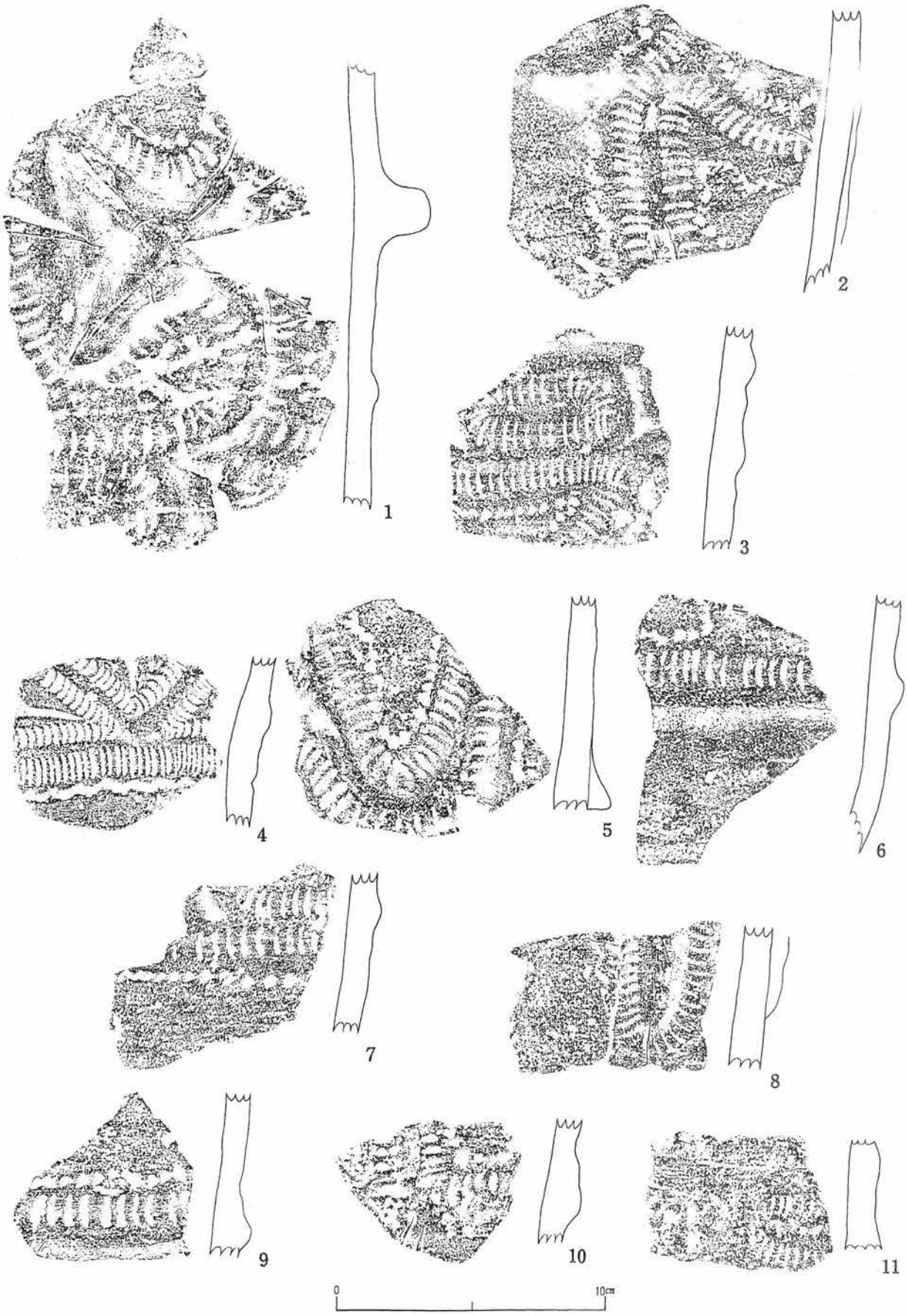

第54図　第II次調査 出土土器拓影（16）



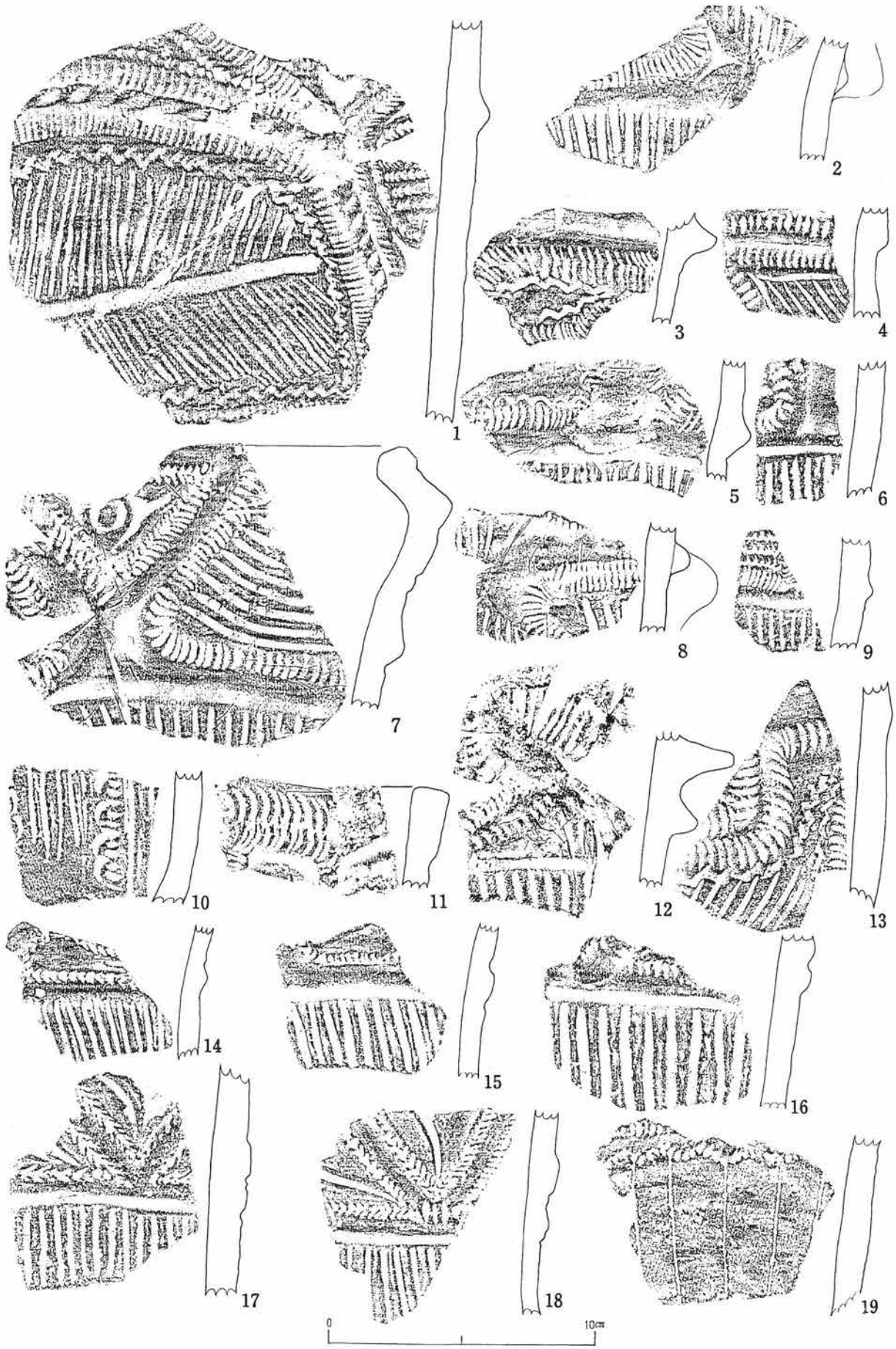

第55図　第II次調査 出土土器拓影（17）



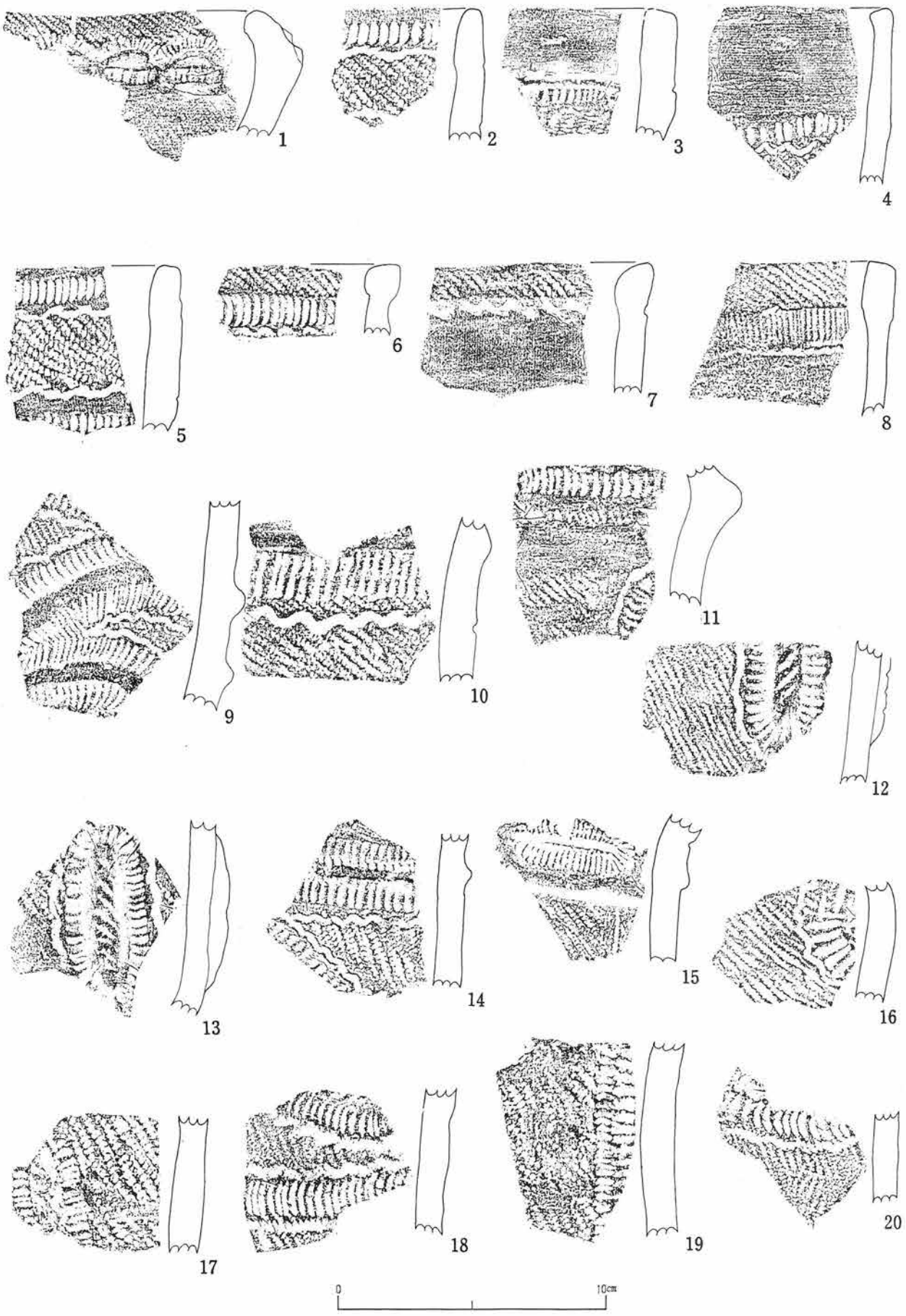

第56図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（18）



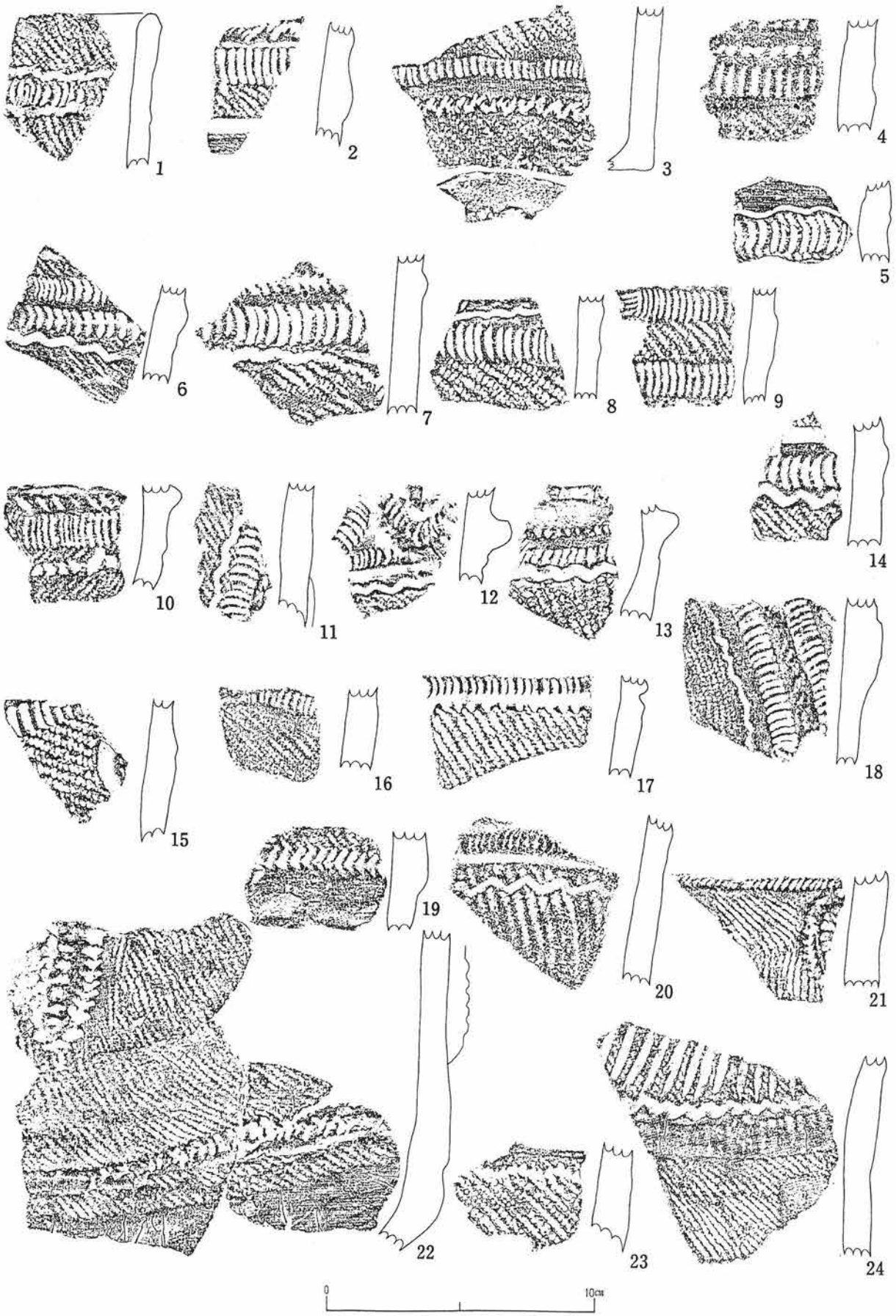

第57図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（19）



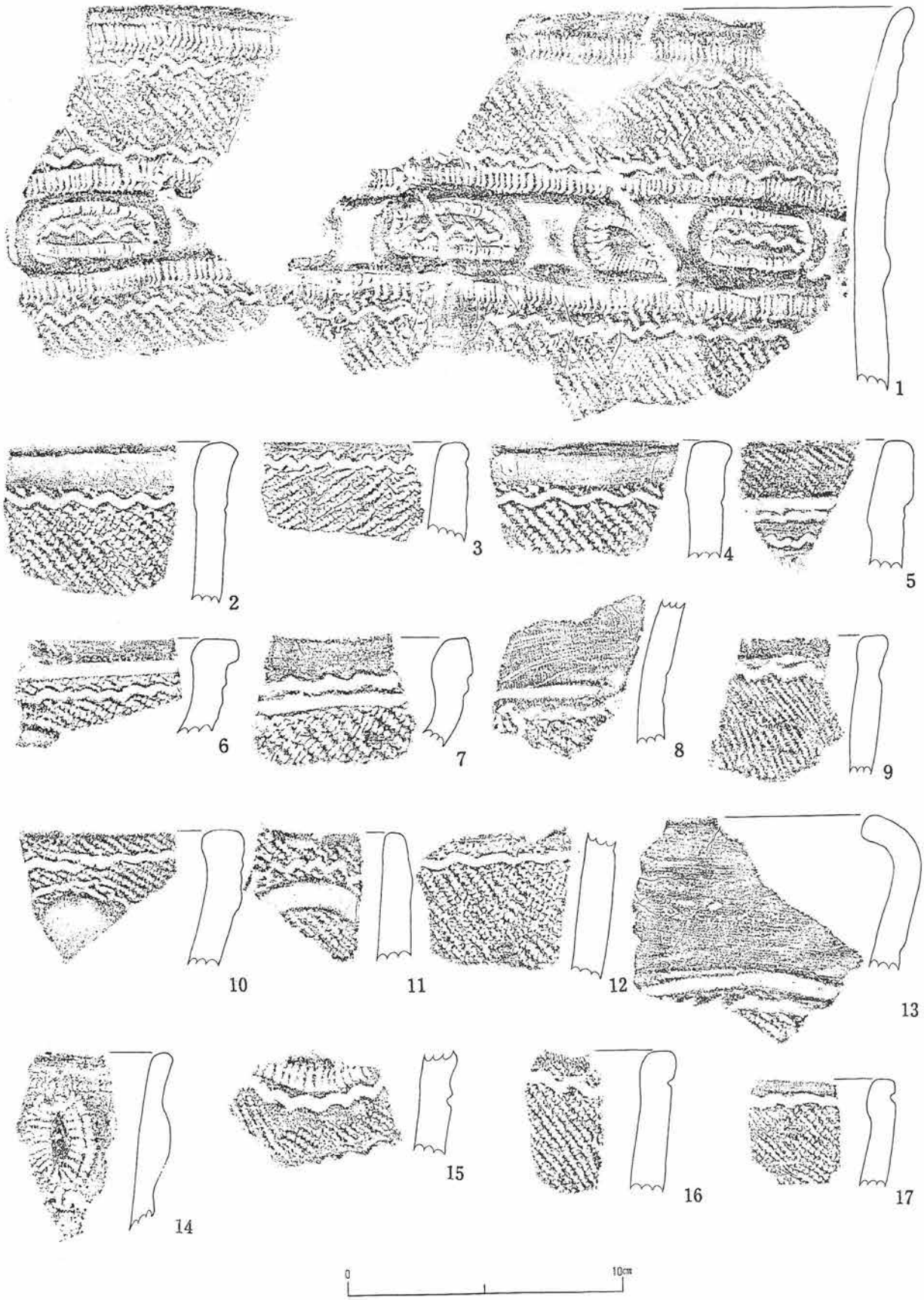

第58図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（20）



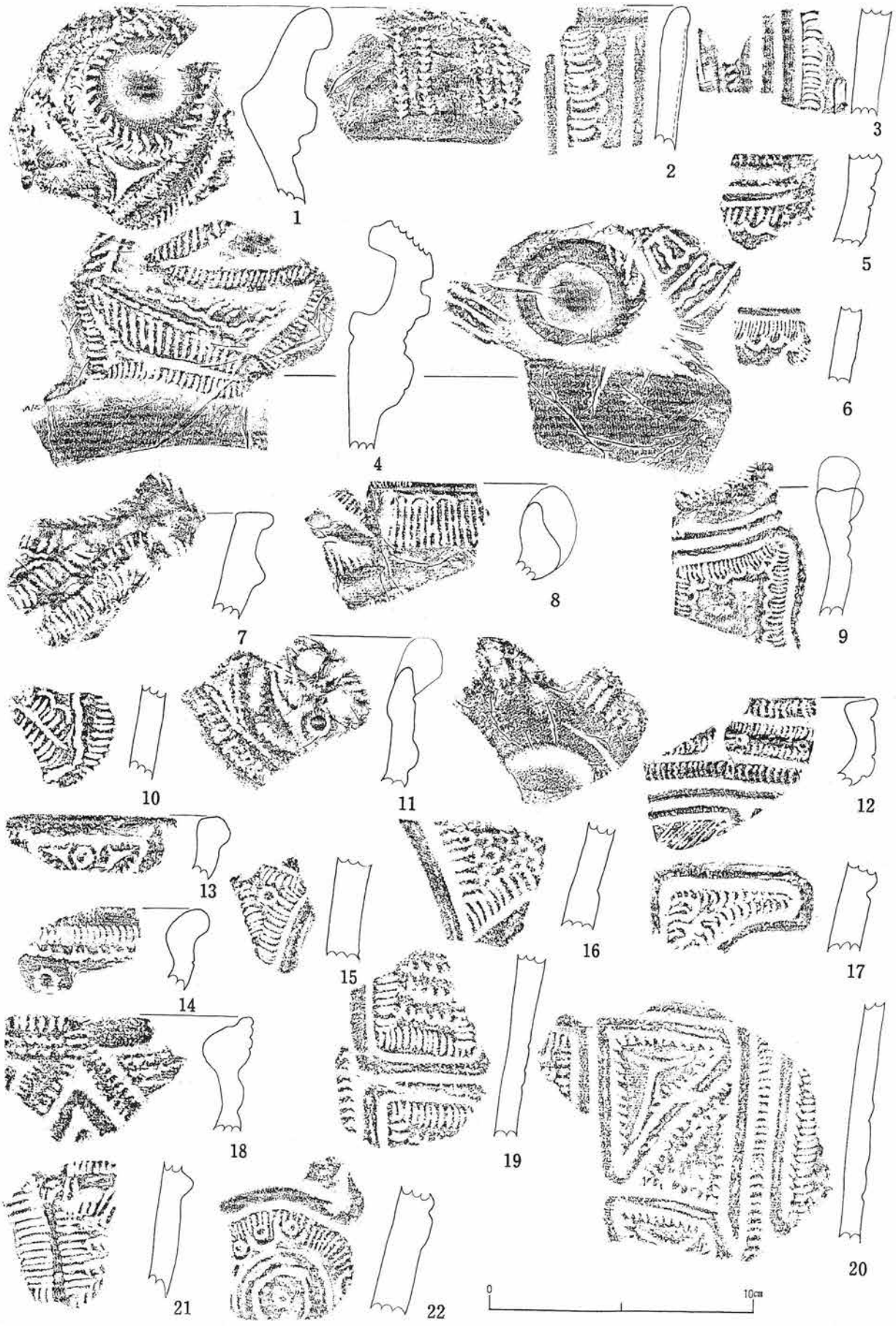

第59図　第II次調査 出土土器拓影（21）



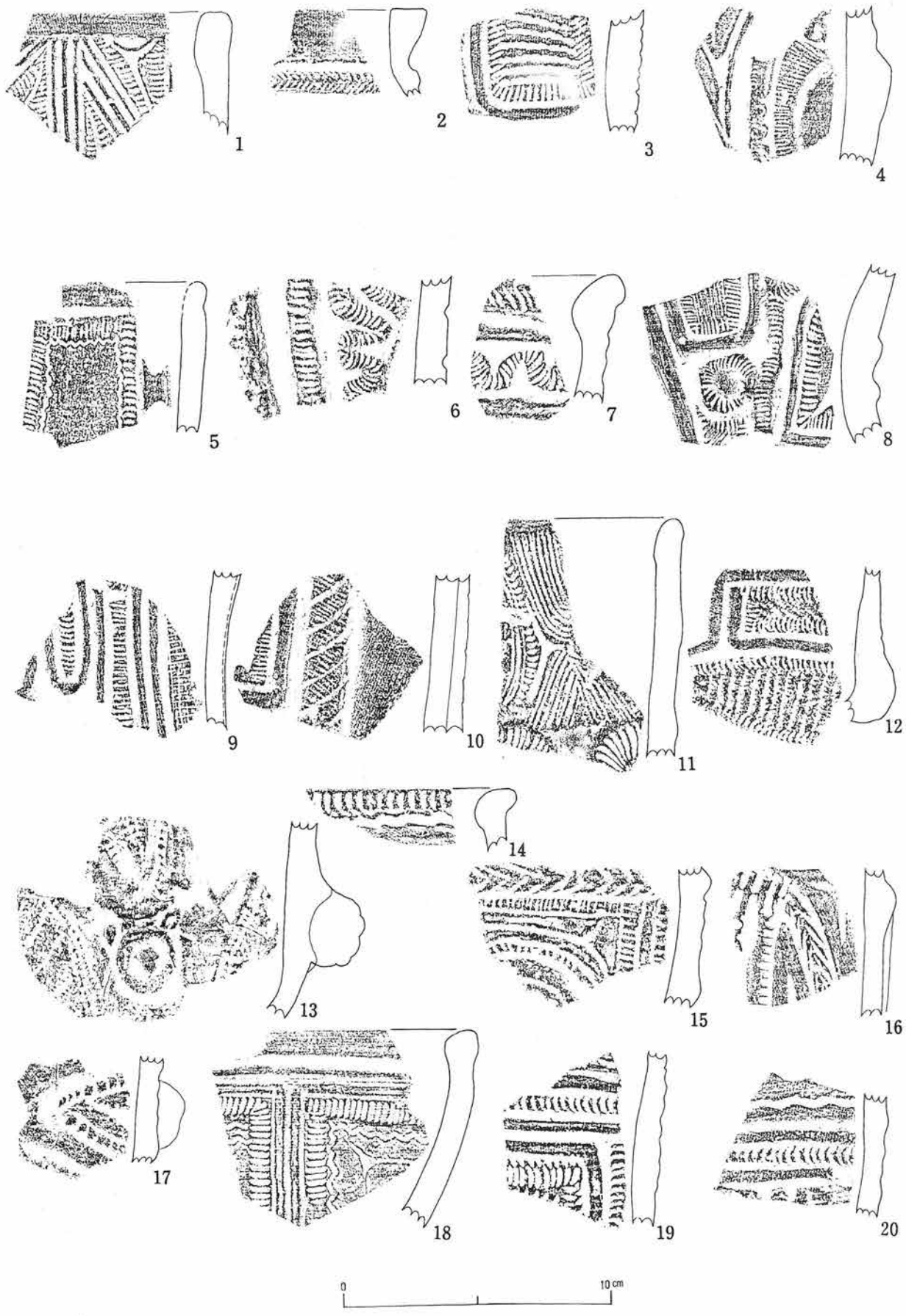

第60図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（22）



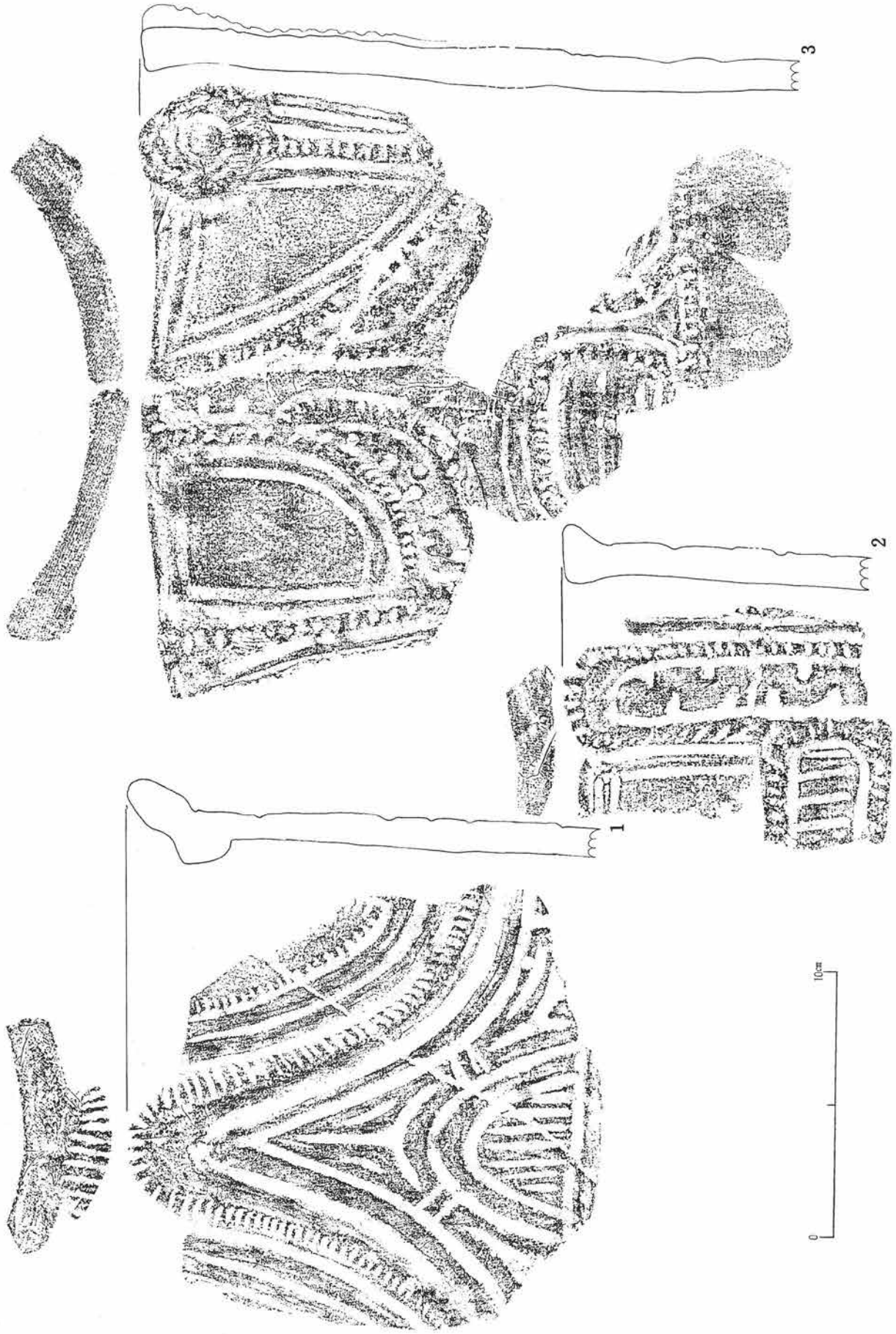

第61図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（23）



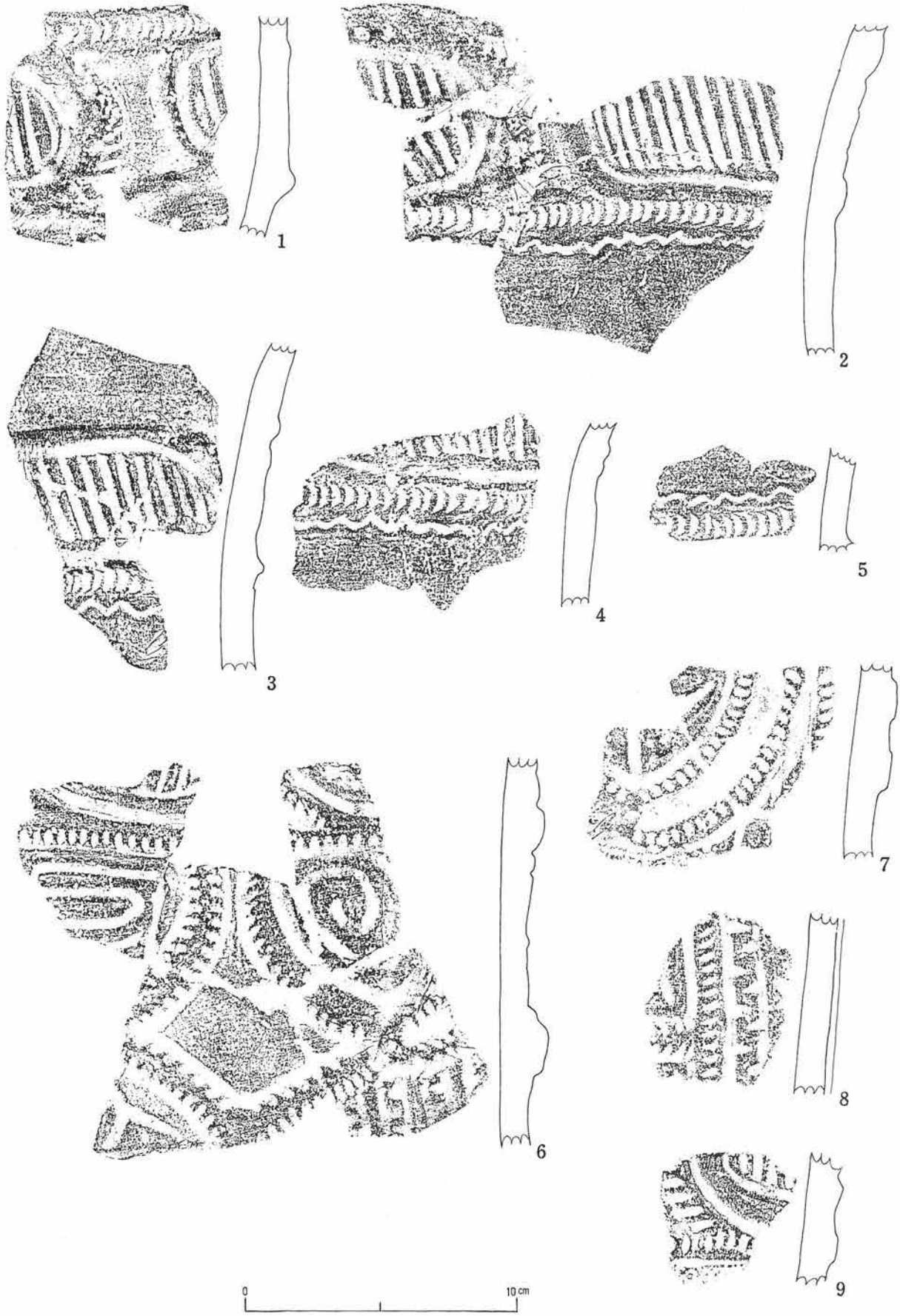

第62図　第II次調査 出土土器拓影（24）



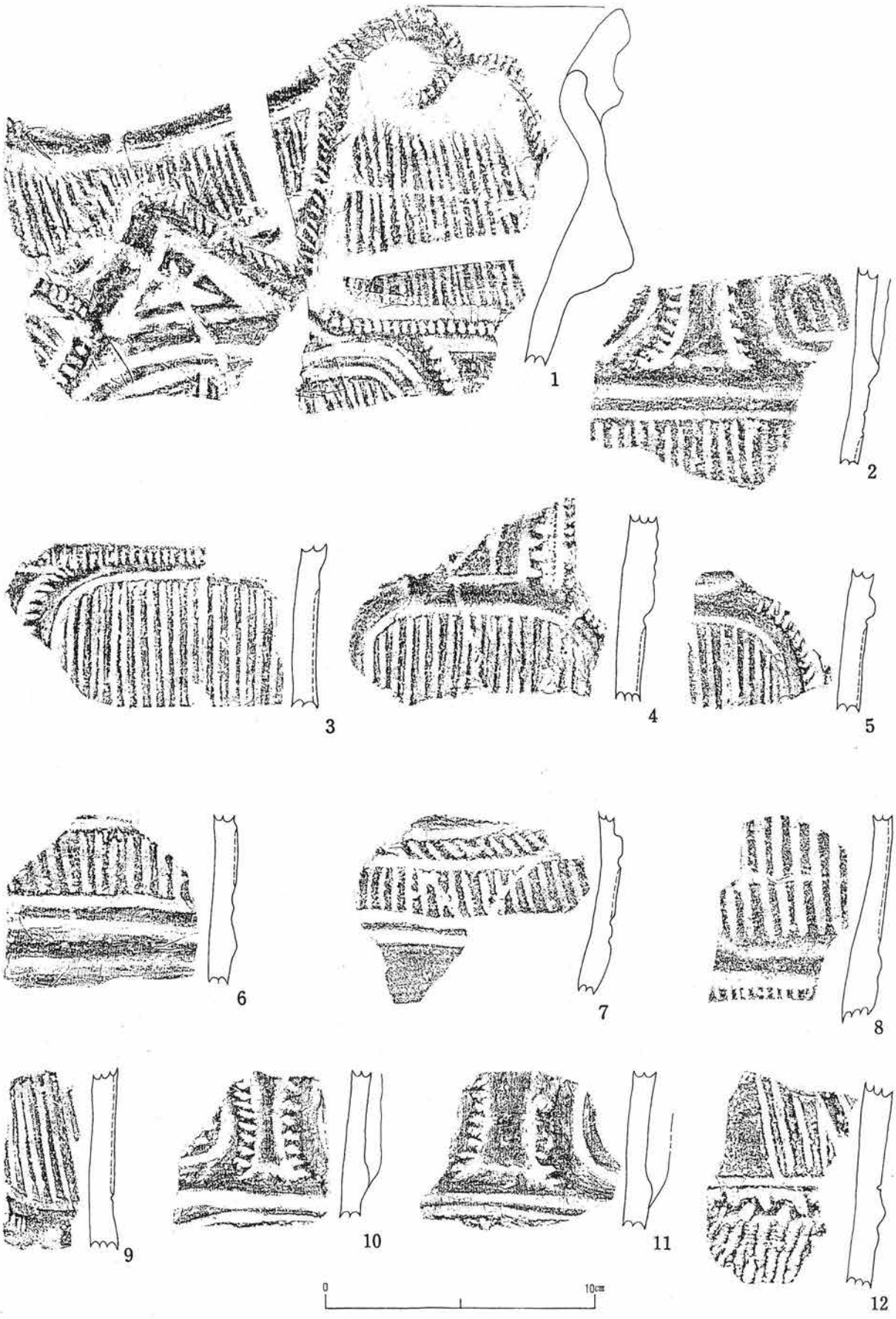

第63図　第II次調査 出土土器拓影（25）



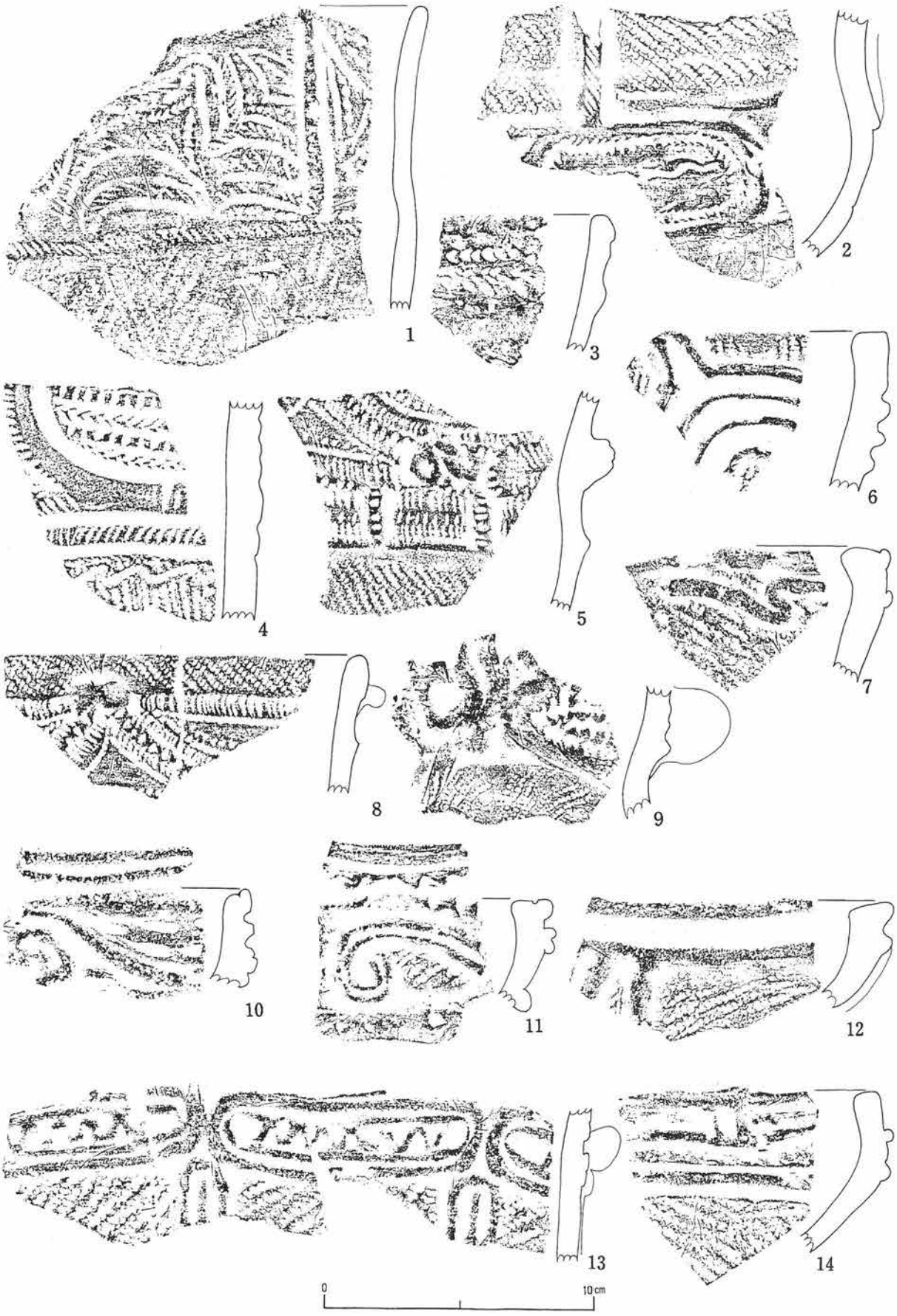

第64図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（26）



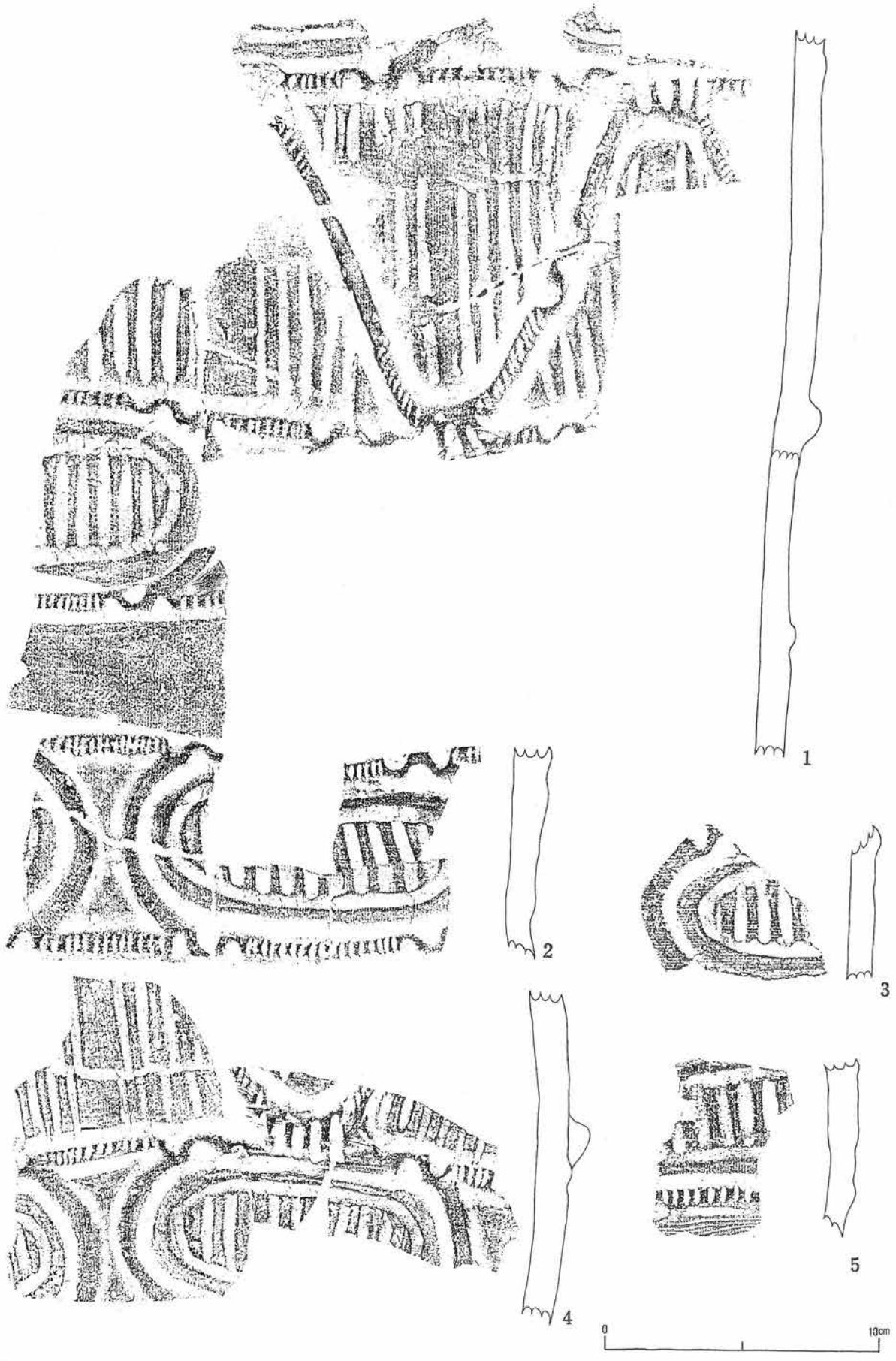

第65図　第II次調査 出土土器拓影（27）



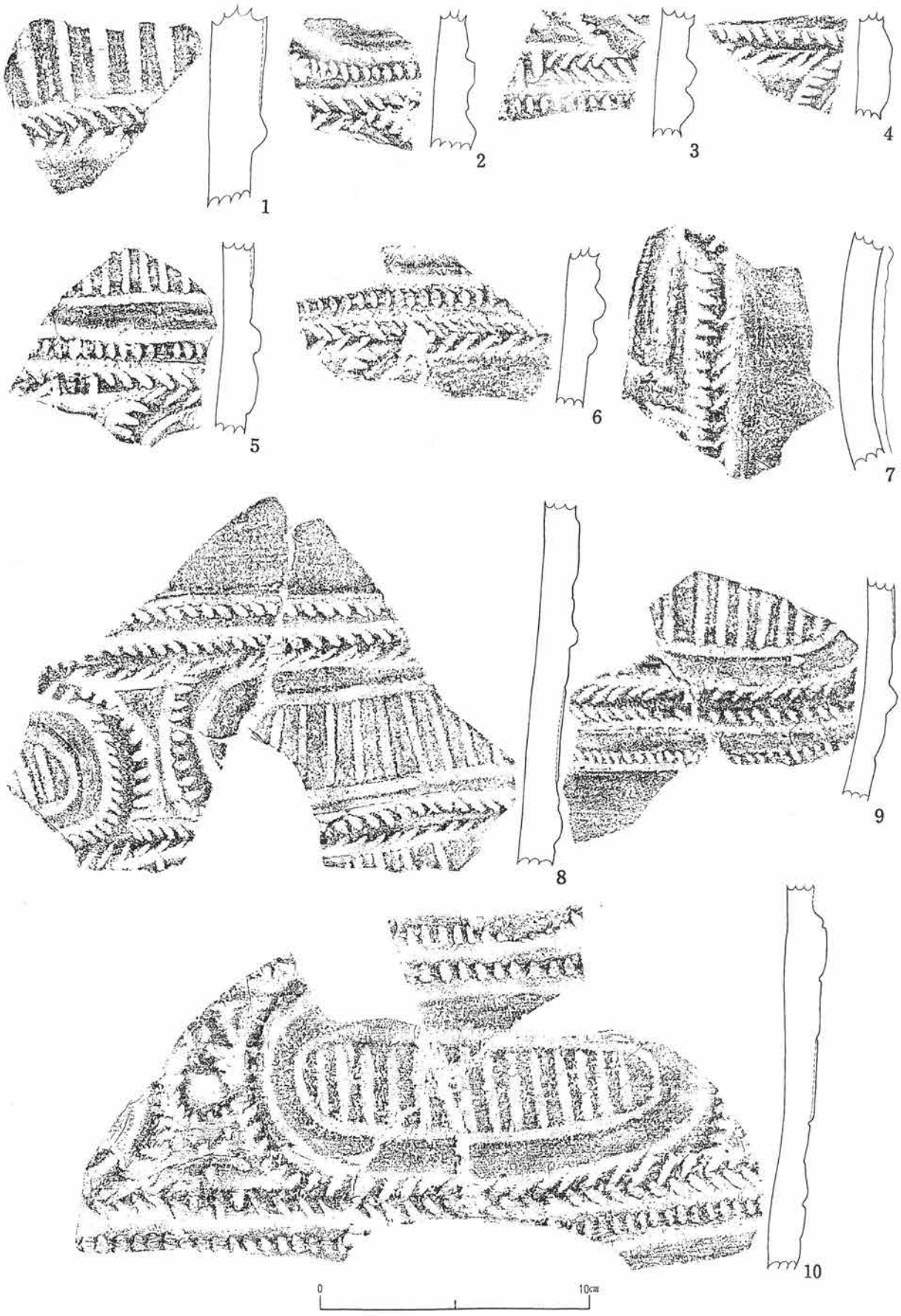

第66図　第II次調査 出土土器拓影（28）



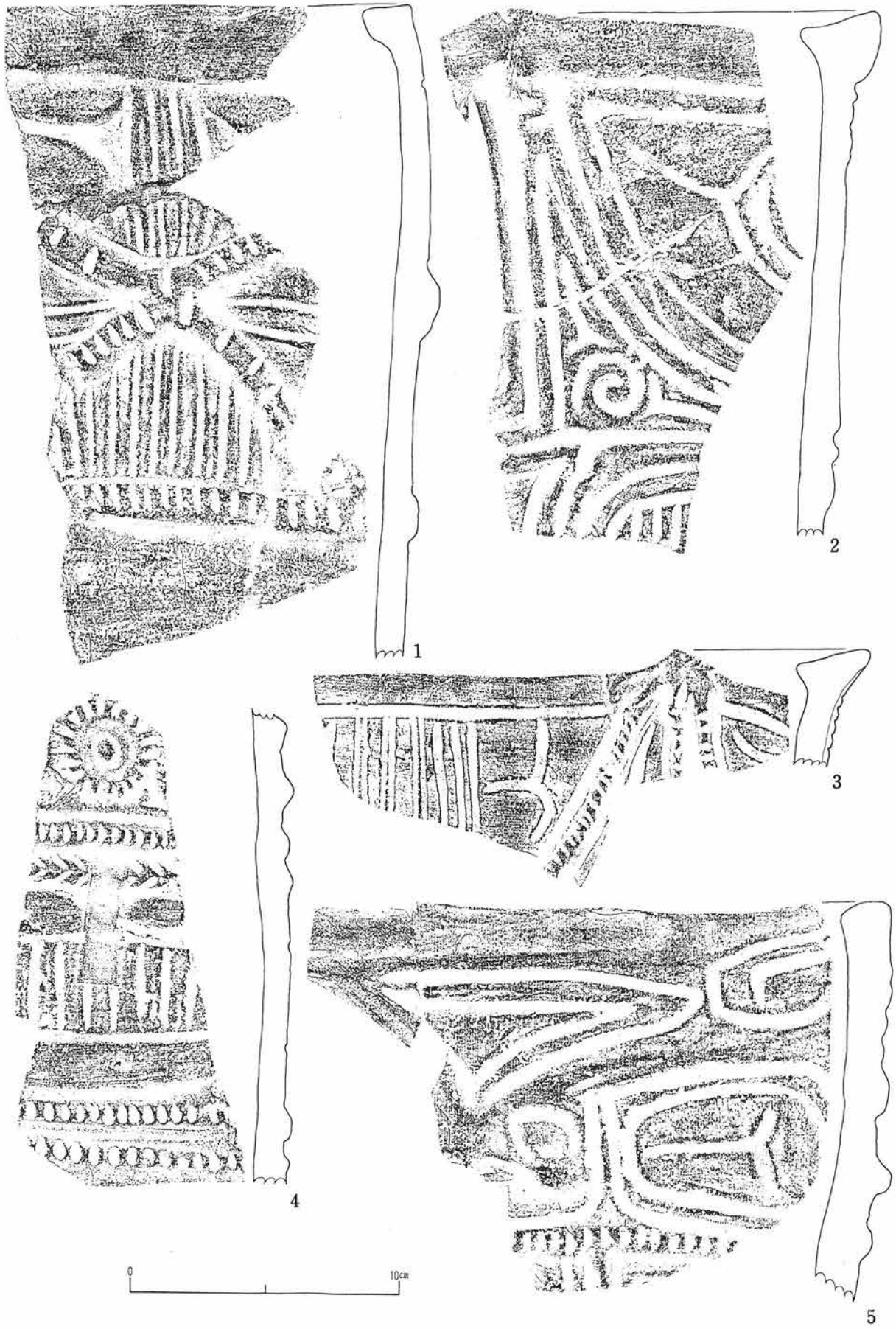

第67図　第II次調査 出土土器拓影（29）



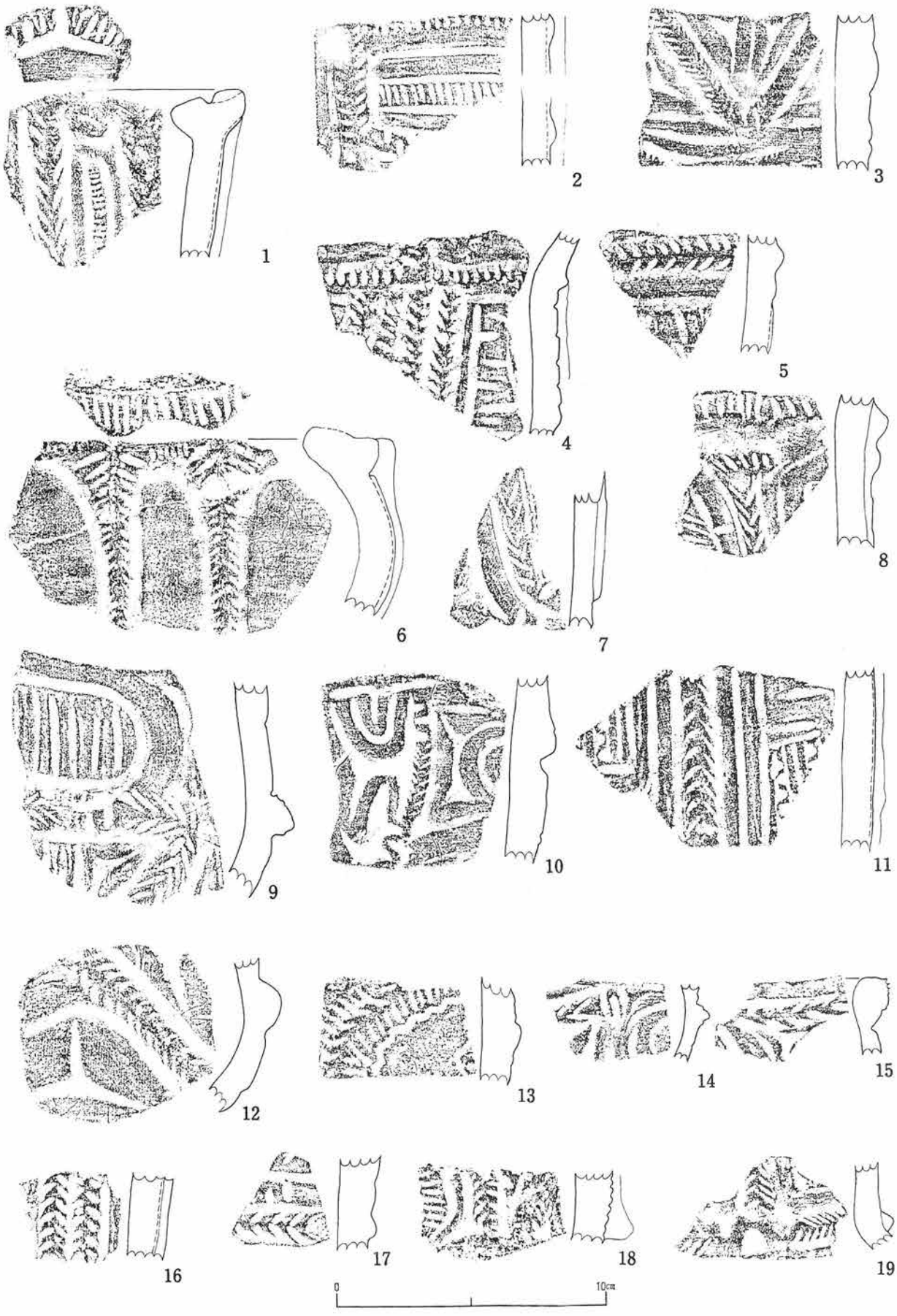

第68図　第II次調査 出土土器拓影（30）



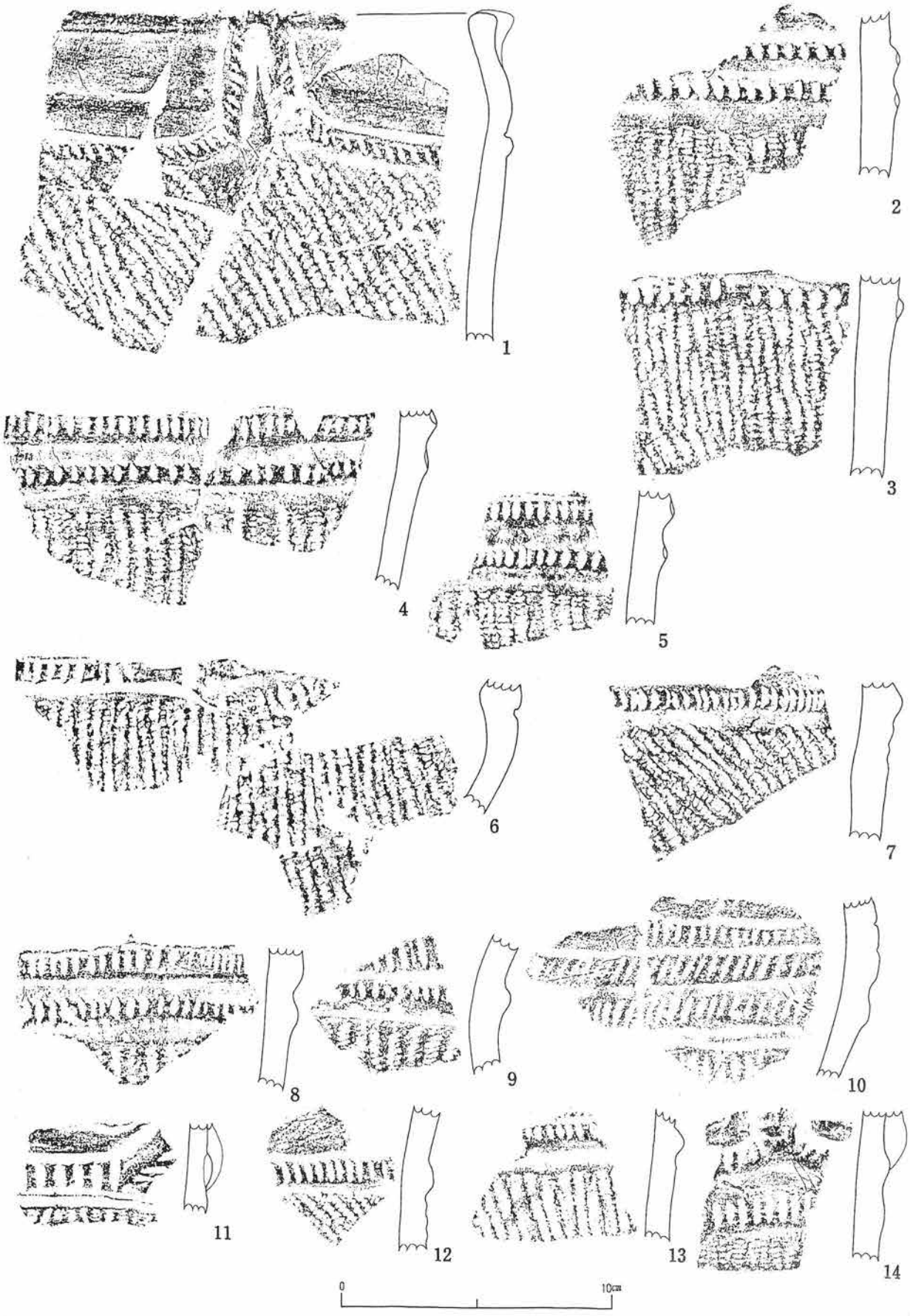

第69図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（31）



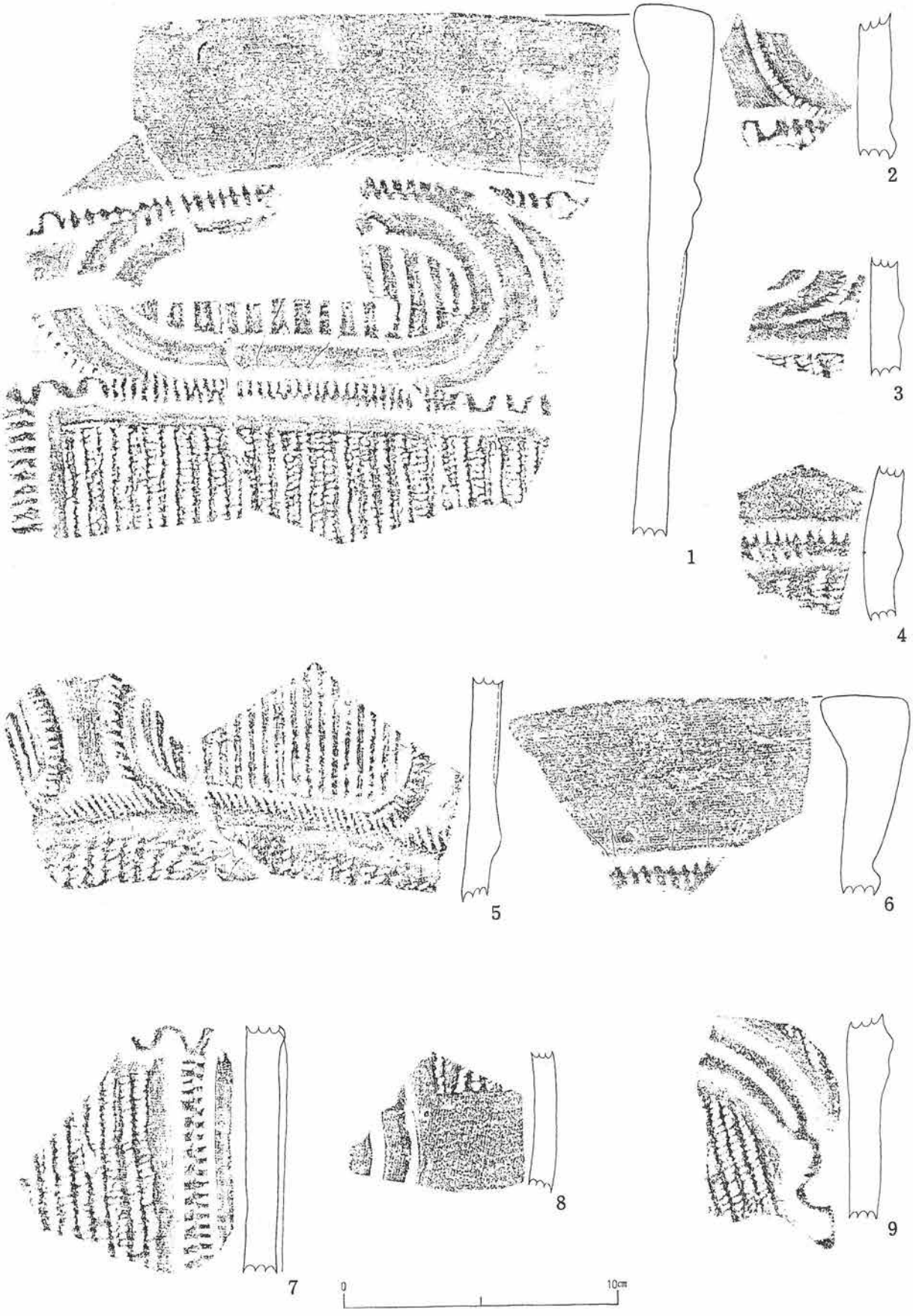

第70図　第II次調査 出土土器拓影（32）



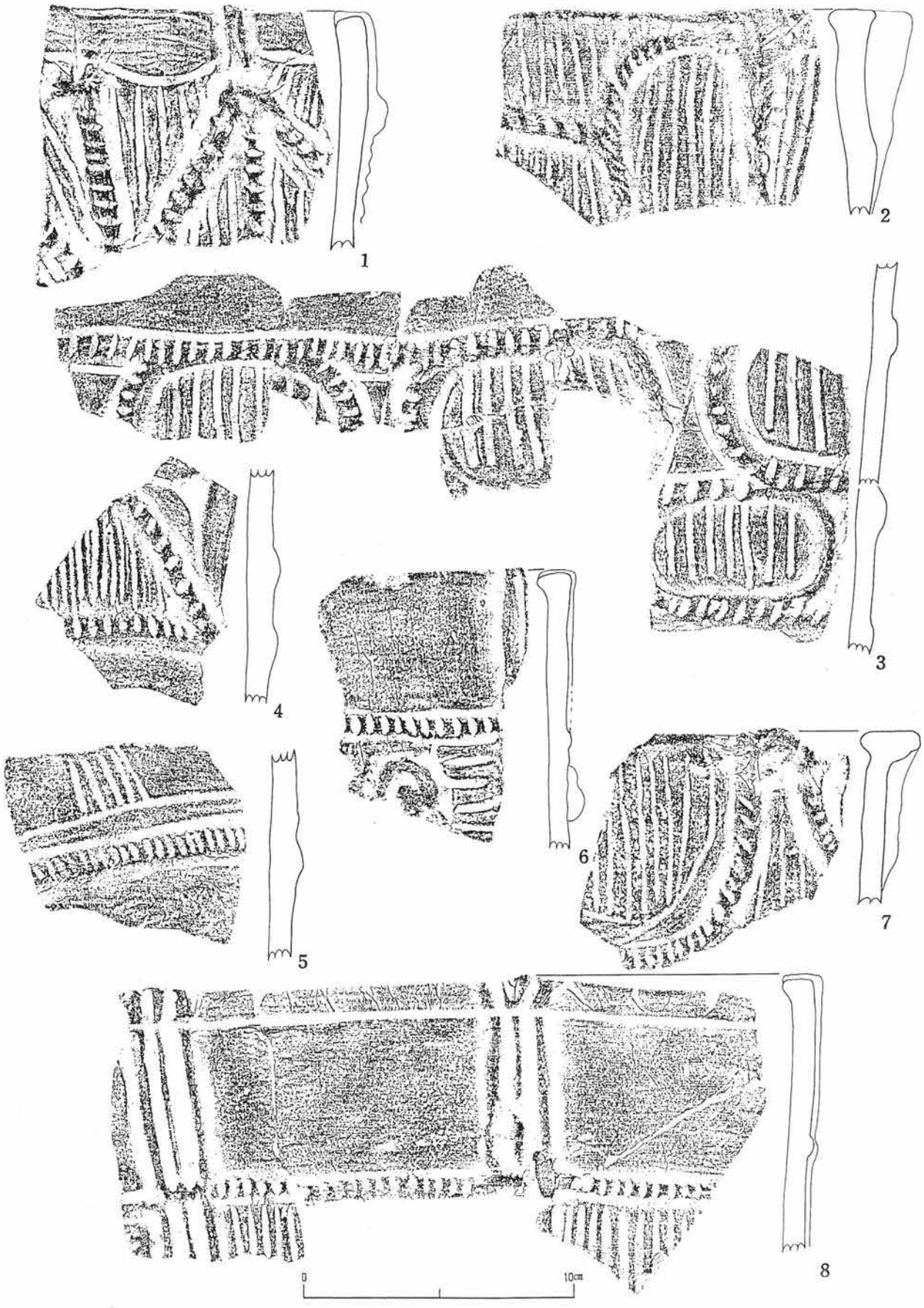

第71図　第II次調査 出土土器拓影（33）



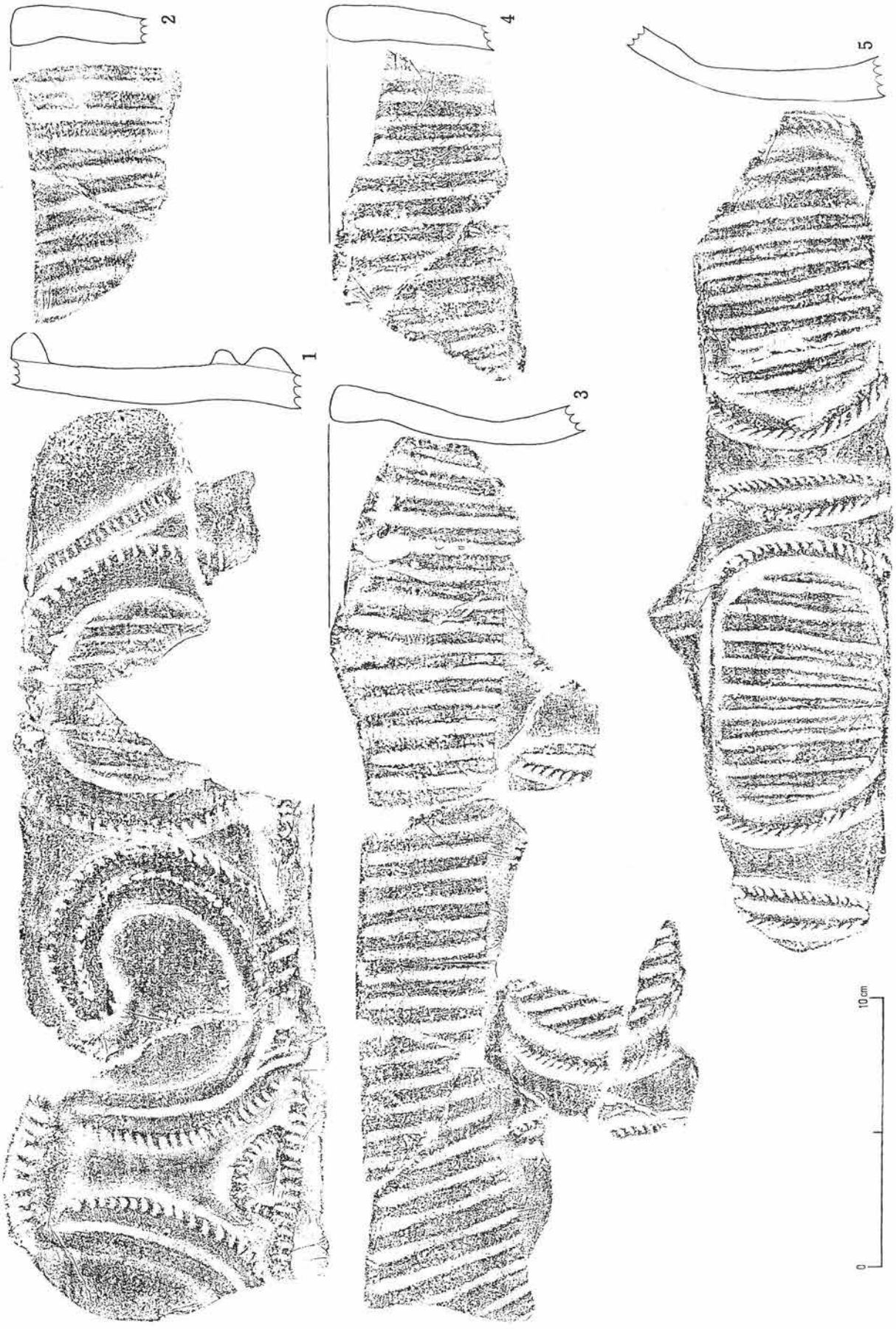

第72図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（34）



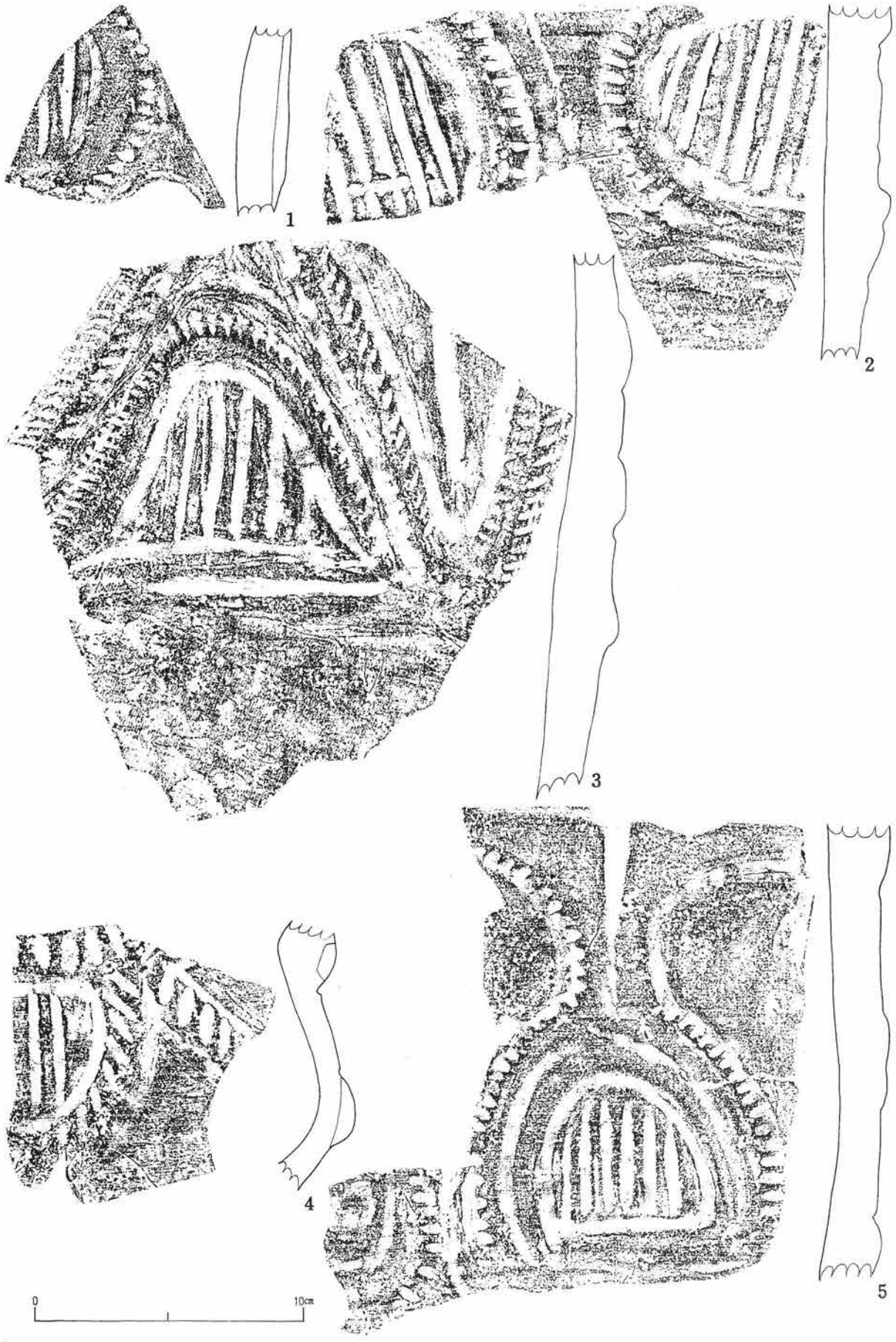

第73図　第II次調査 出土土器拓影（35）



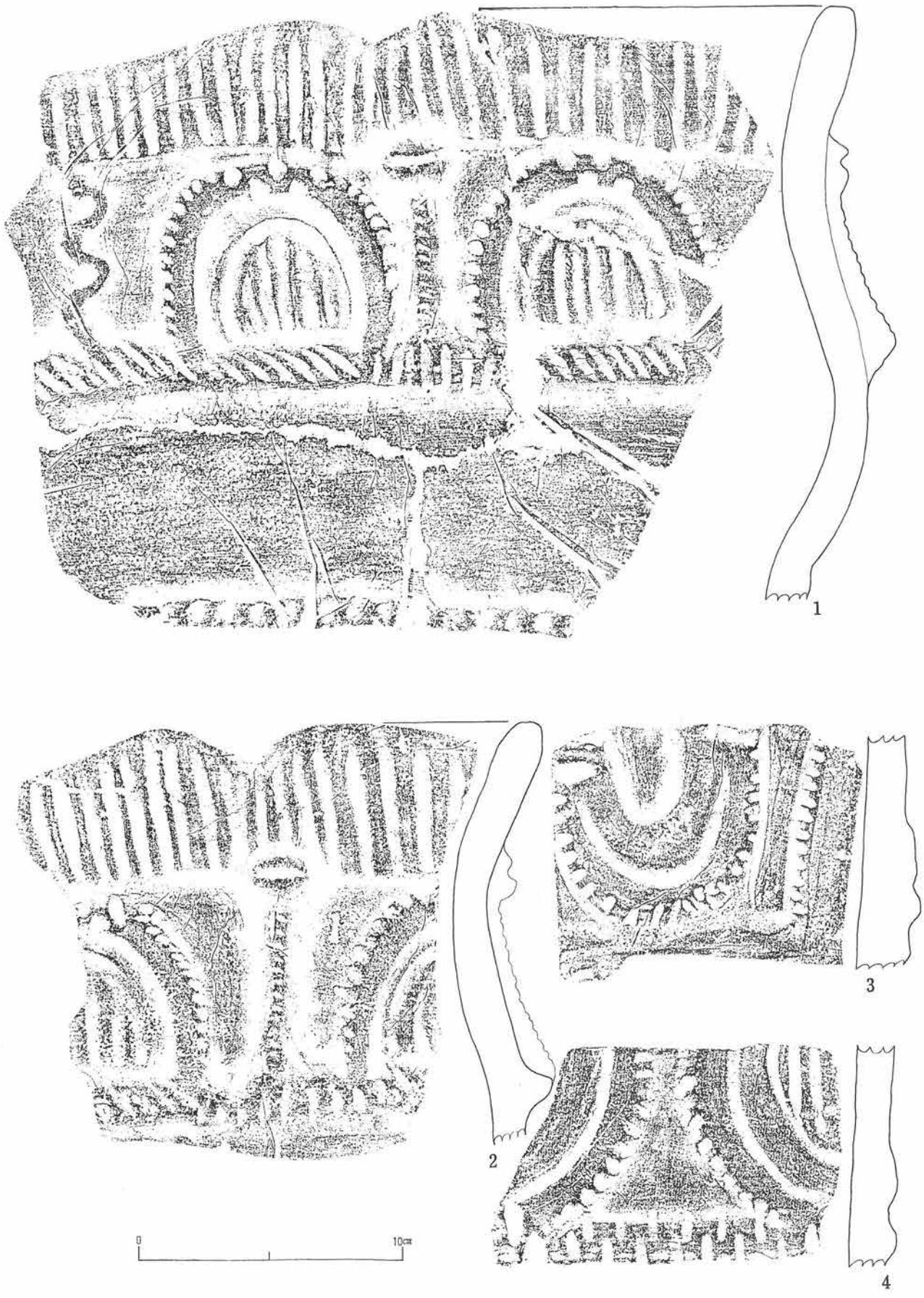

第74図　第II次調査 出土土器拓影（36）



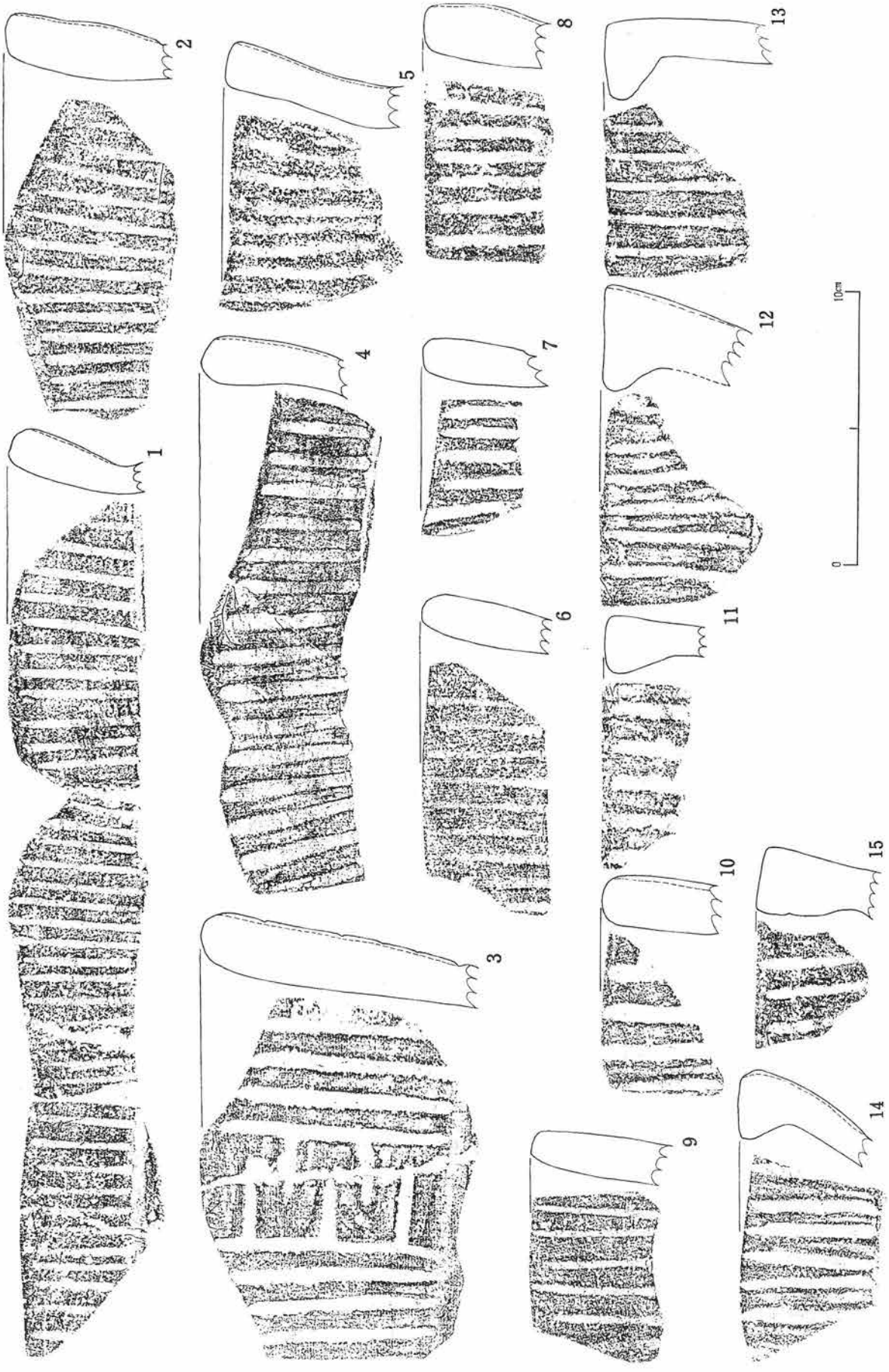

第75図　第II次調査 出土土器拓影（37）



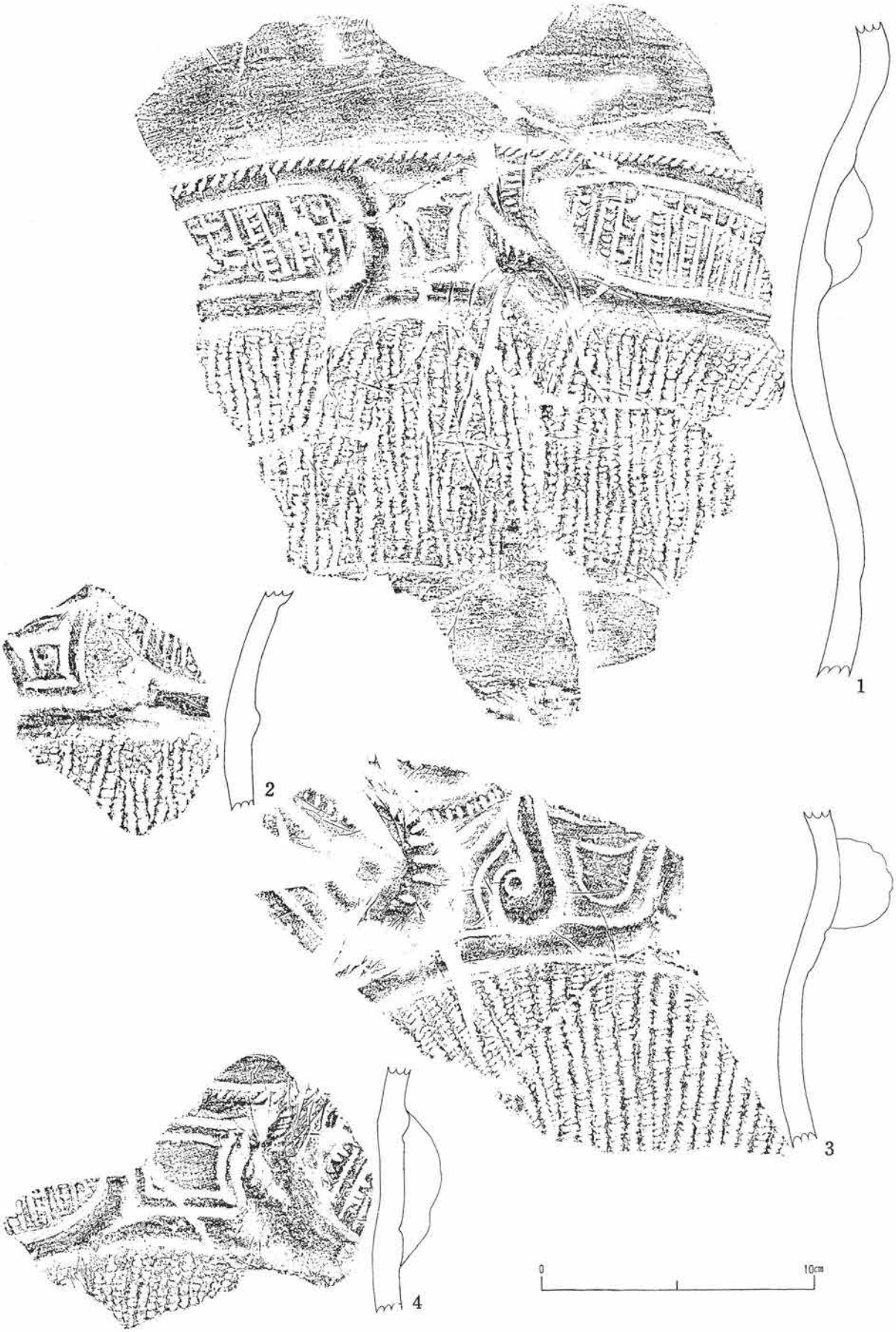

第76図　第II次調査 出土土器拓影（38）



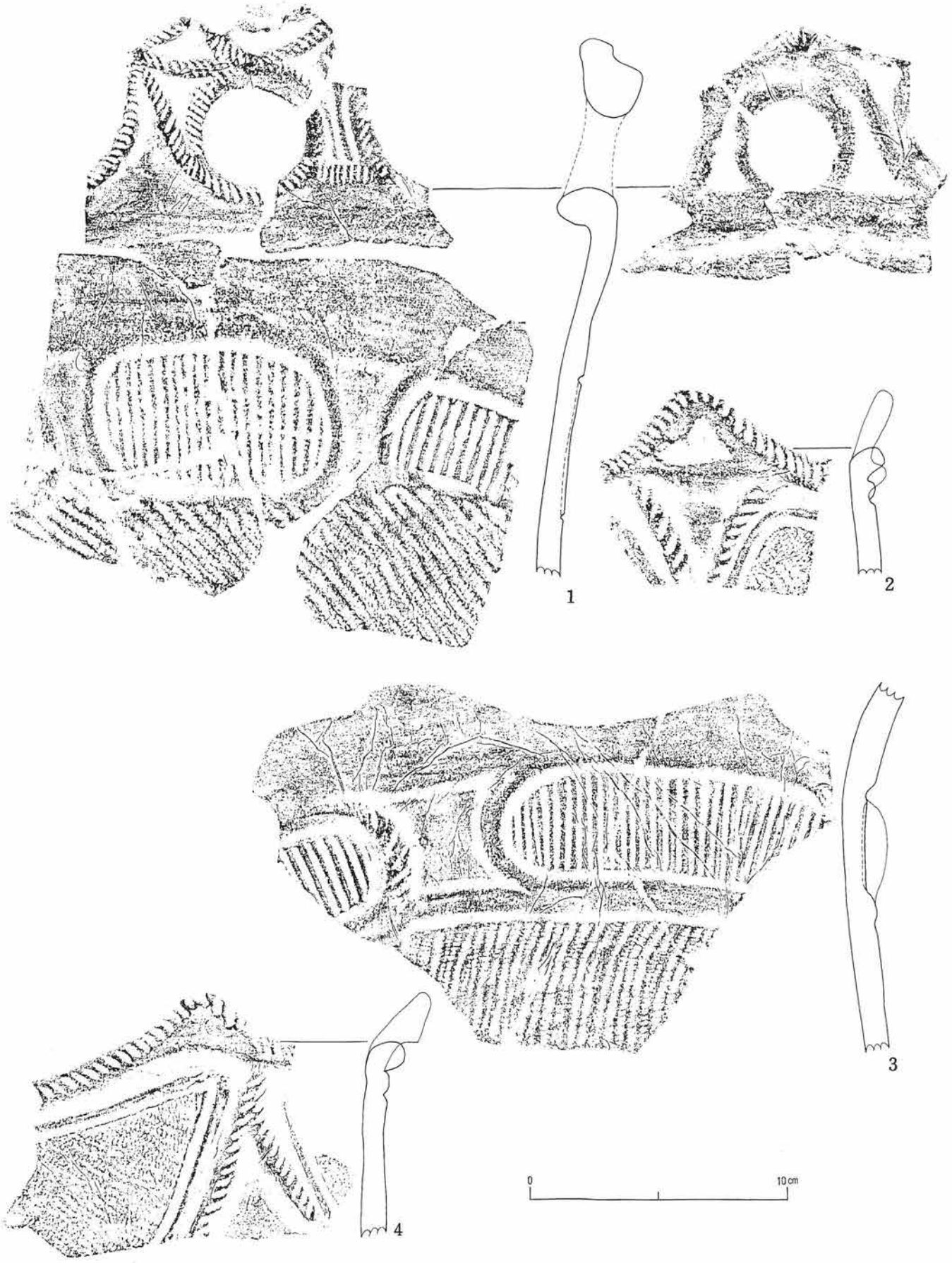

第77図　第II次調査 出土土器拓影（39）



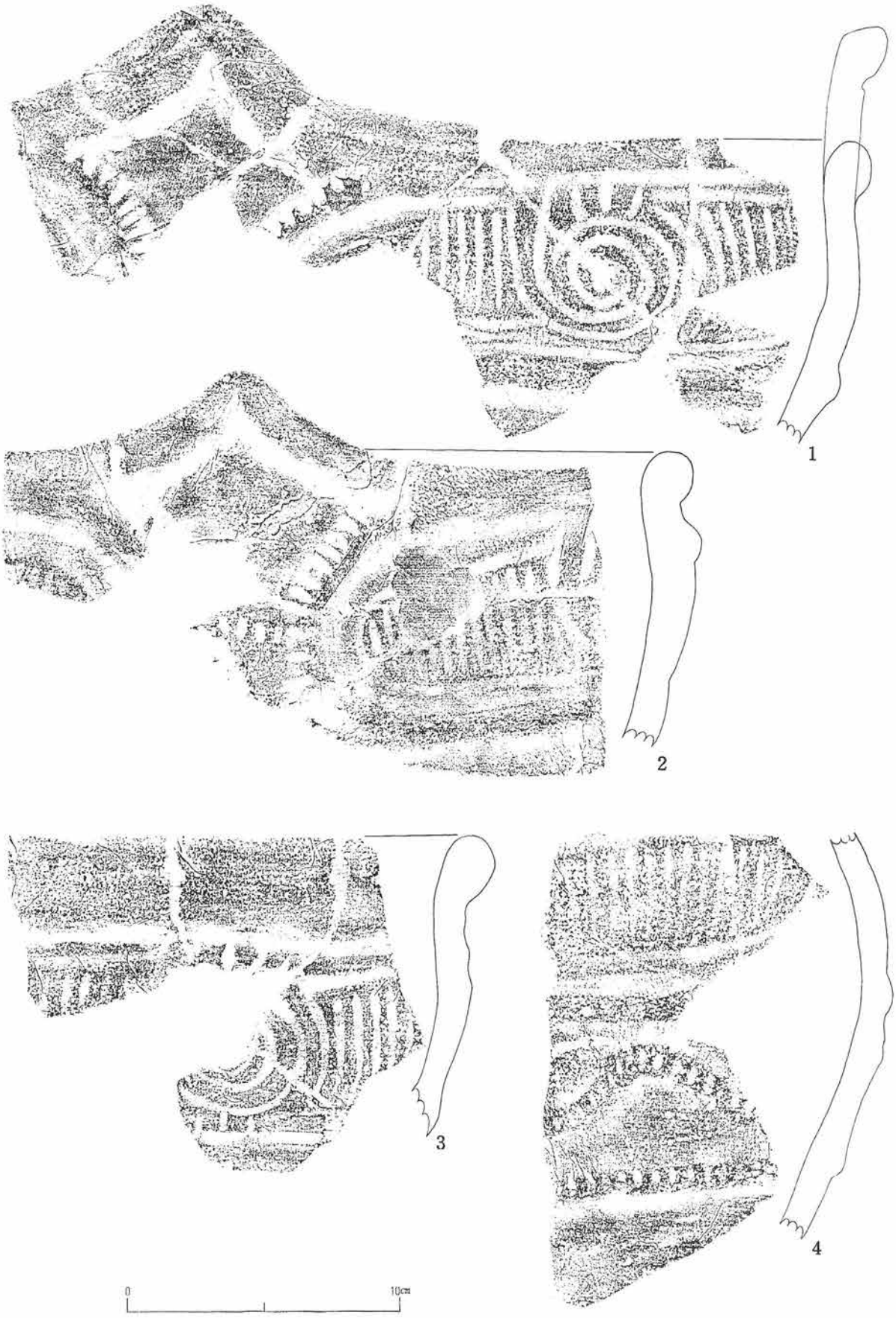

第78図　第II次調査 出土土器拓影（40）



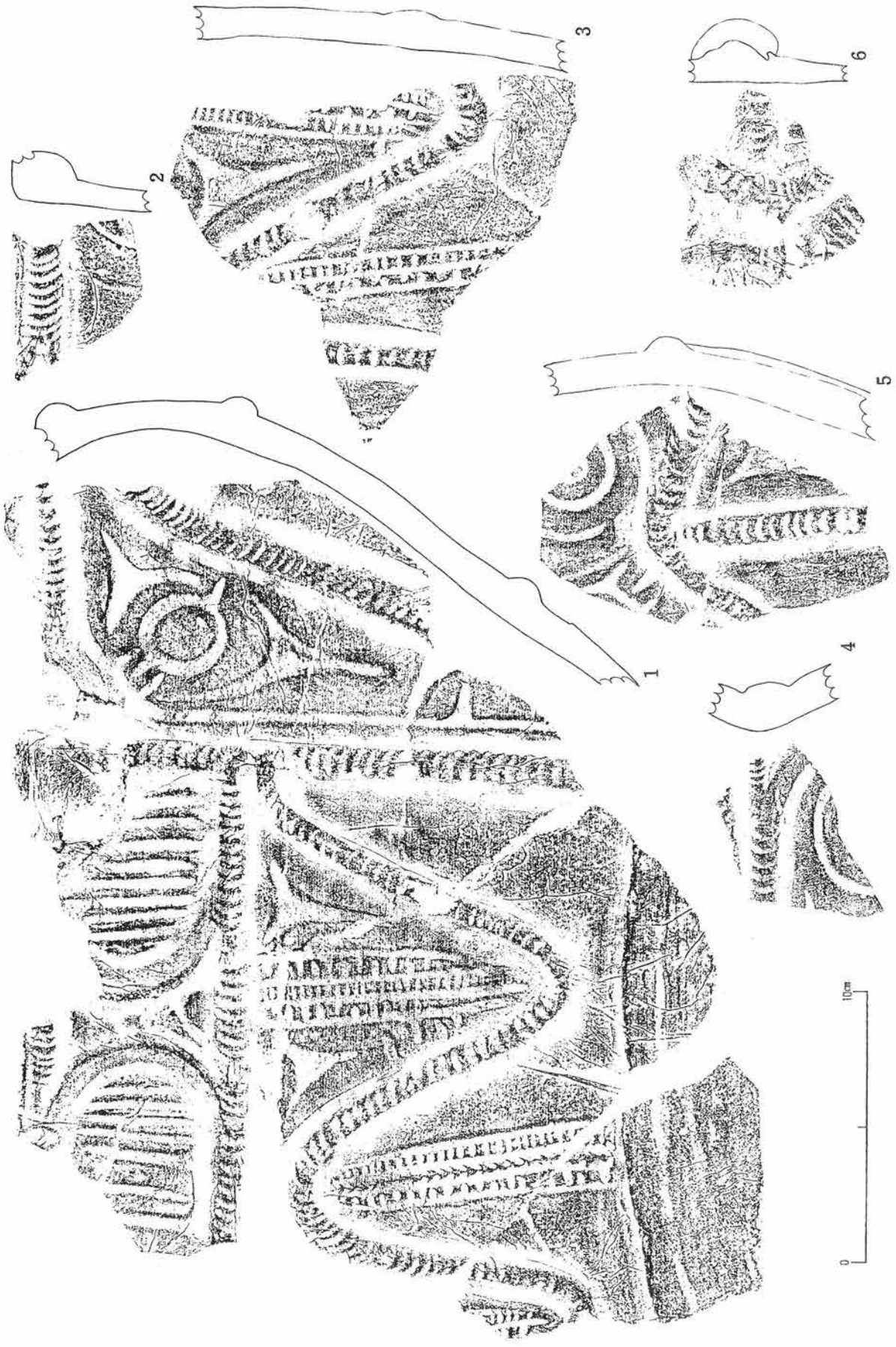

第79図　第II次調査 出土土器拓影（41）



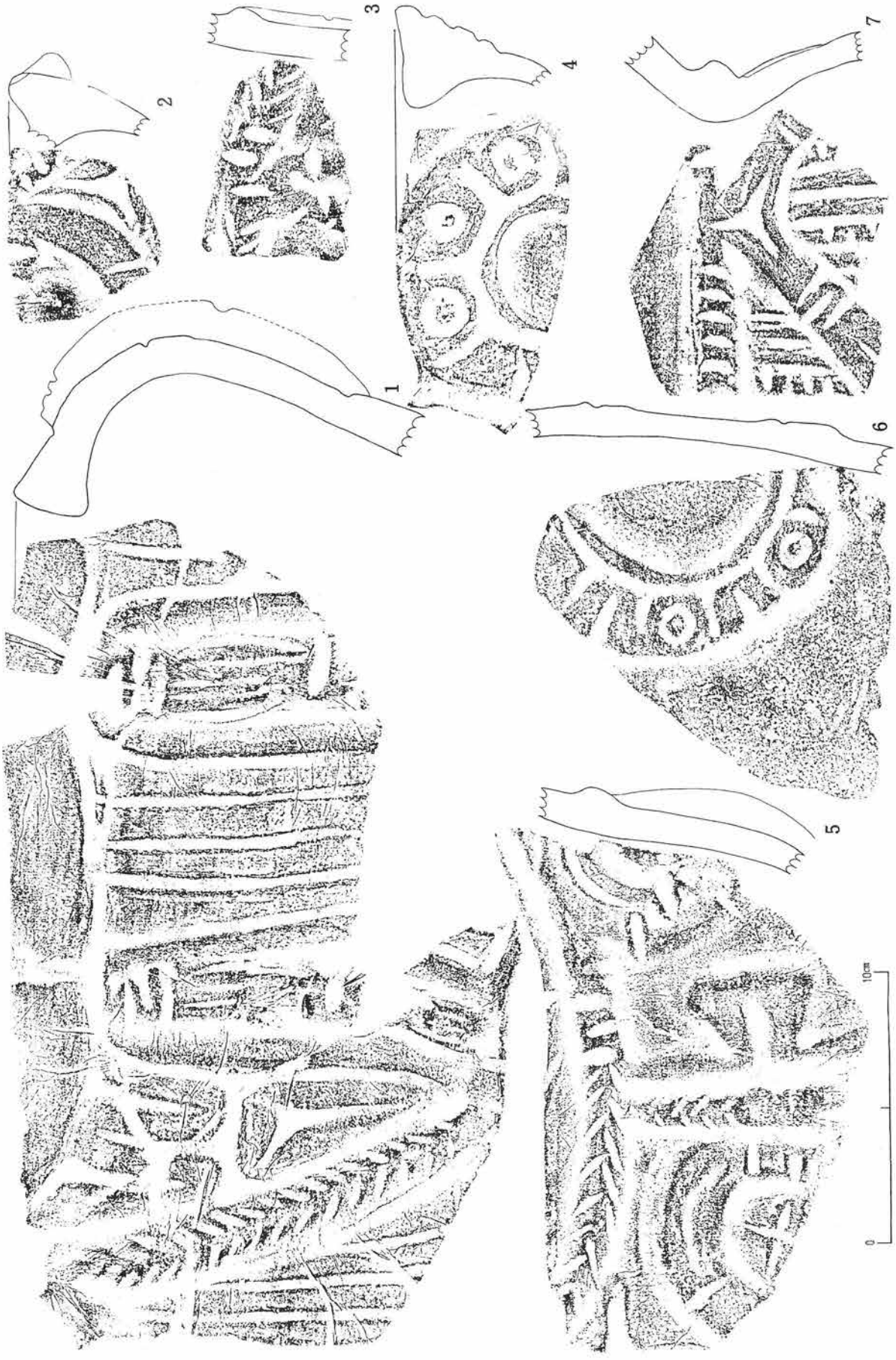

第80図　第II次調査 出土土器拓影（42）



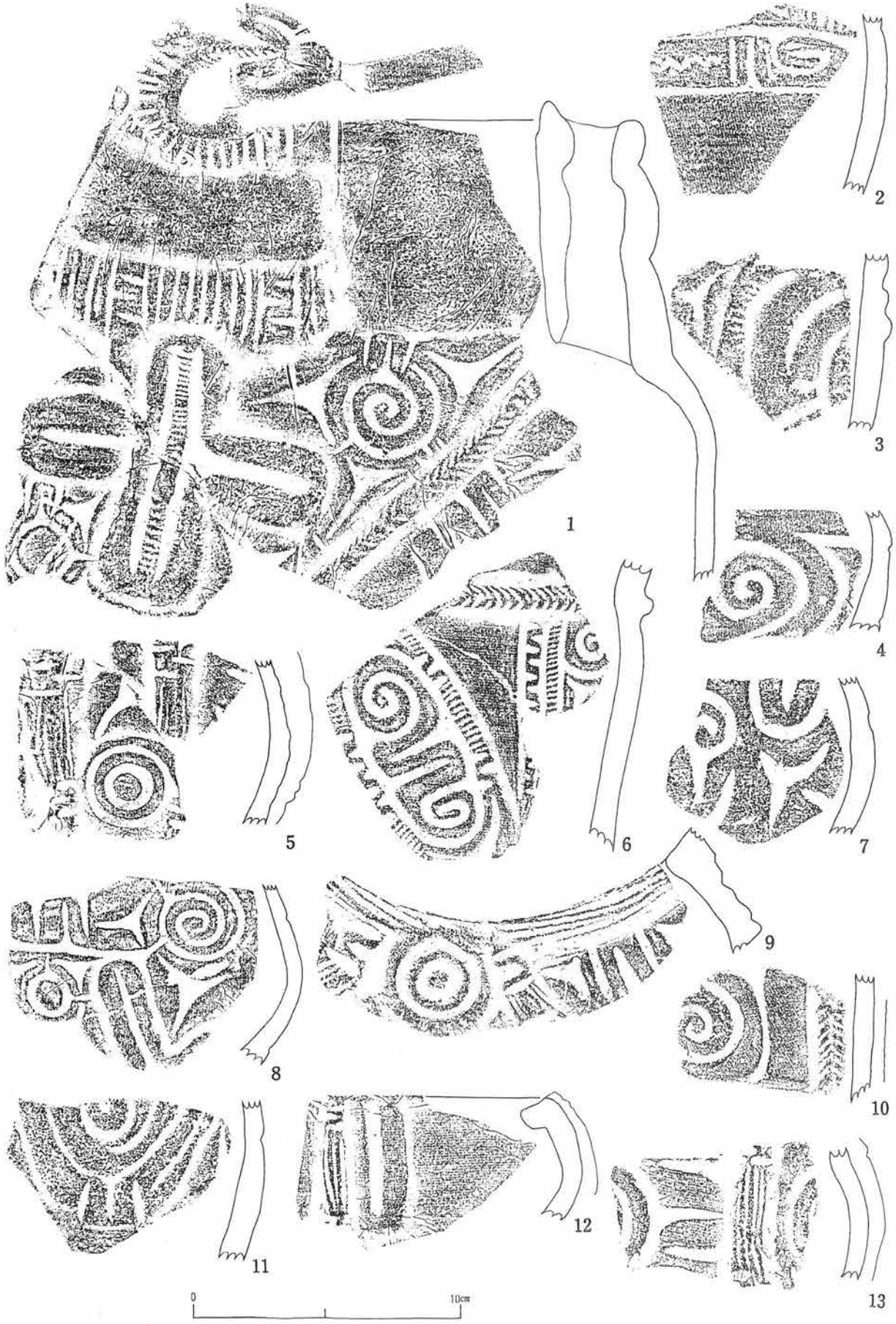

第81図　第II次調査 出土土器拓影（43）



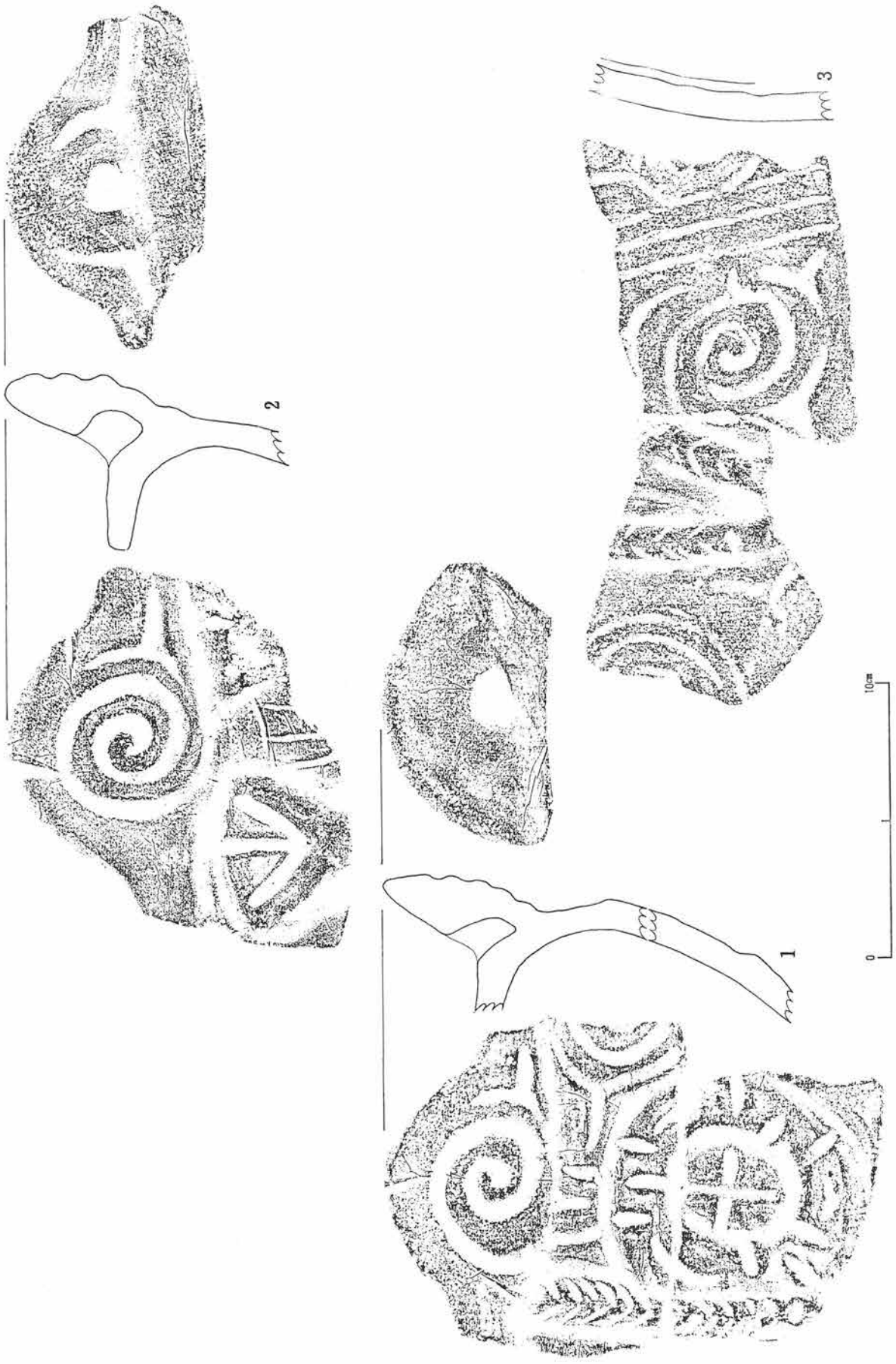

第82図　第II次調査 出土土器拓影（44）




第83図　第II次調査 出土土器拓影（45）

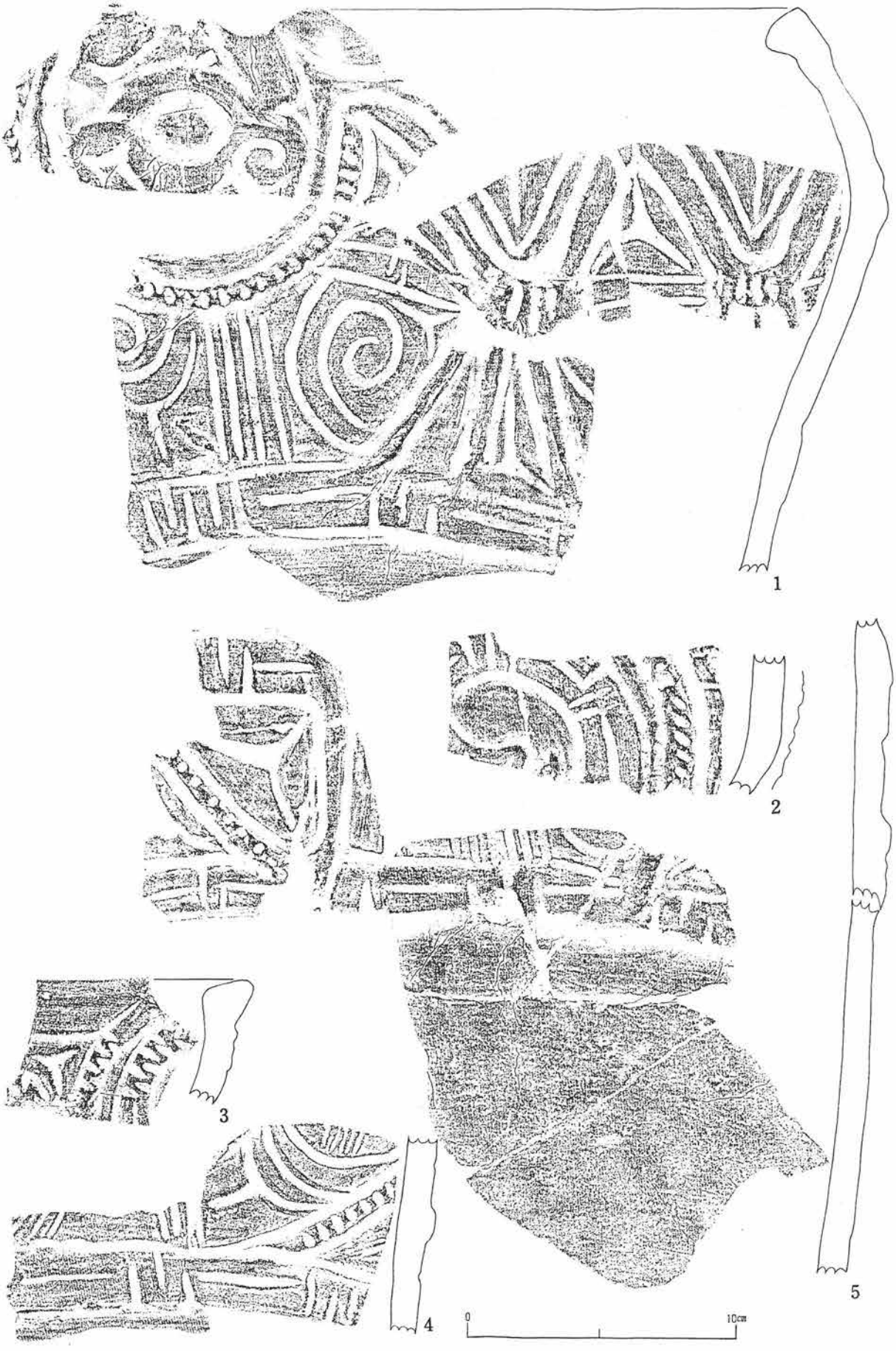



第84図　第II次調査 出土土器拓影（46）

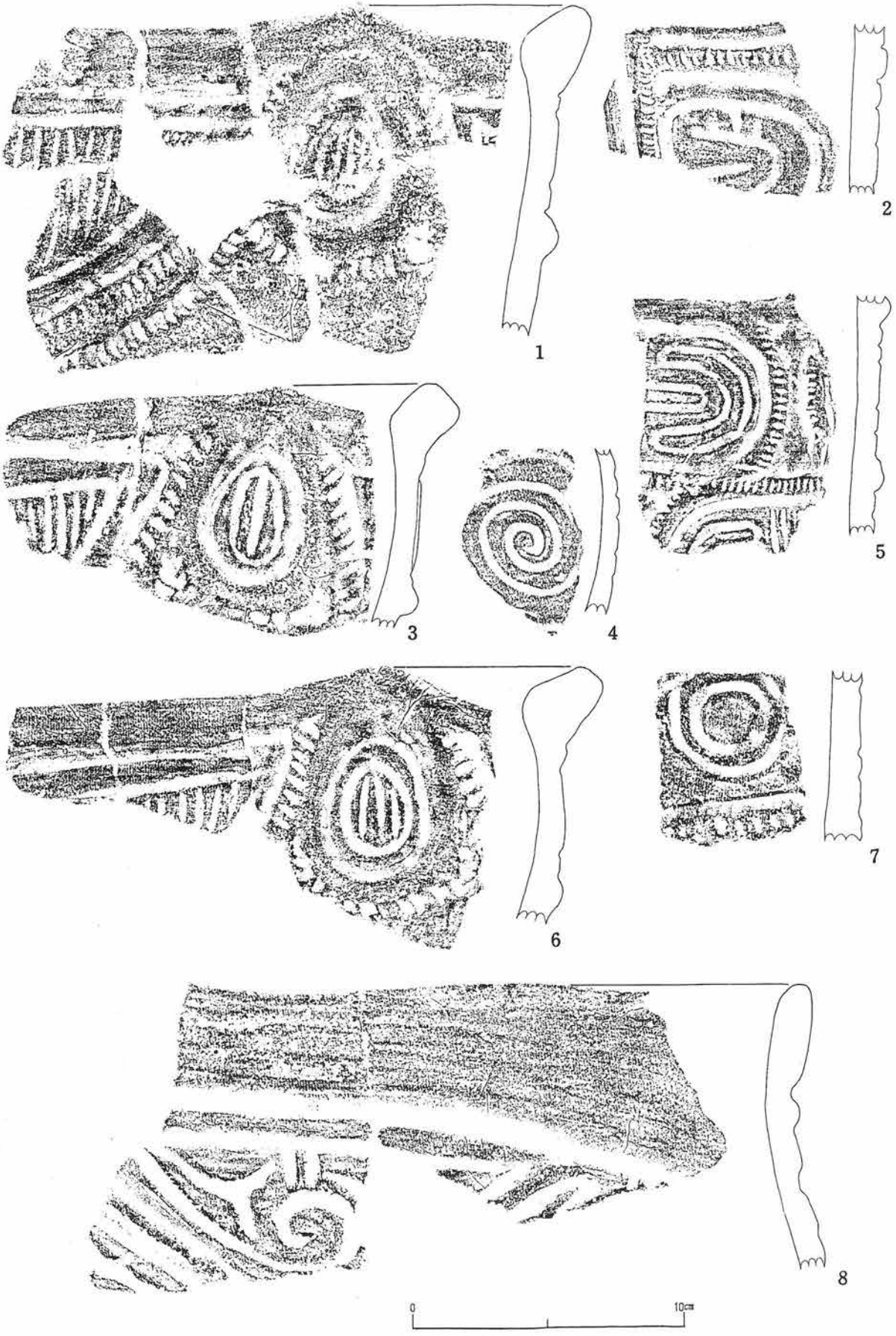



第85図　第II次調査 出土土器拓影（47）

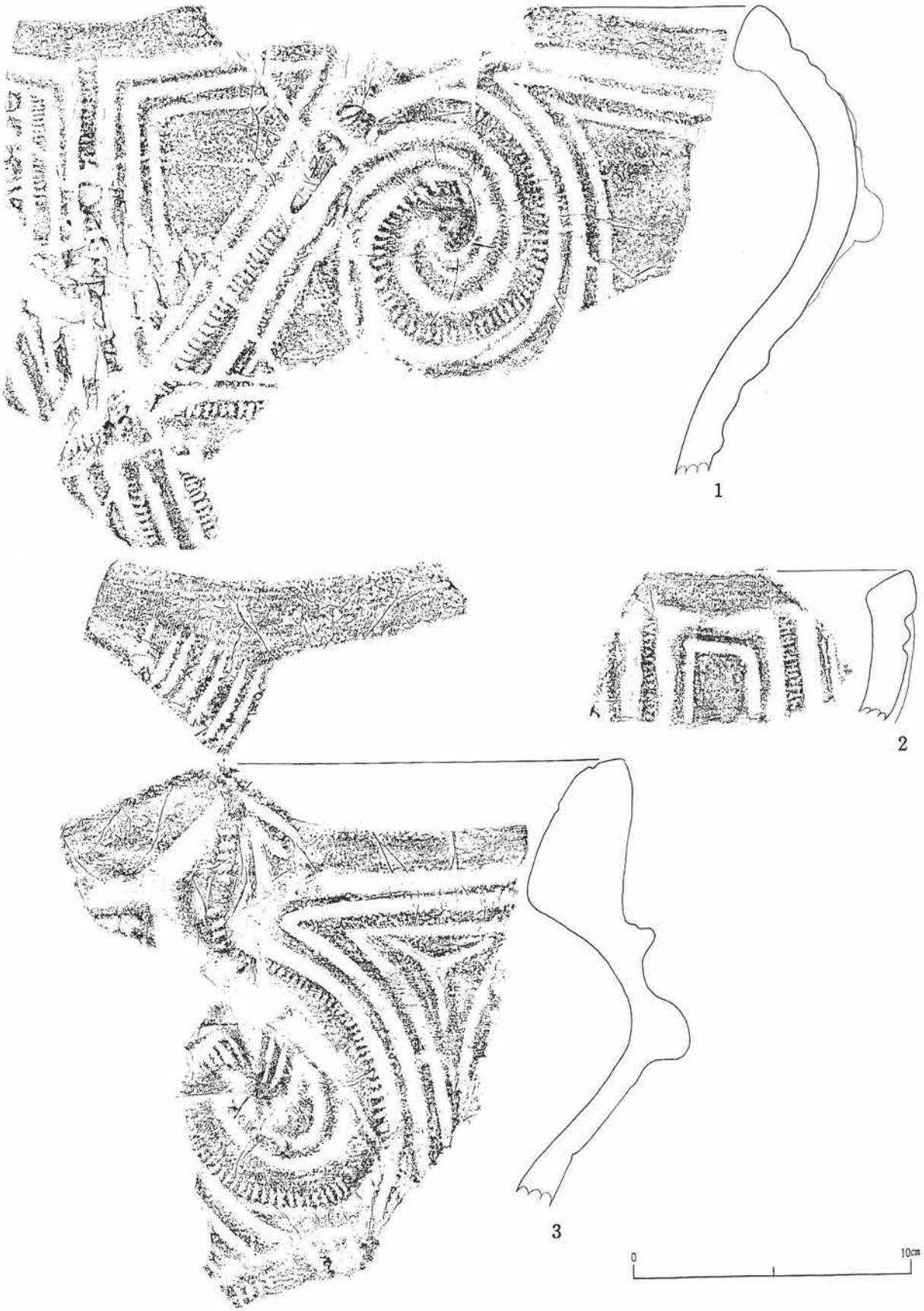
第86図　第II次調査 出土土器拓影（48）



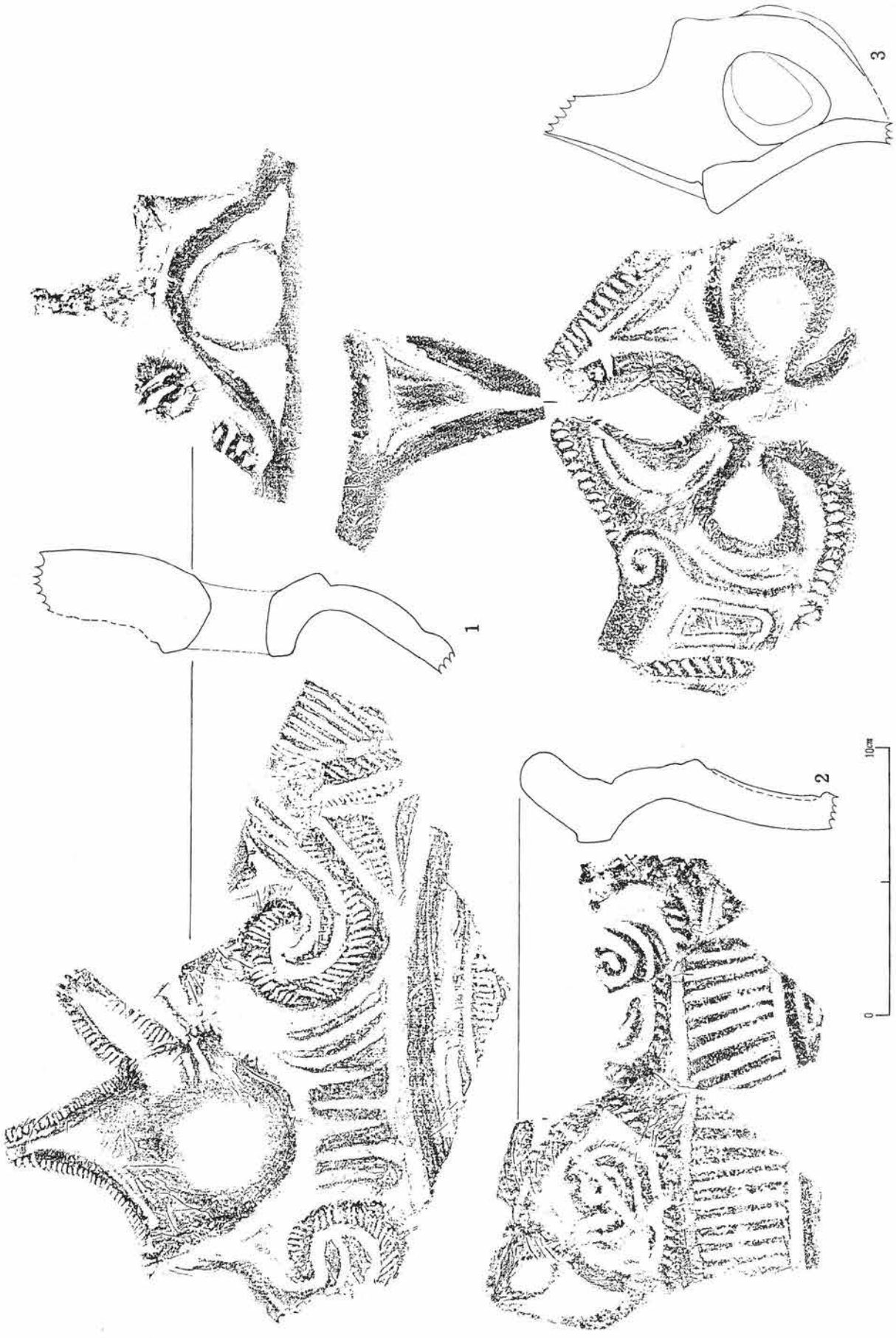

第87図　第II次調査 出土土器拓影（49）



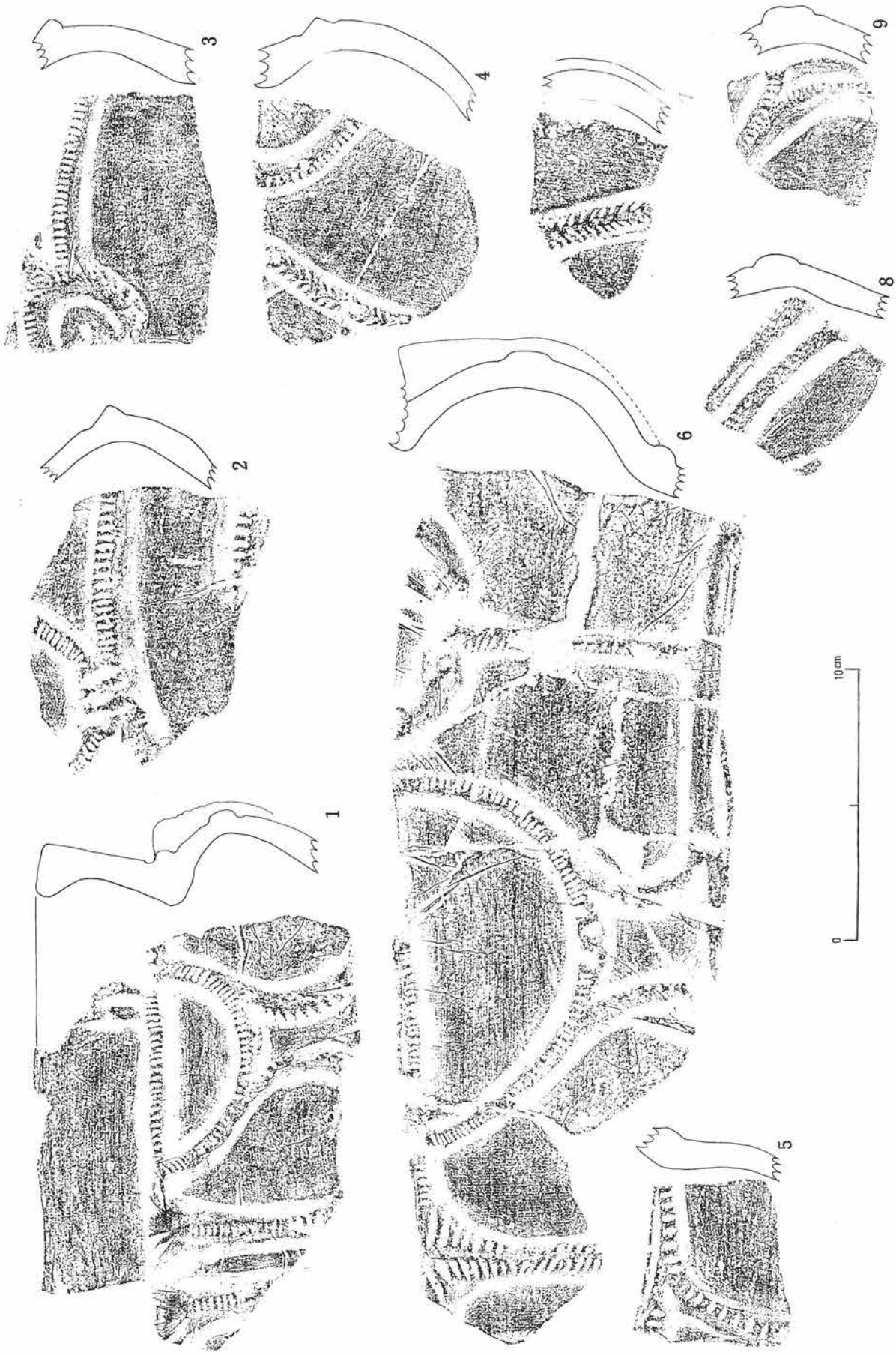

第88図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（50）



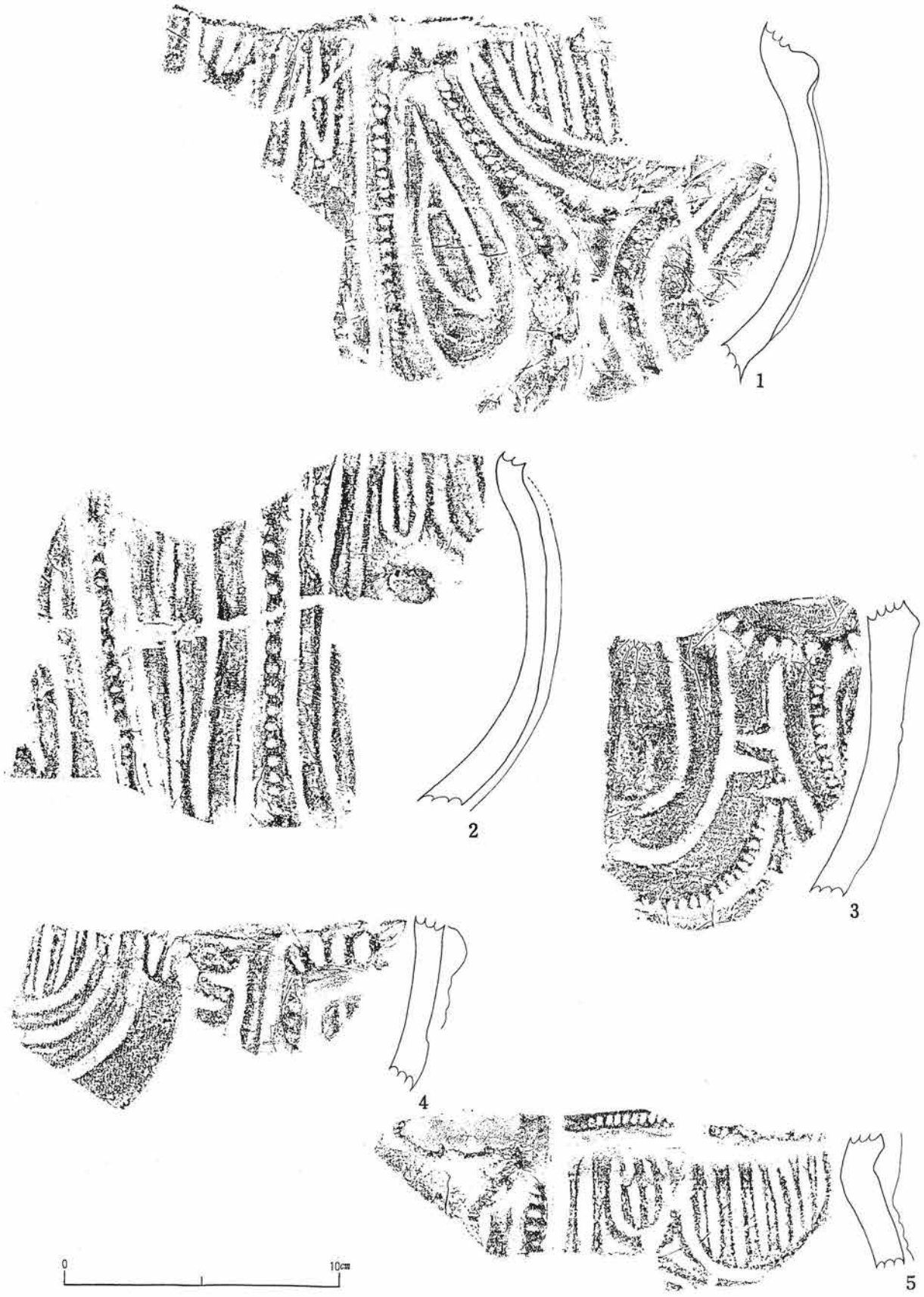

第89図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（51）



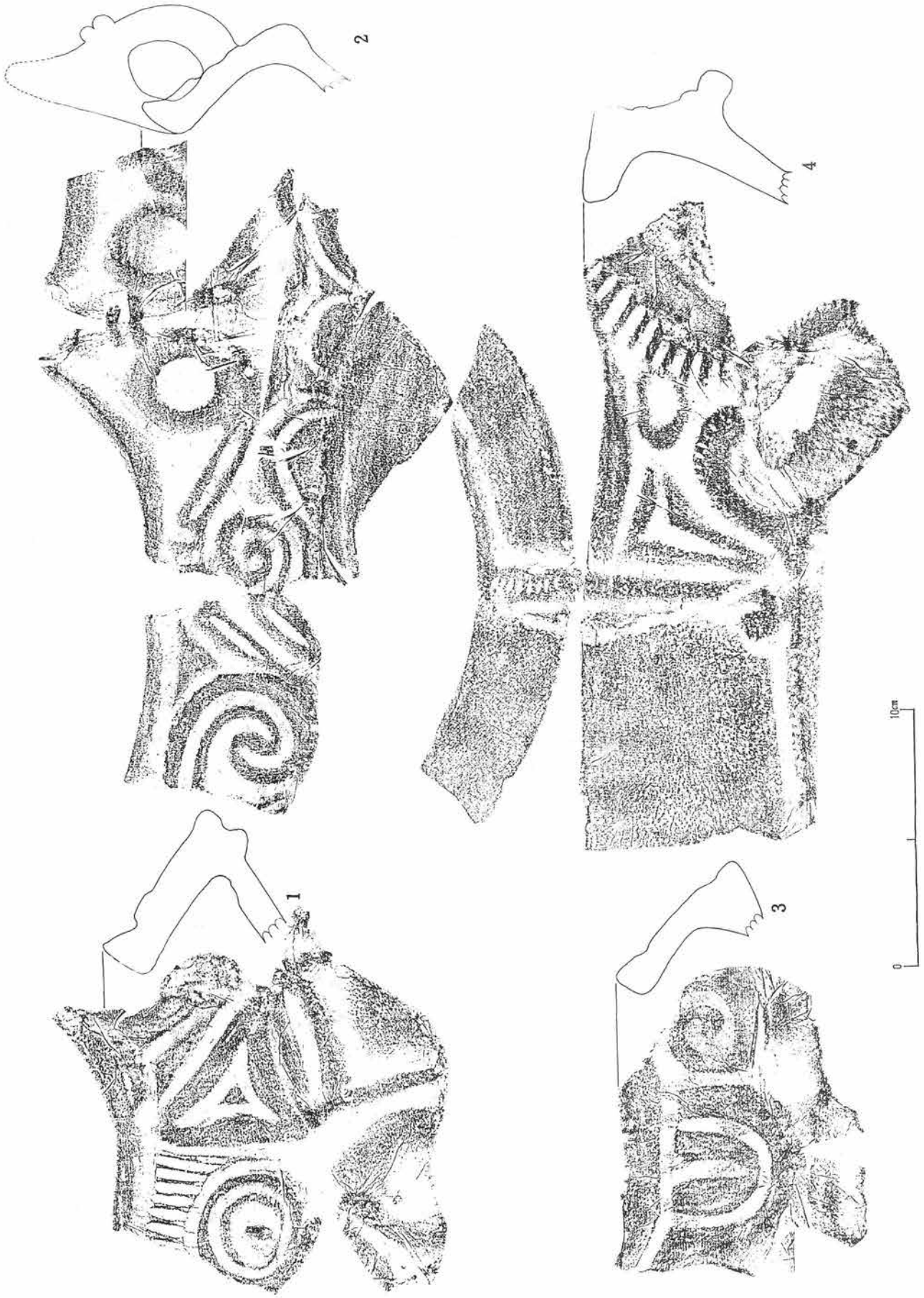

第90図　第II次調査 出土土器拓影（52）



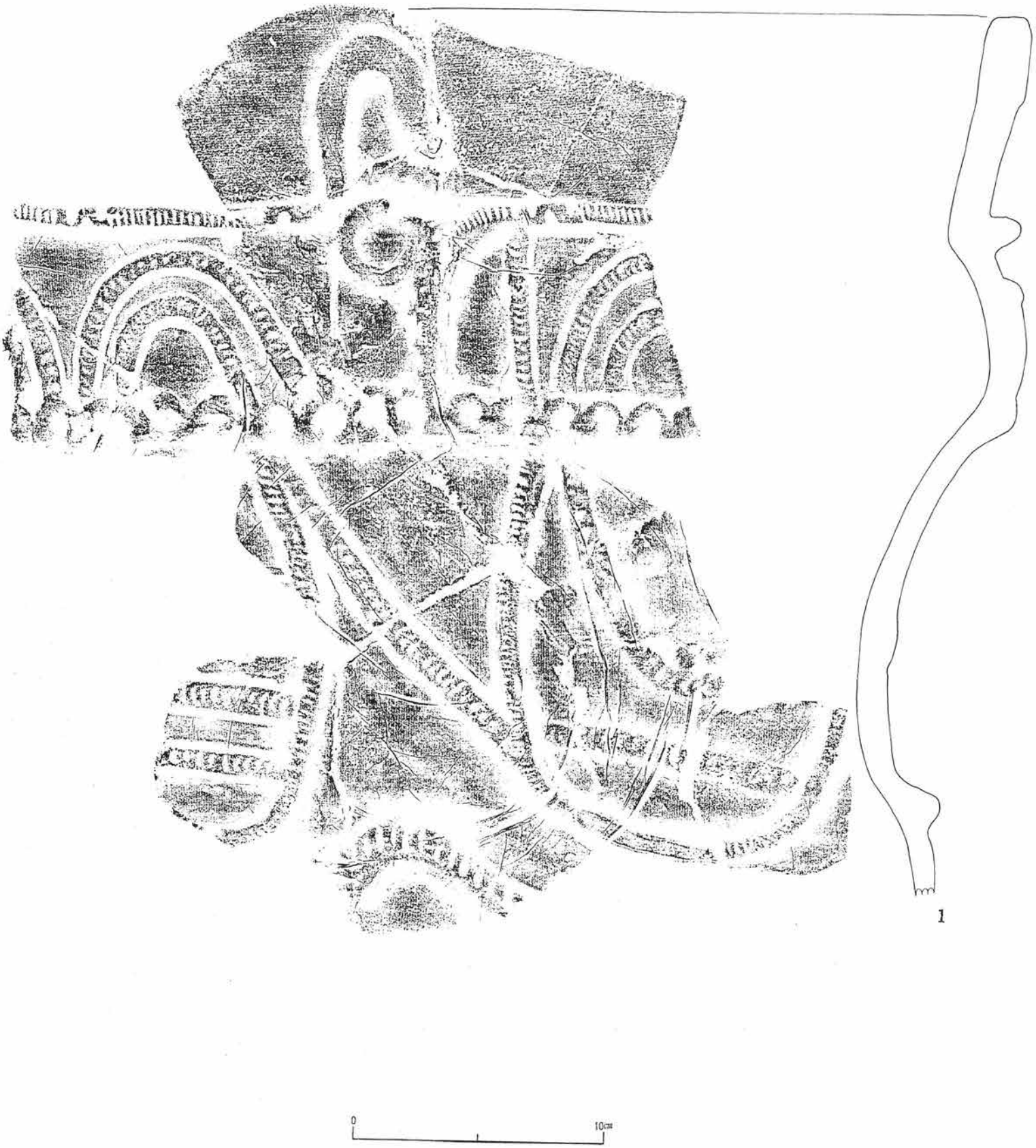

第91図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（53）



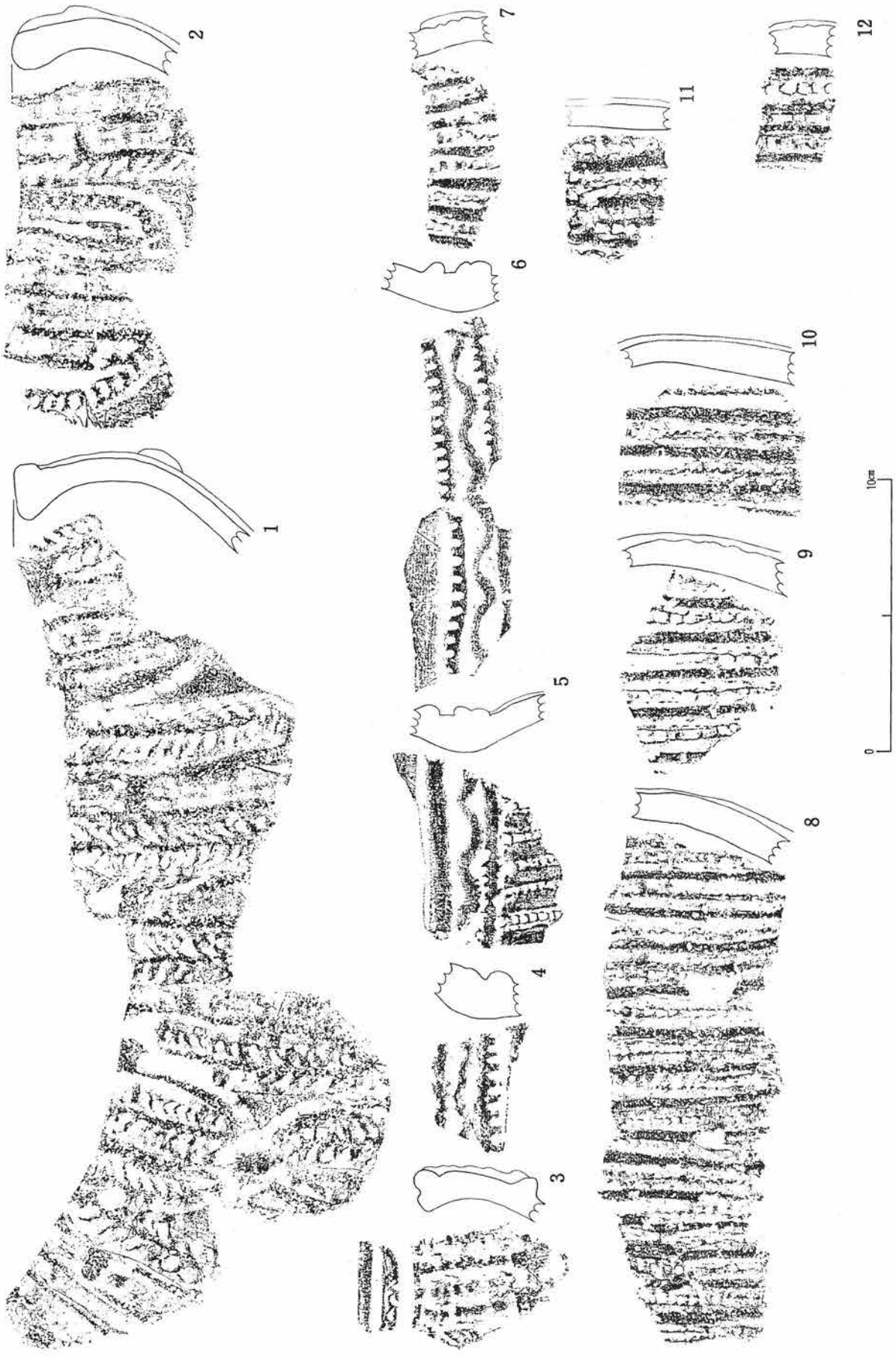

第92図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（54）



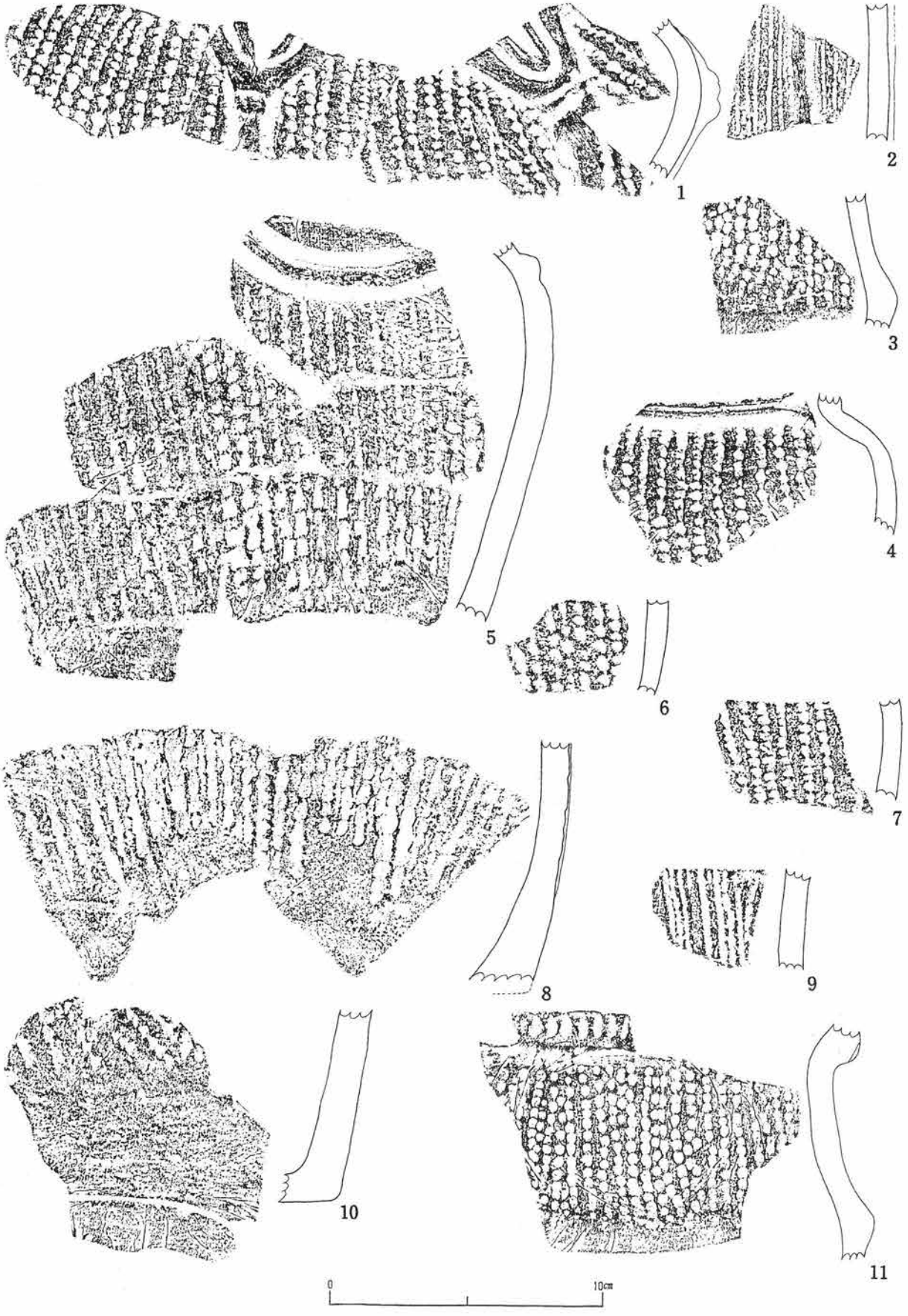

第93図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（55）



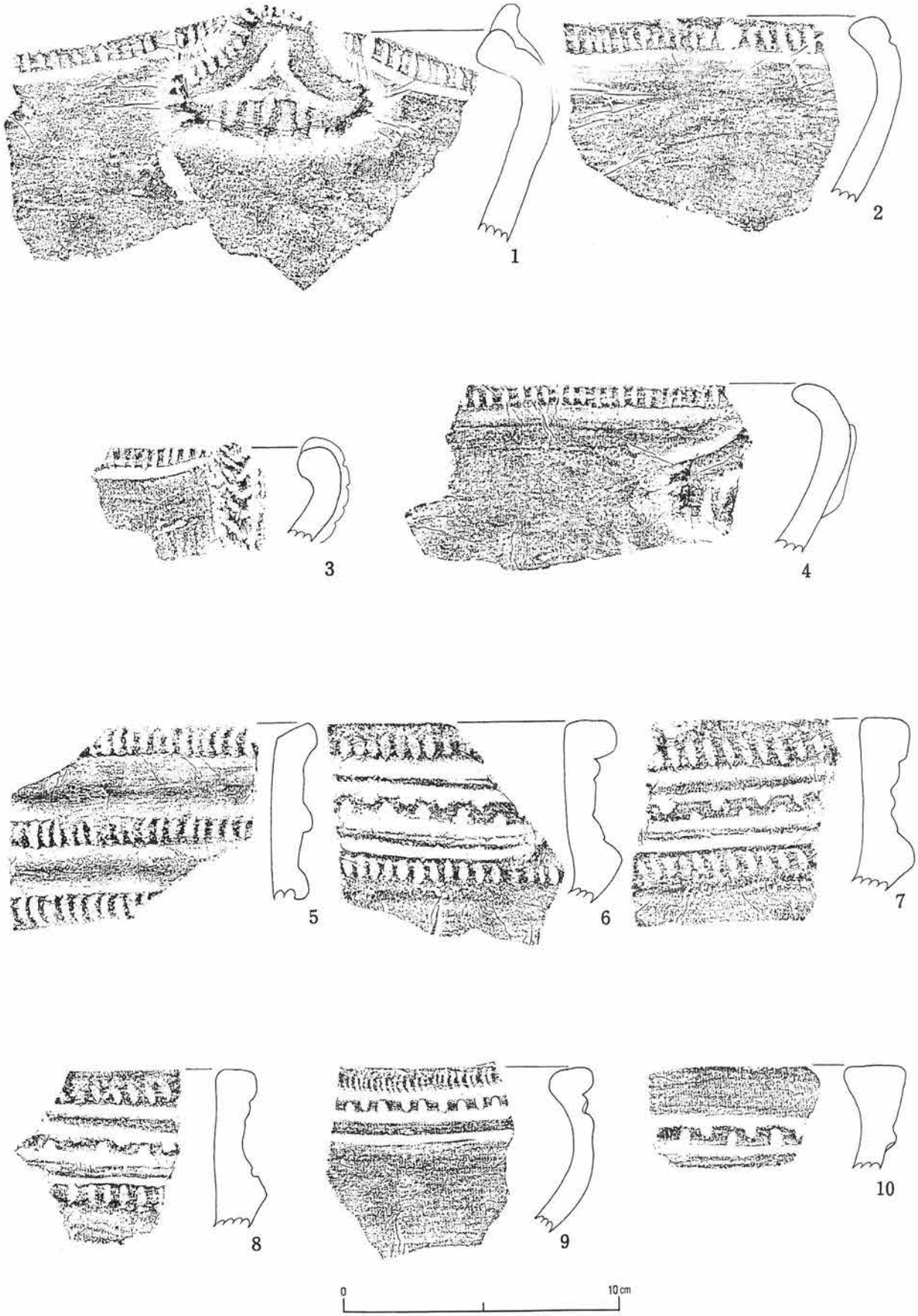

第94図　第II次調査 出土土器拓影（56）



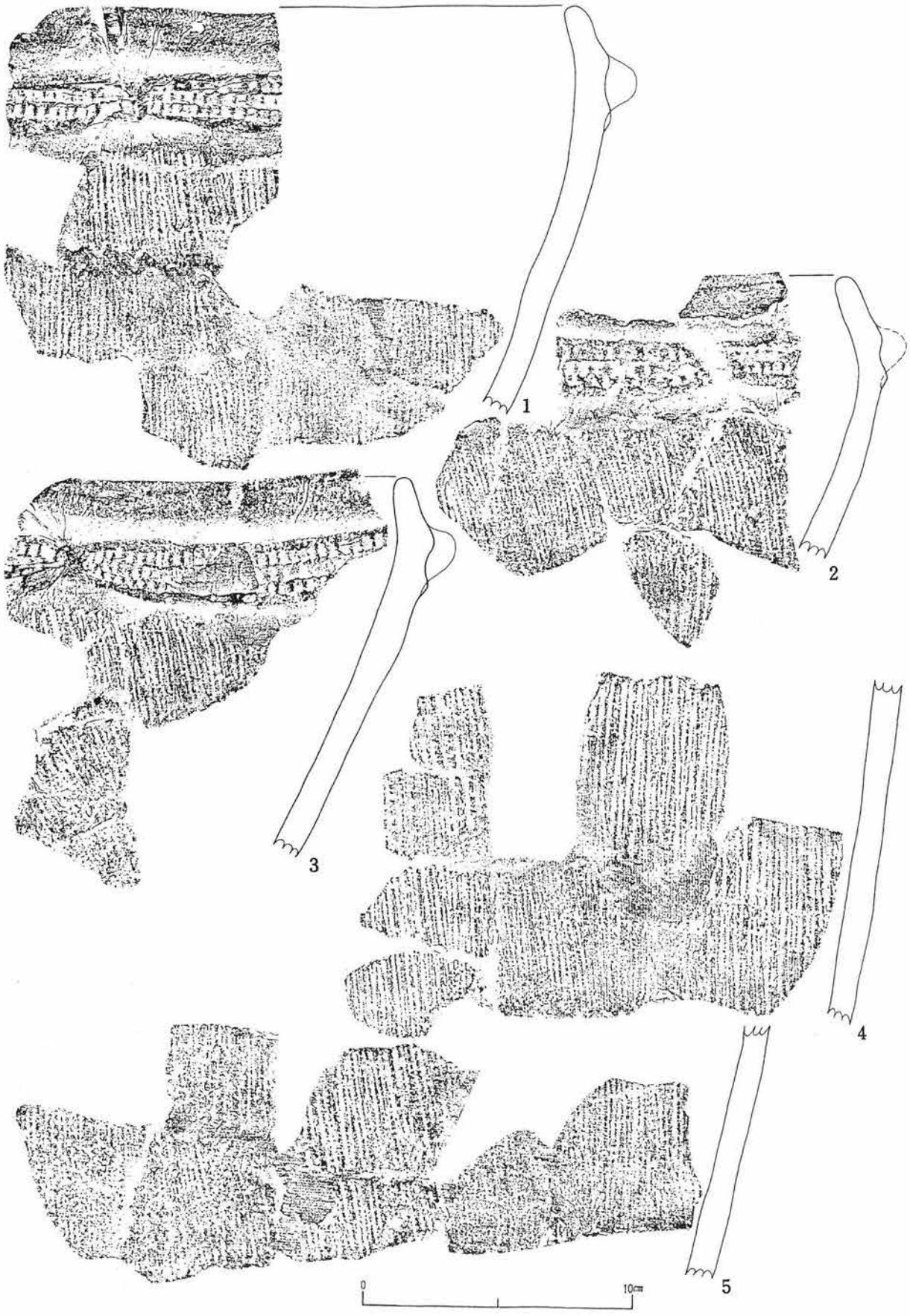

第95図　第II次調査 出土土器拓影（57）



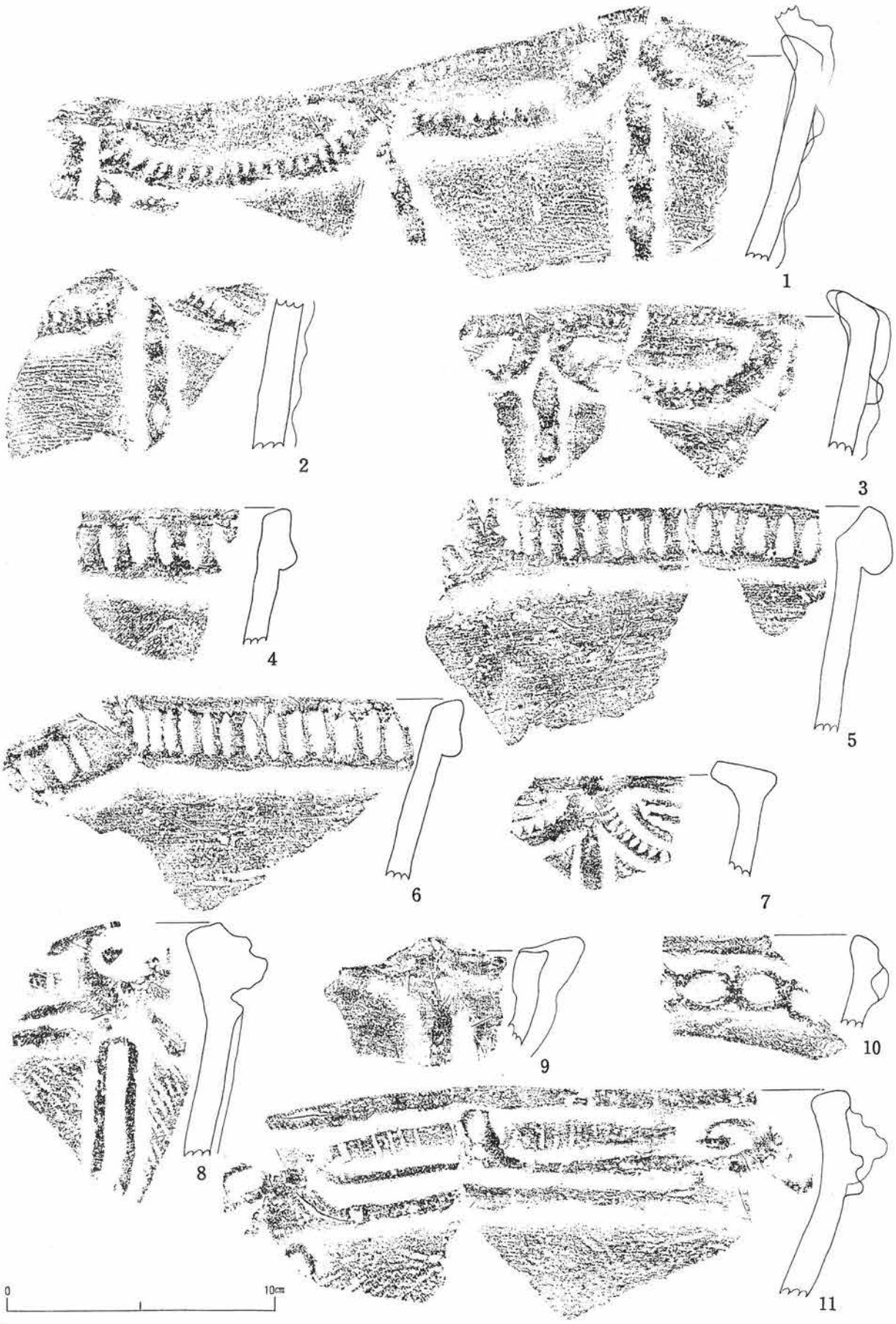

第96図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（58）



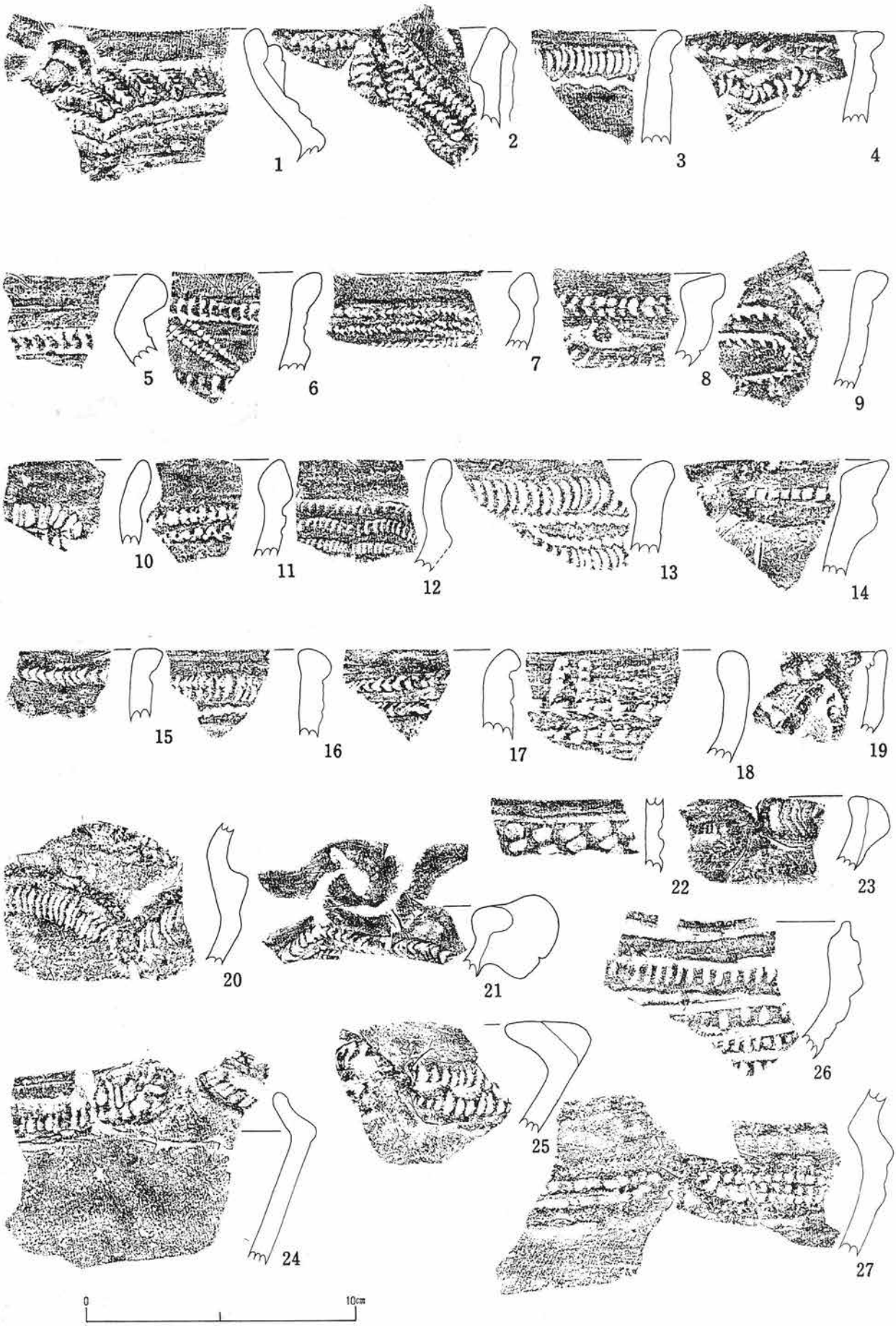

第97図　第II次調査 出土土器拓影（59）



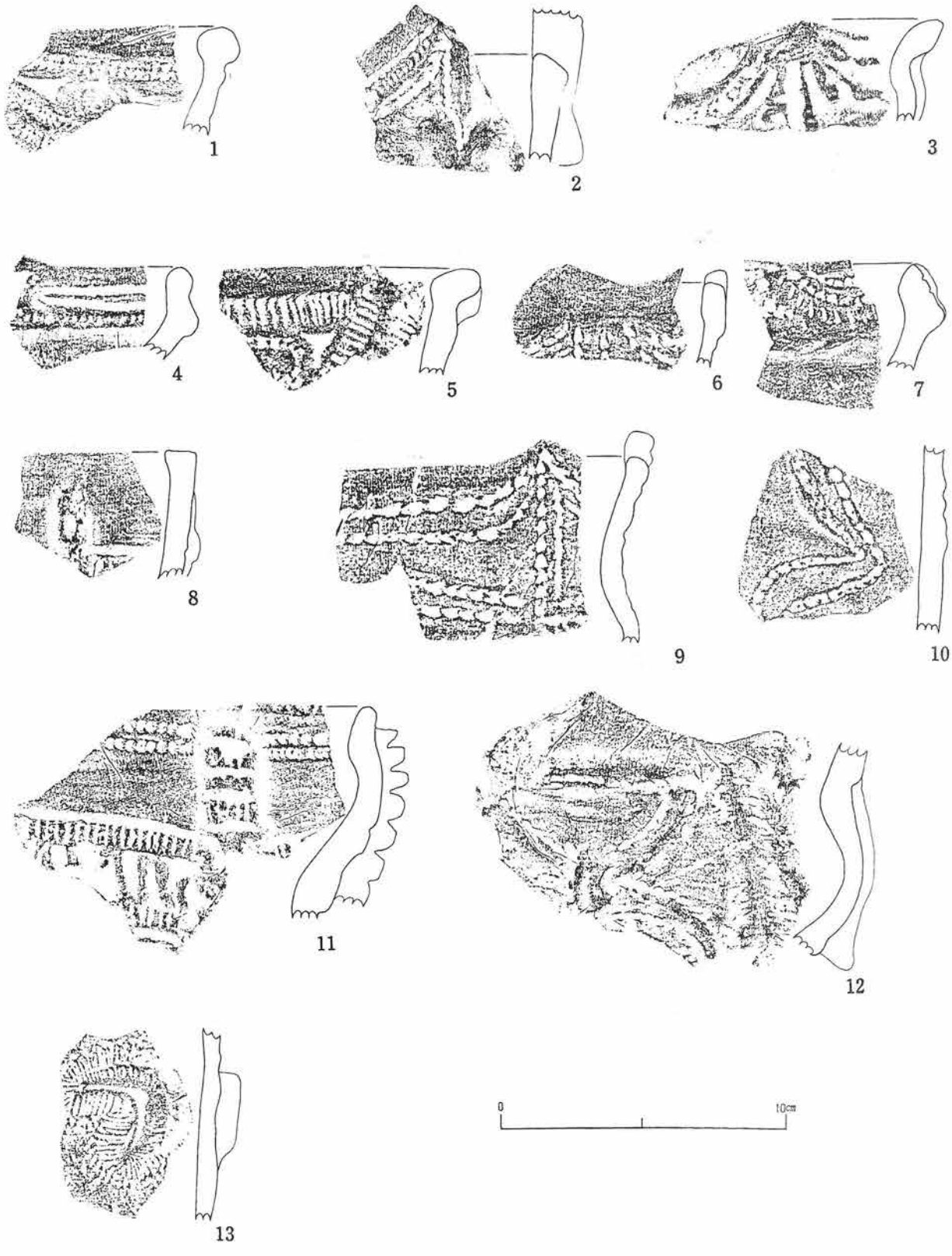

第98図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（60）



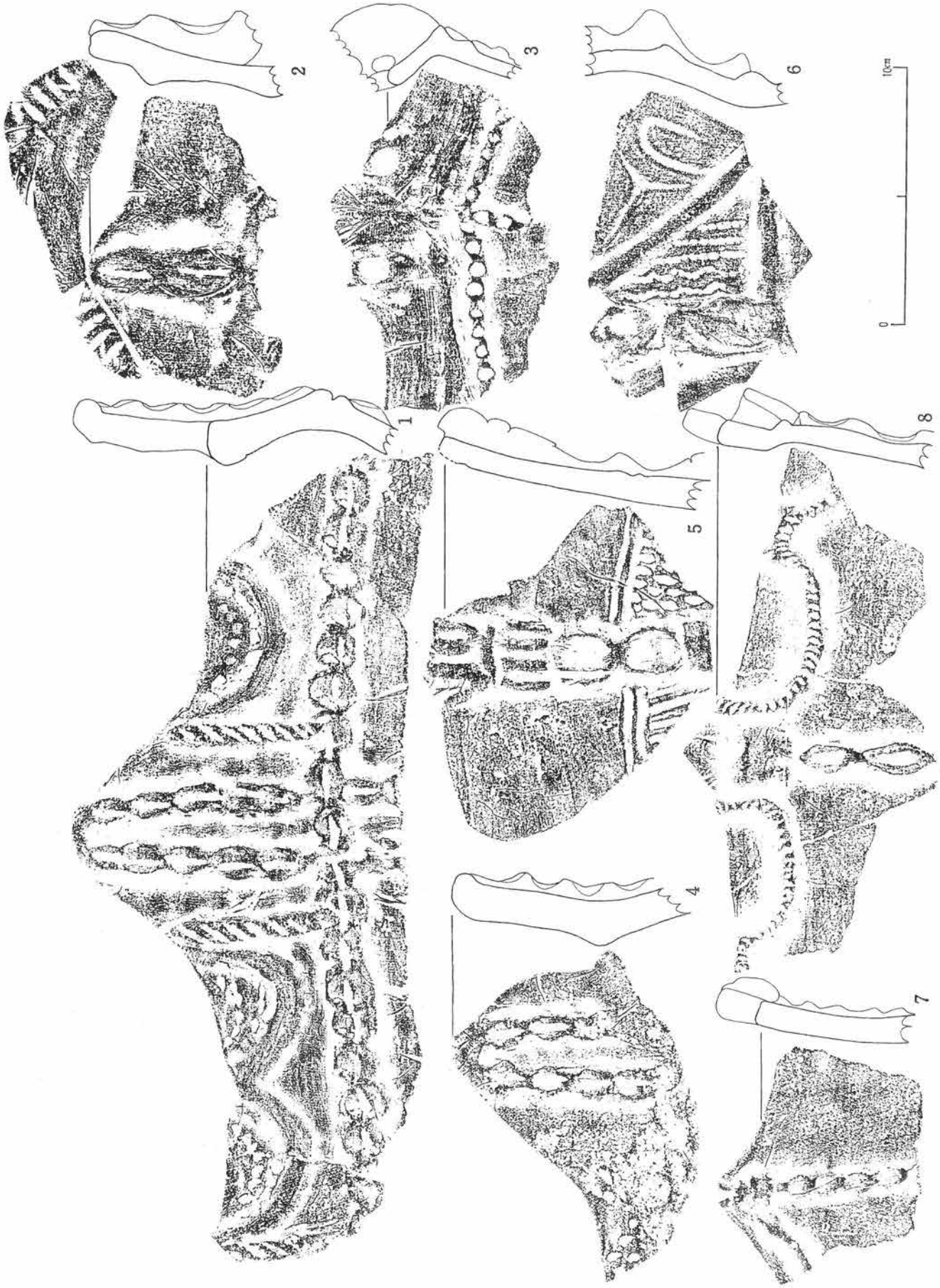

第99図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（61）



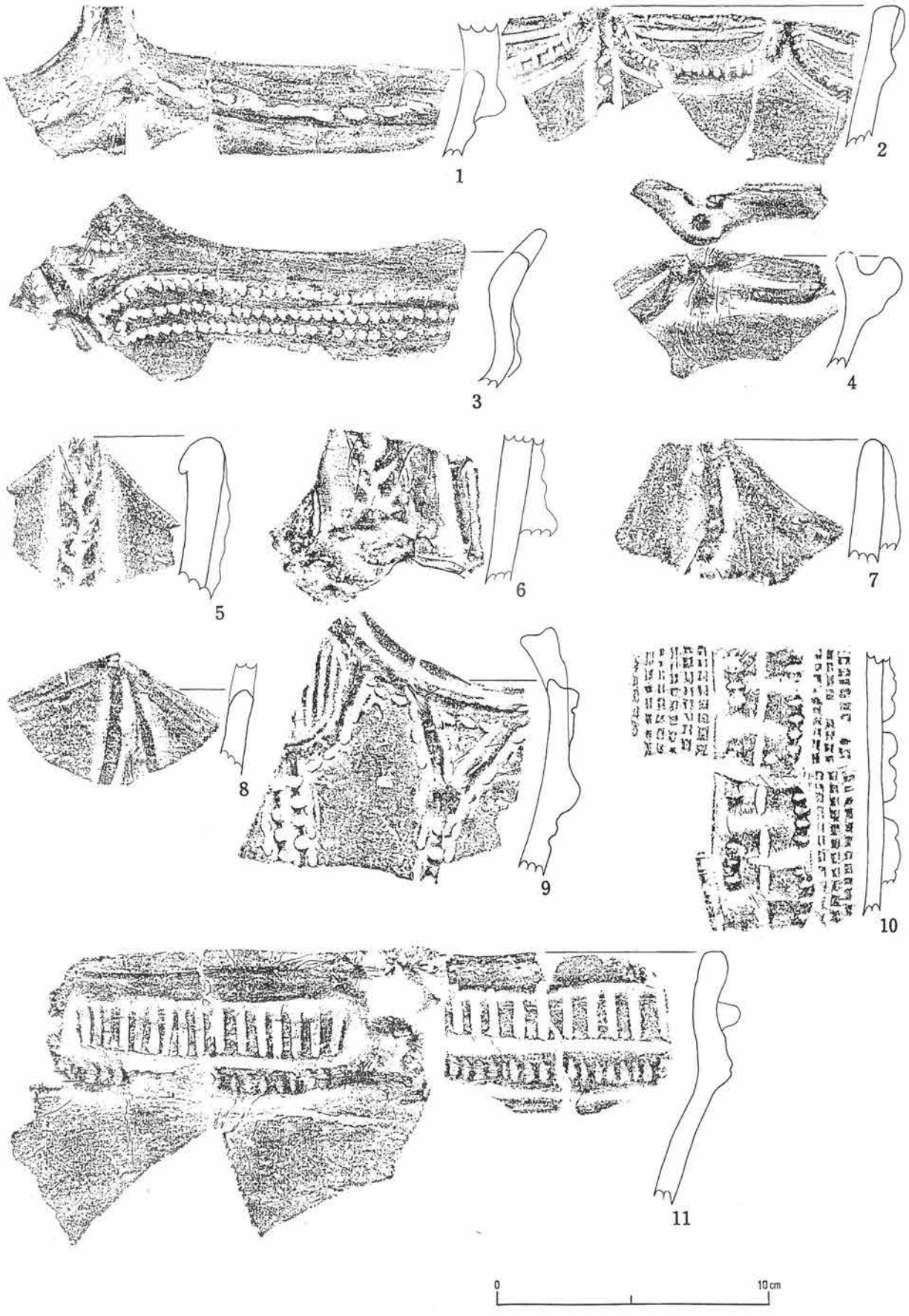

第100図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（62）



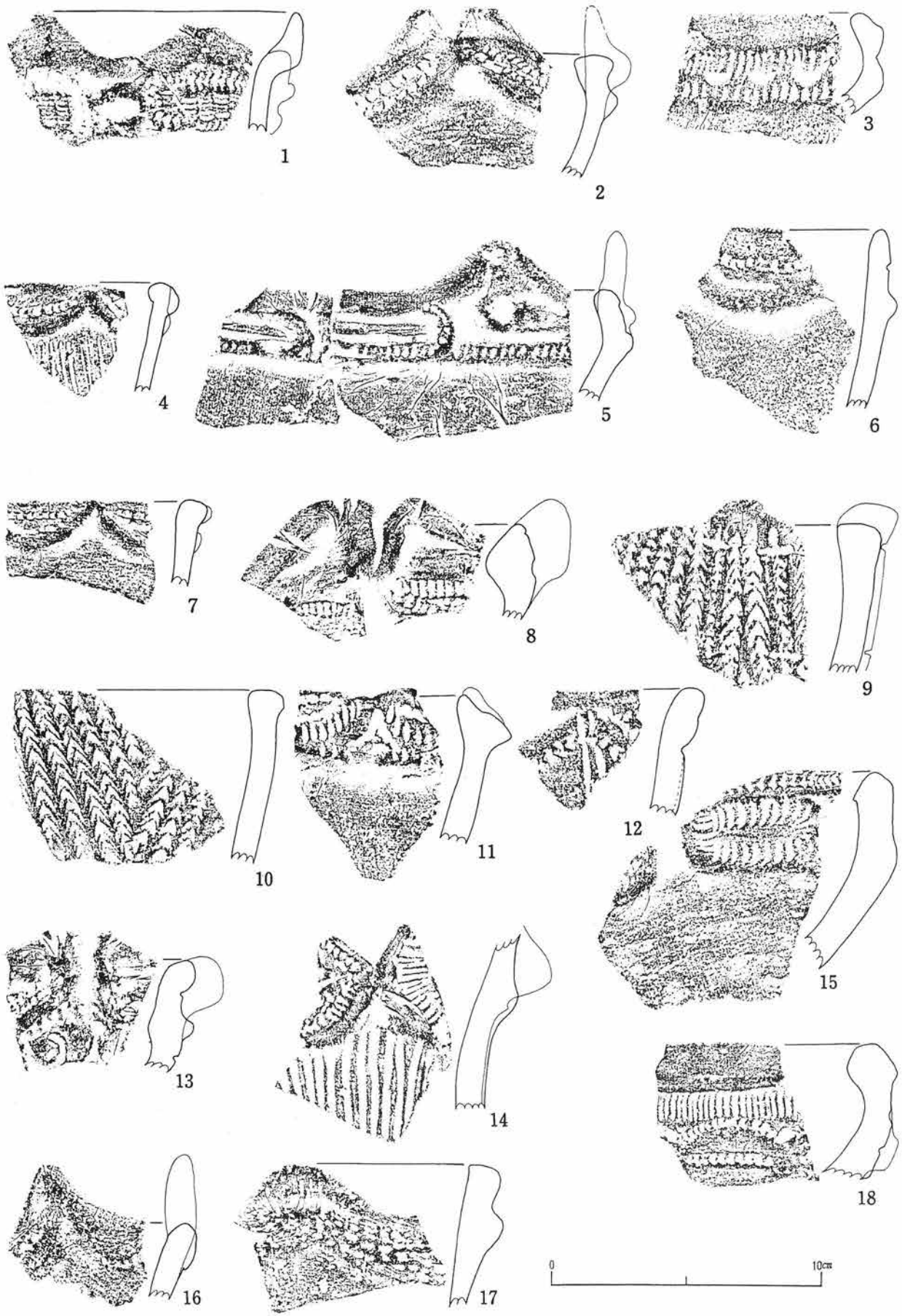

第101図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（63）



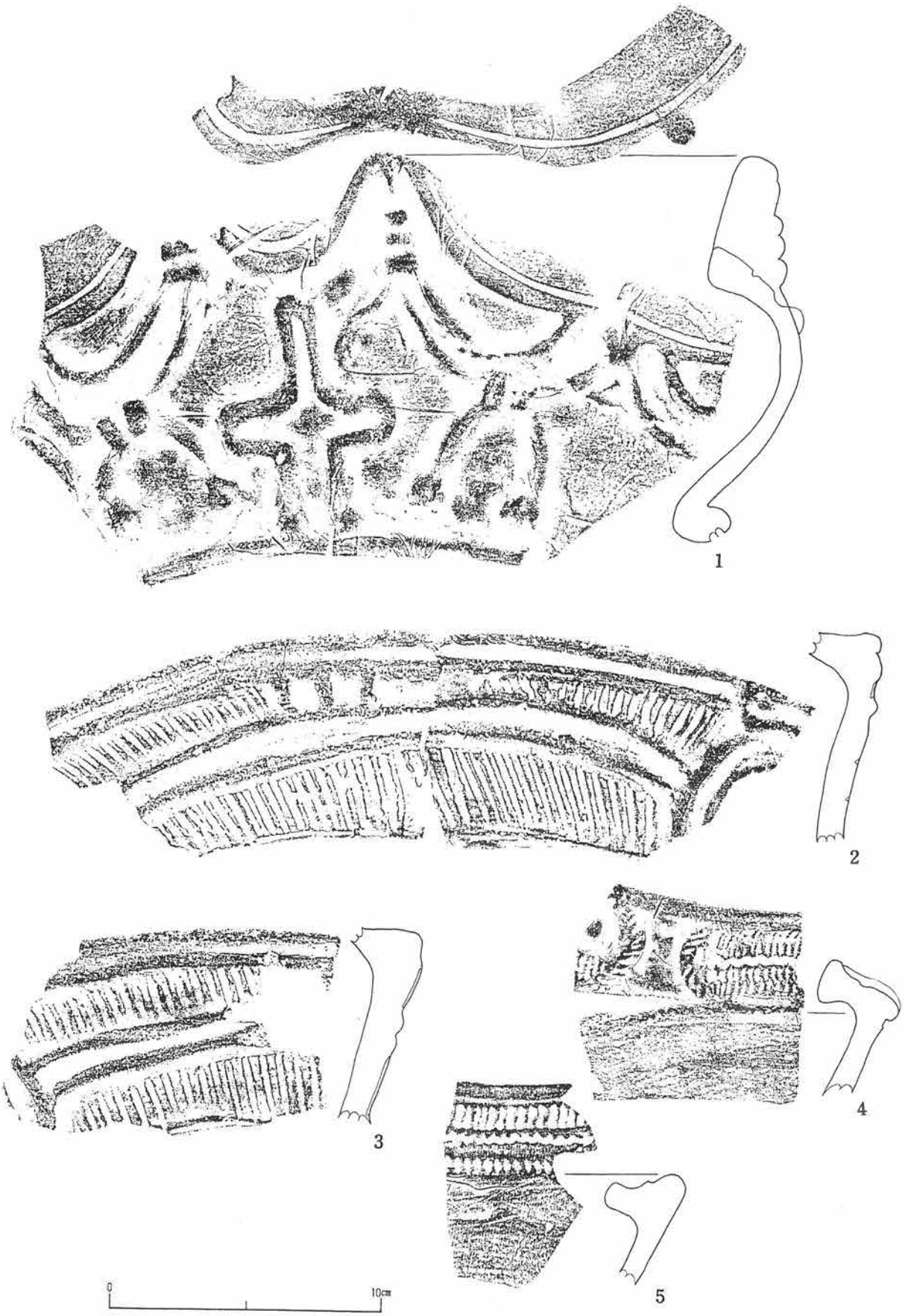

第102図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（64）



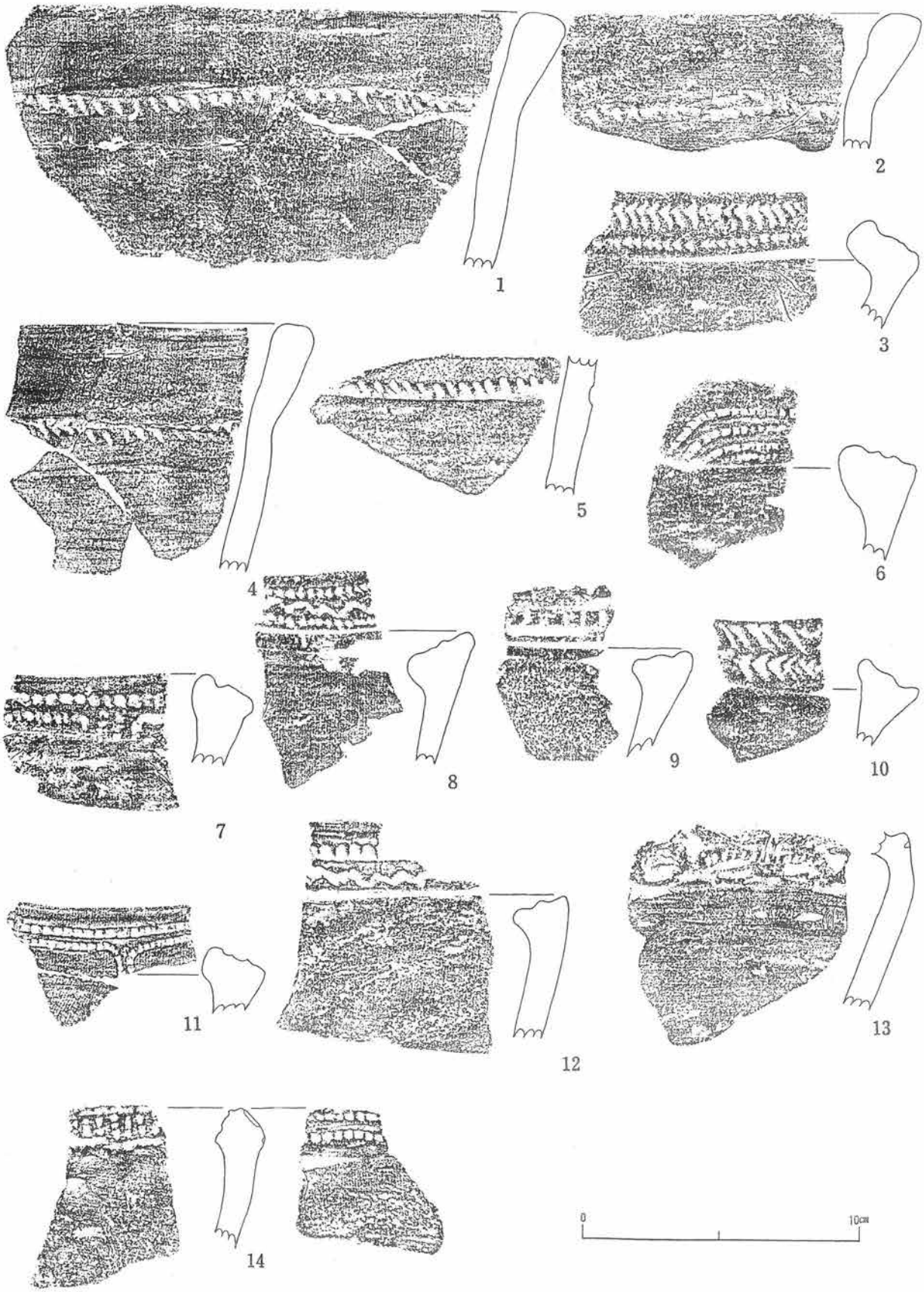

第103図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（65）



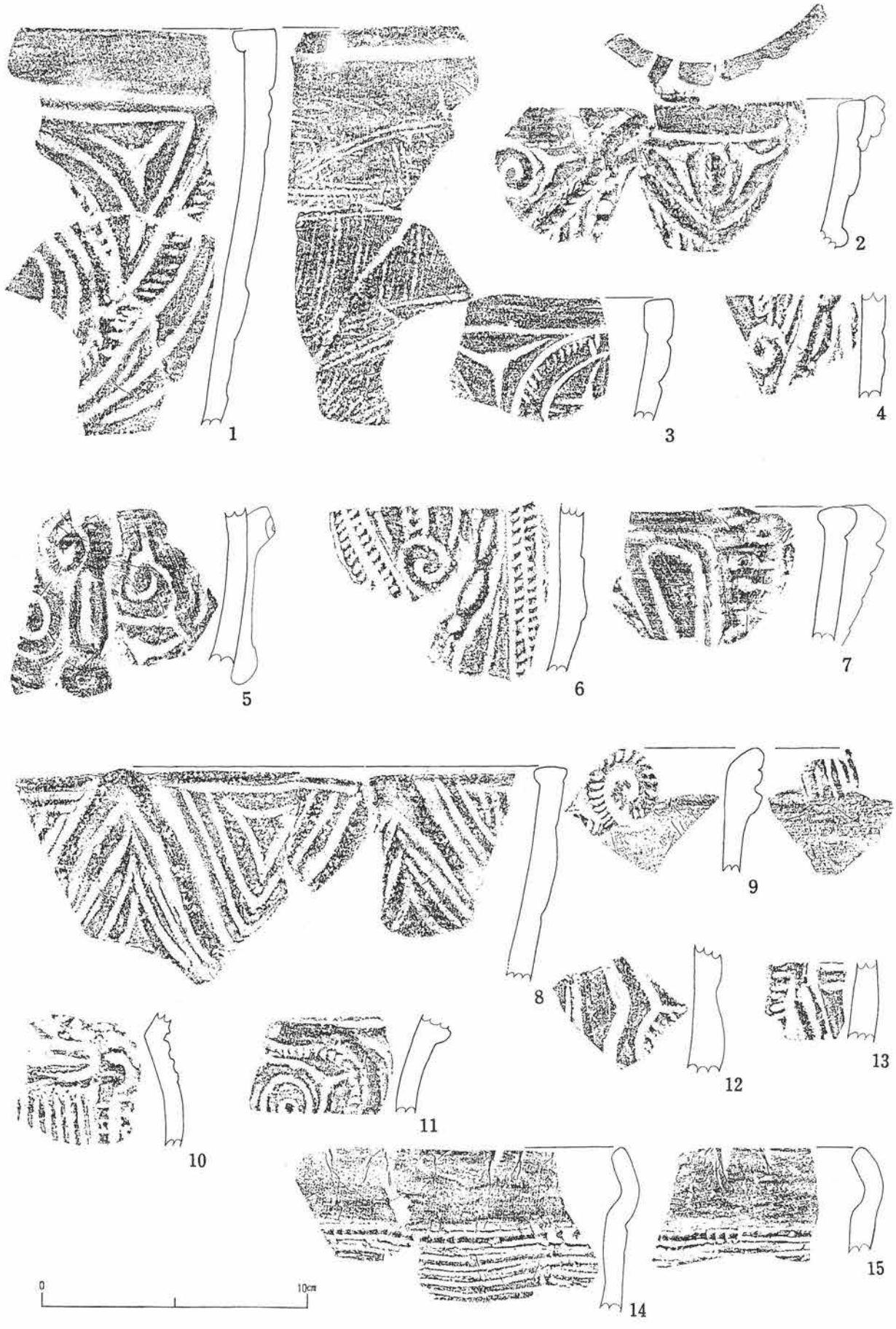

第104図　第II次調査 出土土器拓影（66）



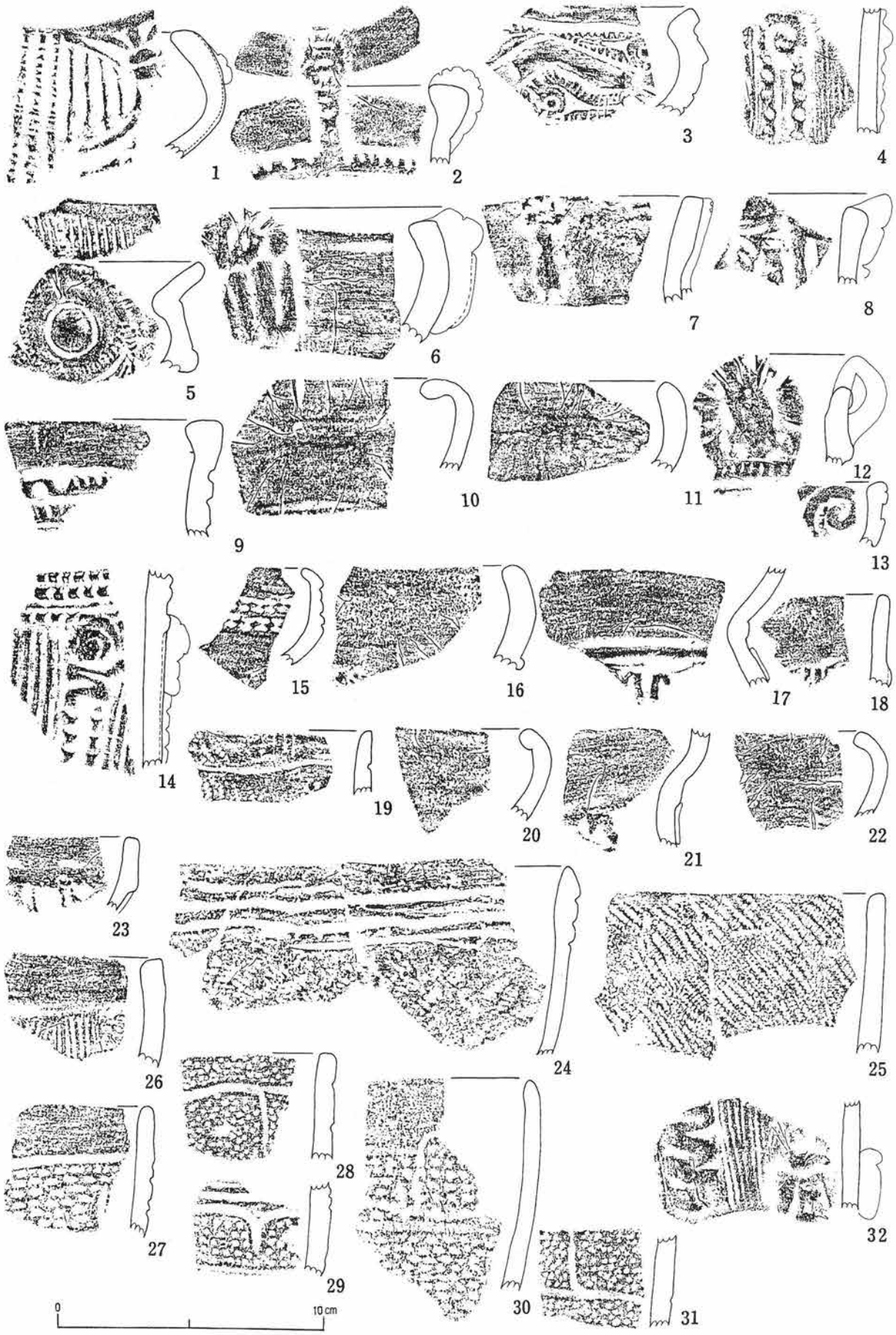

第105図　第II次調査 出土土器拓影（67）



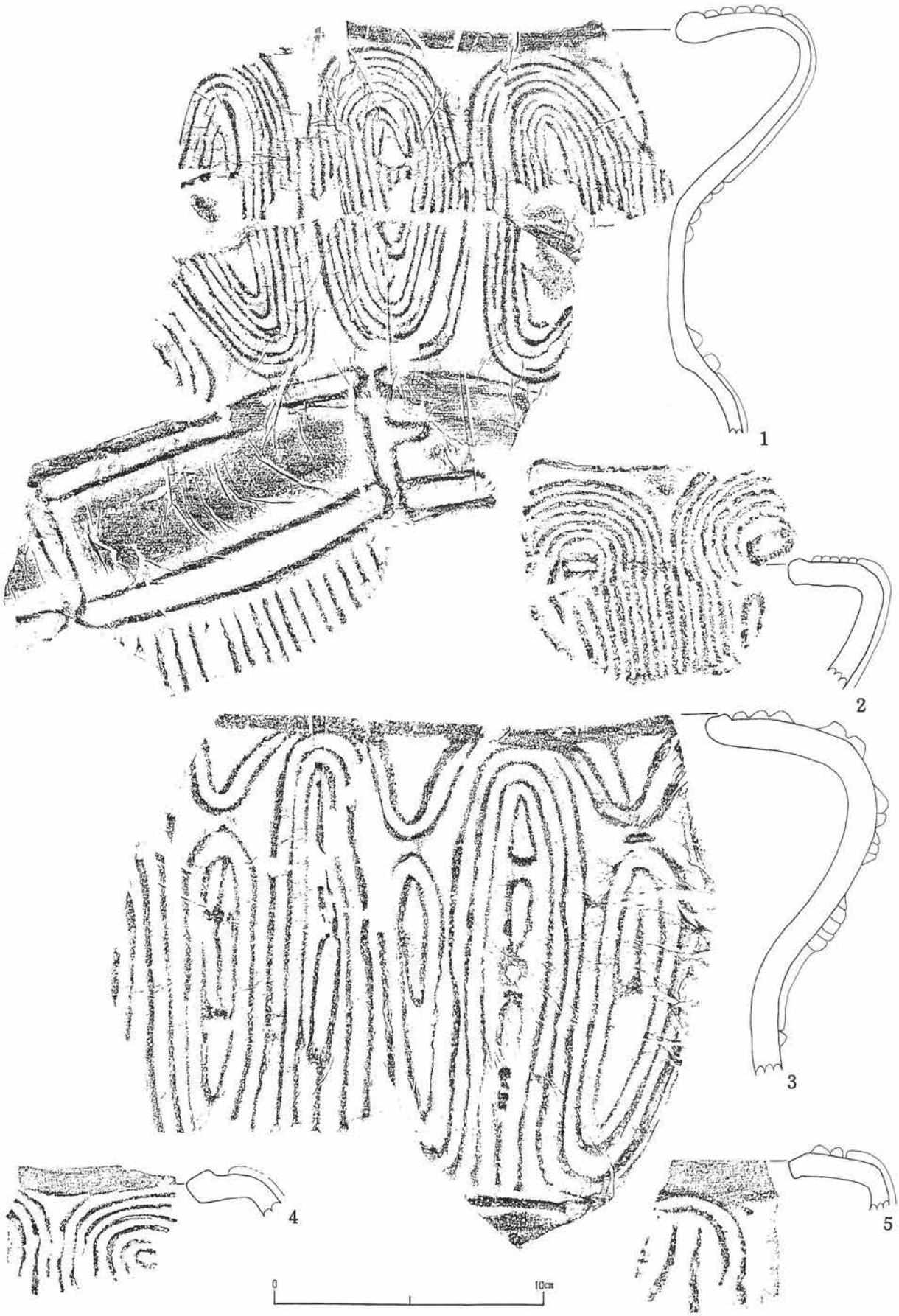

第106図　第II次調査 出土土器拓影（68）



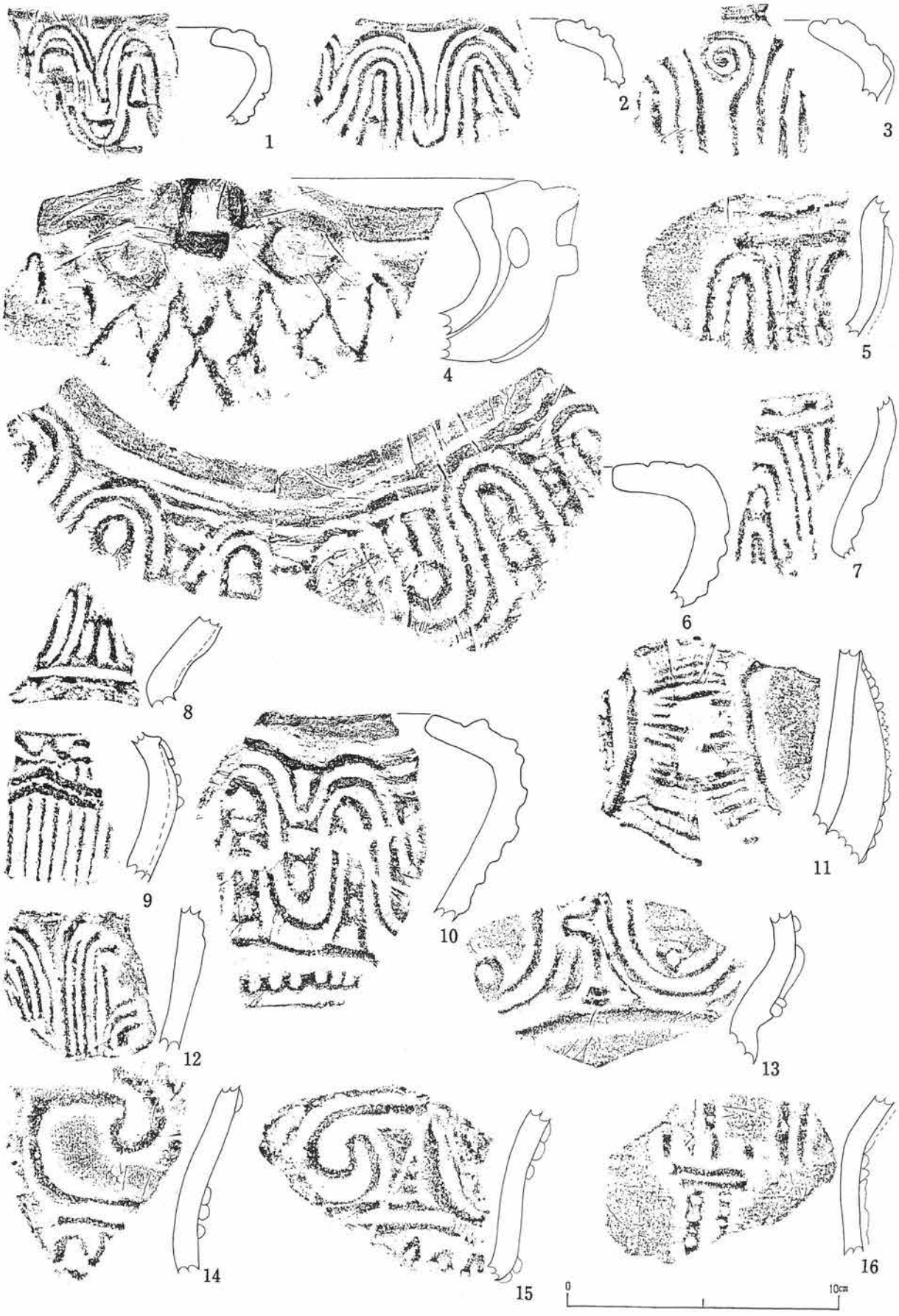

第107図　第II次調査 出土土器拓影（69）



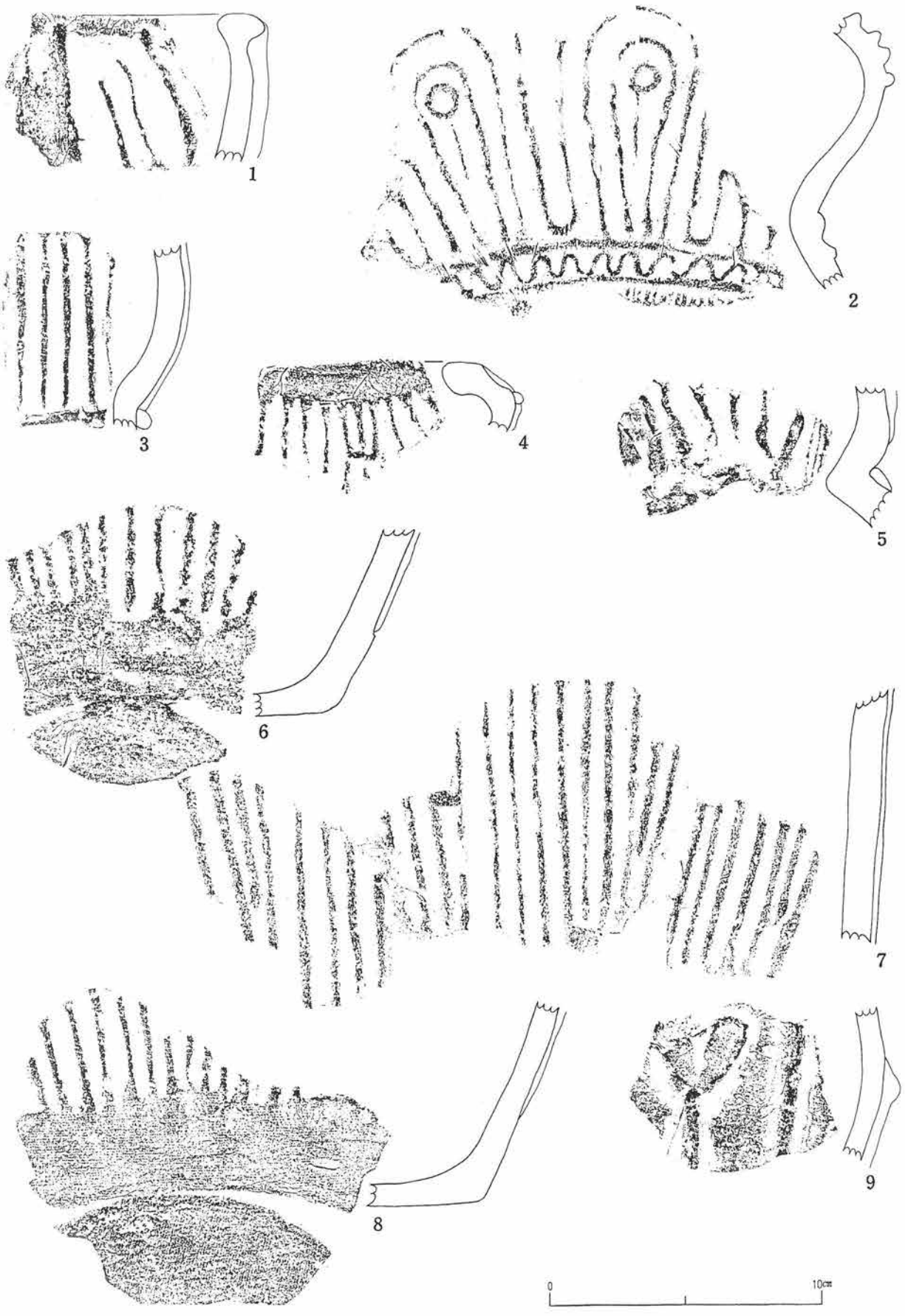

第108図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（70）



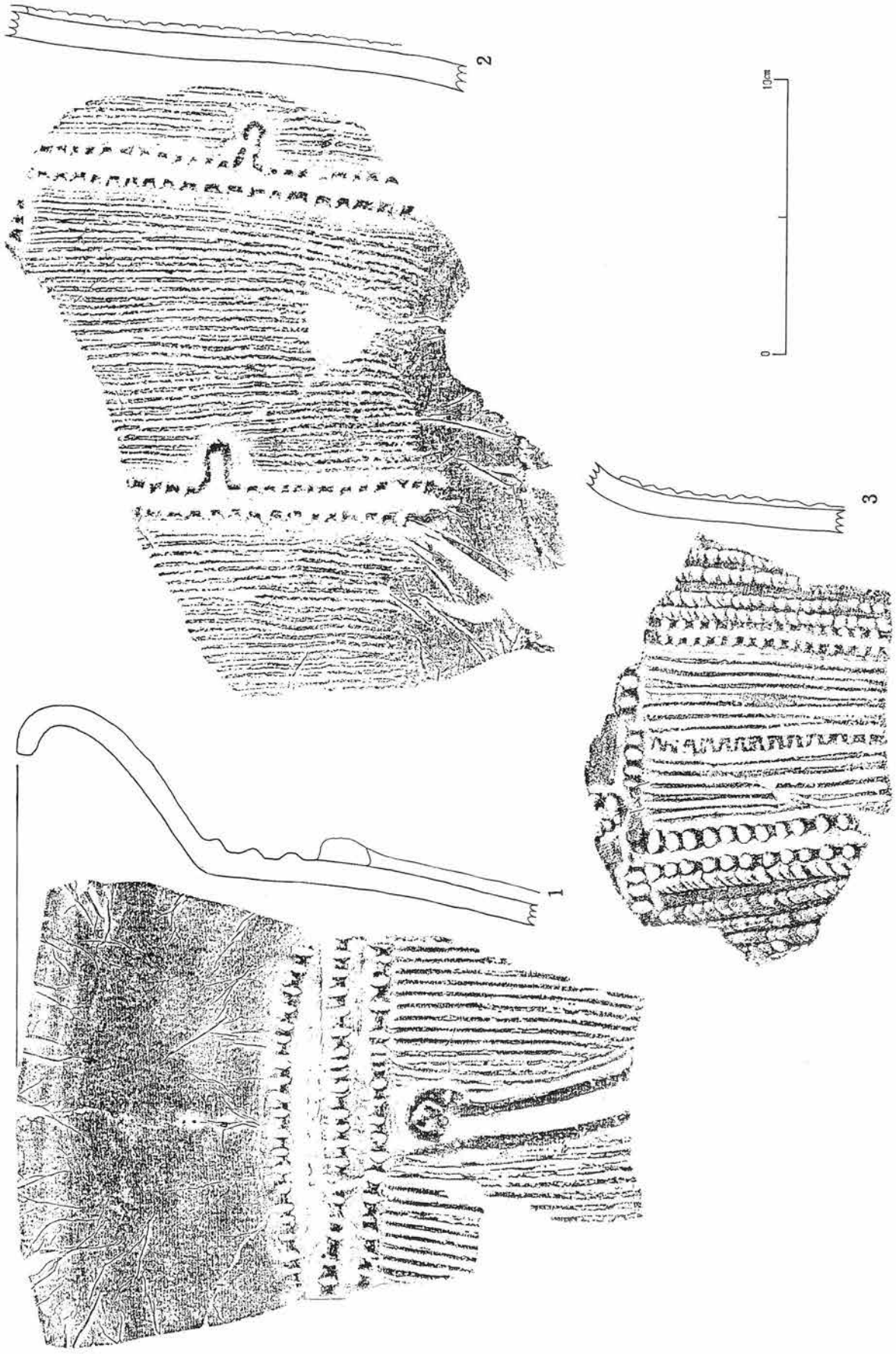

第109図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（71）



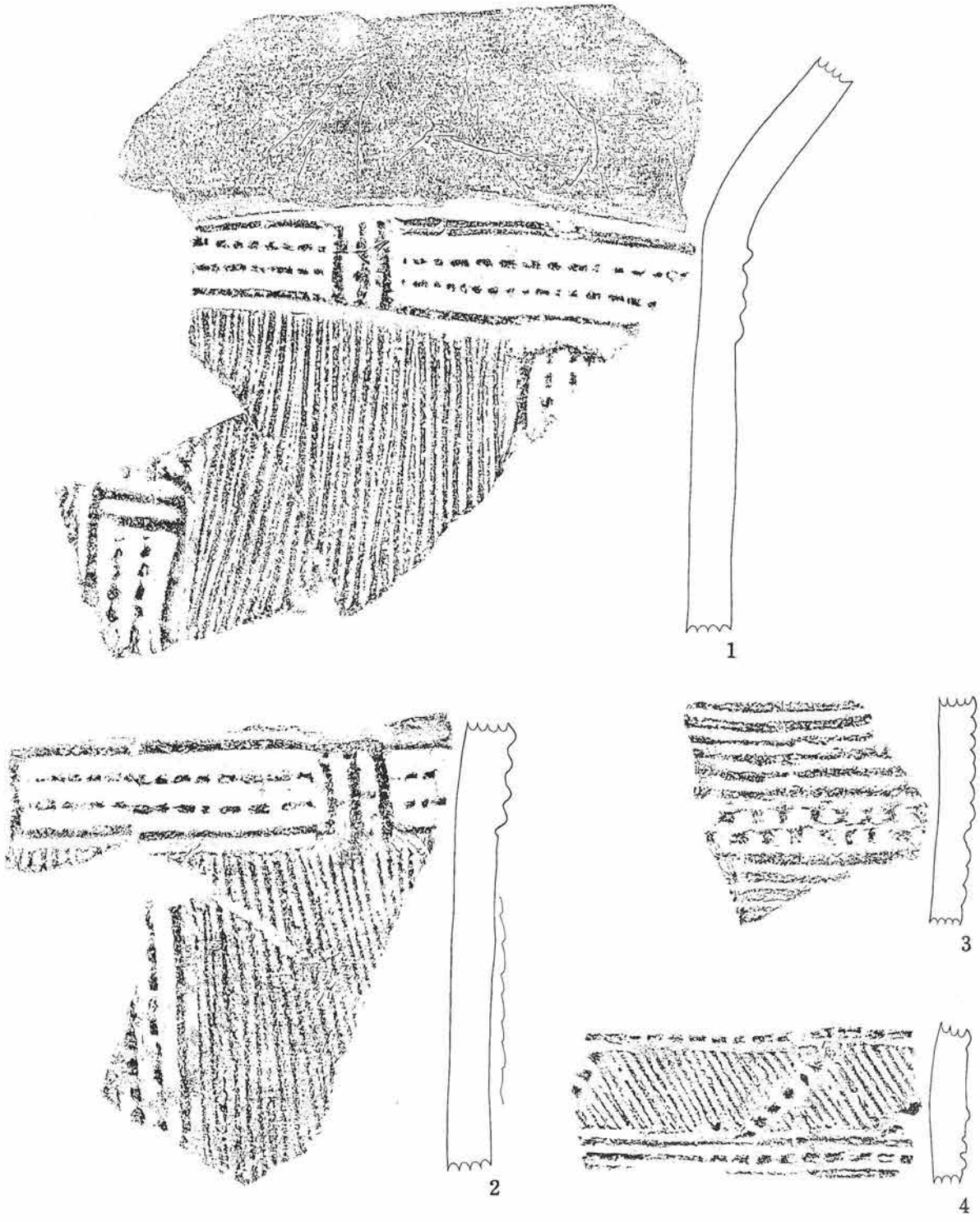

第110図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（72）



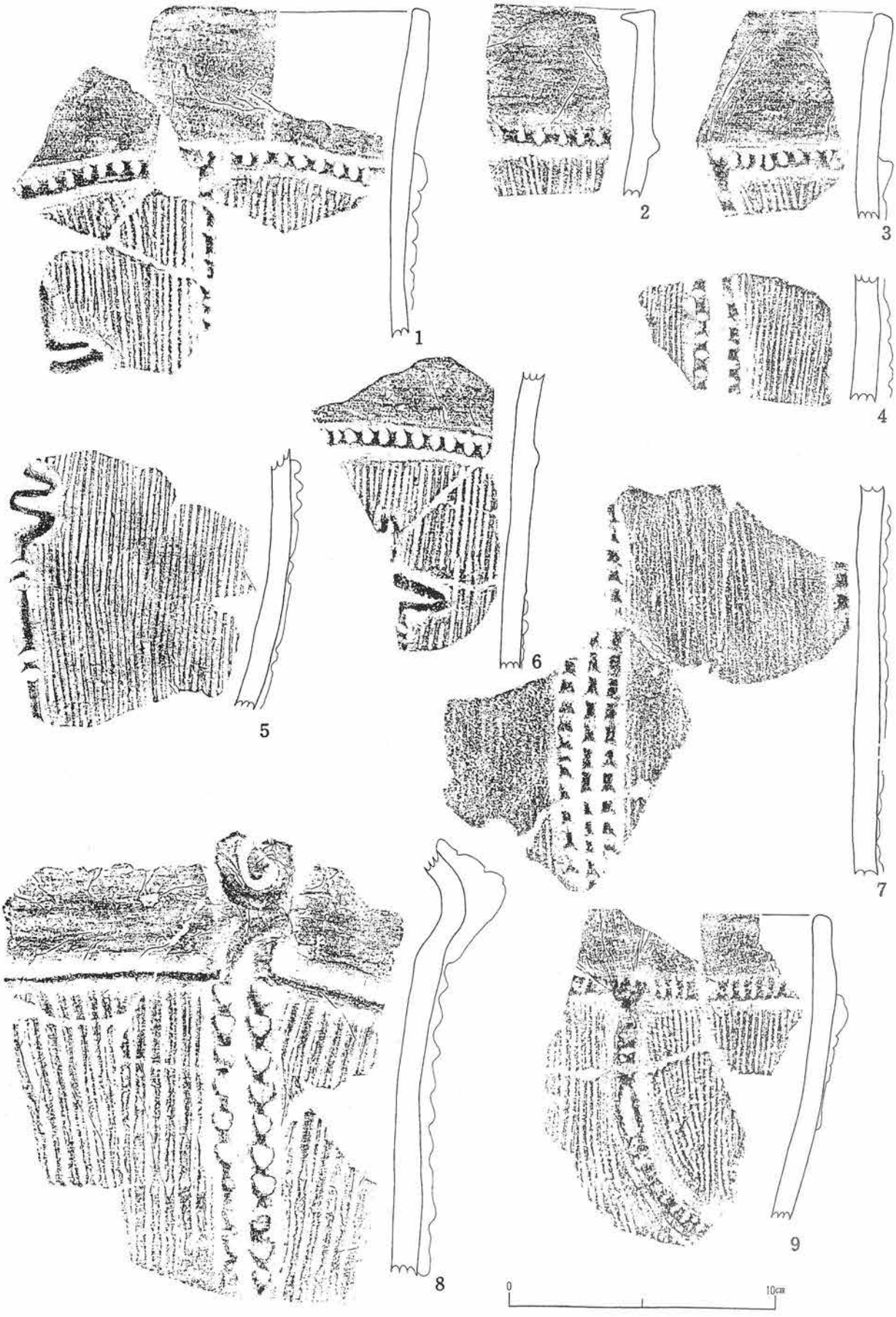

第111図　第II次調査 出土土器拓影（73）



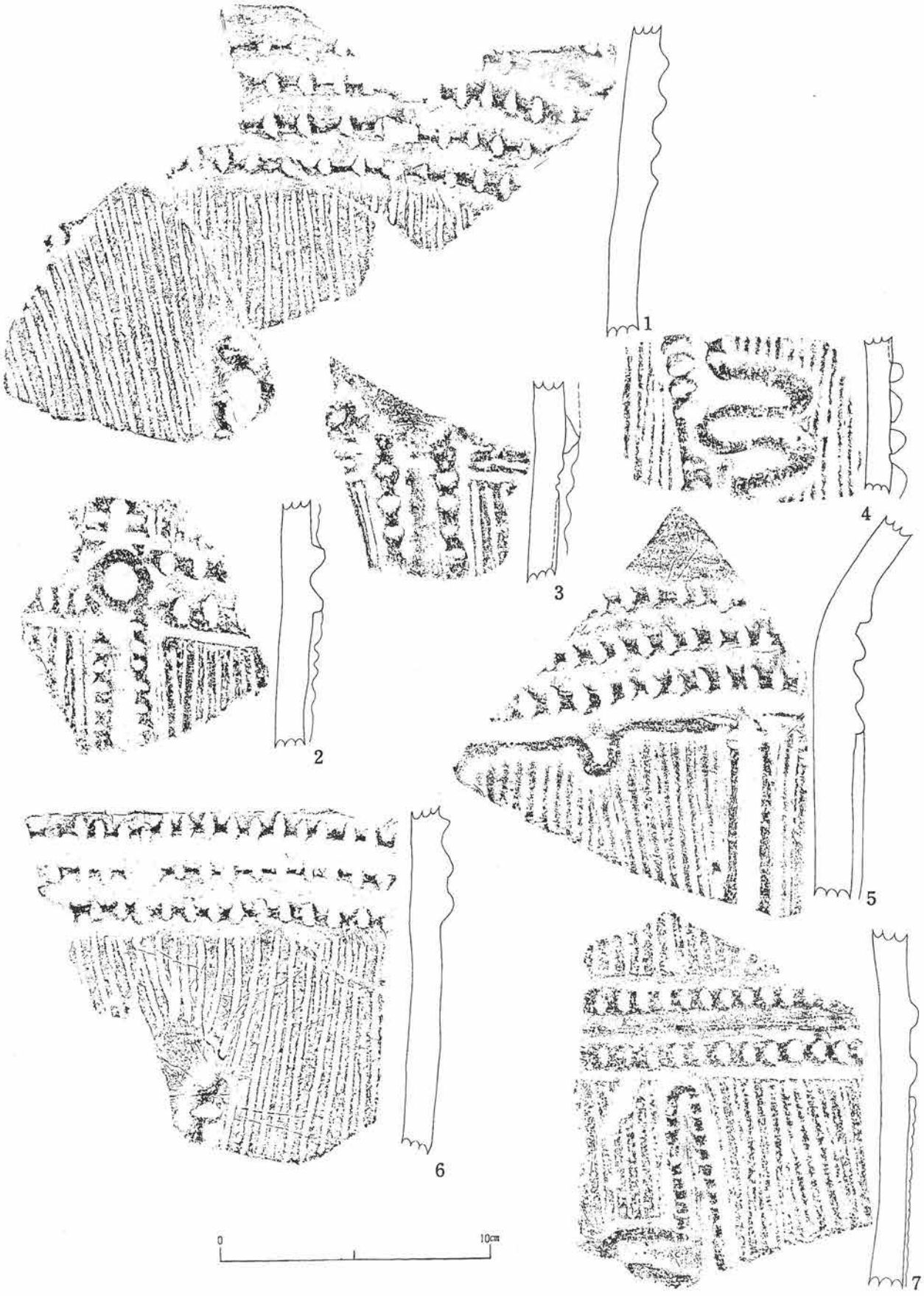

第112図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（74）



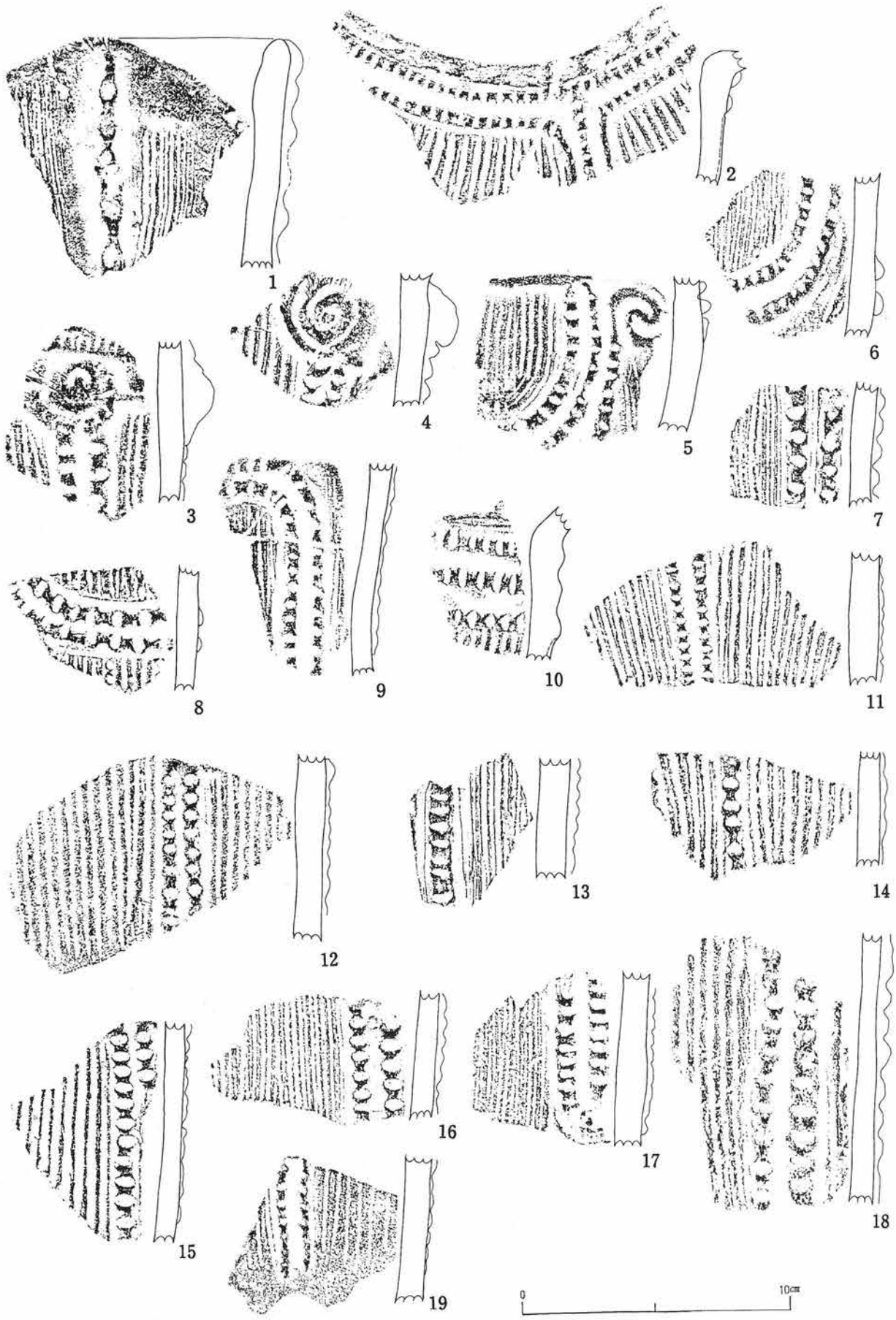

第113図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（75）



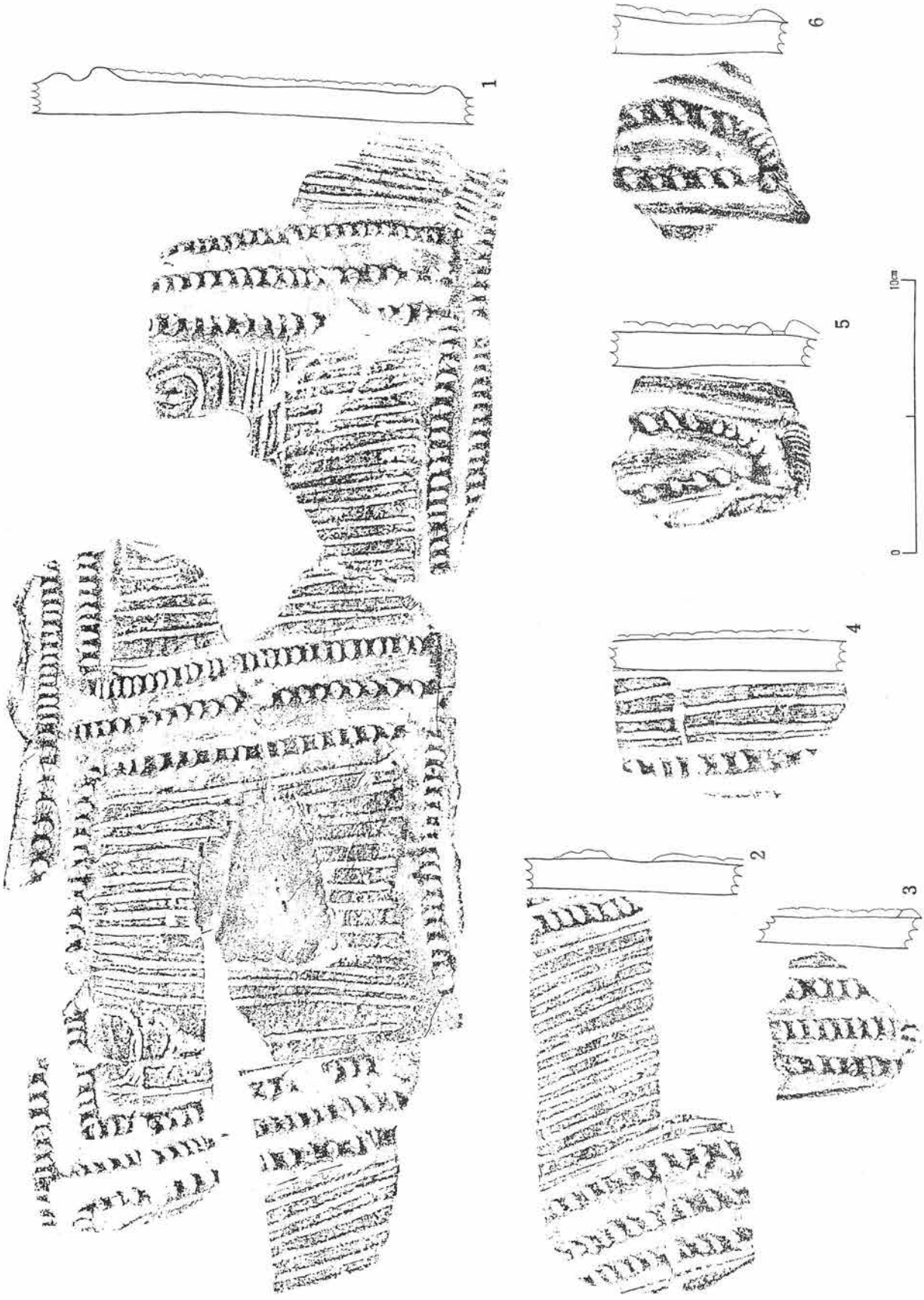

第114図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（76）



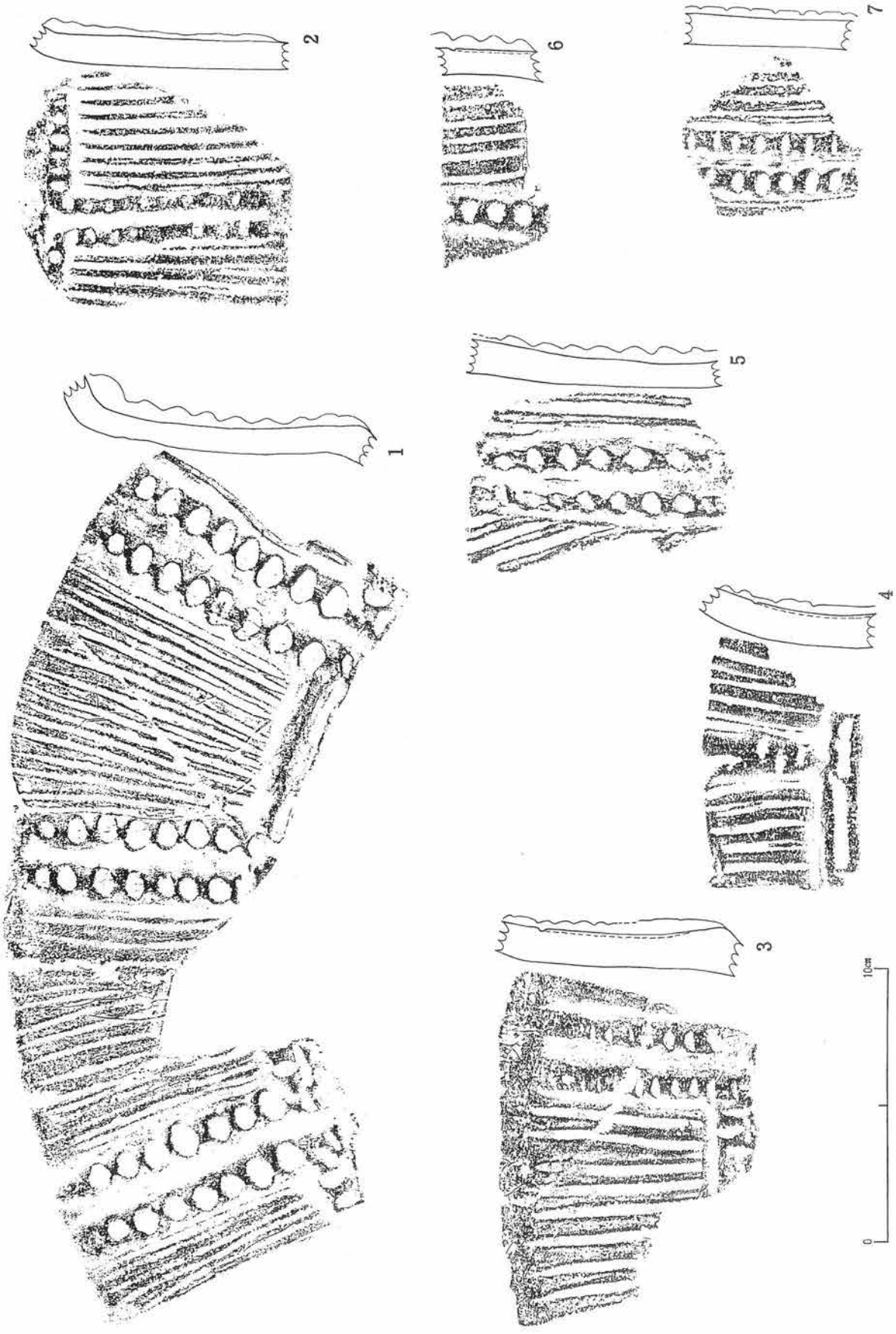

第115図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（77）



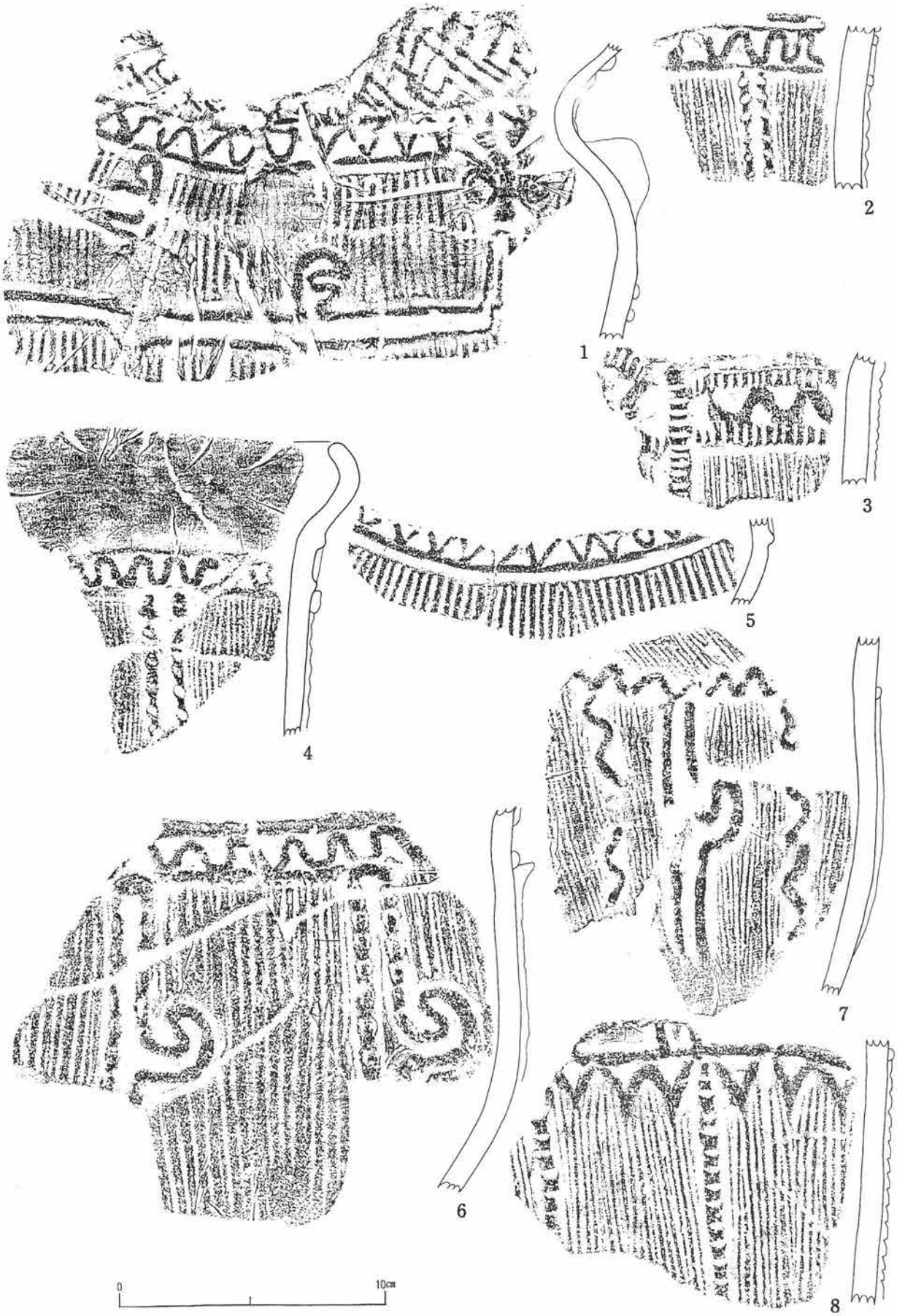

第116図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（78）



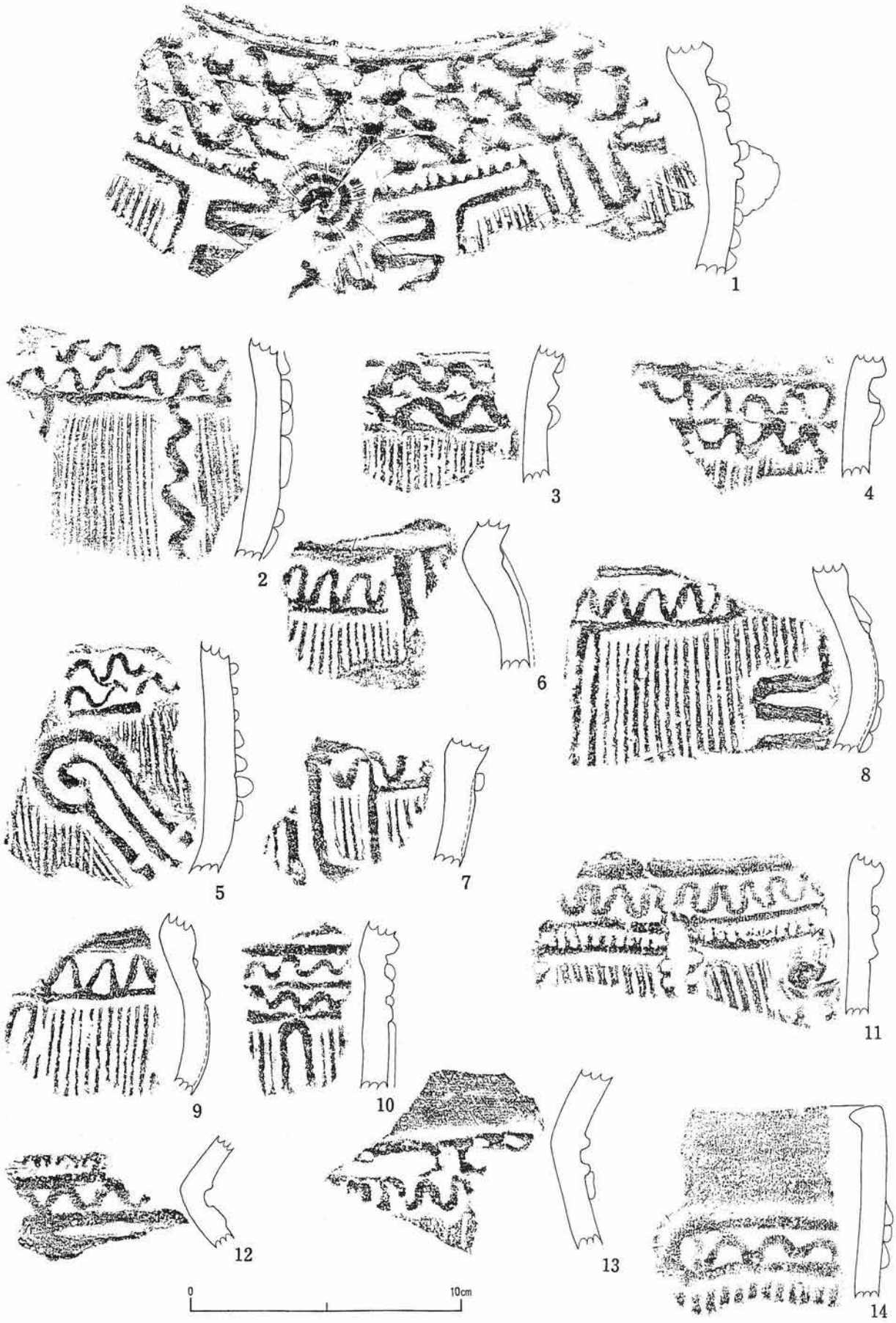

第117図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（79）



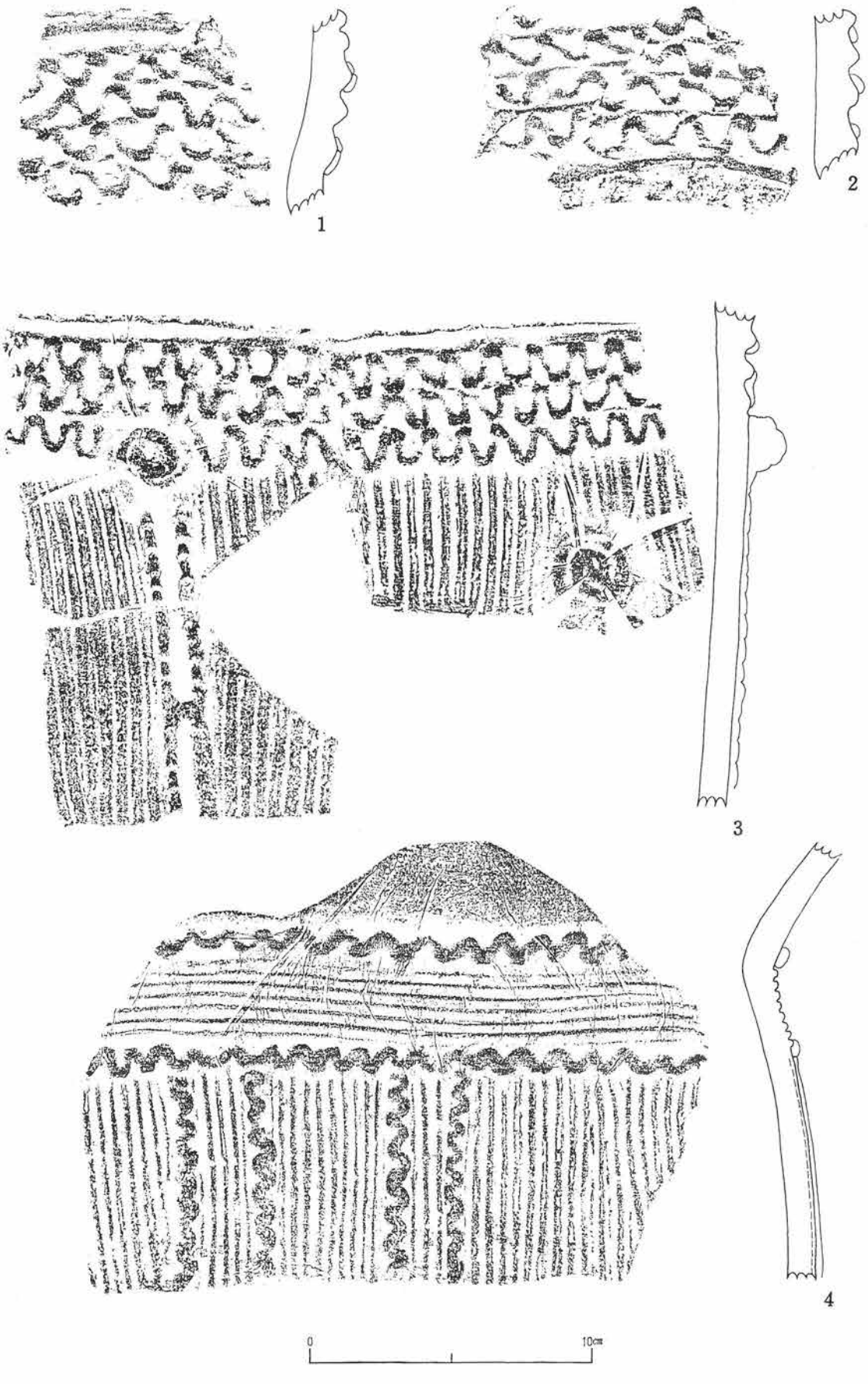

第118図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（80）



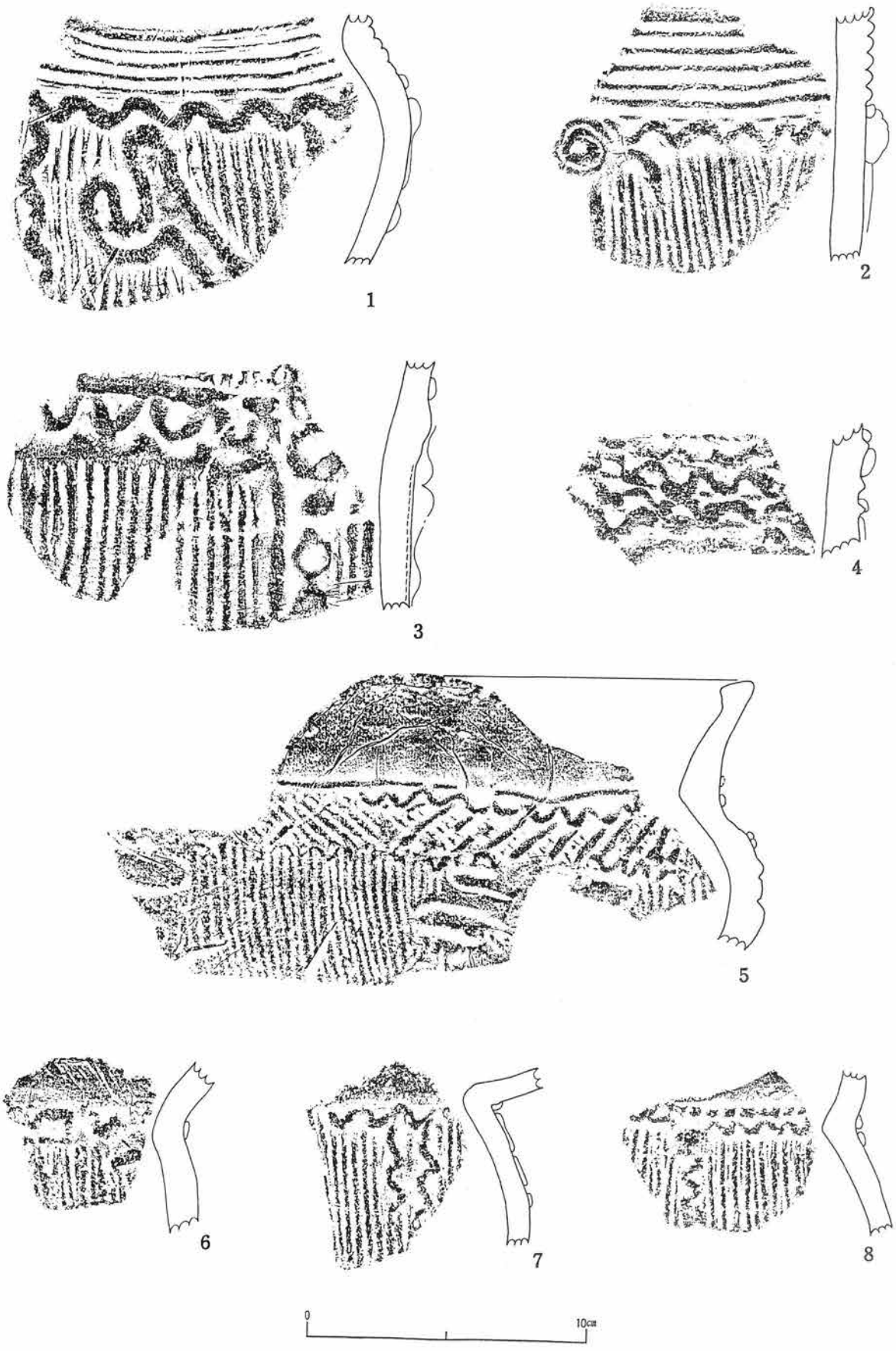

第119図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（81）



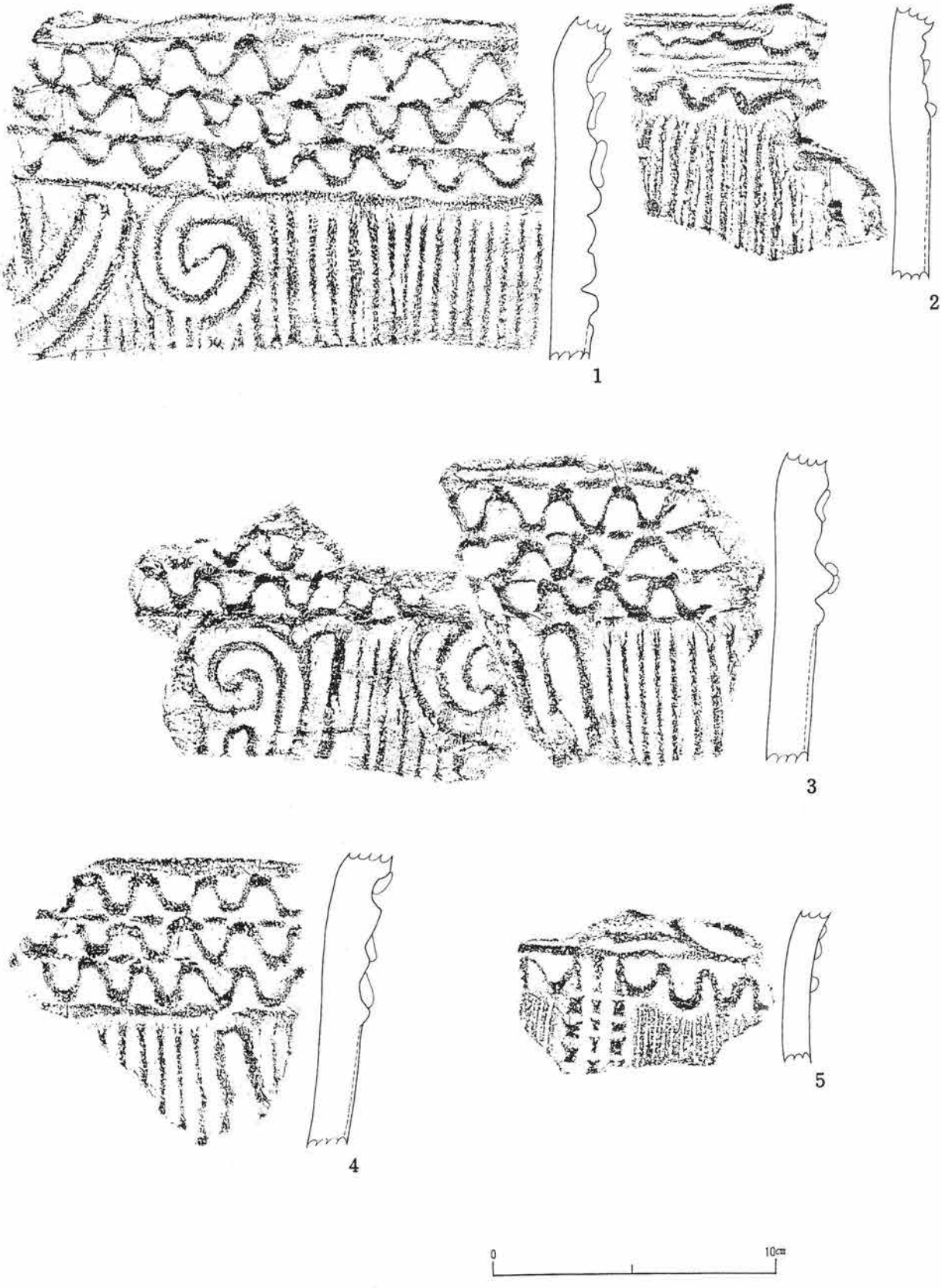

第120図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（82）



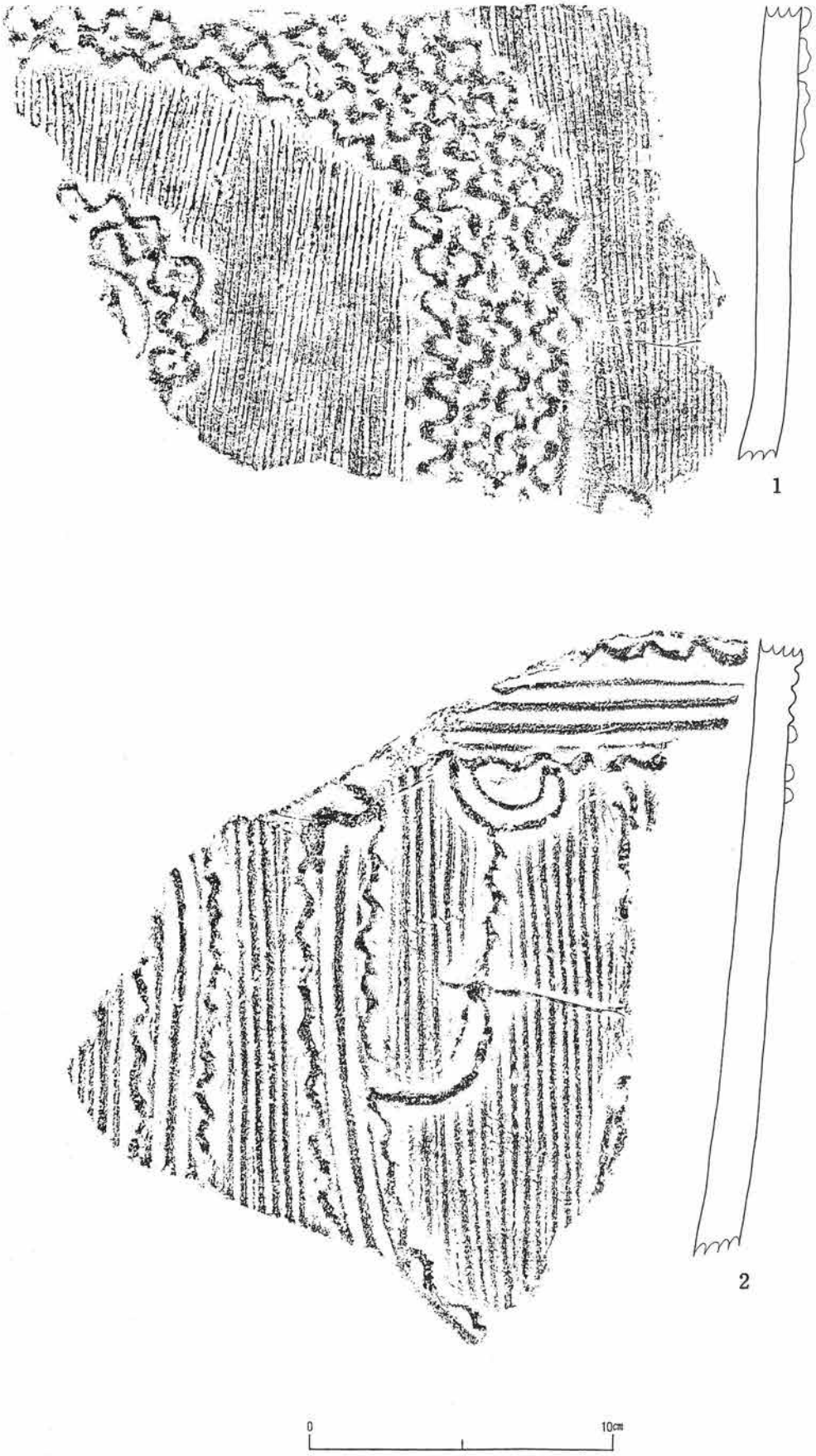

第121図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（83）



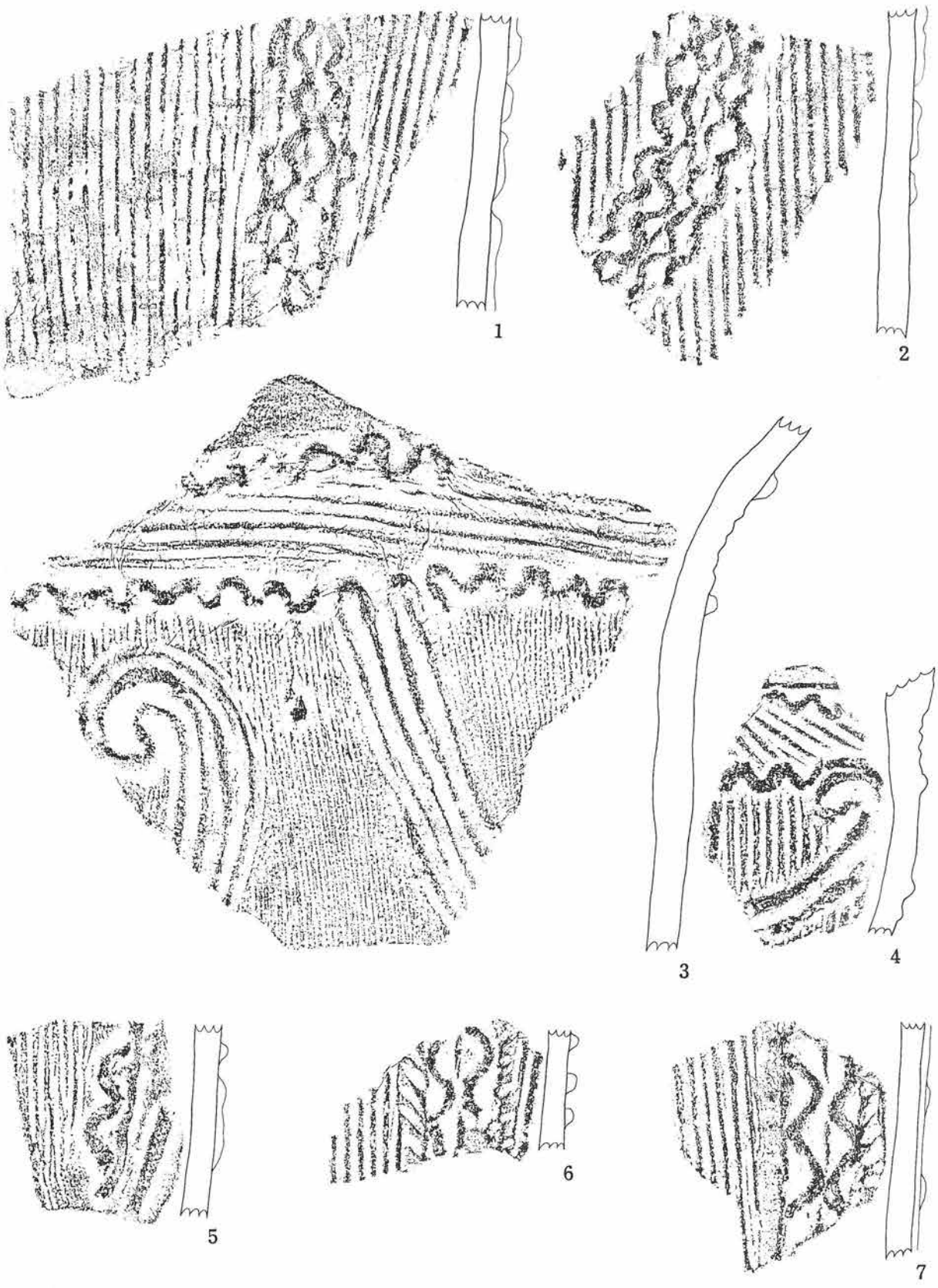

第122図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（84）



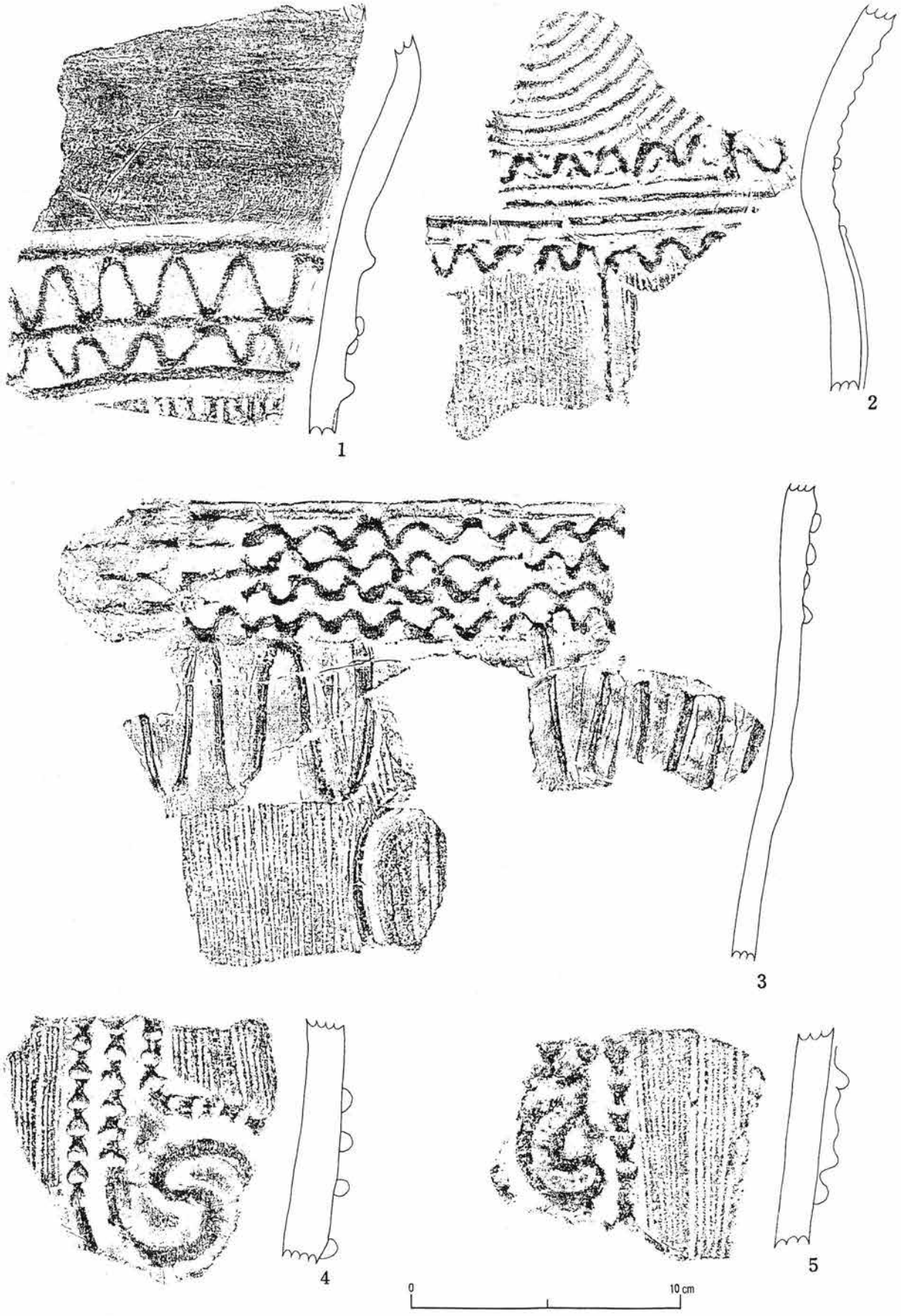

第123図　第II次調査 出土土器拓影（85）



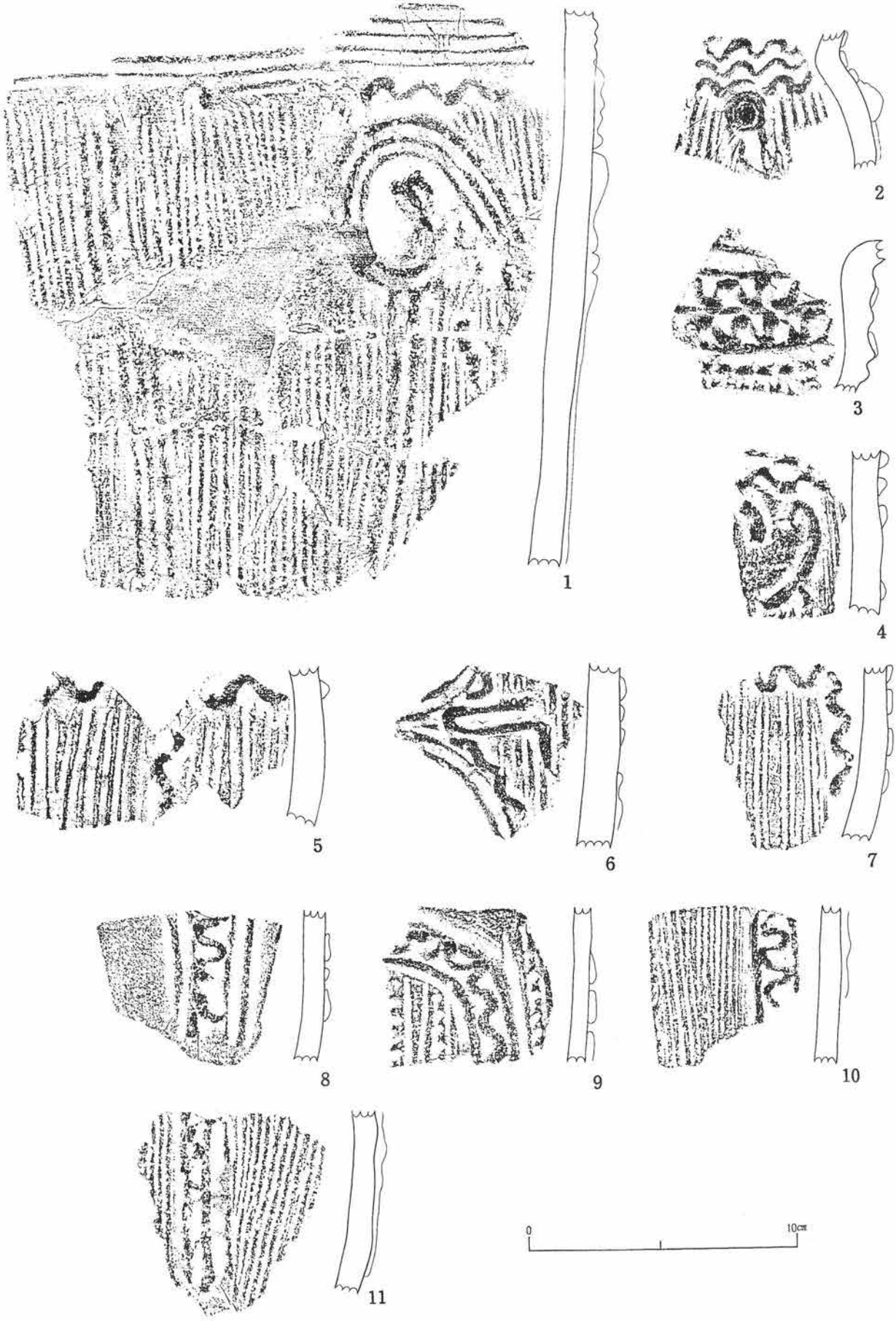

第124図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（86）



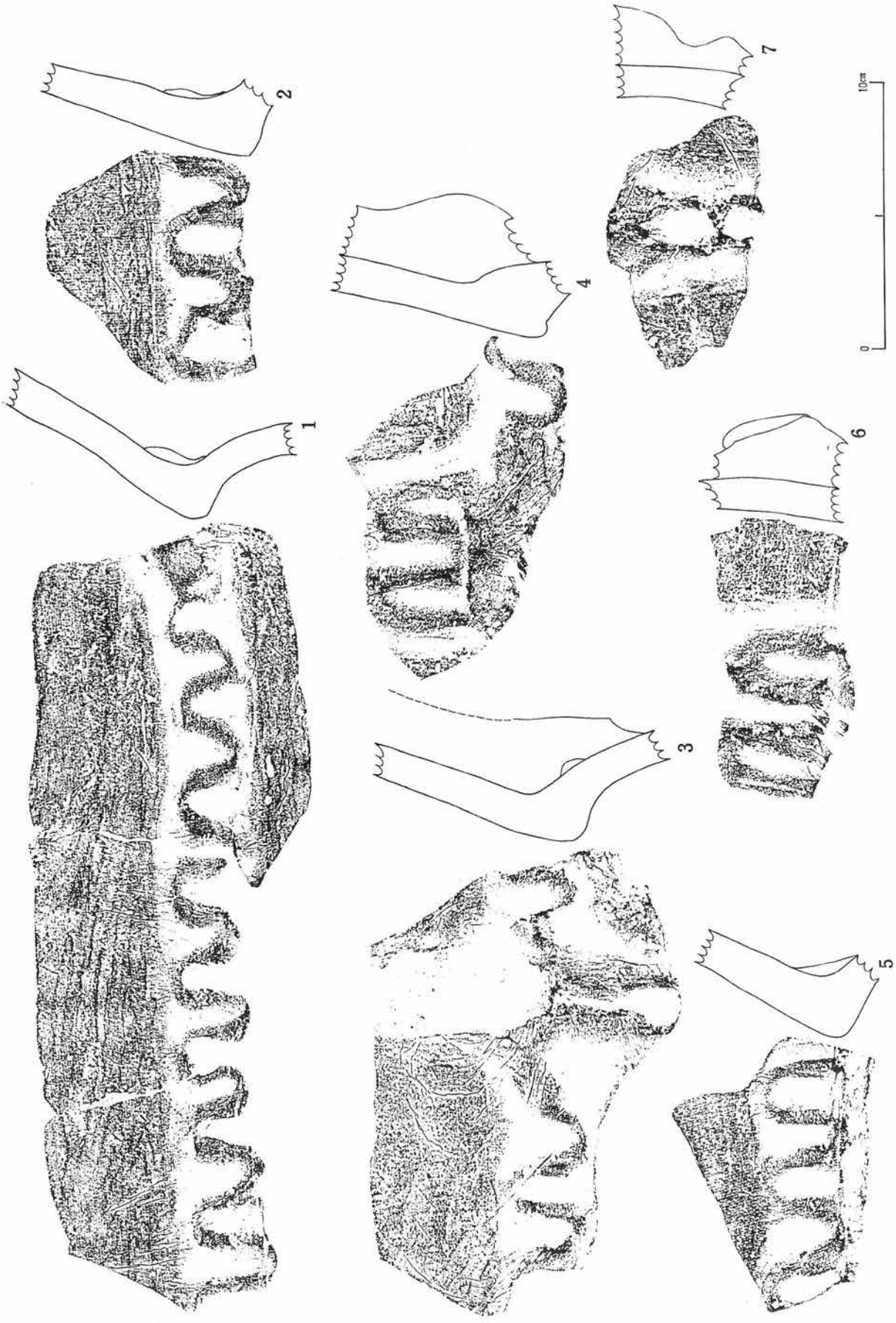

第125図　第II次調査 出土土器拓影（87）



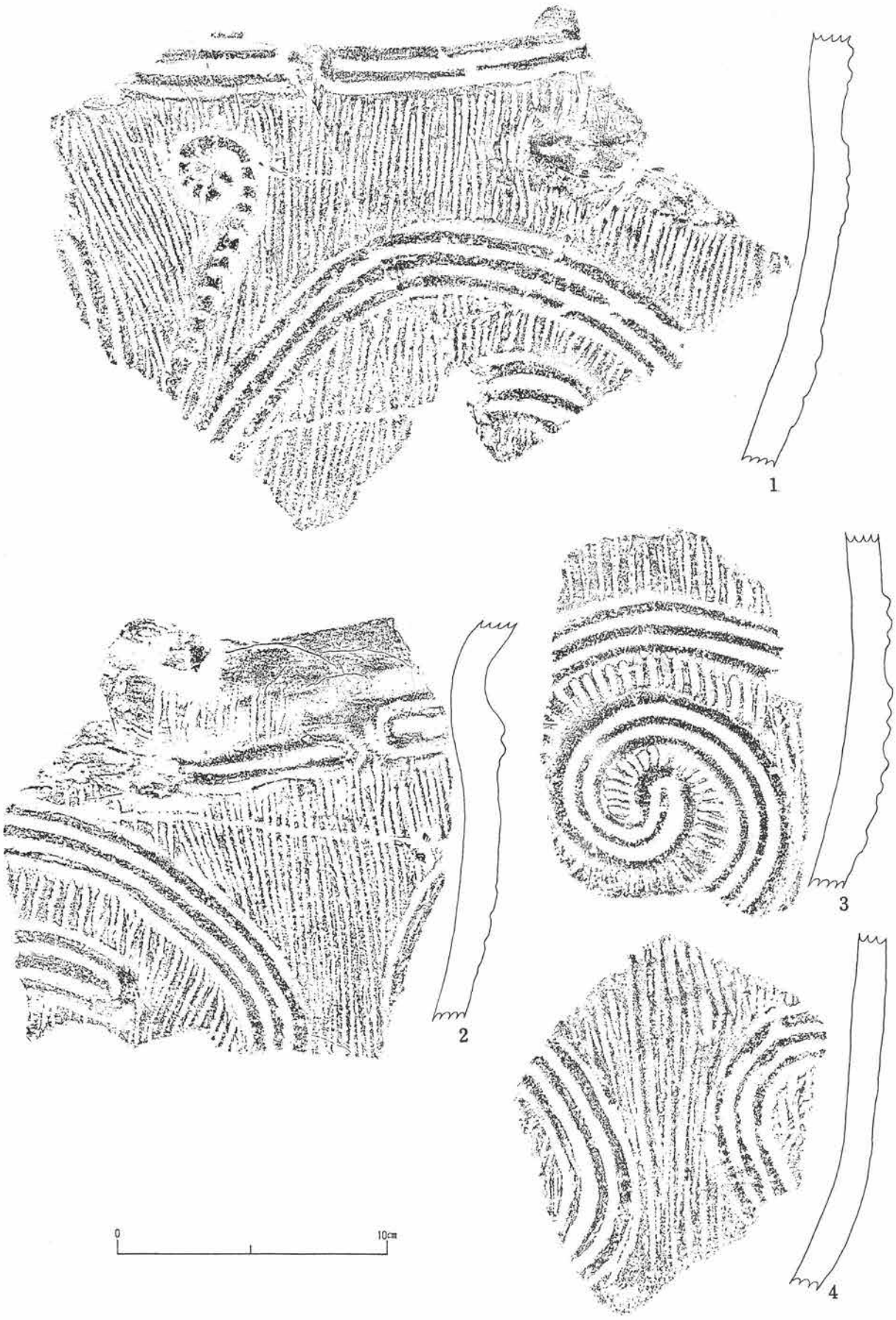

第126図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（88）



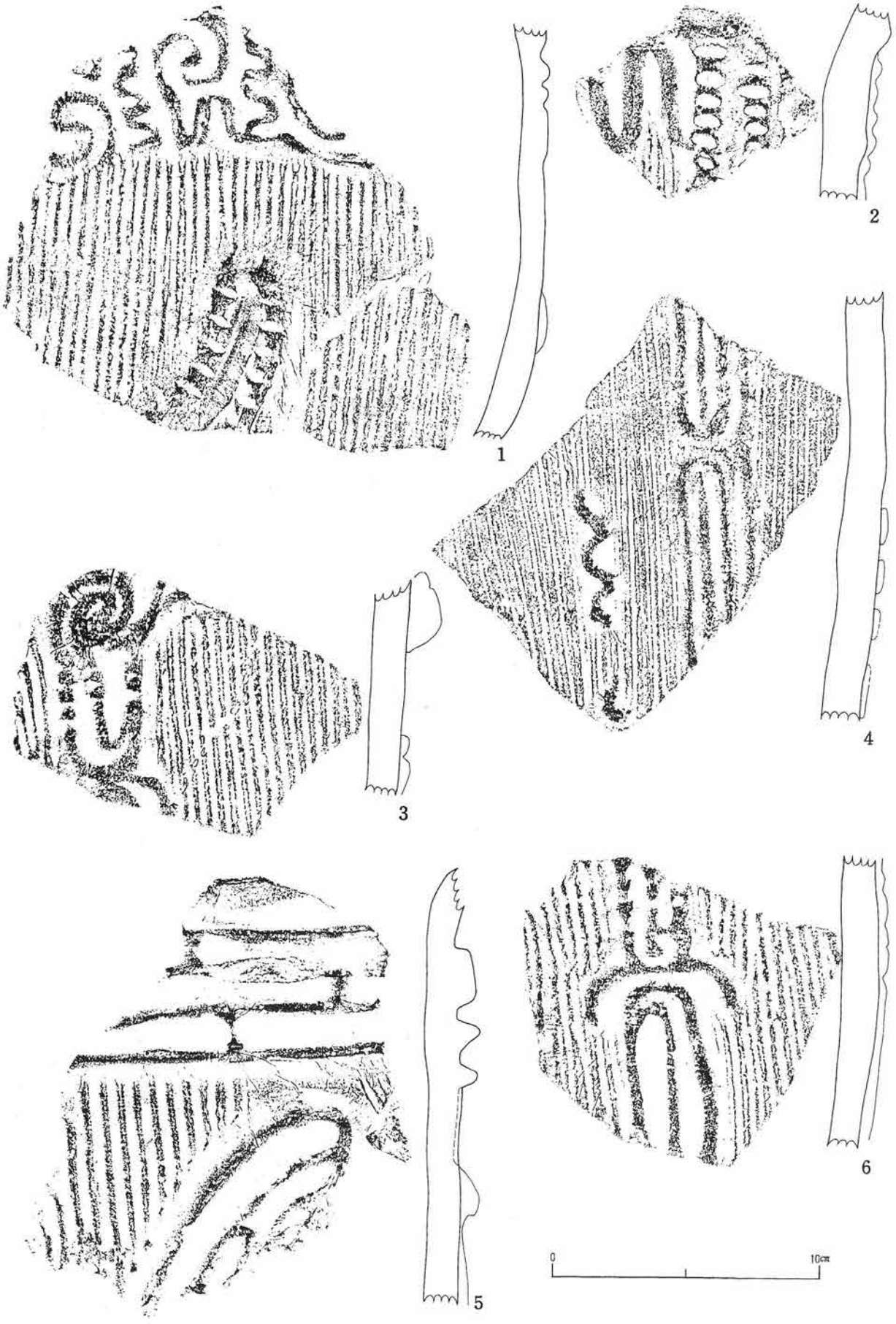

第127図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（89）



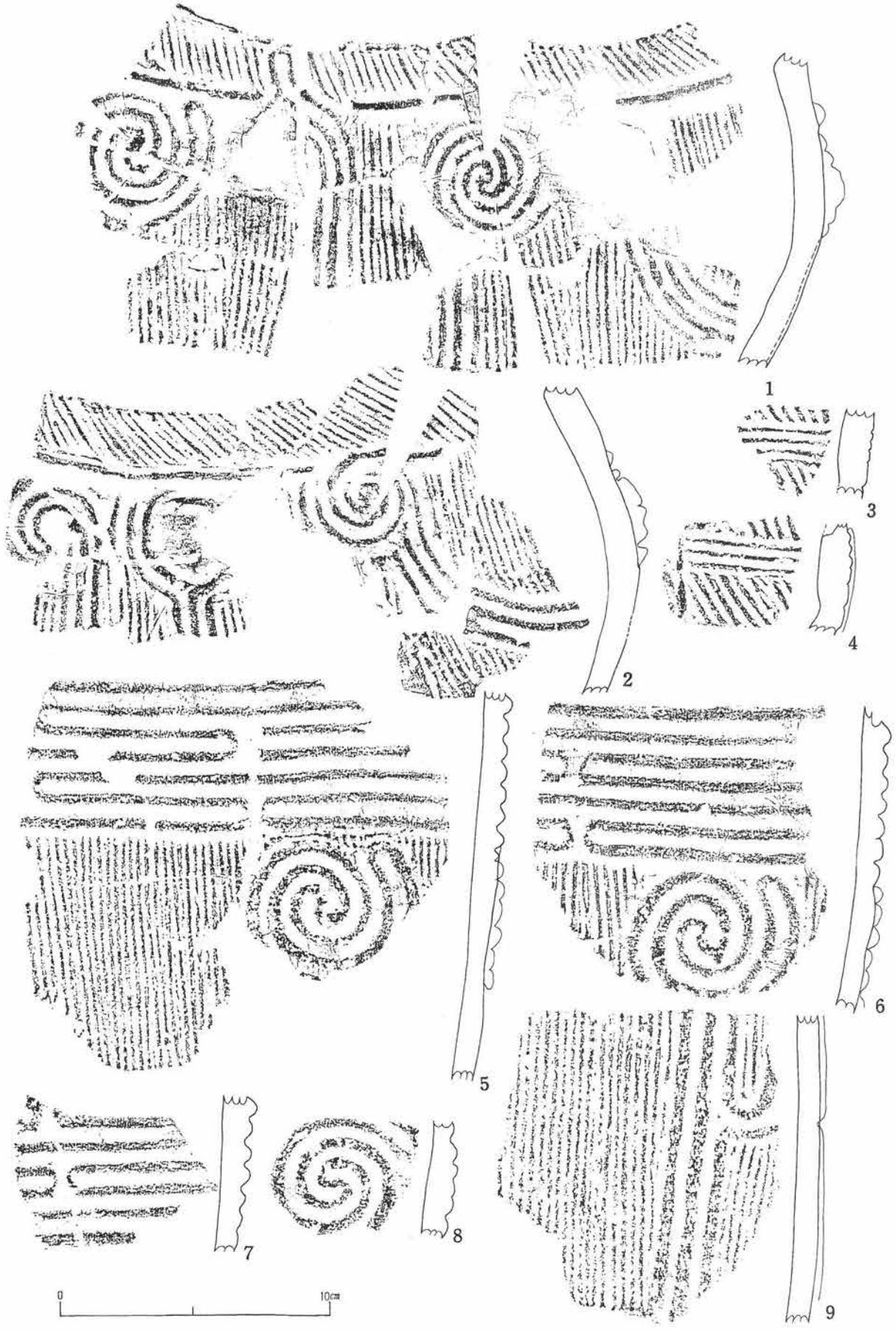

第128図　第II次調査 出土土器拓影（90）



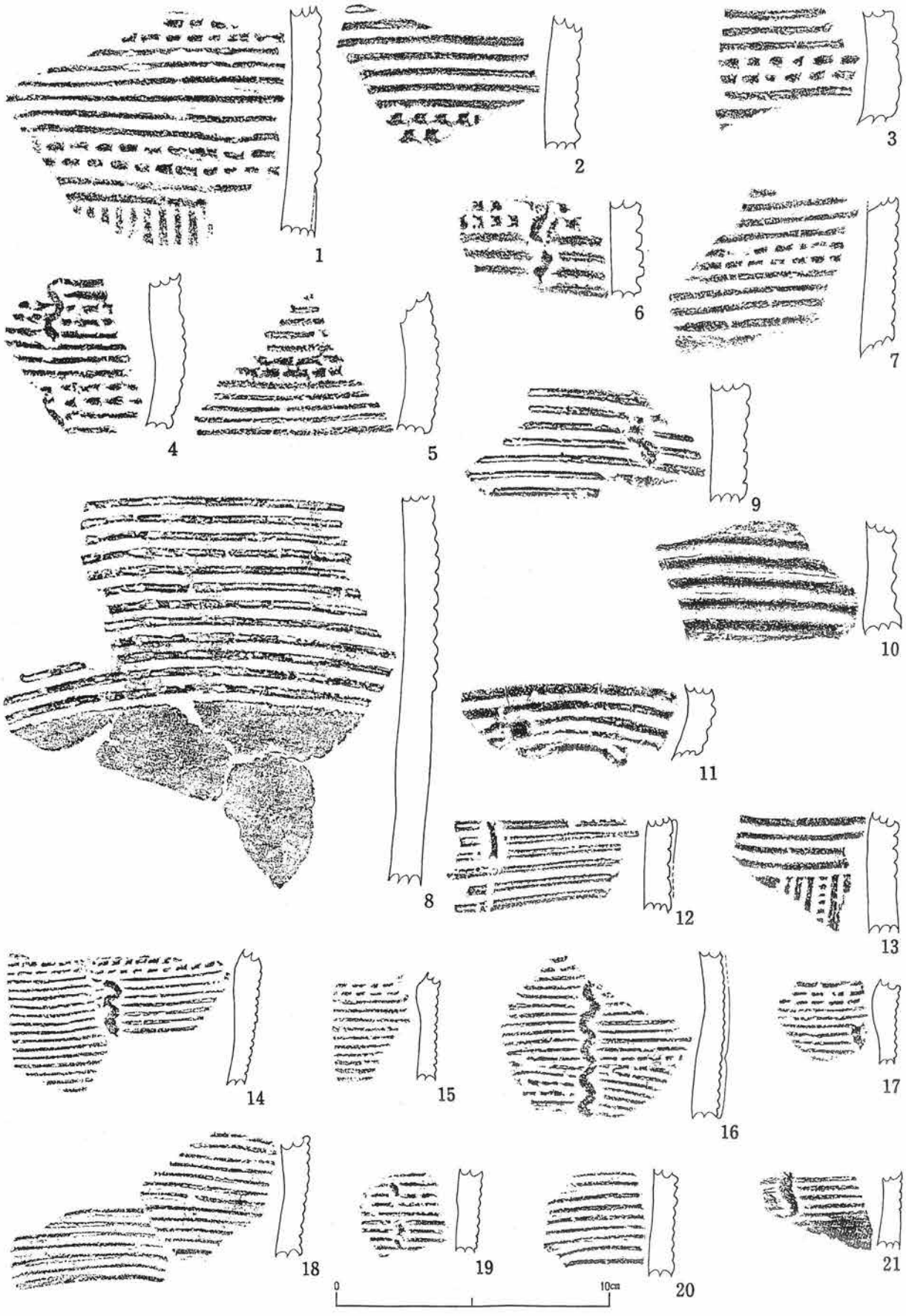

第129図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（91）



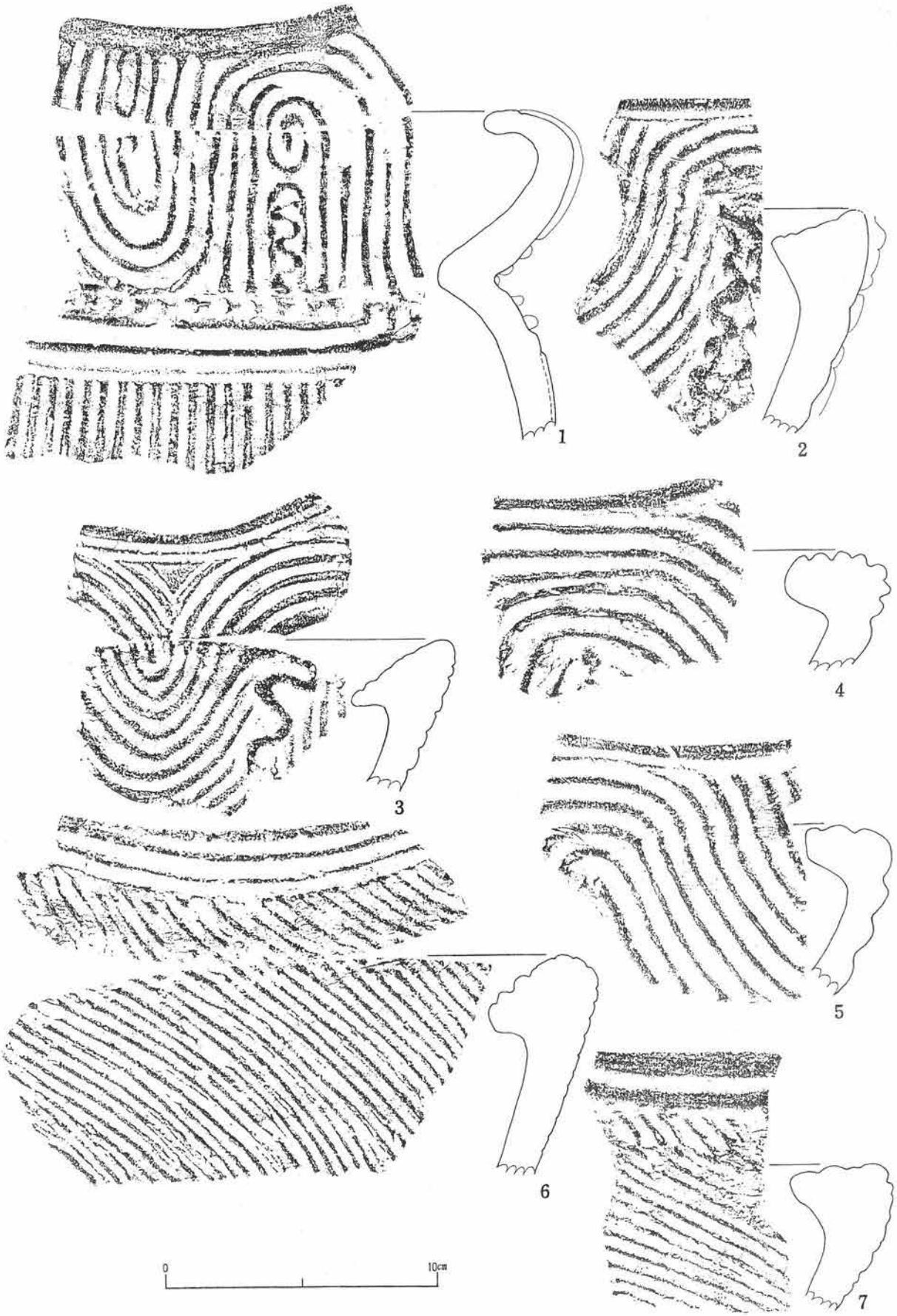

第130図　第II次調査 出土土器拓影（92）




第131図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（93）

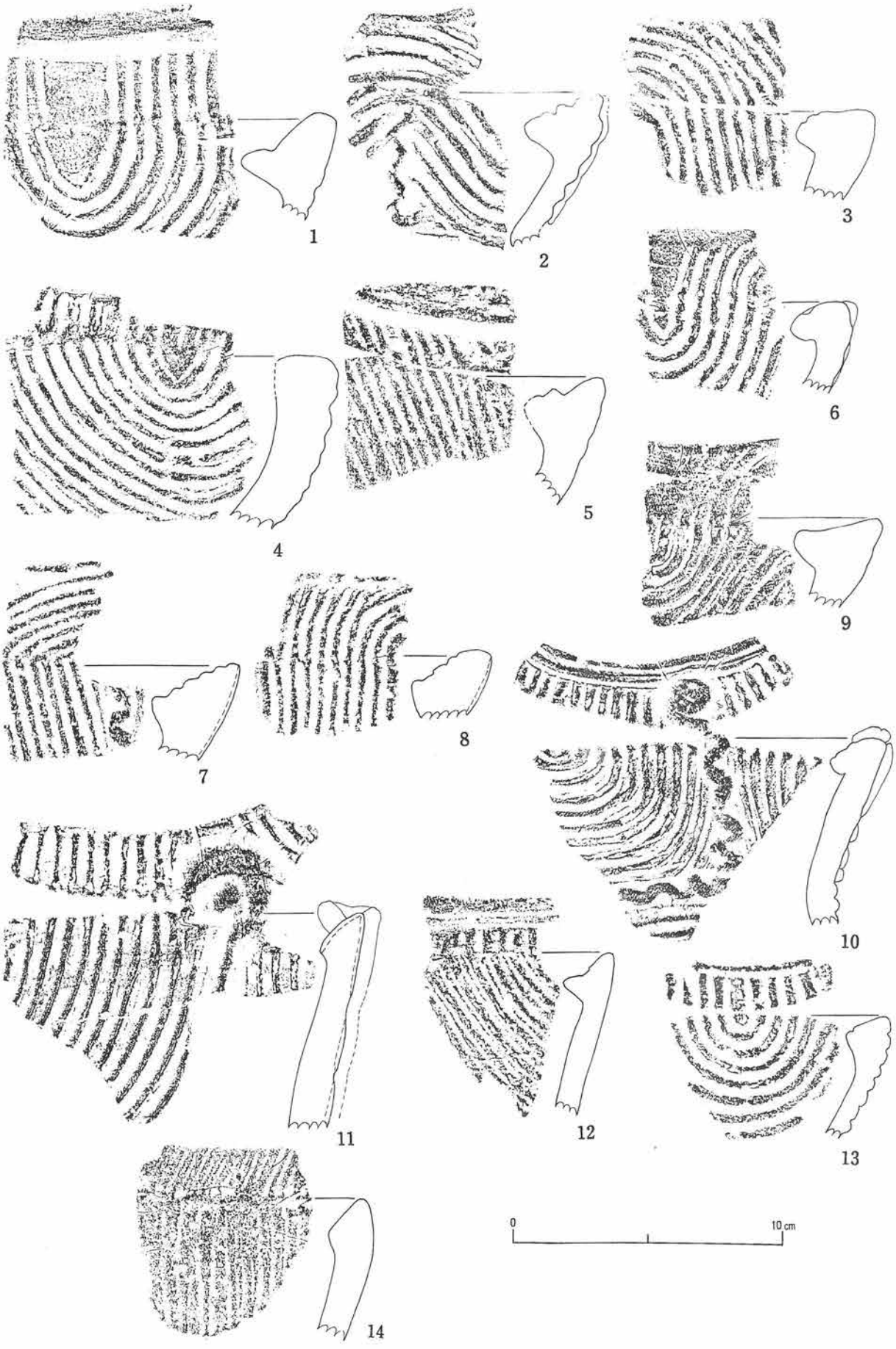



第132図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（94）

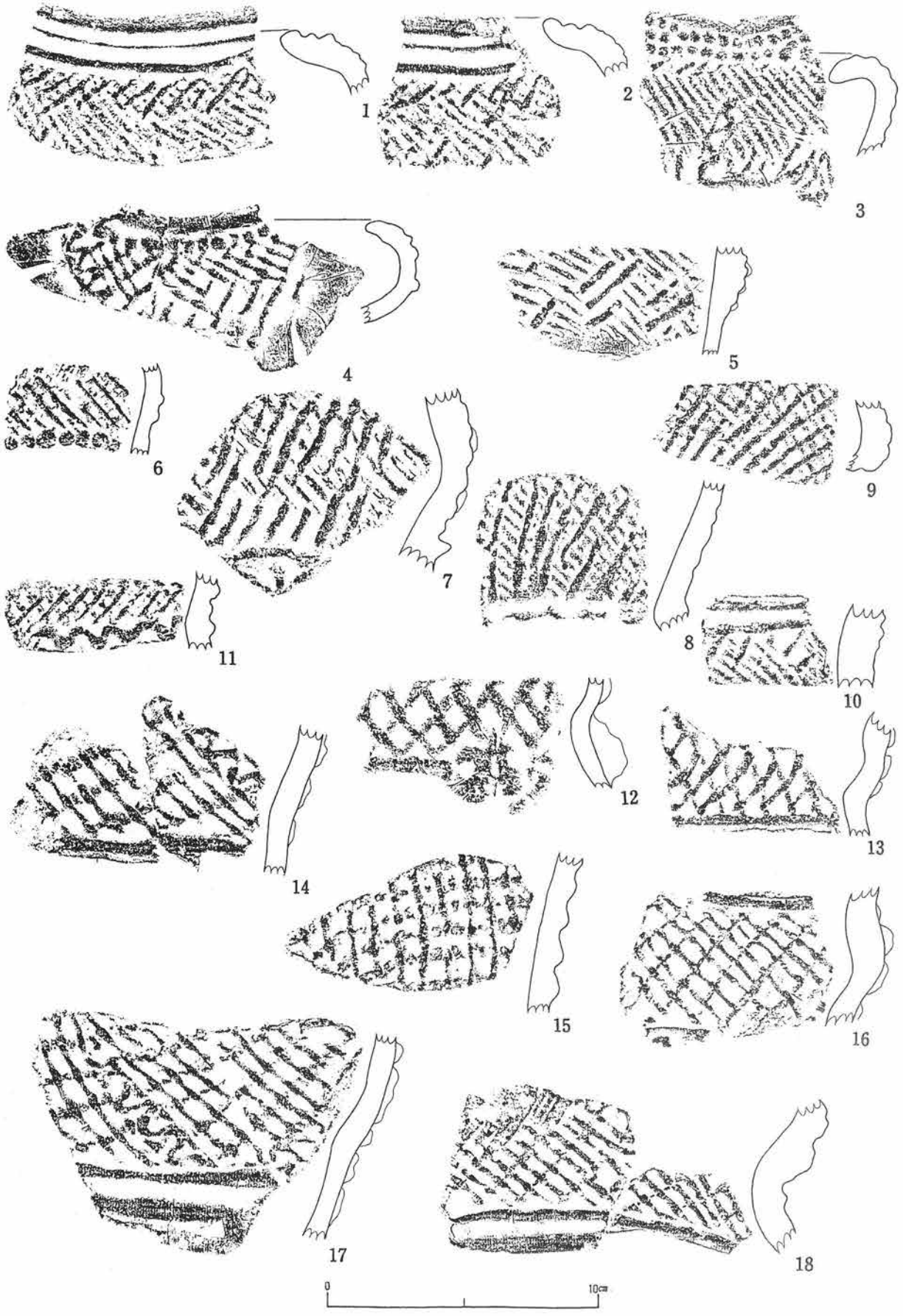



第133図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（95）

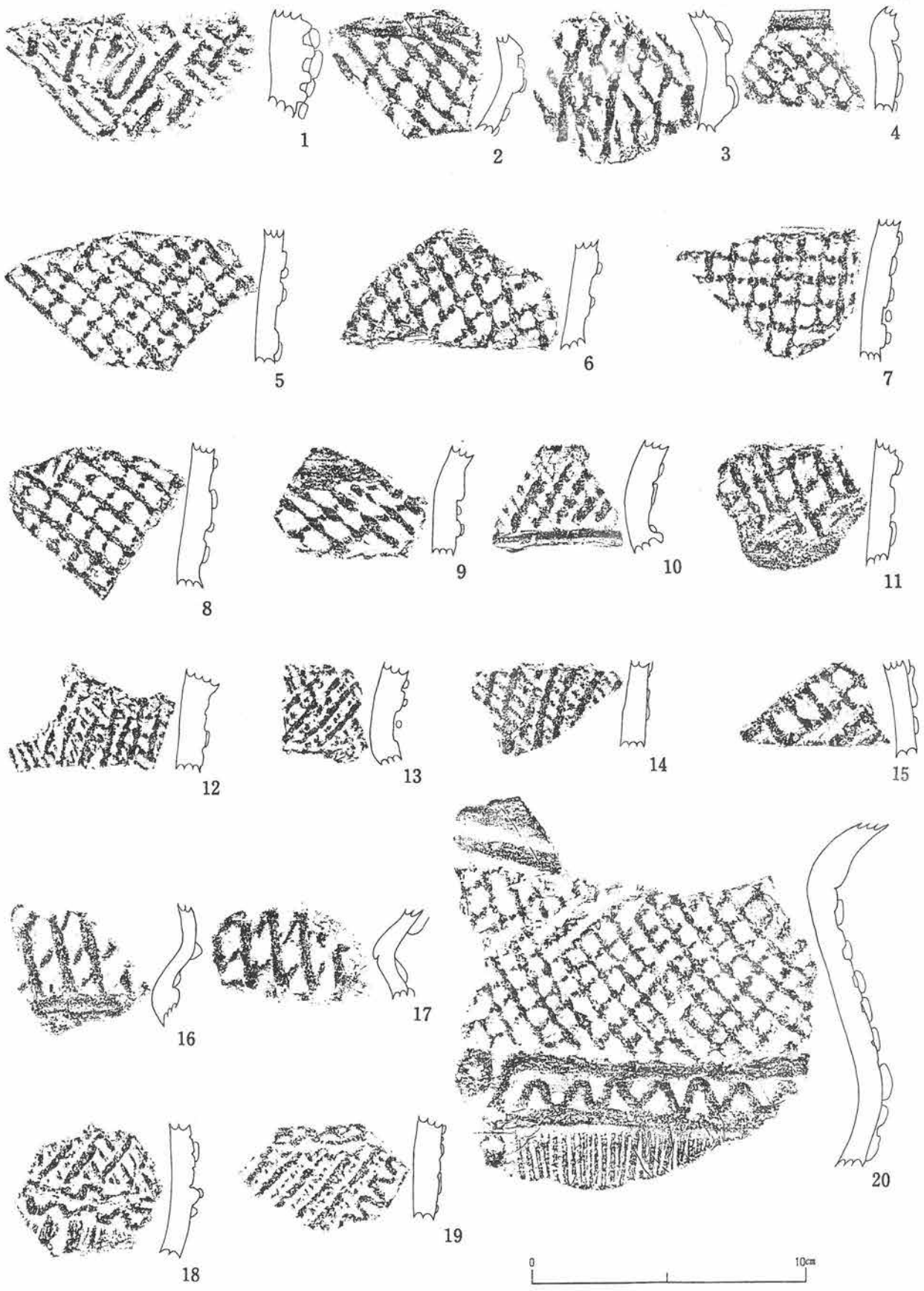
第134図　第II次調査 出土土器拓影（96）



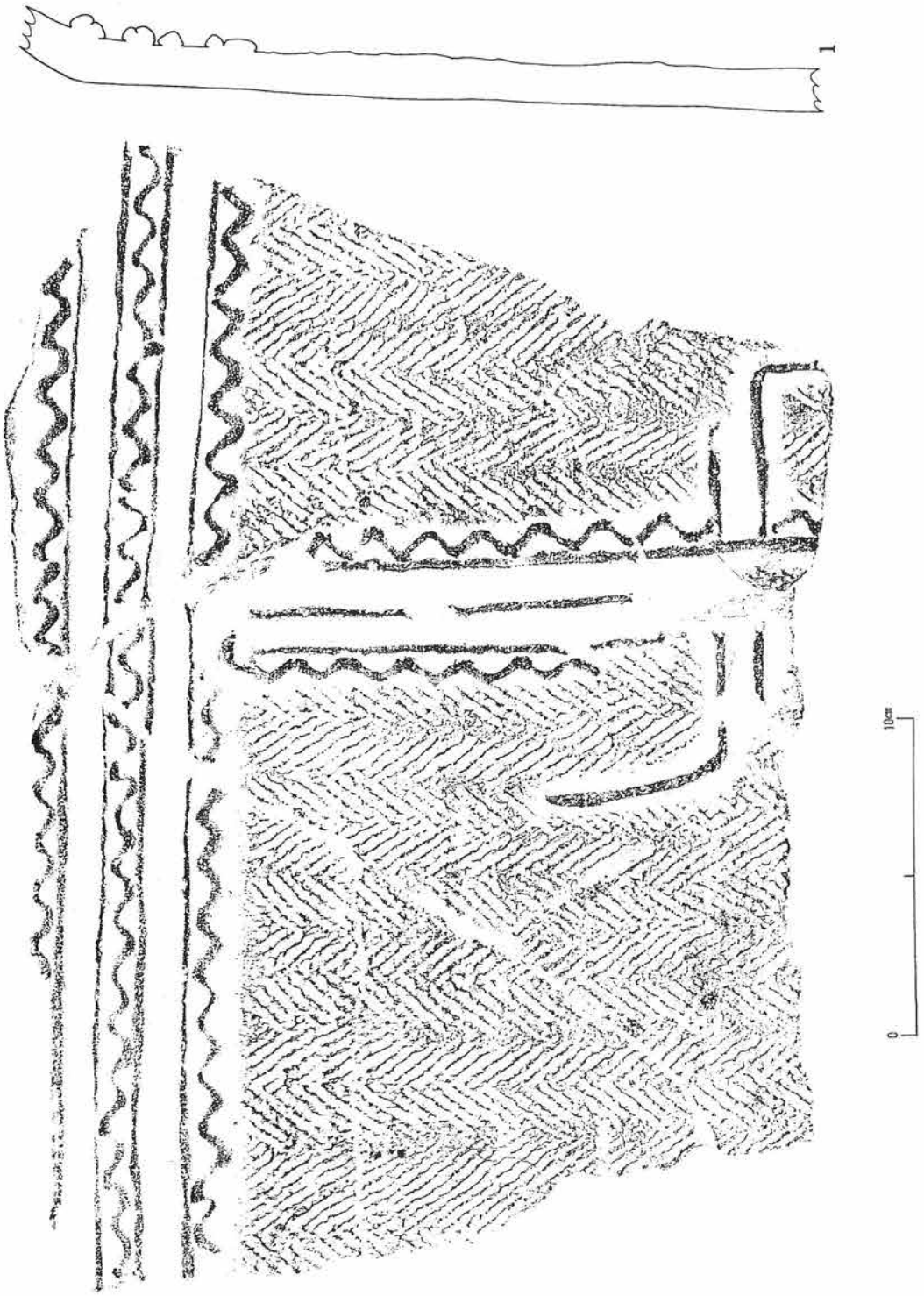

第135図　第II次調査 出土土器拓影（97）



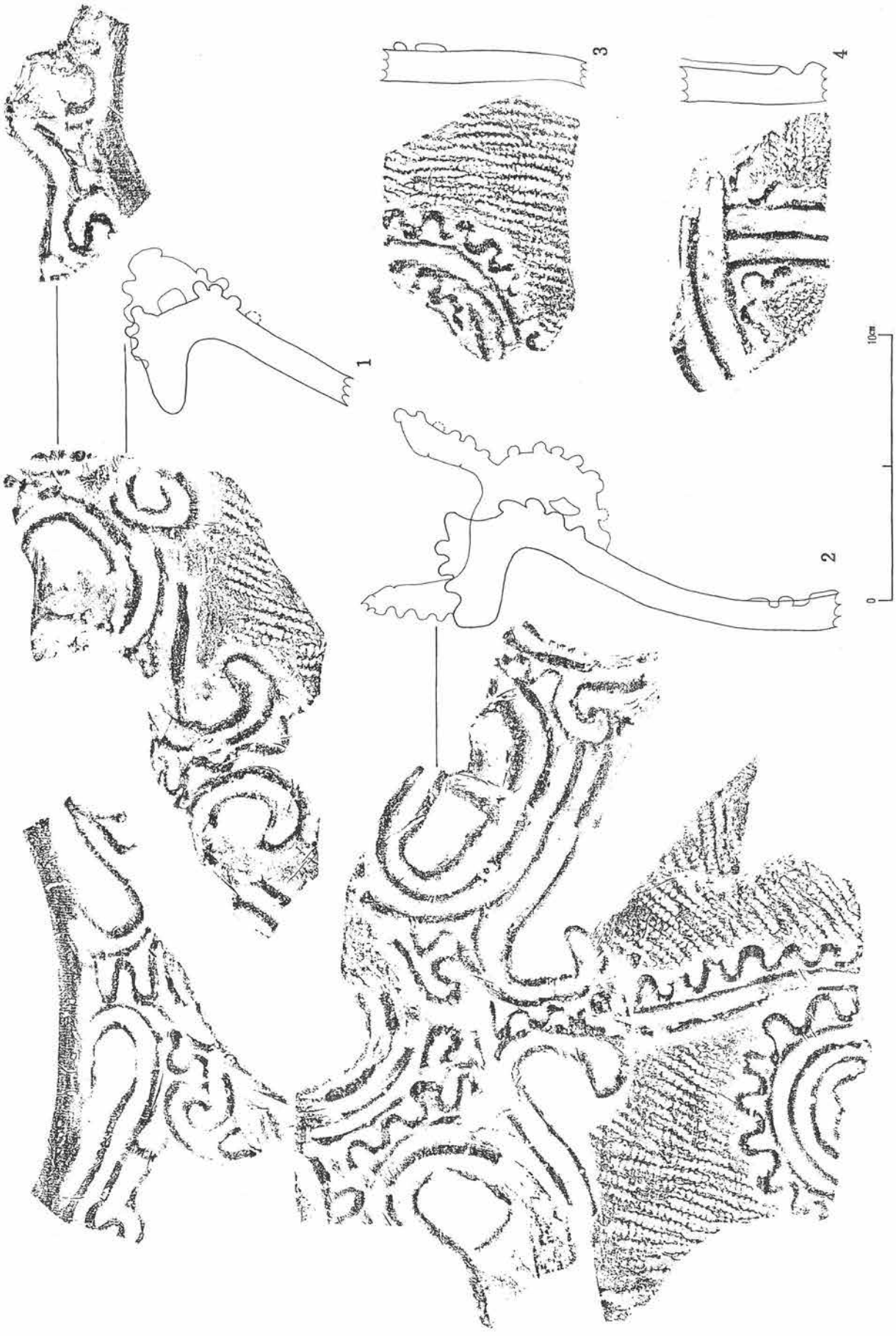

第136図　第II次調査 出土土器拓影（98）



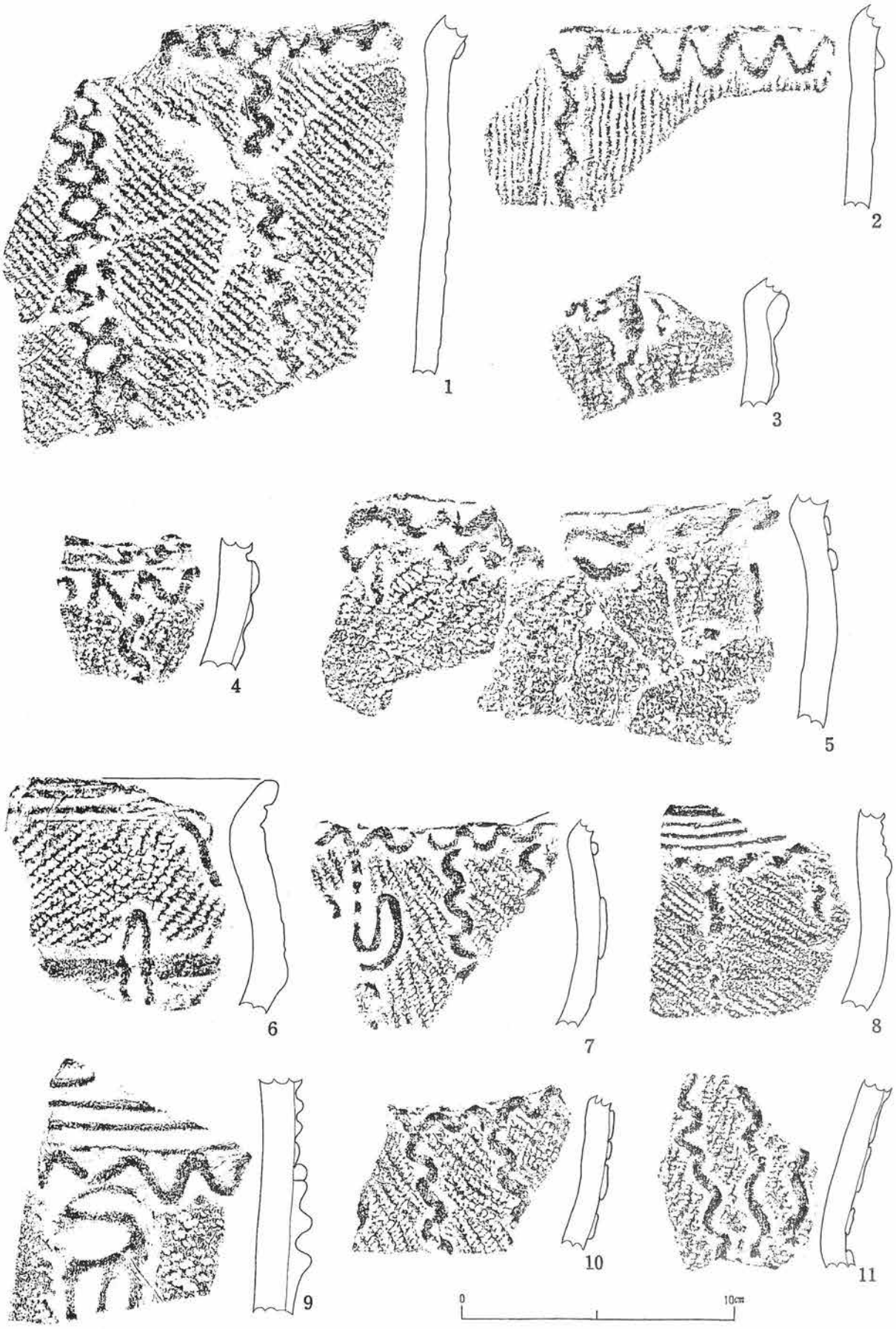

第137図　第II次調査 出土土器拓影（99）



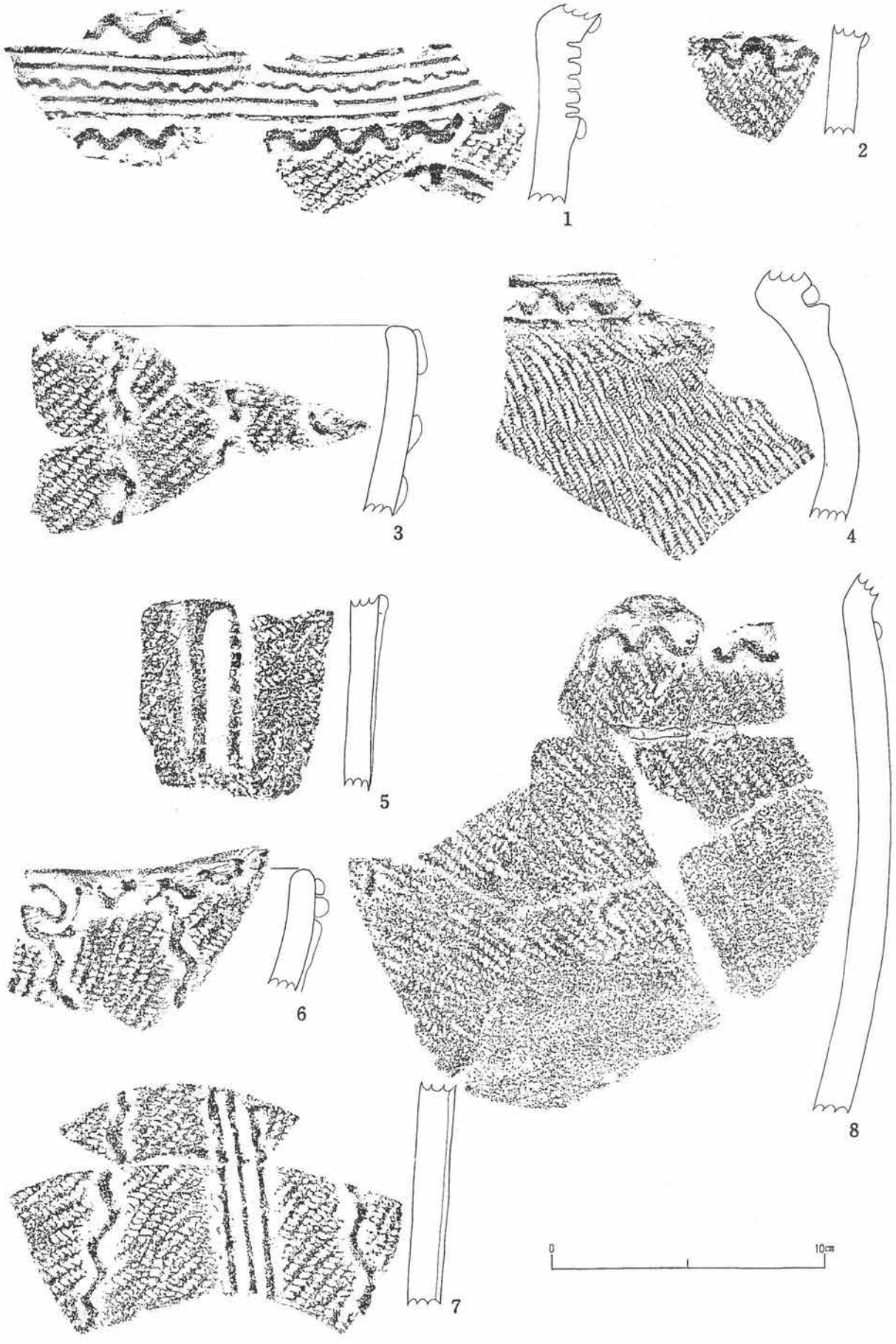

第138図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（100）



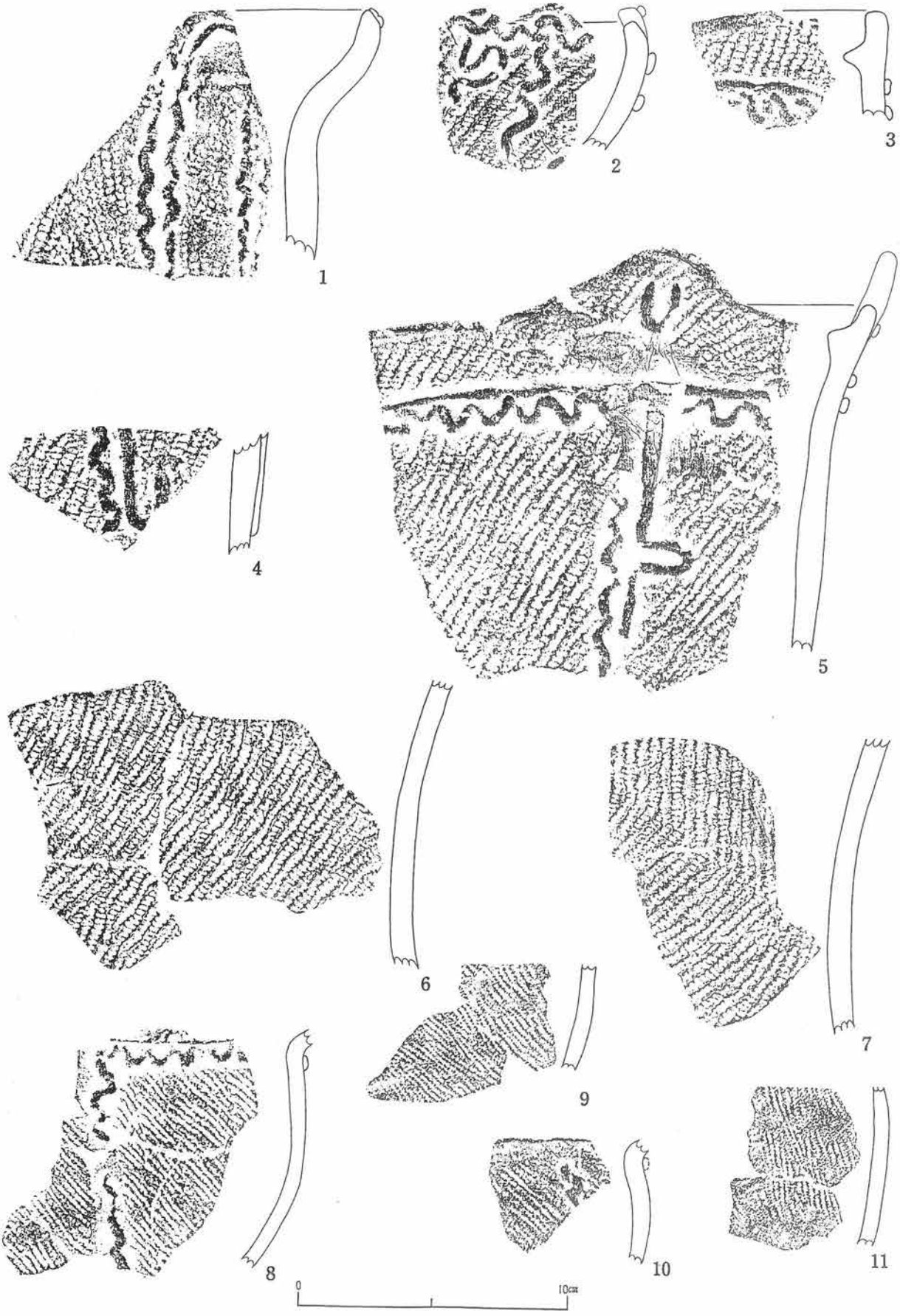

第139図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（101）



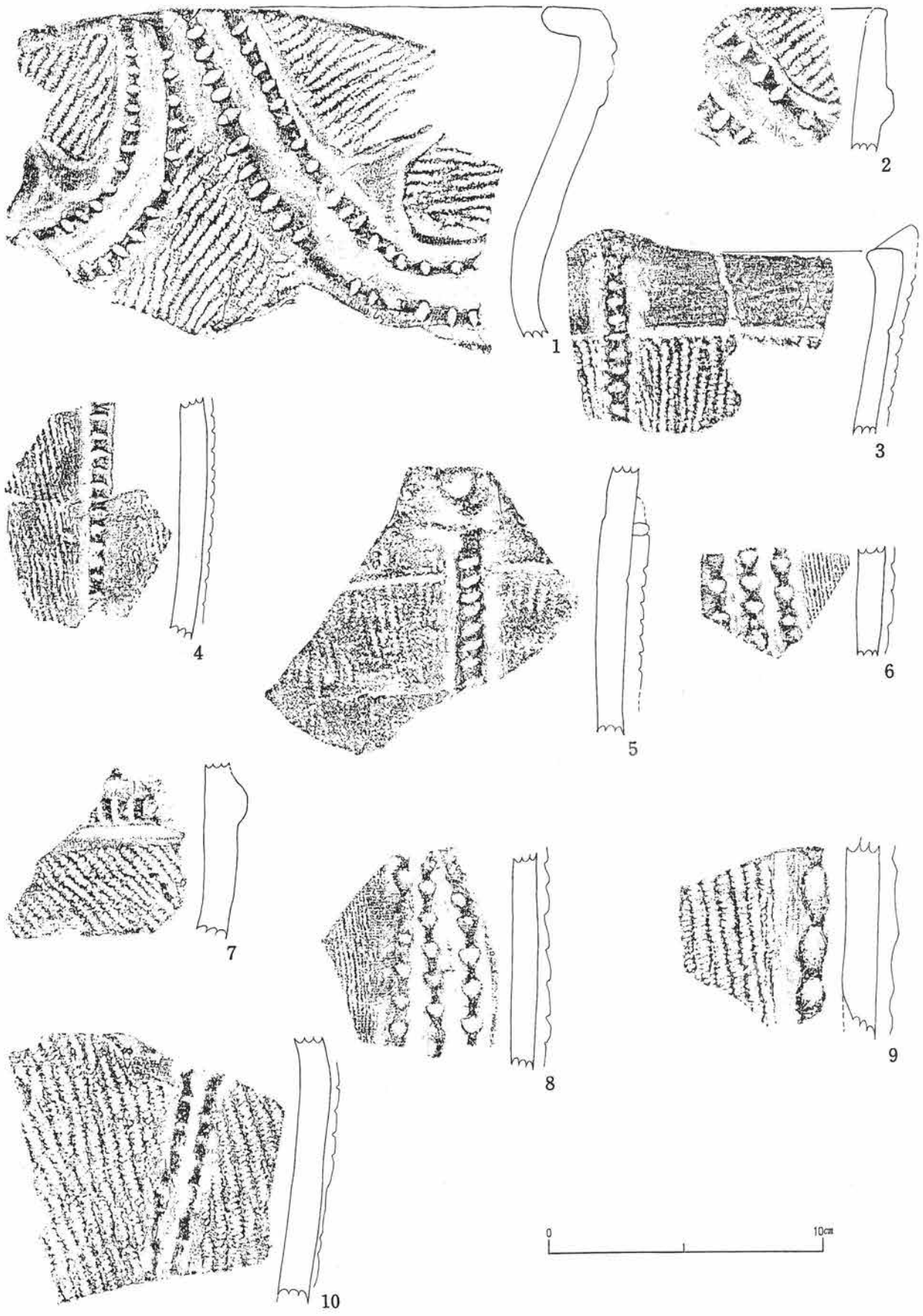

第140図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（102）



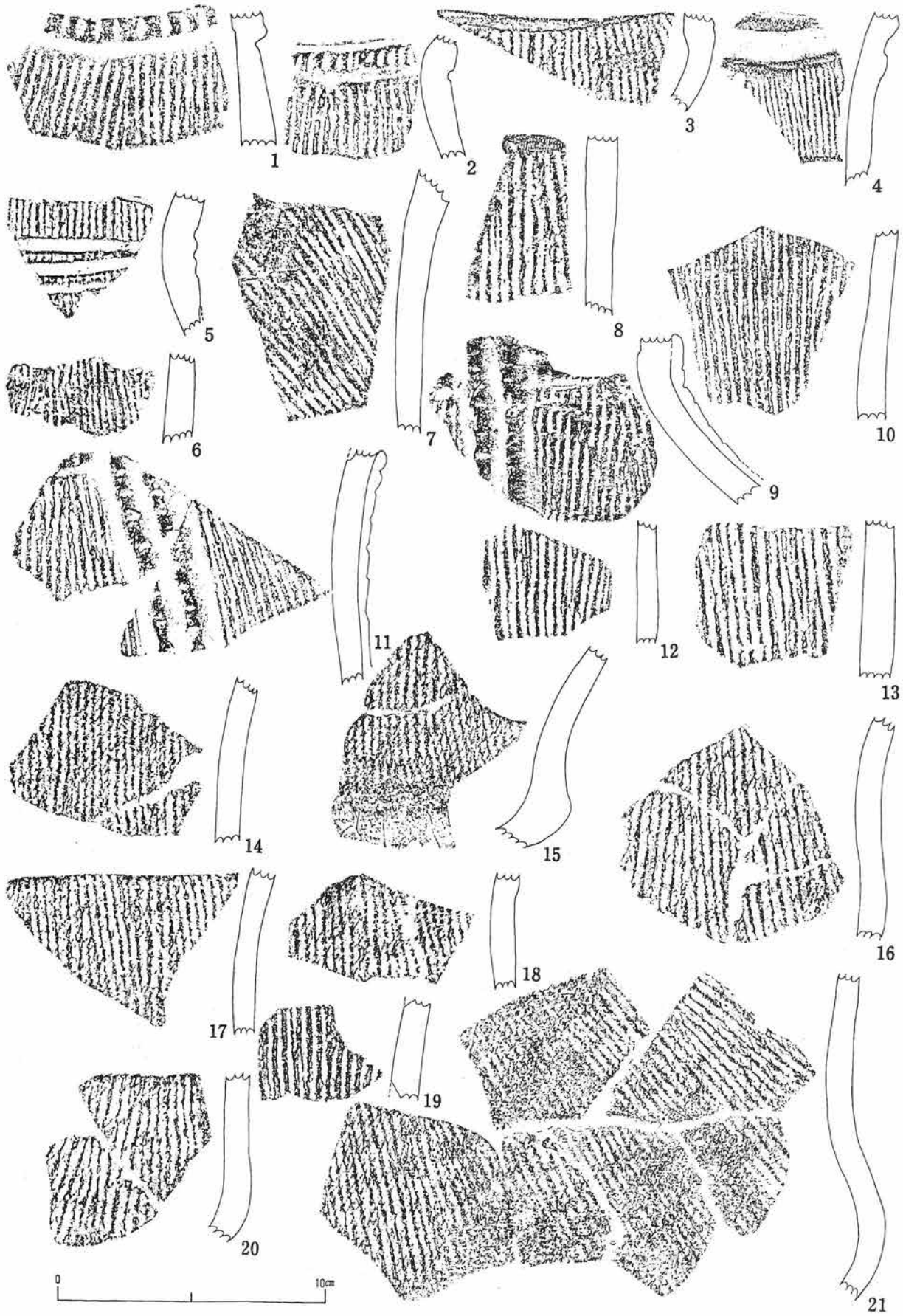

第141図　第II次調査 出土土器拓影（103）



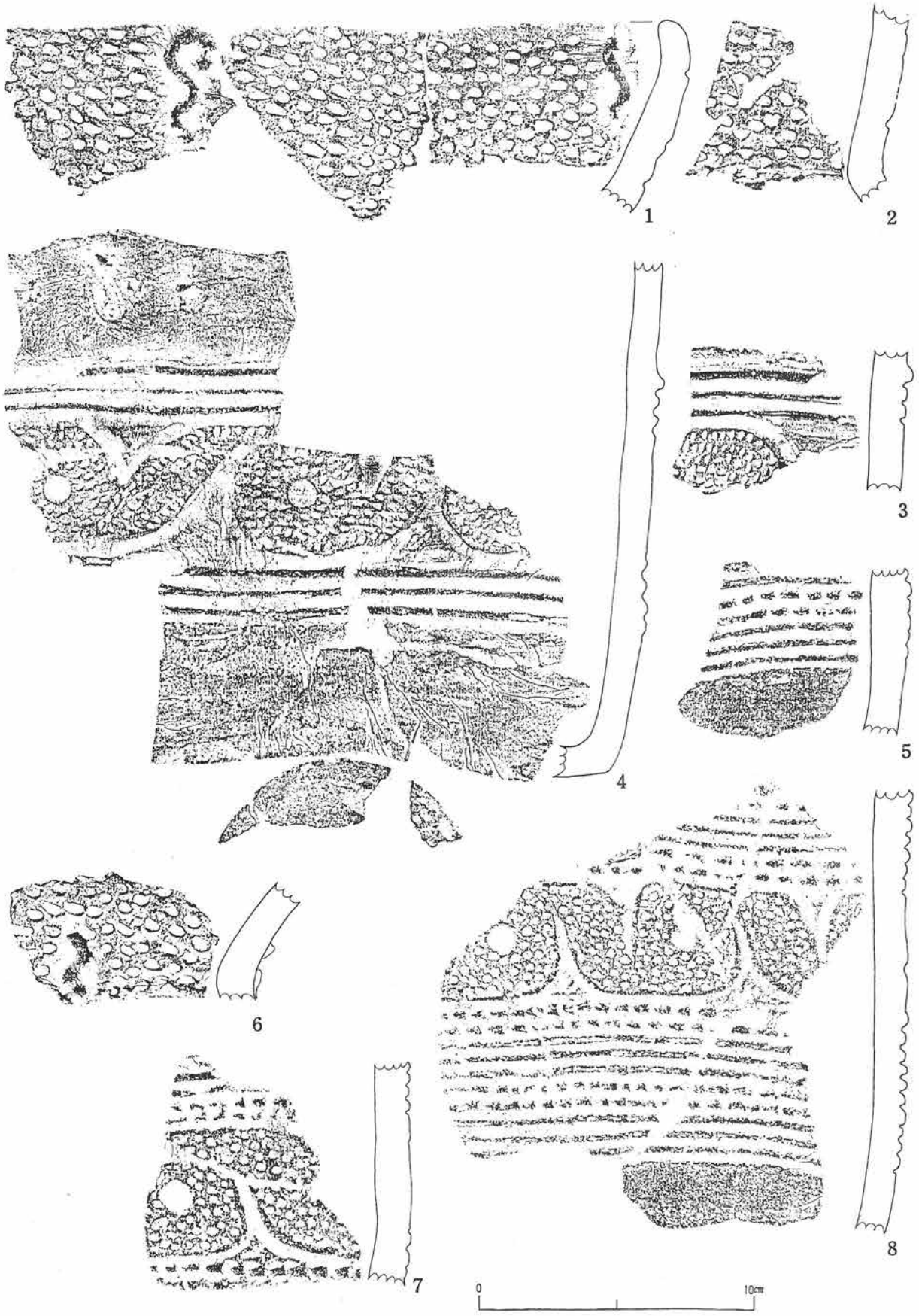

第142図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（104）



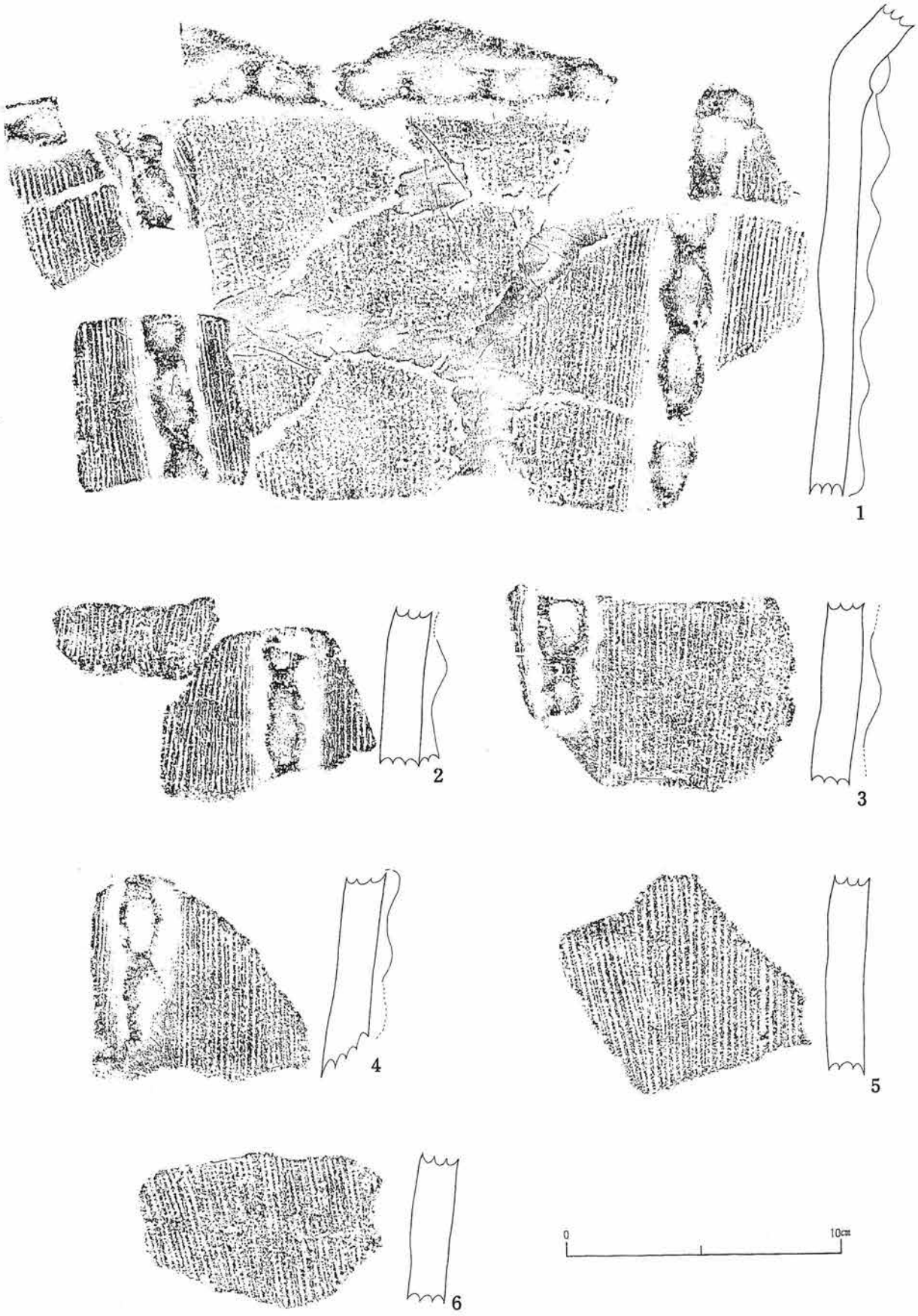

第143図　第II次調査 出土土器拓影（105）



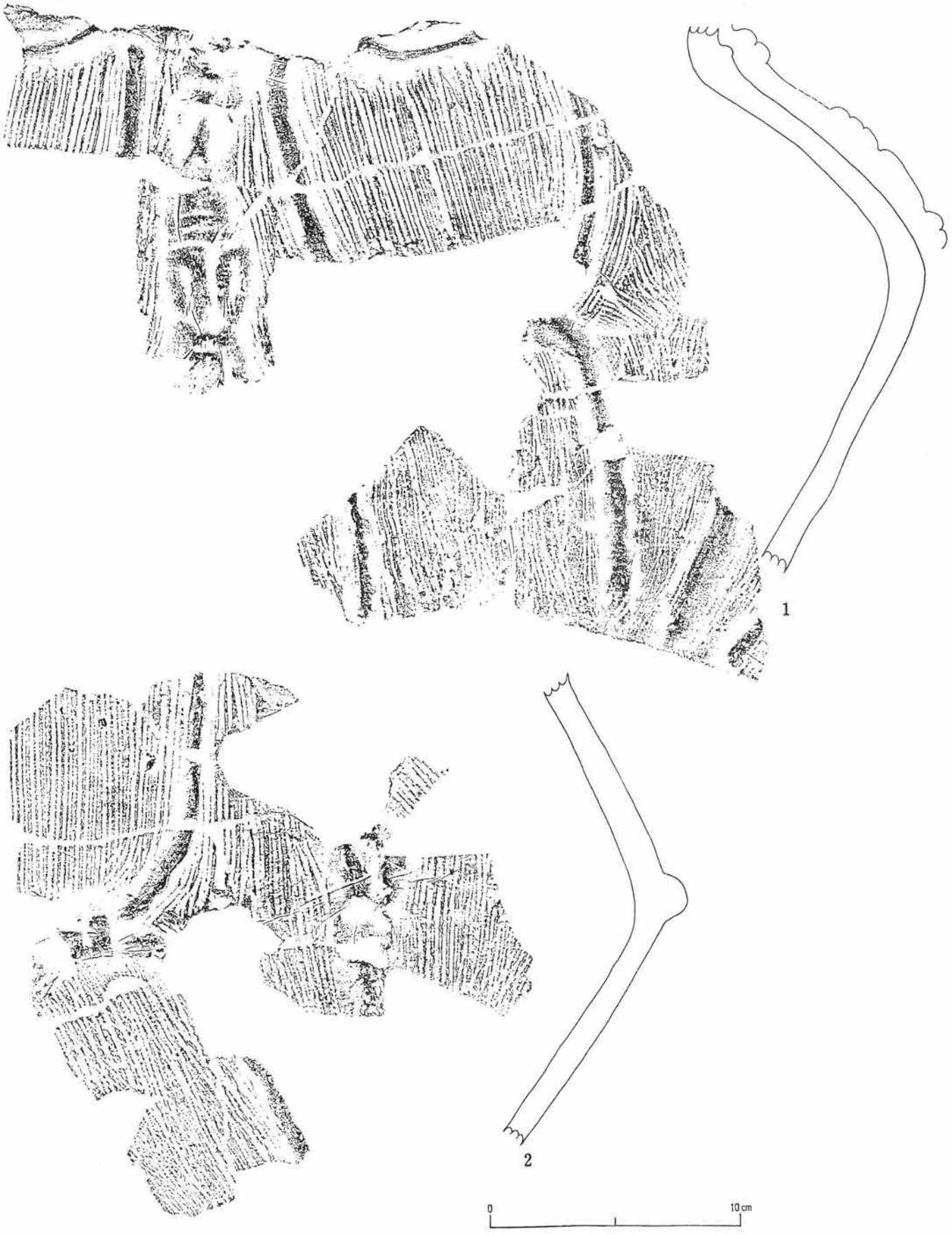

第144図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（106）



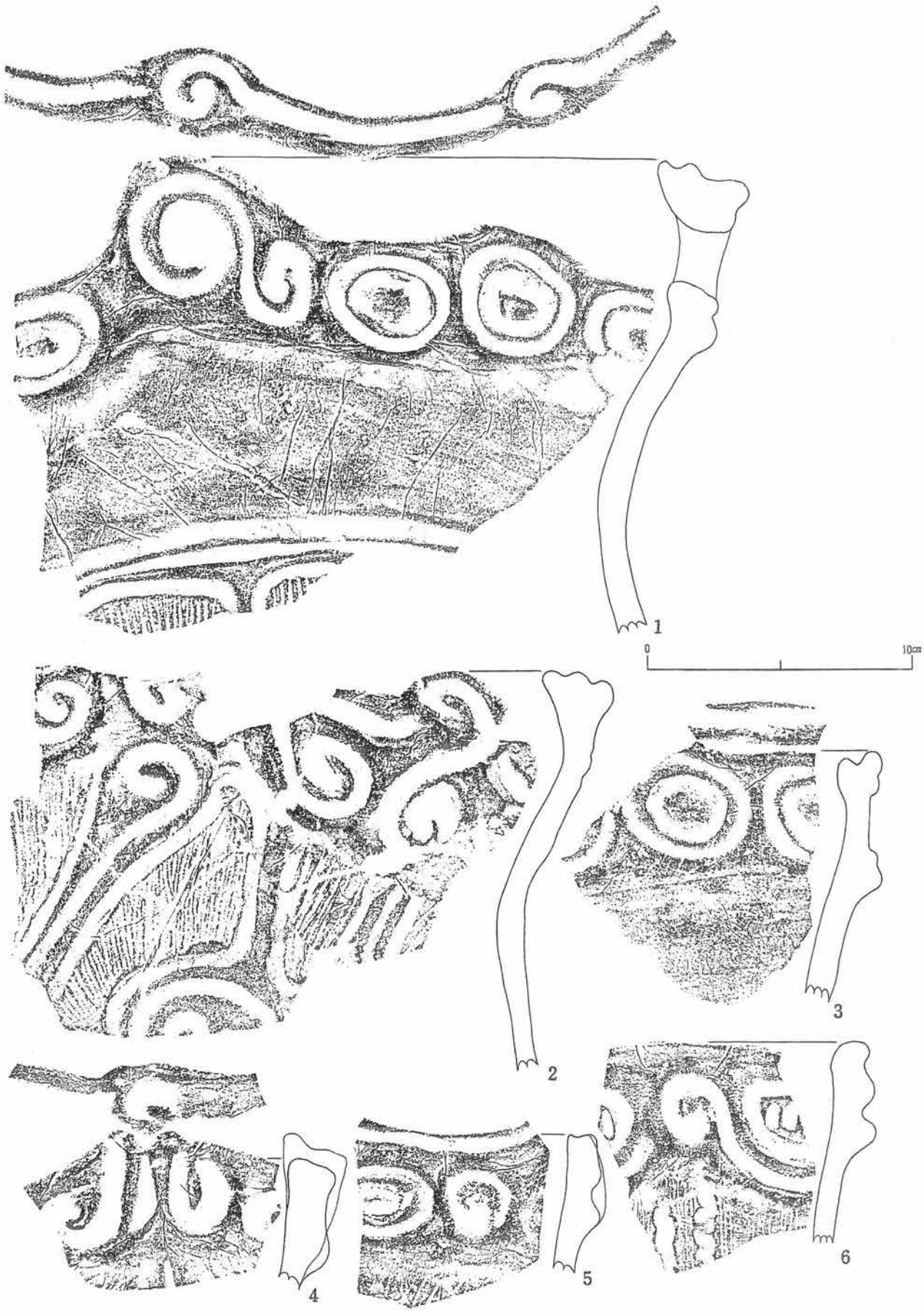

第145図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（107）



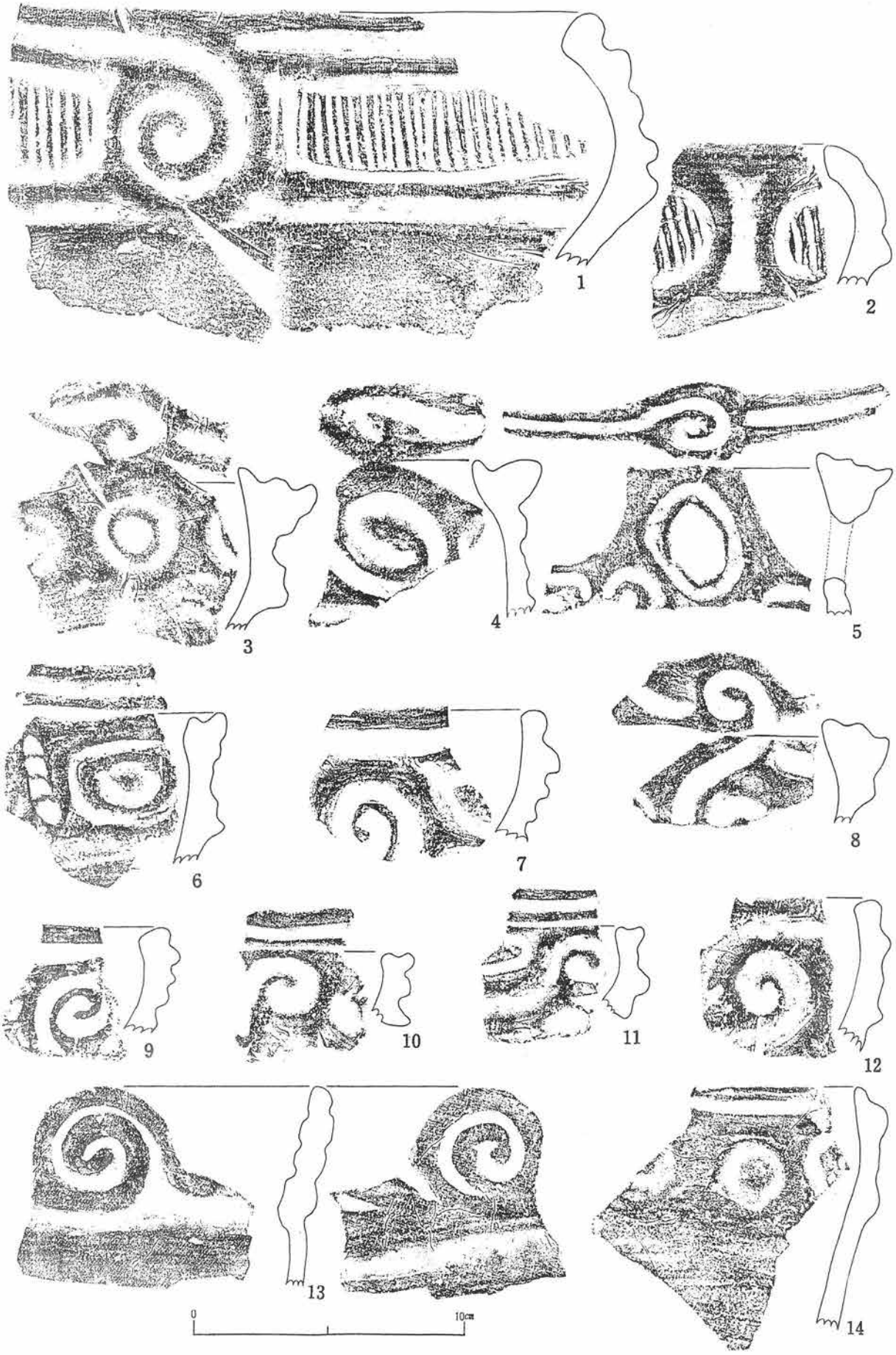

第146図　第II次調査 出土土器拓影（108）



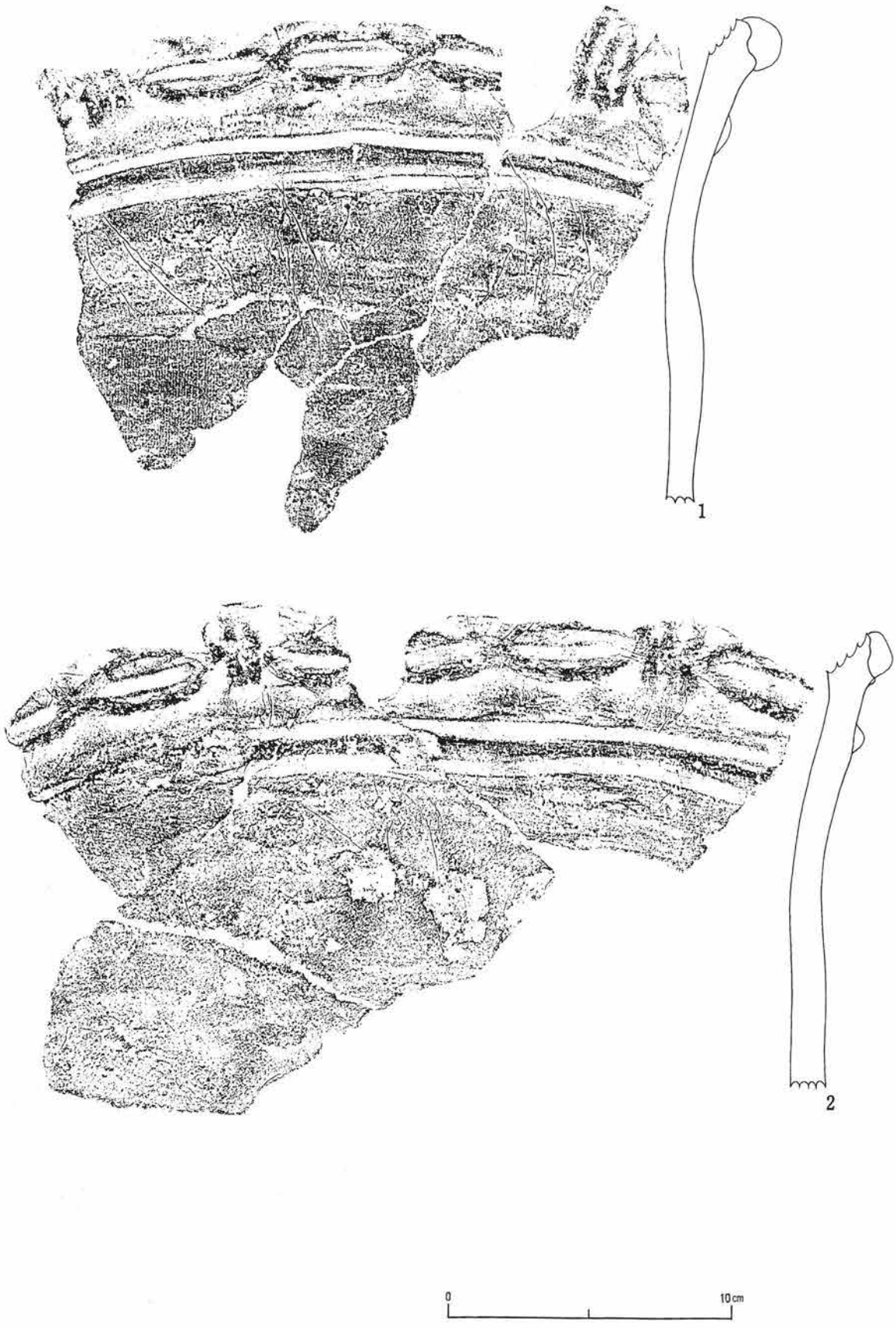

第147図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（109）



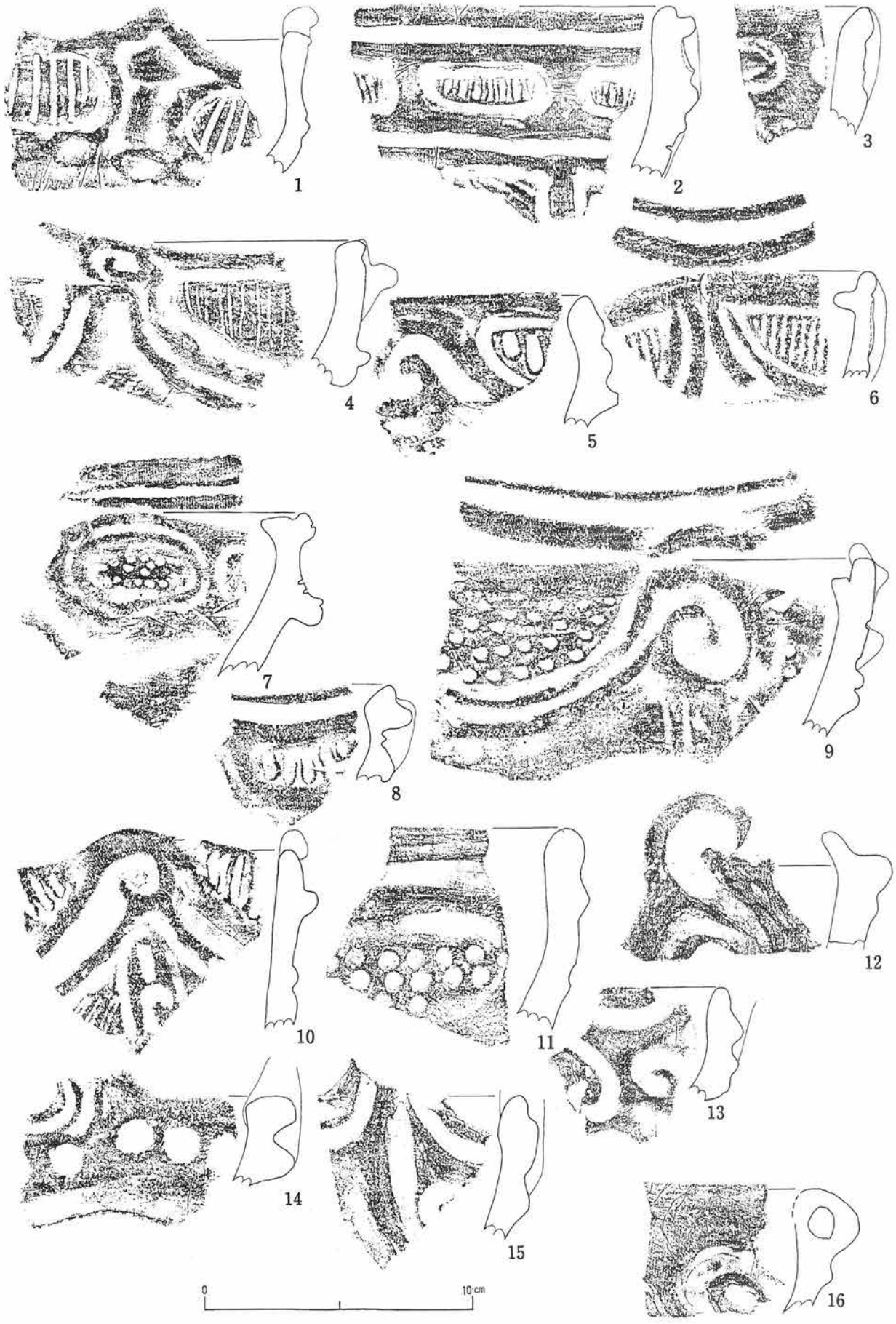

第148図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（110）



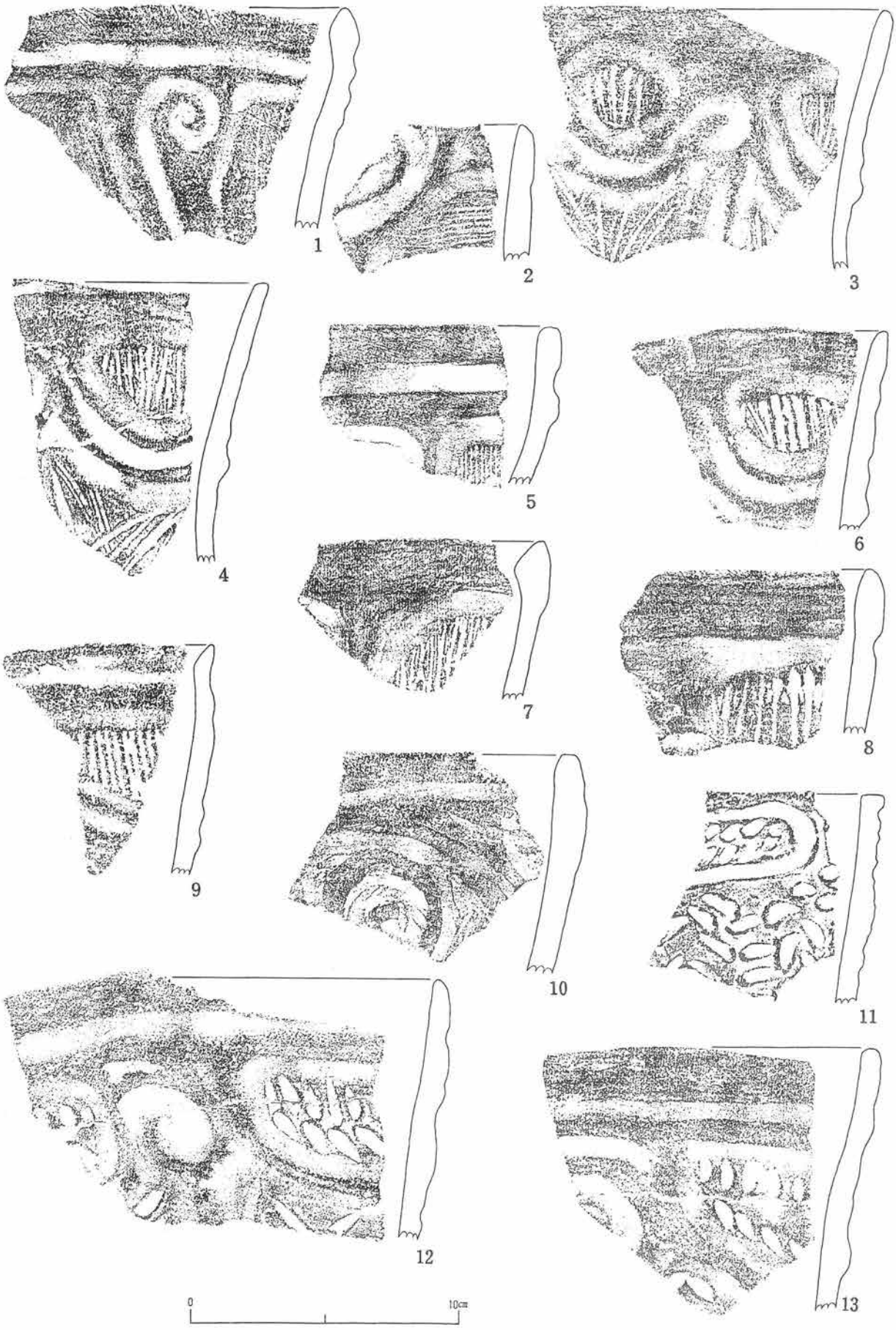

第149図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（111）



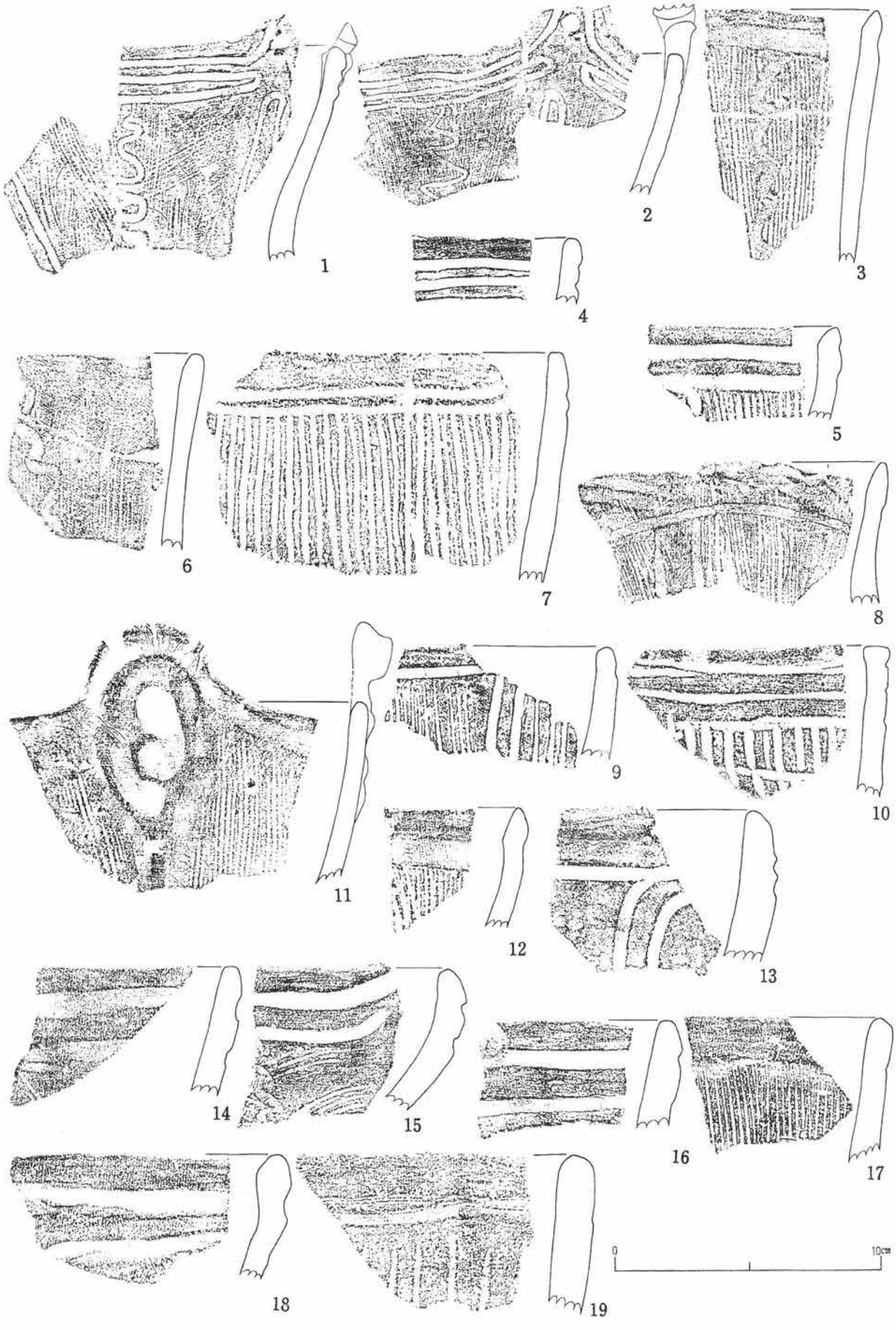

第150図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（112）



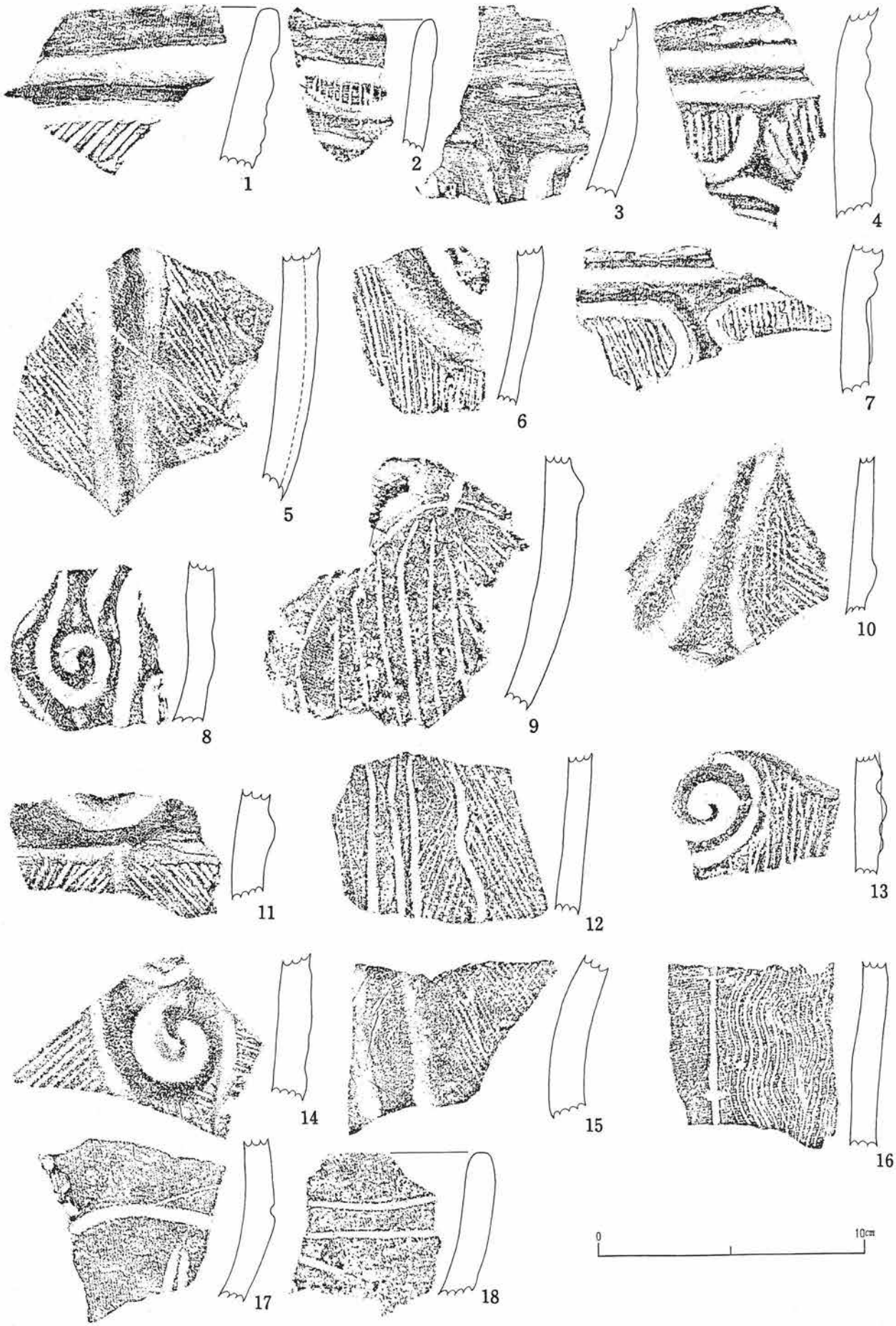

第151図　第II次調査 出土土器拓影（113）



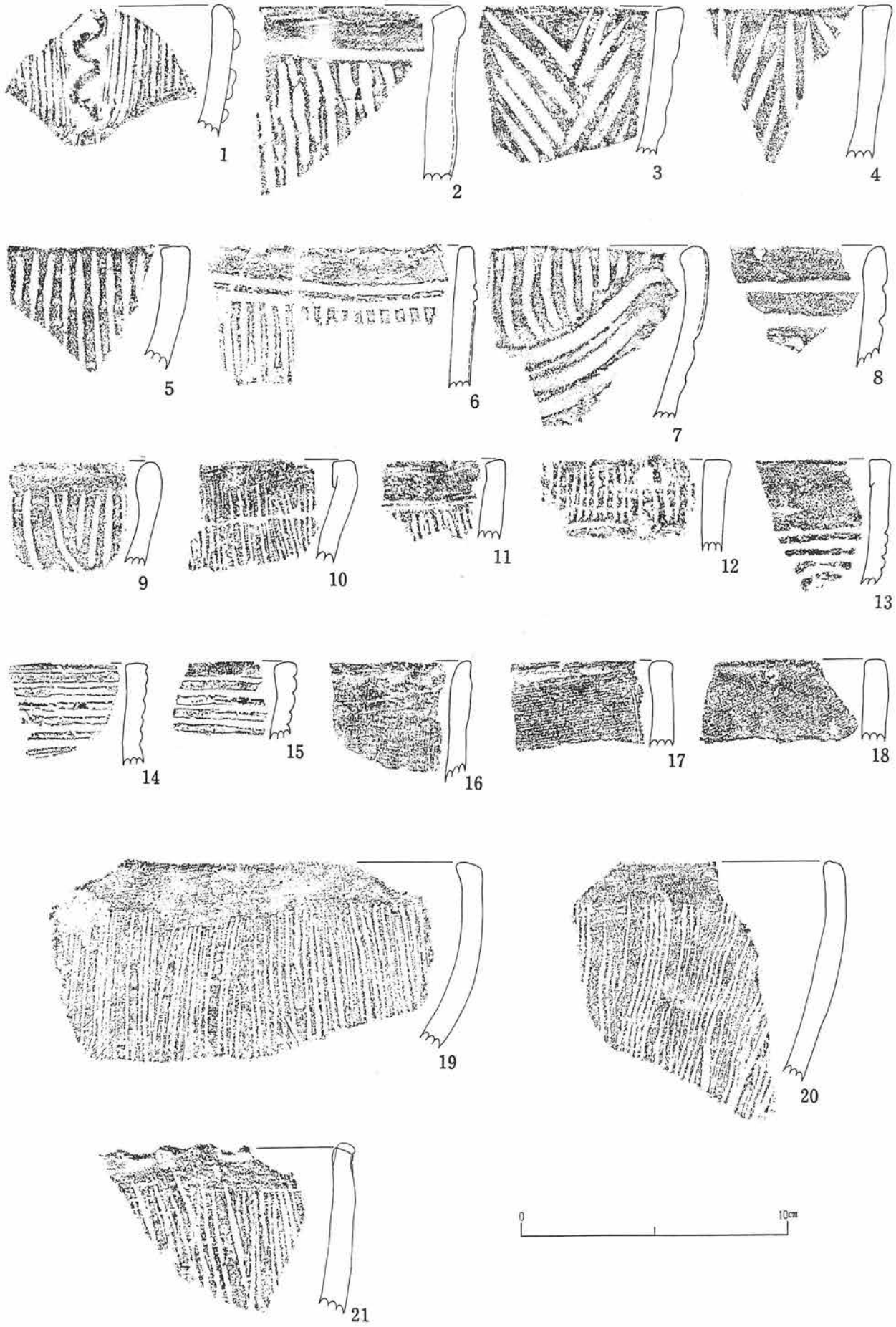

第152図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（114）



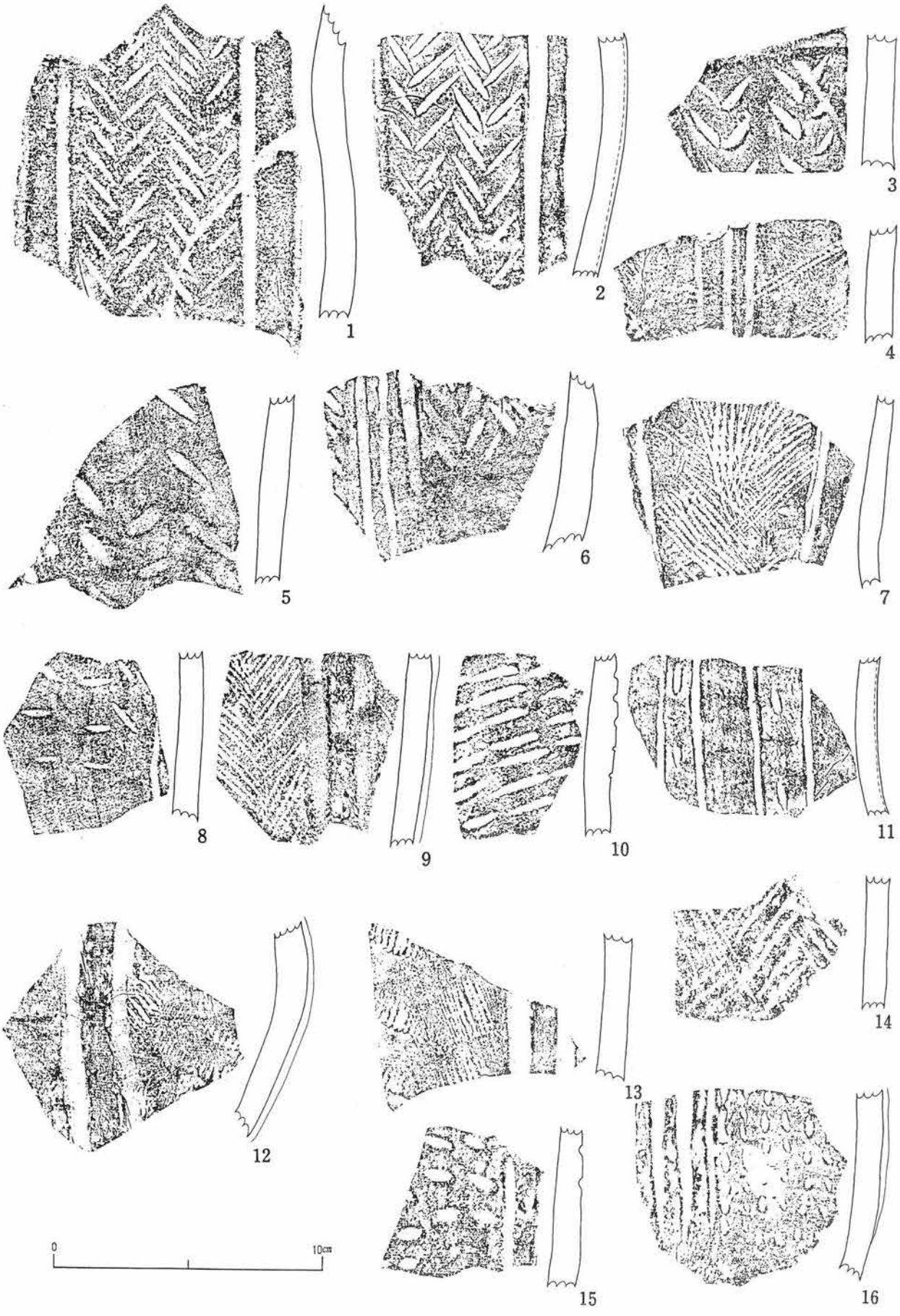

第153図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（115）



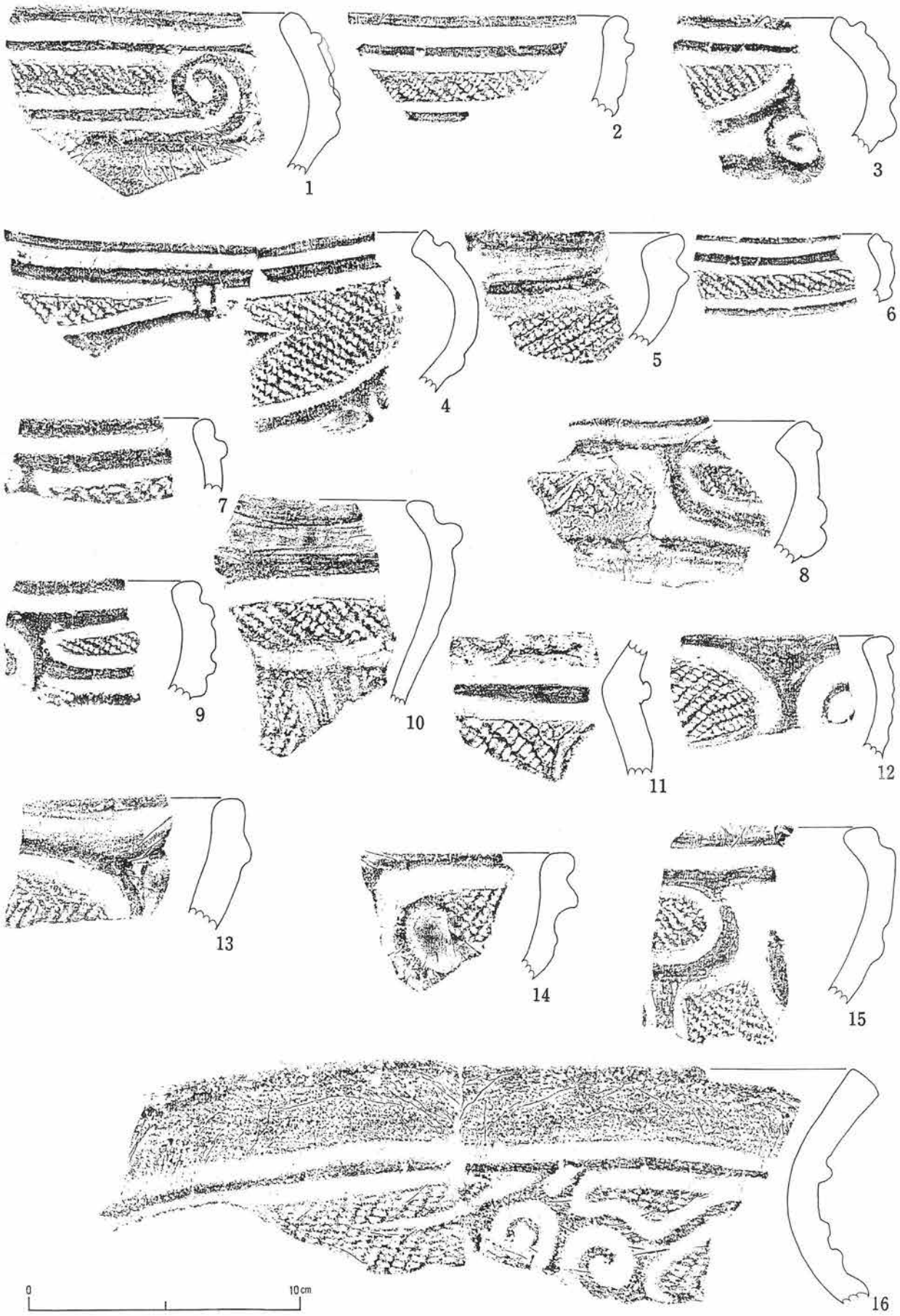

第154図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（116）



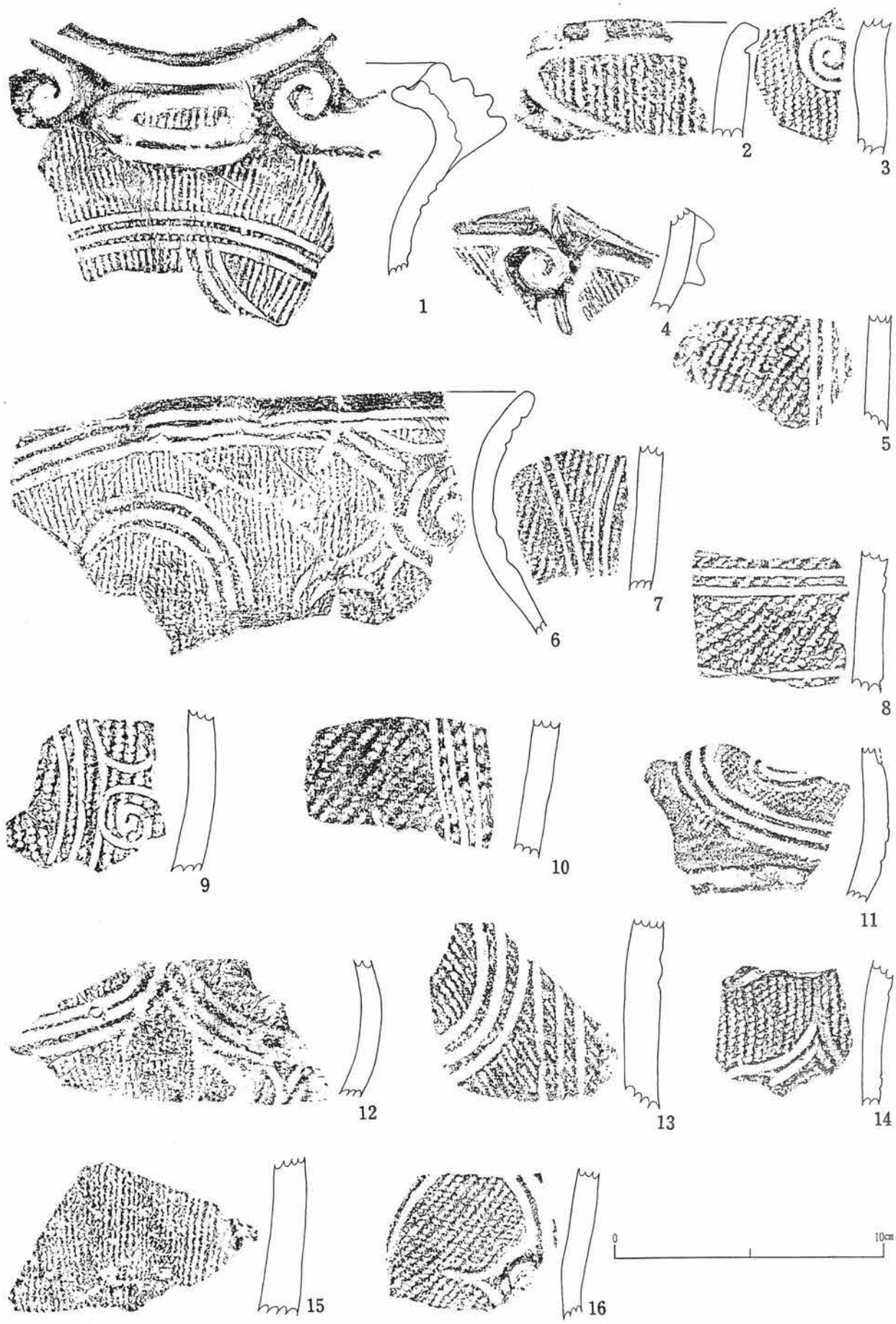

第155図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（117）



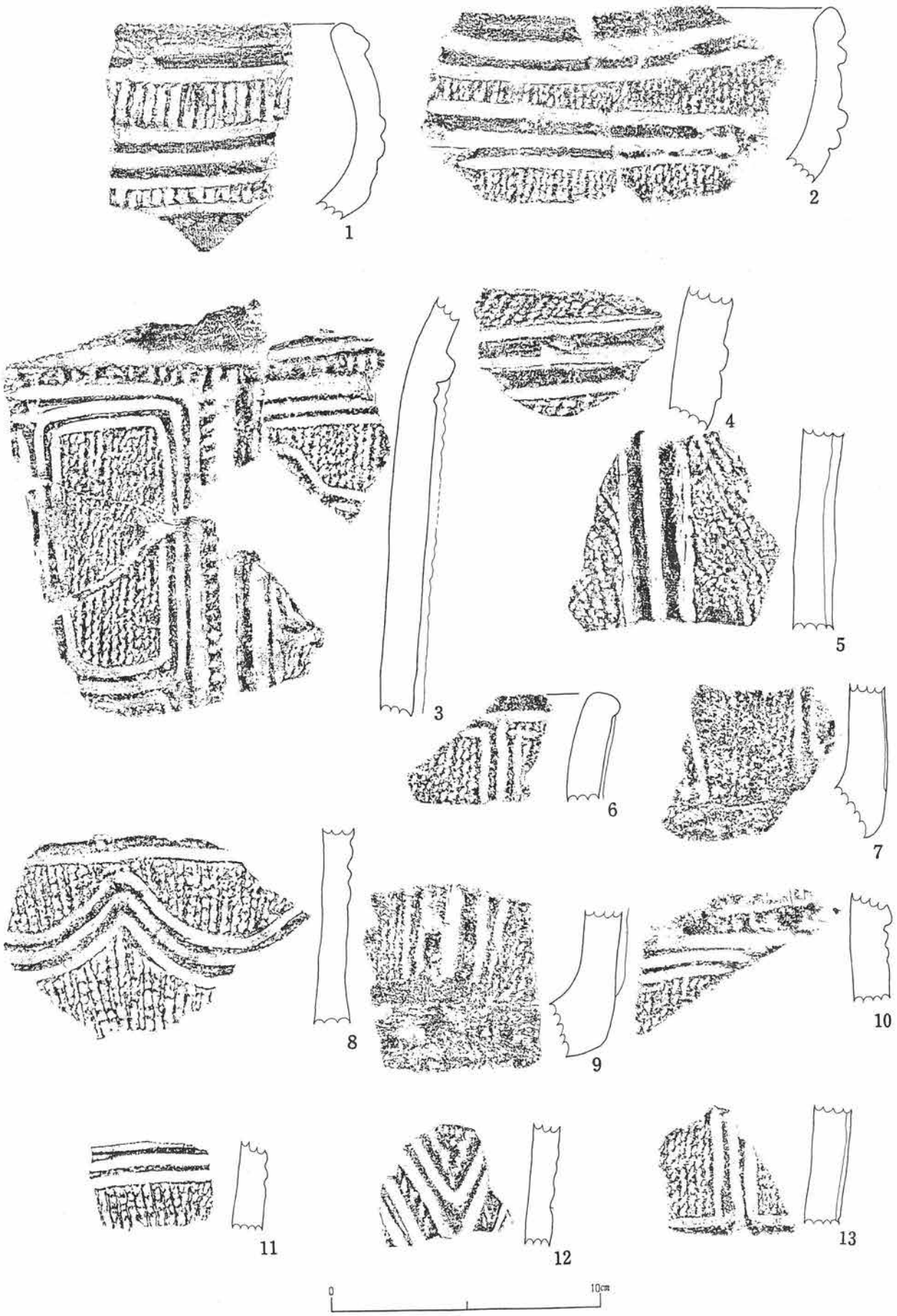

第156図　第II次調査 出土土器拓影（118）



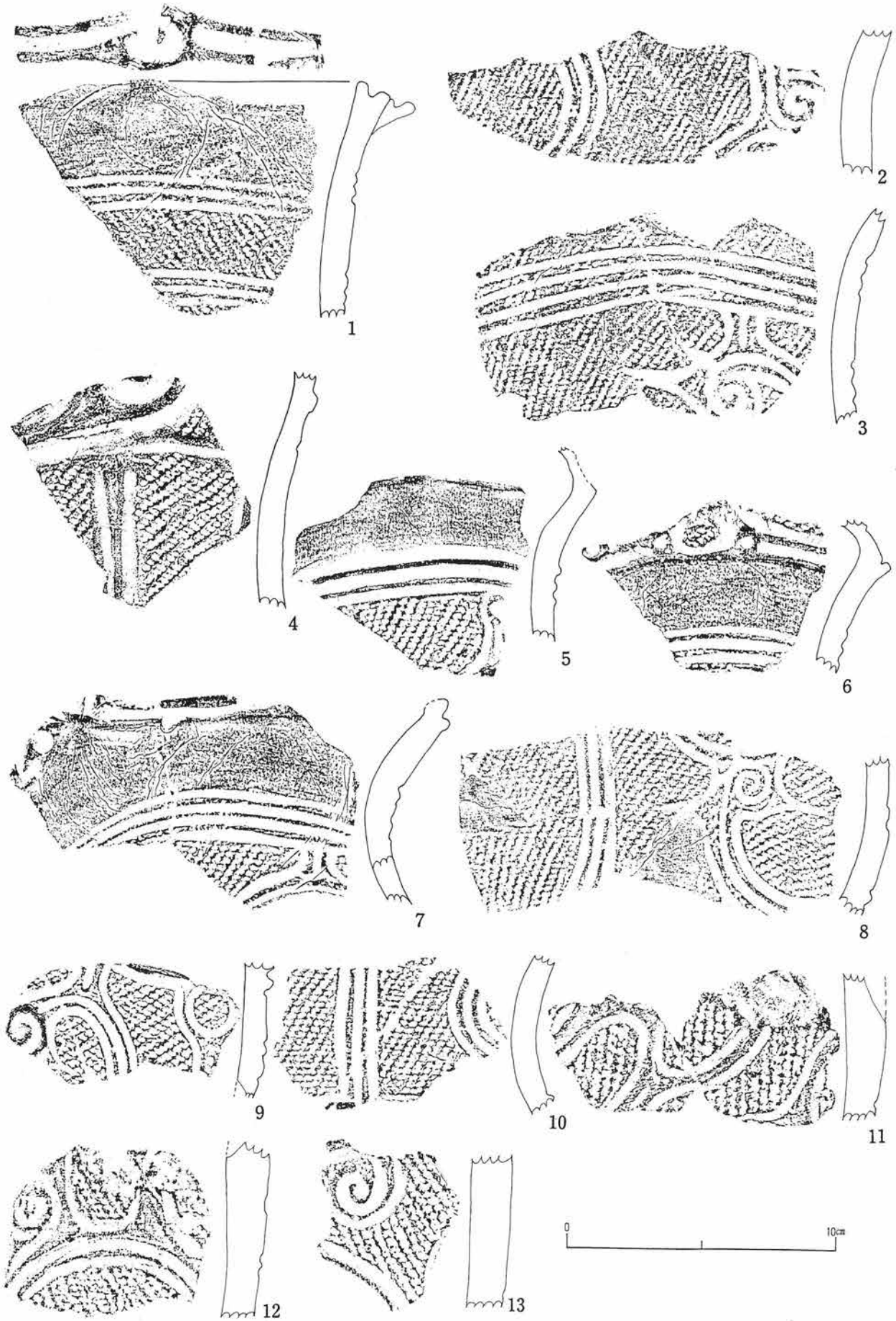

第157図　第II次調査 出土土器拓影（119）



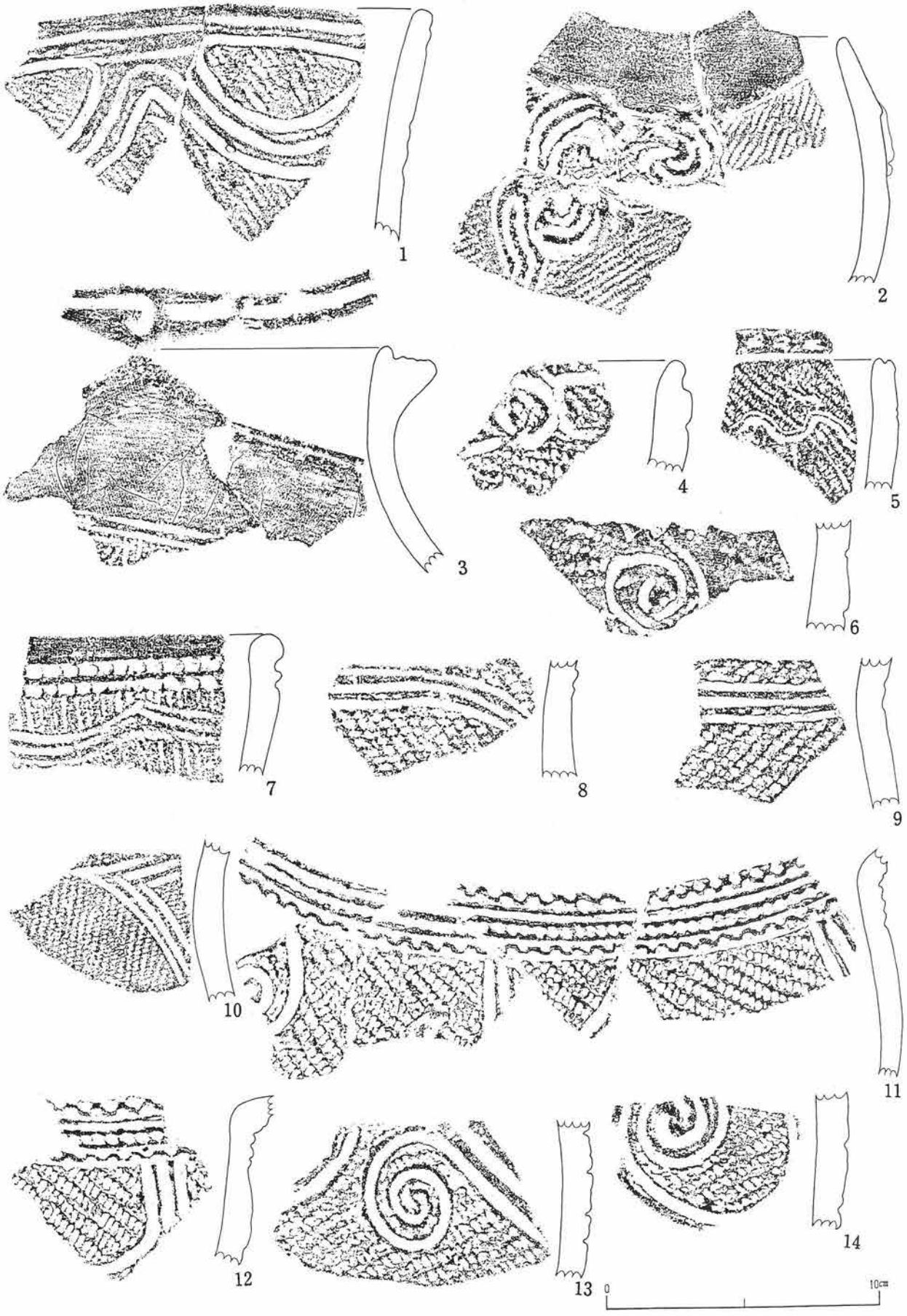

第158図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（120）



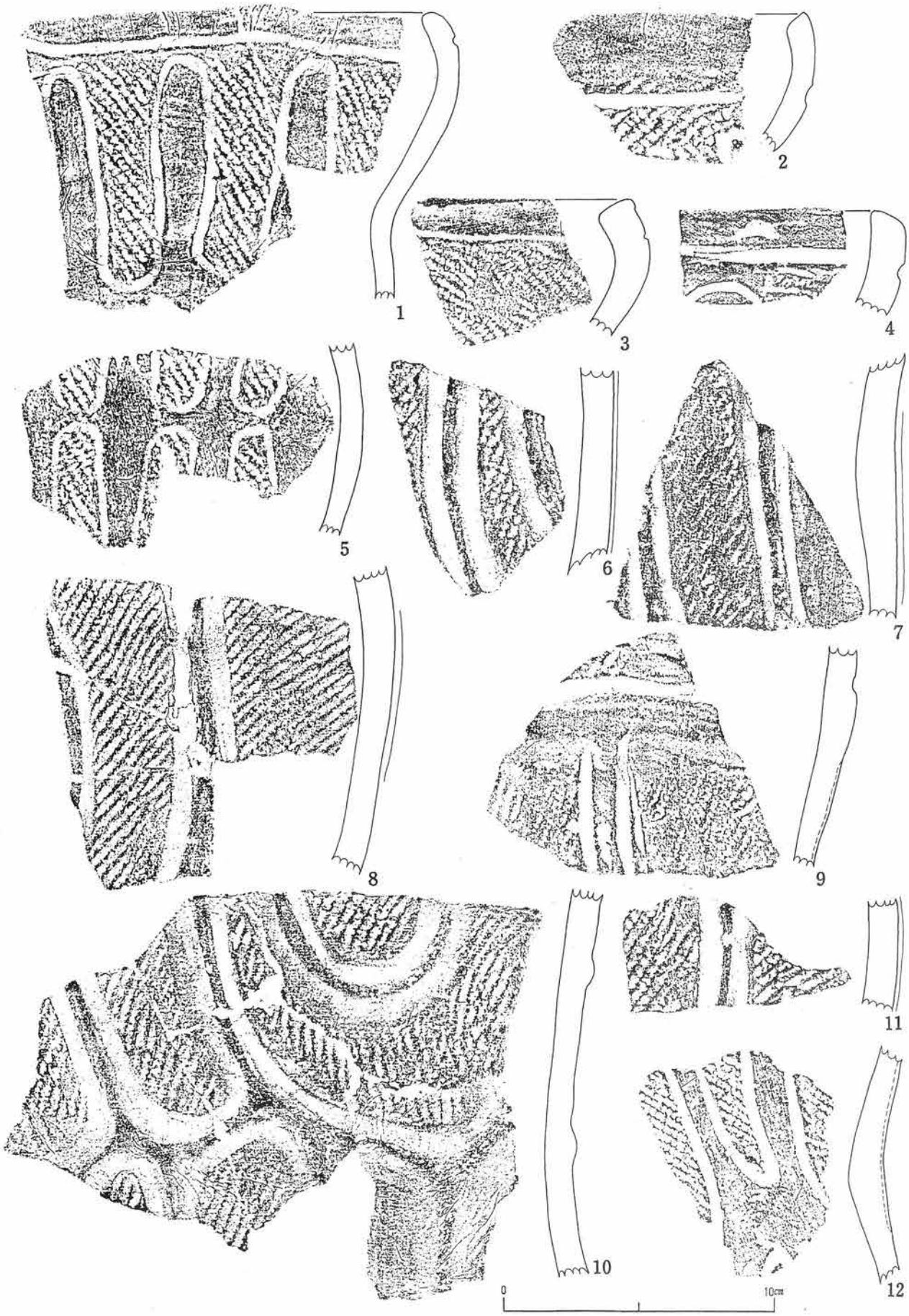

第159図　第II次調査 出土土器拓影（121）



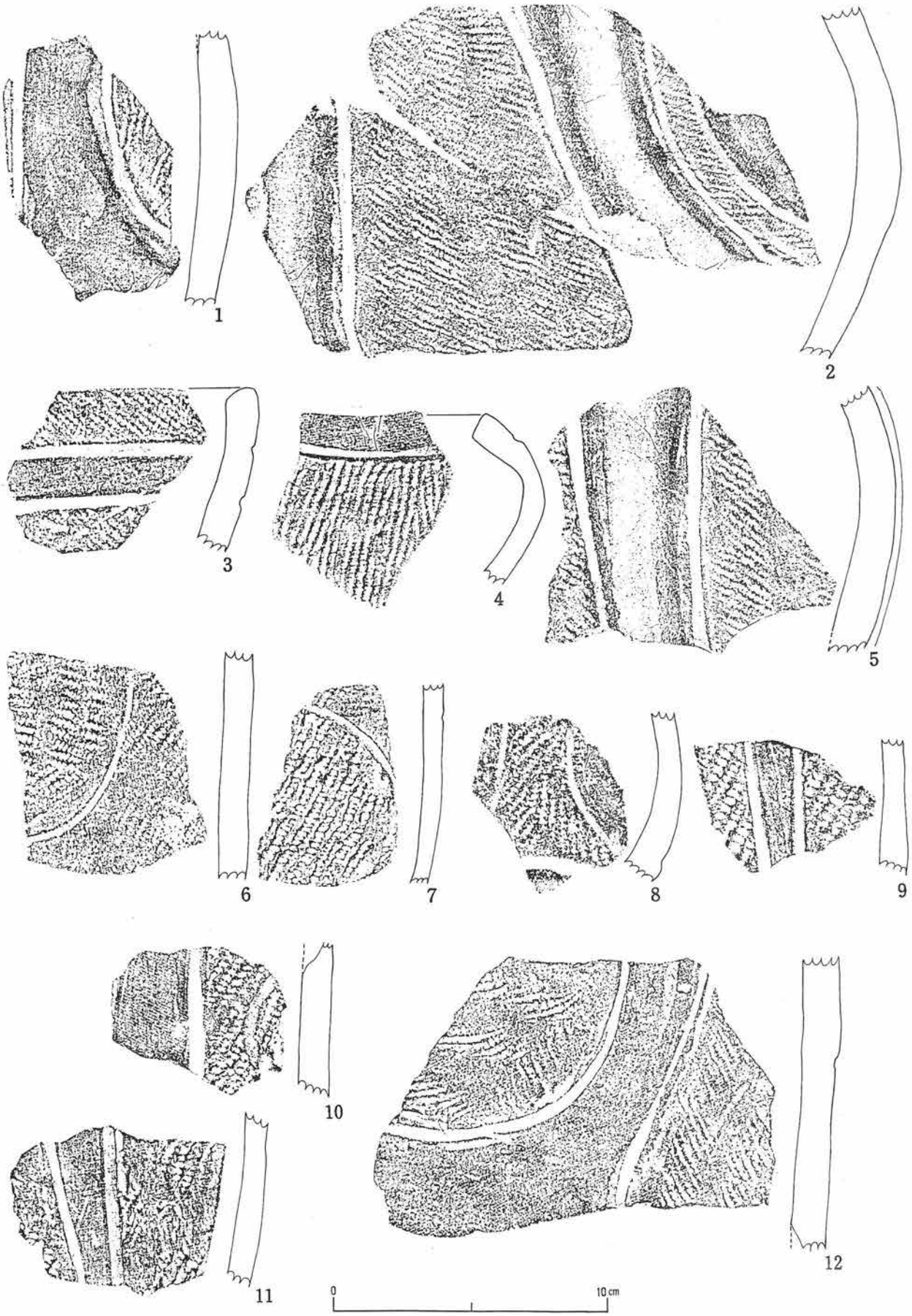

第160図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（122）



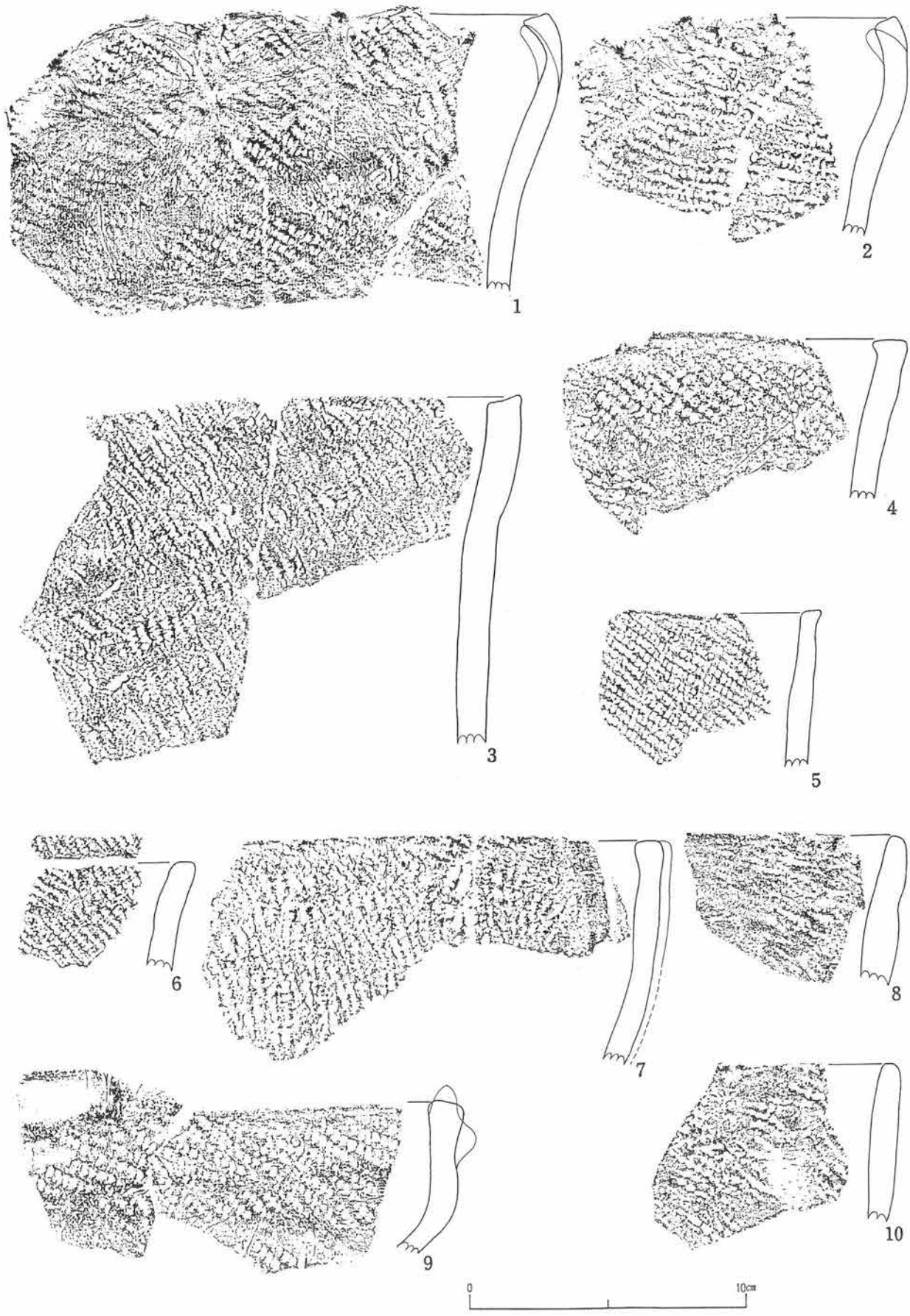

第161図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（123）




第162図　第II次調査 出土土器拓影（124）

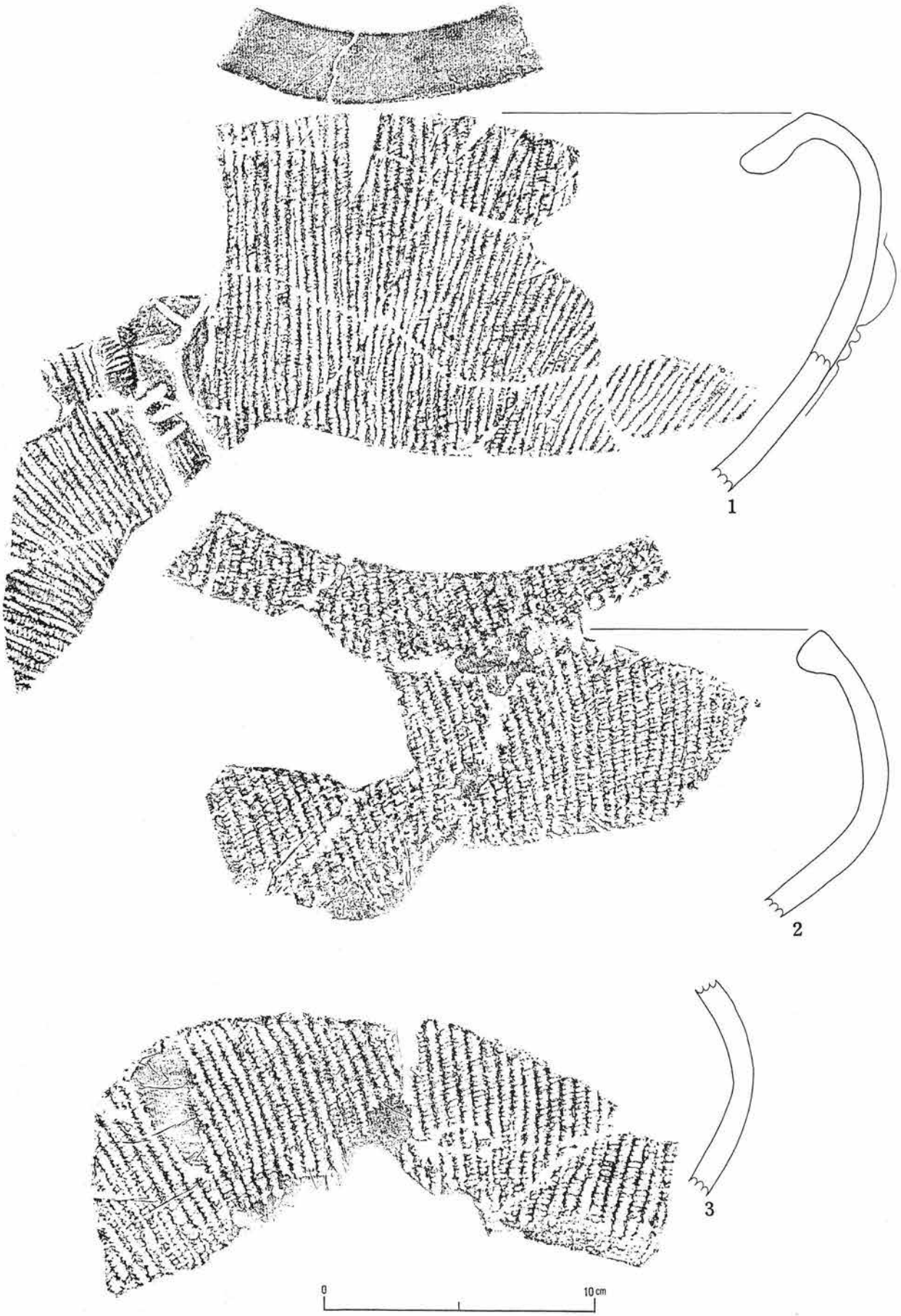



第163図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（125）

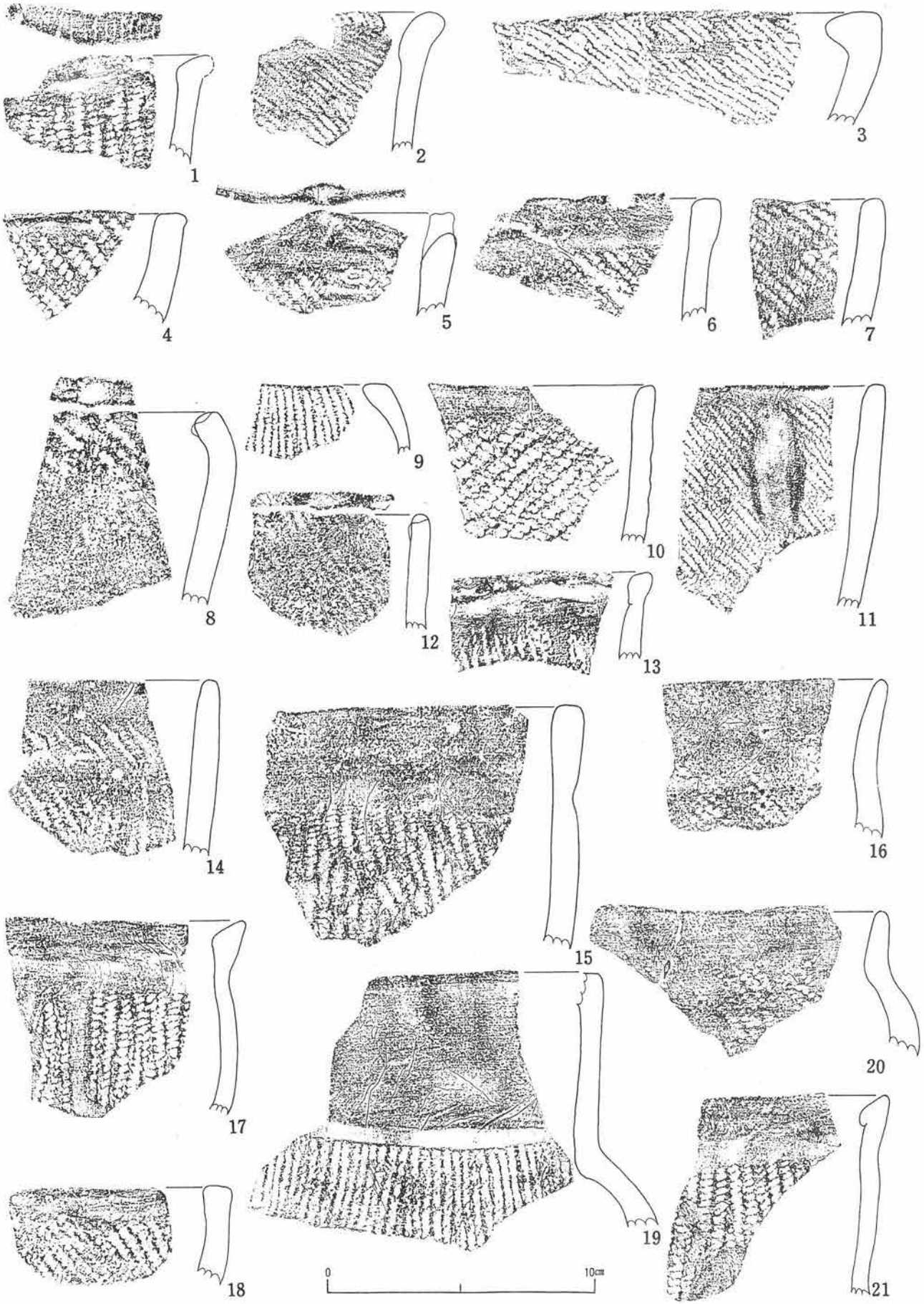



第164図　第II次調査 出土土器拓影（126）

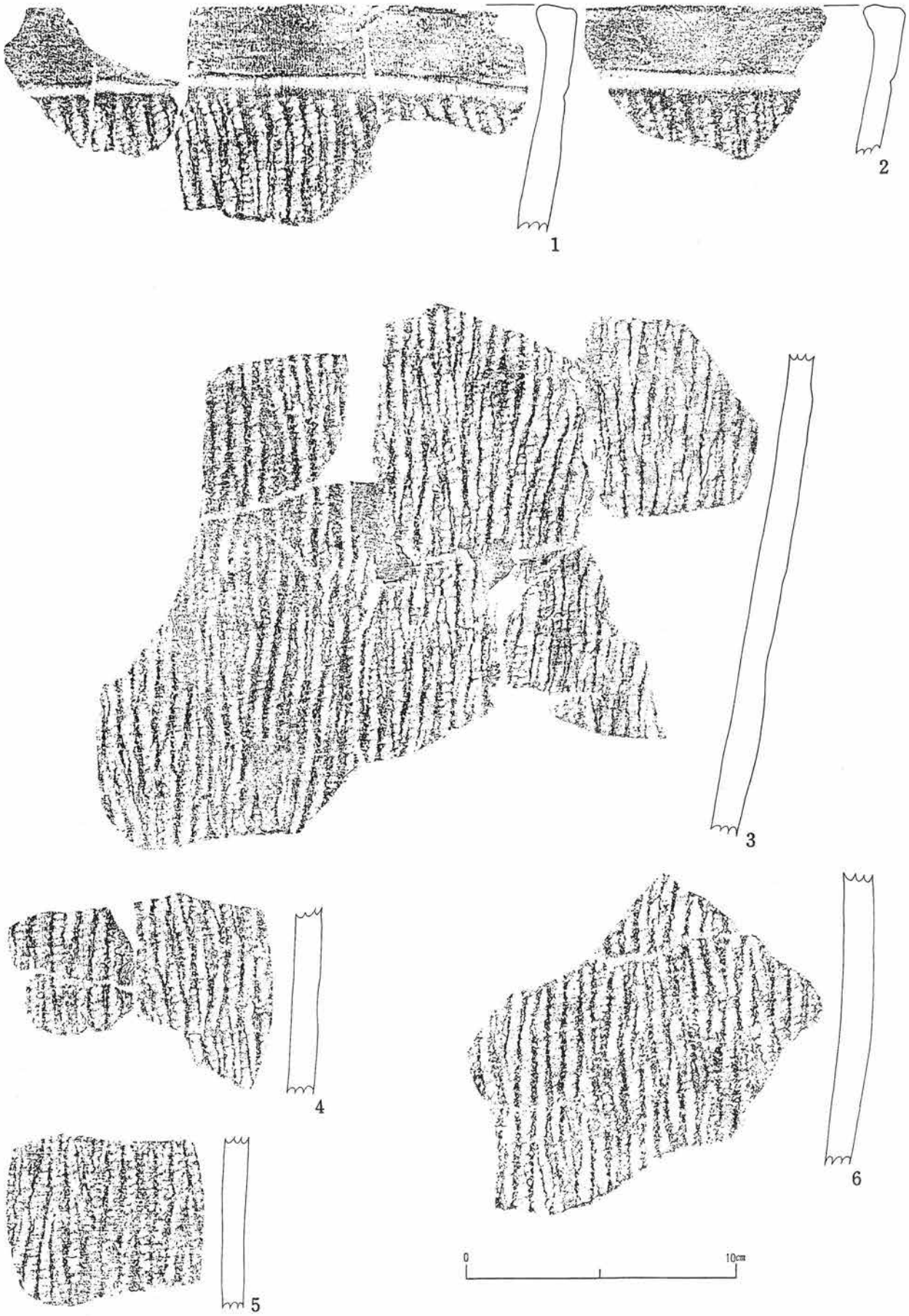
第165図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（127）




第166図　第Ⅱ次調査 出土土器拓影（128）




第167図　第II次調査 出土土器拓影（129）




第168図　第II次調査 出土土器拓影（130）

**土製品**

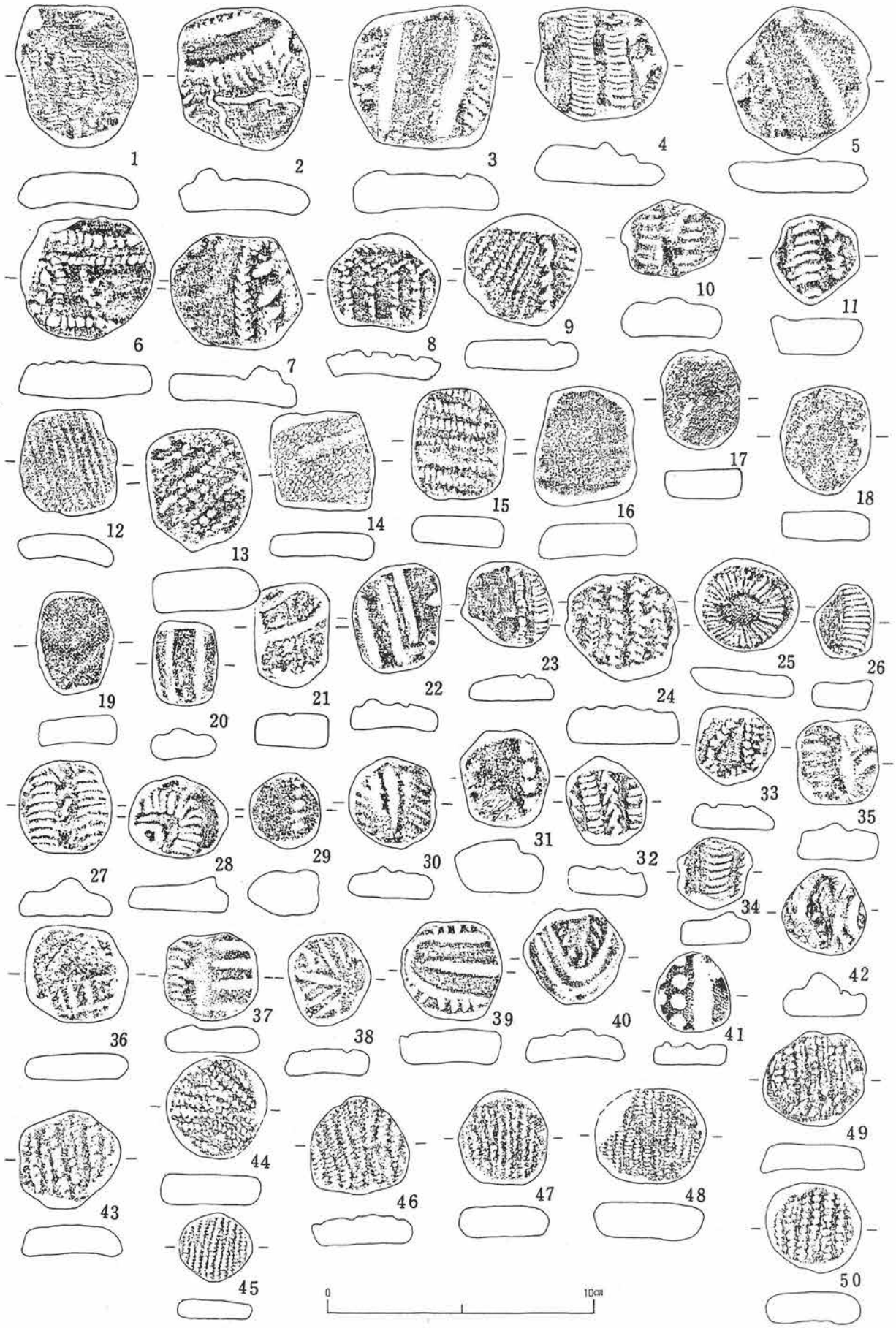
**土器片錘**（第169図1～6・図版78）

6点出土している。勝坂式・曾利式等の土器片を転用している。周囲を磨いて楕円形又はそれに近い方形に成形されている。1は長軸側の両端に切り込みが施されており、2～4は長軸側の両端を削り凹ませているが、3・4はごく僅かな凹みである。5・6は短軸側に凹みを有する。長径6.5cm前後が3点、5cm前後が3点と大きさの点で統一性が見られる。

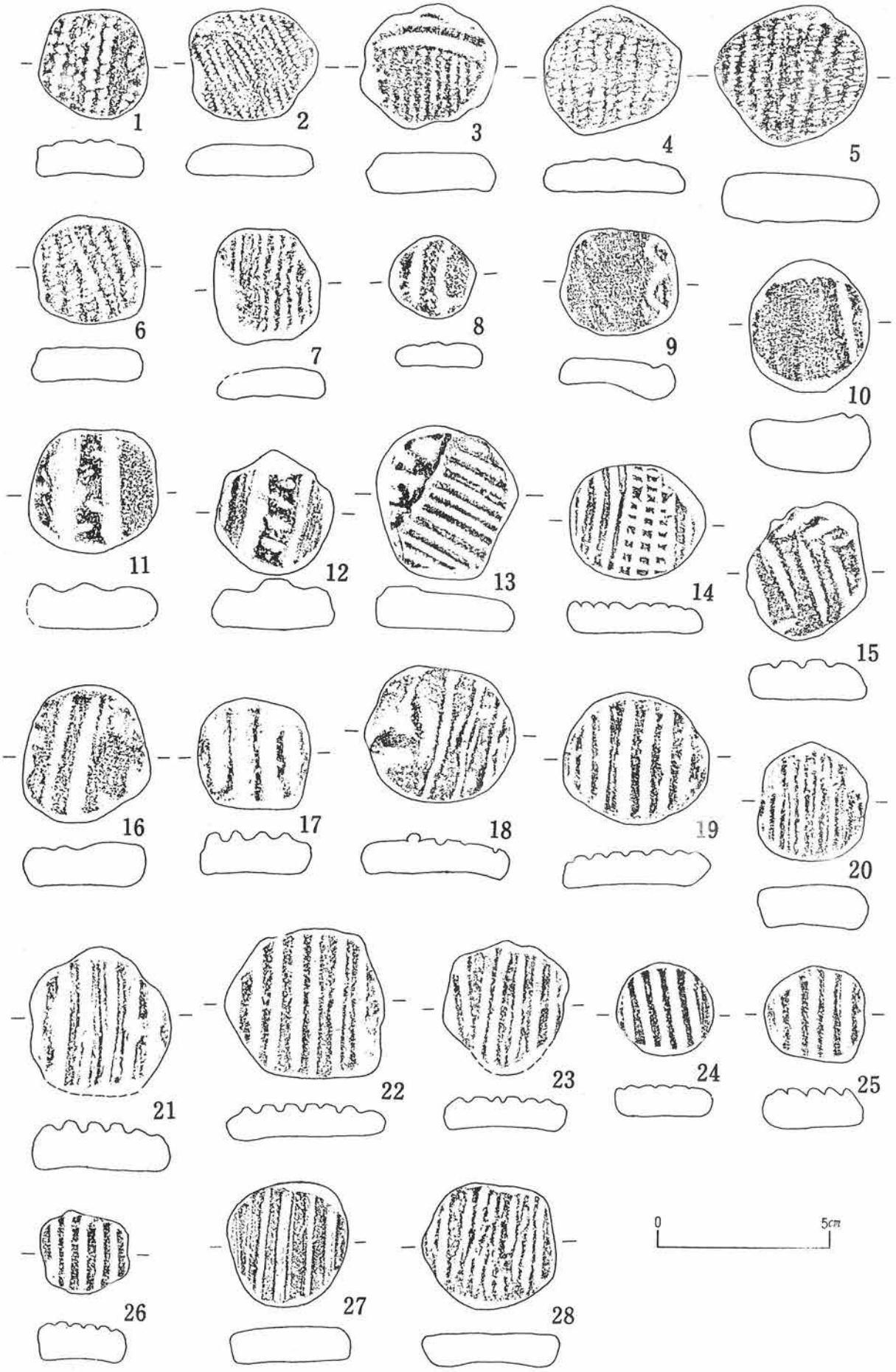
**土製円板**　（第169～172図・図版78～80）

172点出土しているが、このうち129点を図化した。土器片を利用して周囲を磨き整形しており、形状は楕円形又はそれに近い方形と、円形又は円形に近いものとがある。楕円形のものは大型のものが多く最大は7.2×7.0cm、最小は3.4×2.9cmである。土錘と同じ形状であり、僅かに凹むものもあるため、錘の可能性も考えられるが、凹みは加工されたものか否かは不明なため円板とした。円形は径3.5cm前後の中型が多く85点あり、続いて2.5cm前後の小型が37点、4cm以上の大型品は7点である。小型なほど周囲の研磨が入念にされている。無文土器の転用が多く62点、曾利式及びその他が47点、勝坂式が40点、縄文が23点である。

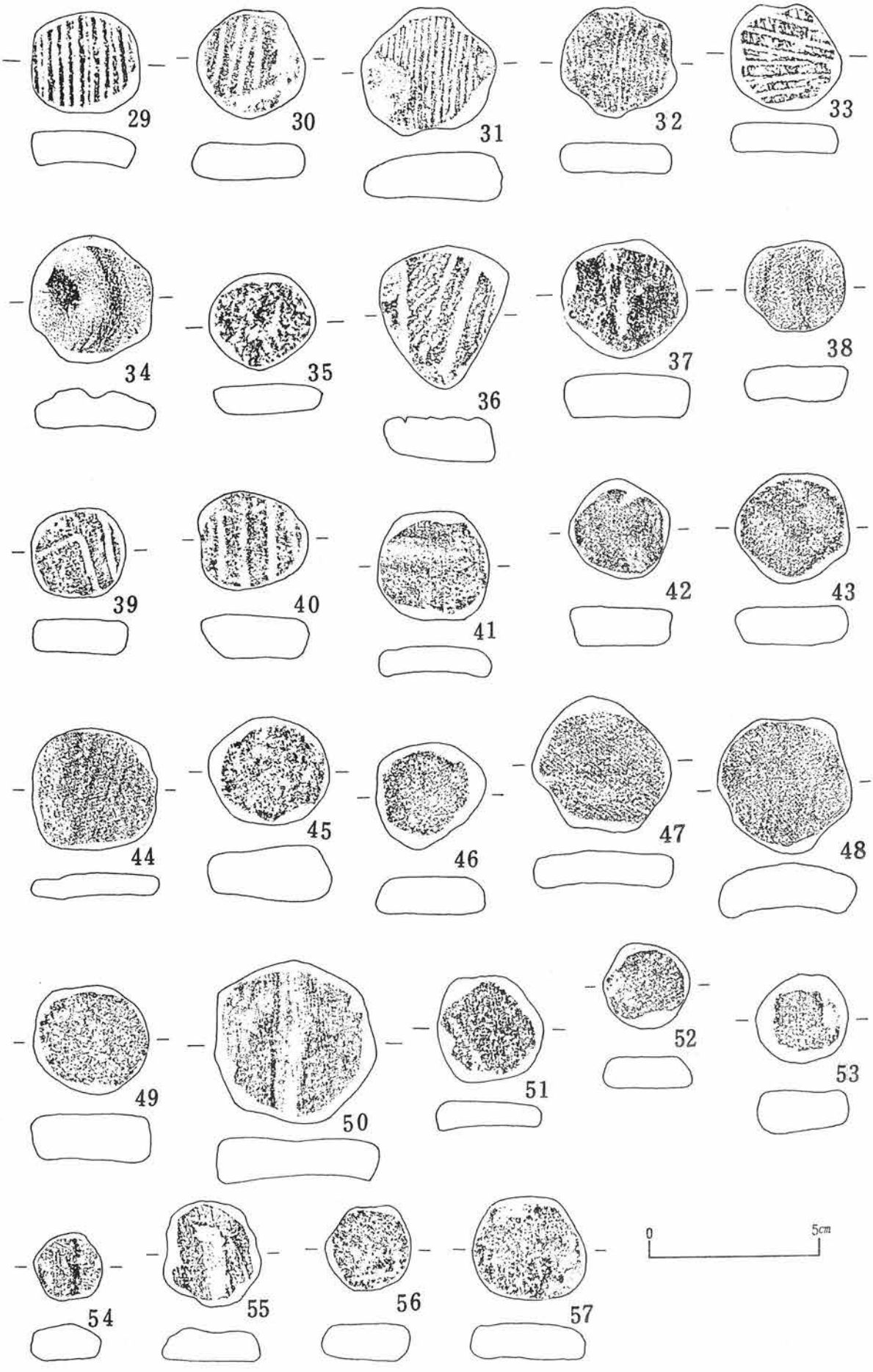
第169図　第Ⅱ次調査 出土土製品拓影（1）




第170図　第Ⅱ次調査 出土土製品拓影（２）



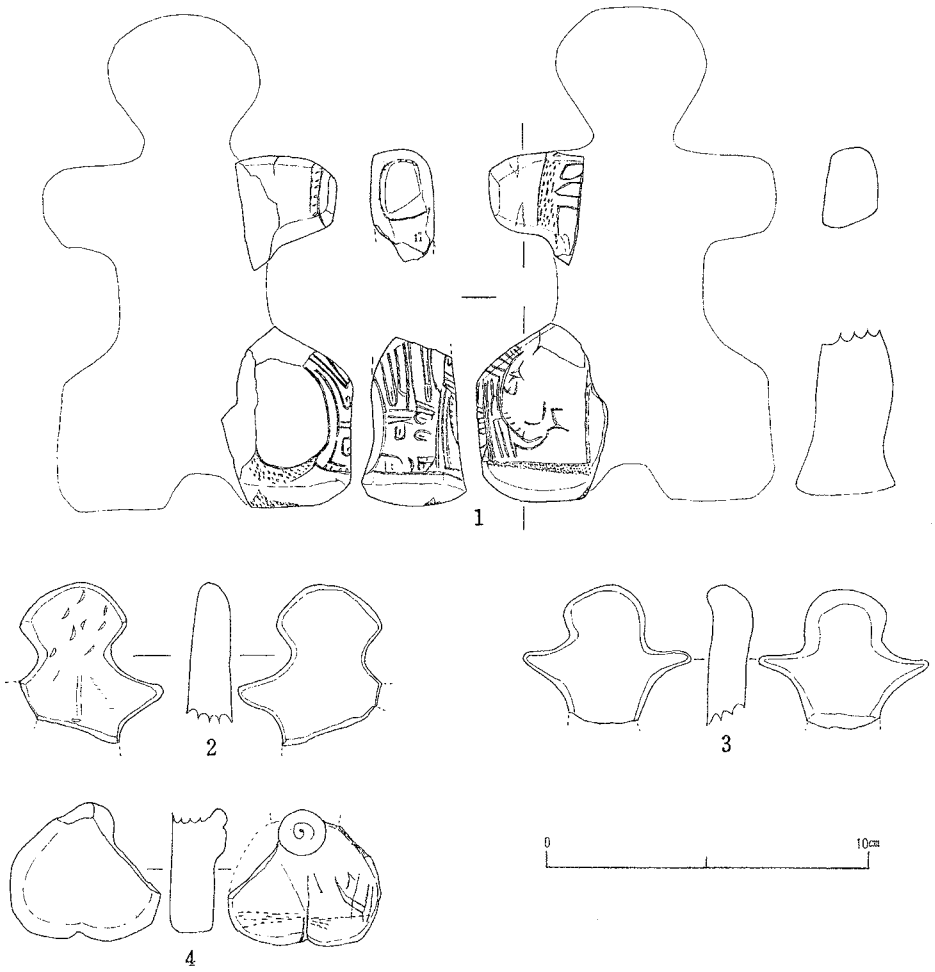

第171図　第II次調査 出土土製品拓影（３）



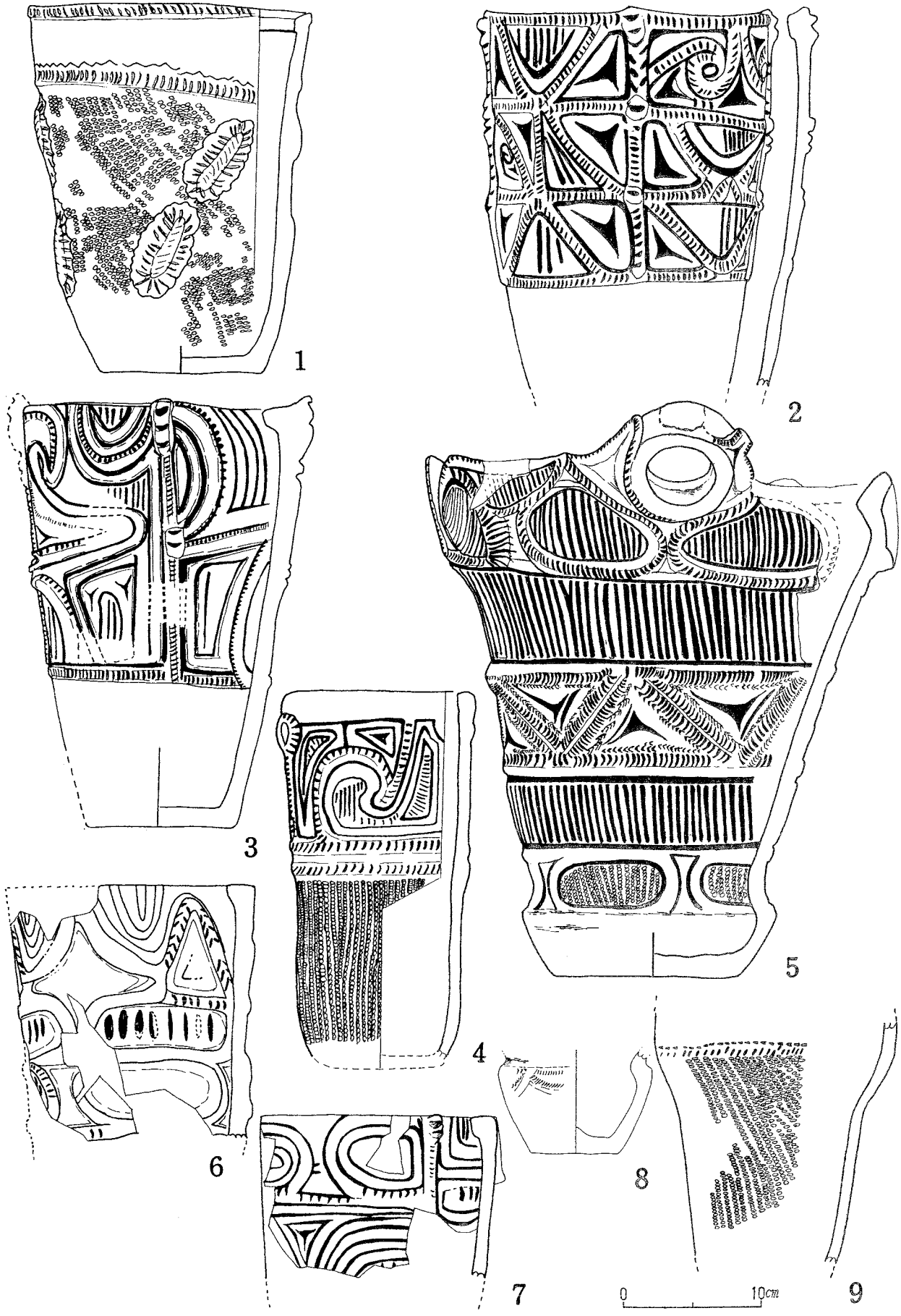

第172図　第II次調査 出土土製品拓影（４）

**土偶**（第173図1～4・図版81）

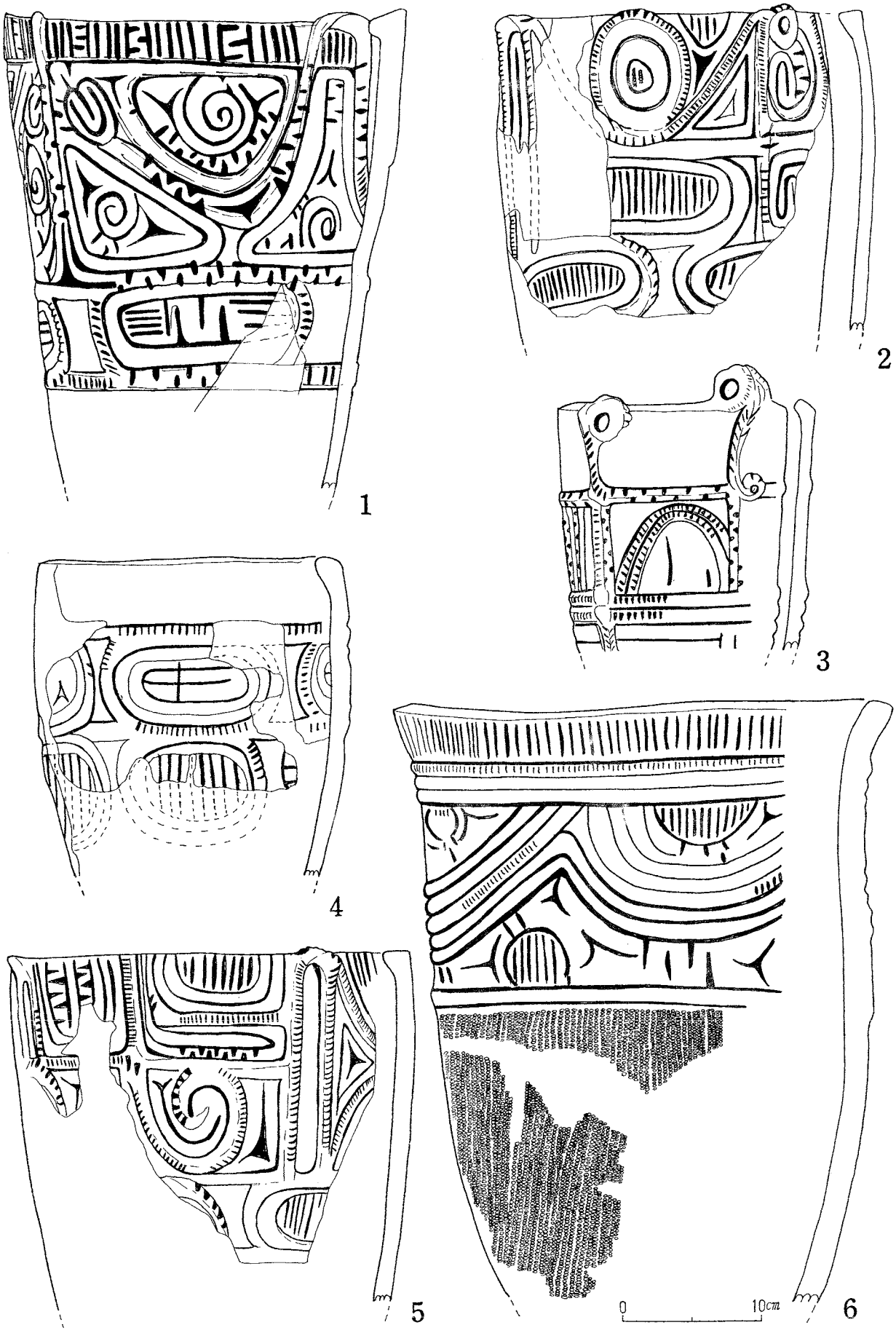
土偶片は、いずれも欠損品であるが6点（5個体分）出土している。1は、胴部と脚部片であり、全体の推定高は約14cmである。截割竹管によって沈線文と刺突文が描出されている。表面はわりあい簡略的に施文されているが、側面から裏面にかけてはかなり入念な文様が付けられている。また足底部の内側は、沈線の仕切の中に截割竹管によって刺突文が充填されている。色調は赤褐色を呈し、焼成は悪く脆い。胎土中に大量の白色砂粒が含まれている。2・3は、いわゆる板状土偶であり胴部下半を欠損している。2は、顔の部分に半截竹管によって斜めに刺突文が付けられている。また首の部分にも、竹管によって1条の浅い沈線が施されている。頭部は三角形に近く、首から肩にかけては「）（」状に縊れている。色調は黄褐色を呈し、焼成は極めて良く堅い。胎土中に砂粒を多く含んでいる。現存長は、縦4.9cm、横4.4cm、厚さ13mm前後である。3は、顔にまったくその表現がないもので、図のように顔の中央がややへこんでいる。また、これを成形する際の指頭痕が残されている。頭部は右側が少し高くいびつになっている。腕部はつまみ出しによって作られており、両手を水平に広げた状態である。色調は灰褐色を呈し、焼成は良く堅い。胎土中に多量の砂粒が含まれている。4は、その器形から土偶の一部（下半身）であろう。円形の粘土粒の上に截割竹管によって渦巻が描出されている。生殖器であろうか。これらはA・Bグリッドより出土している。



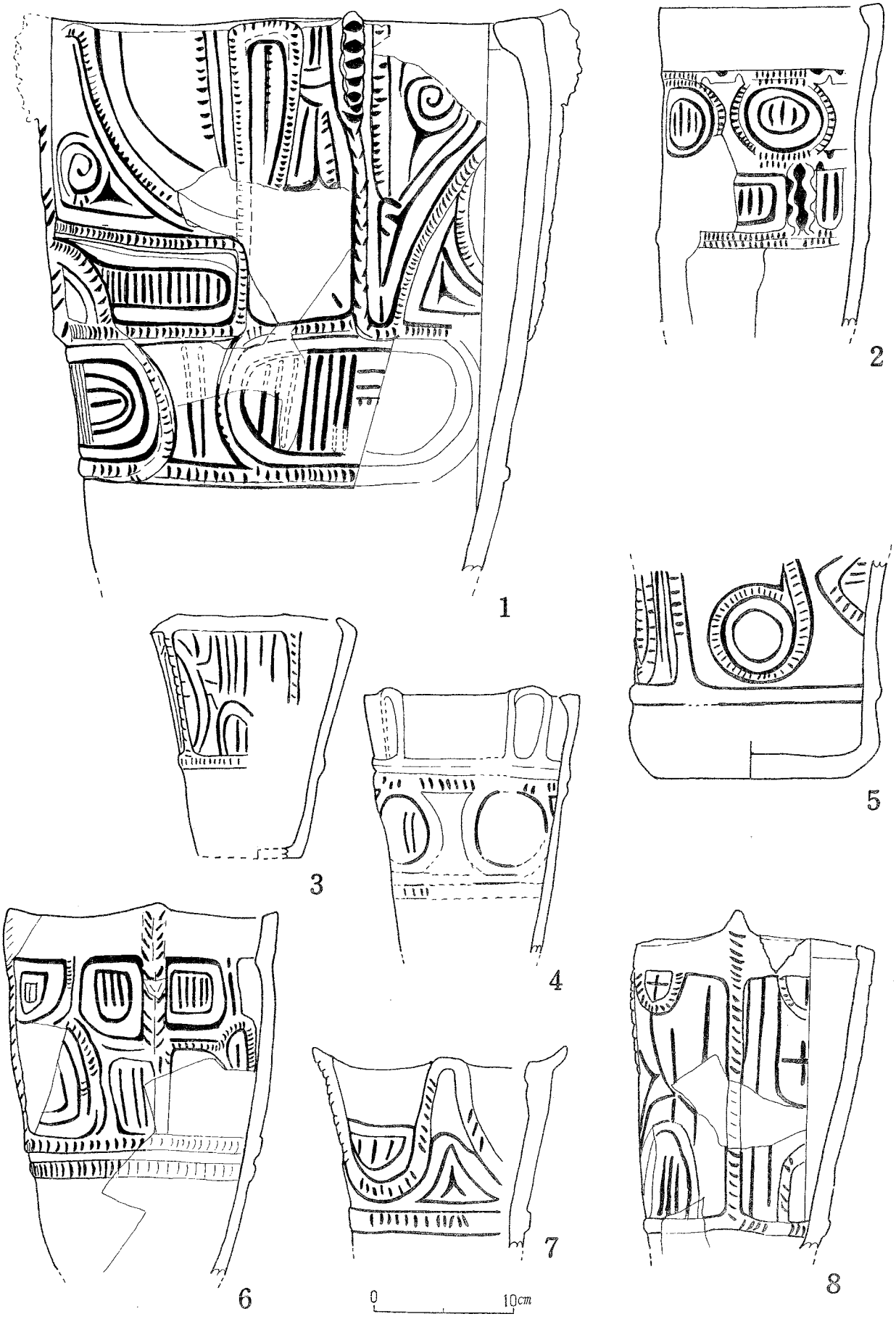

第173図　第II次調査 出土土偶実測図



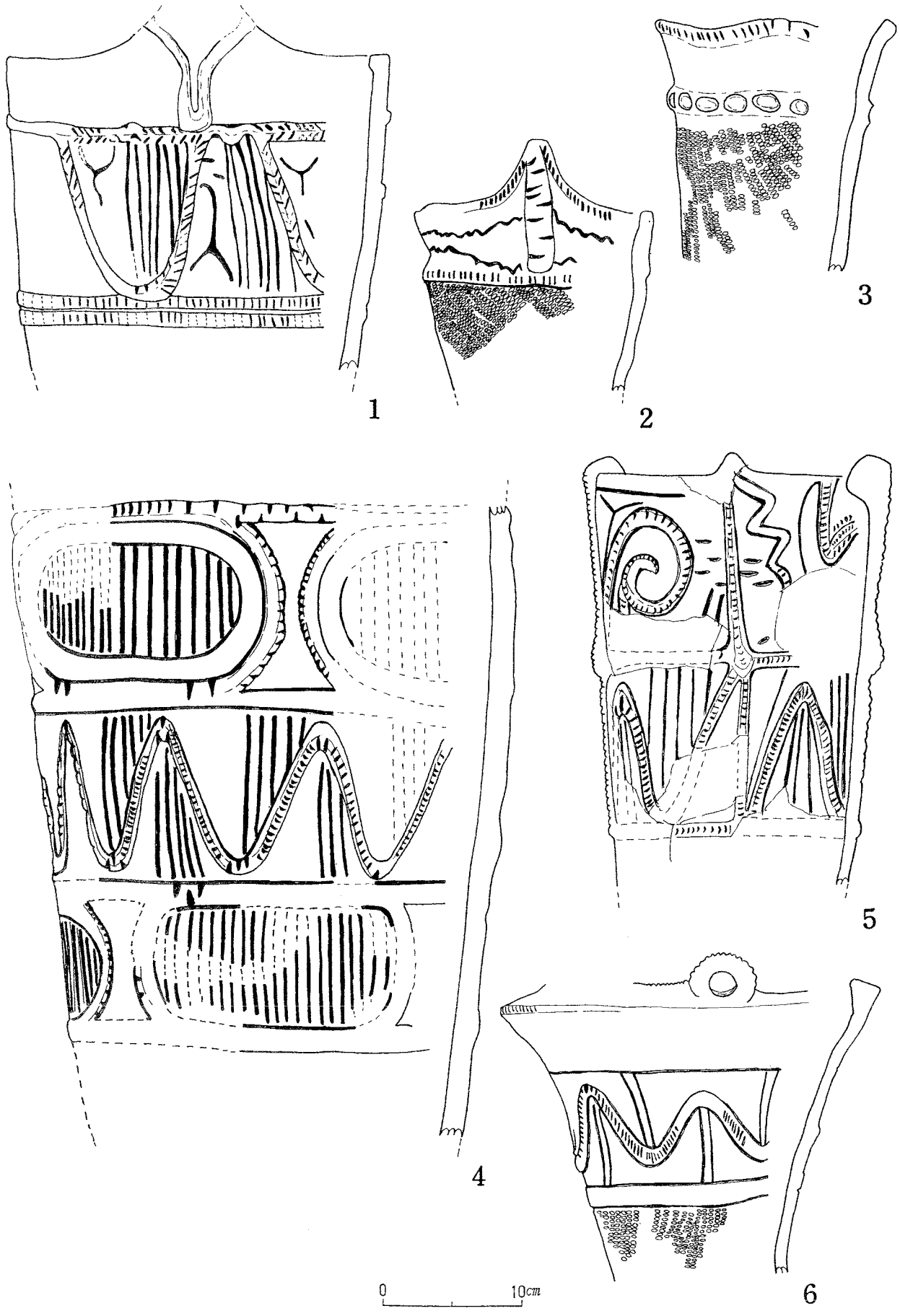

第174図　第Ⅱ次調査 出土土器実測図（1）



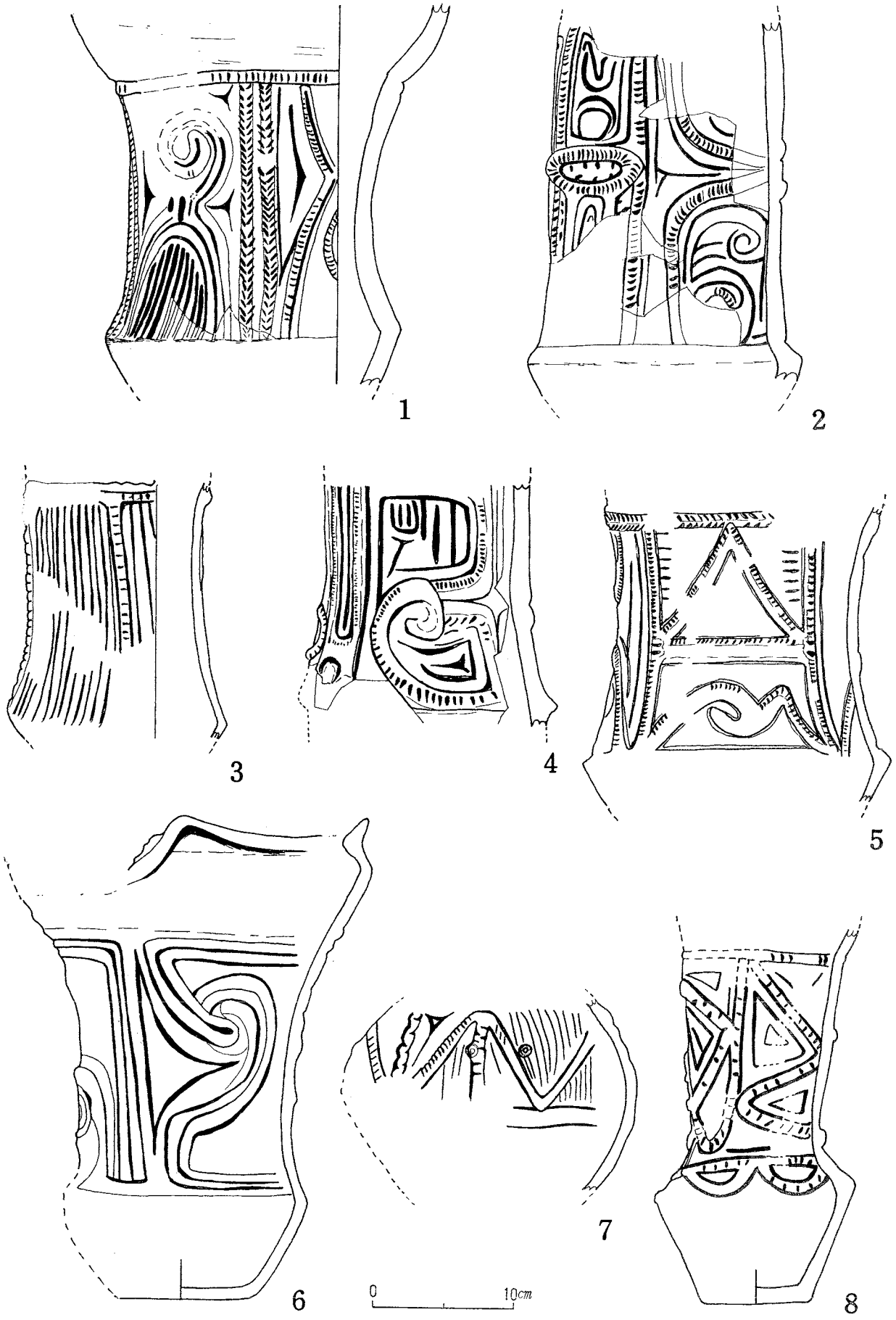

第175図　第Ⅱ次調査 出土土器実測図（２）



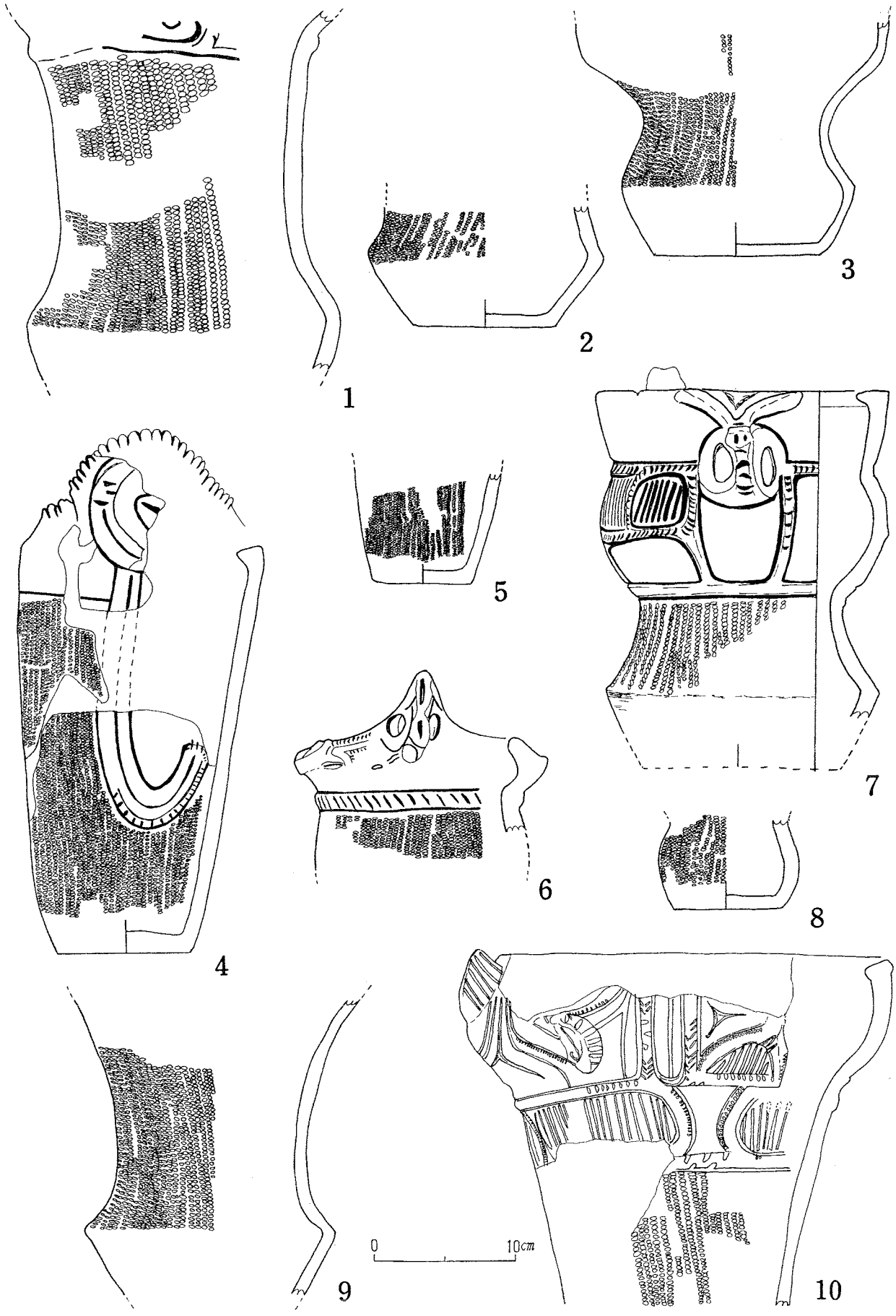

第176図　第II次調査 出土土器実測図（3）



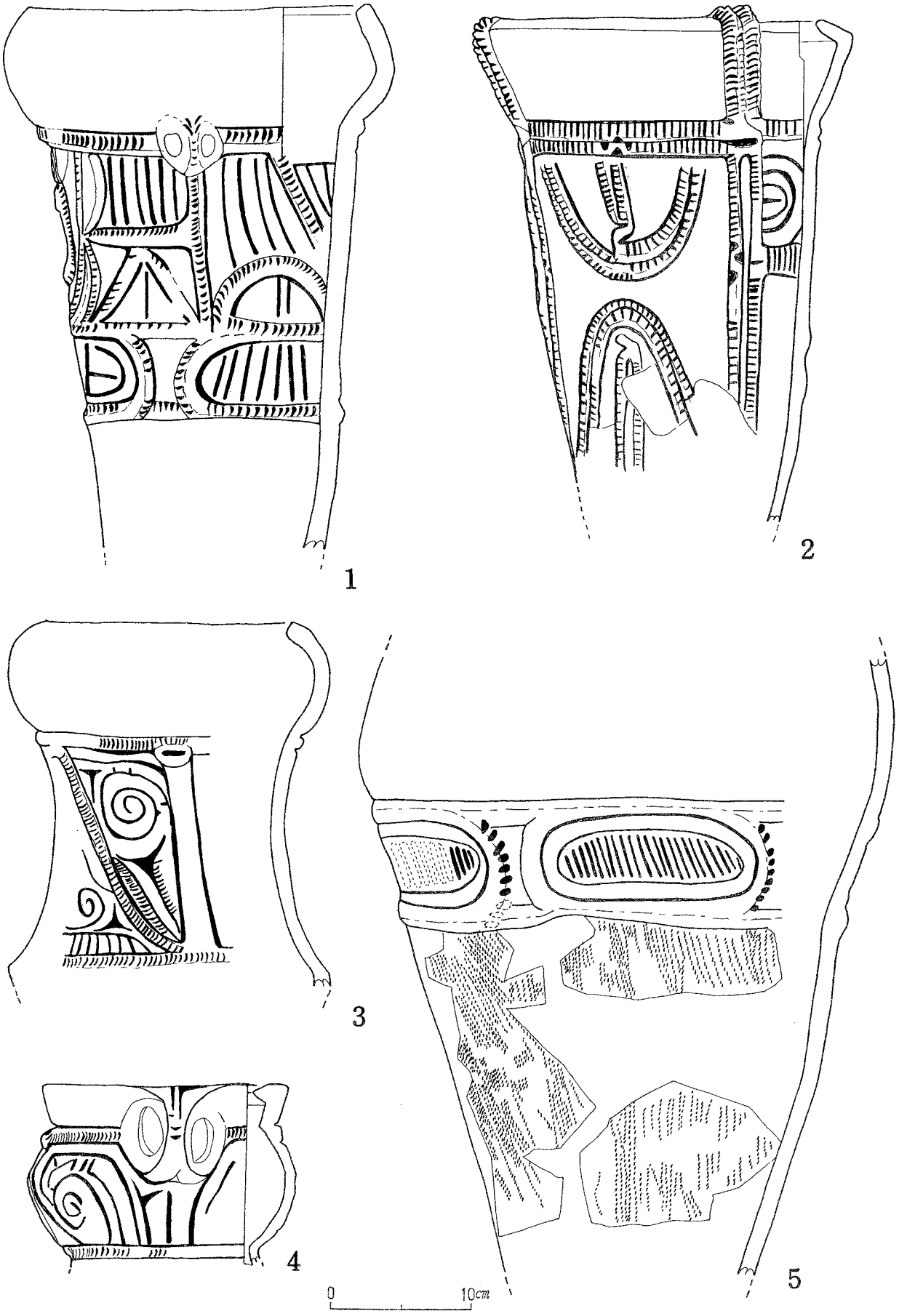

第177図　第II次調査 出土土器実測図（4）



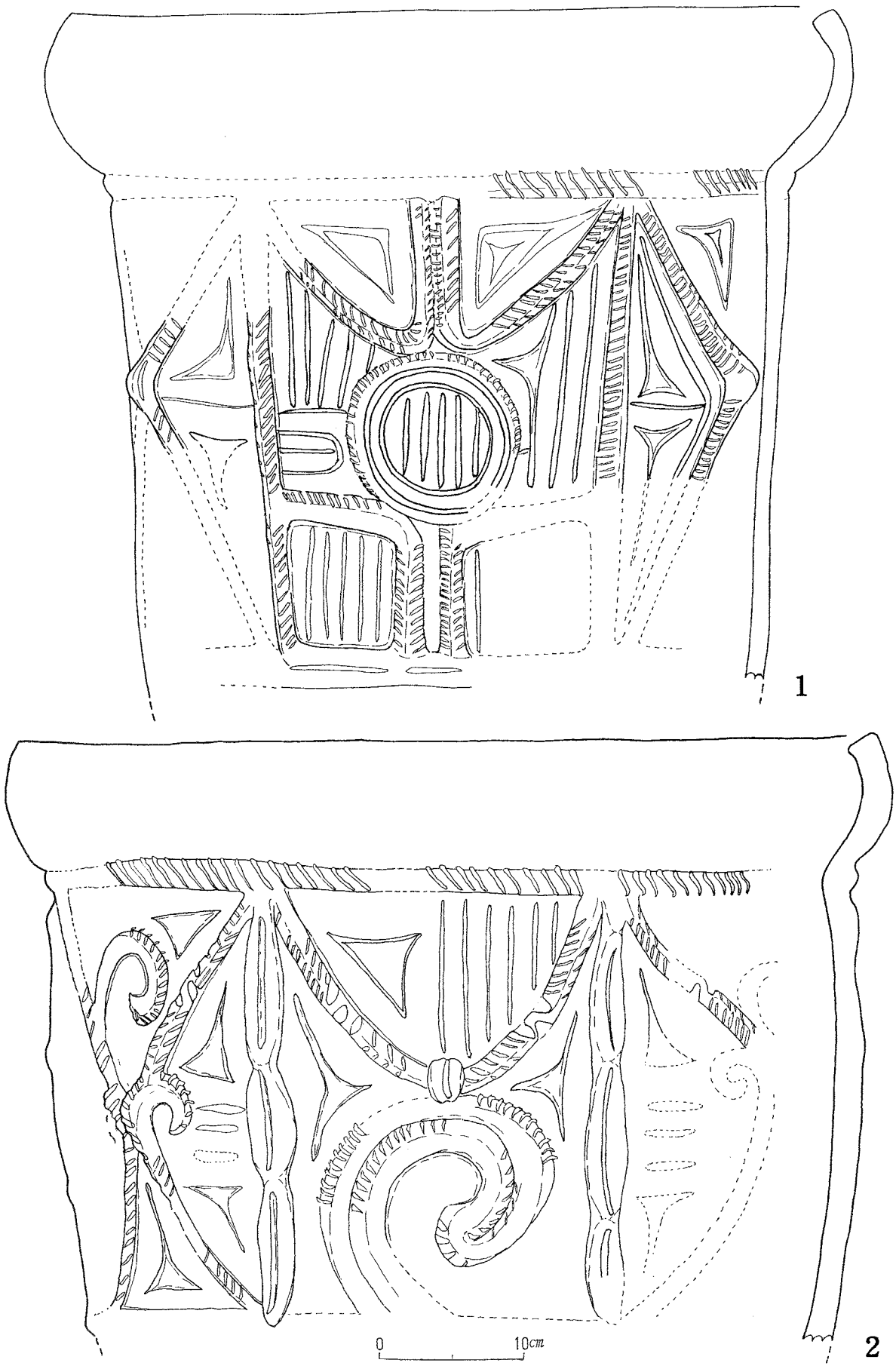

第178図　第Ⅱ次調査 出土土器実測図（５）



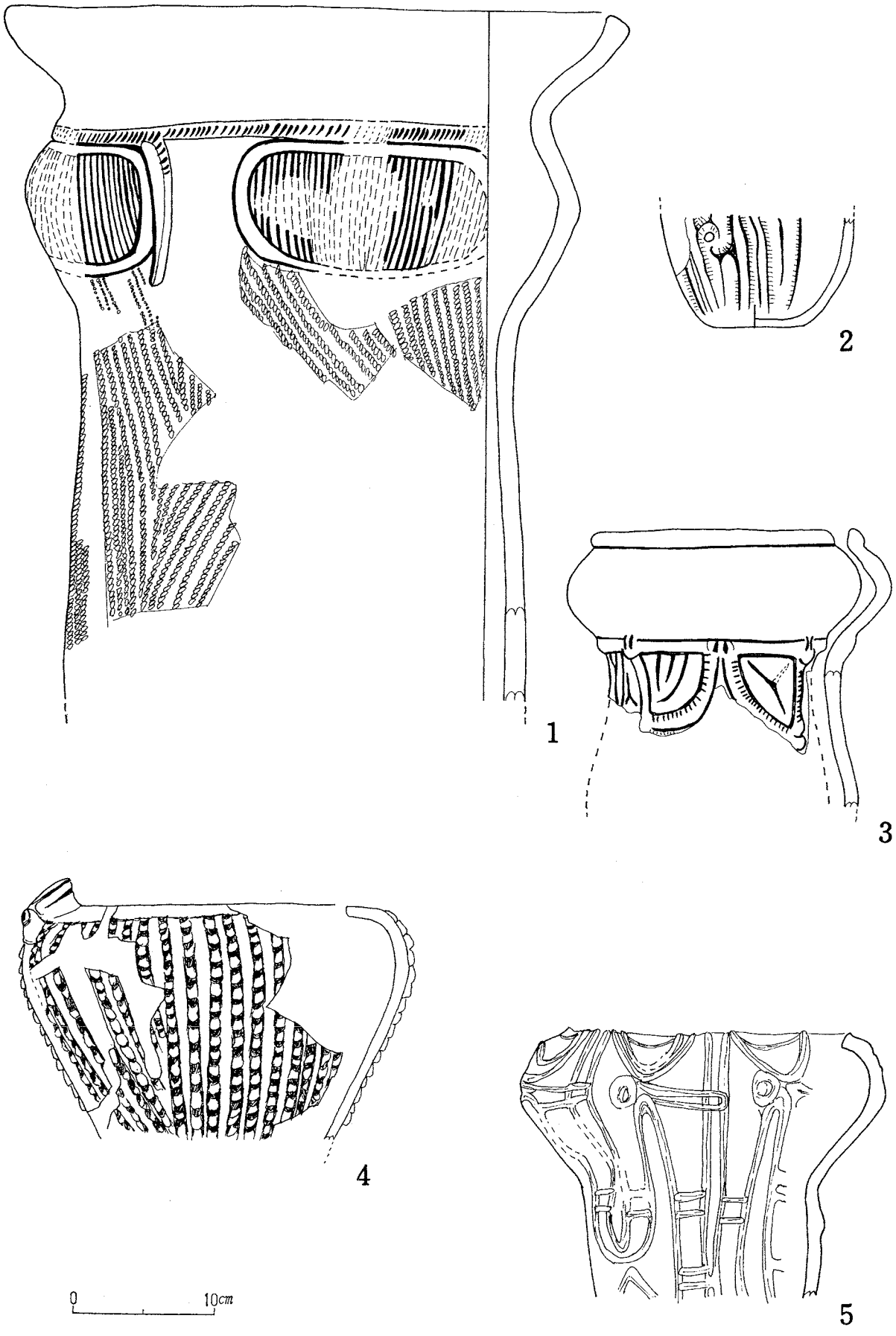

第179図　第Ⅱ次調査 出土土器実測図（６）



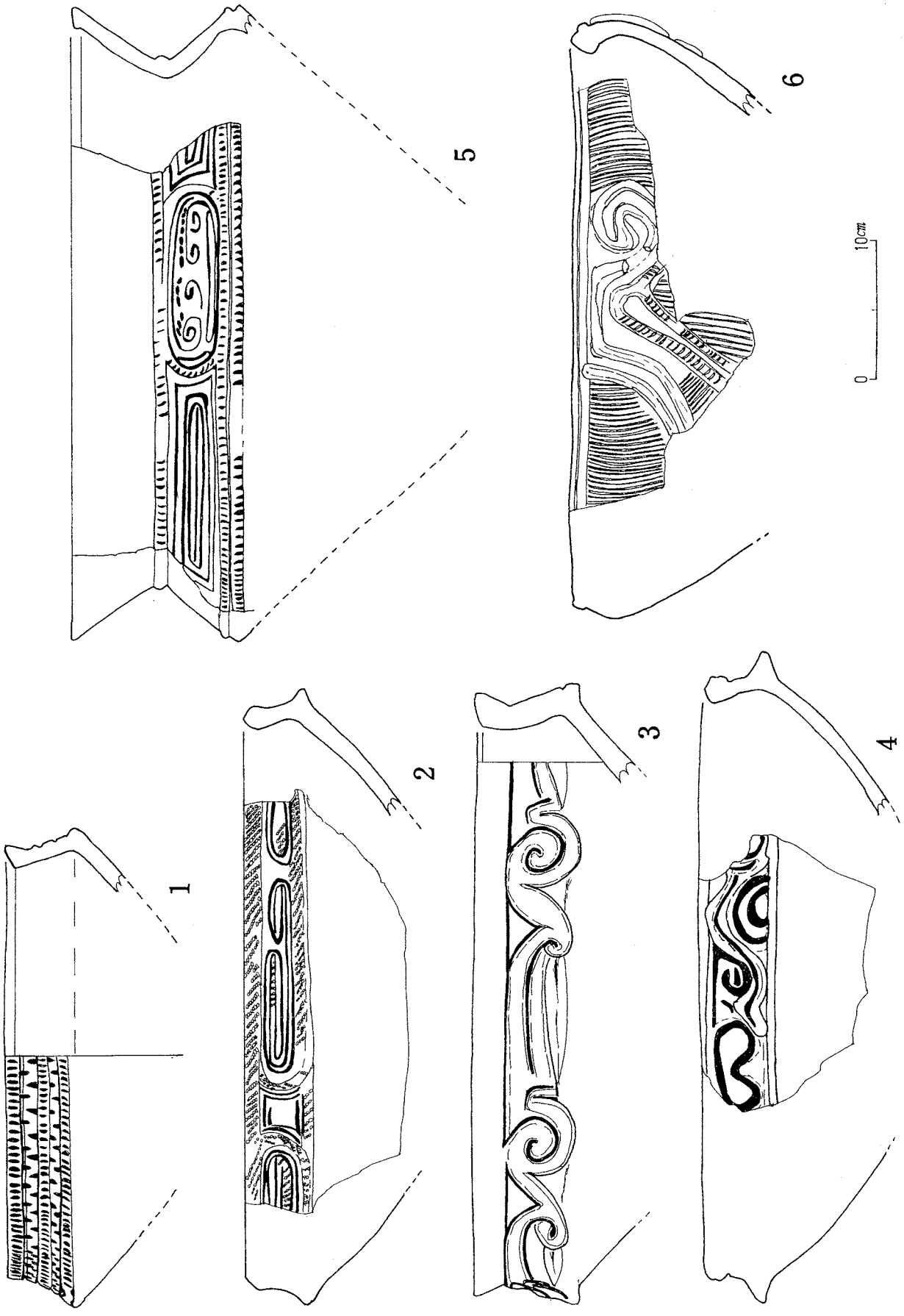

第180図　第II次調査 出土土器実測図（7）



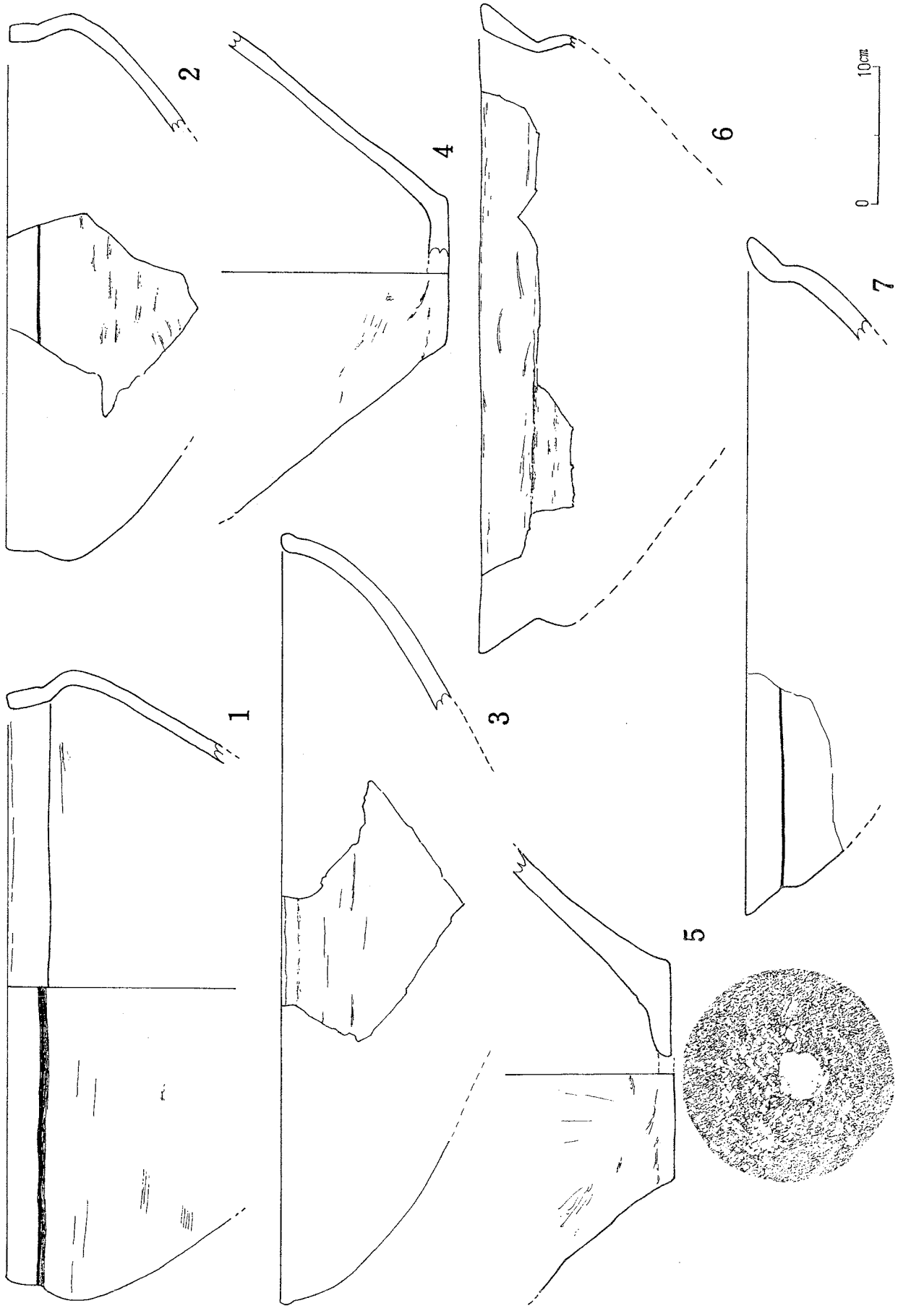

第181図　第Ⅱ次調査 出土土器実測図（８）



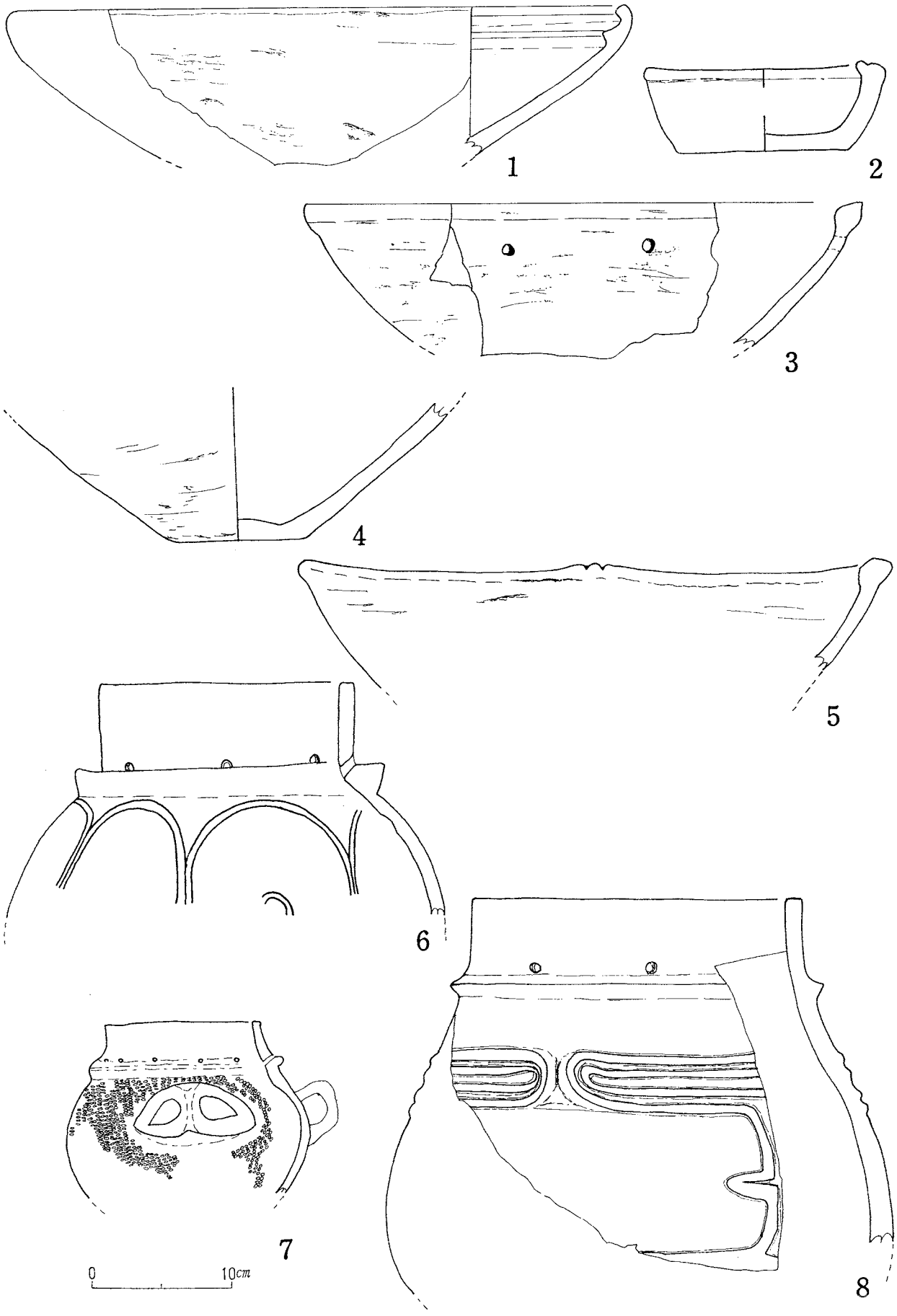

第182図　第Ⅱ次調査 出土土器実測図（９）



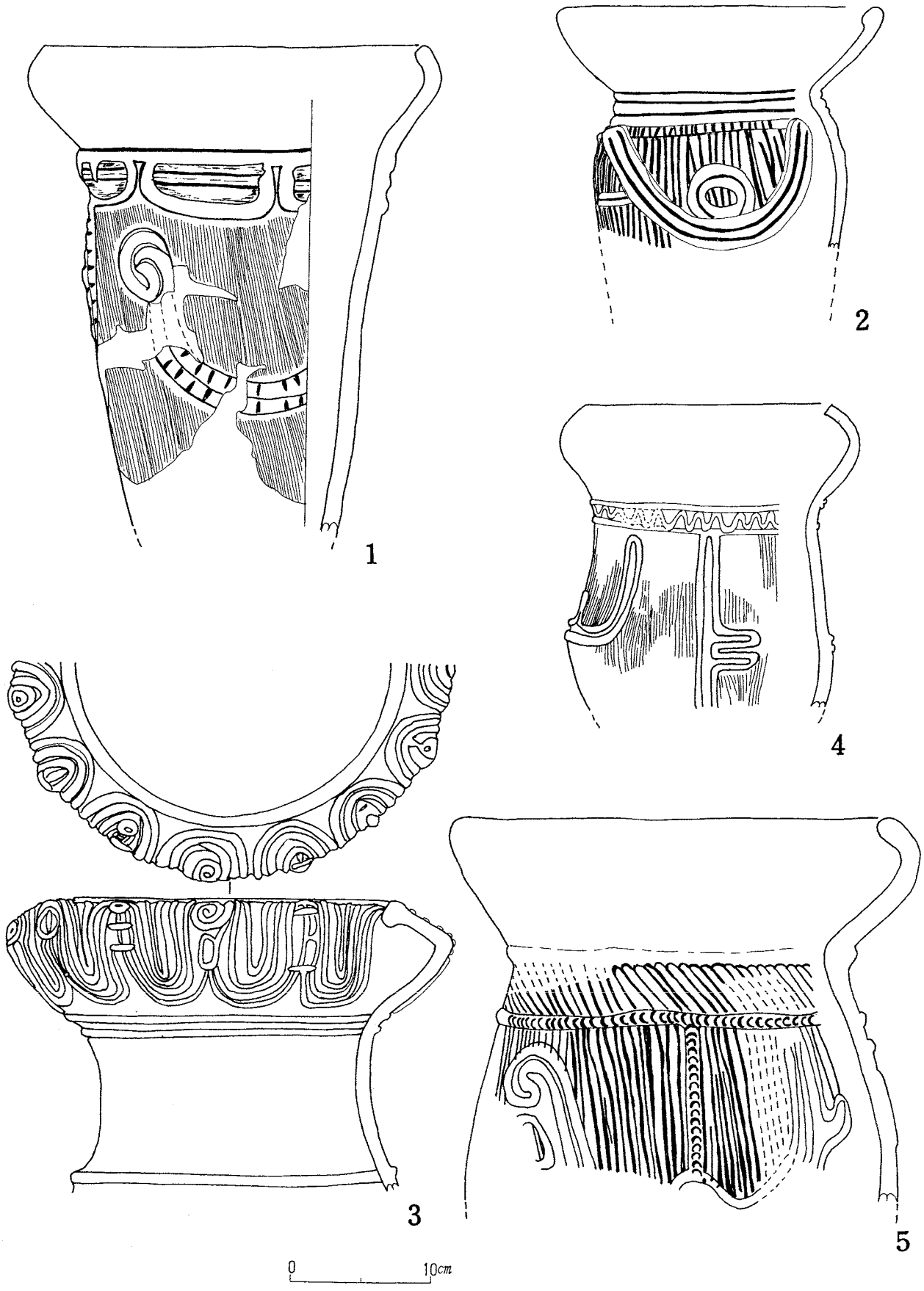

第183図　第Ⅱ次調査 出土土器実測図（10）



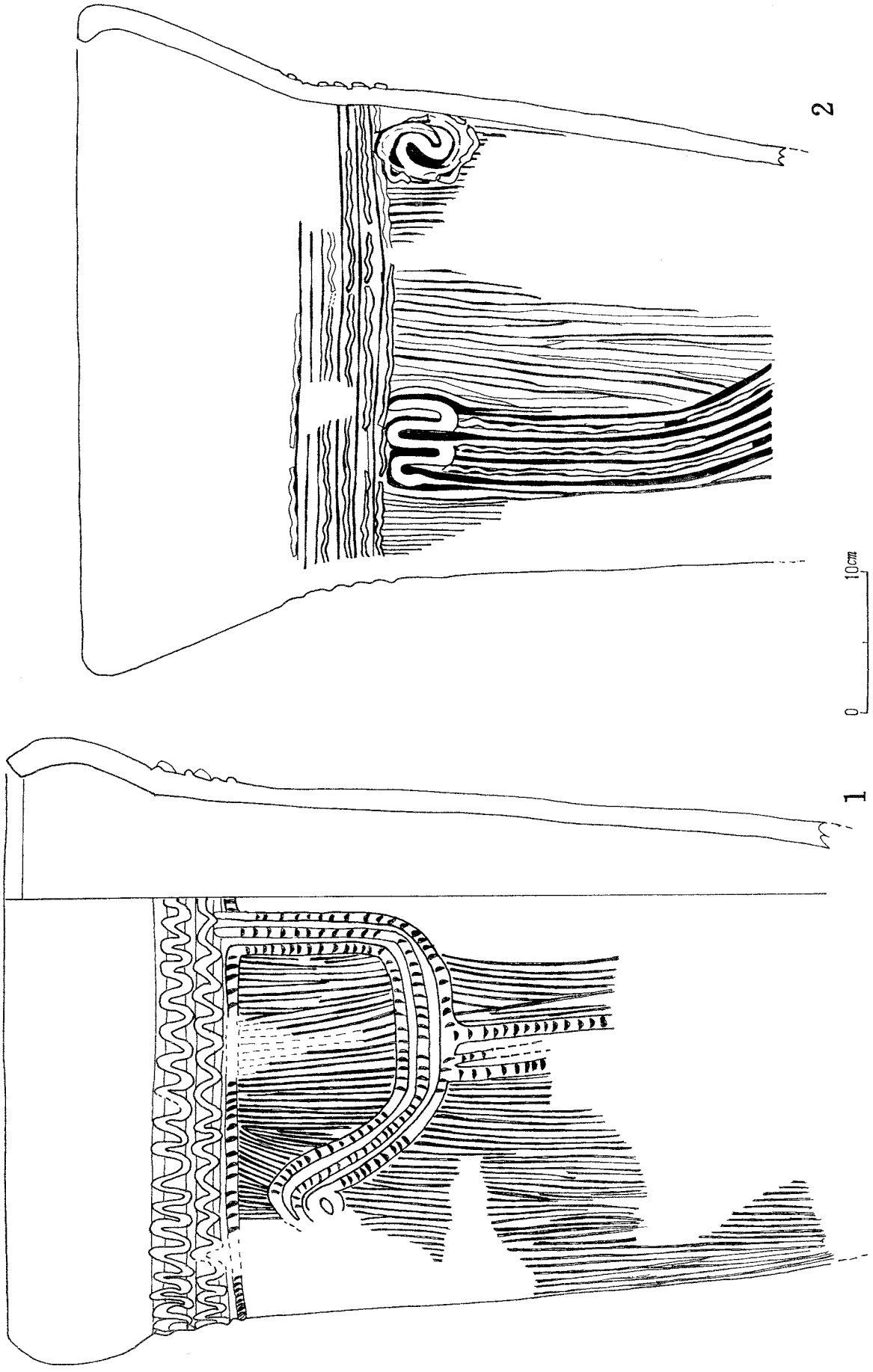

第184図　第II次調査 出土土器実測図（11）



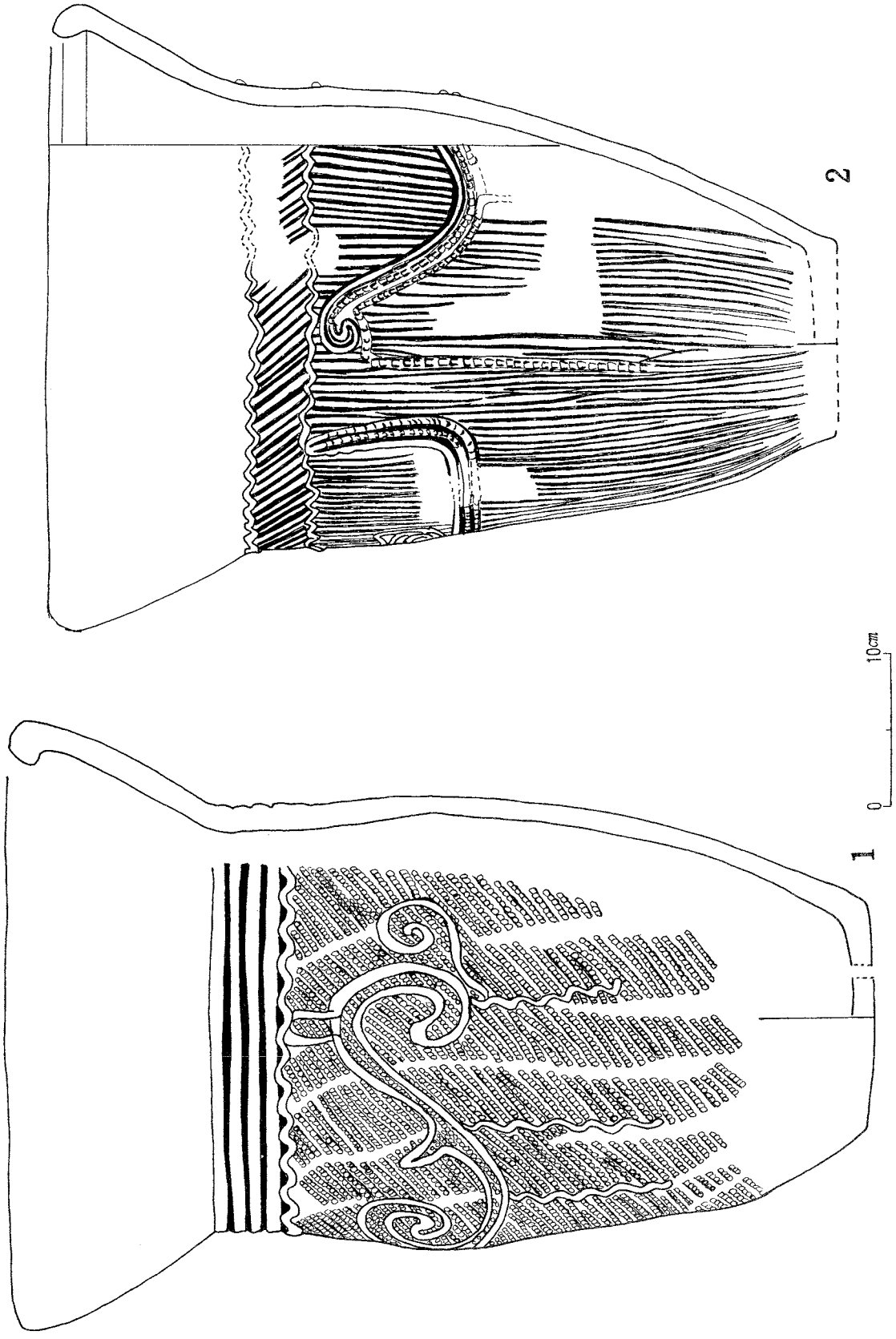

第185図　第II次調査 出土土器実測図（12）



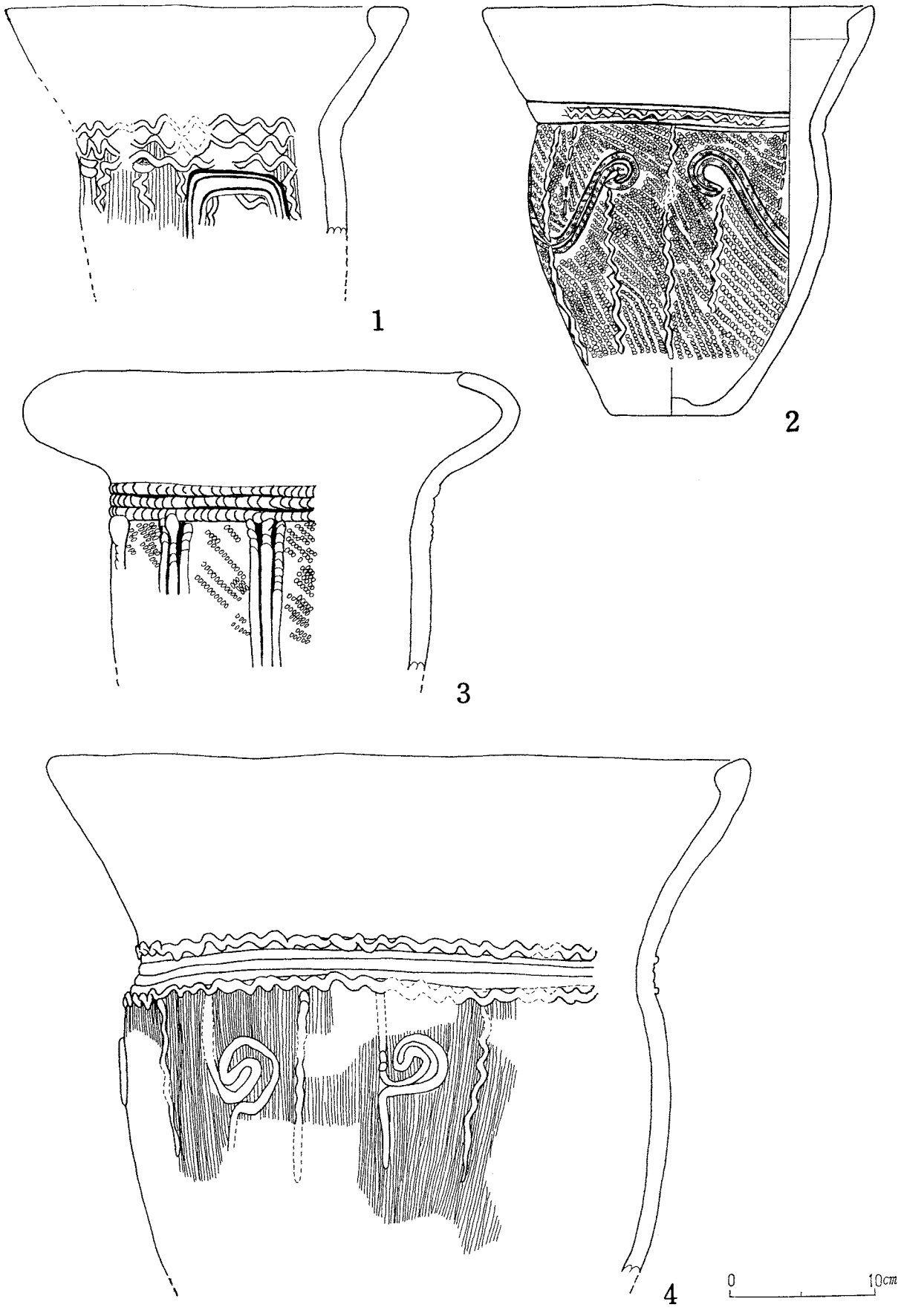

第186図　第Ⅱ次調査 出土土器実測図（13）



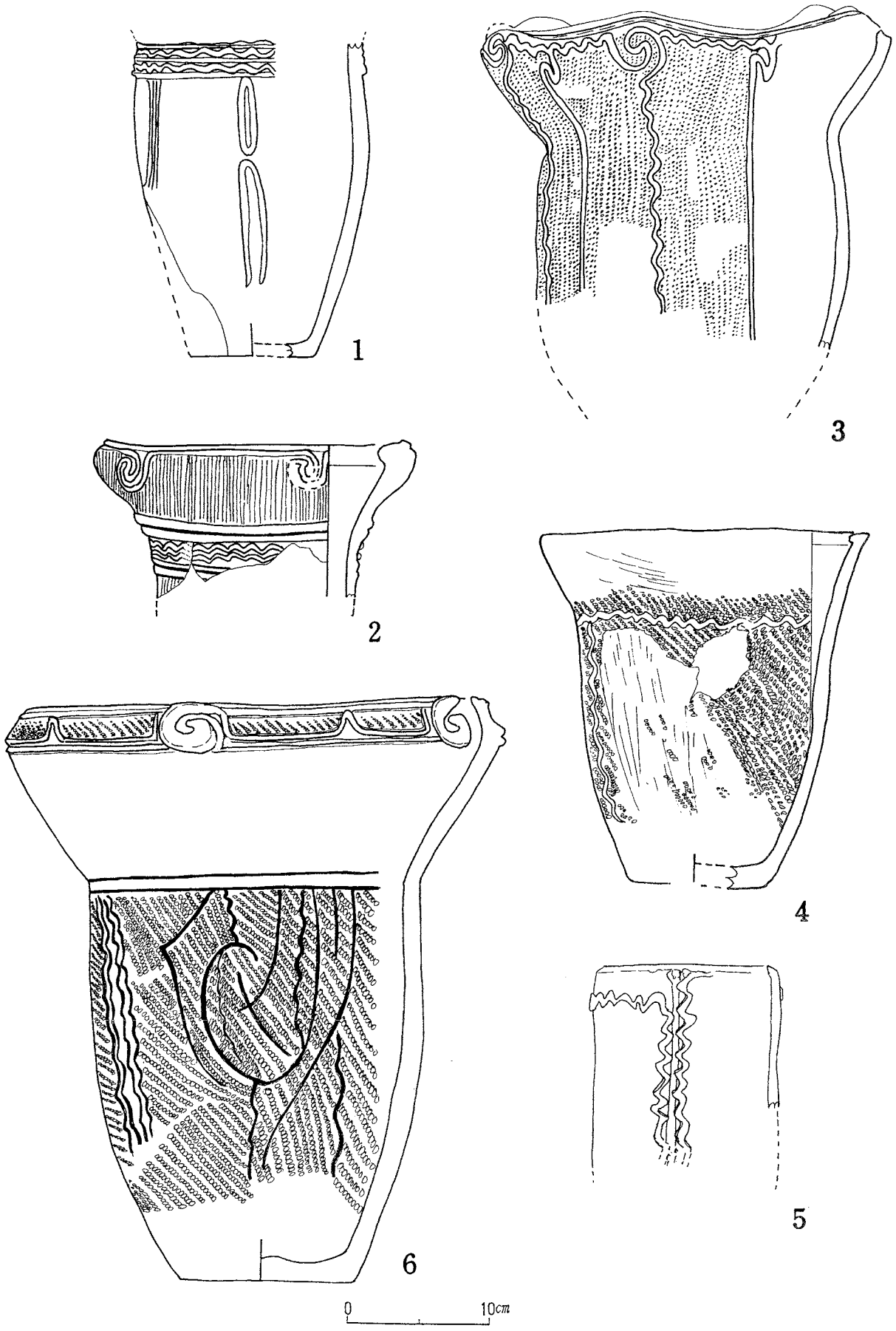

第187図　第Ⅱ次調査 出土土器実測図（14）



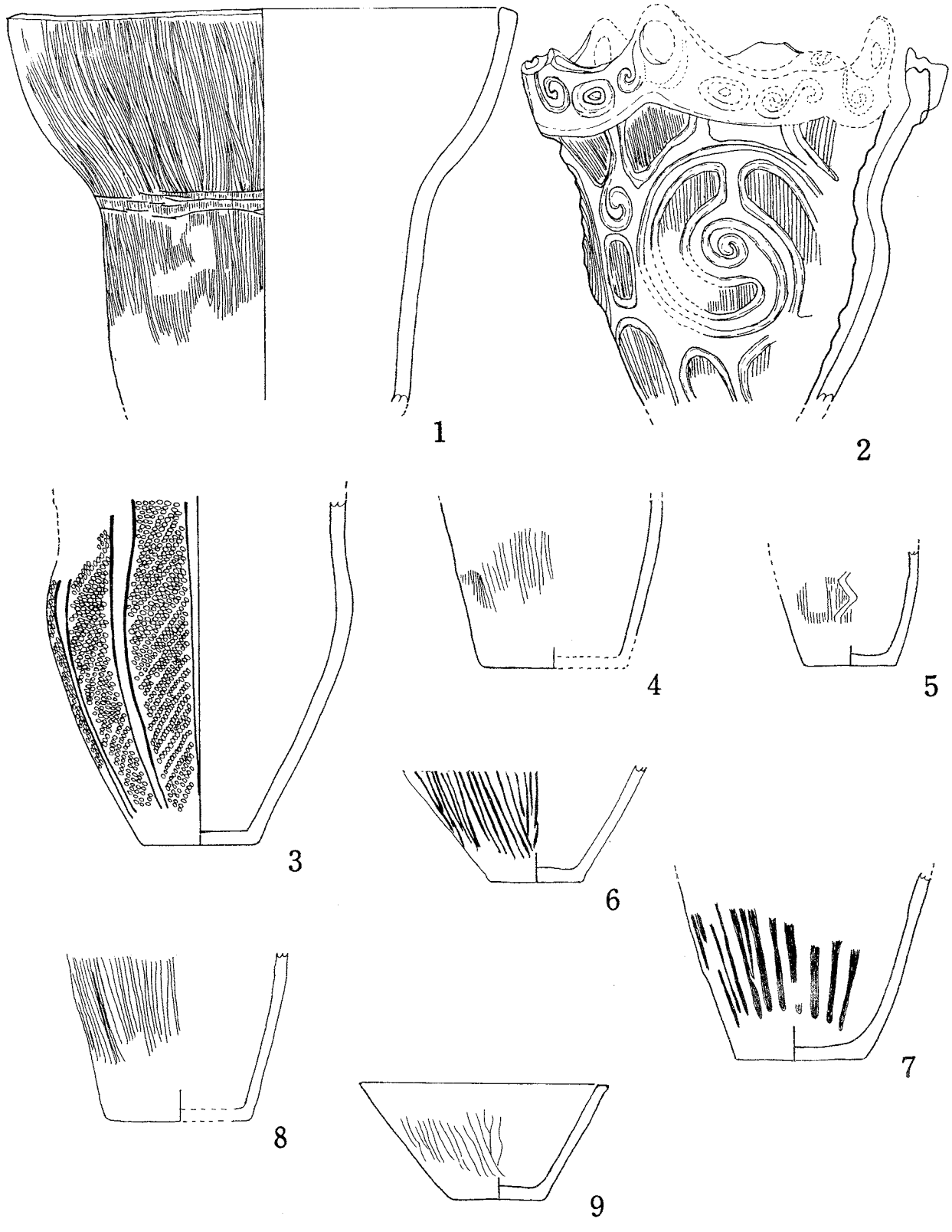

第188図　第Ⅱ次調査 出土土器実測図（15）




第189図　第Ⅱ次調査 出土土器実測図（16）




第190図　第Ⅱ次調査 出土土器実測図（17）




第191図　第Ⅱ次調査 出土土器実測図（18）

### イ、石器

本遺跡より出土した石器の多くは、伴出土器の型式から縄文時代中期、わけても勝坂式期に該当するものと思われる。器種も多様で、石鏃・礫器・石匙・打製石斧・磨製石斧・凹石・石皿・石棒・石錘・円板状石器・ピエスエスキーユ・その他各種石器及び剥離痕のある剥片等があり、遺跡の性格を探る上で極めて興味ある資料が多い。それら石器と共に出土した黒曜石の剥片は3,000点以上、重量約7.5kgを計る。

**石鏃**（第192～194図・図版61－1～79）

石鏃は100点近く出土しているが、残存している79点を図化した。実測した石鏃は先端部や脚部の欠損した物、及び未製品と思われる物が含まれており完形品は35点であった。石材は、11・12・13・50・56が頁岩、32がチャート、他はすべて黒曜石である。形態は凹基無茎鏃と思われるもの1～10、両縁部が丁寧なつくりで鋸歯状をなし先端部が鋭く尖っているもの30～37、ハート形をした内脚鏃の完形品のすべてが無茎鏃であった。又76～79は、周囲に調整が行われ、中高な形状を呈し、石鏃未製品というより円形掻器としても考えられる。

**礫器**（第195図・図版62－80～87）

8点出土している。80・81共に重量感のある礫塊を素材としており平面形はおよそ三角形をなす。その底辺の一辺に両面より調整を加え弧状の刃部としている。又81は、刃部に隣接する一側縁にも調整が行われている。82は、礫器というより石核と呼ぶべきかも知れないが、底部平面形の短縁部に調整の痕跡が見られるので本類とした。83は、81と同様の形状を呈するがはるかに小形となる。この三角形状の一辺に調整が行われ礫器というよりむしろ掻器的な用途が考えられる。84・85は、円礫の一辺を打ち欠いて刃部としており片刃状を呈する。86は、表面に礫面を裏面に主要剥離面を大きく残す。刃部は使用の際破損したと思われるが、基部及びその周辺には刃潰しのため調整が加えられている。87は、長円形の礫の一端を大きく打ち欠き刃部としている。又、厚みのあるもう一端は敲石としての用途も考えられる。

**石匙**（第196～197図・図版62･63－88～115）

32点出土している。従来通り、縦形・横形に分類した。石材は頁岩が多数を占め、中でも灰色頁岩の使用頻度が高い。

Ⅰ類（88～91・94・95）

6点出土している。これらのほとんどは、剥片の表面からの片面加工により刃部を作り出している。94は不整ながら台形状を呈し使用部位は横形のものと同様先端部となる。95においてもⅠ類・Ⅱ類の中間形態を持つ。

Ⅱ類（92・93・96～115）

22点である。92・96・99～103・107・108・111～115は、片面からの加工により角度のある刃部を作り出している。104・106は、両面加工がなされ両刃状を呈する。105・109・112は、素材の剥離面をそのまま角度をつけて刃部とし、さらに112は、片面より加工を行い片刃としている。基部には礫を打ち欠いたままの平面を残すものが多い。97・98・110は、小形であり黒曜

石製である。

**打製石斧**（第198～203図　図版64～66－116～201・458～460）

総数にして457点出土している。その内、完形品は233点である。この数量は当地方における一遺跡からの出土数としては特筆すべき量である。図化したのは86点である。石材は311点を鑑定した結果黒色頁岩が50％以上を占め、他の頁岩、砂岩類と合わせると90％近くになる。他は安山岩類である。

分類は最大巾を刃部に持ち、頭部に向かって細くなる撥形をⅠ類、胴部中央に抉りを持ち上下両端を刃部とする分銅形をⅡ類、刃部・胴部・頭部がほぼ同じ巾をもつ短冊形をⅢ類とした。しかしこの形態分類には所属しえないバラエティーに富んだ石器や半截品も多く、それらは短冊形としその範囲内で観察を行った。又その中でも小形で篦状を呈するものを別に取り上げⅣ類とした。

Ⅰ類（第198図）

撥形、もしくはそれに近い形態を有するものを本類とした。38点出土しているが15点を図化した。118を除いて他は角度の差はあるが片刃状をなし、直刃に近い形となる。又片面に自然面を残すものとして116～118・120～122・126～130がある。117・119・123・124は、石斧の側縁及び基部に素材を切り取った際の平坦面を残しており、124を除いて裏面に大きく主要剥離面が存在する。123は、刃部の細かい調整、形状から石斧というより手で握り込んで使用する掻器状の道具が考えられる。従来、撥形の用途としては木工具等が考えられてきたが、計測上からかなりの差があり、同一の使用目的をもった物として補える事は出来ないであろう。

Ⅱ類（第199図131・132）

分胴形及び分胴形類似のものを本類とした。多量に出土している石斧の中にあって僅かに3本と少ない。131は、刃部の一部が欠損しており、残存する刃部は表面に大きく残る自然面を利用し片刃状の直刃となる。抉りは均一でなく片側縁が浅く大きな抉りを見る。132においても中央部抉りの部分から欠損している。表面には平坦な自然面を持ち、刃部は裏面より加工が行われ片刃状の円刃となる。

Ⅲ類（第199～201図、133～180）

短冊形及び中間形態のものを本類とした。出土数は389点と他の形態に比較し圧倒的に多い。このうち48点を図化した。133～139は、素材の両面に調整を加え仕上げている。133・134は、基部を尖らすよう加工されており133の刃部は円味の強い円刃となる。135は、器面全体に加工が行き届き側縁部、基部にも細かい調整が見られる。片刃状の直刃となるが加工は片側縁部に集中する。140は、比較的大形で内彎し刃部は偏刃となる。141～160までは、片面に大小の差はあるが、自然面をもつ物である。154・160は、直刃となり、前者は弱く後者は強い片刃状を呈する。又141・158は、偏刃となる。自然面が刃部の一面を形成するものの多くは、刃角、厚味等より両面調整のそれと同様な両刃となり、かつ円刃となる物が多い。159は、片面が全面にわたって礫面となり基部を極端に尖らせてある。中央部、刃部ともに厚味があり重量感があ

る。又中央より刃部の両側縁には浅い抉りが見られる。161～166は、側縁に素材を打ち欠いたままの平坦面が存在し、刃部は両面より調整された円刃となる。これらは横長の剥片を使用する例が多く、偏平で薄手なものが素材となる。Ⅰ類とした撥形の中にも同様の技法を持つ物が見られる。極めて薄手の石斧であり土掘具とは考えにくい。170～180は、細身の石斧（?）である。形状は短身で巾が狭く特に上下両端の巾が狭くポイント状を呈する。両面及び上下端部には加工が見られるが、この様な形状は従来の石斧には見られないものであり、はたして石斧と同様な使用目的であったか疑問である。

Ⅳ類（第202・203図、181～201、458～460）

小形で石篦状のものを本類とした。。25点の内24点を図化した。ここでは石斧として扱ったが、着柄し、土掘具としての用途を想定するのは困難である。181～193は、最大巾が刃部にある撥形を呈する。刃部の形状は181～187が片刃状を、188～193は両刃となる。又円刃のものが3点、他は直刃である。194～200は、小円礫の一部を素材とし片面に自然面を残すものである。全体に楕円形を呈し自然面の円味をそのままに若干裏面に内彎する形となる。刃部は円刃に近いものが多く、撥形の形状とは様相を異にする。460は、本類の中では材質、刃部の作り出し等特異な物である。特に刃部は側縁にあり削器的な用途が考えられる。

本遺跡の400点を超える石斧も、いわゆる石斧としての役割のみならず、他への転用が当然考えられるだろうし、又計測上の差からもそれぞれ異なる用途が想像される。

**磨製石斧**（第204・205図、202～209・図版66･67－202～229）

45点の出土中完形品は1点のみで、他は全て欠損品であり小片も多く含まれている。欠損のため形状が判別できないものもあるが、乳棒状石斧と思われるものが19点ある。斧頭は、円錐状を呈し、その断面は円形に近く、刃部を欠損しているものが7点、円錐形の頭部のみが6点である。

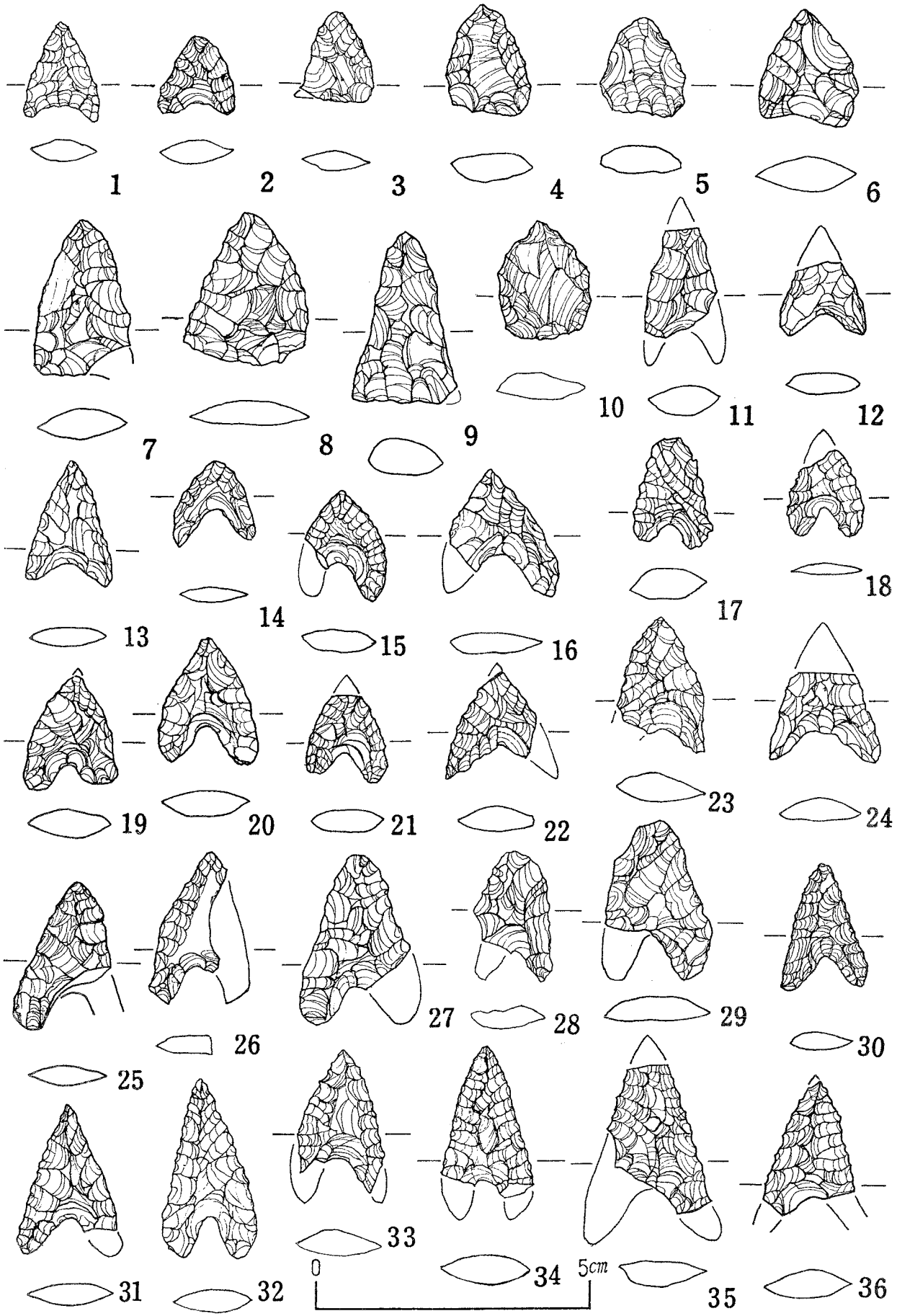
頭部、刃部共に欠損しているが大型で太く、楔等に再使用したと思われる痕跡が見られるものが4点出土している。

斧頭に小さな平坦面をもち、頭身の厚味は乳棒状に比べて薄い石斧が11点あり、その全てが欠損している。203は、唯一の完形品であり、小型で側縁に弱い稜をもち、鋭利な直刃状の刃部を有する。刃部及び胴部のみの欠損品も多く、その使用の激しさをうかがわせる。石材は緑色砂岩が多く63％に当たり、他の砂岩類と合わせると84％に上る。その他頁岩が13％、石英閃緑岩が3％である。

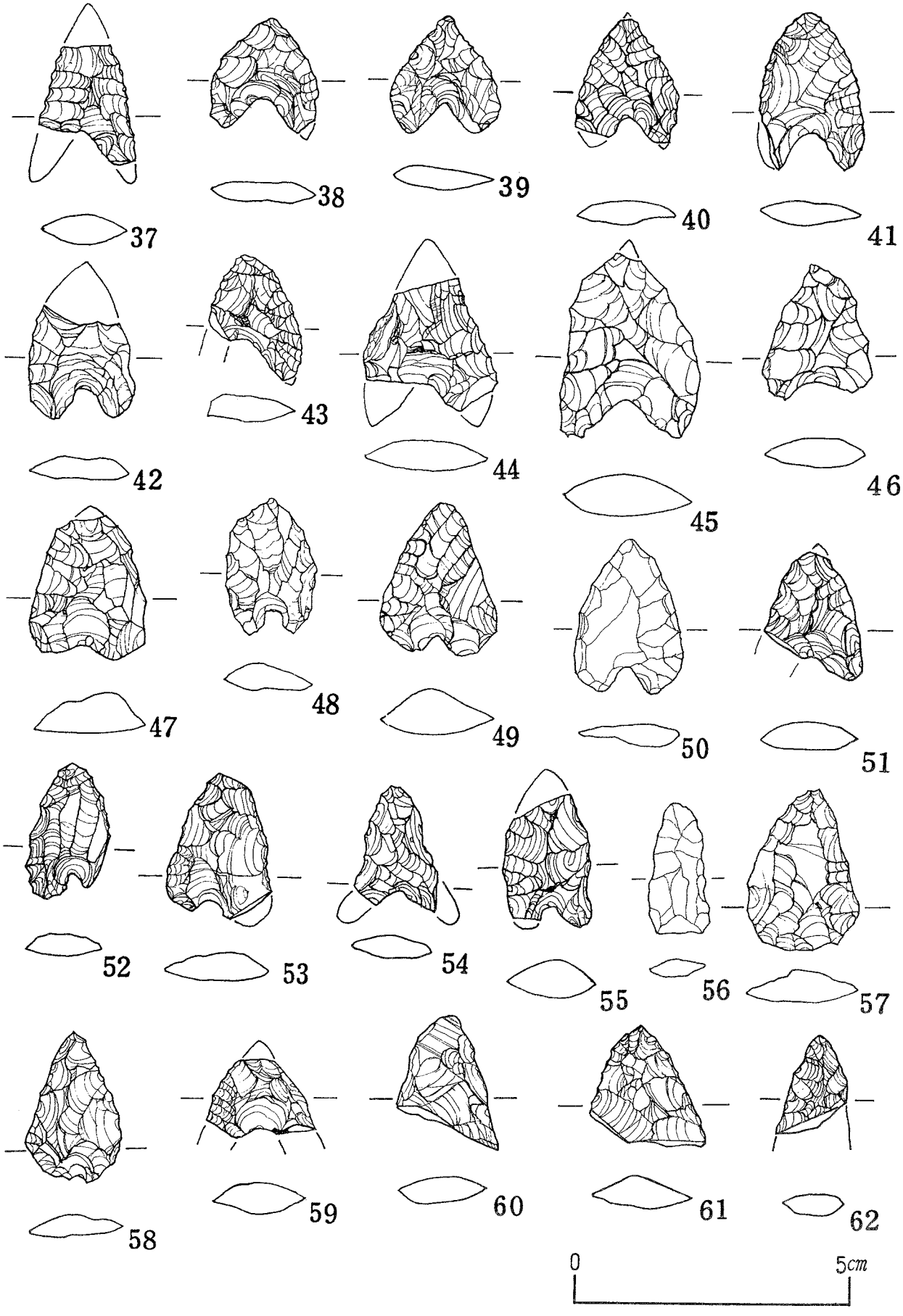
**磨石**（第206～210図・図版69～72－230～300）

103点出土しているが図化したのは、63点である。形状から4つに大別される。

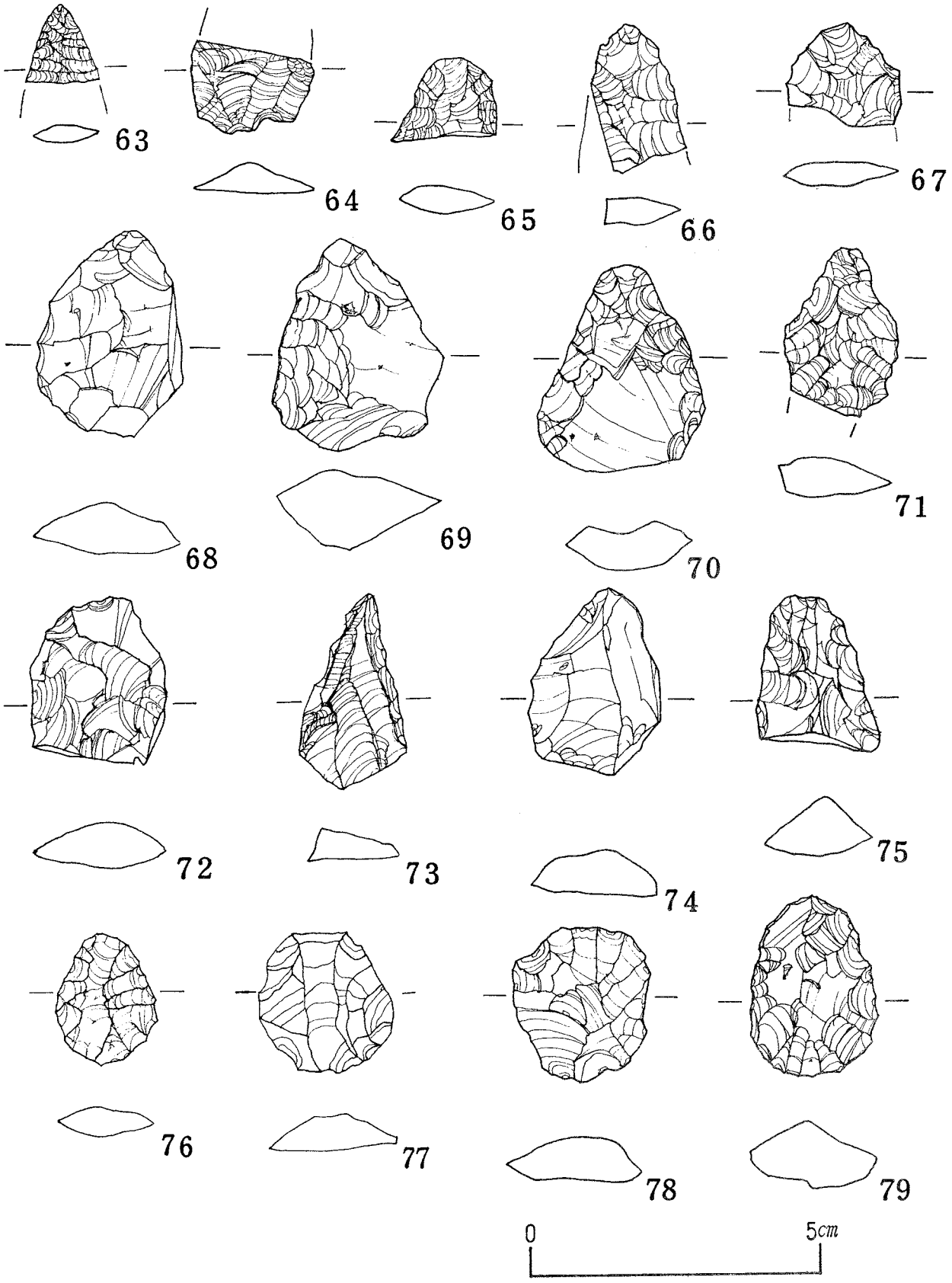
Ⅰ類－円形（a）、楕円形（b）を呈し、曲面的な磨面をもつ。Ⅱ類－箱形（c）、棒状（d）であり、平坦的磨面をもつ。Ⅲ類－上記以外の形状のもの。Ⅳ類－凹みを有するもの。石材は安山岩、玄武岩、石英安山岩など現地性の石が大多数で、石英モンゾニ岩、石英閃緑岩が数点含まれる。



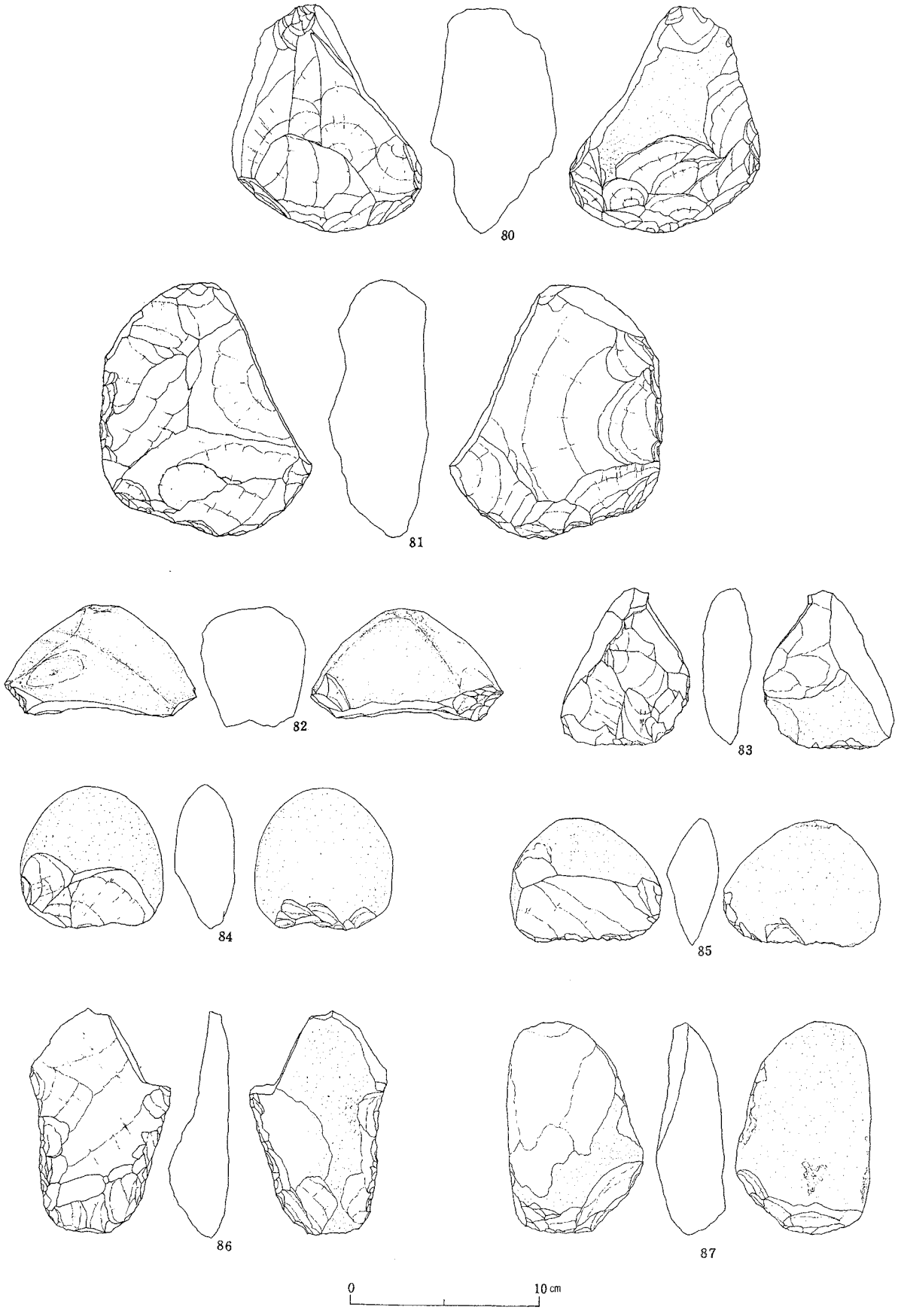

第192図　第II次調査 出土石器実測図（1）



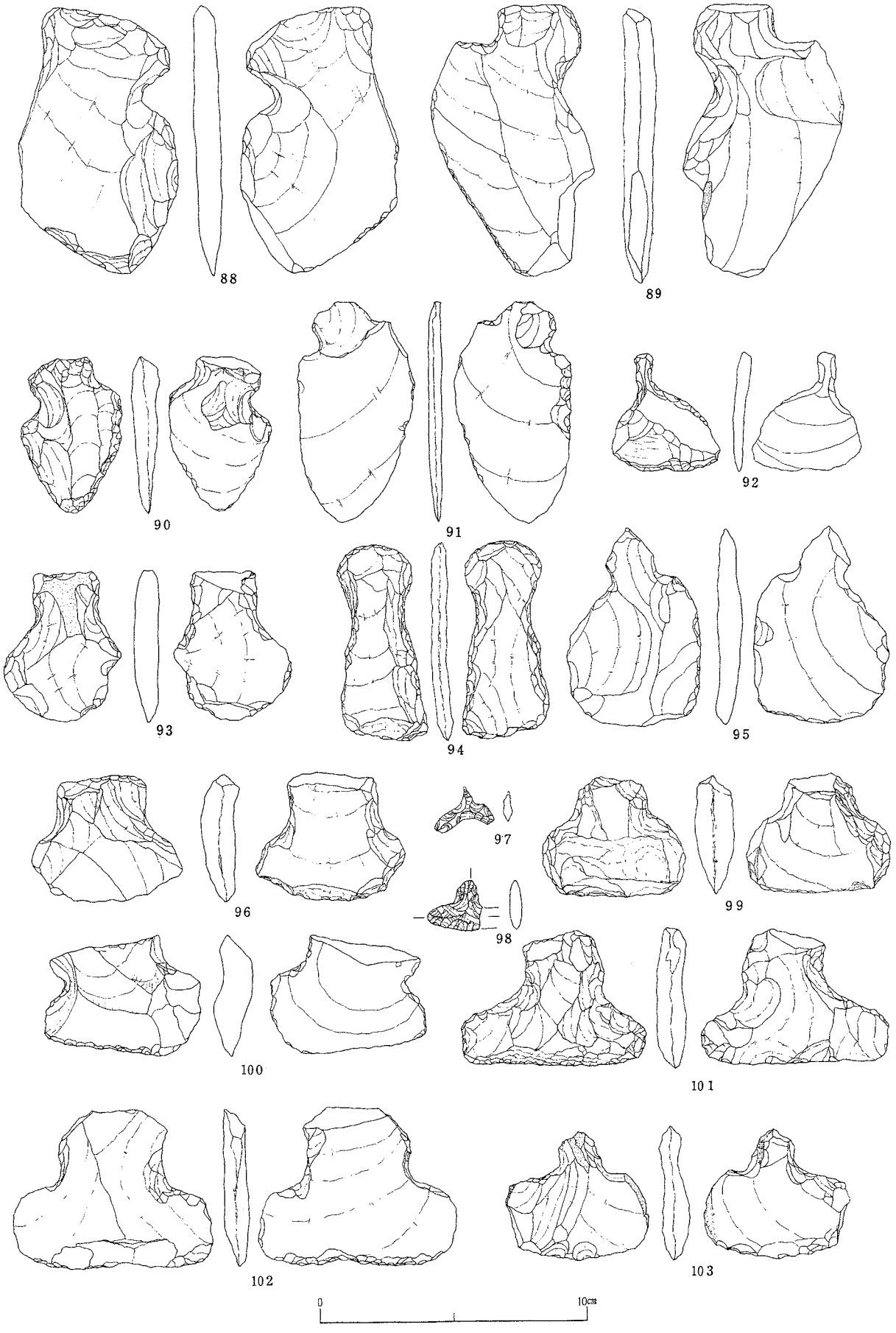

第193図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（２）



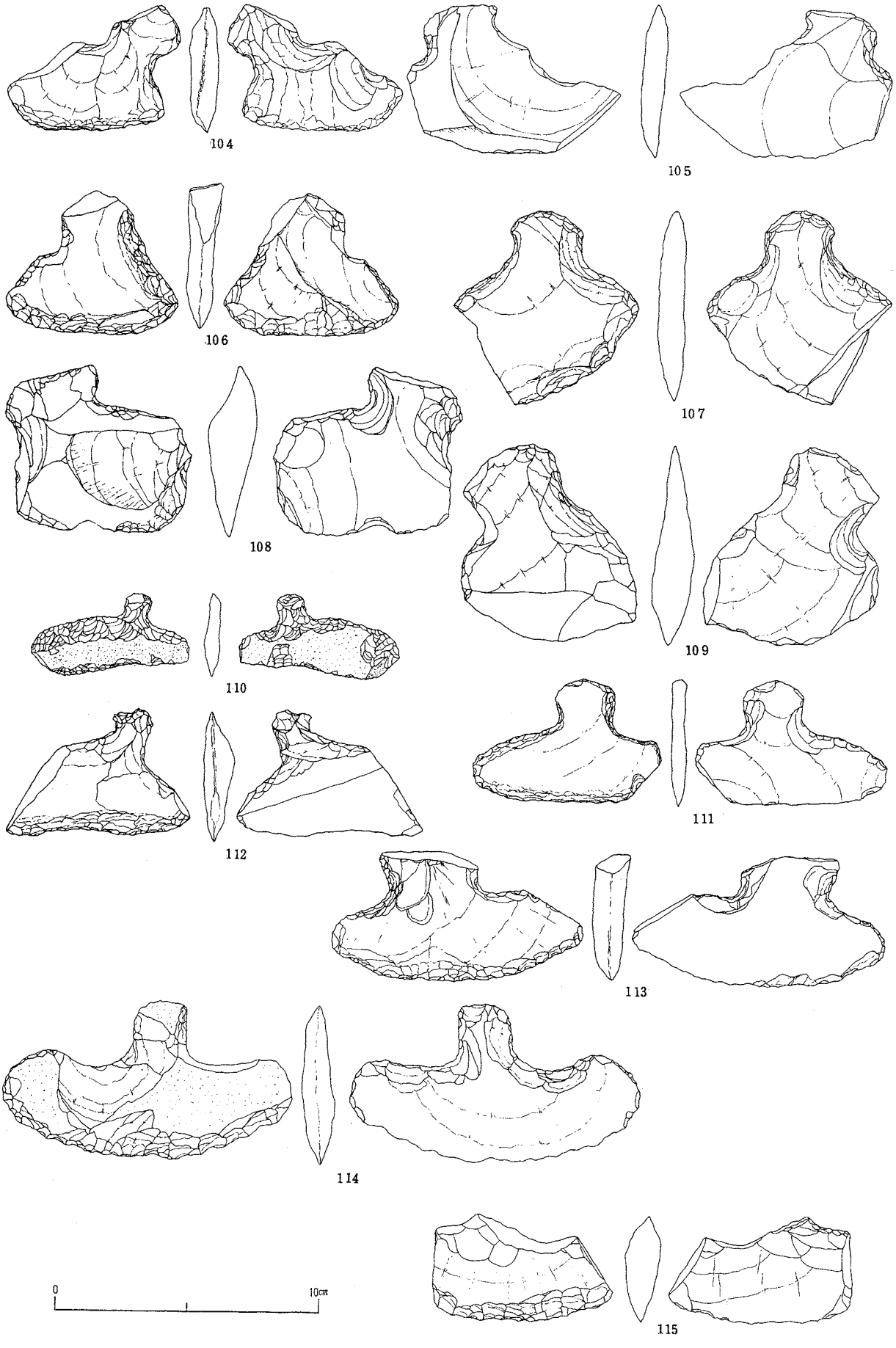

第194図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（３）




第195図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（４）

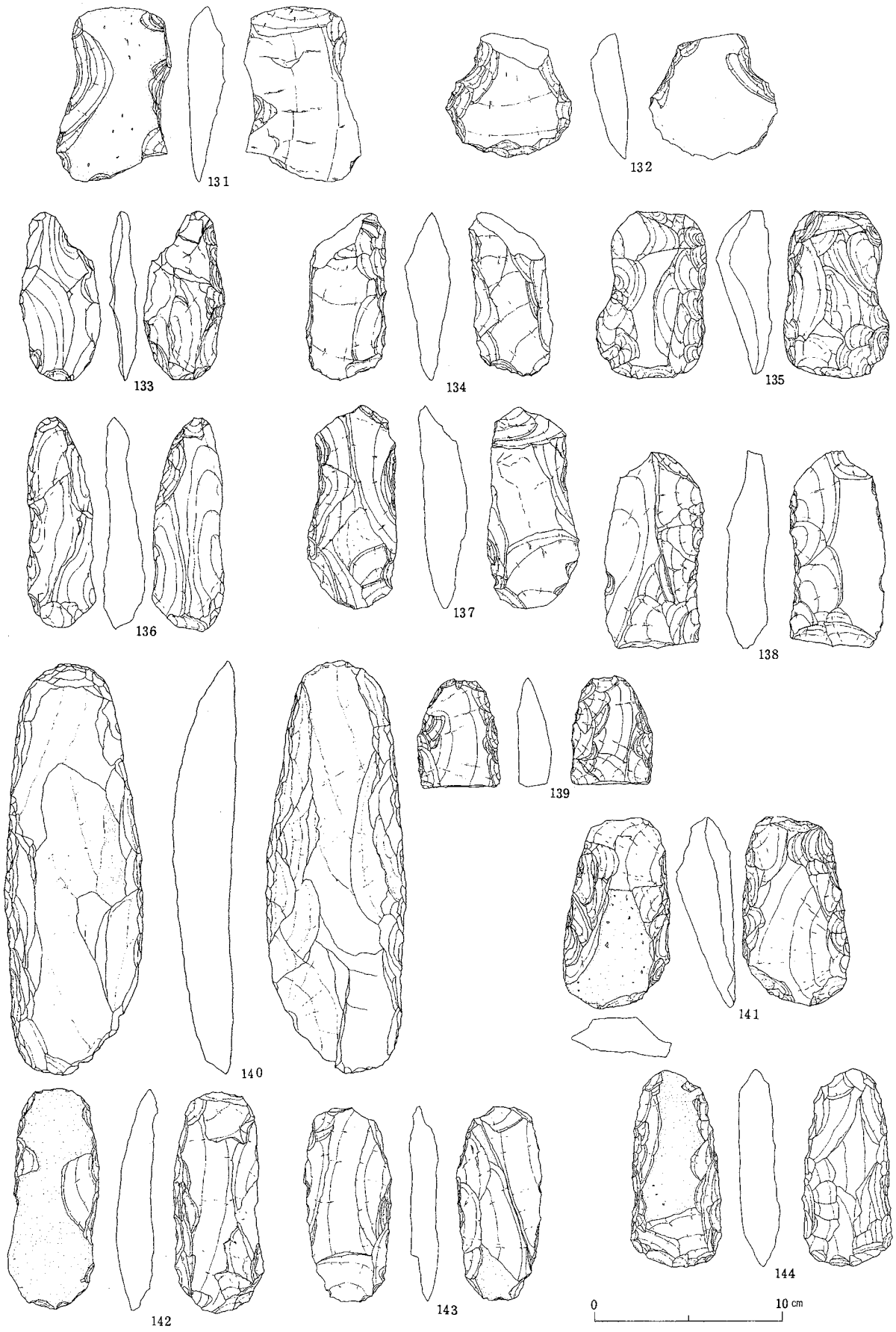



第196図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（５）

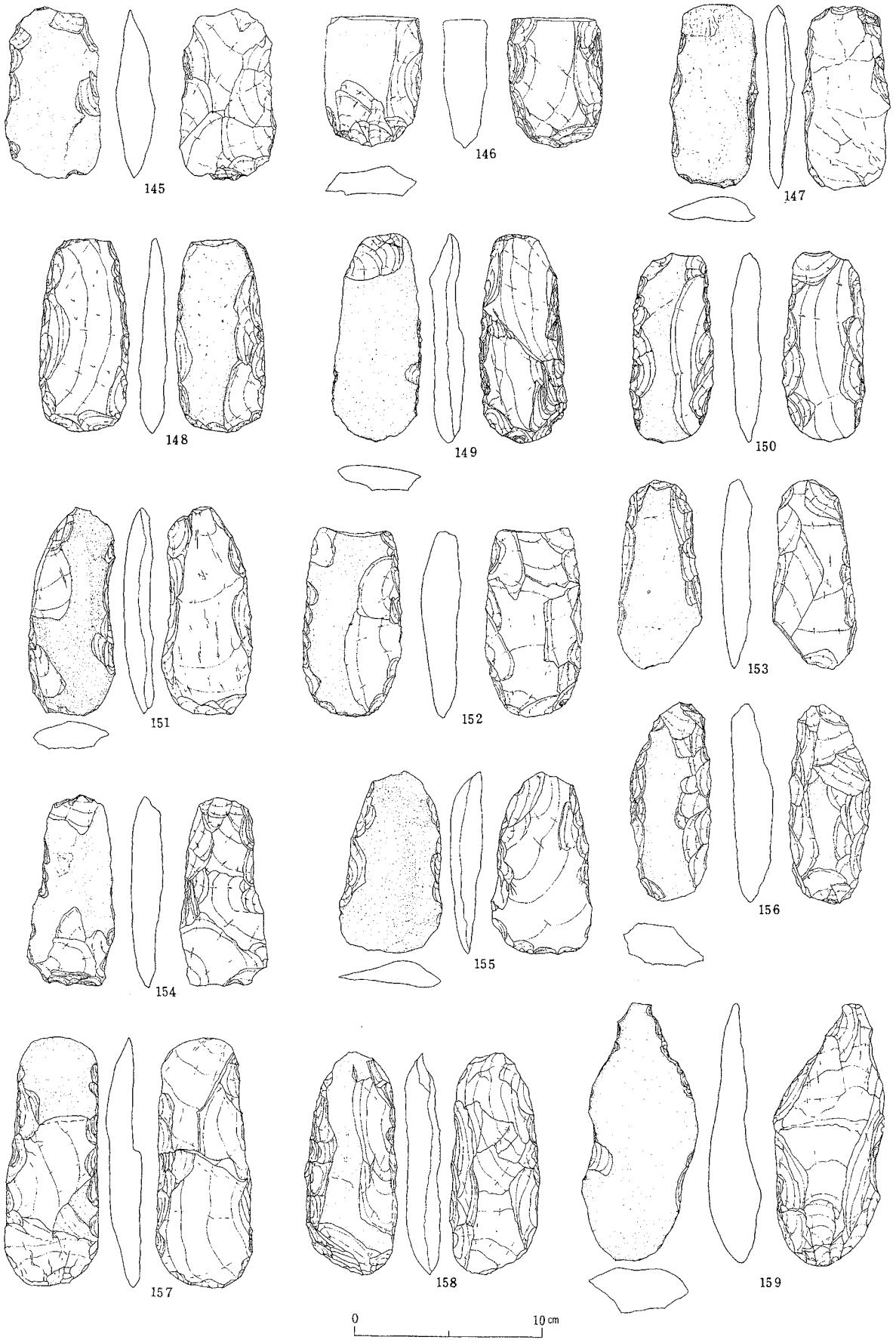



第197図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（６）

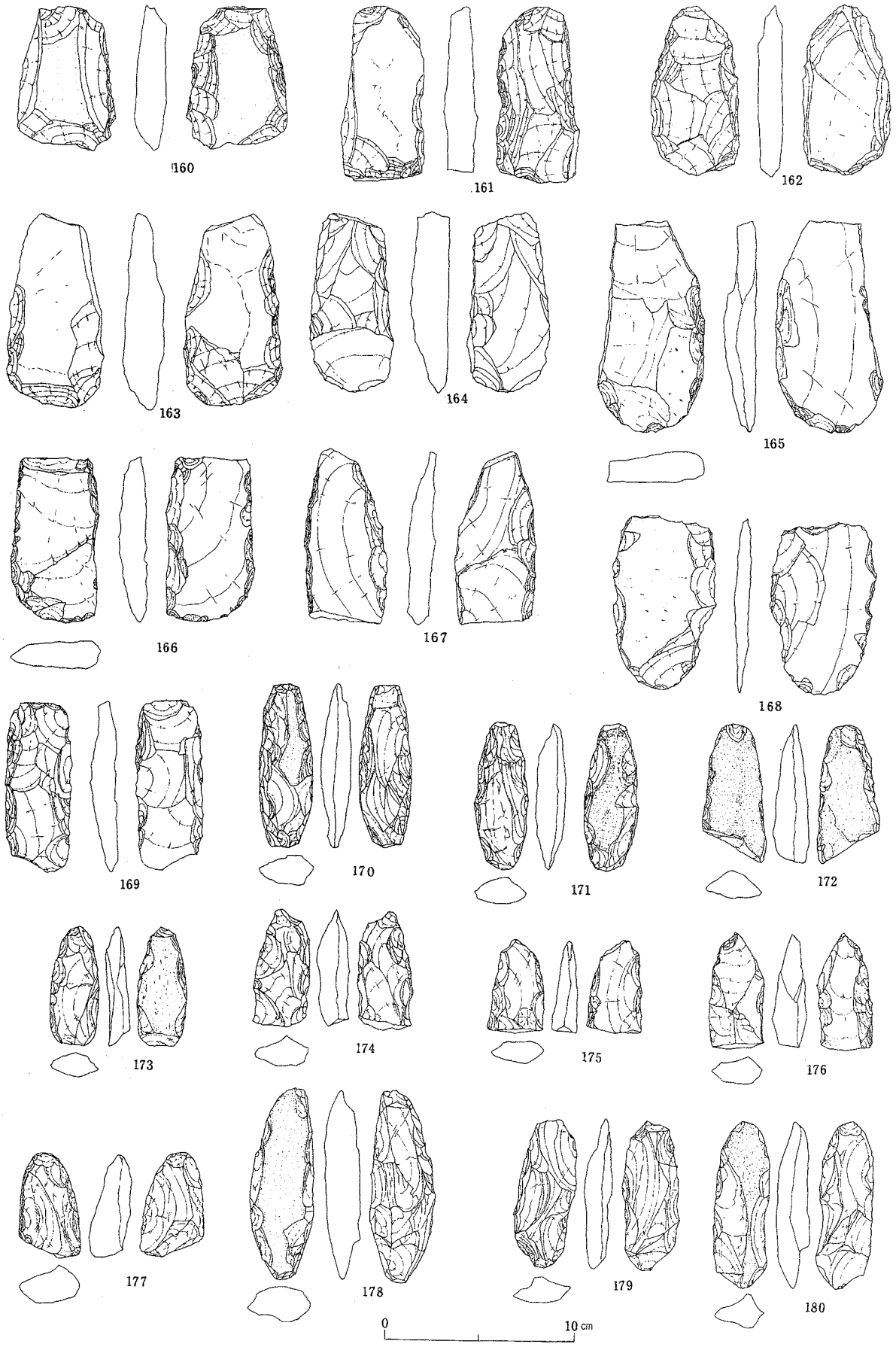
第198図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（７）



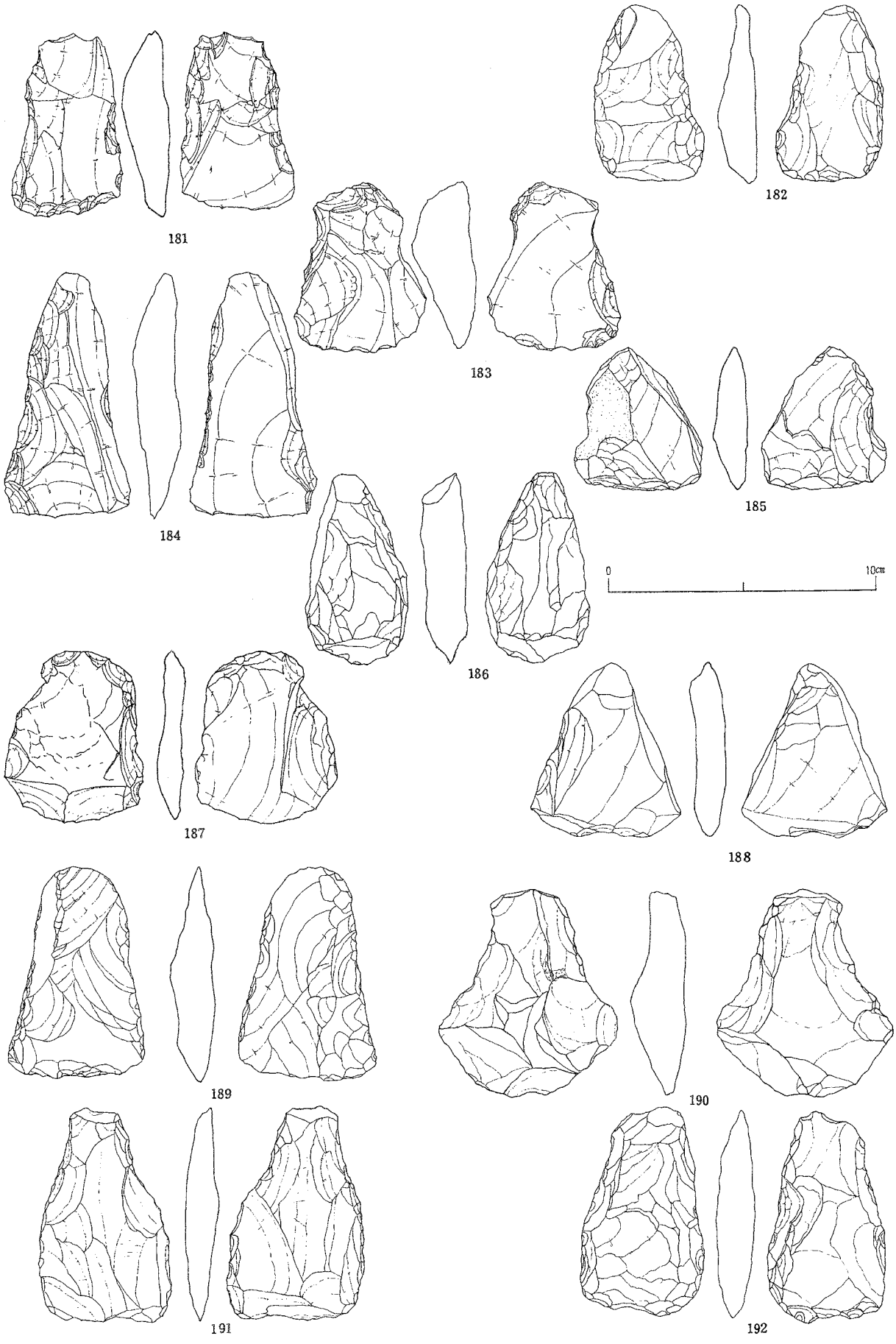

第199図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（８）



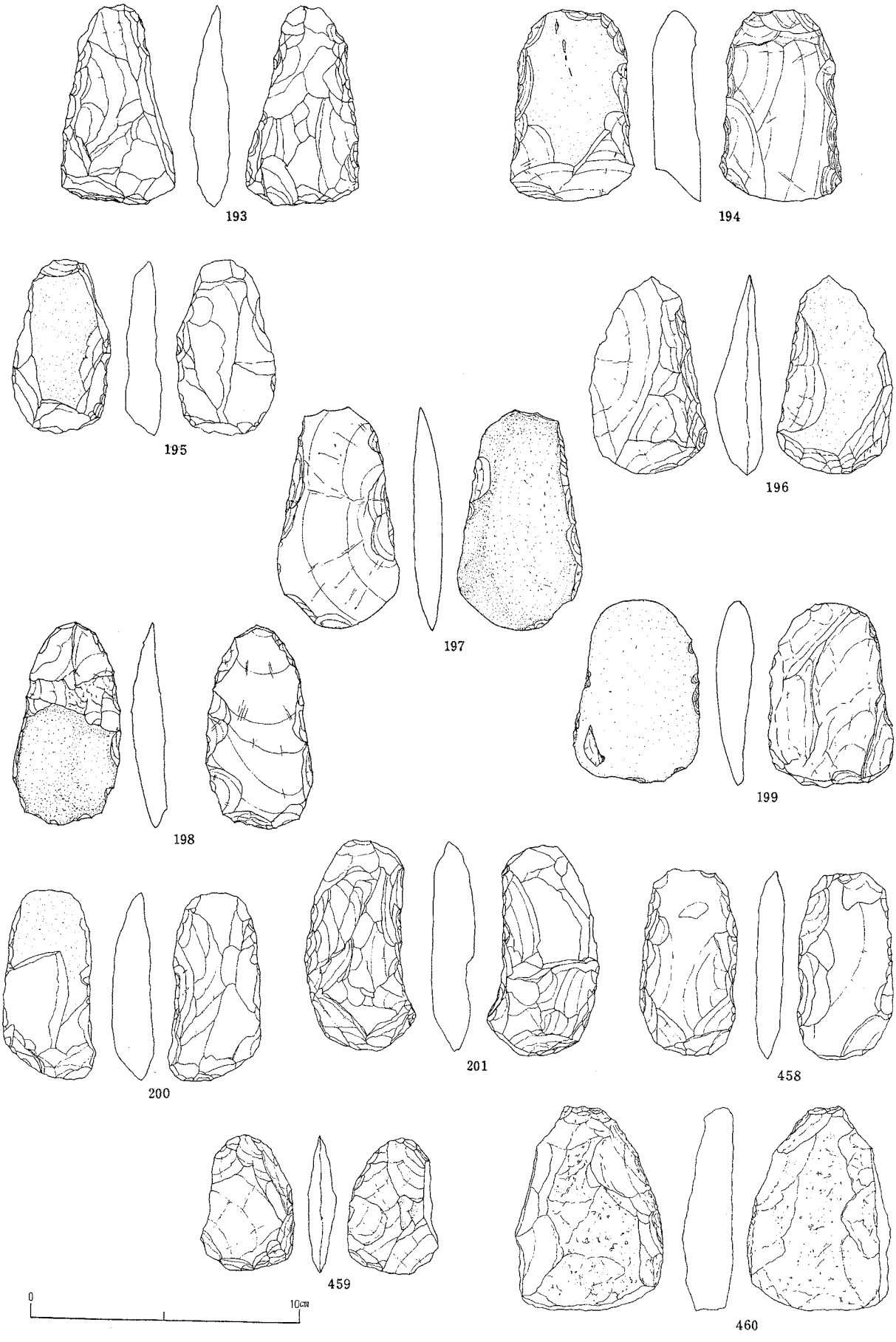

第200図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（９）



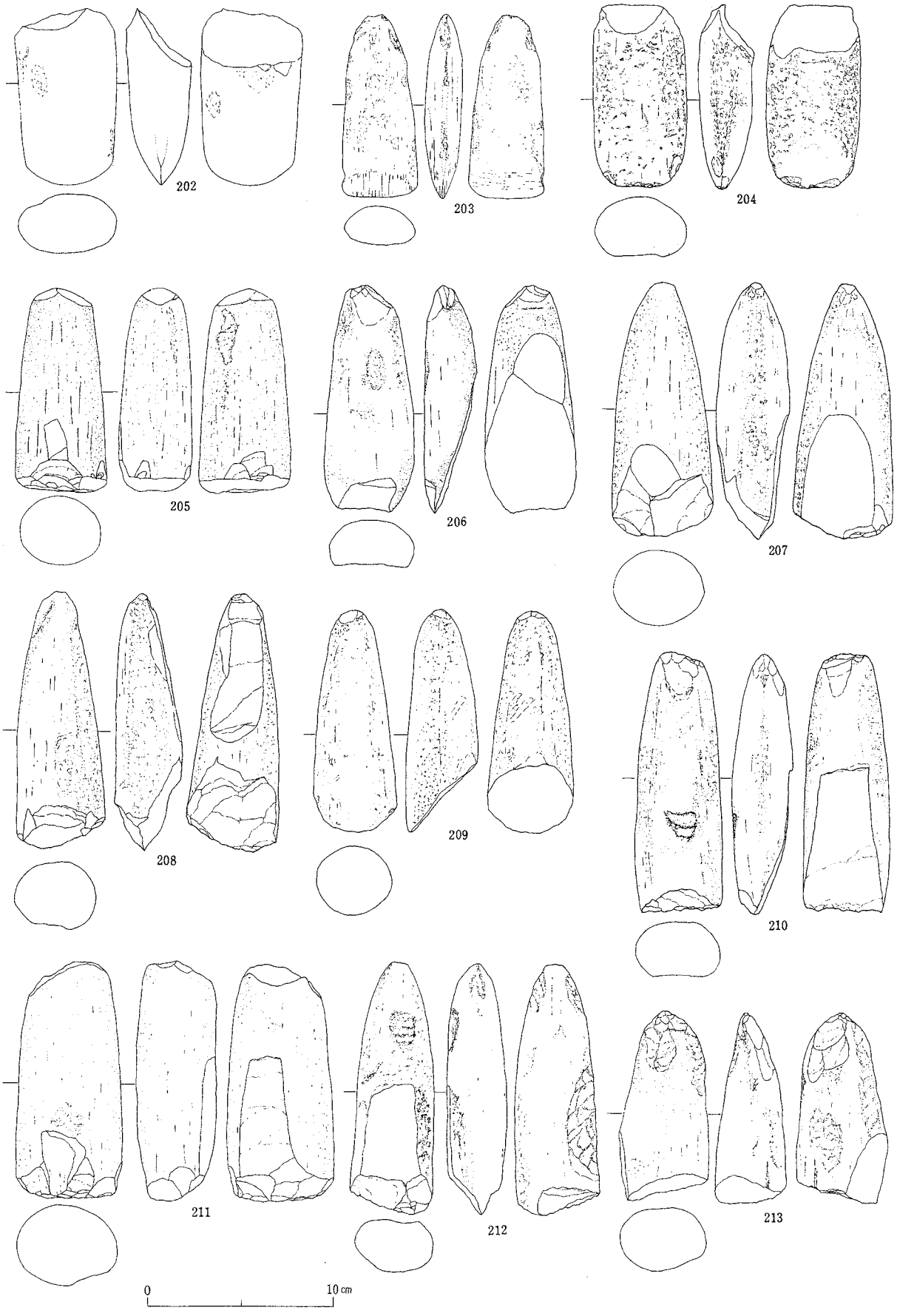

第201図　第II次調査 出土石器実測図（10）



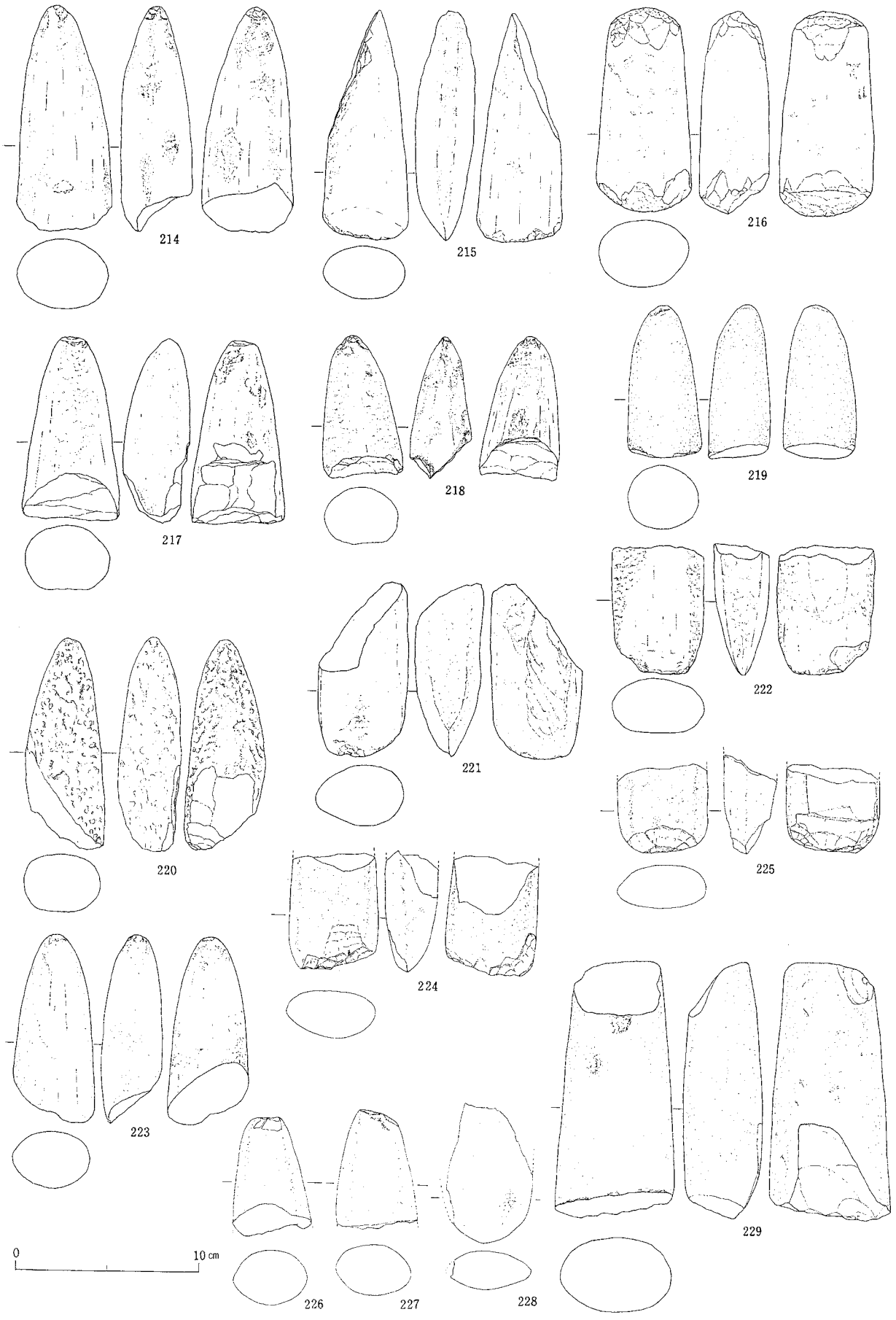

第202図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（11）




第203図　第II次調査 出土石器実測図（12）




第204図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（13）




第205図　第II次調査 出土石器実測図（14）

Ⅰ類

Ⅰ－ａ（第206図230～238・第210図294・295）

円形及び円形に近いものが14点出土。磨面を表裏両面に有するものが多数であり、片面のみの磨面を有するものは、234・236・238の3点だけである。磨面と敲打痕を合せ持つ294・295が含まれる。

Ⅰ－ｂ（第206・207図、239～255）

楕円形を呈し、曲面的な磨面を持つものである。磨石の中で一番数多く46点出土した。磨面は片面と表裏両面に有するものがあり、片面のみのものが多数である。又この型は欠損したものが多く約30％を数える。これらはそのまま廃棄されたというより、敲石等に再利用された可能性もある。

Ⅱ類

Ⅱ－ｃ（第207・208図、256～269・第210図、293）

両面及び四周を研磨された箱形の形状をもつもので、26点出土しており主な磨面は側面に見られる。各面共に平滑に仕上げられている。側面に巾の狭い磨面を持つものと、楕円形をなし円味をおび大型で厚みの有るものとがある。293は、上下端に複数の磨面と敲打痕が見られる。

Ⅱ－ｄ（第209図、274～277）

縦長の棒状を呈し、側縁部に一面あるいは複数の平坦な磨面を持つ磨石で6点出土している。本類は本町大平Ｃ遺跡において多数出土している。特殊磨石と同類と思われる。断面の形状によると、方柱状、円柱状、多角柱状をなすものがある。275は、下端の打ち砕かれた部分に敲打痕と摩滅痕が見られる。

Ⅲ類（第208・209図、270～273・第210図、296～300）

Ⅰ、Ⅱ類以外の形状のものを本類とした。270は、円形に近く磨面が多面にあるが、主な磨面は側面にあり稜をもつ。271は、大型で周縁に摩滅痕が見られ、磨面を多面にもっている。272・273は、河原石を利用し複数の磨面をもつものである。296・297・299は、薄型で各面が平滑に仕上げられている。297は、小型で上下端に敲打痕が見られる。300は、上下端が欠損しているが平面形は長方形と思われる。最大厚が1cmと薄く、各面は平滑に仕上げられ稜が作られている。

Ⅳ類（第209・210図、278～292）

凹みと磨面を合わせて持つ磨石で15個出土している。円形、楕円形、箱形を呈し、凹みが表裏両面に有するものが多数出土しており、片面のみは291・292の2点である。凹みの位置は器面の中央に1孔ないし数孔が存在し、その長軸上に並んでいる。磨面は円形、楕円形においては表裏両面又は片面に有り、箱形は主な磨面が側面にある。280・281は、長端部にも敲打痕が見られる。

**石皿**（第211図、301～303・図版73－301～303）

9点出土しているが、全て欠損し小片も含まれるため3点のみ図化した。断片資料が多く全体

の形状は不明であるが、破片の周辺が円味を帯びるものが多いことから、円形又は楕円形と思われる。301・303は、緩やかに凹んだ磨面を持つ多孔質の安山岩である。302の使用面は僅かに凹み、敲打整形の痕が窺われる。

**石棒**（第211図、304～305・図版73－304・305）

2点出土しており、いずれも頭部のみの欠損品である。304は、有頭であり敲打により整形されている。縊れの部分は特に入念に敲打され、断面は円形に近い。頭頂部は楕円を呈し、敲打により粗い加工がなされている。305は、無頭であり頭頂部は緩やかな円錐状である。304に比べ全体が研磨整形されている。これは材質の違いからであろうか。

**石錘**（第212～213図306～340・図版73・74－306～340）

35点出土している。偏平な自然礫の両端を打ち欠いたものをⅠ類、溝状に削って作られたものをⅡ類と分類した。

Ⅰ類（第212・213図）

長軸の両端を軽く打ち欠いたままのもの4点（306～308）、長軸の両端を敲打し凹ませてあるもの19点（310～328）であり、長軸方向の一端が欠損したと思われ、凹みが1ケ所のもの（337～339）がある。長軸60～70㎜前後が中型で最も多く、50㎜以下の小型は4点のみで、70㎜以上の大型は3ケ所の打ち欠いた凹みを有する。

Ⅱ類（第213図340）

自然礫を利用し、短軸方向の両端に切込みがある。中型で1点出土している。Ⅰ・Ⅱ類共、石材は安山岩9点、砂岩8点、頁岩7点であり他にグリーンタフ、石英閃緑岩等がある。

**円板状石器**（第214～215図、341～367・図版74・75－341～367）

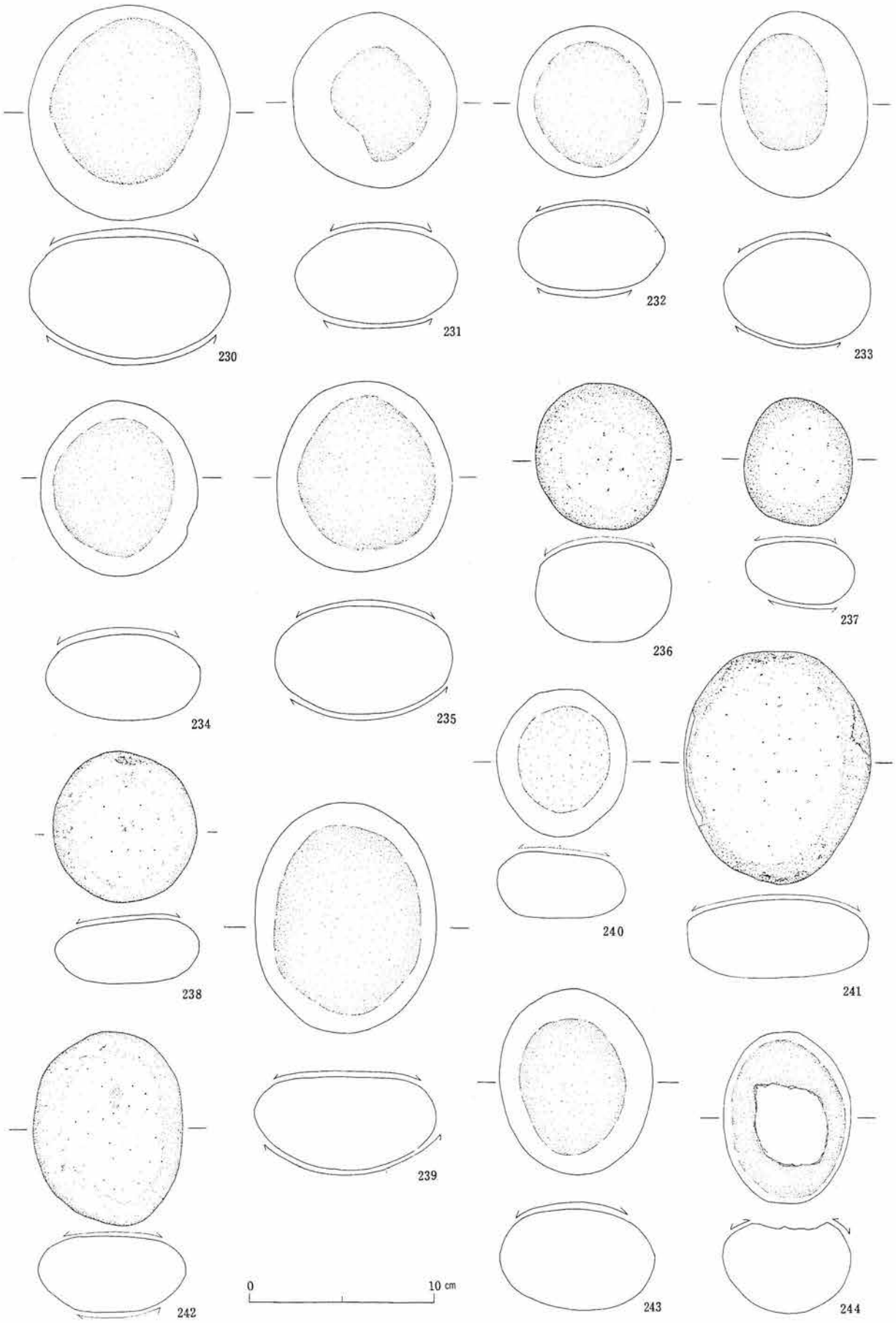
円板状石器としたのは、本遺跡出土の石器の中でも特異な製品であるためこのような呼称を用いた。円形、楕円形、又は三角形状の偏平な小礫の縁辺を打ち欠いたものである。27点の出土の中で341・342は、大形の礫を素材とし側縁及び端部に比較的丁寧な剥離が行われており掻器状の刃部が想定される。343～355は、円形、楕円形、四角形の小形の礫を使用し、それのほぼ全周に渡って敲打が行われている。357～367は礫刃で、三角形状を呈しやはり前述の礫と同様に周囲を打ち欠いてある。357は、三角形の長辺部のみに調整がみられる。

これらをはたして石器として捕らえて良いかまたその用途も判然としないが、石斧あるいは掻器的な物かあるいは、何らかの石器の未製品という事も考えられるであろう。しかし本遺跡では石錘、土錘等の出土も多く、漁労用として礫石錘と同様の用途が考えられるかも知れない。石質は現地性の安山岩であり、他は海浜性の頁岩と砂岩である。この比率は石錘とほぼ同様である。

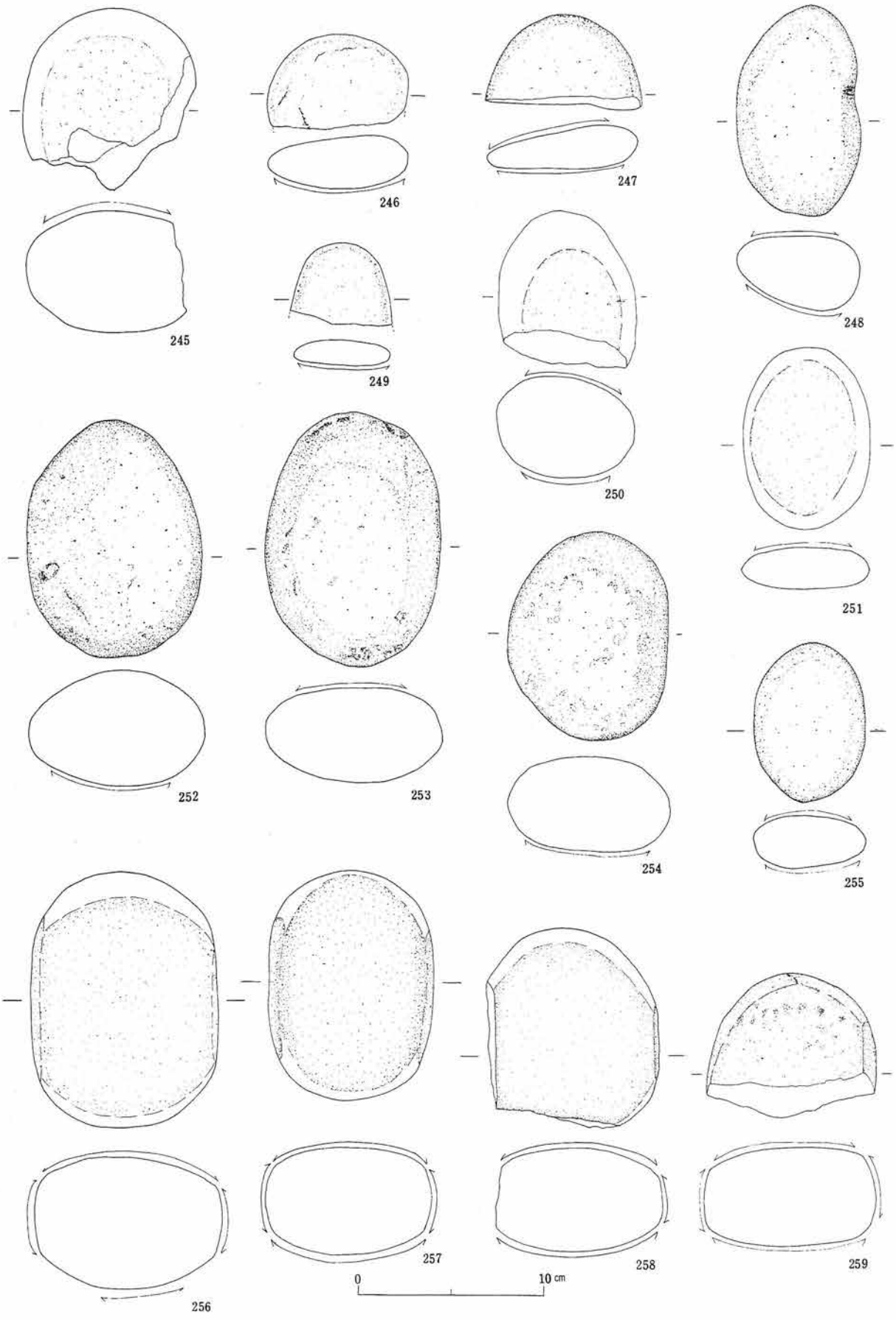
**各種石器**（第216～223図、368～393、398～457・図版75～77－368～457）

Ⅰ類

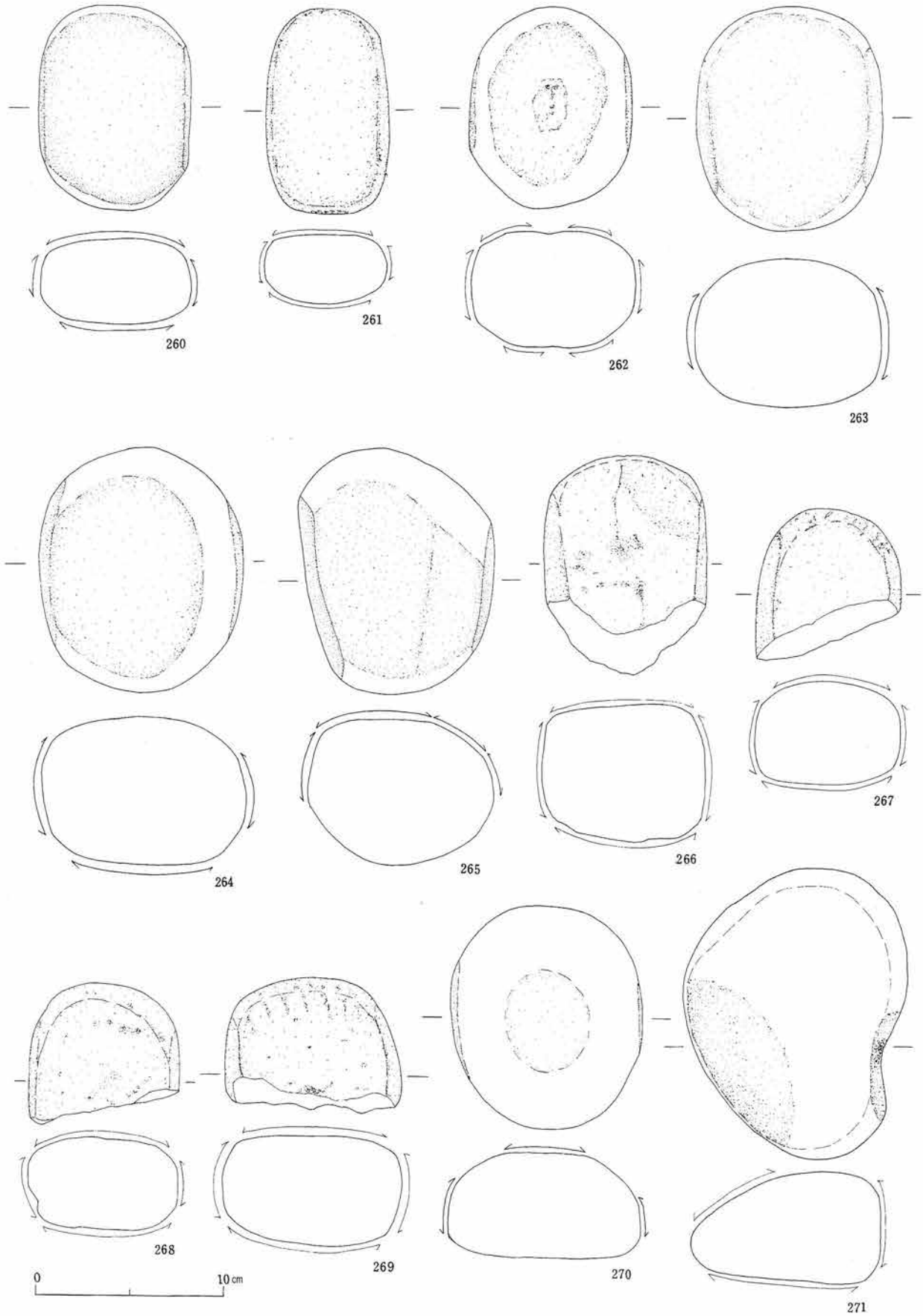
黒曜石の剥片を素材とし、その縁辺に剥離痕のみられるものを本類とした。368～374・376・379・380・382～386は、縦長剥片及びそれに類する剥片の側辺部に加工がみられるものである。



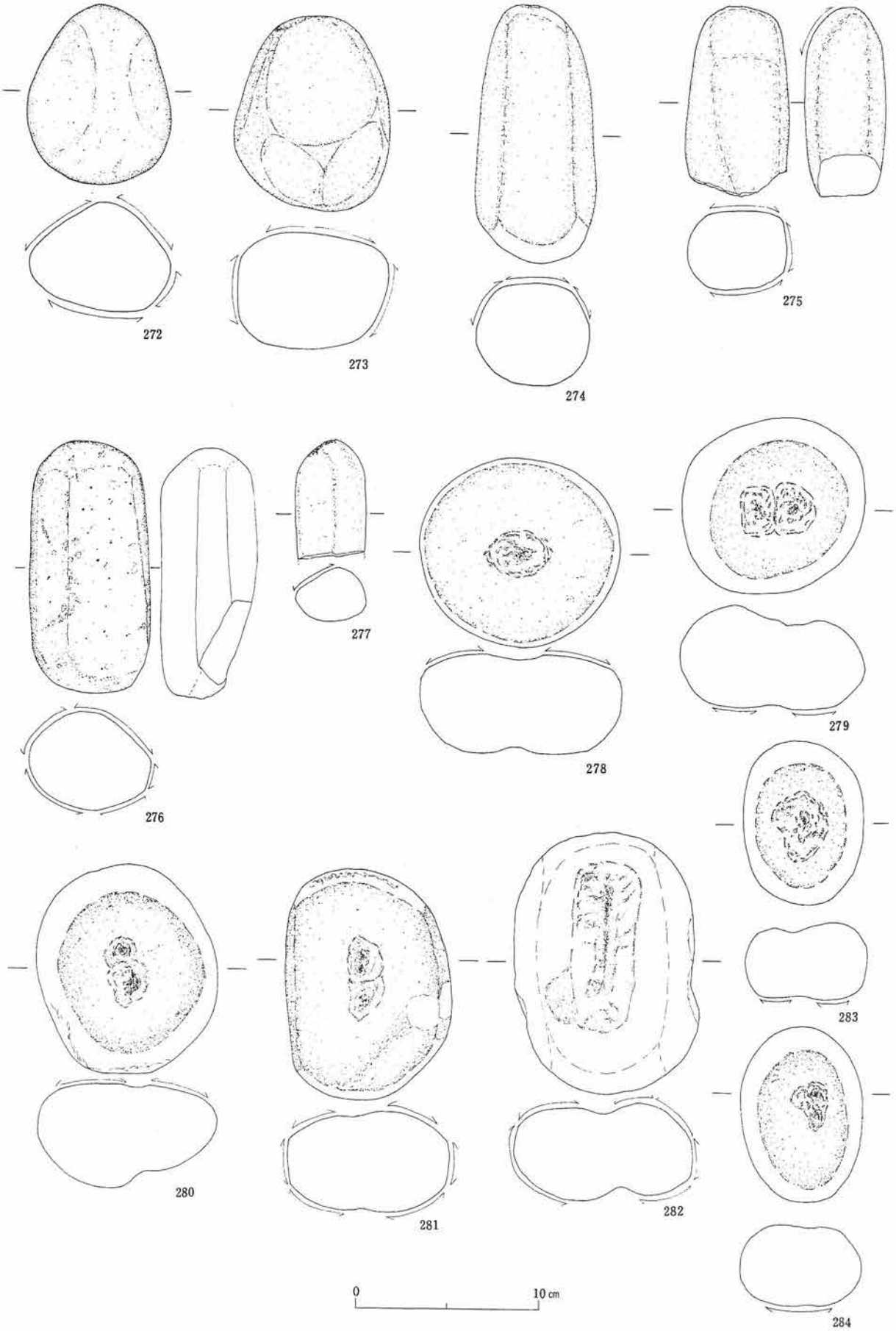

第206図　第II次調査 出土石器実測図（15）



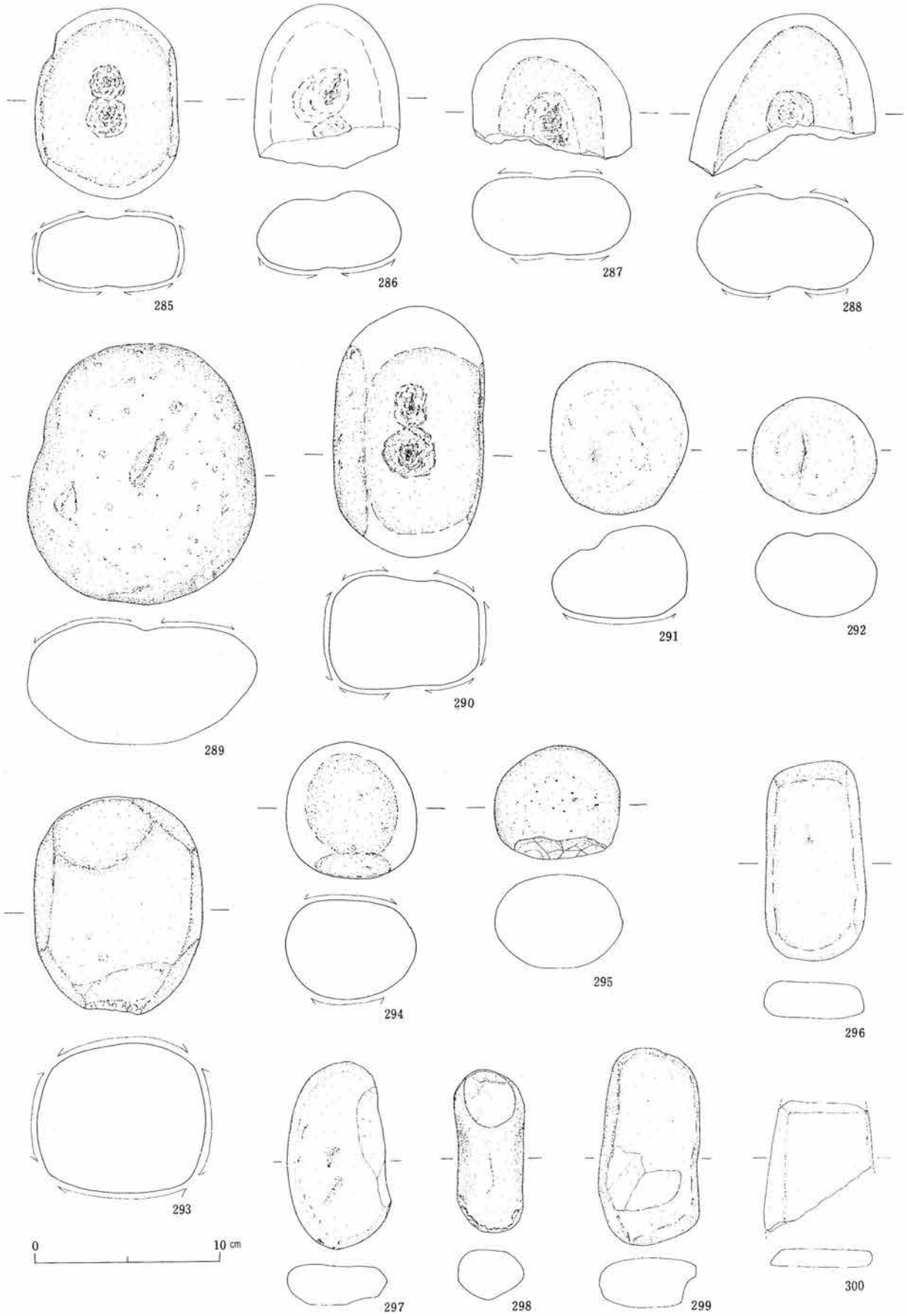

第207図　第II次調査 出土石器実測図（16）



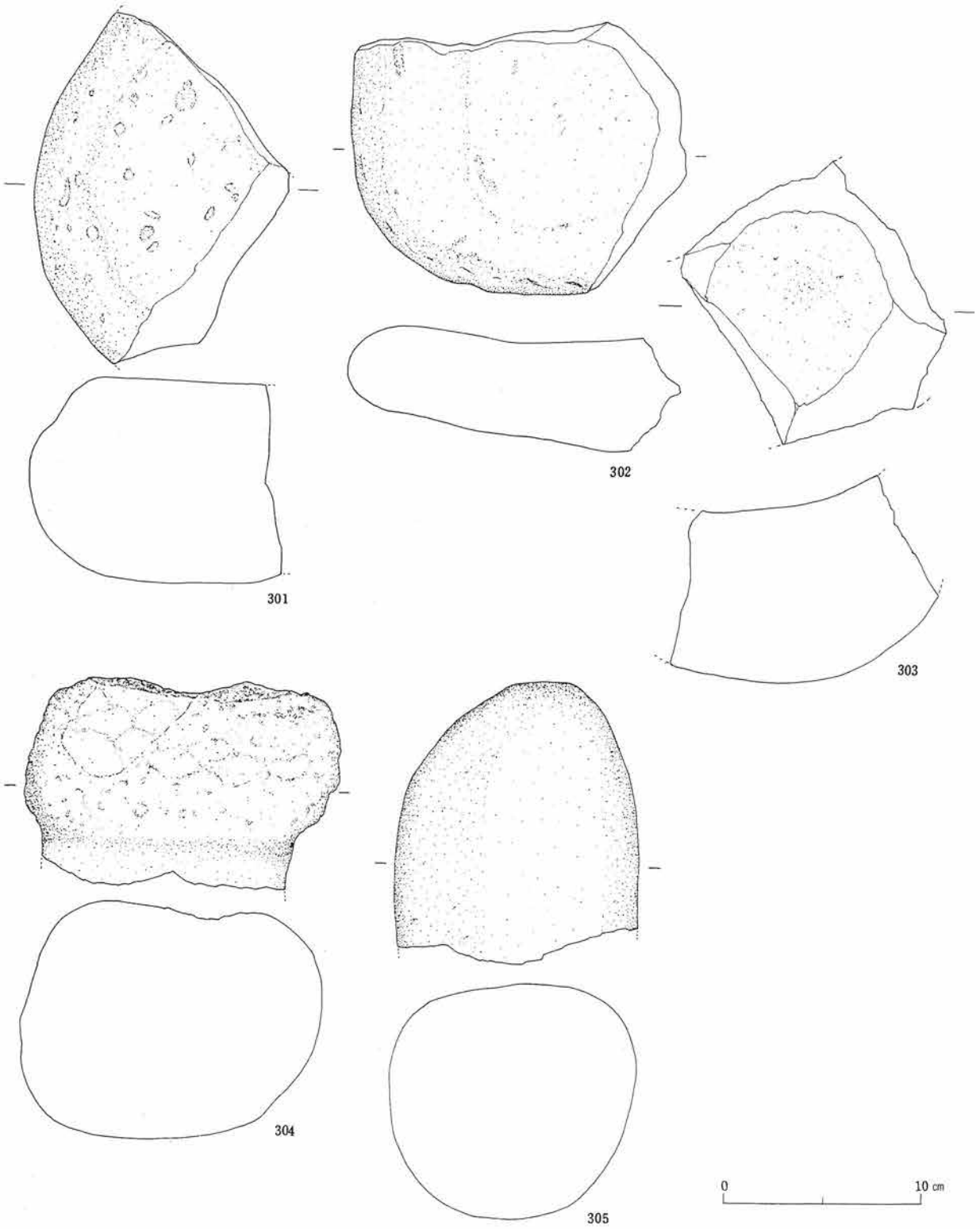

第208図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（17）



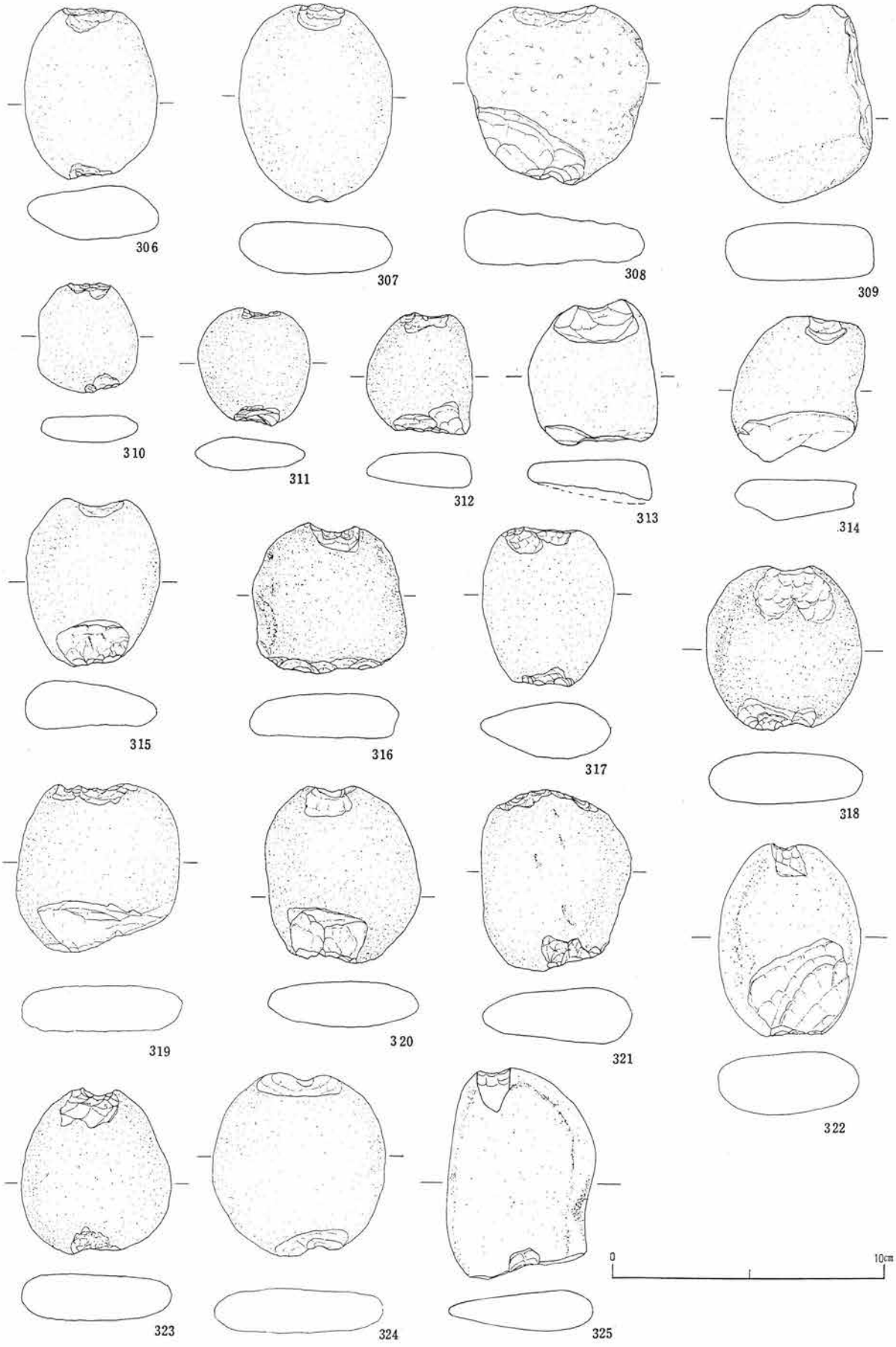

第209図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（18）



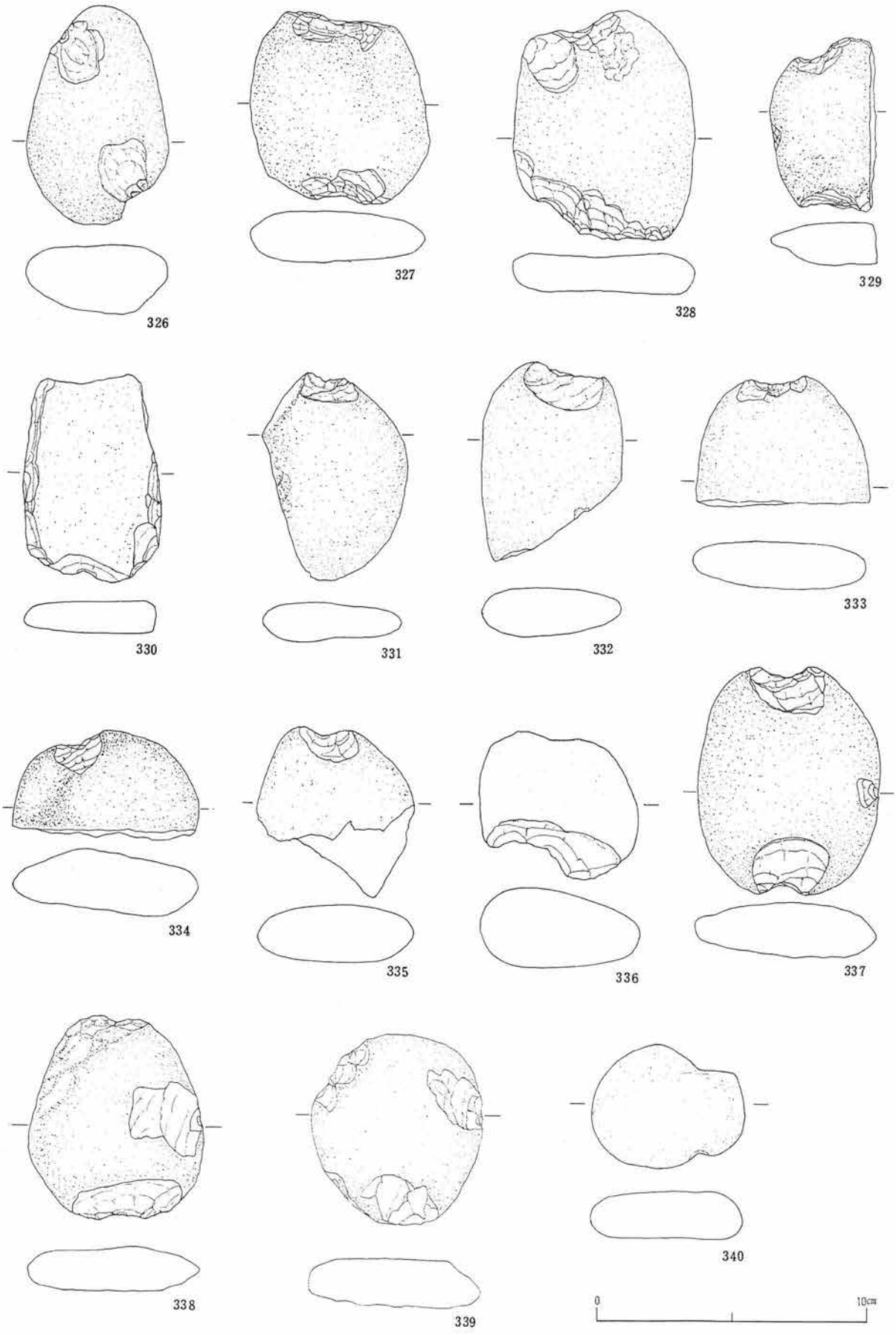

第210図　第II次調査 出土石器実測図（19）




第211図　第II次調査 出土石器実測図（20）

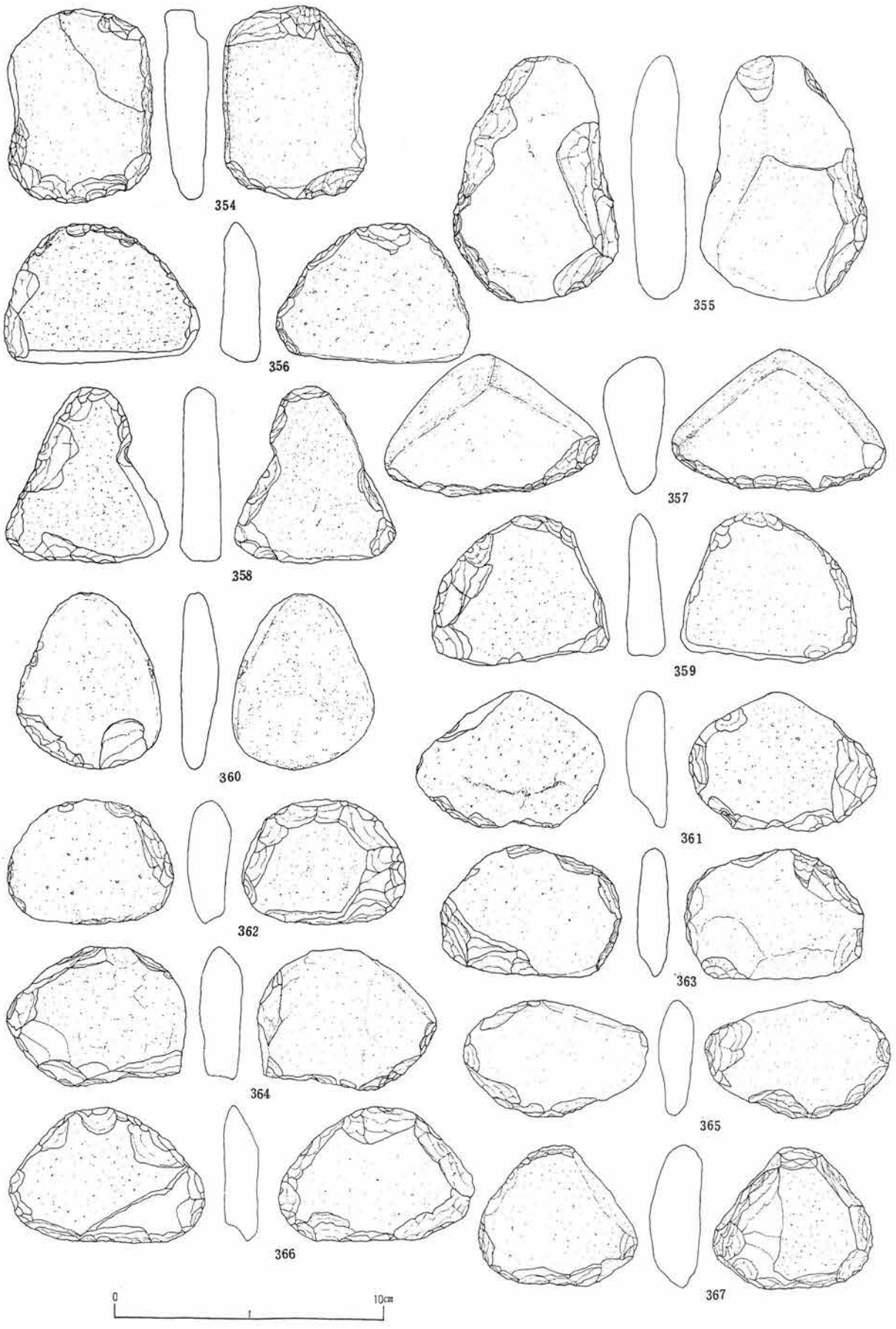



第212図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（21）

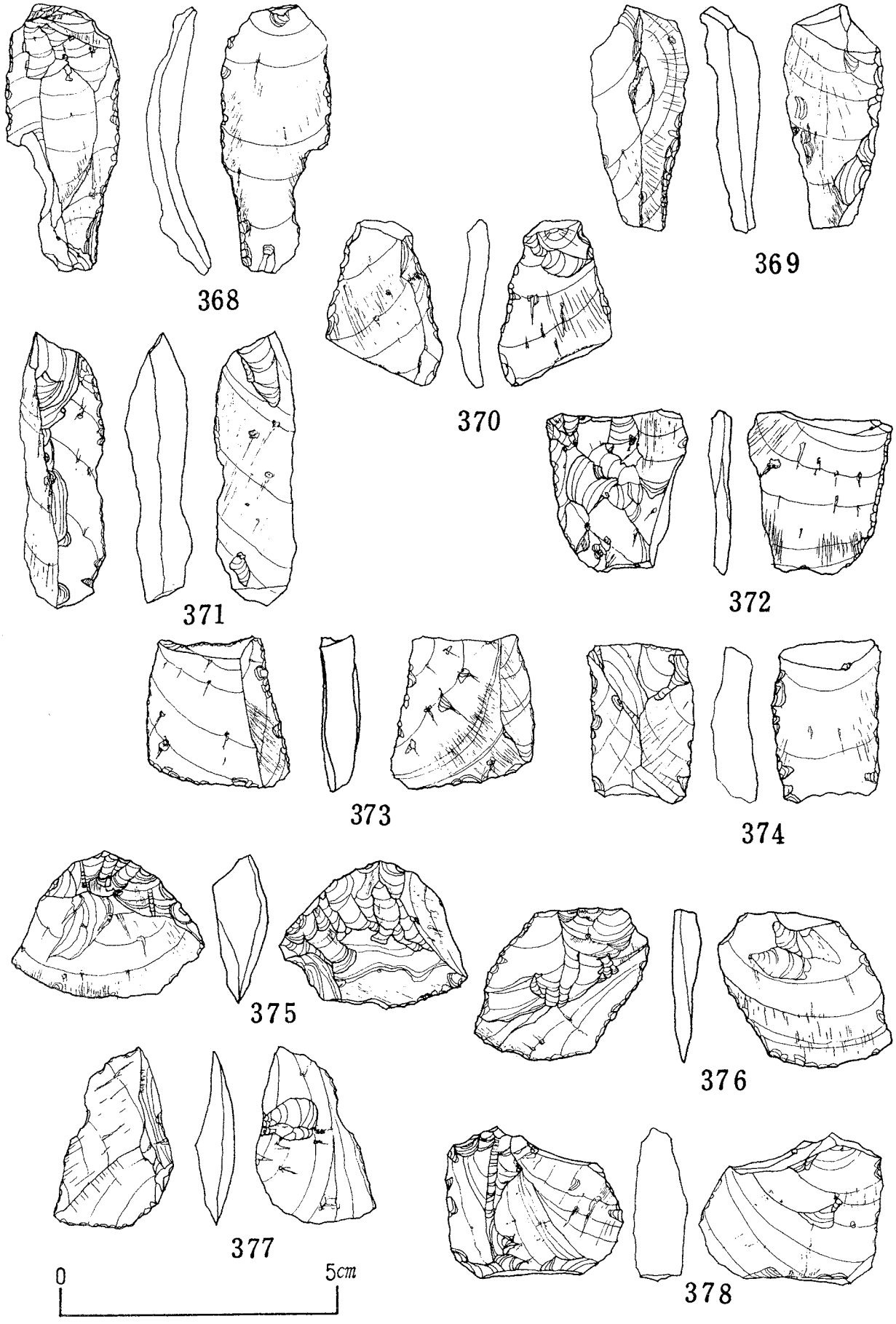



第213図　第II次調査 出土石器実測図（22）

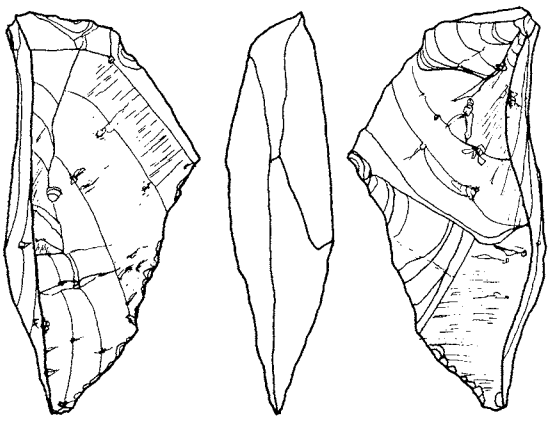
第214図　第II次調査 出土石器実測図（23）



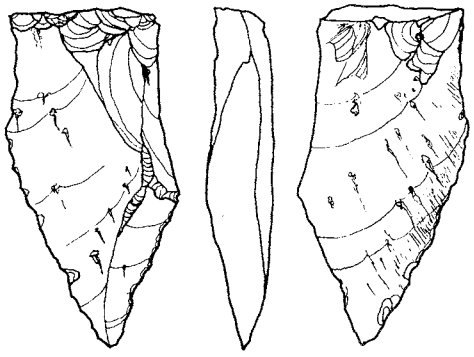

第215図　第II次調査 出土石器実測図（24）



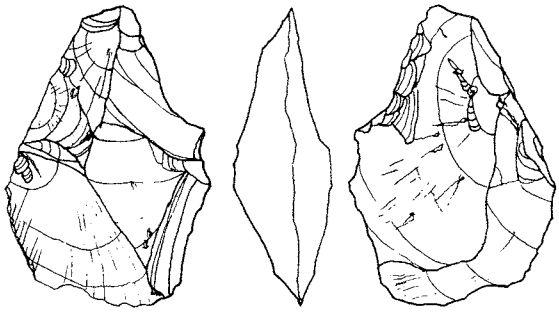

第216図　第II次調査 出土石器実測図（25）



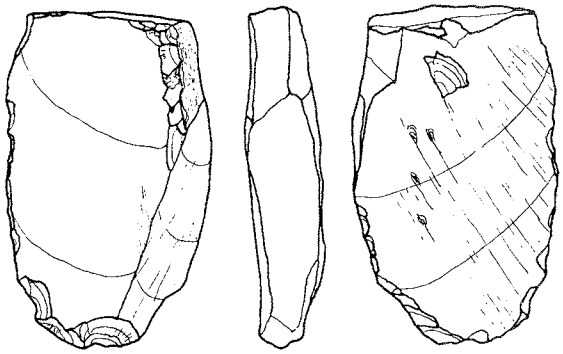
379



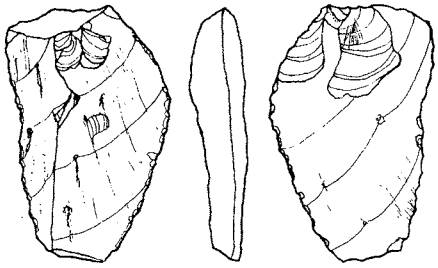
380



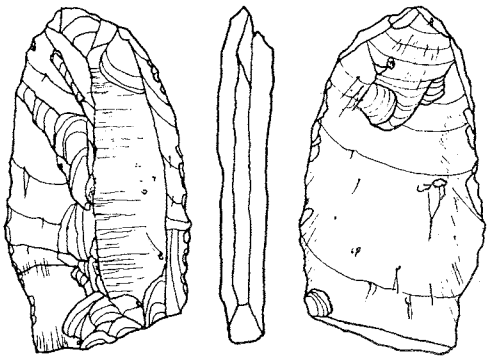
381



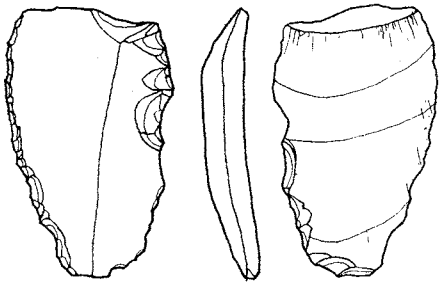
382



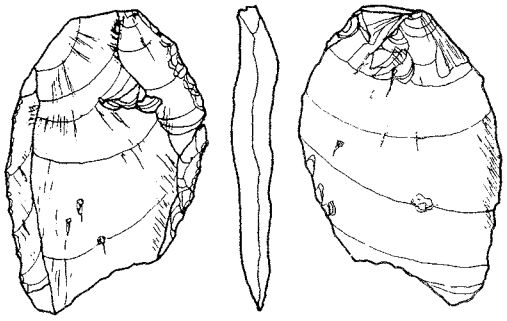
383



384

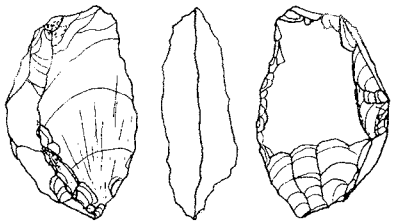


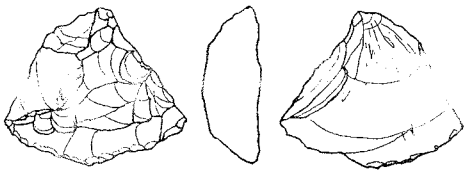
385

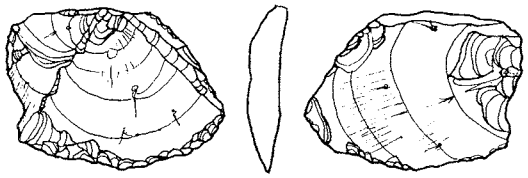


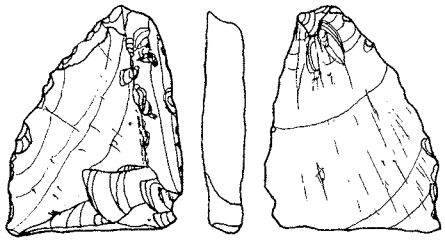
386

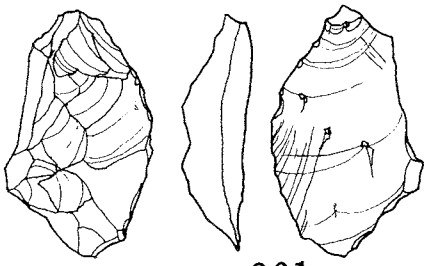
第217図　第II次調査 出土石器実測図（26）

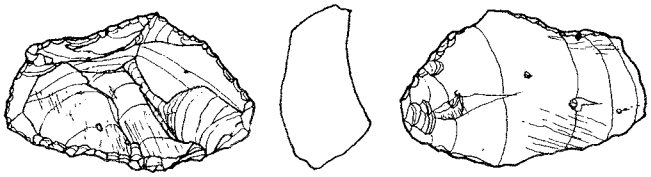

387

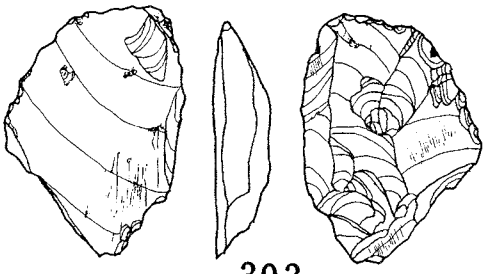

388

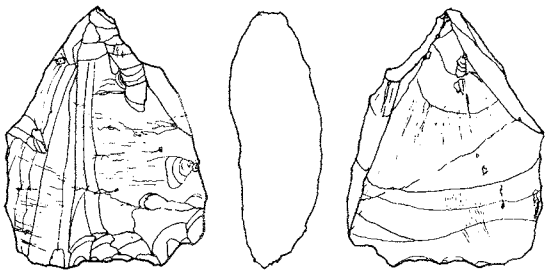

389

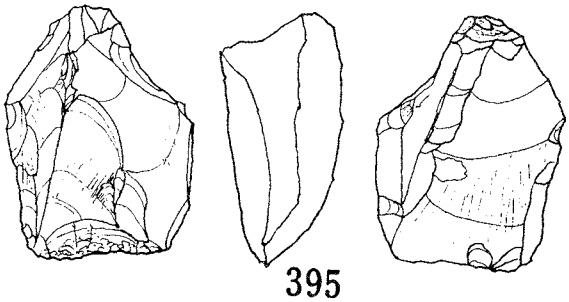

390

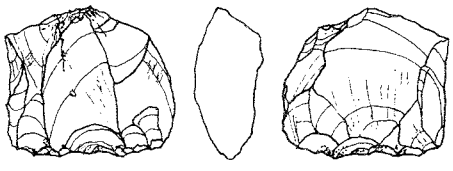

391

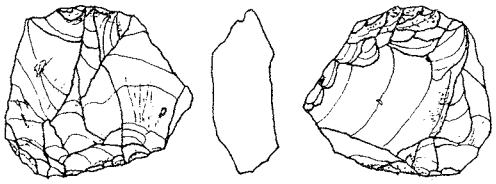

392


393

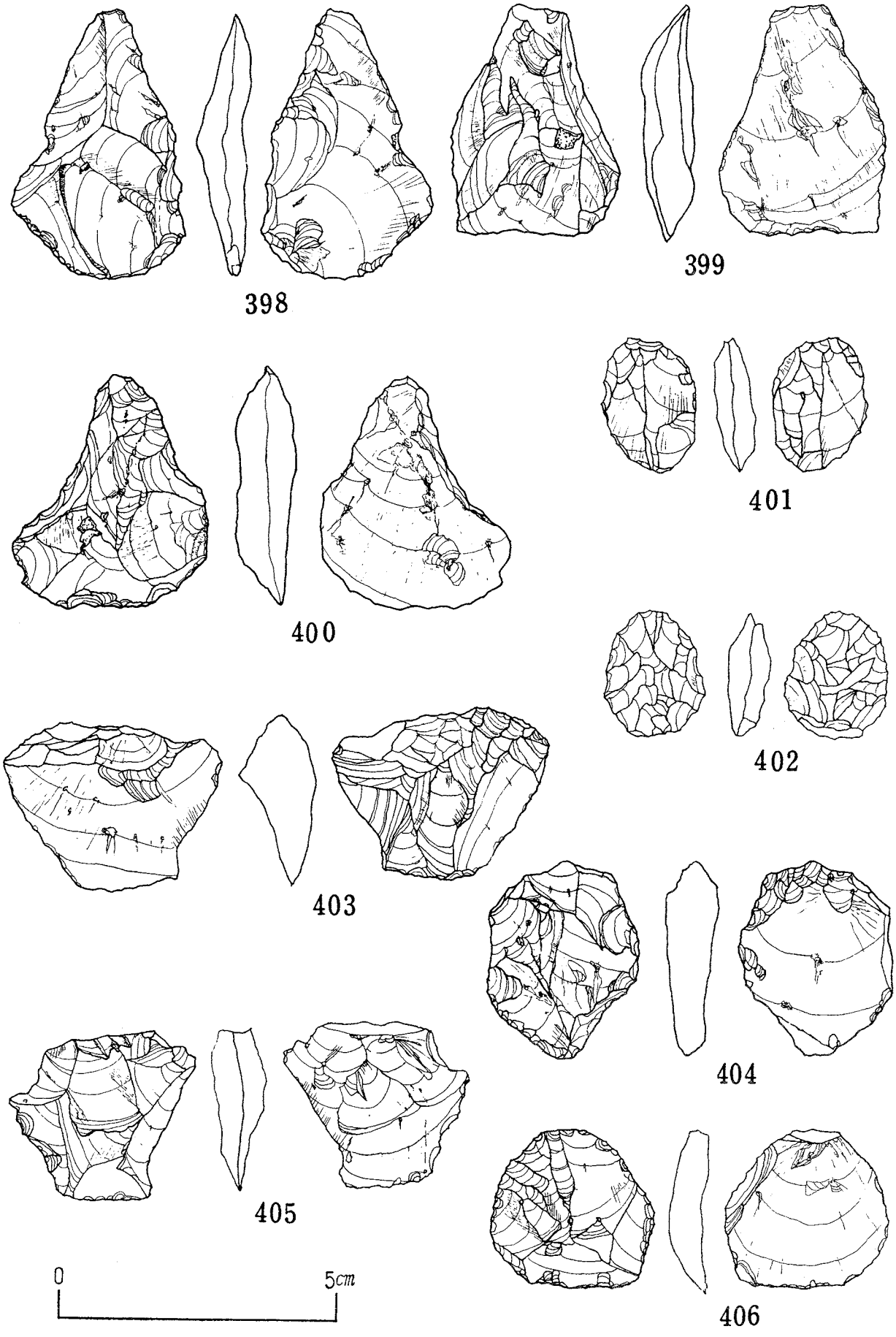

394


395

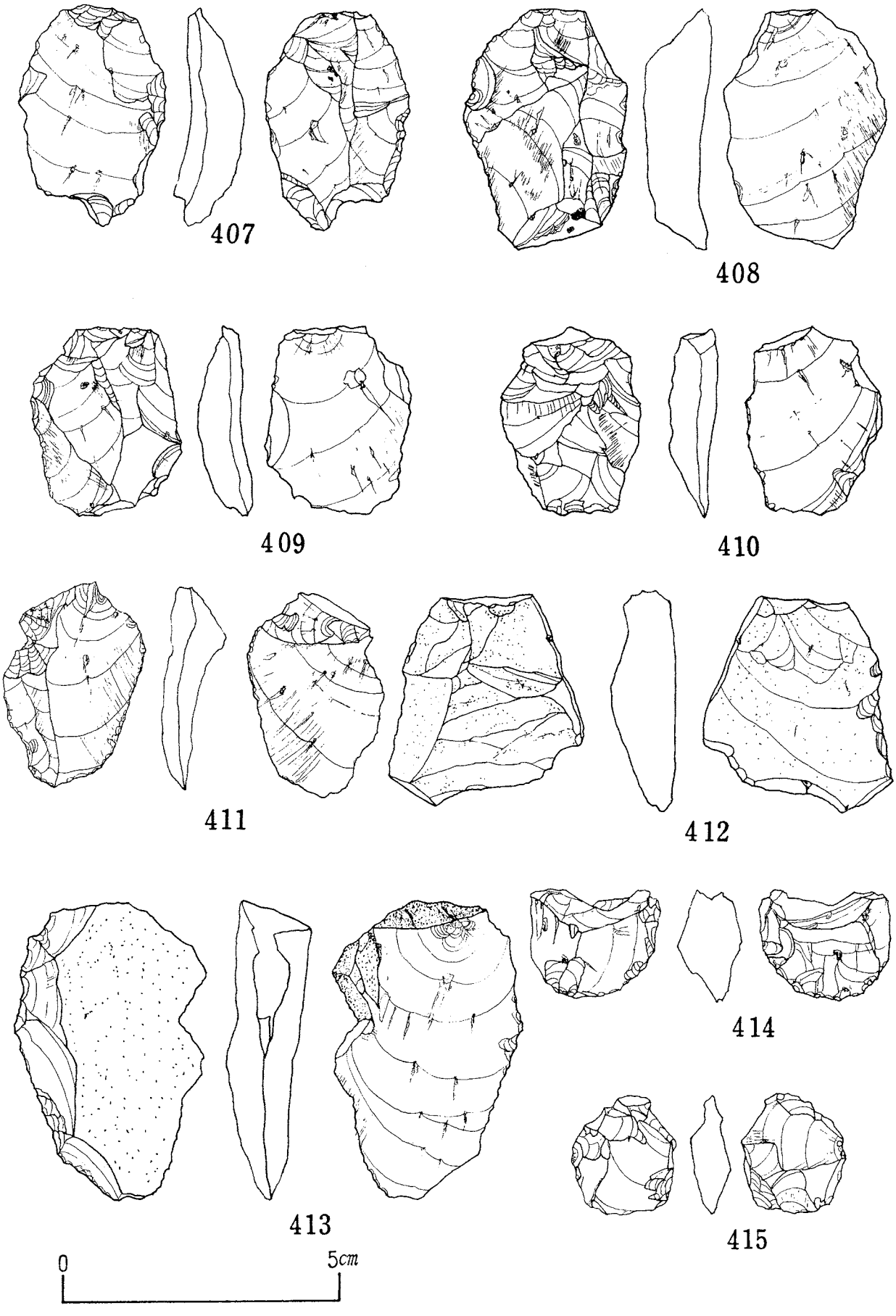

396


397

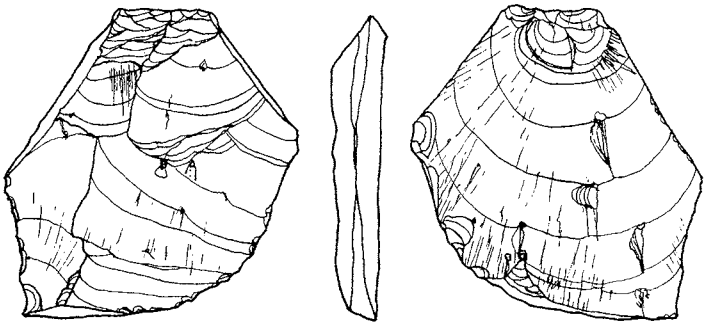
第218図　第II次調査 出土石器実測図（27）



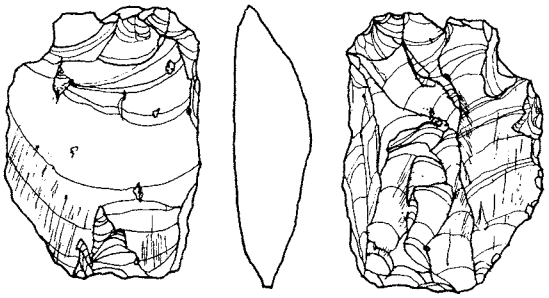

第219図　第II次調査 出土石器実測図（28）



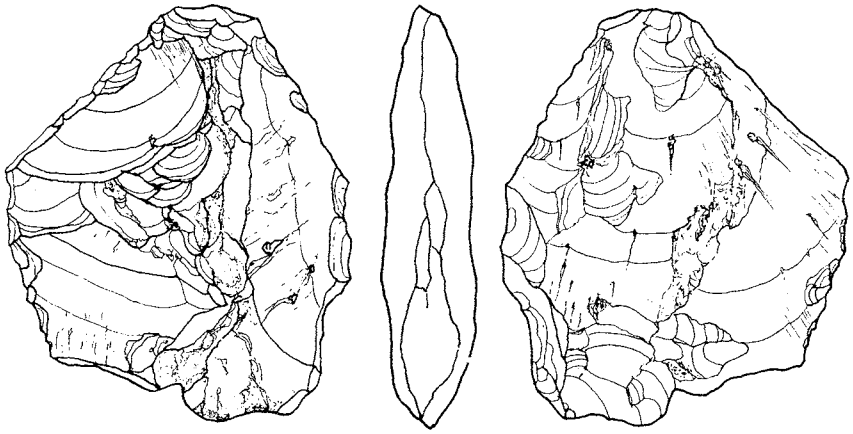

第220図　第II次調査 出土石器実測図（29）



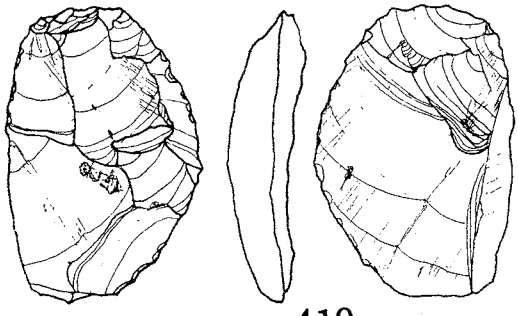
416



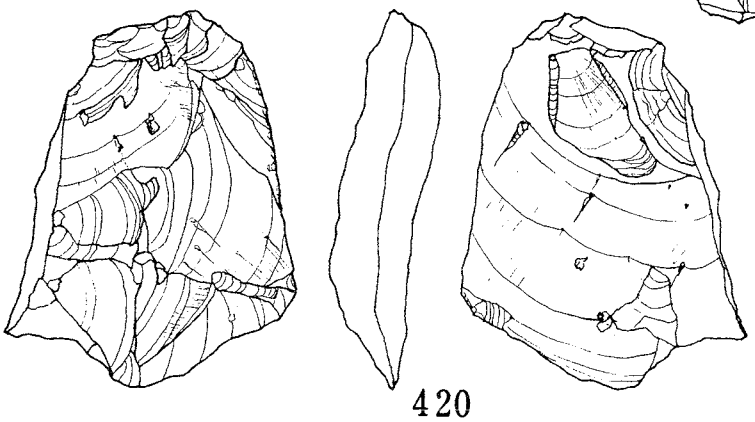
417



418

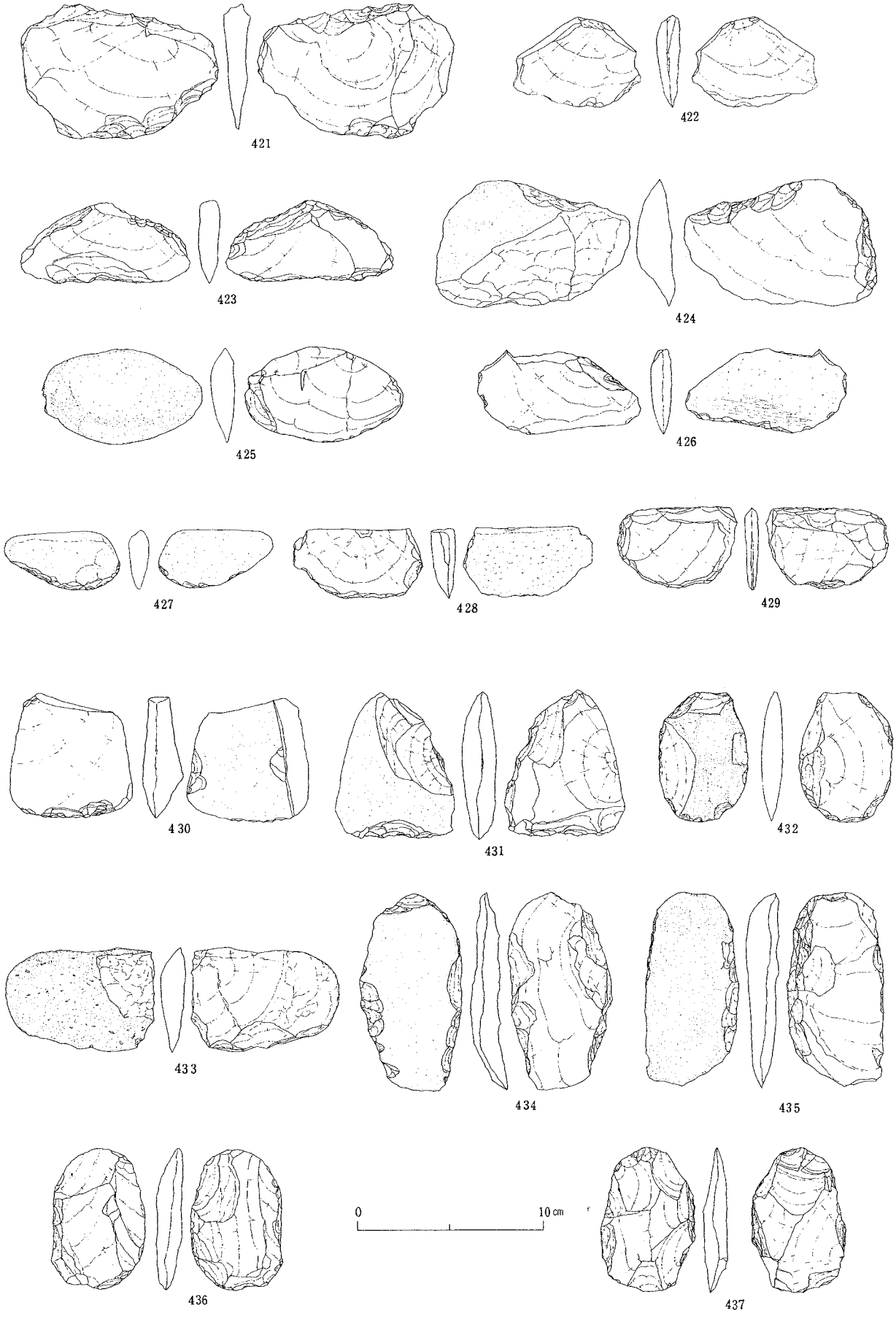


419

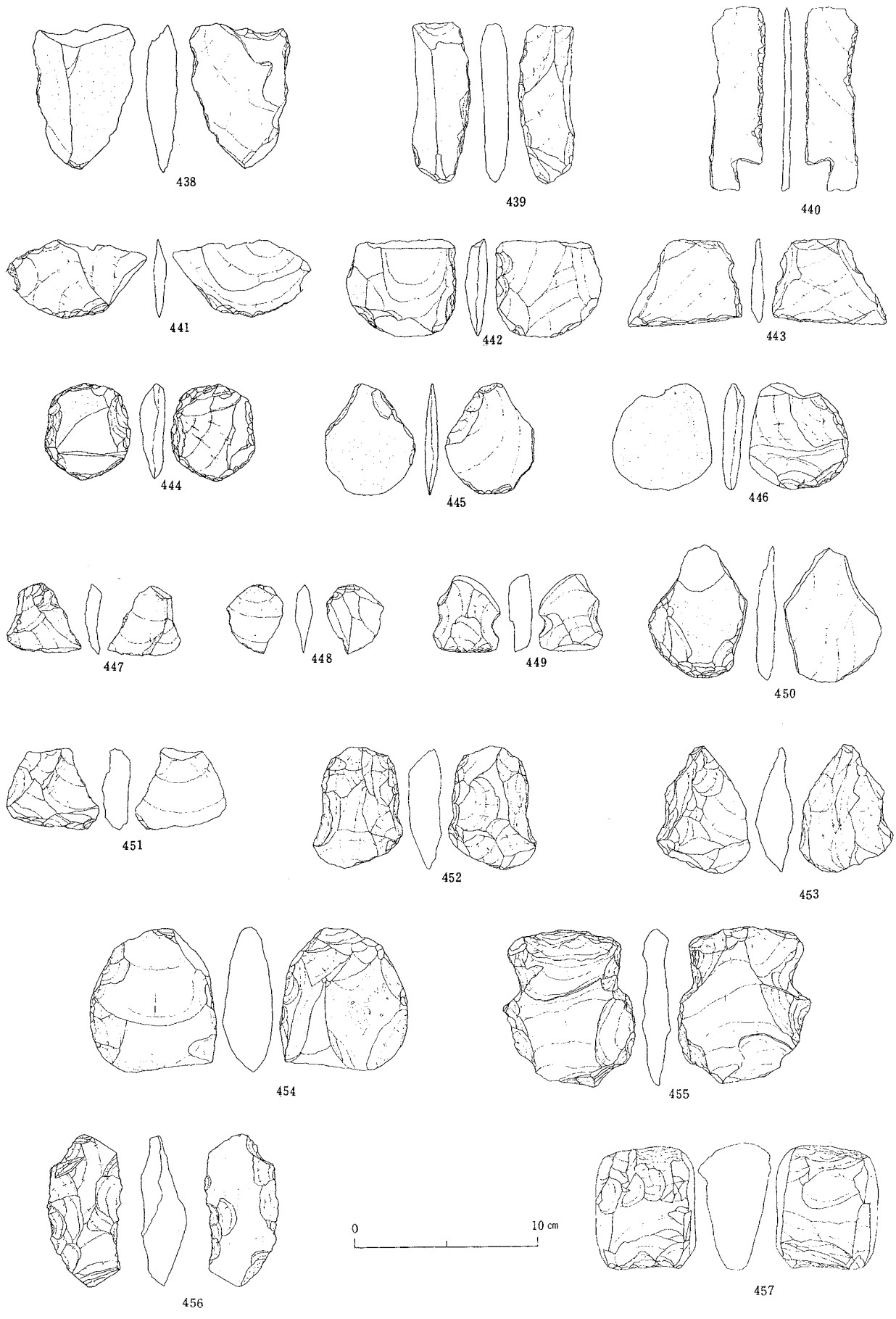


420

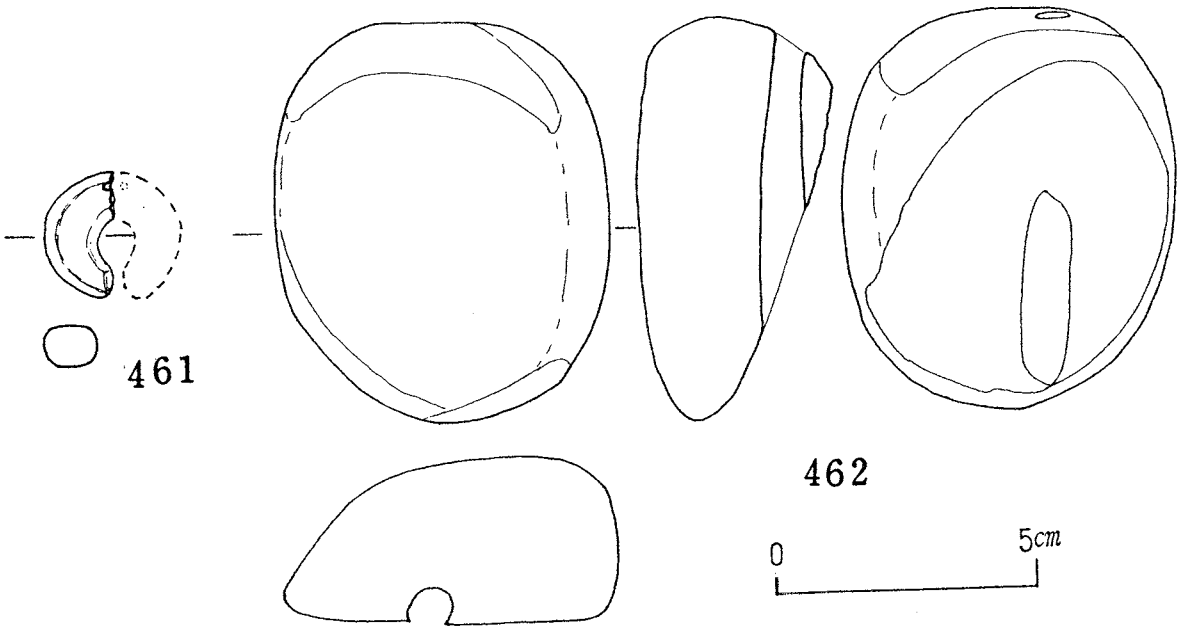
第221図　第II次調査 出土石器実測図（30）




第222図　第Ⅱ次調査 出土石器実測図（31）




第223図　第II次調査 出土石器実測図（32）




第224図　第II次調査 出土石器実測図（33）

（単位mmおよびg）

| 種　別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 石鏃　1 | | | 192－1 | 61 | 19 | 13 | 4 | 0.575 | 黒曜石 | |
| 〃　2 | B | | －2 | 〃 | 15 | 14 | 〃 | 0.5 | 〃 | |
| 〃　3 | ABベルト | | －3 | 〃 | 17 | 13 | 3 | 0.538 | 〃 | 左下部欠損 |
| 〃　4 | | | －4 | 〃 | 21.5 | 15 | 5 | 1.25 | 〃 | |
| 〃　5 | | | －5 | 〃 | 18 | 〃 | 6 | 1.28 | 〃 | |
| 〃　6 | | | －6 | 〃 | 21.5 | 11.5 | 〃 | 1.75 | 〃 | |
| 〃　7 | A | | －7 | 〃 | 30 | 18.0 | 7 | 2.075 | 〃 | 右下部欠損 |
| 〃　8 | B | | －8 | 〃 | 28 | 21 | 6 | 2.08 | 〃 | |
| 〃　9 | | | －9 | 〃 | 33 | 8 | 〃 | 2.525 | 〃 | 右下部欠損 |
| 〃　10 | A | | －10 | 〃 | 21 | 16 | 〃 | 1.825 | 〃 | |
| 〃　11 | A | | －11 | 〃 | 21 | 15 | 6 | 1.08 | 頁岩 | 頭部両脚欠損 |
| 〃　12 | A | | －12 | 〃 | 9 | 14 | 4 | 0.74 | 〃 | 頭部欠損 |
| 〃　13 | B | | －13 | 〃 | 23 | 16 | 5 | 1.075 | 〃 | |
| 〃　14 | | | －14 | 〃 | 15 | 15 | 3 | 0.375 | 黒曜石 | |
| 〃　15 | | | －15 | 〃 | 20 | 17 | 4.5 | 0.75 | 〃 | 左脚欠損 |
| 〃　16 | A | | －16 | 〃 | 26 | 22 | 5 | 0.95 | 〃 | 〃 |
| 〃　17 | | | －17 | 〃 | 21 | 13 | 3 | 0.87 | 〃 | |
| 〃　18 | B | | －18 | 〃 | 17 | 12.5 | 3.5 | 0.45 | 〃 | 頭部欠損 |
| 〃　19 | D | | －19 | 〃 | 20 | 16 | 7 | 1.275 | 〃 | 〃 |
| 〃　20 | | | －20 | 〃 | 22 | 18 | 6 | 1.375 | 〃 | |
| 〃　21 | D | | －21 | 〃 | 16 | 9 | 5 | 0.7 | 〃 | 頭部欠損 |
| 〃　22 | ABベルト | | －22 | 〃 | 21 | 18 | 〃 | 0.8 | 〃 | 頭部左脚欠損 |
| 〃　23 | D | | －23 | 〃 | 26 | 15 | 6 | 1.55 | 〃 | 左脚欠損 |
| 〃　24 | | | －24 | 〃 | 16 | 21 | 5 | 0.95 | 〃 | 頭部欠損 |
| 〃　25 | | | －25 | 〃 | 28 | 18 | 4 | 〃 | 〃 | 右脚欠損 |
| 〃　26 | | | －26 | 〃 | 29 | 8 | 〃 | 1.025 | 〃 | 右半分〃 |
| 〃　27 | | | －27 | 〃 | 32 | 21 | 〃 | 1.65 | 〃 | 右脚部欠損 |
| 〃　28 | | | －28 | 〃 | 23 | 14 | 5 | 1.15 | 〃 | 左脚部〃 |
| 〃　29 | A | | －29 | 〃 | 28 | 20 | 〃 | 1.625 | 〃 | 左脚部欠損 |
| 〃　30 | A | | －30 | 〃 | 24 | 15 | 4.5 | 0.775 | 〃 | |
| 〃　31 | | | －31 | 〃 | 28 | 18 | 5 | 0.95 | 〃 | 右脚部欠損 |
| 〃　32 | | | －32 | 〃 | 34 | 16 | 〃 | 1.525 | チャート | |
| 〃　33 | | | －33 | 〃 | 22 | 〃 | 〃 | 1.12 | 黒曜石 | 両脚部欠損 |
| 〃　34 | B | | －34 | 〃 | 28 | 17 | 6 | 1.675 | 〃 | 〃 |
| 〃　35 | | | －35 | 〃 | 29 | 16 | 〃 | 1.875 | 〃 | 頭部両脚欠損 |
| 〃　36 | D | | －36 | 〃 | 26 | 17 | 6.5 | 1.6 | 〃 | 両脚部欠損 |
| 〃　37 | | | 193－37 | 〃 | 22 | 〃 | 5 | 1.58 | 〃 | 頭部両脚欠損 |
| 〃　38 | | | －38 | 〃 | 21 | 18 | 〃 | 1.48 | 〃 | |
| 〃　39 | ABベルト | | －39 | 〃 | 23 | 19 | 〃 | 1.38 | 〃 | |
| 〃　40 | D | | －40 | 〃 | 25 | 18 | 〃 | 1.25 | 〃 | 左脚欠損 |
| 〃　41 | B | | －41 | 〃 | 28.5 | 16 | 3 | 1.75 | 〃 | 左脚部欠損 |
| 〃　42 | | | －42 | 〃 | 17 | 〃 | 5 | 1.30 | 〃 | 頭部欠損 |
| 〃　43 | | | －43 | 〃 | 22 | 17 | 〃 | 1.375 | 〃 | 左脚部欠損 |
| 〃　44 | CDベルト | | －44 | 〃 | 24 | 25 | 6 | 2.575 | 〃 | 頭部両脚欠損 |
| 〃　45 | | | －45 | 〃 | 36 | 25.5 | 8 | 5.5 | 〃 | 頭部欠損 |
| 〃　46 | D | | －46 | 〃 | 23 | 19 | 6 | 1.95 | 〃 | |

第7表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（1）

（単位mmおよびg）

| 種別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 石鏃 47 | D | | −47 | 61 | 27 | 20 | 8 | 3.2 | 黒曜石 | 頭部欠損 |
| 48 | D | | −48 | 〃 | 25 | 15 | 7 | 1.775 | 〃 | |
| 49 | B | | −49 | 〃 | 26 | 19 | 〃 | 2.9 | 〃 | |
| 50 | | | −50 | 〃 | 28 | 〃 | 3.5 | 2.30 | 頁岩 | |
| 51 | | | −51 | 〃 | 〃 | 〃 | 5.5 | 1.43 | 黒曜石 | 左脚部欠損 |
| 52 | D | | −52 | 〃 | 24.5 | 13.5 | 3.5 | 1.275 | 〃 | |
| 53 | | | −53 | 〃 | 26 | 18 | 6 | 2.7 | 〃 | 右脚下部欠損 |
| 54 | A | | −54 | 〃 | 22.5 | 15 | 4 | 1.07 | 〃 | 両脚部〃 |
| 55 | | | −55 | 〃 | 23 | 〃 | 6 | 2.25 | 〃 | 頭部左脚一部欠損 |
| 56 | | | −56 | 〃 | 23.5 | 11 | 3 | 0.875 | 頁岩 | |
| 57 | | | −57 | 〃 | 28.5 | 19 | 6 | 2.815 | 黒曜石 | |
| 58 | A | | −58 | 〃 | 27.0 | 16 | 4 | 1.60 | 〃 | |
| 59 | | | −59 | 〃 | 16.0 | 19.5 | 6.5 | 1.45 | 〃 | 頭部両脚部欠損 |
| 60 | A | | −60 | 〃 | 25.0 | 19.0 | 4.0 | 1.5 | 〃 | 下部欠損 |
| 61 | | | −61 | 〃 | 23.5 | 20.0 | 5.0 | 1.875 | 〃 | 〃 |
| 62 | A | | −62 | 〃 | 19.0 | 8.5 | 4.0 | 0.56 | 〃 | 〃 |
| 63 | A | | 194−63 | 〃 | 14.0 | 12.0 | 3.0 | 0.47 | 〃 | 〃 |
| 64 | D | | −64 | 〃 | 15.0 | 20.0 | 6.0 | 1.49 | 〃 | 頭部欠損 |
| 65 | C | | −65 | 〃 | 11.0 | 18.0 | 5.0 | 1.30 | 〃 | 両脚欠損 |
| 66 | A | | −66 | 〃 | 24 | 〃 | 4 | 1.45 | 〃 | 両脚左上部一部欠損 |
| 67 | D | | −67 | 〃 | 19 | 19 | 3.5 | 1.375 | 〃 | 両脚欠損 |
| 68 | D | | −68 | 〃 | 35 | 25 | 9 | 6.7 | 〃 | |
| 69 | B | | −69 | 〃 | 36 | 29 | 14 | 10.725 | 〃 | |
| 70 | | | −70 | 〃 | 34 | 28 | 8 | 6.725 | 〃 | |
| 71 | B | | −71 | 〃 | 28.5 | 19.0 | 7.0 | 3.60 | 〃 | |
| 72 | A | | −72 | 〃 | 29 | 24.0 | 7.0 | 5.10 | 〃 | |
| 73 | C | | −73 | 〃 | 33.0 | 18.0 | 4.0 | 2.50 | 〃 | |
| 74 | A | | −74 | 〃 | 30.5 | 21.5 | 7.5 | 5.30 | 〃 | |
| 75 | | | −75 | 〃 | 27.0 | 21.0 | 10.0 | 3.8 | 〃 | |
| 76 | A | | −76 | 〃 | 22.0 | 16.0 | 5.0 | 1.90 | 〃 | |
| 77 | | | −77 | 〃 | 23.0 | 22.0 | 6.0 | 3.77 | 〃 | |
| 78 | D | | −78 | 〃 | 25.5 | 23.0 | 7.0 | 4.20 | 〃 | |
| 79 | | | −79 | 〃 | 30.0 | 22.5 | 14.0 | 6.6 | 〃 | |
| 礫器 1 | ABベルト | | 195−80 | 62 | 121.0 | 82.0 | 63.5 | 736 | 石英安山岩 | |
| 2 | 攪乱 | | −81 | 〃 | 134.0 | 98.5 | 52.0 | 745 | 〃 | |
| 3 | D | | −82 | 〃 | 102.5 | 77.5 | 56.0 | 415 | 頁岩 | |
| 4 | BCベルト | | −83 | 〃 | 74.0 | 74.5 | 31.5 | 223 | | |
| 5 | A | | −84 | 〃 | 64.0 | 80.0 | 27.5 | 149 | | |
| 6 | D−9224 | | −85 | 〃 | 60.0 | 88.5 | 27.0 | 139 | | |
| 7 | A−1858 | | −86 | 〃 | 118.0 | 70.0 | 29.0 | 238 | | |
| 8 | D上層 | | −87 | 〃 | 113.0 | 68.0 | 31.0 | 349 | | |
| 石匙 1 | B−4 | | 196−88 | 〃 | 87.0 | 57.5 | 8.0 | 57 | 頁岩 | |
| 2 | | | −89 | 〃 | 101.5 | 52.0 | 12.0 | 74 | 〃 | |
| 3 | B−3473 | | −90 | 〃 | 57.0 | 37.0 | 10.0 | 20 | 〃 | |
| 4 | A | | −91 | 〃 | 82.0 | 43.0 | 5.0 | 22 | 〃 | |
| 5 | C | | −92 | 〃 | 43.5 | 39.0 | 6.0 | 7 | 〃 | |

第8表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（2）

（単位mmおよびg）

| 種　別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 石匙　6 | A | | −93 | 62 | 55.0 | 44.0 | 9.5 | 24 | 頁岩 | |
| 7 | D | | −94 | 〃 | 72.0 | 31.5 | 6.0 | 20 | 〃 | |
| 8 | D | | −95 | 〃 | 73.0 | 50.0 | 7.5 | 29 | 〃 | |
| 9 | D | | −96 | 〃 | 47.0 | 55.5 | 12.0 | 36 | 〃 | |
| 10 | | | −97 | 〃 | 15.0 | 21.0 | 3.5 | 0.75 | 黒曜石 | |
| 11 | AB ベルト | | −98 | 〃 | 19.0 | 21.0 | 4.0 | 1.25 | 〃 | |
| 12 | C−6006 | | −99 | 〃 | 43.5 | 536.5 | 13.0 | 32 | 頁岩 | |
| 13 | B−3491 | | −100 | 〃 | 44.5 | 58.0 | 10.0 | 28 | 〃 | |
| 14 | B焼土 | | −101 | 〃 | 51.0 | 69.0 | 11.0 | 34 | 砂岩 | |
| 15 | D−91 | | −102 | 〃 | 58.0 | 73.5 | 8.0 | 42 | 頁岩 | |
| 16 | B−3463 | | −103 | 〃 | 48.5 | 52.5 | 9.0 | 27 | 〃 | |
| 17 | B | | 197−104 | 63 | 41.5 | 60.0 | 9.0 | 26 | 〃 | |
| 18 | B−3336 | | −105 | 〃 | 56.0 | 74.0 | 9.0 | 28 | 〃 | |
| 19 | B−3216 | | −106 | 〃 | 53.0 | 64.5 | 12.0 | 36 | 〃 | |
| 20 | B−3481 | | −107 | 〃 | 61.5 | 59.5 | 10.0 | 45 | 〃 | |
| 21 | B | | −108 | 〃 | 61.5 | 68.0 | 16.0 | 61 | 〃 | |
| 22 | ABベルト | | −109 | 〃 | 73.5 | 63.0 | 16.0 | 78 | 〃 | |
| 23 | | | −110 | 〃 | 26.0 | 59.0 | 6.0 | 9 | 黒曜石 | |
| 24 | BCベルト中層 | | −111 | 〃 | 45.0 | 71.5 | 6.5 | 23 | 頁岩 | |
| 25 | A | | −112 | 〃 | 47.5 | 68.0 | 11.0 | 31 | 〃 | |
| 26 | B中 | | −113 | 〃 | 48.5 | 93.5 | 13.0 | 54 | 〃 | |
| 27 | C−6043 | | −114 | 〃 | 59.0 | 107.5 | 13.5 | 74 | 砂岩 | |
| 28 | | | −115 | 〃 | 40.0 | 67.0 | 13.5 | 37 | 頁岩 | |
| 29 | ABベルト下層 | | 図化せず | | 24.0 | 17.0 | 5.5 | 2 | 黒曜石 | |
| 30 | D−9287 | | 〃 | | 31.0 | 36.5 | 10.0 | 12 | 〃 | |
| 31 | D−9309 | | 〃 | | 56.0 | 47.5 | 11.5 | 33 | 頁岩 | |
| 32 | | | 〃 | | 49.0 | 84.5 | 9.5 | 41 | 〃 | |
| 打製石斧1 | B−3493 | I | 198−116 | 63 | 79.0 | 61.5 | 17.0 | 89 | | |
| 2 | A−610 | 〃 | −117 | 〃 | 86.5 | 55.0 | 19.0 | 86 | | |
| 3 | D | 〃 | −118 | 〃 | 88.0 | 49.0 | 13.5 | 82 | | |
| 4 | ABベルト攪乱 | 〃 | −119 | 〃 | 88.0 | 60.0 | 23.5 | 136 | | |
| 5 | D | 〃 | −120 | 〃 | 88.5 | 58.5 | 14.0 | 90 | | |
| 6 | A−1581 | 〃 | −121 | 〃 | 96.0 | 47.5 | 22.0 | 120 | | |
| 7 | B−3452 | 〃 | −122 | 〃 | 107.0 | 53.5 | 17.0 | 114 | | |
| 8 | BCベルト中〜下層 | 〃 | −123 | 〃 | 86.0 | 52.0 | 17.5 | 71 | | |
| 9 | B | 〃 | −124 | 〃 | 82.0 | 57.0 | 21.5 | 113 | | |
| 10 | D−9140 | 〃 | −125 | 〃 | 118.0 | 60.5 | 29.5 | 248 | | |
| 11 | A−533 | 〃 | −126 | 〃 | 126.0 | 63.0 | 21.0 | 170 | | |
| 12 | C−6022 | 〃 | −127 | 〃 | 81.5 | 80.0 | 25.0 | 142 | | |
| 13 | B−3011 | 〃 | −128 | 〃 | 116.0 | 73.0 | 31.0 | 294 | 緑色片岩 | 一部欠損 |
| 14 | A−北崖 | 〃 | −129 | 〃 | 104.0 | 64.0 | 25.0 | 205 | | |
| 15 | D−9343 | 〃 | 図化せず | 〃 | 104.0 | 49.0 | 23.0 | 146 | | |
| 16 | | 〃 | 〃 | | 120.0 | 58.5 | 22.0 | 192 | | |
| 17 | | | | | 91.0 | 45.0 | 28.0 | 109 | 砂岩 | 一部欠損 |
| 18 | B−3477 | 〃 | 〃 | 63 | 99.0 | 51.0 | 28.0 | 199 | | |
| 19 | | 〃 | 〃 | 〃 | 96.5 | 42.5 | 19.5 | 88 | | |

第9表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（3）

（単位mmおよびg）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 打製石斧20 | B－下層 | Ⅰ | 図化せず | | 121.5 | 64.5 | 25.0 | 210 | | |
| 21 | A－1245 | 〃 | 〃 | | 96.0 | 50.0 | 14.0 | 81 | | |
| 22 | BCベルト中層 | 〃 | 〃 | | 81.0 | 49.0 | 21.0 | 101 | | |
| 23 | D－9145 | 〃 | 〃 | | 82.5 | 66.0 | 27.0 | 126 | | |
| 24 | A－1611 | 〃 | 〃 | | 100.0 | 59.5 | 18.0 | 104 | 砂岩 | |
| 25 | A－1634 | 〃 | 〃 | | 88.0 | 56.5 | 12.0 | 76 | 〃 | |
| 26 | A－1623 | 〃 | 〃 | | 70.5 | 45.5 | 21.0 | 74 | 黒色頁岩 | 一部欠損 |
| 27 | B－3339 | 〃 | 〃 | | 84.5 | 50.5 | 25.0 | 108 | 〃 | |
| 28 | A－1264 | 〃 | 〃 | | 72.0 | 61.5 | 17.5 | 84 | 〃 | 一部欠損 |
| 29 | A | 〃 | | 63 | 87.0 | 52.0 | 15.0 | 69 | | |
| 30 | 攪乱 | 〃 | 図化せず | | 117.0 | 53.0 | 18.0 | 130 | 〃 | |
| 31 | A－534 | 〃 | 〃 | | 131.5 | 54.0 | 25.5 | 201 | | |
| 32 | ABベルト | Ⅱ | 198－131 | 64 | 93.5 | 59.0 | 18.0 | 110 | | |
| 33 | B－3330 | 〃 | －132 | 〃 | 63.5 | 67.0 | 16.5 | 82 | | |
| 34 | A－650 | 〃 | 図化せず | | 75.5 | 36.5 | 21.0 | 65 | | |
| 35 | B－3297 | Ⅲ | －133 | 64 | 89.5 | 42.5 | 13.5 | 56 | | |
| 36 | ABベルト上層 | 〃 | －134 | 〃 | 86.0 | 41.0 | 22.5 | 84 | | |
| 37 | ABベルト | 〃 | －135 | 〃 | 89.0 | 55.0 | 28.5 | 155 | | |
| 38 | C－6073 | 〃 | －136 | 〃 | 113.0 | 37.0 | 19.5 | 102 | | |
| 39 | B－3485 | 〃 | －137 | 〃 | 108.0 | 49.0 | 22.5 | 124 | | |
| 40 | ABベルト | 〃 | －138 | 〃 | 104.5 | 49.0 | 22.5 | 129 | | |
| 41 | A－1624 | 〃 | －139 | 〃 | 57.0 | 42.0 | 28.5 | 59 | | |
| 42 | A－615 | 〃 | －140 | 〃 | 220.0 | 74.0 | 30.5 | 698 | 黒色頁岩 | |
| 43 | 攪乱 | 〃 | －141 | 〃 | 101.0 | 57.0 | 26.0 | 149 | | |
| 44 | BCベルト | 〃 | －142 | 〃 | 117.5 | 45.5 | 19.0 | 125 | | |
| 45 | ABベルト | 〃 | －143 | 〃 | 102.5 | 45.0 | 15.0 | 79 | | |
| 46 | A－637 | 〃 | －144 | 〃 | 103.5 | 47.0 | 21.5 | 124 | | |
| 47 | A | 〃 | 200－145 | 〃 | 90.0 | 49.5 | 21.0 | 99 | | |
| 48 | A－1662 | 〃 | －146 | 〃 | 69.5 | 50.0 | 19.0 | 107 | | |
| 49 | BCベルト中層 | 〃 | －147 | 〃 | 96.0 | 44.5 | 13.0 | 70 | | |
| 50 | D－9337 | 〃 | －148 | 〃 | 101.0 | 46.5 | 13.0 | 83 | | |
| 51 | C－6010 | 〃 | －149 | 〃 | 110.5 | 44.0 | 14.0 | 93 | | |
| 52 | A－1664 | 〃 | －150 | 〃 | 99.5 | 42.0 | 14.5 | 84 | | |
| 53 | CD上層 | 〃 | －151 | 〃 | 109.5 | 46.0 | 13.0 | 94 | | |
| 54 | D | 〃 | －152 | 〃 | 98.0 | 51.0 | 22.0 | 130 | | |
| 55 | D－9311 | 〃 | －153 | 〃 | 100.5 | 43.5 | 16.0 | 84 | | |
| 56 | A－1248 | 〃 | －154 | 〃 | 100.0 | 44.0 | 17.0 | 96 | | |
| 57 | CDベルト中層 | 〃 | －155 | 〃 | 96.0 | 53.5 | 16.5 | 100 | | |
| 58 | B－3465 | 〃 | －156 | 65 | 104.0 | 42.0 | 21.5 | 110 | | |
| 59 | 攪乱 | 〃 | －157 | 〃 | 132.0 | 50.0 | 17.5 | 140 | | |
| 60 | B | 〃 | －158 | 〃 | 118.0 | 47.0 | 17.0 | 129 | | |
| 61 | C－6054 | 〃 | －159 | 〃 | 138.0 | 57.0 | 28.5 | 214 | | |
| 62 | A－942 | 〃 | 201－160 | 〃 | 173.5 | 41.5 | 11.0 | 84 | | |
| 63 | A－1815 | 〃 | －161 | 〃 | 92.0 | 43.5 | 17.5 | 172 | | |
| 64 | A | 〃 | －162 | 〃 | 189.5 | 46.0 | 13.5 | 174 | | |
| 65 | B下層 | 〃 | －163 | 〃 | 100.5 | 50.5 | 20.0 | 117 | | |

第１０表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（４）

（単位mmおよびg）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 打製石斧66 | A－1326 | Ⅲ | －164 | 65 | 93.0 | 41.5 | 21.0 | 104 | 砂岩 | 一部欠損 |
| 67 | A･D･C･Bベルト | 〃 | 図化せず | | 87.0 | 50.5 | 16.0 | 99 | | |
| 68 | B | 〃 | 〃 | | 93.0 | 62.0 | 19.0 | 136 | | |
| 69 | B黒色土 | 〃 | 〃 | | 91.0 | 42.0 | 23.0 | 110 | | |
| 70 | CDベルト | 〃 | 〃 | | 90.0 | 43.0 | 32.5 | 159 | | |
| 71 | B住居上面 | 〃 | 〃 | | 91.0 | 48.5 | 17.0 | 100 | | |
| 72 | C－6077 | 〃 | 〃 | | 84.5 | 51.0 | 23.0 | 128 | | |
| 73 | A－754 | 〃 | 〃 | | 85.5 | 50.0 | 19.0 | 111 | | |
| 74 | ADベルト | 〃 | 〃 | | 100.0 | 62.5 | 23.0 | 135 | | |
| 75 | D | 〃 | 〃 | | 61.5 | 51.0 | 25.0 | 72 | | |
| 76 | B－3055 | 〃 | 〃 | | 78.0 | 59.5 | 20.0 | 105 | | |
| 77 | A－1431 | 〃 | 〃 | | 98.0 | 47.0 | 27.0 | 162 | | |
| 78 | ABベルト黒色土 | 〃 | 〃 | | 92.0 | 78.5 | 24.0 | 239 | | |
| 79 | | 〃 | 〃 | | 106.0 | 51.5 | 22.0 | 135 | | |
| 80 | D－9344 | 〃 | 〃 | | 103.0 | 51.0 | 13.5 | 102 | | |
| 81 | A－1787 | 〃 | 〃 | | 98.0 | 52.0 | 14.5 | 88 | | |
| 82 | B下層 | 〃 | 〃 | | 69.5 | 56.0 | 11.5 | 69 | | |
| 83 | A | 〃 | 〃 | | 71.5 | 48.0 | 13.0 | 51 | | |
| 84 | | 〃 | 〃 | | 72.0 | 49.5 | 19.5 | 94 | | |
| 85 | D－9128 | 〃 | 〃 | | 68.5 | 51.0 | 13.0 | 62 | | |
| 86 | | 〃 | 〃 | | 72.0 | 48.0 | 16.0 | 66 | | |
| 87 | CDベルト中層 | 〃 | 〃 | | 78.5 | 51.0 | 11.0 | 59 | | |
| 88 | ABベルト下層 | 〃 | 〃 | | 92.0 | 45.0 | 22.0 | 88 | | |
| 89 | | 〃 | 〃 | | 107.0 | 46.0 | 20.5 | 126 | | |
| 90 | D－9339 | 〃 | 〃 | | 86.0 | 51.5 | 20.0 | 103 | 黒色頁岩 | 一部欠損 |
| 91 | B試掘抗 | 〃 | 〃 | | 80.0 | 50.0 | 23.0 | 110 | | |
| 92 | A－361 | 〃 | 〃 | | 124.5 | 44.5 | 21.0 | 151 | | |
| 93 | A－635 | 〃 | 〃 | | 96.0 | 49.5 | 23.0 | 144 | | |
| 94 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 87.5 | 45.5 | 21.5 | 102 | | |
| 95 | | 〃 | 〃 | | 84.0 | 48.0 | 13.5 | 61 | | |
| 96 | A－北崖 | 〃 | 〃 | | 105.5 | 46.5 | 28.5 | 173 | | |
| 97 | D－9269 | 〃 | 〃 | | 99.5 | 42.0 | 20.5 | 90 | | |
| 98 | | 〃 | 〃 | | 87.0 | 58.0 | 29.5 | 184 | | |
| 99 | ABベルト黒色土 | 〃 | 〃 | | 119.0 | 44.5 | 26.5 | 170 | | |
| 100 | B－3422 | 〃 | 〃 | | 86.0 | 57.0 | 17.0 | 106 | | |
| 101 | A－1648 | 〃 | 〃 | | 75.0 | 55.0 | 27.0 | 149 | | |
| 102 | | 〃 | 〃 | | 120.0 | 54.5 | 23.0 | 169 | | |
| 103 | B下層 | 〃 | 〃 | | 102.5 | 46.0 | 25.0 | 162 | | |
| 104 | D－9380 | 〃 | 〃 | | 75.5 | 39.5 | 14.5 | 53 | | |
| 105 | | 〃 | 〃 | | 111.5 | 48.0 | 20.0 | 119 | | |
| 106 | A－645 | 〃 | 〃 | | 116.0 | 48.0 | 24.5 | 170 | | |
| 107 | BCベルト中層 | 〃 | 〃 | | 96.0 | 37.0 | 17.0 | 70 | | |
| 108 | | 〃 | 〃 | | 94.0 | 54.0 | 16.5 | 107 | | |
| 109 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 93.5 | 47.5 | 22.0 | 119 | | |
| 110 | B下層 | 〃 | 〃 | | 78.5 | 56.0 | 20.5 | 120 | | |
| 111 | B焼土 | 〃 | 〃 | | 116.0 | 49.0 | 22.0 | 176 | | |

第11表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（5）

（単位mmおよびg）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 打製石斧112 | Bーピット | Ⅲ | 図化せず | | 78.0 | 37.0 | 19.0 | 66 | | |
| 113 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 112.0 | 49.0 | 24.5 | 164 | | |
| 114 | B－3322 | 〃 | 〃 | | 48.0 | 42.5 | 14.0 | 44 | | |
| 115 | | 〃 | 〃 | | 85.0 | 59.5 | 15.0 | 103 | | |
| 116 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 72.0 | 57.5 | 20.0 | 105 | | 一部欠損 |
| 117 | B焼土 | 〃 | 〃 | | 73.5 | 54.0 | 23.0 | 106 | | 〃 |
| 118 | A－1806 | 〃 | 〃 | | 59.0 | 69.0 | 23.0 | 121 | | 半　截 |
| 119 | B－3156 | 〃 | 〃 | | 113.0 | 36.0 | 15.0 | 75 | 安山岩 | |
| 120 | A－1263 | 〃 | 〃 | | 90.0 | 37.0 | 22.0 | 86 | 〃 | |
| 121 | A－1348 | 〃 | 〃 | | 102.0 | 55.5 | 20.5 | 183 | 〃 | 一部欠損 |
| 122 | B－3478 | 〃 | 〃 | | 91.5 | 37.5 | 17.5 | 70 | 〃 | 〃 |
| 123 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 69.0 | 46.5 | 24.0 | 91 | 〃 | 〃 |
| 124 | D | 〃 | 〃 | | 112.5 | 53.0 | 31.0 | 222 | 砂岩 | |
| 125 | A－1556 | 〃 | 〃 | | 97.0 | 46.0 | 20.5 | 110 | 黒色頁岩 | |
| 126 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 114.5 | 53.0 | 25.0 | 110 | 砂岩 | 一部欠損 |
| 127 | B－3292 | 〃 | 〃 | | 98.5 | 54.0 | 22.0 | 160 | 〃 | 〃 |
| 128 | B | 〃 | 〃 | | 110.0 | 39.0 | 22.0 | 85 | 〃 | |
| 129 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 95.0 | 42.5 | 19.5 | 126 | 〃 | |
| 130 | D－9039 | 〃 | 〃 | | 84.0 | 47.0 | 25.0 | 167 | 砂岩 | 一部欠損 |
| 131 | A | 〃 | 〃 | | 85.0 | 46.5 | 16.0 | 85 | 〃 | |
| 132 | D－9139 | 〃 | 〃 | | 83.0 | 39.5 | 24.5 | 99 | 〃 | |
| 133 | A－1226 | 〃 | 〃 | | 83.5 | 42.5 | 21.5 | 89 | 〃 | |
| 134 | B－3445 | 〃 | 〃 | | 77.0 | 38.5 | 18.0 | 66 | 〃 | 一部欠損 |
| 135 | B | 〃 | 〃 | | 79.0 | 35.0 | 25.0 | 84 | 〃 | 〃 |
| 136 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 67.5 | 46.0 | 14.5 | 66 | 〃 | 一部欠損 |
| 137 | A－1787 | 〃 | 〃 | | 52.0 | 45.0 | 13.5 | 46 | 〃 | 半　截 |
| 138 | B－攪乱 | 〃 | 〃 | | 52.5 | 52.0 | 12.5 | 63 | 〃 | 〃 |
| 139 | D | 〃 | 〃 | | 86.0 | 48.0 | 24.5 | 136 | 〃 | 一部欠損 |
| 140 | B | 〃 | 〃 | | 129.0 | 47.0 | 20.0 | 151 | 黒色頁岩 | |
| 141 | | 〃 | 〃 | | 124.5 | 49.0 | 19.0 | 139 | 〃 | |
| 142 | A－668 | 〃 | 〃 | | 121.0 | 42.5 | 14.5 | 100 | 〃 | |
| 143 | A－1549 | 〃 | 〃 | | 110.0 | 44.5 | 19.0 | 103 | 〃 | |
| 144 | A－561 | 〃 | 〃 | | 111.0 | 48.0 | 16.5 | 112 | 〃 | |
| 145 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 104.0 | 55.0 | 18.5 | 140 | 〃 | |
| 146 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 106.5 | 52.5 | 23.5 | 130 | 〃 | |
| 147 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 113.5 | 42.5 | 14.5 | 96 | 〃 | |
| 148 | B | 〃 | 〃 | | 108.0 | 51.0 | 21.0 | 156 | 〃 | |
| 149 | B－3218 | 〃 | 〃 | | 100.0 | 46.0 | 20.0 | 120 | 〃 | |
| 150 | D－9316 | 〃 | 〃 | | 107.0 | 43.0 | 15.5 | 94 | 〃 | |
| 151 | B－3313 | 〃 | 〃 | | 109.0 | 56.5 | 14.5 | 115 | 〃 | |
| 152 | B－3184 | 〃 | 〃 | | 107.0 | 43.5 | 16.0 | 108 | 〃 | |
| 153 | A－1744 | 〃 | 〃 | | 100.0 | 48.5 | 17.0 | 100 | 〃 | |
| 154 | A－839 | 〃 | 〃 | | 100.0 | 49.0 | 18.0 | 124 | 〃 | |
| 155 | A－1771 | 〃 | 〃 | | 98.5 | 51.5 | 17.0 | 106 | 〃 | |
| 156 | B－3321 | 〃 | 〃 | | 94.5 | 51.5 | 13.5 | 95 | 〃 | |
| 157 | CDベルト | 〃 | 〃 | | 99.0 | 41.5 | 23.5 | 116 | 〃 | |

第１２表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（６）

（単位mmおよびg）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石 材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 打製石斧158 | D－9147 | Ⅲ | 図化せず | | 102.0 | 41.0 | 16.0 | 74 | 黒色頁岩 | |
| 159 | BCベルト | 〃 | 〃 | | 95.5 | 47.0 | 19.0 | 112 | 〃 | |
| 160 | A－935 | 〃 | 〃 | | 89.5 | 37.5 | 18.5 | 82 | 〃 | |
| 161 | D－9140 | 〃 | 〃 | | 95.5 | 51.0 | 18.0 | 120 | 〃 | |
| 162 | CDベルト | 〃 | 〃 | | 103.0 | 49.0 | 14.0 | 87.0 | 〃 | |
| 163 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 81.0 | 38.0 | 16.5 | 72 | 〃 | |
| 164 | A | 〃 | 〃 | | 89.0 | 44.0 | 16.0 | 87 | 〃 | |
| 165 | B－3321 | Ⅰ | 〃 | | 92.5 | 46.0 | 20.0 | 78 | 〃 | |
| 166 | B | 〃 | 〃 | | 92.5 | 44.0 | 19.0 | 75 | 〃 | |
| 167 | A－1717 | 〃 | 〃 | | 88.0 | 54.0 | 19.0 | 97 | 〃 | |
| 168 | D－9159 | 〃 | 〃 | | 100.0 | 52.0 | 17.0 | 91.0 | 〃 | |
| 169 | A－1095 | 〃 | 〃 | | 95.0 | 49.0 | 16.0 | 80 | 〃 | 一部欠損 |
| 170 | B焼土 | 〃 | 〃 | | 89.5 | 57.0 | 24.0 | 172 | 〃 | |
| 171 | D－9152 | 〃 | 〃 | | 84.5 | 51.5 | 20.0 | 103 | 〃 | 一部欠損 |
| 172 | D－9115 | Ⅲ | 〃 | | 92.5 | 43.0 | 17.0 | 90 | 〃 | |
| 173 | | 〃 | 〃 | | 89.5 | 48.0 | 15.0 | 95 | 〃 | 一部欠損 |
| 174 | A－929 | 〃 | 〃 | | 103.5 | 47.0 | 15.0 | 83 | 〃 | |
| 175 | A－1765 | 〃 | 〃 | | 96.0 | 49.5 | 18.0 | 102 | 〃 | |
| 176 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 98.0 | 44.5 | 16.5 | 95 | 〃 | |
| 177 | | 〃 | 〃 | | 104.0 | 41.0 | 14.5 | 82 | 〃 | |
| 178 | AB攪乱 | 〃 | 〃 | | 94.5 | 38.0 | 19.0 | 84 | 〃 | 一部欠損 |
| 179 | D－9363 | 〃 | 〃 | | 80.0 | 43.5 | 21.0 | 82 | 〃 | |
| 180 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 150.0 | 44.0 | 18.0 | 152 | 〃 | |
| 181 | A | 〃 | 〃 | | 110.0 | 49.0 | 17.0 | 97 | 〃 | |
| 182 | B－3274 | 〃 | 〃 | | 109.5 | 63.0 | 17.0 | 162 | 〃 | 一部欠損 |
| 183 | A－1675 | 〃 | 〃 | | 105.0 | 52.0 | 18.0 | 111 | 〃 | 〃 |
| 184 | B | 〃 | 〃 | | 80.0 | 46.0 | 21.5 | 95 | 〃 | 〃 |
| 185 | | 〃 | 〃 | | 82.0 | 48.5 | 16.0 | 72 | 〃 | 〃 |
| 186 | CDベルト | 〃 | 〃 | | 82.0 | 48.0 | 13.0 | 71 | 〃 | 〃 |
| 187 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 92.5 | 44.0 | 16.5 | 76 | 〃 | |
| 188 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 85.5 | 44.5 | 15.0 | 67 | 〃 | |
| 189 | A | 〃 | 〃 | | 85.0 | 49.0 | 16.5 | 87 | 〃 | |
| 190 | C－6007 | 〃 | 〃 | | 82.5 | 51.0 | 13.0 | 71 | 〃 | 一部欠損 |
| 191 | A－1790 | 〃 | 〃 | | 86.0 | 49.0 | 14.5 | 84 | 〃 | 〃 |
| 192 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 79.5 | 52.0 | 16.5 | 100 | 〃 | 〃 |
| 193 | A－1313 | 〃 | 〃 | | 91.0 | 46.5 | 19.5 | 112 | 〃 | 〃 |
| 194 | B 攪乱 | 〃 | 〃 | | 87.5 | 48.0 | 22.5 | 119 | 〃 | 〃 |
| 195 | B | 〃 | 〃 | | 83.0 | 48.0 | 16.0 | 80 | 〃 | 〃 |
| 196 | A－1762 | 〃 | 〃 | | 87.0 | 39.5 | 18.0 | 72 | 〃 | 〃 |
| 197 | A | 〃 | 〃 | | 83.0 | 40.0 | 14.5 | 56 | 〃 | 〃 |
| 198 | A－1500 | 〃 | 〃 | | 87.5 | 55.0 | 17.5 | 95 | 〃 | 〃 |
| 199 | A－1438 | 〃 | 〃 | | 85.0 | 52.0 | 18.0 | 104 | 〃 | 〃 |
| 200 | A－1435 | 〃 | 〃 | | 83.0 | 45.0 | 21.0 | 98 | 〃 | 〃 |
| 201 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 80.5 | 48.5 | 24.0 | 122 | 〃 | 〃 |
| 202 | C－6058 | 〃 | 〃 | | 84.5 | 40.0 | 15.0 | 61 | 〃 | 〃 |
| 203 | A－1114 | 〃 | 〃 | | 84.5 | 44.0 | 22.0 | 83 | 〃 | 〃 |

第１３表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（７）

（単位㎜および g）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石 材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 打製石斧204 | D－9034 | Ⅳ | 図化せず | | 77.5 | 47.0 | 15.5 | 71 | 黒色頁岩 | |
| 205 | A－1679 | 〃 | 〃 | | 76.5 | 42.5 | 16.5 | 74 | 〃 | |
| 206 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 90.0 | 39.0 | 15.0 | 65 | 〃 | |
| 207 | A－1823 | 〃 | 〃 | | 77.0 | 41.5 | 14.0 | 40 | 〃 | 一部欠損 |
| 208 | ？－焼土 | 〃 | 〃 | | 74.0 | 43.5 | 12.5 | 48 | 〃 | 〃 |
| 209 | B－3484 | 〃 | 〃 | | 83.0 | 51.0 | 16.0 | 81 | 〃 | 〃 |
| 210 | D－9379 | 〃 | 〃 | | 84.5 | 47.0 | 22.0 | 104 | 〃 | |
| 211 | A－1560 | 〃 | 〃 | | 77.5 | 38.5 | 16.0 | 61 | 〃 | |
| 212 | A－1734 | 〃 | 〃 | | 85.5 | 38.5 | 14.0 | 62 | 〃 | 一部欠損 |
| 213 | A－1466 | 〃 | 〃 | | 78.0 | 38.0 | 17.5 | 65 | 〃 | |
| 214 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 82.5 | 43.5 | 11.0 | 54 | 〃 | |
| 215 | B－3387 | 〃 | 〃 | | 112.0 | 42.0 | 17.5 | 90 | 〃 | |
| 216 | B－3293 | 〃 | 〃 | | 96.0 | 45.0 | 16.5 | 84 | 〃 | |
| 217 | A－1741 | 〃 | 〃 | | 75.5 | 43.5 | 13.5 | 69 | 〃 | 一部欠損 |
| 218 | D－9399 | 〃 | 〃 | | 81.0 | 45.5 | 16.0 | 87 | 〃 | 〃 |
| 219 | A－1337 | 〃 | 〃 | | 63.5 | 46.5 | 16.5 | 76 | 〃 | 〃 |
| 220 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 73.5 | 36.0 | 22.5 | 74 | 〃 | 〃 |
| 221 | C－6064 | 〃 | 〃 | | 80.0 | 43.5 | 14.5 | 49 | 〃 | 〃 |
| 222 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 77.5 | 44.0 | 15.5 | 64 | 〃 | |
| 223 | | 〃 | 〃 | | 76.0 | 79.0 | 30.0 | 219 | 〃 | 半　截 |
| 224 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 93.0 | 56.0 | 21.0 | 127 | 〃 | 一部欠損 |
| 225 | D－9243 | 〃 | 〃 | | 78.5 | 53.0 | 20.0 | 107 | 〃 | 〃 |
| 226 | | 〃 | 〃 | | 79.0 | 53.0 | 18.0 | 94 | 〃 | 〃 |
| 227 | AB攪乱 | 〃 | 〃 | | 91.0 | 52.5 | 26.0 | 118 | 〃 | 〃 |
| 228 | A－1761 | 〃 | 〃 | | 101.0 | 43.0 | 17.0 | 76 | 〃 | |
| 229 | AB攪乱 | 〃 | 〃 | | 71.0 | 45.0 | 13.0 | 100 | 〃 | 〃 |
| 230 | A－1657 | 〃 | 〃 | | 80.0 | 37.5 | 20.0 | 72 | 〃 | 〃 |
| 231 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 68.0 | 46.5 | 14.0 | 61 | 〃 | 〃 |
| 232 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 63.0 | 46.5 | 15.0 | 56 | 〃 | 〃 |
| 233 | A－北崖 | 〃 | 〃 | | 105.5 | 49.5 | 12.0 | 67 | 〃 | 〃 |
| 234 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 75.5 | 53.0 | 15.5 | 74 | 〃 | 〃 |
| 235 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 78.0 | 46.0 | 26.5 | 102 | 〃 | 〃 |
| 236 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 58.5 | 45.0 | 11.5 | 46 | 〃 | 半　截 |
| 237 | B－3248 | 〃 | 〃 | | 79.5 | 44.5 | 20.0 | 94 | 〃 | 一部欠損 |
| 238 | A | 〃 | 〃 | | 73.5 | 51.5 | 14.5 | 68 | 〃 | 〃 |
| 239 | D－7131 | 〃 | 〃 | | 66.0 | 53.0 | 22.5 | 91 | 〃 | 〃 |
| 240 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 69.0 | 52.0 | 13.0 | 63 | 〃 | 〃 |
| 241 | | 〃 | 〃 | | 67.5 | 43.5 | 25.0 | 90 | 〃 | 〃 |
| 242 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 54.0 | 54.5 | 21.0 | 74 | 〃 | 〃 |
| 243 | B－3243 | 〃 | 〃 | | 75.5 | 39.5 | 12.0 | 42 | 〃 | 〃 |
| 244 | A | 〃 | 〃 | | 68.0 | 53.5 | 19.0 | 90 | 〃 | 〃 |
| 245 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 70.0 | 49.5 | 15.0 | 66 | 〃 | 〃 |
| 246 | C－6066 | 〃 | 〃 | | 54.0 | 44.0 | 21.5 | 80 | 〃 | 半　截 |
| 247 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 61.5 | 43.5 | 16.0 | 47 | 〃 | 〃 |
| 248 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 54.0 | 51.5 | 12.0 | 41 | 〃 | 〃 |
| 249 | D－9322 | 〃 | 〃 | | 62.0 | 37.0 | 10.0 | 31 | 〃 | 〃 |

第１４表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（８）

（単位mmおよびg）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 打製石斧250 | D攪乱 | Ⅳ | 図化せず | | 50.5 | 43.0 | 10.0 | 34 | 黒色頁岩 | 半　截 |
| 251 | A | | 〃 | | 69.5 | 45.0 | 14.5 | 45 | 〃 | |
| 252 | A－1869 | 〃 | 〃 | | 65.5 | 53.5 | 20.0 | 78 | 〃 | 〃 |
| 253 | B焼土 | 〃 | 〃 | | 56.0 | 51.0 | 17.0 | 53 | 〃 | 〃 |
| 254 | D－9381 | 〃 | 〃 | | 47.0 | 47.0 | 23.5 | 71 | 〃 | 〃 |
| 255 | A－1793 | 〃 | 〃 | | 60.0 | 47.0 | 13.0 | 39 | 〃 | 〃 |
| 256 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 48.0 | 63.5 | 23.0 | 86 | 〃 | 〃 |
| 257 | D－9333 | 〃 | 〃 | | 62.0 | 51.0 | 18.5 | 74 | 〃 | 〃 |
| 258 | A－1828 | 〃 | 〃 | | 62.0 | 46.0 | 23.0 | 73 | 〃 | |
| 259 | D－9256 | 〃 | 〃 | | 49.0 | 45.0 | 18.0 | 51 | 〃 | 〃 |
| 260 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 53.0 | 48.0 | 17.0 | 56 | 〃 | 〃 |
| 261 | B－3203 | 〃 | 〃 | | 40.0 | 54.0 | 14.0 | 44 | 〃 | 〃 |
| 262 | A－916 | 〃 | 〃 | | 58.0 | 38.5 | 10.0 | 30 | 〃 | 〃 |
| 263 | | 〃 | 〃 | | 60.0 | 45.5 | 14.5 | 45 | 〃 | 〃 |
| 264 | A－1722 | 〃 | 〃 | | 73.5 | 39.0 | 25.0 | 102 | 〃 | 一部欠損 |
| 265 | | 〃 | 〃 | | 56.0 | 49.5 | 12.5 | 46 | 〃 | 半　截 |
| 266 | C－6050 | 〃 | 〃 | | 59.0 | 39.0 | 12.5 | 42 | 〃 | 〃 |
| 267 | C－6035 | 〃 | 〃 | | 58.0 | 51.5 | 13.0 | 56 | 〃 | 〃 |
| 268 | B－3278 | 〃 | 〃 | | 56.5 | 43.0 | 16.0 | 51 | 〃 | 〃 |
| 269 | B下層 | 〃 | 〃 | | 48.0 | 51.5 | 16.5 | 50 | 〃 | 〃 |
| 270 | B－3296 | 〃 | 〃 | | 51.0 | 42.0 | 17.0 | 50 | 〃 | 〃 |
| 271 | A－542 | 〃 | 〃 | | 61.5 | 41.0 | 19.0 | 62 | 〃 | 〃 |
| 272 | A | 〃 | 〃 | | 65.5 | 45.5 | 20.0 | 76 | 〃 | 〃 |
| 273 | A－562 | 〃 | 〃 | | 55.0 | 43.0 | 14.0 | 50 | 〃 | 〃 |
| 274 | A－1340 | 〃 | 〃 | | 60.0 | 42.0 | 15.5 | 40 | 〃 | 〃 |
| 275 | A－1617 | 〃 | 〃 | | 61.5 | 36.5 | 23.5 | 69 | 〃 | 〃 |
| 276 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 58.0 | 39.5 | 21.0 | 70 | 〃 | 〃 |
| 277 | B－3311 | 〃 | 〃 | | 59.0 | 43.0 | 19.0 | 64 | 〃 | 〃 |
| 278 | B－3389 | 〃 | 〃 | | 58.0 | 38.5 | 16.0 | 44 | 〃 | 〃 |
| 279 | B | 〃 | 〃 | | 50.0 | 40.0 | 10.0 | 24 | 〃 | 〃 |
| 280 | BCベルト | 〃 | 〃 | | 43.5 | 54.0 | 12.5 | 50 | 〃 | 〃 |
| 281 | D攪乱 | 〃 | 〃 | | 53.5 | 42.0 | 11.0 | 26 | 〃 | 〃 |
| 282 | A－1471 | 〃 | 〃 | | 105.5 | 50.5 | 15.0 | 110 | 頁岩 | |
| 283 | B－3127 | 〃 | 〃 | | 108.0 | 42.0 | 16.0 | 96 | 〃 | |
| 284 | A－1054 | 〃 | 〃 | | 120.0 | 63.5 | 30.0 | 361 | 砂岩 | 一部欠損 |
| 285 | A | 〃 | 〃 | | 124.5 | 63.0 | 25.5 | 216 | 〃 | 〃 |
| 286 | D攪乱 | 〃 | 〃 | | 111.0 | 60.5 | 18.5 | 160 | 〃 | 〃 |
| 287 | ABベルト焼土 | 〃 | 〃 | | 93.0 | 47.0 | 26.0 | 152 | 〃 | 〃 |
| 288 | | 〃 | 〃 | | 89.0 | 48.0 | 20.5 | 120 | 〃 | 〃 |
| 289 | B－下層 | 〃 | 〃 | | 86.0 | 59.0 | 10.0 | 70 | 安山岩 | 〃 |
| 290 | A－1881 | 〃 | 〃 | | 90.5 | 46.0 | 18.5 | 106 | 砂岩 | 〃 |
| 291 | A－1477 | 〃 | 〃 | | 84.0 | 47.5 | 23.5 | 115 | 〃 | 〃 |
| 292 | | 〃 | 〃 | | 82.0 | 43.0 | 17.0 | 73 | 〃 | 〃 |
| 293 | CDベルト中層 | 〃 | 〃 | | 91.5 | 47.0 | 11.5 | 67 | 安山岩 | 〃 |
| 294 | B－3481 | 〃 | 〃 | | 74.0 | 43.0 | 21.0 | 73 | 砂岩 | 〃 |
| 295 | A－1865 | 〃 | 〃 | | 65.5 | 49.0 | 14.5 | 59 | 〃 | 半　截 |

第15表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（9）

（単位㎜および g）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 打製石斧296 | A－1588 | Ⅳ | 図化せず | | 63.5 | 55.0 | 18.0 | 79 | 砂岩 | 半　截 |
| 297 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 58.0 | 62.0 | 30.0 | 120 | 〃 | 〃 |
| 298 | A－1676 | 〃 | 〃 | | 50.0 | 58.0 | 16.0 | 62 | 〃 | 〃 |
| 299 | | 〃 | 〃 | | 50.0 | 42.0 | 12.0 | 38 | 〃 | 〃 |
| 300 | | 〃 | 〃 | | 47.0 | 48.5 | 14.5 | 41 | 〃 | 〃 |
| 301 | CDベルト中層 | 〃 | 〃 | | 44.0 | 41.5 | 15.0 | 39 | 〃 | 〃 |
| 302 | A－1590 | 〃 | 〃 | | 63.0 | 53.0 | 24.0 | 96 | 安山岩 | 半　截 |
| 303 | A－北崖 | 〃 | 〃 | | 63.0 | 49.0 | 17.0 | 64 | 〃 | 〃 |
| 304 | A－1866 | 〃 | 〃 | | 60.0 | 53.0 | 18.0 | 82 | 〃 | 〃 |
| 305 | A－1755 | 〃 | 〃 | | 47.5 | 41.5 | 17.0 | 39 | 〃 | 〃 |
| 306 | C－6031 | 〃 | 〃 | | 97.0 | 51.5 | 22.0 | 126 | 軟質頁岩 | 一部欠損 |
| 307 | B焼土 | 〃 | 〃 | | 84.5 | 58.5 | 27.5 | 204 | 〃 | 〃 |
| 308 | A | 〃 | 〃 | | 66.0 | 46.5 | 25.0 | 80 | 〃 | 半　截 |
| 309 | CDベルト | 〃 | 〃 | | 47.5 | 45.0 | 16.5 | 45 | 〃 | 〃 |
| 310 | A－1640 | 〃 | 〃 | | 47.0 | 40.0 | 17.0 | 32 | 〃 | 〃 |
| 311 | A | 〃 | 〃 | | 109.0 | 55.0 | 27.0 | 224 | 緑色片岩 | 一部欠損 |
| 312 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 110.0 | 55.0 | 28.0 | 260 | 〃 | 〃 |
| 313 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 94.0 | 47.0 | 22.0 | 144 | 〃 | 〃 |
| 314 | D－9354 | 〃 | 〃 | | 97.0 | 42.0 | 25.5 | 118 | 〃 | 〃 |
| 315 | B下層 | 〃 | 〃 | | 58.5 | 40.0 | 13.0 | 43 | 〃 | 半　截 |
| 316 | | 〃 | 〃 | | 78.0 | 44.0 | 16.0 | 73 | 安山岩 | 一部欠損 |
| 317 | D－9273 | 〃 | 〃 | | 70.0 | 50.5 | 19.5 | 89 | 〃 | 〃 |
| 318 | D－9141 | 〃 | 〃 | | 73.5 | 51.0 | 13.0 | 70 | 〃 | 〃 |
| 319 | CDベルト中層 | 〃 | 〃 | | 70.5 | 43.0 | 21.0 | 75 | 〃 | 〃 |
| 320 | | 〃 | 〃 | | 71.0 | 57.0 | 17.0 | 80 | 〃 | 〃 |
| 321 | A | 〃 | 〃 | | 68.0 | 50.0 | 14.5 | 66 | 〃 | 〃 |
| 322 | C | 〃 | 〃 | | 76.5 | 37.0 | 14.5 | 54 | 〃 | 〃 |
| 323 | ADベルト | 〃 | 〃 | | 67.5 | 58.5 | 12.5 | 60 | 〃 | 半　截 |
| 324 | D－9190 | 〃 | 〃 | | 65.5 | 58.0 | 17.5 | 75 | 〃 | 〃 |
| 325 | B－3315 | 〃 | 〃 | | 60.0 | 51.5 | 14.5 | 59 | 安山岩 | 〃 |
| 326 | D－9141 | 〃 | 〃 | | 54.5 | 52.5 | 15.5 | 56 | 〃 | 〃 |
| 327 | A－1788 | Ⅰ | 〃 | | 48.5 | 49.0 | 19.5 | 64 | 〃 | 〃 |
| 328 | D－9393 | Ⅲ | 〃 | | 122.0 | 47.5 | 19.0 | 189 | 黒色頁岩 | 〃 |
| 329 | CDベルト中層 | 〃 | 〃 | | 112.0 | 52.0 | 23.0 | 175 | 〃 | 〃 |
| 330 | B | 〃 | 〃 | | 103.0 | 57.0 | 31.5 | 254 | 〃 | 一部欠損 |
| 331 | B－3208 | 〃 | 〃 | | 96.5 | 67.0 | 28.5 | 241 | 〃 | 〃 |
| 332 | A－1585 | 〃 | 〃 | | 90.0 | 73.0 | 18.0 | 176 | 〃 | 〃 |
| 333 | BCベルト | 〃 | 〃 | | 111.0 | 45.5 | 18.0 | 123 | 〃 | |
| 334 | ABベルト焼土 | 〃 | 〃 | | 108.0 | 47.5 | 16.0 | 104 | 〃 | |
| 335 | D－9326 | 〃 | 〃 | | 101.5 | 45.0 | 17.5 | 105 | 〃 | 一部欠損 |
| 336 | B下層 | 〃 | 〃 | | 100.0 | 46.0 | 25.5 | 181 | 〃 | 〃 |
| 337 | ABベルト北崖最下層 | 〃 | 〃 | | 106.0 | 46.0 | 29.0 | 191 | 〃 | 〃 |
| 338 | D－9001 | 〃 | 〃 | | 91.0 | 57.0 | 26.0 | 175 | 〃 | 〃 |
| 339 | D－9194 | 〃 | 〃 | | 91.0 | 57.0 | 34.5 | 231 | 〃 | 〃 |
| 340 | D－9313 | 〃 | 〃 | | 99.5 | 58.0 | 13.5 | 101 | 〃 | 〃 |
| 341 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 98.0 | 58.5 | 26.5 | 216 | 〃 | 〃 |

第16表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（10）

（単位㎜および g）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 打製石斧342 | A－1607 | Ⅳ | 図化せず | | 78.0 | 78.5 | 22.0 | 179 | 黒色頁岩 | 半　截 |
| 343 | | 〃 | 〃 | | 67.0 | 61.5 | 24.5 | 166 | 〃 | 〃 |
| 344 | A－1625 | 〃 | 〃 | | 99.0 | 45.5 | 28.0 | 139 | | |
| 345 | C－6026 | 〃 | 〃 | | 99.0 | 37.5 | 18.0 | 78 | 〃 | |
| 346 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 88.5 | 47.5 | 17.0 | 105 | 〃 | 一部欠損 |
| 347 | D－9042 | 〃 | 〃 | | 95.0 | 45.0 | 17.0 | 91 | 〃 | |
| 348 | | 〃 | 〃 | | 87.0 | 48.0 | 29.0 | 118 | 〃 | 一部欠損 |
| 349 | A－1750 | 〃 | 〃 | | 87.5 | 51.0 | 14.5 | 104 | 〃 | 〃 |
| 350 | A－376 | 〃 | 〃 | | 93.0 | 51.0 | 25.5 | 118 | 〃 | |
| 351 | B－3394 | Ⅰ | 〃 | | 86.5 | 44.5 | 16.0 | 95 | 〃 | 一部欠損 |
| 352 | A－1793 | Ⅲ | 〃 | | 94.5 | 48.5 | 28.0 | 152 | 〃 | |
| 353 | | 〃 | 〃 | | 85.0 | 67.0 | 13.0 | 88 | 〃 | 半　截 |
| 354 | B焼土 | 〃 | 〃 | | 90.0 | 46.0 | 23.5 | 129 | 〃 | 一部欠損 |
| 355 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 62.5 | 71.0 | 17.0 | 126 | 〃 | 半　截 |
| 356 | A－1650 | 〃 | 〃 | | 88.0 | 49.0 | 25.0 | 118 | 〃 | 一部欠損 |
| 357 | A | 〃 | 〃 | | 79.5 | 47.0 | 20.5 | 113 | 〃 | 〃 |
| 358 | D－9023 | 〃 | 〃 | | 86.5 | 48.5 | 21.0 | 118 | 〃 | 〃 |
| 359 | 1087 | 〃 | 〃 | | 81.0 | 53.5 | 20.0 | 109 | 〃 | |
| 360 | B | 〃 | 〃 | | 87.0 | 46.0 | 13.0 | 59 | 〃 | 一部欠損 |
| 361 | C－6067 | 〃 | 〃 | | 71.0 | 48.0 | 17.0 | 76 | 〃 | 〃 |
| 362 | D | 〃 | 〃 | | 66.5 | 54.5 | 18.0 | 109 | 〃 | 〃 |
| 363 | B－3104 | 〃 | 〃 | | 72.0 | 64.5 | 16.5 | 89 | 〃 | 上下部欠損 |
| 364 | A－1770 | 〃 | 〃 | | 65.5 | 53.0 | 16.5 | 100 | 〃 | 〃 |
| 365 | A | 〃 | 〃 | | 82.5 | 50.0 | 21.5 | 129 | 黒色頁岩 | 一部欠損 |
| 366 | B | 〃 | 〃 | | 80.5 | 51.0 | 10.0 | 58 | 〃 | 〃 |
| 367 | D－9303 | 〃 | 〃 | | 81.5 | 48.5 | 15.0 | 73 | 〃 | 〃 |
| 368 | D | 〃 | 〃 | | 69.0 | 53.0 | 14.5 | 76 | 〃 | 〃 |
| 369 | C－6045 | 〃 | 〃 | | 64.5 | 44.0 | 16.5 | 56 | 〃 | 〃 |
| 370 | C－6049 | 〃 | 〃 | | 68.0 | 55.0 | 14.0 | 89 | 〃 | 〃 |
| 371 | B下層 | 〃 | 〃 | | 79.5 | 38.0 | 16.5 | 63 | 〃 | 〃 |
| 372 | A | 〃 | 〃 | | 61.0 | 50.5 | 15.0 | 54 | 〃 | 半　截 |
| 373 | A－1545 | 〃 | 〃 | | 62.0 | 42.0 | 15.5 | 58 | 〃 | 〃 |
| 374 | A－796 | 〃 | 〃 | | 61.0 | 50.5 | 19.5 | 84 | 〃 | 〃 |
| 375 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 74.0 | 42.0 | 22.0 | 84 | 〃 | 一部欠損 |
| 376 | A－1528 | 〃 | 〃 | | 51.0 | 58.0 | 13.0 | 62 | 〃 | 半　截 |
| 377 | B－3419 | 〃 | 〃 | | 59.5 | 45.0 | 18.5 | 70 | 〃 | 〃 |
| 378 | B－3322 | 〃 | 〃 | | 72.0 | 34.5 | 11.0 | 37 | 〃 | 一部欠損 |
| 379 | BCベルト | 〃 | 〃 | | 61.0 | 36.0 | 20.0 | 55 | 〃 | 〃 |
| 380 | A－1129 | 〃 | 〃 | | 57.5 | 41.0 | 16.0 | 54 | 〃 | 〃 |
| 381 | A | 〃 | 〃 | | 55.0 | 43.0 | 12.0 | 30 | 〃 | 半　截 |
| 382 | A－1647 | 〃 | 〃 | | 44.0 | 59.0 | 16.0 | 62 | 〃 | 〃 |
| 383 | D－9160 | 〃 | 〃 | | 53.0 | 37.5 | 19.0 | 55 | 〃 | 〃 |
| 384 | A | 〃 | 〃 | | 42.5 | 47.0 | 10.5 | 34 | 〃 | 〃 |
| 385 | B焼土 | 〃 | 〃 | | 103.0 | 47.0 | 16.5 | 121 | 〃 | 一部欠損 |
| 386 | A－1692 | 〃 | 〃 | | 108.0 | 47.0 | 18.0 | 126 | | 〃 |
| 387 | B | 〃 | 〃 | | 81.0 | 50.0 | 22.0 | 120 | | 〃 |

第17表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（11）

（単位mm およびg）

| 種　別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 打製石斧388 | B－3324 | Ⅲ | 図化せず | | 90.0 | 52.0 | 16.0 | 113 | | 一部欠損 |
| 389 | D－9276 | 〃 | 〃 | | 79.5 | 47.0 | 22.5 | 125 | | 〃 |
| 390 | B－3023 | 〃 | 〃 | | 74.0 | 50.0 | 21.0 | 104 | | 〃 |
| 391 | B－3167 | 〃 | 〃 | | 65..0 | 45.5 | 18.5 | 74 | | 〃 |
| 392 | A－北崖 | 〃 | 〃 | | 63.5 | 45.5 | 19.0 | 72 | | 〃 |
| 393 | B－3199 | 〃 | 〃 | | 80.0 | 62.0 | 27.0 | 215 | 結晶片岩 | 上下部欠損 |
| 394 | D－9158 | 〃 | 〃 | | 88.0 | 44.0 | 11.0 | 58 | 珪質頁岩 | |
| 395 | B下層 | 〃 | 〃 | | 71..0 | 48.0 | 24.0 | 105 | | |
| 396 | | 〃 | 〃 | | 76.0 | 65.0 | 15.5 | 95 | | |
| 397 | A－1237 | 〃 | 〃 | | 78.5 | 40.0 | 17.0 | 43 | | |
| 398 | A－1264 | 〃 | 〃 | | 71.5 | 54.0 | 21.5 | 64 | | |
| 399 | | 〃 | 〃 | | 75.5 | 36.5 | 16.0 | 63 | 黒色頁岩 | |
| 400 | A | 〃 | 〃 | | 81.5 | 34.0 | 15.5 | 50 | 〃 | |
| 401 | C－6051 | 〃 | 〃 | | 96.0 | 49.5 | 19.0 | 100 | 〃 | |
| 402 | D－9378 | 〃 | 201－165 | 65 | 112.0 | 53.0 | 14.5 | 121 | | |
| 403 | B－3301 | 〃 | －166 | 〃 | 87.5 | 44.5 | 12.0 | 66 | | |
| 404 | D－9279 | 〃 | 図化せず | | 115.0 | 52.0 | 18.0 | 136 | | |
| 405 | A－1298 | 〃 | 〃 | | 93.5 | 54.0 | 11.0 | 84 | | |
| 406 | B－3209 | 〃 | －167 | 65 | 89.0 | 42.5 | 11.5 | 66 | | |
| 407 | A－73 | 〃 | －168 | 〃 | 90.5 | 52.5 | 8.0 | 50 | | |
| 408 | 攪乱 | 〃 | 図化せず | | 99.0 | 54.0 | 10.0 | 63 | 黒色頁岩 | |
| 409 | B－3489 | 〃 | 〃 | | 63.0 | 39.5 | 12.0 | 39 | | |
| 410 | 攪乱 | 〃 | 〃 | | 85.5 | 54.5 | 11.5 | 90 | | |
| 411 | 表土 | 〃 | 〃 | | 98.5 | 48.0 | 8.5 | 48 | | |
| 412 | D－9263 | 〃 | 〃 | | 80.0 | 48.0 | 11.0 | 54 | | |
| 413 | B－3181 | 〃 | 〃 | | 85.0 | 45.5 | 12.5 | 61 | 黒色頁岩 | 一部欠損 |
| 414 | B－焼土 | 〃 | 〃 | | 69.0 | 39.0 | 9.0 | 38 | 〃 | |
| 415 | B－焼土 | 〃 | 〃 | | 60.0 | 38.0 | 8.0 | 28 | 〃 | 半　截 |
| 416 | B－3415 | 〃 | 〃 | | 79.0 | 37.0 | 15.0 | 48 | | |
| 417 | A | 〃 | 〃 | | 51.0 | 29.5 | 12.0 | 26 | 〃 | 半　截 |
| 418 | A－北崖 | 〃 | 〃 | | 47.0 | 49.0 | 7.0 | 28 | | 〃 |
| 419 | B－3179 | 〃 | －169 | 65 | 88.5 | 33.0 | 11.5 | 50 | | |
| 420 | A－622 | 〃 | －170 | 〃 | 86.5 | 27.5 | 14.5 | 45 | | |
| 421 | B黒色下層 | 〃 | －171 | 〃 | 77.5 | 28.5 | 14.0 | 36 | | |
| 422 | 攪乱 | 〃 | －172 | 〃 | 71.5 | 32.0 | 16.0 | 46 | | |
| 423 | A | 〃 | －173 | 〃 | 63.5 | 26.0 | 11.0 | 24 | | |
| 424 | B－3187 | 〃 | －174 | 〃 | 60.5 | 28.5 | 16.0 | 35 | | |
| 425 | Bベルト黒色 | 〃 | －175 | 〃 | 48.0 | 28.5 | 11.0 | 46 | | |
| 426 | A下層 | 〃 | －176 | 〃 | 60.0 | 28.0 | 17.0 | 31 | | |
| 427 | 表土 | 〃 | －177 | 〃 | 56.0 | 33.0 | 18.0 | 40 | | |
| 428 | A－1461 | 〃 | －178 | 〃 | 101.5 | 33.0 | 18.5 | 76 | | |
| 429 | D－9163 | 〃 | －179 | 〃 | 79.0 | 30.0 | 11.0 | 34 | | |
| 430 | B－3138 | 〃 | －180 | 〃 | 88.0 | 27.0 | 15.0 | 40 | | |
| 431 | B－3414 | 〃 | 図化せず | | 106.0 | 31.0 | 17.0 | 69 | | |
| 432 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 89.0 | 28.5 | 20.5 | 64 | | |
| 433 | ABベルト | Ⅳ | 〃 | | 74.5 | 38.5 | 15.5 | 53 | | |

第18表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（12）

（単位mmおよびg）

| 種　別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 打製石斧434 | A | Ⅳ | 202－181 | 66 | 66.0 | 40.5 | 17.0 | 48 | | |
| 435 | B | 〃 | －182 | 〃 | 64.0 | 40.0 | 13.0 | 40 | | |
| 436 | A | 〃 | －183 | 〃 | 63.5 | 49.0 | 22.0 | 66 | | |
| 437 | B | 〃 | －184 | 〃 | 91.0 | 47.0 | 15.5 | 59 | | |
| 438 | A | 〃 | －185 | 〃 | 52.5 | 47.5 | 12.0 | 31 | | |
| 439 | B | 〃 | －186 | 〃 | 70.0 | 37.0 | 15.5 | 52 | | |
| 440 | B | 〃 | －187 | 〃 | 64.0 | 51.5 | 9.0 | 39 | | |
| 441 | 攪乱 | 〃 | －188 | 〃 | 62.0 | 55.0 | 12.0 | 54 | | |
| 442 | | 〃 | －189 | 〃 | 78.5 | 50.0 | 15.0 | 61 | | |
| 443 | B | 〃 | －190 | 〃 | 76.0 | 66.0 | 21.0 | 84 | | |
| 444 | B | 〃 | －191 | 〃 | 77.5 | 48.5 | 12.5 | 57 | | |
| 445 | | 〃 | －192 | 〃 | 76.5 | 44.5 | 14.0 | 57 | | |
| 446 | A | 〃 | 203－193 | | 74.0 | 43.0 | 14.0 | 50 | | |
| 447 | A | 〃 | －194 | 66 | 71.0 | 44.5 | 16.5 | 67 | | |
| 448 | | 〃 | －195 | 〃 | 64.5 | 36.0 | 13.0 | 33 | | |
| 449 | A | 〃 | －196 | 〃 | 72.5 | 43.0 | 17.0 | 54 | | |
| 450 | A | 〃 | －197 | 〃 | 80.5 | 45.5 | 10.0 | 53 | | |
| 451 | B | 〃 | －198 | 〃 | 74.5 | 38.5 | 11.0 | 44 | | |
| 452 | 攪乱 | 〃 | －199 | 〃 | 67.5 | 46.5 | 13.5 | 50 | | |
| 453 | 攪乱 | 〃 | －200 | 〃 | 70.5 | 33.0 | 14.5 | 44 | | |
| 454 | B | 〃 | －201 | 〃 | 77.0 | 37.0 | 15.5 | 49 | | |
| 455 | | 〃 | －458 | 〃 | 68.0 | 35.0 | 10.0 | 35 | | |
| 456 | | 〃 | －459 | 〃 | 49.5 | 34.0 | 10.0 | 19 | | |
| 457 | | 〃 | －460 | 〃 | 75.0 | 53.5 | 19.0 | 86 | | |
| 458 | B | 〃 | 図化せず | | 83.0 | 47.0 | 15.0 | 61.0 | | |
| 磨製石斧　1 | D | | 204－202 | 〃 | 84.0 | 45.0 | 23.5 | 253 | 緑色砂岩 | 頭部欠損 |
| 2 | A | | －203 | 〃 | 89.0 | 31.5 | 10.5 | 125 | 〃 | |
| 3 | ABベルト | | －204 | 〃 | 99.0 | 49.0 | 30.5 | 240 | 〃 | 頭部欠損 |
| 4 | D | | －205 | | 79 | 41 | 30 | 371 | 〃 | 刃部欠損・敲打痕あり |
| 5 | A | | －206 | | 111.5 | 38.5 | 16.5 | 217 | 〃 | 刃部欠損 |
| 6 | A | | －207 | 68 | 136 | 53 | 40 | 385 | 〃 | 〃 |
| 7 | D | | －208 | 〃 | 138.5 | 48 | 38 | 321 | 〃 | 〃 |
| 8 | CDベルト | | －209 | 〃 | 118.5 | 45 | 37 | 215 | 〃 | 〃 |
| 9 | A | | －210 | 〃 | 140 | 47 | 33 | 334 | 〃 | 〃 |
| 10 | A | | －211 | 〃 | 127 | 57.5 | 42.5 | 565 | 〃 | 頭部刃部欠損敲打痕あり |
| 11 | ベルト | | －212 | 〃 | 134.5 | 45 | 33.5 | 319 | 〃 | 刃部欠損 |
| 12 | B | | －213 | 〃 | 102 | 48 | 36 | 253 | 砂岩 | 〃 |
| 13 | ベルト | | 205－214 | 〃 | 124.5 | 60.5 | 37.5 | 335 | 緑色砂岩 | 〃 |
| 14 | B | | －215 | 〃 | 125.5 | 46 | 32.5 | 247 | 〃 | 頭部欠損 |
| 15 | D | | －216 | 〃 | 111 | 50.5 | 38 | 362 | 〃 | 頭部刃部欠損敲打痕あり |
| 16 | | | －217 | 〃 | 99.5 | 52 | 36.5 | 265 | 〃 | 刃部欠損 |
| 17 | ABベルト | | －218 | 〃 | 75.5 | 73.5 | 31 | 129 | 〃 | 〃 |
| 18 | C | | －219 | 〃 | 81.5 | 40.5 | 35.5 | 184 | 〃 | 〃 |
| 19 | A | | －220 | 〃 | 116.0 | 41.0 | 31.5 | 212 | 〃 | 〃 |
| 20 | A | | －221 | 〃 | 96.0 | 50.0 | 34.5 | 196 | 石英閃緑岩 | 頭部欠損 |
| 21 | B | | －222 | 〃 | 71.5 | 51.0 | 31.5 | 181 | 緑色砂岩 | 〃 |

第19表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（13）

（単位mm およびg）

| 種　別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 磨製石斧22 | | | −223 | 68 | 103.5 | 44.5 | 33.0 | 215 | 頁岩 | 刃部欠損 |
| 23 | C | | −224 | 〃 | 61.5 | 47 | 28.5 | 123 | 砂岩 | 頭部欠損 |
| 24 | D−9294 | | −225 | 〃 | 52 | 50 | 28.5 | 96 | 緑色砂岩 | 破片 |
| 25 | A | | −226 | 〃 | 62.5 | 42.5 | 35 | 132 | 〃 | 刃部欠損 |
| 26 | D | | −227 | 〃 | 66 | 45 | 30 | 124 | 〃 | 〃 |
| 27 | A−1827 | | 図化せず | | 62.5 | 43.5 | 35 | 105 | 頁岩 | 〃 |
| 28 | B−3461 | | 〃 | | 85 | 48.5 | 29 | 146 | 砂岩 | 〃 |
| 29 | B−3205 | | 〃 | | 93 | 47 | 25 | 142 | 〃 | 〃 |
| 30 | B−3168 | | 〃 | | 50 | 38.5 | 27.5 | 58 | 〃 | 破片 |
| 31 | B−3170 | | −228 | 68 | 75 | 44.5 | 22.5 | 66 | 緑色砂岩 | 頭部欠損 |
| 32 | B−3387 | | 図化せず | | 122 | 41 | 36.5 | 274 | 〃 | 頭部刃部欠損 |
| 33 | B | | 〃 | | 77 | 52 | 35.5 | 147 | 〃 | 〃 |
| 34 | B焼土 | | 〃 | | 74.5 | 36.5 | 31 | 100 | 砂岩 | 刃部欠損 |
| 35 | B | | 〃 | | 26 | 38 | 28 | 65 | 頁岩 | 破片 |
| 36 | C | | 〃 | | 100 | 39 | 30 | 150 | 緑色砂岩 | 刃部欠損 |
| 37 | A−753 | | 〃 | | 108 | 47.5 | 17.5 | 131 | 砂岩 | 頭部刃部欠損 |
| 38 | D−9186 | | 〃 | | 59.5 | 45.5 | 19.5 | 65 | 緑色砂岩 | 破片 |
| 39 | D−9216 | | 〃 | | 78 | 39 | 17.5 | 61 | 頁岩 | 〃 |
| 40 | A | | 〃 | | 44 | 44 | 11 | 24 | 緑色砂岩 | 〃 |
| 41 | D−9392 | | 〃 | | 88 | 44.5 | 28 | 168 | 頁岩 | 頭部刃部欠損 |
| 42 | | | 〃 | | 70 | 42 | 19 | 66 | 〃 | 破片 |
| 43 | | | 〃 | | 45 | 37 | 30 | 66 | 砂岩 | 〃 |
| 44 | D | | 〃 | | 64.5 | 49.5 | 42.5 | 175 | 緑色砂岩 | 頭部刃部欠損 |
| 45 | | | −229 | 68 | 139 | 65 | 45 | 662 | | |
| 磨石　1 | C−1住 | 円形 | 206−230 | 69 | 119 | 108 | 66 | 1074 | 安山岩 | |
| 2 | D−6069 | 〃 | −231 | 〃 | 95 | 89.5 | 54.5 | 590 | 〃 | |
| 3 | B−3458 | 〃 | −232 | 〃 | 82.5 | 78 | 45.5 | 476 | 〃 | |
| 4 | D−9214 | 〃 | −233 | 〃 | 101.5 | 81.5 | 58 | 617 | 玄武岩 | |
| 5 | B−3427 | 〃 | −234 | 〃 | 96.5 | 85 | 46 | 486 | 〃 | |
| 6 | AB | 〃 | −235 | 〃 | 104.5 | 96.5 | 58.5 | 870 | 安山岩 | |
| 7 | A−127 | 〃 | −236 | 〃 | 80 | 73 | 55.5 | 490 | | |
| 8 | B−3464 | 〃 | −237 | 〃 | 70 | 60 | 33.5 | 190 | | |
| 9 | A−1210 | 〃 | −238 | 〃 | 82.5 | 77 | 38.5 | 338 | | |
| 10 | | 〃 | 図化せず | 〃 | 73 | 64 | 20 | 127 | | |
| 11 | A | 〃 | 〃 | | 32 | 74 | 41.5 | 106 | | 破片 |
| 12 | D−9006 | 〃 | 〃 | | 49.5 | 81 | 30 | 115 | | 〃 |
| 13 | A−1241 | 〃 | 〃 | | 105 | 92 | 74 | 980 | | |
| 14 | ABベルト | 楕円形 | −239 | 69 | 125 | 98 | 49 | 954 | 玄武岩 | |
| 15 | A下層−923 | 〃 | −240 | 〃 | 82.5 | 69.5 | 38 | 298 | | |
| 16 | A−1799 | 〃 | −241 | 〃 | 126 | 99.5 | 43 | 776 | | |
| 17 | B | 〃 | −242 | 〃 | 104.5 | 80 | 41 | 495 | | |
| 18 | A−1713 | 〃 | −243 | 〃 | 102.5 | 84 | 55 | 657 | 玄武岩 | |
| 19 | D−9323 | 〃 | −244 | 〃 | 94 | 68.5 | 50 | 507 | 安山岩 | |
| 20 | A−531 | 〃 | −245 | 〃 | 95 | 94.5 | 69 | 735 | | 半截 |
| 21 | A | 〃 | −246 | 〃 | 52 | 74 | 27 | 143 | | 〃 |
| 22 | ABベルト攪乱 | 〃 | −247 | 〃 | 46.5 | 83.5 | 24 | 130 | | 〃 |

第20表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（14）

（単位mmおよびg）

| 種別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 磨石 23 | D－9234 | 楕円形 | －248 | 69 | 111.3 | 66 | 41.5 | 453 | | |
| 24 | A | 〃 | －249 | 〃 | 97.5 | 75.5 | 60 | 580 | | 半截 |
| 25 | A | 〃 | －250 | 70 | 72.5 | 104.5 | 70.5 | 606 | | 〃 |
| 26 | A－1776 | 〃 | －251 | 〃 | 99 | 68.5 | 23 | 206 | | |
| 27 | A | 〃 | －252 | 〃 | 126.5 | 92 | 61.5 | 903 | | |
| 28 | C－6061 | 〃 | －253 | 〃 | 134.5 | 93 | 46.5 | 860 | | |
| 29 | ABベルト | 〃 | －254 | 〃 | 111.1 | 86 | 56 | 675 | | |
| 30 | | 〃 | －255 | 〃 | 85 | 59 | 29.5 | 193 | | |
| 31 | A－1864 | 〃 | 図化せず | | 70.5 | 95 | 57.5 | 565 | | 半截 |
| 32 | | 〃 | 〃 | | 95 | 81 | 56.3 | 548 | | |
| 33 | B－1住上面 | 〃 | 〃 | | 79 | 64.5 | 56 | 402 | | |
| 34 | | 〃 | 〃 | | 52.5 | 79.5 | 50.5 | 256 | | 半截 |
| 35 | 表土－1023 | 〃 | 〃 | | 35 | 84 | 53 | 186 | | 破片 |
| 36 | B－3685 | 〃 | 〃 | | 55 | 92.5 | 51 | 328 | | 〃 |
| 37 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 40 | 71 | 43 | 170 | | 〃 |
| 38 | D－9265 | 〃 | 〃 | | 79 | 95 | 59 | 642 | | 半截 |
| 39 | A－692 | 〃 | 〃 | | 58 | 97 | 54 | 435 | | 〃 |
| 40 | C－6073 | 〃 | 〃 | | 91.9 | 73 | 35.8 | 332 | | 一部欠損 |
| 41 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 76 | 88.5 | 58 | 463 | | 破片 |
| 42 | B－3026 | 〃 | 〃 | | 69.5 | 112.5 | 60.5 | 617 | | 半截 |
| 43 | A－北崖 | 〃 | 〃 | | 63 | 91 | 55 | 670 | | 〃 |
| 44 | B中層 | 〃 | 〃 | | 71.5 | 90 | 55.8 | 426 | | 〃 |
| 45 | B－3387 | 〃 | 〃 | | 72.5 | 104.5 | 70.5 | 606 | | 〃 |
| 46 | | 〃 | 〃 | | 44.5 | 93 | 69.5 | 320 | | 破片 |
| 47 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 49 | 61.5 | 37 | 170 | | 半截 |
| 48 | A－749 | 〃 | 〃 | | 56.5 | 58 | 79.5 | 168 | | 破片 |
| 49 | D－9367 | 〃 | 〃 | | 42.5 | 71 | 30.5 | 117 | | 〃 |
| 50 | AB | 〃 | 〃 | | 65 | 41 | 52.5 | 137 | | 〃 |
| 51 | A－88 | 〃 | 〃 | | 50.5 | 80 | 58 | 305 | | 〃 |
| 52 | A | 〃 | 〃 | | 35.5 | 92.5 | 30.5 | 170 | | 〃 |
| 53 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 28.5 | 65.8 | 60 | 136 | | 〃 |
| 54 | A－1861 | 〃 | 〃 | | 72.5 | 55.5 | 71.5 | 305 | | 〃 |
| 55 | A | 〃 | 〃 | | 53.5 | 53 | 46.5 | 150 | | 〃 |
| 56 | D－9326 | 〃 | 〃 | | 68.5 | 31 | 75 | 226 | | 〃 |
| 57 | A | 〃 | 〃 | | 101.5 | 76.5 | 55.5 | 555 | | |
| 58 | B－3200 | 〃 | 〃 | | 128 | 91.5 | 61 | 1000 | | |
| 59 | B－3226 | 〃 | 〃 | | 75.5 | 89 | 62.5 | 695 | | 一部欠損 |
| 60 | C－6045 | 箱形 | －256 | 70 | 137.5 | 100.5 | 68.5 | 1400 | 安山岩 | |
| 61 | D－9215 | 〃 | －257 | 〃 | 124 | 88.5 | 57 | 1007 | モンゾニ岩 | |
| 62 | CDベルト中層 | 〃 | －258 | 〃 | 110 | 89.5 | 57 | 876 | 石英モンゾニ岩 | |
| 63 | A | 〃 | －259 | 〃 | 81.5 | 90 | 54 | 441 | 玄武岩 | 半截 |
| 64 | A－北崖 | 〃 | 208－260 | 〃 | 109 | 78.5 | 44 | 671 | 安山岩 | |
| 65 | A－1781 | 〃 | －261 | 〃 | 110 | 65.5 | 37 | 488 | 〃 | |
| 66 | B－3331 | 〃 | －262 | 〃 | 108 | 86 | 63 | 842 | 〃 | |
| 67 | CDベルト | 〃 | －263 | 〃 | 119.5 | 98 | 77 | 1100 | 玄武岩 | |
| 68 | A－1329 | 〃 | －264 | 〃 | 131 | 108 | 79 | 1600 | 〃 | |

第２１表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（１５）

（単位mm およびg）

| 種別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 磨石 69 | A | 箱形 | −265 | 70 | 121.5 | 99.5 | 1150 | 78 | 石英安山岩 | 一部欠損 |
| 70 | D−9356 | 〃 | −266 | 71 | 117 | 87 | 72.5 | 967 | 安山岩 | 一部欠損 |
| 71 | A下層 | 〃 | −267 | 〃 | 76.5 | 76 | 51.5 | 468 | | 半截 |
| 72 | D−9408 | 〃 | −268 | 〃 | 70 | 80 | 50 | 372 | | 〃 |
| 73 | CDベルト中層 | 〃 | −269 | 〃 | 69.5 | 94 | 56 | 552 | | 〃 |
| 74 | D | 〃 | 図化せず | | 41.5 | 95.5 | 55 | 156 | | 〃 |
| 75 | A−892 | 〃 | 〃 | | 43 | 86 | 47 | 251 | | 破片 |
| 76 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 25.5 | 84 | 45.5 | 142 | | 〃 |
| 77 | D−9196 | 〃 | 〃 | | 68.5 | 79.5 | 50 | 346 | | 半截 |
| 78 | A | 〃 | 〃 | | 69 | 95 | 53 | 460 | | 〃 |
| 79 | D−9335 | 〃 | 〃 | | 69.5 | 78.5 | 50 | 334 | | 〃 |
| 80 | A−北崖 | 〃 | 〃 | | 74 | 90 | 58.5 | 479 | | 〃 |
| 81 | A | 〃 | 〃 | | 85 | 80.5 | 46.5 | 491 | | 一部欠損 |
| 82 | A−911 | 〃 | 〃 | | 52.5 | 83.5 | 54 | 260 | | 破片 |
| 83 | B−3067 | 〃 | 〃 | | 56.5 | 81.5 | 62 | 289 | | 半截 |
| 84 | B−3409 | 〃 | 〃 | | 58 | 81 | 46 | 299 | | 〃 |
| 85 | | 不定形 | −270 | 71 | 121.5 | 103 | 55 | 1100 | 安山岩 | |
| 86 | A−北崖 | 〃 | −271 | 〃 | 156 | 117 | 67 | 1600 | 〃 | |
| 87 | A−1857 | 〃 | 209−272 | 〃 | 97.5 | 75.5 | 56 | 580 | | |
| 88 | D−9143 | 〃 | −273 | 〃 | 106 | 84.5 | 44 | 815 | | |
| 89 | D−9196 | 棒状 | −274 | 〃 | 140 | 64.5 | 56 | 765 | 安山岩 | 一部欠損 |
| 90 | D−9228 | 〃 | −275 | 〃 | 100 | 56.5 | 44 | 398 | 玄武岩 | 〃 |
| 91 | ABベルト | 〃 | −276 | 〃 | 136 | 65 | 51.5 | 632 | | 〃 |
| 92 | A | 〃 | −277 | 〃 | 63 | 38 | 28.5 | 96 | | 半截 |
| 93 | A−221 | 〃 | 図化せず | 〃 | 31 | 24.5 | 35 | 42 | | 破片 |
| 94 | | 〃 | 〃 | 〃 | 81 | 32.5 | 28 | 96 | | 〃 |
| 95 | B−3073 | 凹石 | −278 | 〃 | 108 | 108 | 55 | 871 | 石英安山岩 | |
| 96 | A | 〃 | −279 | 〃 | 101 | 92.5 | 54 | 598 | 玄武岩 | |
| 97 | D−9177 | 〃 | −280 | 〃 | 111 | 95 | 59.5 | 764 | 安山岩 | |
| 98 | A−北崖 | 〃 | −281 | 〃 | 124 | 88 | 51.5 | 886 | | |
| 99 | D−9284 | 〃 | −282 | 〃 | 140 | 95.5 | 50 | 713 | 〃 | |
| 100 | B | 〃 | −283 | 〃 | 86.5 | 64 | 42.5 | 288 | 石英閃緑岩 | |
| 101 | A | 〃 | −284 | 〃 | 92 | 64 | 44 | 314 | 安山岩 | |
| 102 | A−1586 | 〃 | 210−285 | 72 | 102 | 75.5 | 39 | 517 | 石英閃緑岩 | |
| 103 | B−3095 | 〃 | −286 | 〃 | 89 | 76 | 40 | 338 | 石英安山岩 | 半截 |
| 104 | D | 〃 | −287 | 〃 | 58.5 | 86 | 43.5 | 300 | 玄武岩 | 〃 |
| 105 | A−1082 | 〃 | −288 | 〃 | 94 | 95 | 56 | 458 | 〃 | 〃 |
| 106 | | 〃 | −289 | 〃 | 142.5 | 120 | 61 | 1200 | | |
| 107 | D−9057 | 〃 | −290 | 〃 | 135 | 78 | 64.5 | 939 | 安山岩 | |
| 108 | B下層 | 〃 | −291 | 〃 | 82.5 | 74 | 58.5 | 231 | — | |
| 109 | D−9325 | 〃 | −292 | 〃 | 32.5 | 67 | 42 | 200 | 安山岩 | |
| 110 | | 箱形 | −293 | 〃 | 116 | 90 | 80 | 1300 | 玄武岩 | |
| 111 | A−北崖 | 円形 | −294 | 〃 | 73 | 67.5 | 55.5 | 386 | | |
| 112 | | 〃 | −295 | 〃 | 59.5 | 67 | 50 | 296 | | |
| 113 | | 不定形 | −296 | 〃 | 117.5 | 54 | 20 | 220 | | |
| 114 | B−3402 | 〃 | −297 | 〃 | 100 | 52.5 | 25 | 136 | | |

第22表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（16）

（単位mm およびg）

| 種別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 磨石 115 | B－3040 | 不定形 | －298 | 72 | 89 | 40 | 26 | 126 | | |
| 116 | | 〃 | －299 | 〃 | 107.0 | 54.0 | 26.0 | 242 | | |
| 117 | A | 〃 | －300 | 〃 | 71.5 | 55.0 | 10.0 | 64 | | 上下部欠損 |
| 石皿 1 | D | | 211－301 | 73 | 143.5 | 110.0 | 97.5 | 2600 | 石英安山岩 | 破片 |
| 2 | D | | －302 | 〃 | 184.0 | 99.0 | 50.0 | 1400 | | 〃 |
| 3 | A－1834 | | －303 | 〃 | 130.5 | 105.0 | 96.0 | 1900 | 石英安山岩 | 〃 |
| 4 | A | | 図化せず | | 114.0 | 78.0 | 65.5 | 689 | | 〃 |
| 5 | A | | 〃 | | 119.5 | 92.5 | 84.0 | 1100 | | 〃 |
| 6 | | | 〃 | | 184.0 | 99.5 | 50.0 | 1200 | | 〃 |
| 7 | | | 〃 | | 107.5 | 104.5 | 46.0 | 720 | | 〃 |
| 8 | D | | 〃 | | 96.0 | 94.0 | 73.0 | 939 | | 〃 |
| 9 | | | 〃 | | 103.0 | 68.5 | 36.0 | 436 | | 〃 |
| 石棒 1 | D－9405 | | －304 | 73 | 107.5 | 118.5 | 106.0 | 2200 | | 下部欠損 |
| 2 | A | | －305 | 〃 | 149.7 | 122.0 | 123.0 | 3400 | | 〃 |
| 石錘 1 | D | | 212－306 | 〃 | 62.0 | 47.0 | 19.0 | 75 | 石英閃緑岩 | |
| 2 | | | －307 | 〃 | 72.0 | 55.0 | 19.0 | 105 | 〃 | |
| 3 | ABベルト | | －308 | 〃 | 65.0 | 66.0 | 21.0 | 90 | 安山岩 | |
| 4 | A | | －309 | 〃 | 68.0 | 55.5 | 23.0 | 132 | | |
| 5 | D | | －310 | 〃 | 40.0 | 29.0 | 10.0 | 19 | 黒色頁岩 | |
| 6 | B | | －311 | 〃 | 41.0 | 39.5 | 12.0 | 25 | 〃 | |
| 7 | A | | －312 | 〃 | 43.0 | 39.0 | 13.0 | 25 | 軟質頁岩 | |
| 8 | A | | －313 | 〃 | 51.0 | 46.0 | 19.0 | 40 | 〃 | 一部欠損 |
| 9 | B | | －314 | 〃 | 53.0 | 47.0 | 17.0 | 50 | | |
| 10 | A | | －315 | 〃 | 61.5 | 49.0 | 17.0 | 70 | 安山岩 | |
| 11 | A | | －316 | 〃 | 55.0 | 54.0 | 18.0 | 90 | 〃 | 半截 |
| 12 | A | | －317 | 〃 | 56.0 | 47.0 | 21.0 | 75 | 〃 | |
| 13 | A | | －318 | 〃 | 60.0 | 56.0 | 18.0 | 85 | 〃 | |
| 14 | A | | －319 | 〃 | 61.0 | 59.0 | 18.0 | 90 | 砂岩 | |
| 15 | D | | －320 | 〃 | 65.0 | 54.0 | 17.0 | 70 | 緑色岩類 | |
| 16 | ABベルト | | －321 | 〃 | 66.0 | 62.0 | 15.0 | 108 | 中世代火成岩 | |
| 17 | I | | －322 | 〃 | 70.5 | 53.0 | 23.5 | 111 | | 一部欠損 |
| 18 | D | | －323 | 〃 | 61.0 | 55.0 | 17.0 | 75 | 安山岩 | |
| 19 | A | | －324 | 74 | 66.0 | 62.0 | 15.0 | 90 | 石英閃緑岩 | |
| 20 | D－3341 | | －325 | 〃 | 76.5 | 52.5 | 18.0 | 75 | | |
| 21 | A | | －326 | 〃 | 80.0 | 51.0 | 25.0 | 120 | 緑色岩類 | |
| 22 | A | | －327 | 〃 | 70.0 | 64.0 | 20.0 | 63 | 中世代火成岩 | |
| 23 | A | | －328 | 〃 | 86.0 | 65.0 | 15.5 | 120 | 石英安山岩 | |
| 24 | A | | －329 | 〃 | 63.0 | 38.0 | 19.0 | 63 | 黒色頁岩 | 半截 |
| 25 | | | －330 | 〃 | 73.0 | 51.0 | 10.0 | 61.5 | | |
| 26 | A | | －331 | 〃 | 77.0 | 50.0 | 18.0 | 90 | 砂岩 | 一部欠損 |
| 27 | | | －332 | 〃 | 71.5 | 52.0 | 16.0 | 93 | 〃 | |
| 28 | A | | －333 | 〃 | 44.0 | 64.0 | 15.0 | 83 | 安山岩 | 半截 |
| 29 | B | | －334 | 〃 | 39.0 | 67.0 | 22.0 | 70 | 〃 | 〃 |
| 30 | B－3295 | | －335 | 〃 | 49.0 | 68.0 | 13.0 | 80 | 砂岩 | |
| 31 | | | －336 | 〃 | 52.5 | 57.5 | 29.0 | 61 | | |
| 32 | A | | －337 | 〃 | 83.5 | 68.0 | 21.0 | 190 | 砂岩 | |

第23表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（17）

（単位mm およびg）

| 種　別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 石錘　33 | ＡＢベルト | | －338 | 74 | 74.0 | 64.0 | 15.0 | 120 | 砂岩 | |
| 34 | ＡＤベルト | | －339 | 〃 | 69.0 | 63.0 | 21.0 | 120 | 安山岩 | |
| 35 | Ｂ－3444 | | －340 | 〃 | 57.0 | 46.0 | 20.0 | 70 | | |
| 円版状石器1 | ＡＢベルト | | －341 | 〃 | 110 | 75 | 17 | 195 | 頁岩 | |
| 2 | Ａ－1681 | | －342 | 〃 | 97 | 87.5 | 18 | 165 | 砂岩 | |
| 3 | Ａ－1120 | | －343 | 〃 | 62.5 | 51 | 17 | 81 | 〃 | |
| 4 | Ａ | | －344 | 〃 | 78 | 59 | 17 | 102 | 安山岩 | |
| 5 | | | －345 | 〃 | 59 | 42 | 9.5 | 31 | 砂岩 | |
| 6 | Ｂ | | －346 | 〃 | 73 | 57.5 | 20 | 122 | 石英安山岩 | |
| 7 | Ｂ－3406 | | －347 | 〃 | 64 | 50 | 19 | 77 | 石英閃緑岩 | |
| 8 | Ｄ－9170 | | －348 | 〃 | 67 | 65.5 | 18 | 99 | 軟質頁岩 | |
| 9 | Ａ－1674 | | －349 | 〃 | 64.5 | 56.5 | 20 | 100 | 石英安山岩 | |
| 10 | Ｂ | | －350 | 〃 | 55 | 42.5 | 12.5 | 43 | 凝灰質頁岩 | |
| 11 | Ａ－1199 | | －351 | 〃 | 50 | 45 | 12.5 | 34 | 砂岩 | |
| 12 | Ａ | | －352 | 75 | 70 | 50.5 | 15.5 | 81 | 凝灰質頁岩 | |
| 13 | Ａ－1012 | | －353 | 〃 | 64 | 51 | 19.5 | 94 | 石英安山岩 | |
| 14 | Ｄ | | 215－354 | 〃 | 52.5 | 73 | 19 | 79 | | |
| 15 | Ｂ | | －355 | 〃 | 60 | 92 | 19.5 | 109 | | |
| 16 | ＡＢベルト | | －356 | 〃 | 52.5 | 71.5 | 16 | 81 | | |
| 17 | Ａ | | －357 | 〃 | 52 | 80 | 24 | 103 | | |
| 18 | Ｂ | | －358 | 〃 | 55.5 | 69 | 16 | 70 | | |
| 19 | Ａ | | －359 | 〃 | 53.5 | 65 | 15 | 69 | | |
| 20 | Ａ | | －360 | 〃 | 52.5 | 65.5 | 15 | 65 | | |
| 21 | Ｂ | | －361 | 〃 | 49.5 | 69 | 16 | 59 | | |
| 22 | Ａ | | －362 | 〃 | 48 | 61 | 17 | 60 | | |
| 23 | Ｂ | | －363 | 〃 | 48 | 66 | 11 | 51 | | |
| 24 | Ａ | | －364 | 〃 | 50 | 66 | 14.5 | 51 | | |
| 25 | ＡＢベルト | | －365 | 〃 | 44 | 67.5 | 13.5 | 36 | | |
| 26 | 表土 | | －366 | 〃 | 52.5 | 71.0 | 17.5 | 65 | | |
| 27 | Ｂ | | －367 | 〃 | 52.5 | 58.0 | 20.5 | 71 | | |
| 28 | Ａ－1640 | | 図化せず | | 47.5 | 47.0 | 11.0 | 40 | | |
| 29 | Ｂ | | 〃 | | 49.0 | 39.0 | 12.5 | 26 | | |
| 30 | Ｂ焼土 | | 〃 | | 50.5 | 57.5 | 12.0 | 44 | | |
| 31 | | | 〃 | | 48.0 | 41.0 | 12.5 | 27 | | |
| 各種石器1 | | Ⅰ類 | 216－368 | 75 | 49.0 | 20.5 | 5.5 | 5.7 | 黒曜石 | |
| 2 | | 〃 | －369 | 〃 | 40.0 | 17.0 | 9.0 | 4.8 | 〃 | |
| 3 | | 〃 | －370 | 〃 | 32.0 | 19.5 | 5.0 | 3.0 | 〃 | |
| 4 | | 〃 | －371 | 〃 | 49.0 | 14.5 | 11.0 | 5.9 | 〃 | |
| 5 | | 〃 | －372 | 〃 | 28.5 | 25.0 | 5.0 | 3.7 | 〃 | |
| 6 | | 〃 | －373 | 〃 | 27.0 | 25.0 | 7.0 | 4.6 | 〃 | |
| 7 | | 〃 | －374 | 〃 | 27.5 | 19.0 | 9.5 | 4.9 | 〃 | |
| 8 | | 〃 | －375 | 〃 | 27.0 | 34.0 | 9.5 | 6.6 | 〃 | |
| 9 | Ａ | 〃 | －376 | 〃 | 35.5 | 26.5 | 8.0 | 4.7 | 〃 | |
| 10 | Ａ | 〃 | －377 | 〃 | 32.5 | 19.0 | 8.0 | 3.6 | 〃 | |
| 11 | Ｂ | 〃 | －378 | 〃 | 27.5 | 32.0 | 10.5 | 8.7 | 〃 | |
| 12 | Ａ | 〃 | 217－379 | 〃 | 53.0 | 24.0 | 13.0 | 12.2 | 〃 | |

第２４表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（１８）

（単位mm およびg）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 各種石器13 | A | Ⅰ類 | −380 | 75 | 44.0 | 20.0 | 9.0 | 6.6 | 黒曜石 | |
| 14 | C | 〃 | −381 | 〃 | 39.0 | 27.0 | 10.0 | 6.5 | 〃 | |
| 15 | | 〃 | −382 | 〃 | 44.0 | 26.5 | 11.0 | 13.2 | 〃 | |
| 16 | | 〃 | −383 | 〃 | 33.0 | 19.0 | 8.0 | 3.9 | 〃 | |
| 17 | | 〃 | −384 | 〃 | 45.0 | 24.5 | 8.5 | 9.2 | 〃 | |
| 18 | A | 〃 | −385 | 〃 | 35.0 | 22.0 | 6.5 | 4.7 | 〃 | |
| 19 | C | 〃 | −386 | 〃 | 41.0 | 25.0 | 5.5 | 4.6 | 〃 | |
| 20 | | 〃 | 218−387 | 〃 | 27.5 | 18.5 | 8.5 | 3.7 | 〃 | |
| 21 | B | 〃 | −388 | 〃 | 20.0 | 23.0 | 9.0 | 3.4 | 〃 | |
| 22 | | 〃 | −389 | 〃 | 20.5 | 28.0 | 5.5 | 3.1 | 〃 | |
| 23 | D | 〃 | −390 | 〃 | 29.0 | 22.5 | 8.0 | 4.2 | 〃 | |
| 24 | | 〃 | −391 | 〃 | 32.5 | 18.0 | 8.0 | 4.1 | 〃 | |
| 25 | | 〃 | −392 | 〃 | 21.0 | 32.0 | 8.5 | 5.6 | 〃 | |
| 26 | | 〃 | −393 | 〃 | 32.5 | 22.5 | 8.0 | 5.4 | 〃 | |
| 27 | | | −394 | 〃 | 34.0 | 27.0 | 11.0 | 9.8 | 〃 | |
| 28 | B | | −395 | 〃 | 33.0 | 24.5 | 15.0 | 11.6 | 〃 | |
| 29 | A | | −396 | 〃 | 19.5 | 21.5 | 9.0 | 3.7 | 〃 | |
| 30 | A−1762 | | −397 | 〃 | 21.5 | 25.0 | 9.0 | 4.4 | 〃 | |
| 31 | A | Ⅰ類 | 219−398 | 76 | 48.0 | 30.5 | 9.0 | 9.9 | 〃 | |
| 32 | | 〃 | −399 | 〃 | 42.0 | 29.0 | 9.5 | 9.1 | 〃 | |
| 33 | | 〃 | −400 | 〃 | 41.5 | 34.0 | 11.5 | 12.1 | 〃 | |
| 34 | | 〃 | −401 | 〃 | 24.0 | 17.0 | 8.0 | 2.8 | 〃 | |
| 35 | | 〃 | −402 | 〃 | 22.5 | 18.0 | 9.0 | 3.6 | 〃 | |
| 36 | ABベルト | 〃 | −403 | 〃 | 29.5 | 38.0 | 11.5 | 9.1 | 〃 | |
| 37 | A | 〃 | −404 | 〃 | 35.0 | 28.0 | 10.0 | 9.0 | 〃 | |
| 38 | | 〃 | −405 | 〃 | 29.5 | 33.0 | 9.5 | 7.4 | 〃 | |
| 39 | | 〃 | −406 | 〃 | 29.0 | 29.5 | 8.5 | 7.1 | 〃 | |
| 40 | | 〃 | 220−407 | 〃 | 39.0 | 26.0 | 10.0 | 9.0 | 〃 | |
| 41 | | 〃 | −408 | 〃 | 44.0 | 28.5 | 15.0 | 13.7 | 〃 | |
| 42 | D | 〃 | −409 | 〃 | 34.0 | 25.0 | 10.0 | 8.1 | 〃 | |
| 43 | A・B・C・Dベルト | 〃 | −410 | 〃 | 33.5 | 25.0 | 10.0 | 7.1 | 〃 | |
| 44 | | 〃 | −411 | 〃 | 37.5 | 23.5 | 10.0 | 5.1 | 〃 | |
| 45 | | 〃 | −412 | 〃 | 35.5 | 34.0 | 12.5 | 14.3 | 〃 | |
| 46 | | 〃 | −413 | 〃 | 54.5 | 33.5 | 15.0 | 19.6 | 〃 | |
| 47 | | 〃 | −414 | 〃 | 19.0 | 23.5 | 11.0 | 4.3 | 〃 | |
| 48 | | 〃 | −415 | 〃 | 21.0 | 19.0 | 6.0 | 2.3 | 〃 | |
| 49 | | 〃 | 221−416 | 〃 | 46.0 | 32.5 | 7.0 | 9.6 | 〃 | |
| 50 | | 〃 | −417 | 〃 | 37.0 | 25.0 | 10.0 | 10.5 | 〃 | |
| 51 | | 〃 | −418 | 〃 | 54.0 | 44.5 | 13.5 | 26.0 | 〃 | |
| 52 | B | 〃 | −419 | 〃 | 38.0 | 25.5 | 6.0 | 7.2 | 〃 | |
| 53 | | 〃 | −420 | 〃 | 50.0 | 35.0 | 12.5 | 18.9 | 〃 | |
| 54 | B攪乱 | Ⅱ類 | 222−421 | 〃 | 104.5 | 71.0 | 14.0 | 105.0 | 安山岩 | |
| 55 | C | 〃 | −422 | 〃 | 69.5 | 50.0 | 13.5 | 47.0 | | |
| 56 | A−1616 | 〃 | −423 | 〃 | 89.0 | 43.0 | 13.5 | 59.0 | | |
| 57 | A−147 | 〃 | −424 | 〃 | 100.0 | 69.5 | 20.5 | 137.0 | 安山岩 | |
| 58 | ABベルト黒色土 | 〃 | −425 | 〃 | 85.0 | 52.0 | 12.5 | 65.0 | 頁岩 | |

第２５表　　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　　（１９）

（単位mm および g ）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 59 | B－3106 | Ⅱ類 | －42[illegible] | 〃 | 88.0 | 44.0 | 13.0 | 56.0 | | |
| 60 | ABベルト | 〃 | －427 | 76 | 62.5 | 32.0 | 10.0 | 21.0 | 安山岩 | |
| 61 | D | 〃 | －428 | 〃 | 70.0 | 38.0 | 12.0 | 36.0 | | |
| 62 | | 〃 | －429 | 〃 | 64.0 | 44.0 | 13.0 | 30.0 | 頁岩 | |
| 63 | D－9280 | 〃 | －430 | 〃 | 67.0 | 67.5 | 22.0 | 103.0 | 砂岩 | |
| 64 | A－1249 | 〃 | －431 | 〃 | 81.5 | 64.7 | 18.0 | 103.0 | | |
| 65 | A－602 | 〃 | －432 | 〃 | 70.5 | 48.5 | 11.5 | 52.0 | | |
| 66 | | 〃 | －433 | 〃 | 79.5 | 57.0 | 14.0 | 71.0 | 頁岩 | |
| 67 | D | 〃 | －434 | 77 | 109.0 | 54.0 | 14.0 | 100.0 | 〃 | |
| 68 | B－3300 | 〃 | －435 | 〃 | 107.5 | 52.0 | 17.0 | 111.0 | 〃 | |
| 69 | A－1147 | 〃 | －436 | 〃 | 77.0 | 50.0 | 12.5 | 60.0 | 〃 | |
| 70 | | 〃 | －437 | 〃 | 78.0 | 51.0 | 13.0 | 56.0 | | |
| 71 | | 〃 | 223－438 | 〃 | 80.0 | 56.0 | 16.0 | 63.0 | | |
| 72 | D－9409 | 〃 | －439 | 〃 | 88.0 | 28.0 | 15.0 | 45.0 | | |
| 73 | A･B･C･Dベルト | 〃 | －440 | 〃 | 102.5 | 29.5 | 4.5 | 20.0 | | |
| 74 | A | 〃 | －441 | 〃 | 75.0 | 43.5 | 9.5 | 22.0 | | |
| 75 | A | 〃 | －442 | 〃 | 54.0 | 58.0 | 11.0 | 40.0 | 頁岩 | |
| 76 | D | 〃 | －443 | 〃 | 63.0 | 47.0 | 6.5 | 28.0 | | |
| 77 | 攪乱 | 〃 | －444 | 〃 | 53.5 | 46.0 | 12.5 | 41.0 | 頁岩 | |
| 78 | A･B･C･Dベルト | 〃 | －445 | 〃 | 61.5 | 48.5 | 8.0 | 24.0 | | |
| 79 | B－下層 | 〃 | －446 | 〃 | 55.0 | 53.5 | 12.5 | 51.0 | 安山岩 | |
| 80 | | 〃 | －447 | 〃 | 39.0 | 40.0 | 8.5 | 11.0 | | |
| 81 | | 〃 | －448 | 〃 | 37.5 | 29.5 | 10.5 | 10.0 | | |
| 82 | ABベルト上層 | 〃 | －449 | 〃 | 43.5 | 36.5 | 14.0 | 25.0 | | |
| 83 | B | 〃 | －450 | 〃 | 74.0 | 51.0 | 11.0 | 51.0 | | |
| 84 | A－1748 | 〃 | －451 | 〃 | 44.5 | 50.5 | 13.5 | 31.0 | | |
| 85 | A－834 | 〃 | －452 | 〃 | 67.5 | 46.0 | 18.0 | 66.0 | 頁岩 | |
| 86 | ABベルト黒色土 | 〃 | －453 | 〃 | 66.0 | 48.5 | 18.0 | 52.0 | | |
| 87 | A－1425 | 〃 | －454 | 〃 | 78.0 | 69.0 | 27.0 | 181.0 | | |
| 88 | A－1838 | 〃 | －455 | 〃 | 85.0 | 69.0 | 9.0 | 86.0 | | |
| 89 | B－3070 | 〃 | －456 | 〃 | 84.0 | 39.5 | 20.5 | 79.0 | 頁岩 | |
| 90 | B－住居面 | 〃 | －457 | 〃 | 68.5 | 55.5 | 38.5 | 211.0 | 砂岩 | |
| 91 | B－3480 | 〃 | 図化せず | | 55.5 | 41.0 | 8.5 | 30.0 | | |
| 92 | A－1251 | 〃 | 〃 | | 65.0 | 41.5 | 8.5 | 29.0 | | |
| 93 | A | 〃 | 〃 | | 60.5 | 60.0 | 12.5 | 64.0 | | |
| 94 | A－1371 | 〃 | 〃 | | 80.0 | 41.5 | 8.0 | 25.0 | | |
| 95 | B－3437 | 〃 | 〃 | | 76.0 | 40.5 | 12.0 | 31.0 | | |
| 96 | D－9175 | 〃 | 〃 | | 103.0 | 39.5 | 10.0 | 50.0 | | |
| 97 | ABベルト黒色土 | 〃 | 〃 | | 54.5 | 39.0 | 13.0 | 35.0 | | |
| 98 | A | 〃 | 〃 | | 52.0 | 42.5 | 12.0 | 32.0 | | |
| 99 | A－1704 | 〃 | 〃 | | 44.5 | 40.5 | 10.5 | 24.0 | | |
| 100 | ABベルト焼土 | 〃 | 〃 | | 51.5 | 26.0 | 10.0 | 14.0 | | |
| 101 | | 〃 | 〃 | | 74.0 | 57.0 | 12.5 | 72.0 | | |
| 102 | B黒色土 | 〃 | 〃 | | 102.0 | 83.0 | 13.0 | 146.0 | | |
| 103 | | 〃 | 〃 | | 83.5 | 67.0 | 11.0 | 65.0 | | |
| 104 | | 〃 | 〃 | | 64.0 | 43.0 | 8.0 | 26.0 | | |

第２６表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（２０）

（単位mm およびg）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 各種石器105 | ＡＢベルト焼土 | Ⅱ類 | 図化せず | | 89.0 | 41.0 | 13.0 | 72.0 | | |
| 106 | Ａ－1710 | 〃 | 〃 | | 79.0 | 42.0 | 15.5 | 61.0 | | |
| 107 | ＡＢベルト黒色土 | 〃 | 〃 | | 45.5 | 32.5 | 9.0 | 14.5 | | |
| 108 | | 〃 | 〃 | | 79.5 | 40.5 | 13.5 | 47.0 | | |
| 109 | | 〃 | 〃 | | 58.5 | 34.0 | 12.0 | 30.0 | 黒色頁岩 | |
| 110 | | 〃 | 〃 | | 50.5 | 26.0 | 9.0 | 9.0 | 黒曜石 | |
| 111 | | 〃 | 〃 | | 36.0 | 33.0 | 9.0 | 13.0 | 〃 | |
| 112 | | 〃 | 〃 | | 35.5 | 35.5 | 7.0 | 9.0 | 〃 | |
| 113 | | 〃 | 〃 | | 55.5 | 25.5 | 12.0 | 10.0 | 〃 | |
| 114 | D | 〃 | 〃 | | 28.0 | 19.0 | 7.0 | 3.0 | 〃 | |
| 115 | | 〃 | 〃 | | 32.5 | 23.5 | 18.0 | 12.0 | 〃 | |
| 116 | | 〃 | 〃 | | 33.5 | 25.5 | 10.0 | 8.0 | 〃 | |
| 117 | C | 〃 | 〃 | | 39.0 | 25.5 | 12.5 | 7.0 | 〃 | |
| 118 | | 〃 | 〃 | | 46.0 | 41.0 | 21.5 | 21.0 | 〃 | |
| 119 | C | 〃 | 〃 | | 48.0 | 30.0 | 1.8 | 16.0 | 〃 | |
| 120 | | 〃 | 〃 | | 27.0 | 22.0 | 9.0 | 5.0 | 〃 | |
| 121 | B | 〃 | 〃 | | 47.0 | 27.0 | 5.5 | 6.3 | 〃 | |
| 122 | | 〃 | 〃 | | 39.0 | 28.0 | 13.5 | 9.7 | 〃 | |
| 123 | | 〃 | 〃 | | 36.0 | 28.5 | 8.0 | 6.5 | 〃 | |
| 124 | | 〃 | 〃 | | 35.0 | 21.0 | 7.0 | 5.5 | 〃 | |
| 125 | D | 〃 | 〃 | | 30.0 | 25.0 | 8.0 | 5.7 | 〃 | |
| 126 | | 〃 | 〃 | | 43.0 | 27.0 | 7.0 | 5.3 | 〃 | |
| 127 | | 〃 | 〃 | | 33.0 | 25.0 | 6.0 | 6.5 | 〃 | |
| 128 | | 〃 | 〃 | | 32.0 | 28.0 | 11.0 | 10.6 | 〃 | |
| 129 | | 〃 | 〃 | | 34.5 | 25.5 | 10.0 | 9 | 〃 | |
| 130 | | 〃 | 〃 | | 36.0 | 27.0 | 4.0 | 4 | | |
| 131 | | 〃 | 〃 | | 46.0 | 21.0 | 12.0 | 6.5 | 〃 | |
| 132 | | 〃 | 〃 | | 40.5 | 25.0 | 10.0 | 8.5 | 〃 | |
| 133 | A | 〃 | 〃 | | 42.0 | 21.0 | 7.0 | 5.8 | 〃 | |
| 134 | | 〃 | 〃 | | 27.0 | 22.0 | 7.0 | 6.0 | 〃 | |
| 135 | | 〃 | 〃 | | 28.5 | 20.0 | 10.0 | 6.5 | 〃 | |
| 136 | | 〃 | 〃 | | 32.0 | 14.0 | 7.0 | 7.3 | 〃 | |
| 137 | | 〃 | 〃 | | 28.0 | 27.0 | 7.0 | 4.5 | 〃 | |
| 138 | B | 〃 | 〃 | | 41.0 | 25.0 | 8.0 | 6.5 | 〃 | |
| 139 | | 〃 | 〃 | | 35.0 | 21.0 | 8.0 | 6.3 | 〃 | |
| 140 | D | 〃 | 〃 | | 26.0 | 20.0 | 6.0 | 3.5 | 〃 | |
| 141 | | 〃 | 〃 | | 35.0 | 21.0 | 8.0 | 4.5 | 〃 | |
| 142 | A | 〃 | 〃 | | 38.0 | 20.0 | 5.0 | 4.5 | 〃 | |
| 143 | | 〃 | 〃 | | 40.0 | 19.0 | 9.0 | 6.5 | 〃 | |
| 144 | | 〃 | 〃 | | 37.0 | 25.5 | 7.0 | 6.5 | 〃 | |
| 145 | | 〃 | 〃 | | 30.0 | 24.0 | 8.5 | 7.8 | 〃 | |
| 146 | | 〃 | 〃 | | 40.0 | 25.0 | 9.0 | 6.3 | 〃 | |
| 147 | | 〃 | 〃 | | 29.5 | 27.0 | 8.0 | 5.8 | 〃 | |
| 148 | | 〃 | 〃 | | 49.0 | 18.0 | 5.0 | 3.85 | 〃 | |
| 149 | B | 〃 | 〃 | | 37.0 | 22.0 | 6.0 | 4.5 | 〃 | |
| 150 | | 〃 | 〃 | | 32.5 | 20.0 | 6.0 | 3.8 | 〃 | |

第２７表　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　（２１）

（単位mm およびg）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 各種石器151 | | Ⅱ類 | 図化せず | | 29.0 | 23.0 | 6.5 | 4.0 | 黒曜石 | |
| 152 | B | 〃 | 〃 | | 29.0 | 22.0 | 8.0 | 4.5 | 〃 | |
| 153 | | 〃 | 〃 | | 24.0 | 23.0 | 6.0 | 3.8 | 〃 | |
| 154 | D | 〃 | 〃 | | 35.0 | 16.0 | 6.0 | 3.3 | 〃 | |
| 155 | | 〃 | 〃 | | 31.0 | 24.0 | 6.0 | 5.0 | 〃 | |
| 156 | A | 〃 | 〃 | | 33.5 | 22.0 | 5.5 | 3.5 | 〃 | |
| 157 | | 〃 | 〃 | | 30.5 | 26.0 | 6.0 | 6.0 | 〃 | |
| 158 | B | 〃 | 〃 | | 31.0 | 21.5 | 4.0 | 3.0 | 〃 | |
| 159 | | 〃 | 〃 | | 30.0 | 17.5 | 10.0 | 3.8 | 〃 | |
| 160 | | 〃 | 〃 | | 27.0 | 22.2 | 6.0 | 3.2 | 〃 | |
| 161 | | 〃 | 〃 | | 35.0 | 16.0 | 8.0 | 3.3 | 〃 | |
| 162 | B | 〃 | 〃 | | 27.5 | 26.5 | 6.5 | 4.0 | 〃 | |
| 163 | ＡＢベルト | 〃 | 〃 | | 24.0 | 19.0 | 6.5 | 2.3 | 〃 | |
| 164 | | 〃 | 〃 | | 23.0 | 22.5 | 4.5 | 3.0 | 〃 | |
| 165 | | 〃 | 〃 | | 42.5 | 12.5 | 10.0 | 4.5 | 〃 | |
| 166 | | 〃 | 〃 | | 39.5 | 8.5 | 8.0 | 2.0 | 〃 | |
| 167 | | 〃 | 〃 | | 27.0 | 16.0 | 7.0 | 2.8 | 〃 | |
| 168 | | 〃 | 〃 | | 32.5 | 21.0 | 6.0 | 3.8 | 〃 | |
| 169 | | 〃 | 〃 | | 39.5 | 19.0 | 7.0 | 4.2 | 〃 | |
| 170 | | 〃 | 〃 | | 26.0 | 18.0 | 9.0 | 4.3 | 〃 | |
| 171 | A | 〃 | 〃 | | 27.0 | 21.0 | 5.0 | 2.8 | 〃 | |
| 172 | | 〃 | 〃 | | 26.5 | 15.5 | 10.0 | 3.8 | 〃 | |
| 173 | | 〃 | 〃 | | 37.5 | 12.5 | 5.5 | 2.3 | 〃 | |
| 174 | | 〃 | 〃 | | 28.5 | 22.0 | 6.0 | 3.0 | 〃 | |
| 175 | A | 〃 | 〃 | | 31.5 | 13.5 | 8.0 | 3.0 | 〃 | |
| 176 | | 〃 | 〃 | | 39.5 | 14.0 | 8.0 | 3.0 | 〃 | |
| 177 | | 〃 | 〃 | | 29.0 | 17.0 | 5.5 | 3.2 | 〃 | |
| 178 | | 〃 | 〃 | | 37.0 | 24.5 | 5.0 | 2.5 | 〃 | |
| 179 | | 〃 | 〃 | | 20.0 | 16.5 | 8.0 | 3.0 | 〃 | |
| 180 | C | 〃 | 〃 | | 22.0 | 19.0 | 5.0 | 1.8 | 〃 | |
| 181 | | 〃 | 〃 | | 27.0 | 15.5 | 4.0 | 2.3 | 〃 | |
| 182 | | 〃 | 〃 | | 25.0 | 20.0 | 6.0 | 2.7 | 〃 | |
| 183 | B | 〃 | 〃 | | 26.0 | 22.0 | 9.0 | 5.0 | 〃 | |
| 184 | A | 〃 | 〃 | | 31.0 | 15.0 | 6.0 | 2.7 | 〃 | |
| 185 | D | 〃 | 〃 | | 27.5 | 21.0 | 5.0 | 3.0 | 〃 | |
| 186 | | 〃 | 〃 | | 27.0 | 12.0 | 6.5 | 2.0 | 〃 | |
| 187 | | 〃 | 〃 | | 35.0 | 16.0 | 8.0 | 3.5 | 〃 | |
| 188 | A | 〃 | 〃 | | 21.0 | 20.0 | 4.0 | 2.0 | 〃 | |
| 189 | | 〃 | 〃 | | 22.5 | 20.0 | 5.0 | 2.4 | 〃 | |
| 190 | | 〃 | 〃 | | 18.0 | 16.0 | 3.5 | 1.0 | 〃 | |
| 191 | | 〃 | 〃 | | 38.0 | 21.5 | 6.0 | 5.8 | 〃 | |
| 192 | | 〃 | 〃 | | 26.5 | 27.5 | 8.0 | 5.5 | 〃 | |
| 193 | | 〃 | 〃 | | 36.5 | 25.0 | 15.5 | 10.5 | 〃 | |
| 194 | A | 〃 | 〃 | | 38.0 | 22.0 | 7.0 | 4.8 | 〃 | |
| 195 | B | 〃 | 〃 | | 29.0 | 23.0 | 8.0 | 5.5 | 〃 | |
| 196 | | 〃 | 〃 | | 35.5 | 33.5 | 9.0 | 10.5 | 〃 | |

第２８表　　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　　（２２）

（単位㎜および g）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石 材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 各種石器197 | D | Ⅱ類 | 図化せず | | 32.5 | 21.0 | 9.5 | 5.5 | 黒曜石 | |
| 198 | | 〃 | 〃 | | 27.5 | 16.0 | 5.5 | 2.7 | 〃 | |
| 199 | | 〃 | 〃 | | 24.5 | 23.0 | 5.0 | 2.8 | 〃 | |
| 200 | | 〃 | 〃 | | 34.5 | 19.0 | 5.5 | 4.6 | 〃 | |
| 201 | | 〃 | 〃 | | 31.0 | 19.5 | 10.0 | 5.5 | 〃 | |
| 202 | B | 〃 | 〃 | | 33.5 | 32.0 | 9.0 | 6.5 | 〃 | |
| 203 | | 〃 | 〃 | | 38.0 | 18.0 | 7.0 | 4.6 | 〃 | |
| 204 | | 〃 | 〃 | | 35.0 | 20.5 | 8.0 | 5.8 | 〃 | |
| 205 | | 〃 | 〃 | | 29.0 | 27.0 | 6.0 | 3.8 | 〃 | |
| 206 | | 〃 | 〃 | | 25.0 | 24.5 | 4.0 | 1.7 | 〃 | |
| 207 | | 〃 | 〃 | | 33.0 | 28.0 | 13.0 | 13.0 | 〃 | |
| 208 | | 〃 | 〃 | | 55.0 | 31.0 | 13.0 | 14.3 | 〃 | |
| 209 | | 〃 | 〃 | | 31.5 | 19.0 | 7.0 | 5.0 | 〃 | |
| 210 | A | 〃 | 〃 | | 38.0 | 24.0 | 8.0 | 6.0 | 〃 | |
| 211 | C | 〃 | 〃 | | 32.5 | 28.5 | 11.0 | 9.0 | 〃 | |
| 212 | B | 〃 | 〃 | | 33.0 | 20.0 | 6.5 | 4.5 | 〃 | |
| 213 | D | 〃 | 〃 | | 29.0 | 26.0 | 8.0 | 5.5 | 〃 | |
| 214 | | 〃 | 〃 | | 34.0 | 27.5 | 15.0 | 10.8 | 〃 | |
| 215 | | 〃 | 〃 | | 44.0 | 18.5 | 6.0 | 5.0 | 〃 | |
| 216 | | 〃 | 〃 | | 38.0 | 27.0 | 13.0 | 10.8 | 〃 | |
| 217 | | 〃 | 〃 | | 31.0 | 26.0 | 12.0 | 7.3 | 〃 | |
| 218 | B | 〃 | 〃 | | 40.0 | 21.5 | 12.5 | 10.4 | 〃 | |
| 219 | | 〃 | 〃 | | 27.0 | 26.0 | 13.0 | 8.5 | 〃 | |
| 220 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 27.5 | 23.5 | 7.0 | 4.3 | 〃 | |
| 221 | | 〃 | 〃 | | 33.5 | 24.0 | 18.0 | 10.5 | 〃 | |
| 222 | B | 〃 | 〃 | | 39.0 | 26.0 | 9.0 | 8.0 | 〃 | |
| 223 | | 〃 | 〃 | | 36.5 | 19.5 | 7.5 | 4.3 | 〃 | |
| 224 | | 〃 | 〃 | | 37.5 | 20.5 | 7.0 | 4.6 | 〃 | |
| 225 | | 〃 | 〃 | | 38.0 | 19.5 | 6.5 | 4.4 | 〃 | |
| 226 | C | 〃 | 〃 | | 28.0 | 21.0 | 5.5 | 2.5 | 〃 | |
| 227 | | 〃 | 〃 | | 27.0 | 22.0 | 5.5 | 3.3 | 〃 | |
| 228 | | 〃 | 〃 | | 32.0 | 18.0 | 8.0 | 3.3 | 〃 | |
| 229 | D | 〃 | 〃 | | 22.0 | 13.0 | 7.5 | 4.4 | 〃 | |
| 230 | | 〃 | 〃 | | 24.0 | 15.0 | 8.5 | 5.0 | 〃 | |
| 231 | | 〃 | 〃 | | 15.0 | 11.0 | 4.0 | 1.9 | 〃 | |
| 232 | | 〃 | 〃 | | 13.5 | 12.0 | 6.0 | 3.4 | 〃 | |
| 233 | D | 〃 | 〃 | | 17.0 | 16.0 | 6.0 | 3.6 | 〃 | |
| 234 | | 〃 | 〃 | | 27.0 | 25.0 | 5.5 | 2.2 | 〃 | |
| 235 | | 〃 | 〃 | | 21.0 | 19.0 | 7.5 | 3.0 | 〃 | |
| 236 | D | 〃 | 〃 | | 20.0 | 17.0 | 3.5 | 1.2 | 〃 | |
| 237 | | 〃 | 〃 | | 26.0 | 17.0 | 7.0 | 3.7 | 〃 | |
| 238 | D | 〃 | 〃 | | 29.0 | 22.0 | 8.0 | 3.4 | 〃 | |
| 239 | C | 〃 | 〃 | | 22.0 | 15.0 | 4.5 | 1.3 | 〃 | |
| 240 | A | 〃 | 〃 | | 23.0 | 15.5 | 5.0 | 2.4 | 〃 | |
| 241 | D | 〃 | 〃 | | 18.0 | 12.5 | 5.0 | 1.2 | 〃 | |
| 242 | B | 〃 | 〃 | | 48.0 | 19.0 | 7.0 | 5.3 | 〃 | |

第２９表　　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　　（２３）

（単位mmおよびg）

| 種　別 | 出土区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 各種石器243 | B | Ⅱ類 | 図化せず | | 38.0 | 26.0 | 6.0 | 4.0 | 黒曜石 | |
| 244 | | 〃 | 〃 | | 33.5 | 28.0 | 6.5 | 5.0 | 〃 | |
| 245 | | 〃 | 〃 | | 29.0 | 22.0 | 5.0 | 3.0 | 〃 | |
| 246 | | 〃 | 〃 | | 29.0 | 20.0 | 5.0 | 2.8 | 〃 | |
| 247 | A | 〃 | 〃 | | 29.5 | 19.0 | 4.5 | 2.3 | 〃 | |
| 248 | B | 〃 | 〃 | | 33.0 | 20.0 | 6.0 | 3.0 | 〃 | |
| 249 | B | 〃 | 〃 | | 35.0 | 21.0 | 6.5 | 4.5 | 〃 | |
| 250 | | 〃 | 〃 | | 33.0 | 15.0 | 3.5 | 2.3 | 〃 | |
| 251 | A | 〃 | 〃 | | 32.5 | 22.5 | 7.0 | 2.3 | 〃 | |
| 252 | A | 〃 | 〃 | | 28.0 | 24.5 | 5.5 | 4.0 | 〃 | |
| 253 | | 〃 | 〃 | | 35.0 | 14.5 | 5.0 | 3.5 | 〃 | |
| 254 | | 〃 | 〃 | | 36.5 | 21.5 | 3.0 | 2.5 | 〃 | |
| 255 | B | 〃 | 〃 | | 31.0 | 20.0 | 5.0 | 2.5 | 〃 | |
| 256 | B | 〃 | 〃 | | 32.0 | 22.0 | 6.5 | 3.5 | 〃 | |
| 257 | | 〃 | 〃 | | 39.5 | 18.0 | 4.0 | 2.4 | 〃 | |
| 258 | B | 〃 | 〃 | | 34.5 | 19.0 | 7.0 | 4.0 | 〃 | |
| 259 | | 〃 | 〃 | | 34.0 | 17.5 | 5.5 | 2.5 | 〃 | |
| 260 | | 〃 | 〃 | | 29.5 | 20.5 | 7.0 | 3.5 | 〃 | |
| 261 | | 〃 | 〃 | | 25.0 | 20.0 | 5.0 | 2.5 | 〃 | |
| 262 | | 〃 | 〃 | | 30.0 | 16.0 | 6.0 | 2.3 | 〃 | |
| 263 | A・B・C・Dベルト | 〃 | 〃 | | 31.0 | 23.0 | 5.5 | 3.8 | 〃 | |
| 264 | D | 〃 | 〃 | | 27.5 | 19.0 | 4.5 | 2.0 | 〃 | |
| 265 | | 〃 | 〃 | | 37.5 | 22.0 | 6.5 | 3.4 | 〃 | |
| 266 | | 〃 | 〃 | | 29.0 | 15.5 | 5.5 | 2.3 | 〃 | |
| 267 | A | 〃 | 〃 | | 29.0 | 15.5 | 4.5 | 1.8 | 〃 | |
| 268 | B | 〃 | 〃 | | 32.0 | 20.5 | 6.5 | 3.5 | 〃 | |
| 269 | A | 〃 | 〃 | | 31.0 | 23.0 | 4.5 | 2.2 | 〃 | |
| 270 | | 〃 | 〃 | | 35.0 | 23.0 | 8.5 | 4.3 | 〃 | |
| 271 | | 〃 | 〃 | | 30.5 | 15.0 | 5.0 | 2.0 | 〃 | |
| 272 | | 〃 | 〃 | | 25.5 | 26.0 | 5.0 | 2.5 | 〃 | |
| 273 | | 〃 | 〃 | | 38.0 | 15.5 | 6.5 | 3.0 | 〃 | |
| 274 | | 〃 | 〃 | | 27.0 | 23.5 | 8.0 | 3.0 | 〃 | |
| 275 | | 〃 | 〃 | | 30.5 | 19.0 | 6.0 | 2.3 | 〃 | |
| 276 | | 〃 | 〃 | | 29.5 | 19.5 | 5.5 | 2.8 | 〃 | |
| 277 | D | 〃 | 〃 | | 34.0 | 14.5 | 4.5 | 2.0 | 〃 | |
| 278 | D | 〃 | 〃 | | 27.0 | 19.5 | 6.0 | 2.5 | 〃 | |
| 279 | | 〃 | 〃 | | 28.5 | 16.0 | 7.5 | 3.0 | 〃 | |
| 280 | B | 〃 | 〃 | | 27.0 | 22.0 | 5.5 | 2.8 | 〃 | |
| 281 | A | 〃 | 〃 | | 26.0 | 19.0 | 5.0 | 2.2 | 〃 | |
| 282 | | 〃 | 〃 | | 34.0 | 19.5 | 6.0 | 2.5 | 〃 | |
| 283 | A | 〃 | 〃 | | 25.5 | 16.0 | 5.0 | 1.8 | 〃 | |
| 284 | A | 〃 | 〃 | | 30.5 | 15.5 | 6.0 | 2.0 | 〃 | |
| 285 | A | 〃 | 〃 | | 38.0 | 12.5 | 5.0 | 2.2 | 〃 | |
| 286 | D | 〃 | 〃 | | 27.0 | 18.0 | 4.0 | 1.5 | 〃 | |
| 287 | | 〃 | 〃 | | 20.5 | 16.5 | 5.0 | 1.5 | 〃 | |
| 288 | A | 〃 | 〃 | | 22.0 | 15.0 | 5.0 | 1.8 | 〃 | |

第３０表　　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　　（２４）

（単位㎜および g ）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石 材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 各種石器289 | | Ⅱ類 | 図化せず | | 31.0 | 15.5 | 4.5 | 1.8 | 黒曜石 | |
| 290 | Bピット内 | 〃 | 〃 | | 32.0 | 14.5 | 5.5 | 1.8 | 〃 | |
| 291 | | 〃 | 〃 | | 28.5 | 16.5 | 3.5 | 1.6 | 〃 | |
| 292 | A | 〃 | 〃 | | 20.0 | 15.5 | 6.0 | 1.7 | 〃 | |
| 293 | | 〃 | 〃 | | 23.0 | 14.0 | 6.0 | 1.5 | 〃 | |
| 294 | D | 〃 | 〃 | | 20.5 | 18.0 | 4.5 | 1.5 | 〃 | |
| 295 | | 〃 | 〃 | | 31.0 | 14.0 | 4.5 | 1.4 | 〃 | |
| 296 | D | 〃 | 〃 | | 30.0 | 12.5 | 3.0 | 1.1 | 〃 | |
| 297 | B | 〃 | 〃 | | 33.5 | 10.5 | 4.5 | 1.3 | 〃 | |
| 298 | | 〃 | 〃 | | 27.0 | 11.0 | 5.0 | 1.1 | 〃 | |
| 299 | | 〃 | 〃 | | 23.5 | 11.5 | 5.5 | 1.6 | 〃 | |
| 300 | | 〃 | 〃 | | 39.0 | 16.5 | 5.5 | 2.3 | 〃 | |
| 301 | | 〃 | 〃 | | 28.0 | 37.0 | 5.0 | 5.5 | 〃 | |
| 302 | | 〃 | 〃 | | 36.0 | 26.0 | 8.5 | 5.6 | 〃 | |
| 303 | | 〃 | 〃 | | 59.0 | 21.0 | 7.0 | 7.2 | 〃 | |
| 304 | A | 〃 | 〃 | | 37.0 | 27.0 | 7.0 | 2.3 | 〃 | |
| 305 | D | 〃 | 〃 | | 39.0 | 16.0 | 5.0 | 5.5 | 〃 | |
| 306 | D | 〃 | 〃 | | 48.5 | 23.5 | 14.0 | 12.7 | 〃 | |
| 307 | | 〃 | 〃 | | 41.0 | 32.0 | 6.0 | 6.5 | 〃 | |
| 308 | A | 〃 | 〃 | | 39.0 | 33.0 | 9.0 | 7.8 | 〃 | |
| 309 | | 〃 | 〃 | | 32.0 | 27.0 | 7.0 | 6.0 | 〃 | |
| 310 | B | 〃 | 〃 | | 37.0 | 22.0 | 8.0 | 4.0 | 〃 | |
| 311 | A | 〃 | 〃 | | 33.0 | 21.5 | 8.0 | 4.0 | 〃 | |
| 312 | B | 〃 | 〃 | | 36.0 | 26.0 | 13.0 | 7.4 | 〃 | |
| 313 | A | 〃 | 〃 | | 36.5 | 20.0 | 9.5 | 6.4 | 〃 | |
| 314 | | 〃 | 〃 | | 47.0 | 25.5 | 7.0 | 6.3 | 〃 | |
| 315 | D | 〃 | 〃 | | 39.0 | 29.5 | 10.0 | 7.5 | 〃 | |
| 316 | | 〃 | 〃 | | 33.5 | 24.5 | 10.0 | 6.3 | 〃 | |
| 317 | | 〃 | 〃 | | 36.0 | 28.0 | 7.0 | 6.1 | 〃 | |
| 318 | | 〃 | 〃 | | 46.5 | 30.0 | 8.0 | 9.8 | 〃 | |
| 319 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 41.0 | 20.0 | 10.5 | 5.8 | 〃 | |
| 320 | A | 〃 | 〃 | | 41.0 | 16.5 | 8.5 | 5.3 | 〃 | |
| 321 | A | 〃 | 〃 | | 41.0 | 28.0 | 5.5 | 4.7 | 〃 | |
| 322 | | 〃 | 〃 | | 42.0 | 15.0 | 9.5 | 3.7 | 〃 | |
| 323 | AB | 〃 | 〃 | | 39.0 | 25.0 | 12.0 | 10.0 | 〃 | |
| 324 | | 〃 | 〃 | | 44.5 | 37.5 | 8.5 | 9.7 | 〃 | |
| 325 | B | 〃 | 〃 | | 41.5 | 27.0 | 8.0 | 6.3 | 〃 | |
| 326 | B | 〃 | 〃 | | 27.0 | 26.0 | 6.5 | 4.4 | 〃 | |
| 327 | | 〃 | 〃 | | 37.5 | 19.0 | 6.5 | 4.0 | 〃 | |
| 328 | | 〃 | 〃 | | 46.0 | 31.0 | 12.5 | 10.8 | 〃 | |
| 329 | ABベルト | 〃 | 〃 | | 42.0 | 18.0 | 16.0 | 8.7 | 〃 | |
| 330 | | 〃 | 〃 | | 38.0 | 33.0 | 13.5 | 13.2 | 〃 | |
| 331 | | 〃 | 〃 | | 28.0 | 27.5 | 5.0 | 3.7 | 〃 | |
| 332 | | 〃 | 〃 | | 34.0 | 24.0 | 10.0 | 9.0 | 〃 | |
| 333 | | 〃 | 〃 | | 39.0 | 29.5 | 11.0 | 8.8 | 〃 | |
| 334 | A | 〃 | 〃 | | 38.0 | 19.0 | 6.5 | 3.9 | 〃 | |

第３１表　　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　　（２５）

（単位㎜および g）

| 種　別 | 出 土 区 | 分類 | 図番号 | 図版番号 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 各種石器335 | D | Ⅱ類 | 図化せず | | 43.0 | 13.5 | 9.0 | 4.4 | 黒曜石 | |
| 336 | | 〃 | 〃 | | 27.0 | 23.0 | 9.0 | 3.7 | 〃 | |
| 337 | B 焼土 | 〃 | 〃 | | 29.0 | 24.0 | 7.0 | 4.0 | 〃 | |
| 338 | | 〃 | 〃 | | 35.0 | 19.0 | 7.5 | 3.8 | 〃 | |
| 339 | D | 〃 | 〃 | | 31.5 | 22.5 | 9.0 | 4.7 | 〃 | |
| 340 | | 〃 | 〃 | | 30.0 | 17.0 | 8.0 | 3.0 | 〃 | |
| 341 | | 〃 | 〃 | | 29.5 | 12.5 | 8.5 | 2.7 | 〃 | |
| 342 | A | 〃 | 〃 | | 33.0 | 16.0 | 8.0 | 3.5 | 〃 | |
| 343 | | 〃 | 〃 | | 30.5 | 18.0 | 6.5 | 3.0 | 〃 | |
| 344 | | 〃 | 〃 | | 50.5 | 14.0 | 8.0 | 5.0 | 〃 | |
| 345 | | 〃 | 〃 | | 32.0 | 21.5 | 8.0 | 5.2 | 〃 | |
| 346 | | 〃 | 〃 | | 33.5 | 25.0 | 13.5 | 7.6 | 〃 | |
| 347 | | 〃 | 〃 | | 32.5 | 22.0 | 8.5 | 4.5 | 〃 | |
| 348 | C－6071 | 〃 | 〃 | | 27.0 | 22.0 | 8.0 | 3.5 | 〃 | |
| 349 | D－3437 | 〃 | 〃 | | 31.5 | 23.0 | 7.0 | 5.7 | 〃 | |
| 玦状耳飾 | C | | 220－461 | 81－6 | 14.5 | 7.5 | 9.5 | 3.7 | 蛇紋岩 | |
| 硬玉製大珠 | B | | －462 | 81－7 | 76.0 | 63.0 | 35.0 | 267.0 | 翡翠 | |

第３２表　　第Ⅱ次調査石器計測一覧表　　（２６）

| 岩石名 ＼ 石器名 | | 礫　器 | 打製石斧 | 磨製石斧 | 磨　石 | 凹　石 | 石　皿 | 石　錘 | 円板状石器 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 玄武岩 | 玄武岩 | | | | 1 | | | | | 1 |
| | 灰～黒色角閃石 | | | | | 4 | | | | 4 |
| | 鮎壺長石巨晶 | | | | | 1 | | | | 1 |
| 安山岩 | 安山岩 | | 17 | | 10 | | | 9 | | 37 |
| | 長石輝石微晶 | | | | | 1 | | | | 1 |
| | 長石多輝晶 | | | | 7 | 3 | | | | 10 |
| | 長石輝石微晶等量 | | 6 | | 2 | 2 | | | | 10 |
| 石英安山岩 | 石英安山岩 | 2 | | | 1 | 2 | | 1 | 3 | 9 |
| 砂　岩 | 細粒砂石 | | 19 | 4 | | | | 5 | 1 | 29 |
| | アル砂岩・アル粗砂岩 | | | 5 | | | | | 2 | 7 |
| | 緑石砂岩 | | | 28 | | | | | | 28 |
| | 中粒砂岩 | | 21 | | | | | 1 | 1 | 23 |
| 軟質砂岩 | 軟質砂岩 | | | | | | | | | 1 |
| 頁　岩 | 黒色頁岩以外の頁岩 | 1 | 7 | 6 | | | | | 1 | 14 |
| | 珪質頁岩 | | | | | | | | 1 | 1 |
| 黒色頁岩 | 黒色頁岩 | | 162 | | | | | 3 | | 165 |
| | 灰色頁岩 | | 67 | | | | | | | 67 |
| 軟質頁岩 | 軟質頁岩 | | 5 | | | | | 2 | 2 | 9 |
| 珪質頁岩 | 珪質頁岩 | | 1 | | | | | | | 1 |
| 石英閃緑岩 | 石英閃緑岩 | | 1 | | | 2 | | 3 | 1 | 7 |
| 緑色岩類 | グリーンタフ | | | | | | | 2 | | 2 |
| 緑色片岩 | 緑泥片岩 | | 6 | | | | | | | 6 |
| 結晶片岩 | 結晶片岩 | | 1 | | | | | | | 1 |
| | 中世代火成岩 | | | | | | | 2 | | 2 |
| | 石英モンゾニ岩 | | | | 2 | | | | | 2 |
| | ち密石 | | | | | | | | | |
| | 土　塊 | | | | | 1 | | | | 1 |
| | 合　　計 | 3 | 312 | 44 | 23 | 16 | | 28 | 13 | 439 |

第３３表　　第Ⅱ次調査石器石質表

375・388～393・398～400・401～406は、剥片の端部に剥離痕がありいずれも削掻具としての使用が想定される。又他の剥片においても、切る、削る、裂くといった道具であったろうと思われる。図化したのは49点であるが、他に調整あるいは使用の際の刃こぼれと思われる剥離痕のある剥片が237片出土している。

本遺跡からは3,000点を超える黒曜石の剥片が出土しており、細部調整のみられない剥片についても何らかの刃器として使用されたものと考えられる。

Ⅱ類

37点出土しており、細部に調整のある剥片及び礫を本類とした。石材は頁岩が最も多く安山岩、砂岩がこれに続く。この石材の状況は石斧のそれと同じ様相を示している。本類に形態的に統一性を持つ剥片を使用し、調整を行い石器としている物がみられる。421～429は、横長剥片を素材としており、長辺部を刃部とする横刃形石器と思われる。又430～434も、形状は多少異なるが片面に自然面を残す横長剥片に刃部を作り出している。438～440は、縦長状の剥片で側面に剥離痕を持つ。特に440は、形状も特異で包丁形を呈し刃部の調整にも連続性がある。445～453は、石篦の形状を持つもので、特に448～453は、刃部に角度を持たせている。いずれも削掻具としての使用が考えられる。457は、石核状の礫であるが、上下に敲打の痕があり楔としての使用が考えられる。

**ピエスエスキーユ**（第218図394～397・図版75）

394～397の4点が出土している。石材は黒曜石で、平面形状は不整な四辺形、三角形である。上下からの打法により剥離面が作られている。

**玦状耳飾**（第224図・図版81）

いわゆる玦状耳飾であり、蛇紋岩製の良好な資料である。半分欠損しているのでやや不明な部分があるが、直径2.4cm前後の円形を呈し、上部中央に穿孔の跡が見られる。この孔は、果たして1つであるのか2つなのかは分からないが、斜めに穿孔されているため頂部の端が突き破られたような状態（はみ出し痕）となっている。工具によって、予め回転運動により抉り穿孔を行い、その後工具を垂直方向にして抉られている。

**硬玉製大珠**（第224図・図版81）

ヒスイ製の垂飾品である。緒締型を呈し断面がやや偏平なものである。長さ7.6cm、幅6.3cm最大厚3.5cmの大形品であり、当地方に現存するものとしては最大級の大珠である。（かつて仲道Ａ遺跡から、長さ8cmの硬玉製大珠が発見されており、県史にも紹介されているが、今日その所在は不明）長軸と平行に穿孔されているが、その位置は中央よりかなりずれている。整形⇒研磨の後、一度中央部に穿孔の位置を定め、その試みを行ったと思われる痕跡が残されている。このヒスイには、かなり大きなひび割れが入っており、材質的には良好なものとは言えない。欠損部を見ると、ひび割れた所から剥離していることがが顕著であり、孔は貫通しているものの、両端に何ケ所かの砥面が残されており、このことから、おそらくまだ製作過程にある段階で欠損したのではないかと思われる。そして、ここで考えられるのは、反対方向から穿

孔を始めた時に、丁度ひび割れ部分にあたり割れたのではないかという点である。更に、完成したものの間もなく欠損したため、その破口面を再び研磨した状態にも見える。孔は、入口で5㎜強、中央部付近で8㎜前後である。なお昭和36年の夏、沼津女子商業高等学校（現・加藤学園高等学校）によって行われた「修善寺総合調査」に参加した際、大平の大塚遺跡付近の人より大珠（長さ10cm以上の大形）を見せて頂いたことがある。おそらく蛇紋岩製であったろうと思われるが、現在は所在不明であると言われる。

**まとめ**

本遺跡出土の石器にかかわる石質・産地等については高木空穂氏に種々ご教示いただいた。これによって、本遺跡の性格を知る上で極めて貴重な資料を得ることができた。

とりわけ、石器の量・種類ともに調査面積に比して非常に多く、おそらくこれは遺跡の主体となる時期が縄文中期であるということ、さらに調査区域が遺構部分ではなく、投棄場所的な窪地であったことが考えられるであろう。ここでは、高木氏の観察結果をもとに各石器から見た本遺跡の性格を探ってみたい。

出土した石器を大きく分けると、Ⅰ類：磨石、石皿のようにある程度の大きさを必要とするもの、Ⅱ類：石錘、円板状石器の小礫等をそのまま使用するもの、Ⅲ類：打製石斧、磨製石斧、石鏃、各種石器等の主として剥片を使用し、加工を加えるもの等に分類できる。以上の石器を、石材の産地から現地性・外来性とに分けその比率を求めてみた。

Ⅰ類中の石皿は、試料6点のうち3点は現地性の火山岩、1点は石英安山岩で沼津の大久保、大仁の城山、伊豆長岡の発端丈山を形成する石質のものである。他の2点は産地不明である。凹石は20点の試料中19点が多賀火山系、沼津の大久保、大仁城山などで産する石英安山岩など現地性の火山岩である。磨石については27点の試料中2点を除いて現地性の火成岩である玄武岩・安山岩・石英安山岩である。以上にように、Ⅰ類としたものは比較的大きさを必要とし、重量もある石器は現地性のものがその主体をなしている。

Ⅱ類とした石錘は31点のうち、現地性の安山岩は9点で、その他は石英安山岩の1点を除いて、富士川下流域の千本浜海岸などに見られる堅い材質の砂岩・頁岩・グリーンタフ等である。円板状石器は、14点中4点が現地性の安山岩である。他は石錘と同様海浜性のものが多く使用されている。しかし、石錘と異なる点はそれと比較してやや軟質な石材が多く使用されていることである。

Ⅲ類とした打製石斧は本遺跡から多量に出土しており、その形態も多様である。総数は457点、うち観察試料は311点である。この中の277点は周辺の山地及び河川からは採集できないものであり、沼津の狩野川河口にかけての千本浜海岸などに、河川礫あるいは海浜礫として分布する中世代岩類の砂岩・頁岩である。また、富士川沿いや丹沢山地周辺に分布する第三紀岩類が13点あり、これらを合わせると全体のおよそ93％になる。他の21点は現地性の安山岩である。

高木氏は、本遺跡の石器類を上白岩遺跡（環状列石で知られる国指定史跡で縄文時代中期末葉～後期初頭・中伊豆町）との比較検討を行っている。その結果、とりわけ打製石斧に関して

は、上白岩遺跡のほうが圧倒的に現地性の安山岩が多く、試料総数94点中90点を占めている。石材の現地性・外来性から見ると、本遺跡と上白岩遺跡の示す数字はむしろ逆である。石錘においては、上白岩遺跡の出土点数は8点であり、本遺跡は35点の出土である。この数字の相違は材質と同様やはり、遺跡の性格の違いを現しているものと思われる。

また、唯一上白岩遺跡と同様の数字を示しているのが磨製石斧である。44点の試料中グリーンタフと呼ばれる緑色砂岩が全体のおよそ65％を占める、これは上白岩遺跡におけるグリーンタフの占める割合75％ほぼ近い数字である。磨製石斧に関しては、両者共にグリーンタフを使用する必要性、あるいは交流があったものであろう。

以上石器類を観察した結果、本遺跡が非常に海浜性の影響を受けているというよりむしろ海浜性そのものといった性格を持っていることが分かった。それは特に中伊豆町上白岩遺跡と比較した結果からより明瞭となったのである。即ちこれは、往時（遺物の投棄時）における本遺跡の地形を考慮しなければならないであろうが、今後の検討課題としておきたい。

（参考文献）

○江坂輝弥、「装身具」『日本原始美術』2　1964年
○大矢昌彦、「石棒の基礎的研究」『長野県考古学会誌』　第28号　1976年
○加藤晋平、鶴丸俊明、『図録石器の基礎知識Ⅰ、Ⅱ』　1980年
○鈴木道之助、「図録石器の基礎知識Ⅲ」　1983年
○土肥孝編、「縄文時代Ⅱ」『日本の美術』　ＮＯ.190　1982年
○鈴木次郎、「打製石斧」『縄文文化の研究－7－道具と技術』　1983年
○鈴木道之助、「石鏃」『縄文文化の研究－7－道具と技術』　1983年
○矢田国雄・前山精明、「石錘」『縄文文化の研究－7－道具と技術』　1983年
○安藤文一、「翡翠大珠」『縄文文化の研究－7－縄文人の精神文化』　1983年

**ウ、植物遺存体・骨片類**（図版81･82）

第Ⅱ次調査では、大量の土器や石器に伴って植物遺存体及び骨片類が見つかっている。いずれもＡグリッドから出土しており、植物遺存体についてはドングリ・シイなどの炭化したものであった。また骨片については魚類2種、獣類2種及びヒトの骨片などがあり、いずれも焼けている点が興味深い。これについては、金子浩昌氏によって鑑定されており、後述のとおりに分類されている。

# 公蔵免遺跡出土の動物骨

金子浩昌

標本はすべて強く火を受けて白灰色に石灰化しているものであった。多くは細片化した骨であったので種名の同定は困難であったが次のような種類が含まれていた。

種名表

| | |
|---|---|
| 脊椎動物門 | Phylum VERTEBRATA |
| 軟骨魚綱 | Class Chodrichthyes |
| サメ目 | Order Lamniformes |
| ネズミザメ科 | Family Lamnidae |
| アオザメ | Isurus glaucus |
| 硬骨魚綱 | Class Osteichthyes |
| 目不明 | Order indet. |
| 哺乳綱 | Class Mammalia |
| クジラ目 | Order Cetacea |
| イルカ科 | Family Delphinidac |
| 属、種不明 | Gn. et sp. indet. |
| 偶蹄目 | Order Artiodactyla |
| シカ科 | Family Cervidae |
| ニホンジカ | Cervus nippon |

判明したのは上記の魚類2種、獣類2種である。別に人の骨片がある。

魚はアオザメの歯（左上顎　U l or2）と椎体1点、硬骨魚類のは椎体のごく一部の破片のために種名は不明。

獣骨はイルカ類の椎体1個があり、他にも海棲獣の断片が多い。おそらくイルカ類のものであろう。

陸獣としてはシカの末節骨（指骨の最先端の骨）があり、その他に頭骨の破片なども含まれているようである。

本遺跡出土の骨は僅かな量であったが、サメ類の歯や椎体、その他の魚骨があり、またイルカ類の骨の目立ったのが特徴である。おそらく実際にはこうした水産資源の捕獲利用の活動が積極的に行われていたのであろう。伊豆半島をめぐる地域はイルカの回遊域に当たっていたからである。

また陸獣ではシカの骨が確認されている。しかし、陸獣骨はきわめて少ない。

ヒトの骨片としたのは頭骨片であって、若い人のものである。骨は1点だけであるが、さらに精査する必要がある。縄文期の人の骨の焼けた例は他にもある。しかし、その意図したことには不明の点が多い。これらの骨の出土状況について特に注目したいと思う。

## 3．古墳時代の遺構と遺物

### A、遺構

**第1号住居址**（第225図・図版83）

位置　調査区域北東のBグリッド内で発見された住居址である。標高32m付近にあたる。本調査においては唯一の住居址であり、おそらく隣接する第Ⅰ次調査区とは同一集落のものであったろうと思われる。

構造　形状は第225図から推定するとほぼ正方形に近いものと思われる。確認されたプランは全体のおよそ半分であり、長軸は3.6mを測り、短軸は3.5m前後（推定）であると思われる。他の部分については削土等により破壊されているため不明である。壁高は東側及び南側で12cm前後を測る。竈は住居址北壁中央に位置している。壁溝は竈の右袖部から東壁下を一巡している、壁溝の巾は、4～12cm、深さは3～11cmを測る。本住居址に伴うと思われる柱穴は確認できなかった。また、南側中央にピット状のものが確認されたが、果たして本住居址のものかどうかは不明である。竈の掘り込みは楕円形で、長さ140cm、巾120cm、深さ30cm前後を測る。竈は左袖部の大部分を欠損しているが、おおよその形状は推定できる。しかし竈の向きはややいびつであり、左に傾いている。

住居址の覆土は上面が削土されているため黒褐色土層1層のみであり、しかも平均13cm前後であった。竈の層序は次のとおりであった。第Ⅰ層－灰褐色土層。竈の両袖を構成している土であり、灰白色のシルトブロックを含んでいる。粘性がありしまっている。第Ⅱ層－焼土層。多量の焼土・炭化物を含んでいる。燃焼部にあたるものである。第Ⅲ層－黒色土層。焼土を含んでおり、焚き口周辺に見られるものである。第Ⅳ層－暗褐色土層。火床面であり焼土・炭化物を多量に含んでいる。また灰白色のシルトブロックを含んでいる。第Ⅴ層－黒褐色土層。本住居の床面を覆っている土である。焼土・炭化物を含んでいる。第Ⅵ層－明褐色土層。若干の白色パーミス及びスコリアが含まれている。しまりがあり粘性がある、住居の床面になっている土である。

### B、出土遺物

**土師器と須恵器**（第226～227図・図版61）

第Ⅰ次調査によって出土した古墳時代の遺物は土師器と須恵器に分けられる。堝・甕・壺・高坏・器台・手捏土器及び坏である。調査区全体から見つかっているが、Bグリッドの住居址から集中して出土している。以下、これについて説明していく。

**堝形土器**（第226図1）

1は、堝形土器であり極めて薄手である。口縁上（鍔の上）及び内面のナデが施され、頸部から胴部にかけて横位あるいは斜行するハケ目が施されている。

**甕形土器**（第226図2～13・15～18）

2は、甕形土器の口縁部である。外面は斜位の細かなハケ目が施される。内面は横位のハケ目が見られる。3は、頸部が大きく屈曲している。胴部はおそらく球形を呈するものと思われ

る。口縁部は若干ナデ痕が残されているが不明瞭である。頸部から胴部にかけては斜位のハケ目が見られる。（一部は剥落）4は、頸部の縊れが小さく口縁は短く直線的に開いている。口縁部の径が胴部最大径より大きく、胴部はあまり張らない。5は、口縁部下の破片である。胴部の張りは弱い。外面は斜位のハケ目で充填されており、内面は横位のナデが見られる。12は、口縁が欠損しており頸部の縊れ部が残されている。外面は細かなハケ目が縦位に施されている。また内面は指頭によってナデ整形が行われている。2～12は同一個体の破片であるが、13はその底部である。これらから比較的小形の甕と思われる。底面には木の葉圧痕が見られる。外面は縦位あるいは斜位のハケ目が施されており、内面には横位のハケ目が施されている。

**壺形土器**（第226図14）

14は、壺形土器の胴部破片である。頸部は横ナデが見られ、胴部は斜位あるいは縦位のハケ目が施されている。頸部の縊れ部が若干残されており、壺形土器のそれと分かる。

**高坏形土器**（第226図19・20）

19は、坏底部に近い破片であり接合痕が見られる。外面は斜位及び横位にハケ目が施されている。内面は横位のハケ目が施されている。20は、小形の高坏脚部破片である。ゆるやかに外反して開いており、円窓を有している。外面は粗いヘラ削りの調整が行われている。内面は横ナデが施されている。

**器台**（第227図1）

坏部を欠損しているが皿状を呈するものと思われる。脚部は直線的に外反して開き、3つの円窓を有している。脚部との接合部にハケ目が残されている。頸部下の円窓を中心に縦位あるいは斜位にハケ目が施されている。また同時にヘラ削りも行われている。脚部内面は横位及び斜位のハケ目が見られる。

**手捏土器**（第227図5～7）

5は、口縁部を欠損している。底部は不整円形を呈し中央がややへこんでいる。底部から垂直に立ち上がり、口縁部にかけて内傾している。指頭で整形の後ヘラによって粗い調整が行われている。現最小口径3.1cm、底部最小径3.2cm、現高1.8cmを測る。6は、口縁部を欠損している。底部は楕円形を呈しており口縁に向って外反している。底面近くにややふくらみを持っている。指頭及びヘラによって成形されている。器面内外にヘラによる刺突痕が残されている。現最小口径5.2cm、底部最小径4.1cm、現高3.8cmを測る。7は、口縁部を欠損している。底部は不整円形を呈し中央がややへこんでいる。外面は指頭によって、また内面は指頭及びヘラによって粗い調整が行われている。現最小口径4.6cm、底部最小径4.5cm、現高2.3cmを測る。これら5～7は、第Ⅰ次調査出土の手捏土器に比べると小形であり、その造りも粗製の感がある。

第227図8～16については須恵器であり、以下これについて説明してゆく。

**甕形土器**（第227図8～13・15）

甕形土器の胴部破片である。外面は平タタキの上に回転カキ目が施されている。内面はヘラ状工具によって調整されている。器厚は上端部で6mm前後、下端部で10mm前後を測る。9は、外

面に回転カキ目が施され、内面はヘラ状工具によって調整されよく成形されている。10は、外面はヘラ削りが行われているが、随所にヘラの先端による「キズ」が付けられている。それは1回のもの、あるいは数回刺突を行っているものなどがある。内面は回転カキ目が施され、また指頭による圧痕も見られる。11は、外面は平タタキが施されおり、内面はヘラによって調整が行われている。

**坏形土器**（第227図14・18）

14は蓋坏であり、天井はやや偏平となっている。「つまみ」部は中ふくらみで一方がつぶれて薄くなっている。器面内外とも回転ヘラ削りが行われている。18は坏底部の破片であり、底面は回転ヘラ削りが施されている。またヘラの先端による刺突及び沈線が見られる。内面はナデによる調整が行われている。

**その他の土器**（第227図17～21）

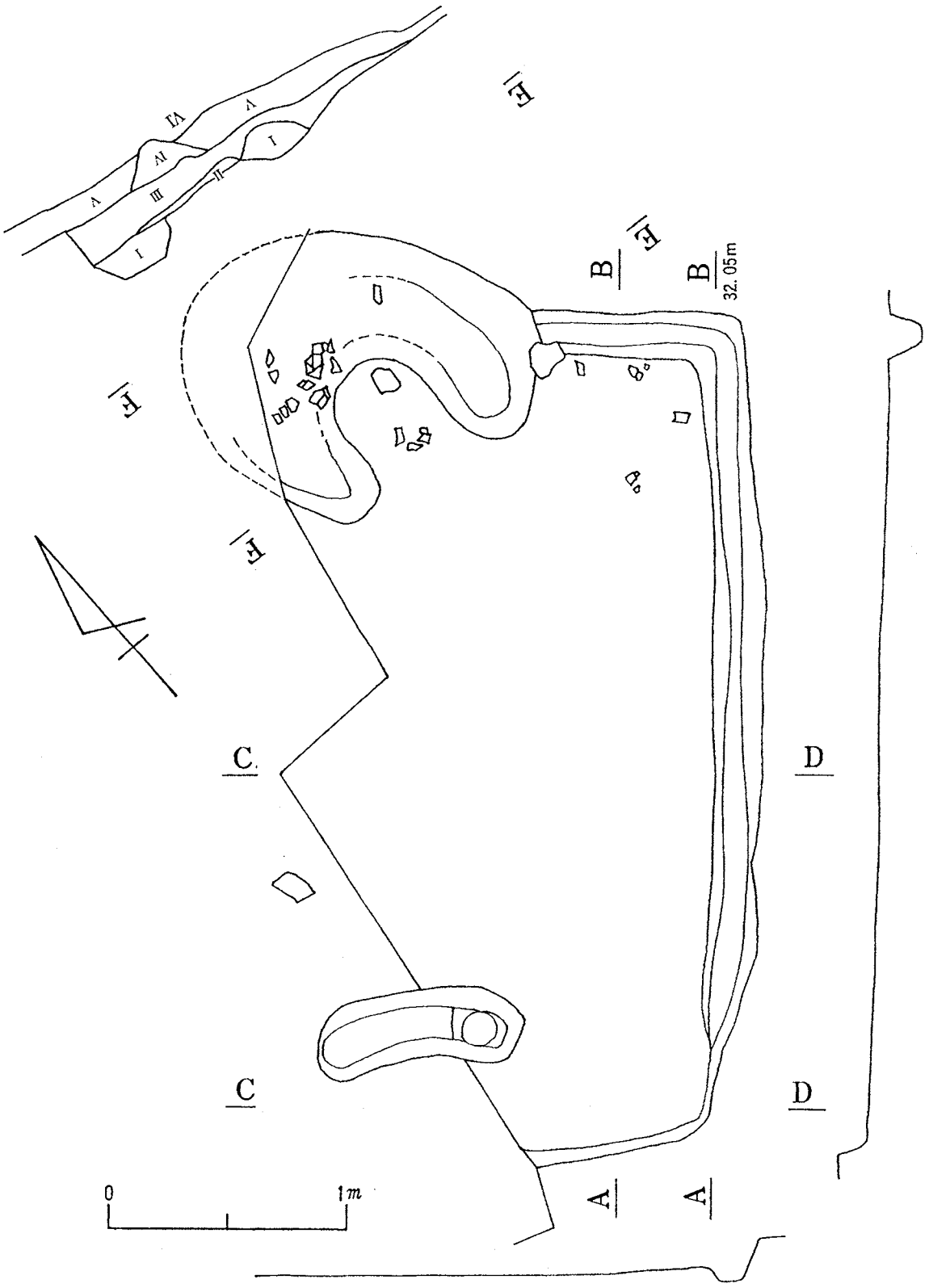
**灰釉陶器**（第227図16・17・19）

16は、碗形土器の胴部破片である。外面全体に淡緑色の釉がかかっている。内面はヘラ状工具によって横位の調整が行われている。17は、碗の底部であるが高台が付いている。（高台の径は推定6.5cm）器面内外とも回転ヘラ削りが行われている。内面底部には乳白色の釉がかかっている。19は、浅鉢状のものの底部である。器面内外とも回転ヘラ削りが行われている。内面底部に淡緑色の釉がかかっている。

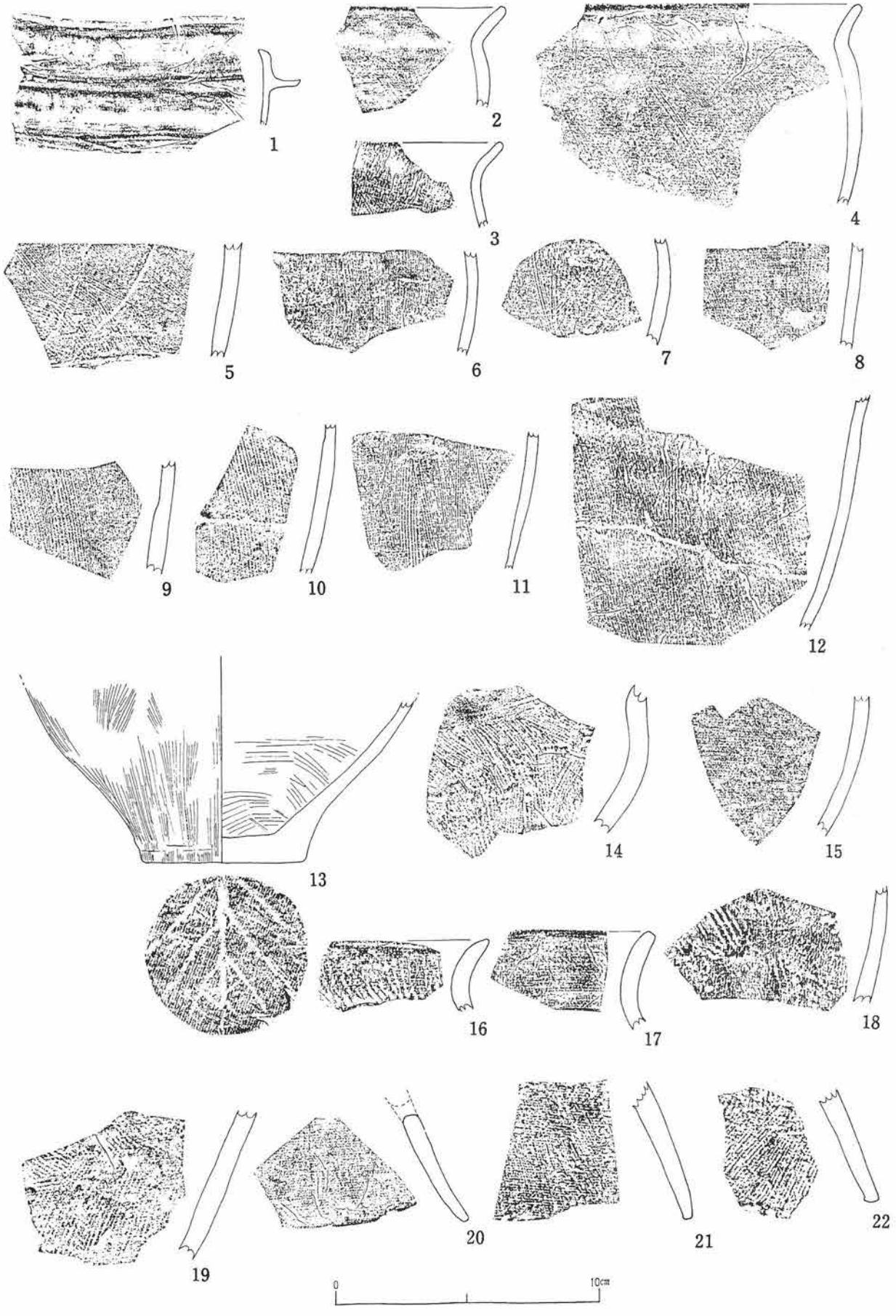
**坏形土器**（第227図20・21）

20・21とも土師器の坏であり、このうち21は口縁部を欠損しているが、底部からゆるやかに内傾して開いている。器面内外ともロクロによって整形が行われており、さらにヘラ調整が行われている。また、内面底部は上底になっている。

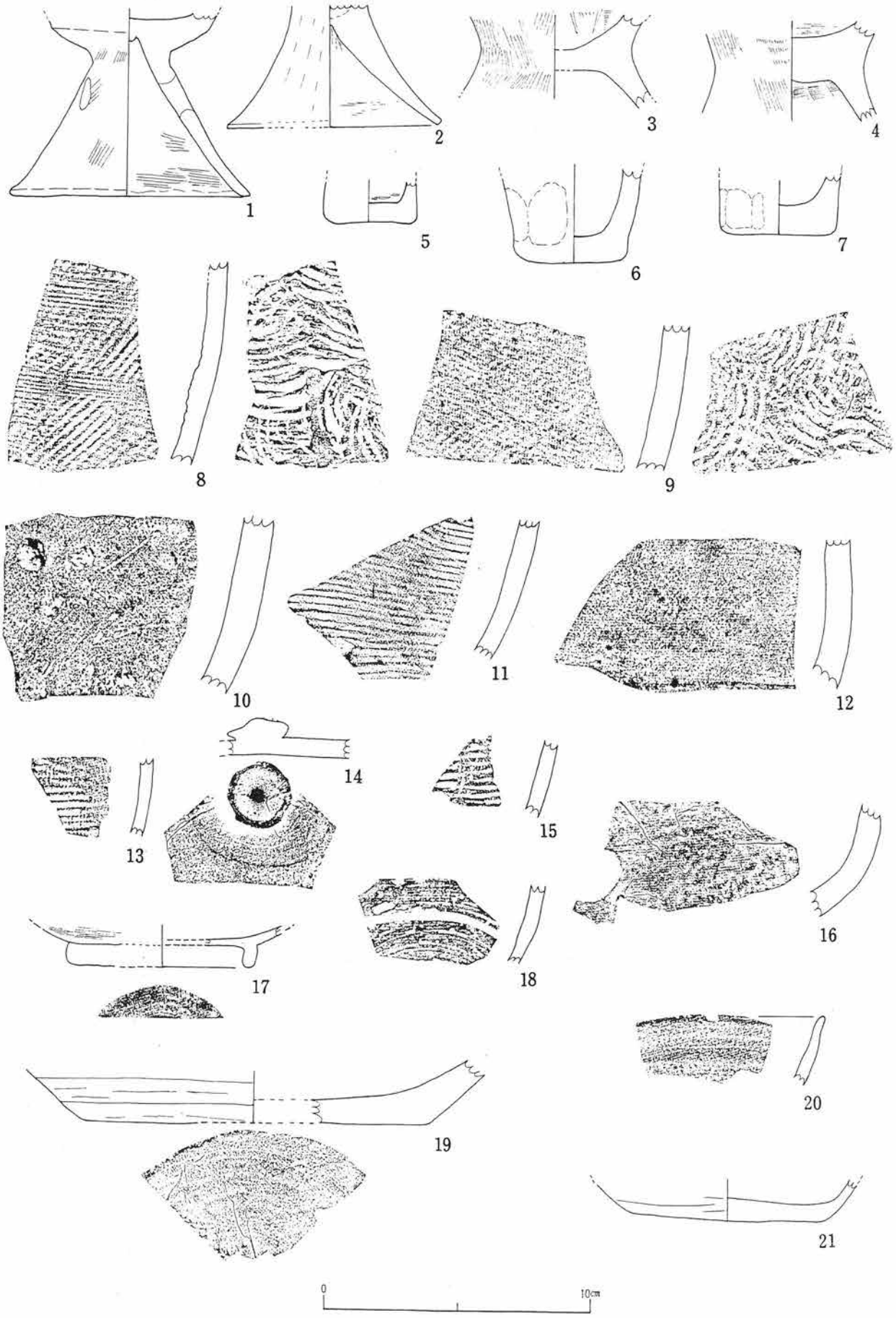
17・19～21については、おそらく平安時代以降の所産であろうと思われるが、17はあるいはもっと時期が降るのかも知れない。いずれにしても、近年調査した隣接の段遺跡との関連を考える必要があり、今後は古代～中世の資料についても注意してゆかなければならないであろう。




第225図　第II次調査 第1号住居址実測図




第226図　第II次調査 出土土器拓影




第227図　第II次調査 出土土器実測図

| 遺物番号<br>(図版NO) | 器種<br>器形 | 法量 | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 色調<br>胎土・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第226図 1 | 土師器 | | 薄手 | 口縁上(ツバの上)及び内面は横ナデ、頸部から胴部にかけては横位あるいは斜行するハケ目が施されている | 灰褐色<br>焼成は極めて良い | |
| 第226図 2 | 土師器<br>甕<br>口縁 | | | 外面は斜行する細かなハケ目が施される。<br>内面は横位のハケ目が見られる。 | 暗褐色、内面は黒褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 第1号住居址 |
| 第226図 3 | 土師器<br>甕<br>口縁 | | 頸部は大きく屈折している。胴部はおそらく球状を呈するものと思われる。 | 口縁部は若干ナデ痕が残るが不明瞭である。頸部から胴部にかけては斜行するハケ目が見られる。(一部は剥離) | 褐色、内面は黒褐色<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第226図 4 | 土師器<br>台付甕?<br>口縁 | | 頸部のくびれは小さく口縁は短く直線的に開いている。口縁部の径が胴部最大径より大きく胴部はあまり張らない。 | 器外面は口縁部が横ナデの後斜行するハケ目を施しまた胴部にかけては斜行するハケ目で充填している。内面は口縁部が横ナデ、以下は横位あるいは斜行するハケ目が施されている。 | 褐色～暗褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第226図 5 | 土師器<br>甕<br>胴部 | | 口縁部下(頸部下)の破片である。胴部の張りは弱い。 | 外面は斜行するハケ目で充填されている。<br>内面は横ナデされている。 | 赤褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第226図 6 | 土師器<br>甕<br>胴部下半 | | | 外面は縦位のハケ目が施されている。内面は横位のハケ目が施されている。 | 暗褐色、内面は赤褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第226図 7 | 土師器<br>甕?<br>胴部 | | | 外面は斜行するハケ目が交叉して施されている。<br>内面は横位のハケ目が施されている。 | 赤褐色、内面は黒褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第226図 8 | 土師器<br>甕<br>胴部 | | | 斜行するハケ目が施されている。<br>内面は横ナデが施されている。 | 褐色、内面は赤褐色<br>砂粒、石英粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第226図 9 | 土師器<br>甕<br>胴部 | | | 外面は横ナデの後縦位のハケ目が施されている。<br>内面は横位のハケ目が施されている。 | 赤褐色、内面は橙褐色<br>砂粒、石英粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第226図10 | 土師器<br>甕<br>胴部 | | | 外面は斜位のハケ目が施されている。内面は横ナデが施されている。 | 暗褐色、内面は淡褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |

第３４表　第II次調査土師器・須恵器・灰釉陶器観察表

| 遺物番号<br>(図版NO) | 器種<br>器形 | 法量 | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 色調<br>胎土・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第226図11 | 土師器<br>甕<br>胴部 | | | 外面は縦位のハケ目が施されている。<br>内面は横位のハメ目が施されている。 | 褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 第1号住居址 |
| 第226図12 | 土師器<br>甕<br>胴部上半 | | 口縁を欠損しており頸部のくびれ部が残されている。 | 外面は細かなハケ目が縦位に施されている。<br>内面は指頭によってナデ整形が行われている。 | 赤褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第226図13<br>(60) | 土師器<br>甕<br>胴部下半<br>底部 | 底径6.3 | 比較的小形の甕と思われる。底面には木の葉の圧痕が見られる。 | 器外面は縦位あるいは斜行するハケ目が施されている<br>内面には横位のハケ目が施されている。 | 赤褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第226図14 | 土師器<br>壺形土器<br>胴部 | | 頸部のくびれ部が若干残っており、壺形土器のそれと分かる。胴部はやや張っている。 | 頸部は横ナデが見られ、胴部は斜行あるいは縦位のハケ目が施されている。 | 赤褐色、内面は黒褐色<br>砂粒、石英粒<br>焼成は良く堅い | 〃 |
| 第226図15 | 土師器<br>甕？<br>胴部下半 | | | 外面はナデ整形の後にヘラ磨きが行われている。<br>内面はナデ整形が施されている。 | 灰褐色、内面は白褐色<br>砂粒、石英粒<br>焼成は良好 | 〃 |
| 第226図16 | 土師器<br>甕<br>口縁 | | | 外面は横ナデを行った後斜行するハケ目が施されている。内面は横位のハケ目が施されている。 | 淡橙褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | |
| 第226図17 | 土師器<br>甕<br>口縁 | | | 器面内外に横ナデが施されている。 | 褐色<br>砂粒<br>焼成は極めて良好 | |
| 第226図18 | 土師器<br>甕<br>胴部上半 | | | 外面に斜行するハケ目が施され、内面は斜行あるいは横位のハケ目が施されている。 | 灰黒褐色、内面は明褐色<br>砂粒<br>焼成は良好 | |
| 第227図19 | 土師器<br>高坏<br>胴部下半 | | 坏底部に近い破片であり接合痕が見られる。 | 斜行および横位にハケ目が施されている。<br>内面は横位のハケ目が施されている。 | 褐色、内面は赤褐色<br>砂粒、石英粒<br>焼成は良好 | |
| 第226図20 | 土師器<br>高坏<br>脚部 | | 小形の高坏と思われる脚部は緩やかに外反して開き、内窓？を有している。 | 粗いヘラ削りの調整が行われている。<br>内面は横ナデが施されている。 | 黄褐色<br>砂粒<br>焼成は良く堅い | |

| 遺物番号（図版NO） | 器種 器形 | 法量 | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 色調 胎土・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第226図21 | 土師器 台付甕 台 | | | 外面は細いハケ目が斜行して施されている。内面はやや斜行してナデ整形が行われている。 | 淡黄褐色、内面は灰褐色 砂粒 焼成は良好 | |
| 第226図22 | 土師器 台付甕 台 | | | 外面に斜行するハケ目が、また内面は横位あるいは斜行するハケ目で充填されている。 | 淡赤褐色、内面は明褐色 多量の砂粒 | |
| 第227図 1 | 土師器 器台 | 脚接合部 最小径 3.8 脚部 最大径 8.9 | 坏部を欠損しているが皿状を呈するものと思われる。脚部は直線的に外反して開き3つの円窓を有する。 | 坏部との接合部にハケ目が残っている。頸部から3つの円窓周辺を中心に縦位あるいは斜位にハケ目が施されている。またヘラ削りも見られる。脚部内面は横位および斜位のハケ目が施されている。 | 明褐色、内面は褐色 砂粒、石英粒 焼成は良く堅い | |
| 第227図 2 | 土師器 高坏 脚部 | 坏接合部 最小径 3.1 | 坏部および脚裾部のほとんどを欠損しているが小形の高坏である。 | 外面はヘラ削りによって調整が行われている。内面は横ナデが施され一部ハケ目が見られる。 | 淡赤褐色、内面は淡黄褐色 砂粒 焼成は良好 | |
| 第227図 3 | 土師器 台付甕 台 | | | 外面は縦位あるいは斜行するハケ目が施されている。内面の底部は一部ハケ目があるがヘラの先端によって縦位に調整されている。また台部内面は若干ハケ目が残されている。 | 淡黄褐色 砂粒 焼成は良好 | |
| 第227図 4 | 土師器 台付甕 台部 | 台接合部 最小径 5.1 | 台部との接合部付近の破片で台部口縁はあまり広くならない。 | 外面はやや粗雑なハケ目が施されている。また内面の底面および台部にもハケ目が施されている。 | 橙褐色、内面は灰褐色 砂粒、石英粒 焼成は良好 | |
| 第227図 5 | 土師器 手捏土器 | 口径(推) 最小径 3.1 底部 最小径 3.2 現高1.8 | 底部は不整円形を呈し中央がややへこんでいる。口縁部を欠損している。 | 指頭で成形の後ヘラによって粗い調整が行われている。 | 黄褐色 砂粒 焼成は良好 | |
| 第227図 6 | 土師器 手捏土器 | 口径(推) 5.2 底部 最小径 4.1 現高3.8 | 口縁部を欠損している底部は楕円形を呈する。底面近くにややふくらみを持つ。 | 指頭およびヘラによって成形されている。器面内外にヘラの刺突痕も残されている。 | 淡黄褐色 砂粒 焼成は良く堅い | |
| 第227図 7 | 土師器 手捏土器 | 口径(推) 4.6 底径4.5 現高2.3 | 底部は不整円形を呈し中央がややへこんでいる。(指頭痕が残されている)口縁部を欠損している。 | | 淡灰褐色 砂粒多、石英粒 白色粒 焼成はあまり良くない | |
| 第227図 8 | 須恵器 甕 胴部 | | | 外面は平タタキの上に回転カキ目が施されている。内面はヘラ状工具によって調整されている。 | 青灰色、内面は灰褐色 細砂粒 焼成は良好 | |

| 遺物番号<br>(図版NO) | 器種<br>器形 | 法量 | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 色調<br>胎土・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第227図 9 | 須恵器<br>甕<br>胴部 | | | 外面は回転カキ目が施されている。<br>内面はヘラ状工具によって調整されている。 | 黒褐色、内面は灰色<br>細砂粒<br>焼成は良好 | |
| 第227図10 | 須恵器<br>甕<br>胴部 | | | 外面はヘラ削りが行われており、内面は回転カキ目が施されている。 | 淡褐色、内面は青灰色<br>細砂粒<br>焼成は良好 | |
| 第227図11 | 須恵器 | | | 外面は平タタキが施されている。<br>内面はヘラによって調整が行われている。 | 灰白色<br>砂粒<br>焼成は良好 | |
| 第227図12 | 須恵器<br>甕<br>胴部 | | | 器面内外に回転カキ目が施されている。 | 暗淡褐色、内面は淡褐色<br>砂粒、小礫<br>焼成は良好 | |
| 第227図13 | 須恵器<br>甕<br>胴部 | | | 外面は平行タタキの上に回転カキ目が施されている。<br>内面はヘラ削りによって調整されている。 | 灰褐色、内面は青灰色<br>細砂粒<br>焼成は良好 | |
| 第227図14 | 須恵器<br>蓋<br>胴部 | | | 外面はタタキによって調整が施されている。<br>内面はヘラ削りが施されている。 | 灰色、内面は灰白色<br>細砂粒<br>焼成は良好 | |
| 第227図15 | 須恵器<br>甕 | | 天井部に中ふくらみのつまみが付いている。 | 器面内外共回転ヘラ削りが施されている。 | 灰褐色<br>細砂粒<br>焼成は良好 | |
| 第227図16 | 須恵器<br>坏<br>底部 | | | 底面は回転ヘラ削りが施されている。<br>内面はナデによる調整が行われている。 | 青灰色、内面は灰色<br>砂粒<br>焼成は良好 | |
| 第227図17 | 灰釉陶器<br>碗？<br>胴部 | | | 器面全体に施釉されている<br>内面はヘラ状工具によって調整されている。 | | 淡緑色釉がかかっている。 |
| 第227図18 | 灰釉陶器<br>碗 | 底径(推)<br>6.5 | 高台を持つ。 | 器面内外共回転ヘラ削りが行われている。 | 灰白色 | 底面に乳のかかっている。<br>内部白釉がかかる。 |

| 遺物番号<br>(図版NO) | 器種<br>器形 | 法量 | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 色調<br>胎土・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第227図19 | 灰釉陶器 | | | 器面内外共、回転ヘラ削りが行われている。 | 灰褐色 | 底面内部に淡緑色の釉がかっている。 |
| 第227図20 | 土師器<br>不明<br>口縁部 | | | 器面内外にヘラによる調整が行われている。 | 赤褐色<br>砂粒<br>焼成は極めて良い | |
| 第227図21 | 土師器<br>坏<br>底部 | 底形7.4 | 口縁部を欠損している。内面底部は上底になっている。 | 器面内外は、ヘラによって成形が行われている。 | 赤褐色<br>砂粒<br>焼成は極めて良い | |

## 4．小　結

第Ⅱ次調査は第Ⅰ次調査の東隣を対象としたが、全体が急傾斜の窪地となっており、ここに遺物が投棄された状態で検出された。これにより、縄文時代早期前半～中期後半、古墳時代中期、平安時代～室町時代のものが確認された。とりわけ縄文時代中期前半～後半のものについては莫大な量である。

縄文時代早期前半の遺物は、第Ⅰ群とした土器3点のみであった。いずれも楕円押型文土器であり、その粒は小さくやや古い時期のものであろう。うち1点は乳房状の尖底部破片であり、最下部まで楕円粒が施されている。

前期前半の遺物は、第Ⅱ群とした土器が118点出土している。そのほとんどのものが関山式土器の範疇に入るもので、若干他型式のものが混在するようである。いわゆる羽状縄文系土器群であり、正反の合、付加条、結節・ループ文、組紐文などが施されている。

中期前半～後半の遺物は、阿玉台式土器、勝坂式土器、曾利式土器、加曽利Ｅ式土器及び北屋敷式土器が厚く堆積して発見されている。このうち、勝坂式土器と北屋敷式土器の関係については後述する。この他、県内西部における大畑Ｃ2式、中原式土器などが混在している。また、中期中葉のものと思われる焼けた骨片の出土は大変興味深い。これは、当時の地形や食習慣を探る重要な資料となろう。

石器は、早期～中期にかけてのものであり、礫器、石鏃・石匙・打製石斧・磨製石斧・磨石・石皿・石棒・石錘・円板状石器・ピエスエスキーユ・各種石器が出土している。石質については、前述のように第4表及び33表及び第Ⅲ章第2節2Ｂ-イにおいて述べている。また、図化しなかったがその材料となる石片を含めて、遺跡における石器のあり方わけても石質の問題に新たな資料として興味が持てるものとなるであろう。

古墳時代中期では、Ｂグリッドにおいて中期の住居址が検出されている。西側半分のプランは消滅していたが、竈及びこれに伴う甕形土器はその共伴関係を証明するものであろう。また住居内には壁溝が巡っている。

平安時代～室町時代の遺物は、第Ⅲ章第2節3Ｂのその他の土器で述べているように、灰釉陶器及び坏形土器が出土している。いずれも平安時代の所産と思われる碗形土器（高台が付く）と坏形土器である。ただ、第227図17～21のうち、17については室町時代くらいまで時代が降るのかも知れない。

今回の調査では、勝坂式土器や北屋敷式土器を始めとする縄文時代中期の遺物が大量に出土した。その堆積状況を見ると、Ｂ・ＣグリッドからＡグリッドにかけての傾斜した窪地に投げ込まれたようであり、その開始時期は中期中葉から多くなり、後葉がピークとなるようである。この事は、勝坂式土器と北屋敷式土器との共伴関係にかかわるものであり興味深い。

# 第Ⅳ章　北屋敷式土器について

## 第１節　研究略史

昭和28年、久永春男氏によって命名された「北屋敷式土器」は、その分布範囲が現在では愛知・三重・岐阜・長野・静岡・神奈川・東京の1都6県におよび、約50ケ所以上から出土している。久永氏は、『解説三河の縄文土器』－『豊橋市公民館郷土室史料目録』で「…器形が複雑化し、くの字形に内側に屈折した口辺部が多くなる。先端の鋭い器具による三角形の刺突文の盛行は指標をなす。関東地方の阿玉台と類似した部分を持つ…」としている。同38年、紅村弘氏は「東海の先史遺跡三河編」で北屋敷式土器を二分し、古い方は大形の爪形文や縄文のみられる型式で、新しいほう縄文は少なく三角形の刺突文が盛行し、久永氏の北屋敷式と同一であるとした。同じく38年、長田実・向坂鋼二氏は、『静岡県の縄文文化』－「静岡県の古代文化」で、静岡県中部（静岡・清水の平野部）および遠州平野で、「…肥厚した口縁部に特殊な連続爪形文を施した薄手の土器、すなわち北屋敷式土器が普遍的に伴出する…」と述べ、これについて北屋敷Ⅰ、北屋敷Ⅱに分類している。編年的には、北屋敷Ⅰ式土器が勝坂式土器と、また北屋敷Ⅱ式土器が加曽利Ｅ式土器と平行関係にあり、さらに、北屋敷Ⅱ式土器については遠州平野において加曽利Ｅ式土器と同量出土するのに対して、それ以東では客体的に伴うものとしている。

同40年、大参義一・市原寿文氏は『縄文時代　東海』－「日本の考古学Ⅱ」に、勝坂式併行としながら、清水市高部山遺跡では加曽利Ｅ2式土器が併存することにより、静岡県への波及は当土器の中でも新しいグループで加曽利Ｅ式期と考えた。同５１年、山下勝年氏は「清水ノ上貝塚」の中で、北屋敷式土器が大量に出土し、層位的に分離できたと報告している。その型式的特徴から4分類し、第2類とした北屋敷式土器をＡ）先端三角形の施文具で、口辺部につくった区画の中や口縁にそってくの字状の連続爪形文、Ｂ）棒状・ヘラ・半割竹管で口辺部に押引きによる沈線や連続刺突文、Ｃ）口縁部を肥厚させ、半割竹管で平行線や隆帯、Ｄ）無文で構成されるとし勝坂式土器に平行し、山間部と平野部における両者の比率のちがいを述べている。

同54年、加藤賢二氏は白岩下遺跡の採集資料を報告し、Ⅱ群土器として分類した北屋敷式土器は、特徴を各種の刺突文を主文様とすること、薄手の土器であること、口縁部が肥厚すること等を挙げ、「…Ａ類・Ｂ類は波状口縁と平口縁のちがいで、両者の共通点として口唇部が内側に反り、上から見ると多角形となるが、胴部以下は円形を呈する。口縁部外面は丁寧に調整されているが、内側においては粘土の積み上げが残されているなどの2点があり、施文具の相違でさらに細分される。主体分布は、北屋敷貝塚・清水ノ上貝塚・白岩下遺跡・柄沢東遺跡などの海岸沿いに東西に長く見られ、客体として岐阜県や上伊那に分布している。編年的に井戸尻Ⅲ式期平行とする。系譜は井戸尻Ⅱ式期の資料中に類似した口縁部形状や施文のみられる物があり、それらが南下することによって刺突文が強調されて別型式が形成されたのだろう」と

している。阿玉台式土器との関係はその分布より否定している。同56年、紅村弘氏は「東海先史文化の諸段階本文編補足改訂版」で、北屋敷Ⅲ式土器は鷹島式土器につながり、「…（東海地方の）中期中葉は北裏ＣⅠ～島崎Ⅰａ式以後停滞的に爪形文土器を主体とする独自的な型式分布圏を構成する。北屋敷式土器はその最後の一群であるが、爪形文土器系列の型式組成は解明されていない。…」としている。

## 第２節　公蔵免遺跡出土の北屋敷式土器及び関連土器

本遺跡からは、Ａグリッドを中心に大量の勝坂式土器などと共に、約2000片にものぼる北屋敷式土器（以下、当土器という。）が出土している。第24･25図に見るように、そのほとんどのものが勝坂式および曾利式土器に混在しており、傾斜した窪地ではあるがその堆積状態から共伴関係は明らかであろう。当土器はまた、第240～244図・図版52～55のように10個体以上のものが復元（一部図上復元）されている。これは今まで、その器形について十分な把握ができなかった当土器の解明に向けて良好な資料となろう。

本節では当土器を主体に、これに混在している東海地方以西の土器について述べていく。ここでは、第245図のように第1類～7類に分類して説明し、併せて若干の所見を提示してみたい。

**第１類土器**―櫛歯状工具等による「く」の字状の連続刺突文が施されているものを本類とした。第228図～232図1～3及び第240図･241図がそれである。ａ種～ｄ種に分類して説明する。

ａ種：「く」の字状の連続刺突文が1条施されているもので、第228図1～12がこれにあたる。1～6･8･9は、口縁部に角状の突起を有するものであり、その形状も様々である。6･8･9は不明であるが、1のように角状の大きな突起が内側に向かって付けられているもの、3のようにやや内彎しているもの、2･4･5のようにほぼ直行しているものなどがある。1の角部は肉厚に仕上げられており、口縁部にかけて逆「く」の字状に内彎している。表面はヘラによって丁寧に調整されている。また、突起及び口唇の内面には調整の際の指頭圧痕が見られる。突起の裾部両側には密接して「く」の字状の連続刺突文が1条施されている。器厚は4㎜～6㎜と薄い。焼成は良好で堅い。胎土中に小礫･金雲母･黒雲母･長石等が含まれている。色調は暗灰褐色を呈する。突起は鋭く尖り、先端に向かってやや左に曲がっている。施文は、口唇がテラス状になった部分に行われているもので（6･8はやや斜めであるが同様である）1は、突起の屈曲部が大きく把手状に張り出しているが2･3･5のように若干つまみ出しを行っているものや、4のようにいずれも見られないものなどがある。3は、肉薄の口縁に突起用の粘土を包み込むようにして接合しているが、接着面のナデは不十分で隙間が見られる。また、突起は両側からのつまみ上げによって仕上げられている。6は、拓本では判別できないが、「く」の字の部分が微妙な「ズレ」を生じており、これは単に工具のかたちによるものというより、薄く短いヘラを角度を変えることによって「く」の字状に表現したものではないかと思われる。器面内外に擦痕が顕著に見られる。また煤が付着している。8は、角状の突起を欠損しているが下部に小突起が2つ重なるように付けられている。これはまず、一番外側の突起をつまみ出しによって作った後に、欠損している部分の突起を貼り付けている。さらにその後2つの突起の間を跨ぐように別の突起を

付けるという、わりあい手の込んだ方法によって作られている。10は、胴部の縊部分にあたる破片であり、この縊部に「く」の字状の連続刺突文が1条施されている。また、「×」状に粘土を貼り付けて小突起としている。下部にも「く」の字状の連続刺突文が見られる。器厚は縊部で2.5㎜、その他で5㎜と薄い。焼成は良好で堅い。胎土中に細砂が含まれている。色調は淡褐色を呈する。内面には多量の煤が付着している。11は、内傾する口縁でありこれから粘土のつまみ出しを行っており小突起部を作り出している。そして口縁に添って「く」の字状の連続刺突文が1条施されている。口唇部は肥厚しているが、下部は4㎜～5㎜前後と薄い。焼成は良好で堅い。胎土中に細砂が含まれている。色調は淡赤褐色～黒褐色を呈する。内面に煤が付着している。7･12は、口縁の段帯下部に「く」の字状の連続刺突文が施されている。

b種：「く」の字状の連続刺突文が1条＋ヘラによる半月状の連続刺突文が施されているもので、第228図13がこれにあたる。口縁はやや内彎しており、上部は直行気味にいくぶん外反している。また口唇部は尖っている。区画された中に「く」の字状の連続刺突文を1条施してあり、下部の隆線上に半月状の連続刺突文が施されている。口縁上部については、逆「く」の字状に内彎した口縁の上に粘土を重ねて貼り付けてある。器面内外とも調整の際の指頭圧痕が残されている。内面には、粘土接合の際の痕跡が明瞭に残されている。煤が付着している。焼成は良好で堅い。胎土中に黒雲母が含まれている。色調は明褐色～灰黒褐色を呈する。

c種：「く」の字状の連続刺突文が1条＋ヘラによる「∩」状の刻み目が施されているもので、第229図1がこれにあたる。やや内彎する口縁であるが、口唇部は丸みを帯びて肥厚し外反している。器面内外ともヘラにより丁寧な調整が行われている。

d種：「く」の字状の連続刺突文が2条施されているもので、第229図2～7がこれにあたる。2･6は胴部の縊部分にあたる破片であり、ここに2条「く」の字状の連続刺突文を施してある。上段は直線的に、また下段は「∽」状にそれぞれ施してある。6は、「く」の字状ではあるが櫛歯ではなく、ペン先状工具によって連続刺突文が施されている。4は、内彎する角状突起の裾部両側に「く」の字状の連続刺突文が2条施されている。この2条のうち上段はやや大きく、また下段は小さい工具によって施文されている。5･7は同一個体であり、角状突起の部分を5の右上方に当てはめるとピッタリ一致する。7は、口唇部及び角状突起の部分は粘土紐を逆「く」の字状に内彎した口縁部に貼り合わせて折り返しの口縁部を作り、さらに角状突起に仕上げている。突起はやや外反しており全体が丸味を帯びている。2条の「く」の字状施文は、左側が横位にまた右側はこれに乗り上げるように斜位に施されている。外面は擦痕が見られるが、突起部及び内面には指頭圧痕が多く見られる。内面には煤が付着している。5は、折り返し部に「く」の字状の連続刺突文の上段が施されているが、返し部の粘土接合面がやや不十分なため、文様が分断されている。施文の条間は指頭あるいはヘラ等によって「ナデ付け」が行われている。器厚は3㎜～5㎜前後と薄い。焼成は良好で堅い。胎土中に多量の小礫及び淡黄褐色粒･金雲母が含まれている。色調は暗赤褐色を呈する。内面は煤が付着している。

e種：「く」の字状の連続刺突文が2条施された中にヘラによって「▽」状の刺突文が見ら

れるもので、第229図8～13及び第230図1及び第240図1･3･4がこれにあたる。8は、厚みのある角状突起であるが、粘土を内側に折り曲げて作っているが、その合わせ目は十分な調整をしておらず、完全に接合していない。突起はほぼ直行しており、これの両側面に区画するように「く」の字状の連続刺突文が施されている。さらにこの中にヘラの先端により刺突文が付けられている。これについてはｅ種（2条の施文）として扱ったが、1条の類に入れるべきかもしれない。10･11は、やや外反する角状突起であるが、外側中位につまみ上げによる突起が見られる。「く」の字状の連続刺突文は突起の両側裾部に施されており、条間にヘラによって刺突文が付けられている。さらにやや離れた口縁上には、これと水平に貼り付けによる小突起が見られる。第230図1は、平坦な口縁をなしておりこれと水平に等間隔で突起が付けられている。この突起と内側に折り返されている口唇は後からの粘土の貼り付けによるものである。口縁は多角形となり、突起はおそらく11個位と推定される。口唇上及び外面は丁寧な調整が行われている。内面は指頭圧痕が顕著に見られる。第240図1（図版52-1）は、ｅ種におけるもののうち器形の分かる土器であるが、角状突起の下に本種の施文が見られ、その隣にはａ種の施文となっており、これを繰り返して口縁を巡っている。口唇部の推定径16.5cm。これも第230図1と同様口唇及び角状突起は後からの貼り付けである。3･4（図版52-3･53-1）は、図面上において復元したものであるがその器形の特徴がよく分かる資料である。いずれも「く」の字状の連続刺突文が2条施された中に「▽」状の刺突文が付けられている。角状突起については両者ともほぼ同様の形状であるが、その下部において大きな違いが見られる。3は、突起の下部に粘土紐を「×」状にして貼り付け橋状把手としている。胴部の縊部は「く」の字状の連続刺突文が2条施された上位に「▽」状の刺突文が付けられている。これに対して4は、突起の下部を五角形に区画しこの中に施文している。やはり胴部の縊部は同様の施文となっている。図のとおり胴部で大きく縊れ、腰部が丸く張る土器である。器面内外とも調整の際の擦痕や指頭圧痕が多く見られる。器厚は3㎜～5㎜と薄い。焼成は良好で堅い。胎土中に石英粒･淡黄褐色粒及び金雲母が含まれている。いずれも内面に煤が付着している。

ｆ種：「く」の字状の連続刺突文が2条施された中にヘラによって「△」状の刺突文が見られるもので、第230図3～6及び第240図2がこれにあたる。3は、胴部の縊れた部分の破片であり、ここに「く」の字状の連続刺突文が2条施され、さらにこの中にヘラの先端により刺突文が付けられている。器厚は3㎜～5㎜と薄い。第240図2（図版52-2）は、当土器のユニークな器形の特徴が良く出ている資料である。口縁上には5つの角状突起が付いており、この突起の間にはつまみ出しによって横位に突き出る小突起が見られる。いずれもかなり外反している。他例でもそうであるが、やや内彎する口縁に別の粘土を重ねて平縁な口唇部にし、さらに別の粘土をつまみ上げるようにして角状の突起を作っている。これらそれぞれの粘土の接合は決して十分ではなく、内面には若干剥離したままの状態が見られる。「く」の字状の連続刺突文が2条施された中にヘラによって「△」状の刺突文が付けられているが、場所によっては1ｎ種のような施文になっている。このことは、別の部分が横位の「△」状施文を一回ですましているのに

対して、この場合は数回刺突しているようである。しかしここでは、1類ｆ種として捕らえている。外面は良く調整されており、口唇上及び内面は指頭圧痕が顕著に見られる。口唇部の径30.3cm、高さ30.5cmを測る。大きく広がって逆「く」の字状に内彎する口縁部であるが、胴部下半でキュッと縊れて腰部が丸く張っている。ここには文様は見られない。焼成は極めて良好で堅い。胎土中に細砂及び金雲母が含まれている。色調は淡褐色～暗褐色を呈する。第230図6は、ｆ種として施文の他下部にヘラによって「D」状の刺突文が付けらけれており、ここでは1f'種としておきたい。この土器における「く」の字状の連続刺突文は、力強く施されているためかあるいはやや乱暴に施されているためか、いずれにしても崩れた文様になっている。

ｇ種：「く」の字状の連続刺突文が2条施された中にヘラの先端によって「□」状の刺突文が見られるもので、第230図7･8がこれにあたる。両者とも有段状の口縁部下に施文されており「□」状の施文は三段づつ連続して行われている。口唇部は丸みを帯びておりやや外反している。器面内外とも調整の際の指頭圧痕が見られる。器厚は5㎜～7㎜である。焼成はわりあい良好で堅い。胎土中に淡黄褐色粒及び淡灰白色粒が含まれている。色調は灰褐色（7）及び暗褐色（8）を呈する。

ｈ種：「く」の字状の連続刺突文が2条施された中にヘラの先端によって「d」状の刺突文が見られるもので、第230図9がこれにあたる。口縁部の破片であり、角状突起の上半部を欠損しているが、その突起はやや外反するものと思われる。突起の下部は粘土のつまみ出しにより小突起を作っている。また、角状突起との間にはヘラの先端によって「∪」状の刺突文が付けられている。器面内外とも調整の際のヘラ及び指頭圧痕が見られる。焼成は良好で堅い。胎土中に多量の石英粒と砂粒及び金雲母が含まれている。色調は淡褐色を呈する。

ｉ種：「く」の字状の連続刺突文が2条施された中にヘラの先端によって「D」状の刺突文が見られるもので、第230図10及び240図5がこれにあたる。胴部の縊部分の破片であり、この縊部に「く」の字状の連続刺突文が2条施された中に「D」状の刺突文が付けられている。第240図5（図版53-2）は、やや内彎する角状突起を持ち、その下部に粘土紐を「×」状に貼り付けてある。「く」の字状の連続刺突文は2条密接して施されており、下段に近いほうに「D」状の刺突文が付けられている。口唇部は肥厚し内彎しているが、肉薄の口縁上部にさらに粘土を包み込んで仕上げている。器厚は口唇部で6㎜～8㎜、胴部で3㎜～5㎜と薄い。焼成は良好で堅い。胎土中に細砂が含まれている。色調は暗褐色を呈する。

ｊ種：「く」の字状連続刺突文が2条施された中にヘラの先端を押し引くことによって「O」状の刺突文が付けられている。第231図1がこれにあたる。やや内彎する口縁部にさらに粘土を包み込んで口縁部とし、つまみ出しにより小突起を作り出している。器面内外ともヘラによって丁寧な調整が行われている。また、口唇部の内外には指頭圧痕が見られる。器厚は5㎜～7.5㎜である。胎土中に小礫及び淡黄白色粒が含まれている。色調は明赤褐色を呈する。

ｋ種：「く」の字状の連続刺突文が2条施された下にヘラによって「∫」状に施文されており、さらに下部に「く」の字状の連続刺突文が見られるもので、第231図2･3がこれにあたる。

2は「く」の字状の外反する口縁部であり、口唇部は尖頭状をなしている。器面内外には指頭圧痕が見られ、また内面には煤が付着している。焼成は良好で堅い。胎土中に金雲母・黒雲母及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は暗灰褐色を呈する。3は、口縁部にさらに粘土紐を貼り付けて段帯としている。

I種：これまでの「く」の字状の連続刺突文（横位）に加えて、その上方に縦位の「く」の字状の連続刺突文が見られるもので、第231図4がこれにあたる。この縦位施文は半隆帯の両側縁にも方向を替えて施されている。

m種：「く」の字状の連続刺突文が2条施され、この下部に縦位の「く」の字状連続刺突文が見られるもので、第241図1（図版53-3）がこれにあたる。逆「く」の字状の口縁部にさらに粘土紐を貼り合わせて段帯としている。欠損はしているもののその痕跡から3つの角状突起が付けられていたものと思われる。突起部下は、「〓」状に粘土紐を貼り付けてあり、その区画内は無文部となっている。胴部は調整の際の擦痕が見られ、口縁部及び内面には夥しい指頭圧痕が見られる。胴部下半には文様が施されていないようである。また、腰部の器形については不明である。口唇部の径18.5cm、現高19.5cmを測る。焼成は良好で堅い。胎土中に多量の金雲母・砂粒及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は赤褐色を呈する。

n種：「く」の字状の連続刺突文が2条施された中に縦位の「く」の字状連続刺突文が見られるもので、第231図5～12及び第241図2がこれにあたる。第231図5は、胴部の縊部分の破片であり、この縊部に連続した「〓」状の区画内に施文されている。これは当土器における文様構成の特徴である。器厚は、3.5㎜～5.5㎜と薄い。第241図2も同様の土器である。第231図7・11は、大きく逆「く」の字の口縁をなしており、ややもするとその形状・角度を見誤るところである。12は、角状突起の上半部を欠損しているが、この突起の縁側から口縁部に添って施文されている。しかし、「く」の字状の連続刺突文が2条施された中に見られる刺突文は、必ずしも縦位ばかりにとどまらず、また単に「く」の字状でもなく「◁」状に押し引いて施文している。さらに逆方向からの施文も見られる。これは工具の違い（ペン先状）若しくは施文の際の刺突の強弱及び深浅の度合によるものであろう。やや内彎する口縁に厚い粘土を貼り合わせて丸く肥厚した口縁部を作り出し、これを伸ばして角状突起に仕上げている。焼成は良好で堅い。胎土中に小礫及び石英粒・砂粒が含まれている。色調は淡灰褐色～暗灰褐色を呈する。内面には多量の煤が付着している。

o種：「く」の字状の連続刺突文が3条～4条施されているもので第231図13～15・第232図1及び第241図3・4がこれにあたる。第231図13は、胴部下半の縊部分の破片であり、斜位に3条「く」の字状の連続刺突文が施されている。器面内外に調整の際の指頭圧痕が見られるが、内面には「指紋」も認められる。器厚は4.5㎜～6.5㎜と薄い。焼成は良好で堅い。胎土中に多量の砂粒・石英粒及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は暗褐色を呈する。15は、わずかに内彎する口縁に4条「く」の字状の連続刺突文が施され、平行する隆帯で仕切られさらにこの下部に同様の施文が見られる。焼成は極めて良く堅い。器厚は3㎜～5㎜と薄い。胎土中に多量の金雲母と小

礫・淡黄褐色粒が含まれている。色調は黒褐色を呈する。第241図3（図版54-1）は、口唇部での推定径36cm前後である。尖頭状突起の下部に、粘土紐を「×」状に貼り付けている。また口縁に添って3条「く」の字状の連続刺突文が角度を替えて施されている。逆「く」の字状に内彎する口縁部にさらに粘土を包み込んで口唇部や突起部を作り出している。第241図4（図版54-2）は、直行若しくはやや内彎する4つの角状突起を配しており、口縁に添って「▽」状の区画内に3条「く」の字状の連続刺突文が施されている。突起の下部は当土器にあっては珍しく懸垂する隆帯が付いている。また胴部はストレートに長く下部において丸く張り出している。ここには文様は見られない。外面は良く調整されている。また内面には指頭圧痕が見られる。口唇部の径30cm前後、現高35.5cmを測る。焼成は良好で堅い。胎土中に細砂が含まれている。色調は黒褐色を呈する。

p種：「く」の字状の連続刺突文を2条施し、二本の半隆線を挟んでそれぞれ1条づつ「く」の字状の連続刺突文を施してある。第232図2がこれにあたる。さらにこの下部にヘラの先端によって「◁」状の刺突文が付けられている。

q種：第241図5は、大きく逆「く」の字状に内彎する口縁に、間隔の差はあるものの波状に突起が付けられている。この突起と内傾する口唇は後からの粘土の貼り付けによるものであるが、わりあいに雑な接合となっている。口縁は多角形となり、突起はおそらく9個位と推定される。「▽」状の区画内に「く」の字状の連続刺突文が2条施された中に、ヘラの先端によって「◁」状の刺突文が方向を替えて付けられている。焼成は良好で堅い。胎土中に多量の小礫及び金雲母・淡黄褐色粒が含まれている。色調は暗褐色を呈する。外面はヘラ等による調整痕、口唇部及び内面には指頭圧痕が見られる。

**第2類土器**—櫛歯状工具等による「‖」状の連続刺突文が施されているものを本類とした。第232図3～15及び第233図1～3がそれである。a種～d種に分類して説明する。

a種：「‖」状の連続刺突文が1条施されているもので、第232図3～6がこれにあたる。3～5はいずれも角状の突起を有するものであり、その作り方も様々である。3は、やや内彎気味に口縁に別の粘土を貼り合わせて口唇部及び角状突起を作っている。焼成はあまり良くない。胎土中に小礫・細砂及び淡黄褐色粒が含まれている。色調は淡褐色～暗褐色を呈する。器面内外とも調整は粗く指頭圧痕が見られる。内面には煤が付着している。4は、直行若しくはやや外反する口縁の内側に粘土を貼り付けて角状突起としている。角部の外面は粘土を尖頭状に伸ばす際の包み込みが不十分である。これは内面においても同様である。また内面には接合時における「指紋」が認められる。器厚は突起部下で2.5㎜と薄い。6は、胴部の縊部分の破片であり、ここに「‖」状の連続刺突文が施されている。

b種：「‖」状の連続刺突文が1条施された中にヘラによって「▽」状の刺突文が付けられている。7・9・10・12～14は口縁部横に小突起が見られるものである。特に7は、内彎する口縁部にさらに粘土を包み込んで平坦な口縁部とし、これと水平につまみ出しによって突起に仕上げてある。また、口唇部は粘土を内側に折り返してあるが、その接合は粗雑である。8は、口唇

部にヘラによって「‖」状の連続刺突文を1条施した中に「▽」状の刺突文が付けられ、さらに「‖」状の連続刺突文の下部にヘラによって「▷」状の刺突文が見られる。内面を見ると3回ほど粘土を重ねて口縁部を作っているが、接合の際の「ナデ」はごく簡単に行われている。

c種：「‖」状の連続刺突文が2条施されているもので、第233図1～3がこれにあたる。しかし、1については器形及び文様構成は酷似しているものの別形式として考えたい。（おそらく勝坂式系統のものであろう）2は、大きく内彎する口縁部に細い櫛歯状工具によって、「‖」状の連続刺突文が2条ほとんど密接して施されている。逆「く」の字状の口縁部の上端にさらに粘土で包み込んで口唇とし、これを内側に折り込んである。3は、「▽」状の区画の内外、つまり隆帯の両側に添って「‖」状の連続刺突文を施してある。ここでは、2条施したものとしているが、これまでのものとはやや様相を異にしている。また、上位の連続刺突文の中には、半截竹管によって「⌒」状の刺突文が付けられている。器厚は口唇部で5㎜、口縁下部で4.5㎜と薄い。焼成は良好で堅い。胎土中に多量の石英粒及び砂粒が含まれている。色調は灰褐色～明黄褐色・黒褐色を呈する。

d種：「‖」状の連続刺突文が3条施されているもので、第233図4・5がこれにあたる。4は、外反する角状突起で（上部を欠損）、ここから両側裾部に2条～3条「‖」状の細い連続刺突文が施されている。5は、口縁下部の破片であるが「‖」状の連続刺突文を横位に施した下に「⌒」状に2条施してある。

**第3類土器**—ヘラ状工具による「‖」状の連続刺突文が施されているものを本類とした。第233図6～15がそれである。a種～k種に分類して説明する。

a種：ヘラにより「)(」状の文様が施されているもので、第233図6がこれにあたる。やや内彎し段帯を有する口縁部にヘラによって施文されている。

b種：「((」状の連続刺突文が1条施されているもので、第233図7がこれにあたる。口縁部の上端はさらに粘土を重ねて肥厚させているが、その接合はあまり綺麗ではない。器面内外には指頭圧痕が顕著である。器厚は口縁下部で3.5㎜と薄い。焼成は良好で堅い。胎土中に淡黄褐色粒が多量に含まれている。色調は赤褐色～暗褐色を呈する。

c種：「((」状の連続刺突文が1条施された中にヘラによって「▽」状の刺突文が見られるもので、第233図8がこれにあたる。

d種：ヘラにより「((」状の連続文様が施され、下部にやはりヘラにより「▽」状の刺突文が付けられている。口縁部は短い折り返しによって段帯をなしている。第233図9がこれにあたる。

e種：半截竹管による刺突及びヘラによる押し引きによって2条～3条「(( 」状の連続文様が施されているもので、第233図10及び第242図1（図版54-3）がこれにあたる。第233図10は、連続施文された条間に「⌒」状にも施文している。第242図1は、口縁部に15の小突起を有し、ここから連弧状（一部Y字状に）に隆帯が付けられ、この内側に2条ヘラによって「((」状の押し引き文が連続して施されている。文様は口縁部のみで、胴部にはまったく見られない。器面

内外には調整の際のヘラ等の擦痕及び指頭圧痕が顕著に見られる。口唇部の径36.5cm前後、現高35.5cmを測る。焼成は極めて良く堅い。胎土中に淡黄褐色粒・白色粒・金雲母及び砂粒が含まれている。色調は明赤褐色～黒褐色を呈する。

f種：ヘラにより爪形文状に連続した刺突文を2条施してある。第233図11がこれにあたる。上下それぞれ向きを替えており「〳〵」状に付けられている。やや内彎する角状突起であると思われるが欠損しており不明である。突起部下及び右裾部はヘラの先端によりやや無秩序な刺突文が見られる。口唇部と突起部については、後からさらに粘土を重ねて作っているが、比較的綺麗な仕上がりとなっている。器面内外には調整の際のヘラによる擦痕が顕著に見られる。

g種：ヘラにより爪形文状の連続した刺突を2条施してある。第233図12がこれにあたる。上下同一方向にしかも重なるように「〳〵」状に付けられている。

h種：ヘラによる爪形文状の連続刺突文が2条施された上位に別のヘラの先端によって「∧」状の刺突文が見られるもので、第242図2（図版55-1）がこれにあたる。口縁部に4つの尖頭状突起を有するもので、その突起はかなり外反している。突起下は「◇」形に区画されており、この中にも施文されている。文様は口縁部のみであり胴部には見られない。胴部は下半においてゆるやかに縊れるが、腰部はあまり張らない。口唇部の径33cm前後、現高30cmを測る。焼成は良好で堅い。胎土中に多量の淡黄褐色粒及び砂粒が含まれている。色調は灰褐色・明赤褐色・黒褐色を呈する。

i種：半截竹管若しくはヘラの先端による爪形文状の連続刺突文は上段が「((」、中・下段が「))」方向に重ねて施文されている。第233図13がこれにあたる。内彎する角状突起はやや左に傾斜している。器面内外とも良く調整されている。

j種：ヘラによって爪形文状の連続刺突文がi種とは逆に上・中段を「))」、下段を「((」方向に重ねて施文している。第233図14がこれにあたる。大きい角状突起であり、外反するものであろうが上部を欠損している。また突起の付け根部左側は、ヘラを縦横に使用して刺突している。内面を見ると2回ほど粘土を重ねて口縁及び突起部を作っているが、その接合はわりあいに粗雑である。

k種：ヘラによって爪形文状に連続して刺突あるいは押し引き文が施されているもので、第233図15がこれにあたる。内彎する口縁は上端において直行しやや外反している。ここにヘラにより縦横位及び斜位に爪形文状に施文されている。また「瘤」状の小突起も見られる。器面内外は良く調整されている。

**第4類土器**—棒状工具（丸棒状又は角頭）及びヘラの先端による押し引き文あるいは連続刺突文さらには「D」字状爪形文が施されているものを本類とした。第234図1～24・第235図1～3及び第242図3がそれである。a種～h種に分類して説明する。

a種：棒状工具による押し引き文が施されているもので、第234図1及び242図3（図版55-2）がこれにあたる。第234図1は胴部下半の破片であり、波状の隆帯上位に角頭状の工具によって斜位に押し引き文が見られる。その文様は施文の際の力や角度によって一様ではない。器厚は

3.5㎜～5㎜と薄い。焼成は良好で堅い。胎土中に多量の金雲母及び砂粒が含まれている。色調は明褐色を呈する。第242図3は、口縁部に4つの波状突起を有するもので口縁上部に2条と下部に3条、丸棒状工具による押し引き文が巡り、また突起部下にも垂下する2条の押し引き文が見られる。胴部以下は無文となっている。口唇部の径25.5㎝、現高26㎝を測る。

b種：「D」字状の爪形文が連続して施されているもので、第234図2～7がこれにあたる。3は、波状突起を有する口縁部破片であり、その波状に添ってD字状の爪形文が施されている。また口唇部は逆に施文されている。器厚は突起先端で6㎜、下部で4.5㎜と薄い。焼成は良好で堅い。胎土中に小礫及び石英粒が含まれている。色調は黒褐色を呈する。5は、隆起帯によって区画された中に、D字状の爪形文が密接して施されている。最上位にあっては重複のため沈線のように見える。口唇部は角頭状をなしている。胎土中に多量の金雲母を含んでいる。6・7は、いずれも波状突起を有するものであり、この波状に添って粘土を貼り付けて段帯を作り、この上にD字状の爪形文を施してある。

c種：「D」字状の爪形文が逆向きに連続して施されているもので、第234図8～16がこれにあたる。8は、折り返しによる段帯となっている口縁下部に、逆D字状の爪形文が4条施されている。9は、角状突起の両側裾部に添って1条、また16は、突起下の口縁部に2条それぞれ逆D字状の爪形文が施されている。10・15は、D字状の爪形文を交互に施すことによって「ハ」の字状になっている。器面は良く調整されているが、ヘラによる擦痕が顕著に見られる。器厚は4㎜～5㎜と薄い。

d種：「D」字状の爪形文が上下その向きを替えて施されているもので、第234図17がこれにあたる。角状突起下の口縁部に施文されている。また突起直下には粘土の貼り付けがあり、ここに凹みが付けられ、さらにD字状の爪形文が「∪」状に施されている。

e種：「D」字状の爪形文が「⋃」状に重なって施されているもので、第234図18・19がこれにあたる。いずれも折り返しによって段帯をなす口縁部下に施文されている。

f種：「D」字状の爪形文が逆向きに連続して施され、この下に同一と思われる工具を角度を替え重複することによって連続した爪形文のように施文されているもので、第234図20・21がこれにあたる。20は、さらに下部にも逆D字状の爪形文が施されている。

g種：「D」状の爪形文が3条施され、この中にさらに「∩」状に施されているもので、第234図22・23（同一個体）がこれにあたる。これまでの1類～3類の口縁部に見る文様の一つとも思えるがまったく逆の見地から（拓本・セクションを逆さにして）、底部破片として考えるのはいささか冒険であろうか。

h種：「D」字状の爪形文が上下その向きを替えて施され、さらにその中に「∩」状に施されているもので、第234図24及び第235図1（同一個体）がこれにあたる。内彎する口縁の上端近くに帯状に施文されている。調整は粗雑で器面内外に指頭圧痕が見られる。

i種：「D」字状の爪形文が上下その向きを替えて施され、その下に「∩」状に施されているもので、第235図2・3がこれにあたる。これについては別型式として考えてゆきたい。

**第5類土器**—沈線文＋爪形文・刺突文が施されているものを本類とした。第235図12～23・第236図1～7及び第242図5・第243図1がそれである。ａ種～ｆ種に分類して説明する。

ａ種：口縁部は折り返しによる段帯となっているが、さらにここにヘラによって沈線を1条巡らし、下部に刺突文が付けられているもので、第235図12がこれにあたる。口縁は角頭状をなしている。胎土中に多量の砂粒・石英粒が含まれている。

ｂ種：口縁部に1条から2条の沈線が巡り、折り返しによる段帯部に逆「D」字状の爪形文が施されているもので、第235図13～16がこれにあたる。

ｃ種：口縁部に3条の沈線が巡り、下部に角頭状工具による刺突文が施されているもので、第235図17・18がこれにあたる。18は、折り返し部の粘土の接合は粗雑で隙間が見られる。また、ヘラによる沈線もやや乱暴な引き方である。器厚は4㎜～5㎜と薄い。焼成は良好で堅い。胎土中に金雲母及び砂粒が含まれている。色調は明褐色を呈する。

ｄ種：口縁部及び胴部縦部にヘラによる沈線が施されているもので、第242図5（図版55-3）がこれにあたる。大きく内彎した口縁で、胴長の腰部は強く張っている。口唇部には縄文が施されており、口縁上端部と胴部の縦部に斜位の沈線が施されている。器面内外には調整の際のヘラや指頭圧痕が顕著に見られる。口唇部の径36.5㎝前後、現高27.5㎝を測る。焼成は良好で堅い。胎土中に小礫及び赤褐色粒が含まれている。色調は灰褐色を呈する。

ｅ種：ヘラによる沈線の組み合せからなるもので、第235図19～23・第236図1・2がこれにあたる。第235図19は、口縁下部の大きく張った部分で、数条の沈線の下にヘラによって逆「U」字状の施文が見られる。20は、折り返し口縁の下部に数条の沈線を「∽」状に施してある。下部は剥離しており不明であるが、かなり屈曲して胴部へ繋がるようである。内面には煤が付着している。

ｆ種：刻み目や刺突文と細い沈線が施されているもので、第236図3～7及び第243図1（図版48-3～7）がこれにあたる。第236図5は、ほぼ直行する口縁の上部に連続した刺突文が付けられ、細い沈線が縦位に施されている。7は、折り返し口縁の口唇上に刺突文が充填している。口縁部には細い沈線が縦位に施されている。器厚は3.5㎜～5㎜と薄い。第243図1は、大きく開いた口縁部で波状をなしている。口唇部に刻み目があり、口縁から胴部は細い沈線で充填されている。口縁下部で縊れており、胴部は丸く張り出している。口唇部の径32㎝前後、現高24㎝を測る。焼成は良好で堅い。胎土中に多量の砂粒が含まれている。色調は明褐色～暗灰褐色を呈する。

**第6類土器**—沈線文＋刺突文・押し引き文が施されているものを本類とした。第236図9～22・第237図1・2及び第242図4がそれである。ａ種～ｉ種に分類して説明する。

ａ種：波状突起を有するもので、口唇部及び口縁上端の内外に縄文が施されている。また、口縁部には「∽」状の沈線が施されている。第236図9がこれにあたる。

ｂ種：直線と波状の沈線が施されているもので、10がこれにあたる。器面内外に指頭圧痕が見られ、内面には「指紋」も認められる。胎土中に小礫及び白色粒が含まれている。また、内

面には煤が付着している。

c種：波状の沈線が施された後に、縦位の沈線が施されたもので、12がこれにあたる。

d種：口唇上に横位の沈線があり、細い沈線は口縁部で斜位に交叉、胴部では縦位に施されている。13･14がこれにあたる。いずれも平縁な口縁部をなしやや外反している。13の器厚は口唇部で8㎜、胴部で3.5㎜と薄い。焼成は良く堅い。胎土中に小礫･石英粒･金雲母が含まれている。色調は暗褐色を呈する。

e種：口唇部に逆「D」字状の爪形文が施され、口縁部にヘラによる斜位の刺突文が施されているもので、15がこれにあたる。

f種：口縁上端近くに「△」状の刺突文が施され、口縁部に斜位の沈線が施されたもので、16がこれにあたる。

g種：口唇上に「D」字状の爪形文を施し、口縁部は斜位及び縦位の沈線が施されるもので、17～19及び第242図4がこれにあたる。17～19は波状口縁をなしており、第243図1に近似した口縁になるものと思われる。これらには、胎土中に多量の金雲母が含まれている。第242図4は、平縁な口縁部であり弱く縊れている。胴部の張りはあまり強くない。口唇上に「D」字状の爪形文が施され、口縁部に縦位の細い沈線が施されている他は、胴部はヘラによる擦痕が見られる程度である。底部を欠損しているが、輪積み痕が明瞭に残っており、少なくとも7回以上粘土を重ねたものと思われる。器面内外に指頭圧痕が見られるが、特に口縁頸部に「指紋」が目立つ。口唇部の径17㎝前後、現高16.5㎝を測る。

h種：口唇上に「D」字状の爪形文を施し、胴部に横位及び斜位、下部は斜位に交叉する沈線が施されているもので、20～22及び第237図1がこれにあたる。第237図1は、大きく内彎する口縁で器面全体がヘラによる沈線で充填されている。内面は調整の際のヘラ及び指頭圧痕が顕著に見られる。器厚は口唇部で8.5～9㎜、胴部で6㎜前後。焼成は良好で堅い。胎土中に多量の金雲母及び砂粒が含まれている。色調は赤褐色～暗褐色を呈する。

i種：折り返し口縁により段帯をなし、口縁部に棒状工具によって押し引き文が横位にあるいは波状に連続して施され、さらにこの上からヘラによって縦位の沈線が施されている。第237図2がこれにあたる。器面内外に指頭圧痕が顕著である。

**第7類土器**―縄文及び沈線が施されたものを本類とした。第237図3～14･第238図1～16がそれである。a種～f種に分類して説明する。

a種：口唇部のみ縄文が施されているもので、第237図3～7がこれにあたる。3･4･6･7は口唇上に縄文が施されている。6は波状をなしており、口縁部は粘土を内側に押し潰すようにして平にしている。大きく広がる口縁は第236図17～19及び第243図1を想起させる。器面内外にはヘラ及び指頭圧痕が顕著である。また、内面には煤が付着している。5は、口唇上及び内面上部に縄文が施されている。口縁はほぼ直行している。

b種：口唇上及び口縁部に縄文が施されているもので、8～14･第238図1及び第243図2がこれにあたる。8･10は、いずれも波状口縁をなしており、内面上部にも縄文が施されている。11は、

大きく内彎する口縁であり、口唇上から口縁部にかけて縄文が施されている。左上部に波状突起を窺わせる隆起が見られる。

c種：口縁及び胴部に縄文が施されているもので、第238図2～8がこれにあたる。3は、内彎する口縁部に稜を有するもので、ここに縄文が施されている。

d種：口縁部に若干の無文帯を有し、以下に縄文が施されているもので、9･10がこれにあたる。

e種：縄文が施された中に蛇行沈線が施されるもので、11･12がこれにあたる。

f種：縄文が施された中に沈線が様々に描出されているもので、13～16がこれにあたる。16は、口唇から口縁部にかけて縄文が施され、さらには内面上部にもこれが見られる。縄文の上に斜行する沈線が施されている。口唇は角頭状をなしている。

**第8類土器**—底部破片を本類とした。第239図1～14がそれである。当土器における底部の特徴的なものに、1.上底風な事。2.胴部への立ち上がりを作る際、指頭により押し潰すように調整しているため底部の皿の部分がとび出している事。などが見られる。1は、外面を主として指頭によって調整し、内面をヘラ及び指頭によって調整している。器厚は3㎜～4.5㎜と薄い。焼成は良好で堅い。胎土中に小礫及び金雲母が含まれている。色調は赤褐色を呈する。13は網代圧痕が、また12･14は木の葉圧痕が見られる。

※拓本第228図～239図と図版40～51の土器は同一番号を用いている。

**(参考文献)**

○増子康真、「縄文中期後半土器の編年－東海地方西部地域－」『古代人』34　名古屋考古学会　1978年

○紅村弘、『東海先史文化の諸段階　資料編』　1978年

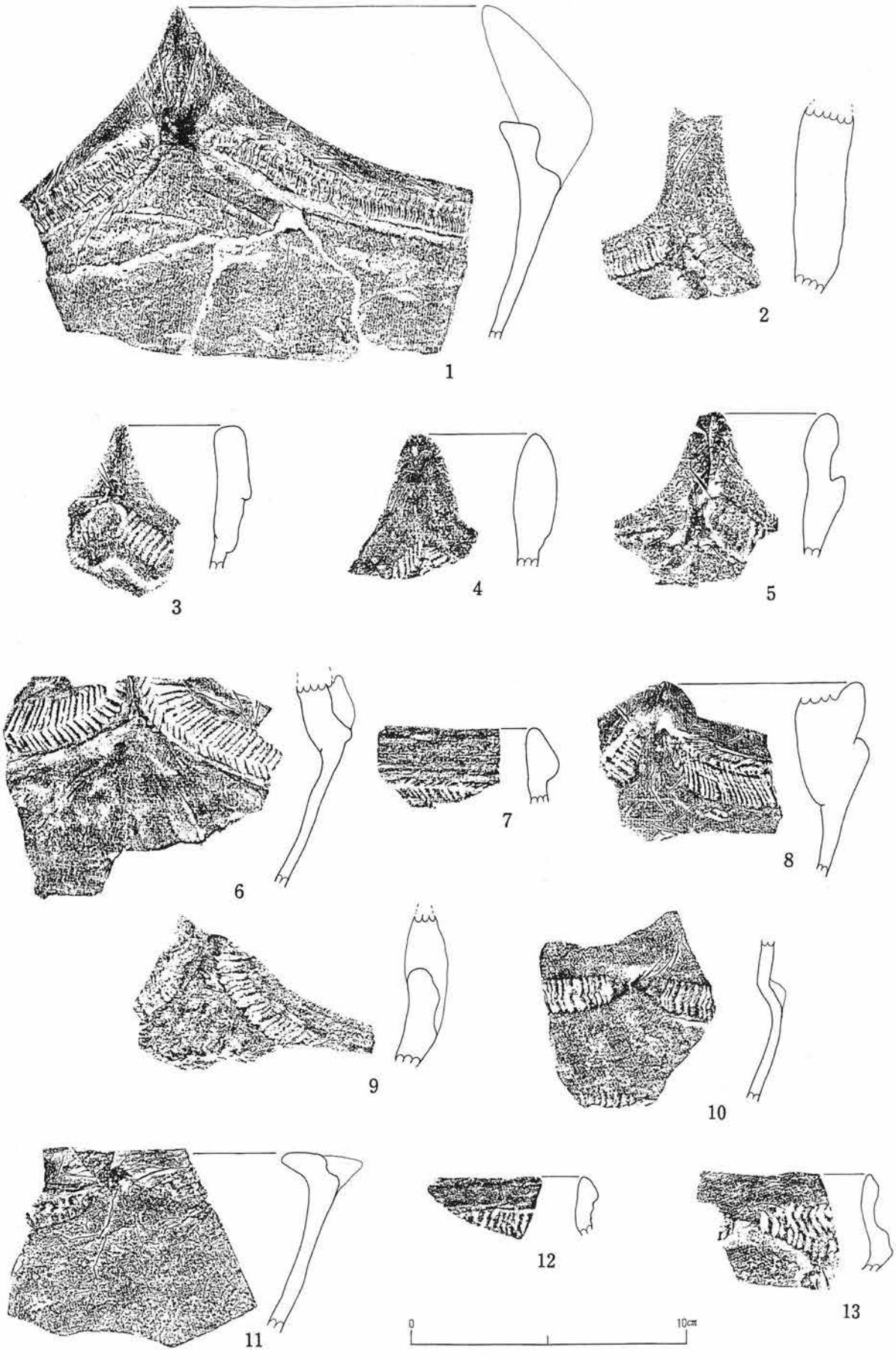
○静岡県袋井市教育委員会、『長者平遺跡』　1980年・1984年

○静岡県埋蔵文化財調査研究所、『茶木畑遺跡』　1985年

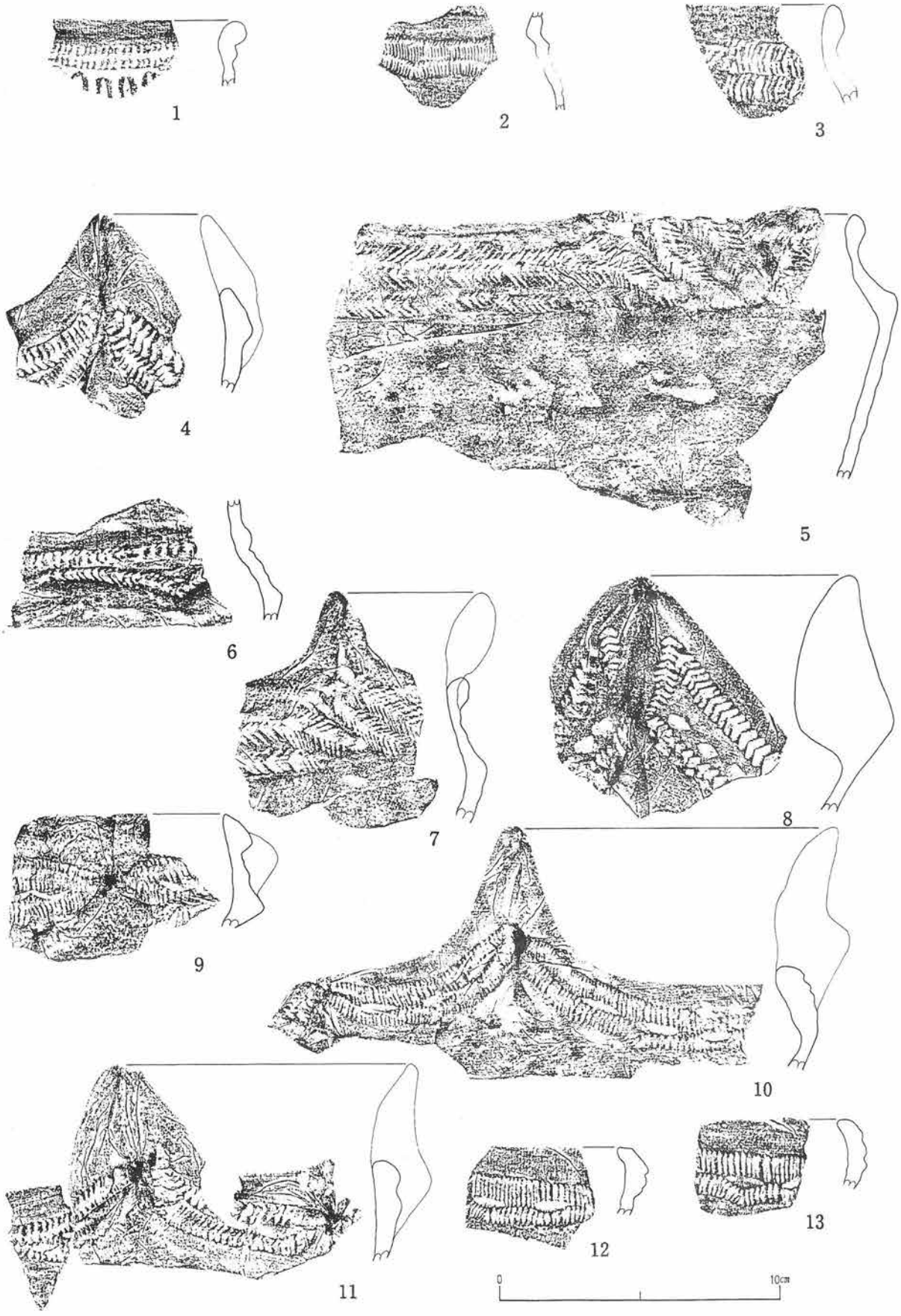
○北屋敷式土器研究会レジュメ、　1985年

○島田市教育委員会、『東鎌塚原遺跡発掘調査報告書』　1989年

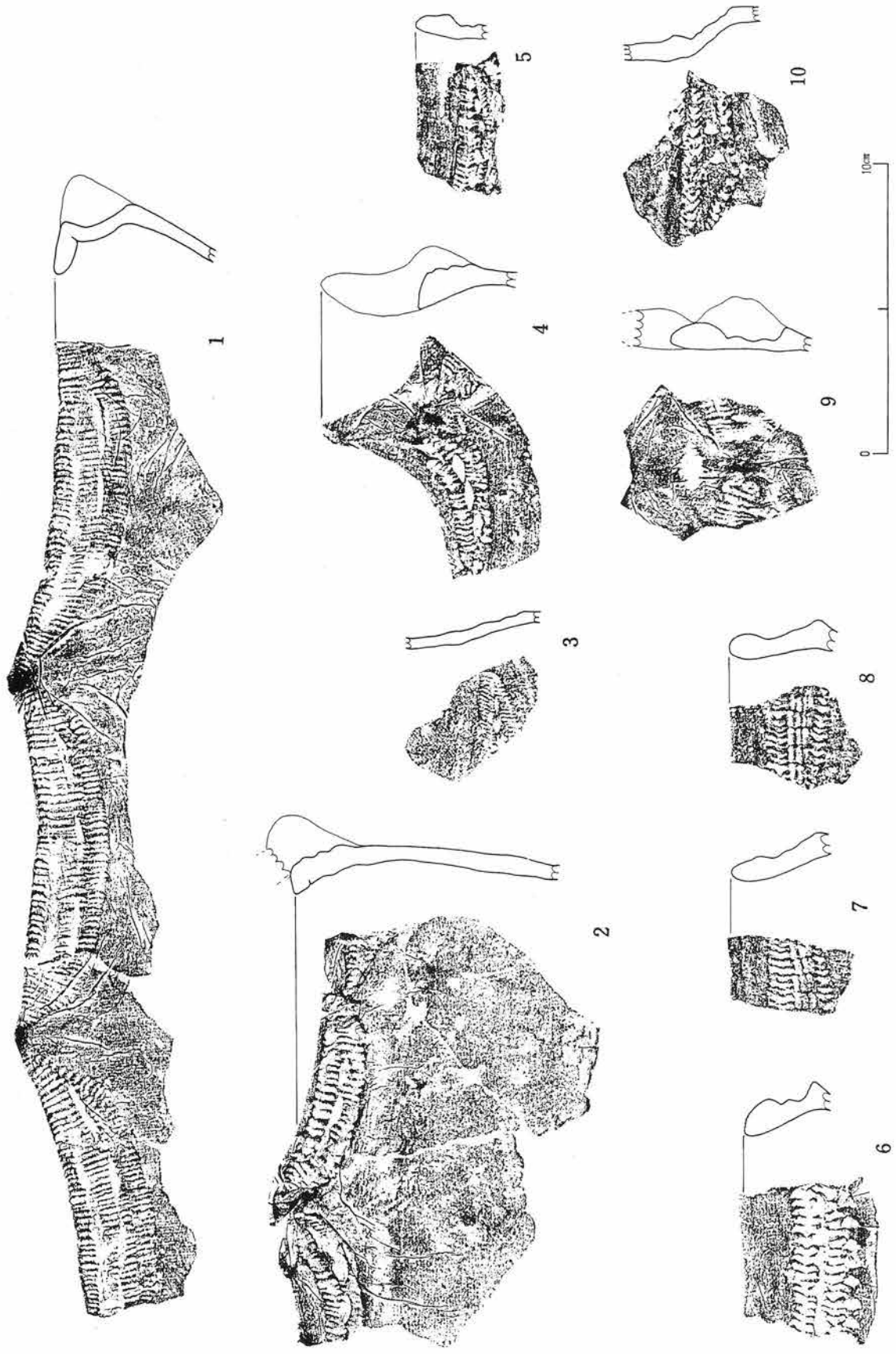
※この他、加藤賢二、吉岡伸夫、渋谷昌彦、松井一明、松本一男、渡辺康弘、池谷信之の各氏には、北屋敷式土器について種々ご指導を頂き、併せて資料を実見させて頂いた。



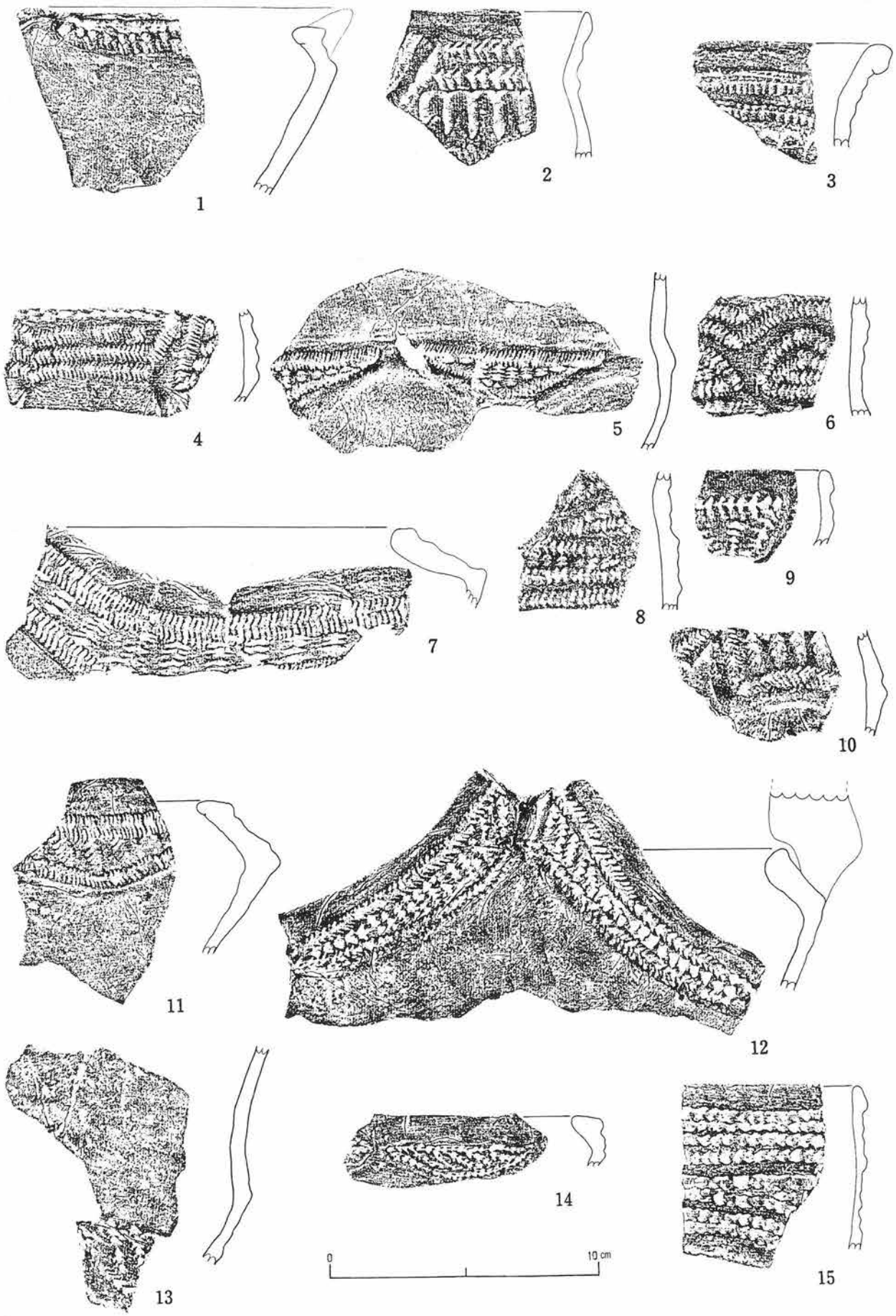

第228図　北屋敷式土器及び関連土器拓影（１）



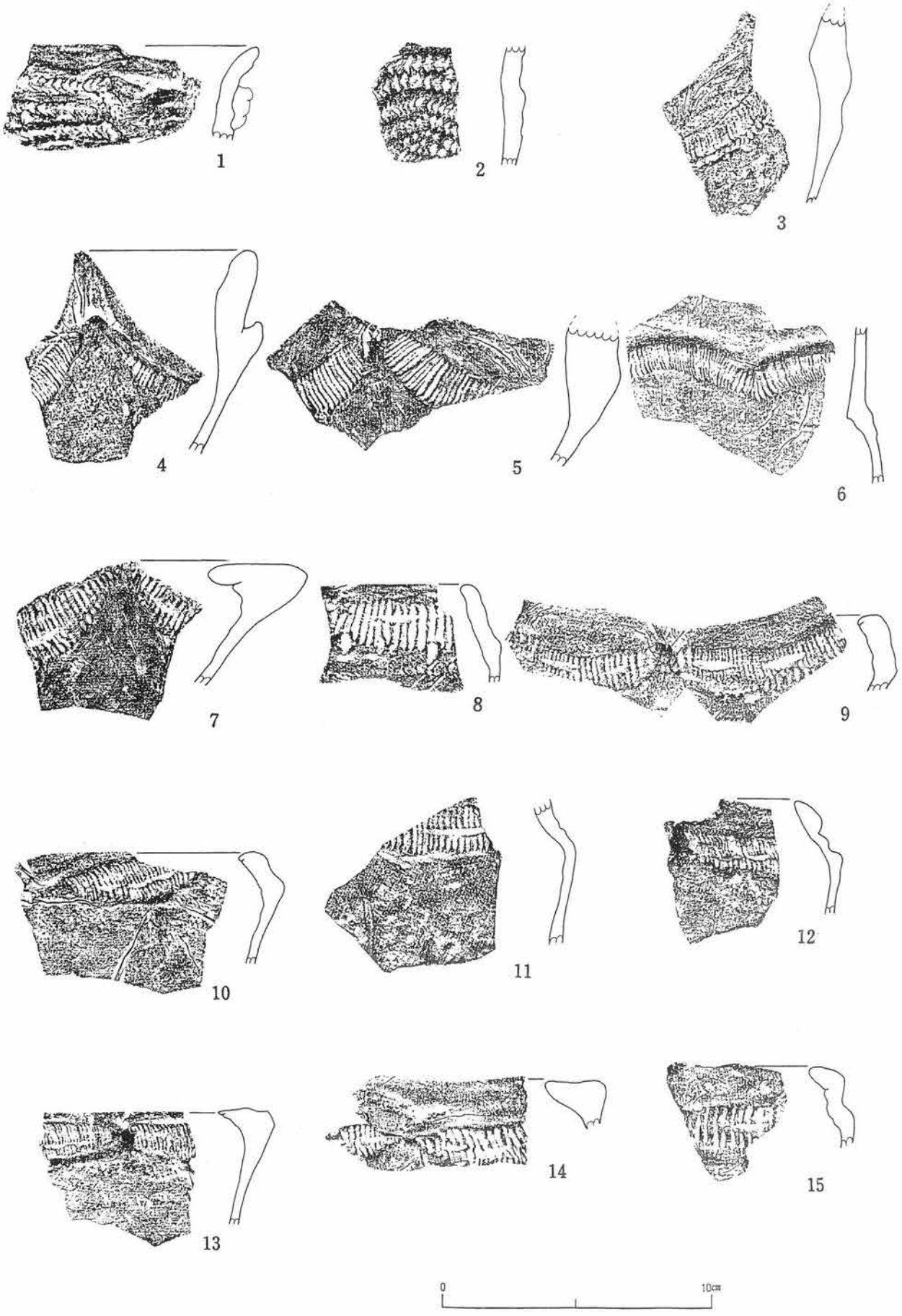

第229図　北屋敷式土器及び関連土器拓影（２）



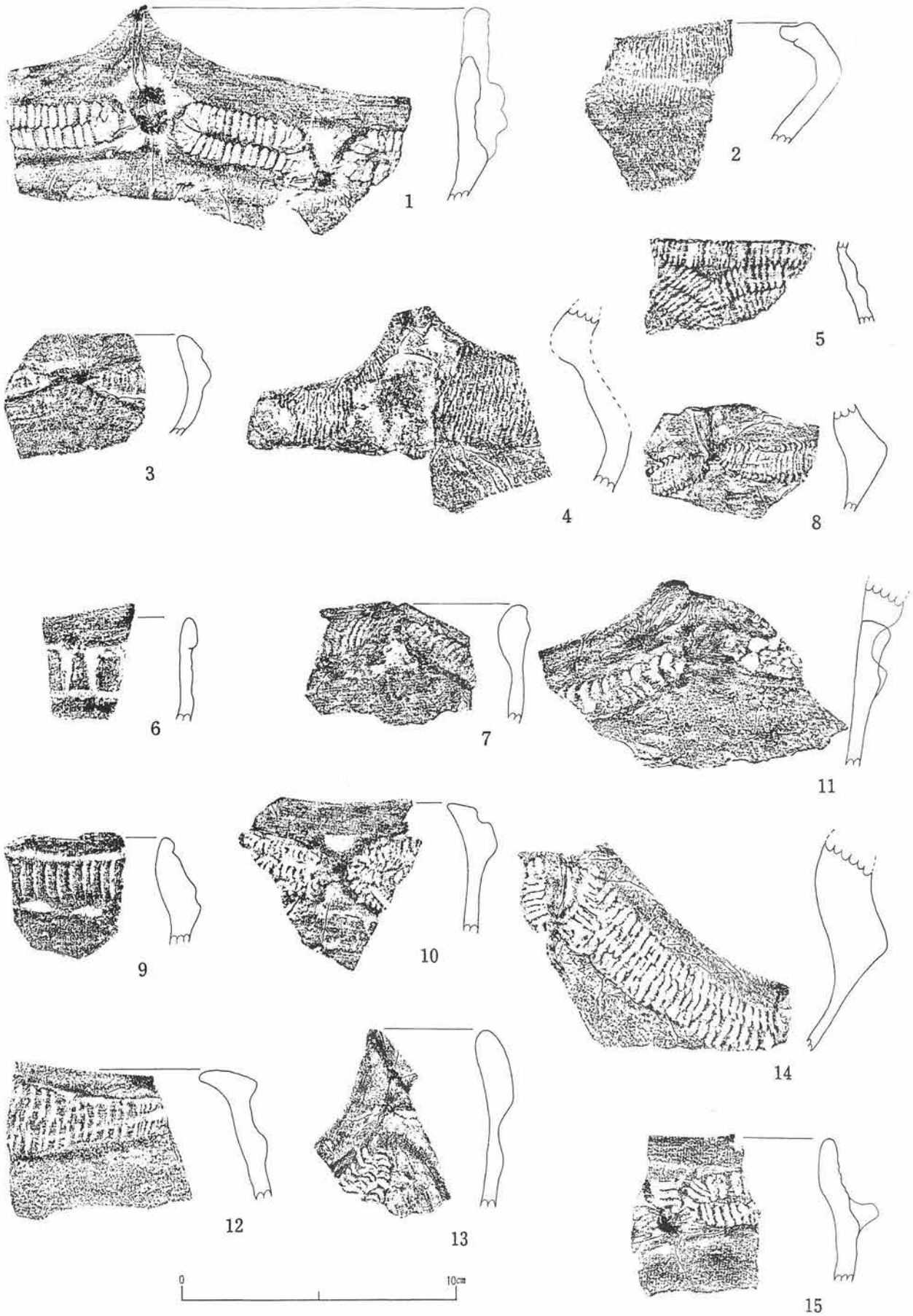

第230図　北屋敷式土器及び関連土器拓影（３）



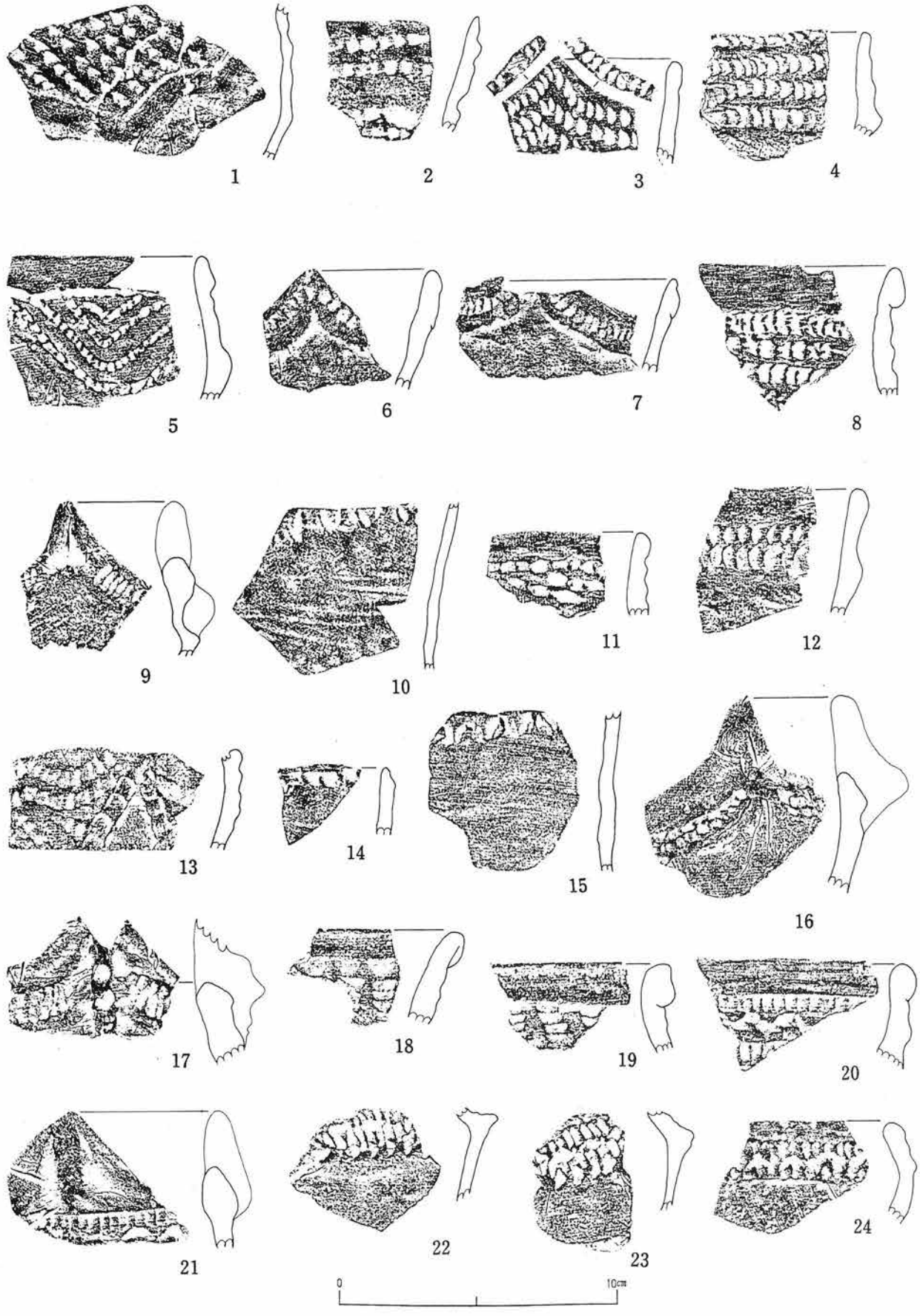

第231図　北屋敷式土器及び関連土器拓影（４）



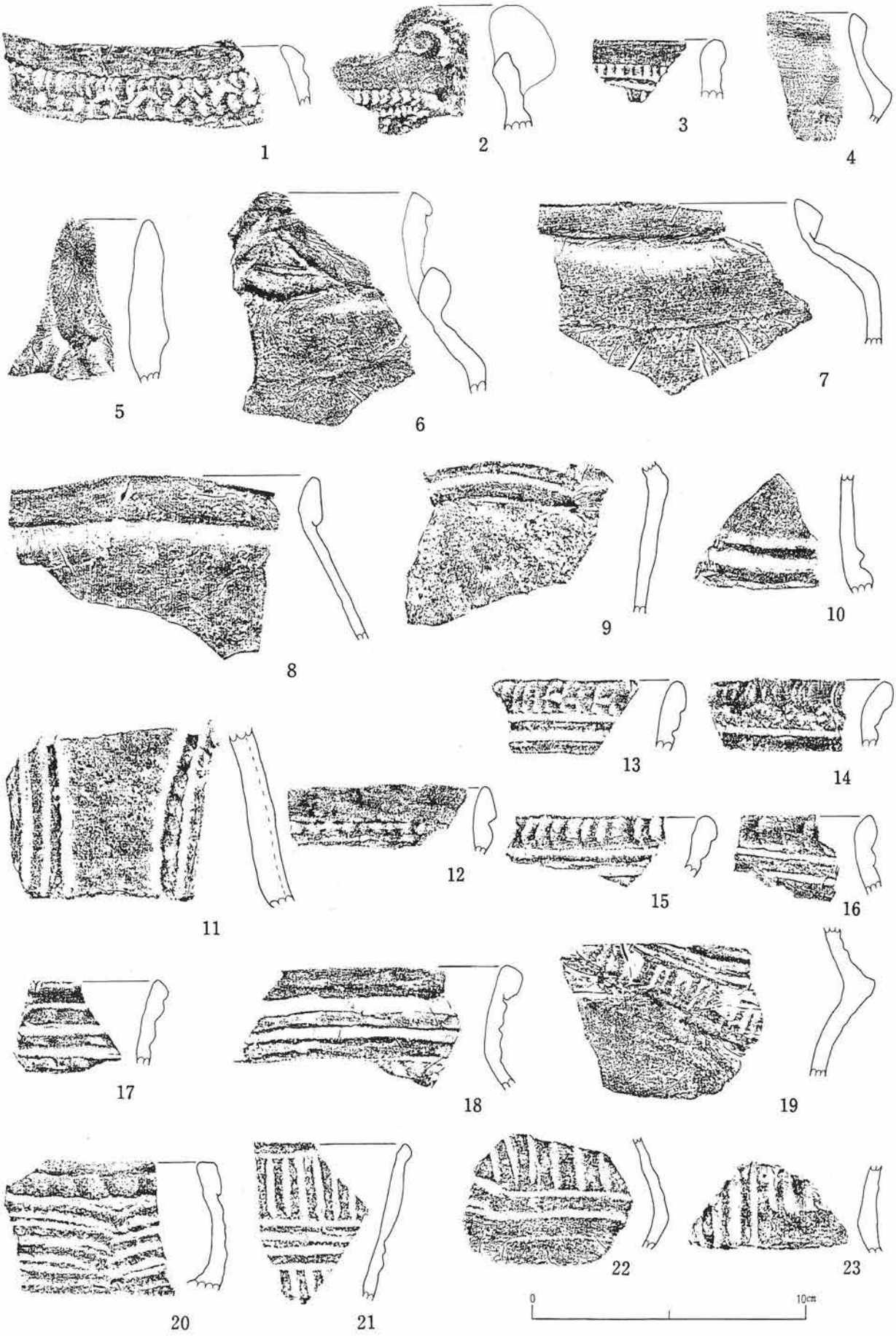

第232図　北屋敷式土器及び関連土器拓影（５）



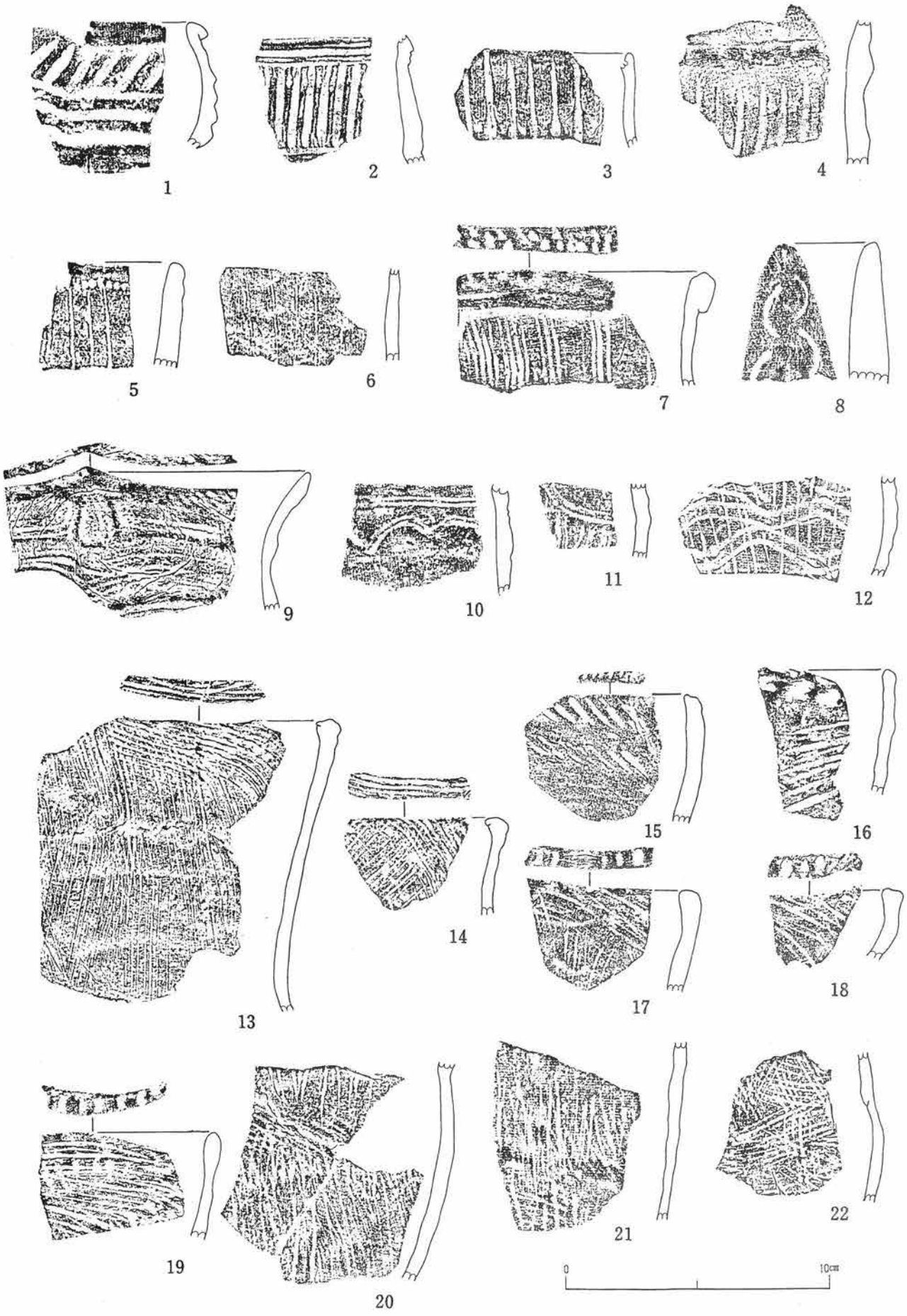

第233図　北屋敷式土器及び関連土器拓影（６）



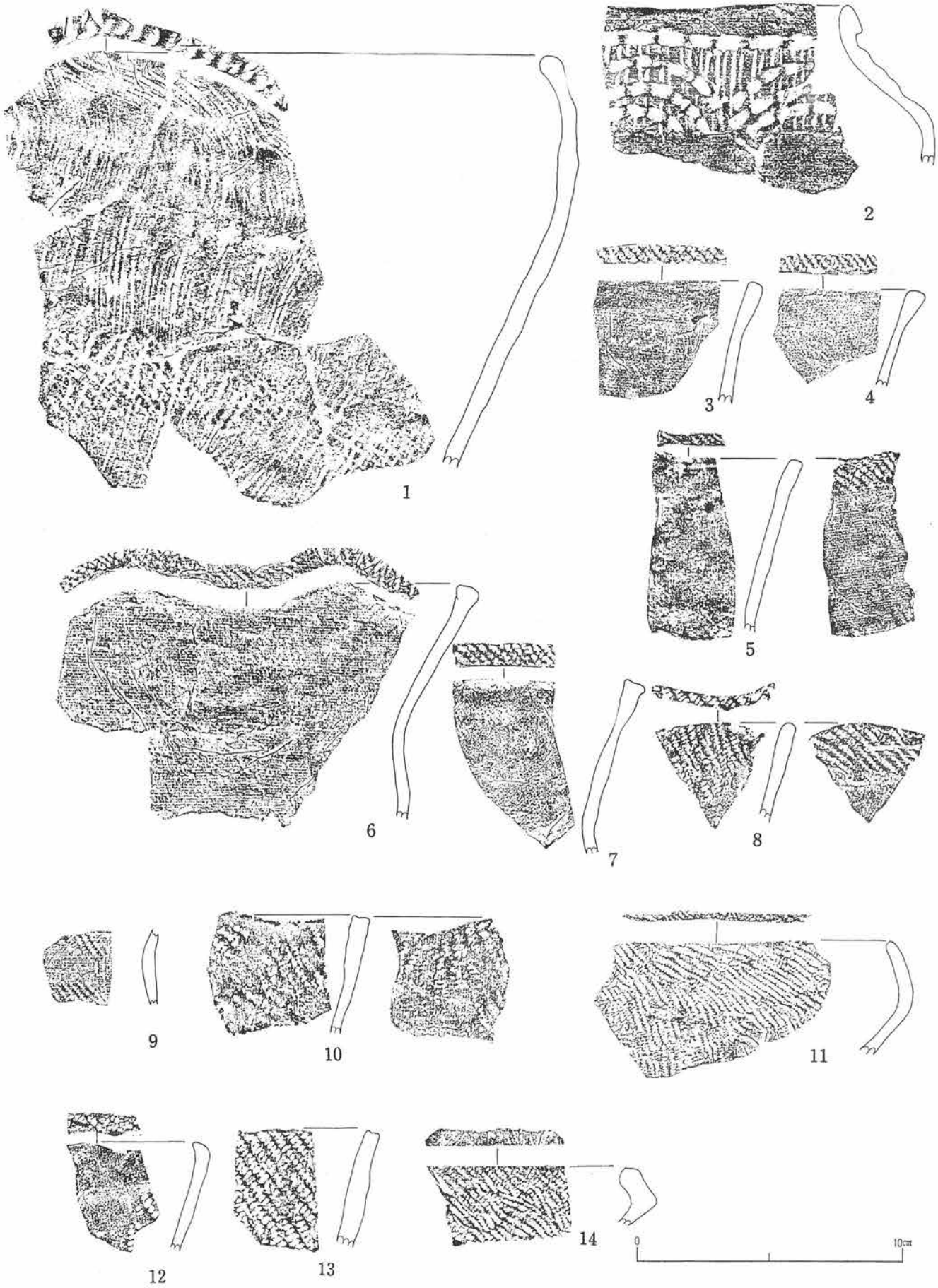

第234図　北屋敷式土器及び関連土器拓影（７）



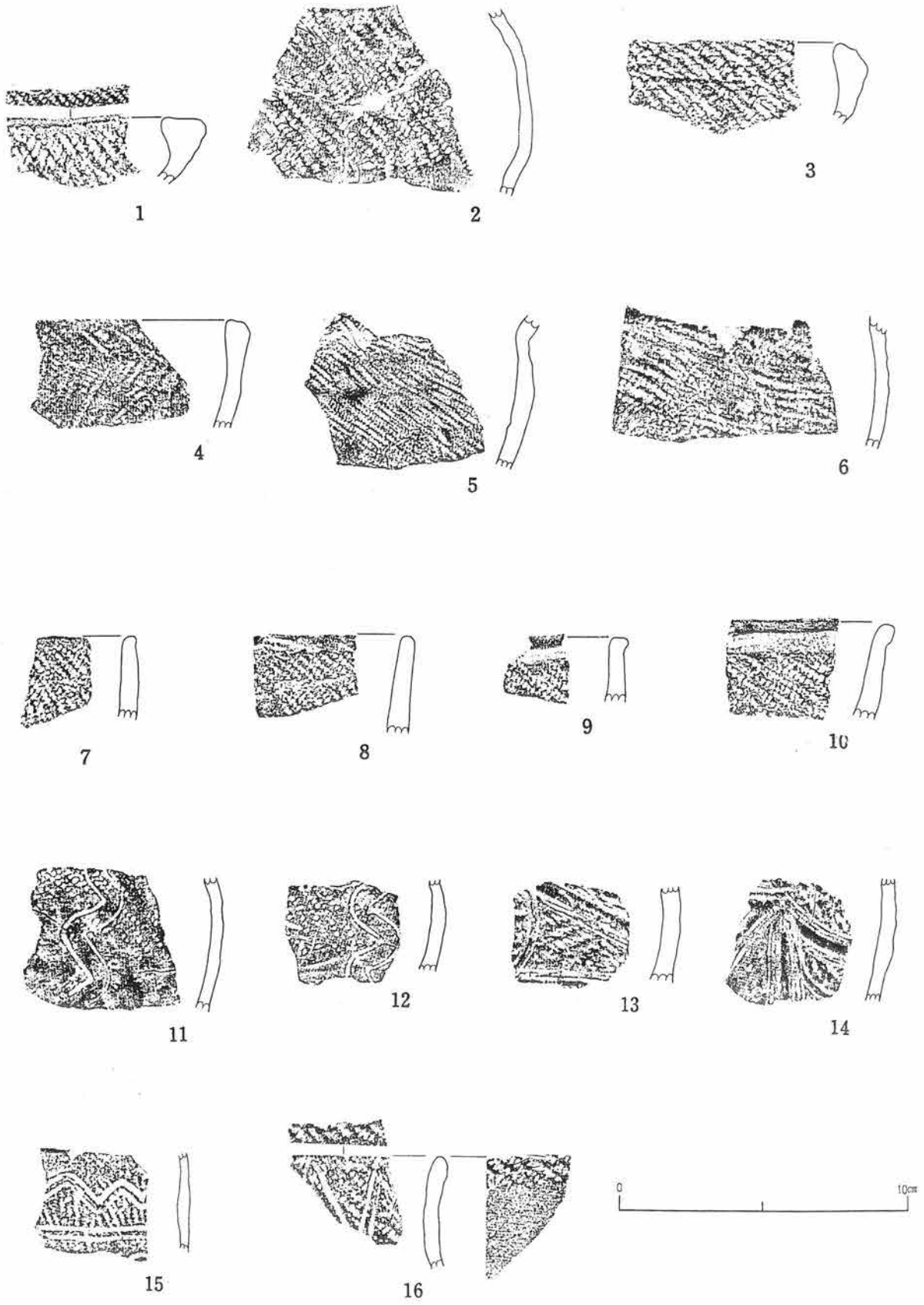

第235図　北屋敷式土器及び関連土器拓影（８）



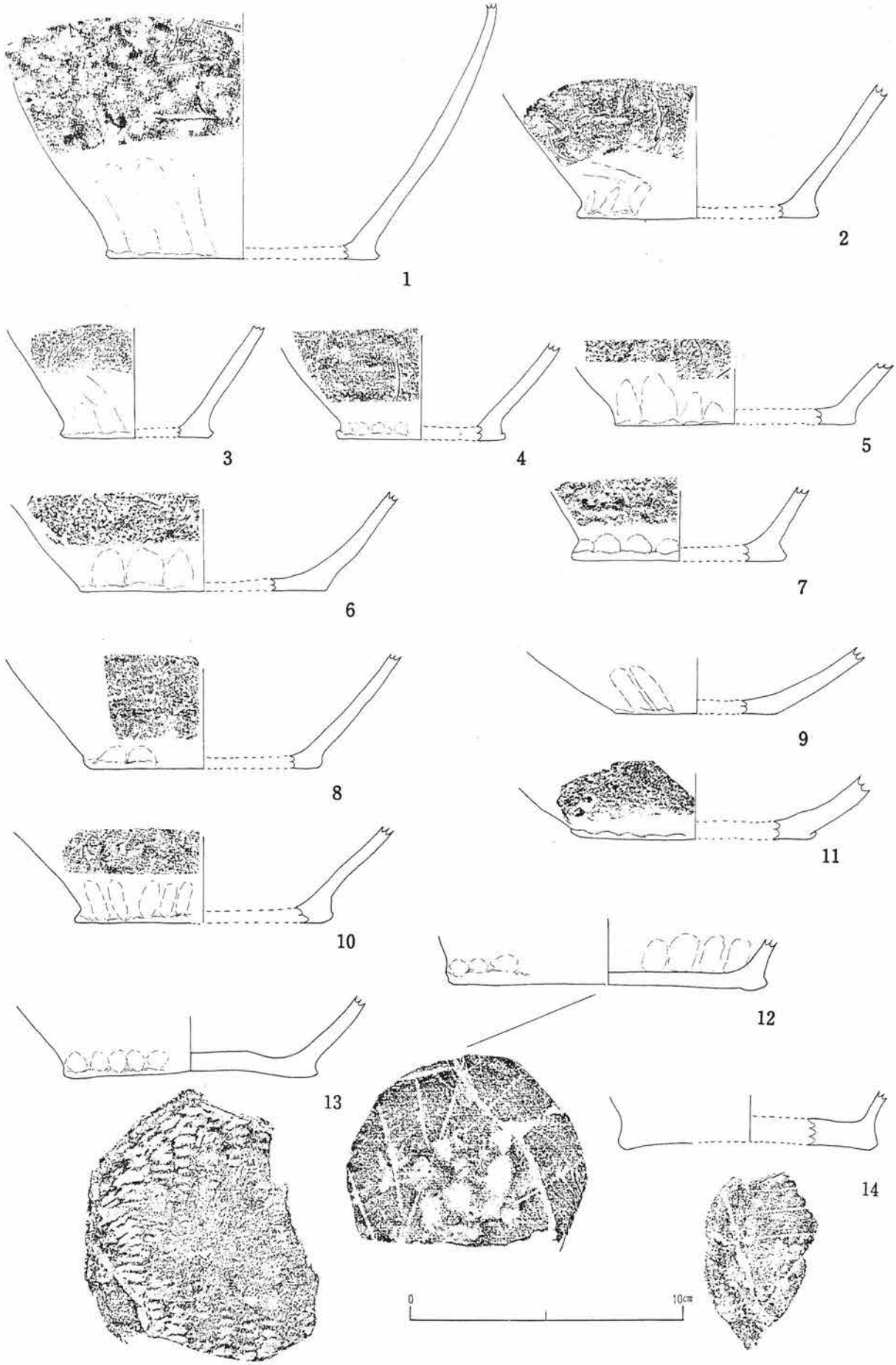

第236図　北屋敷式土器及び関連土器拓影（９）



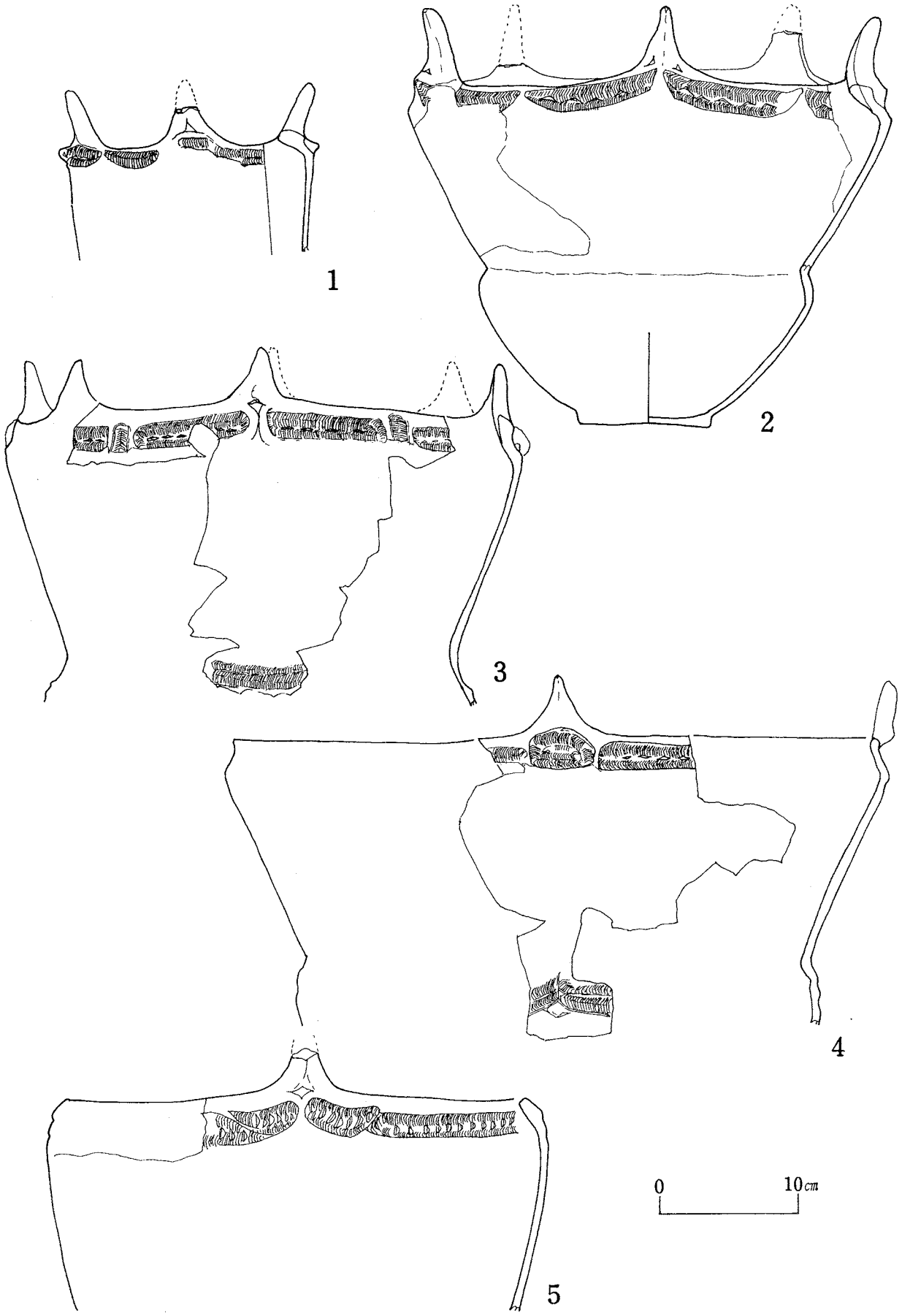

第237図　北屋敷式土器及び関連土器拓影（10）



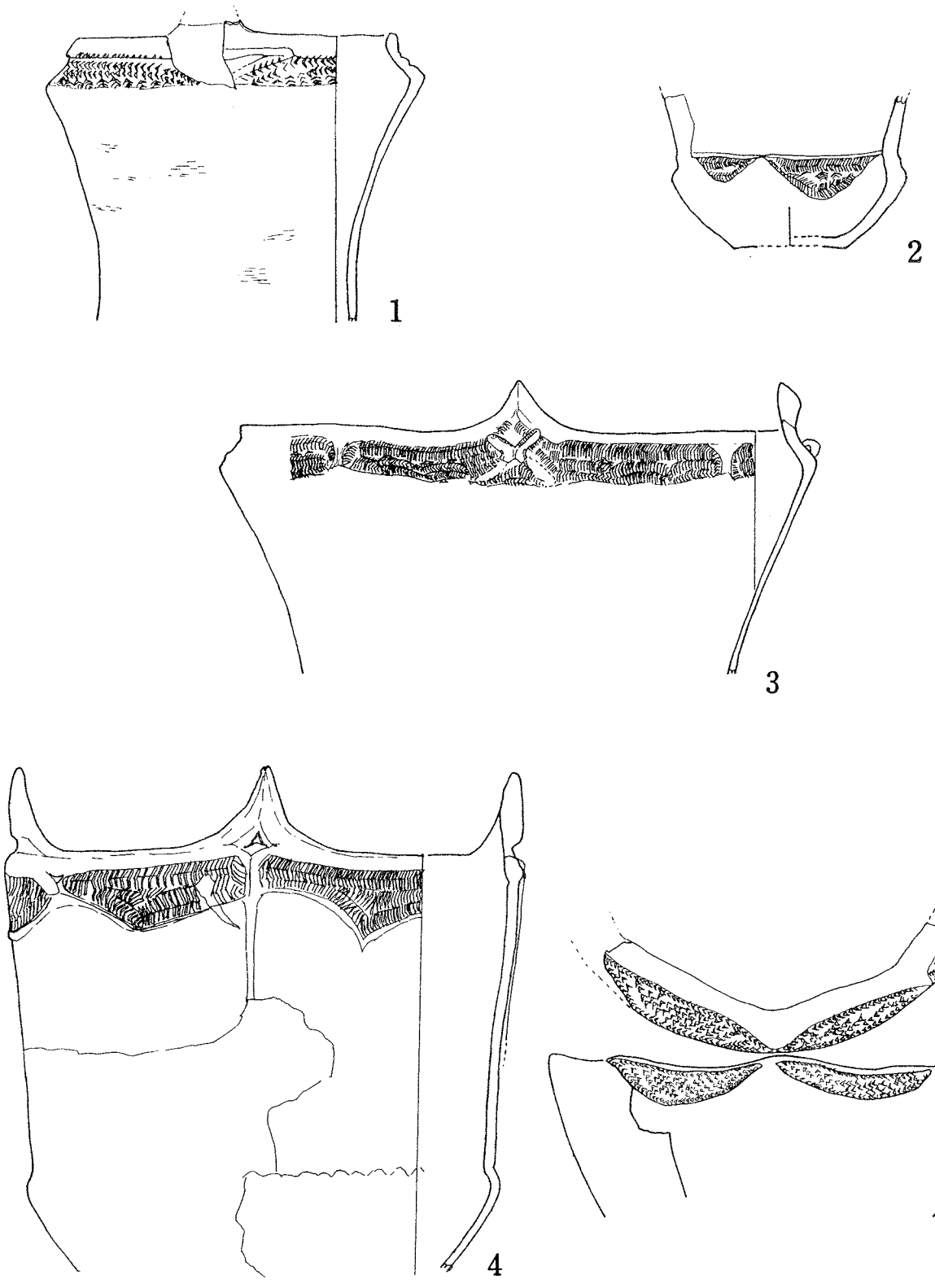

第238図　北屋敷式土器及び関連土器拓影（11）



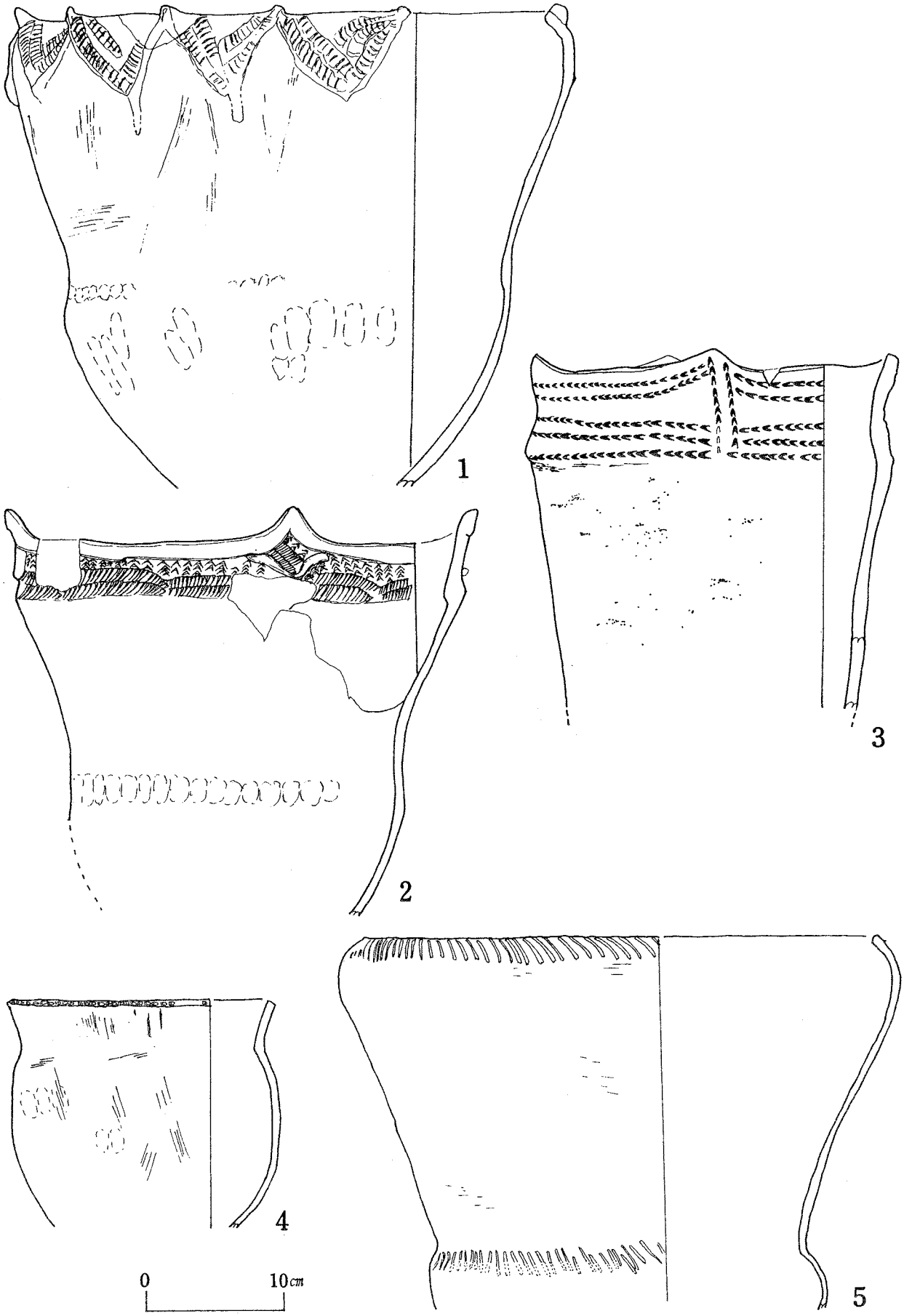

第239図　北屋敷式土器及び関連土器拓影（12）



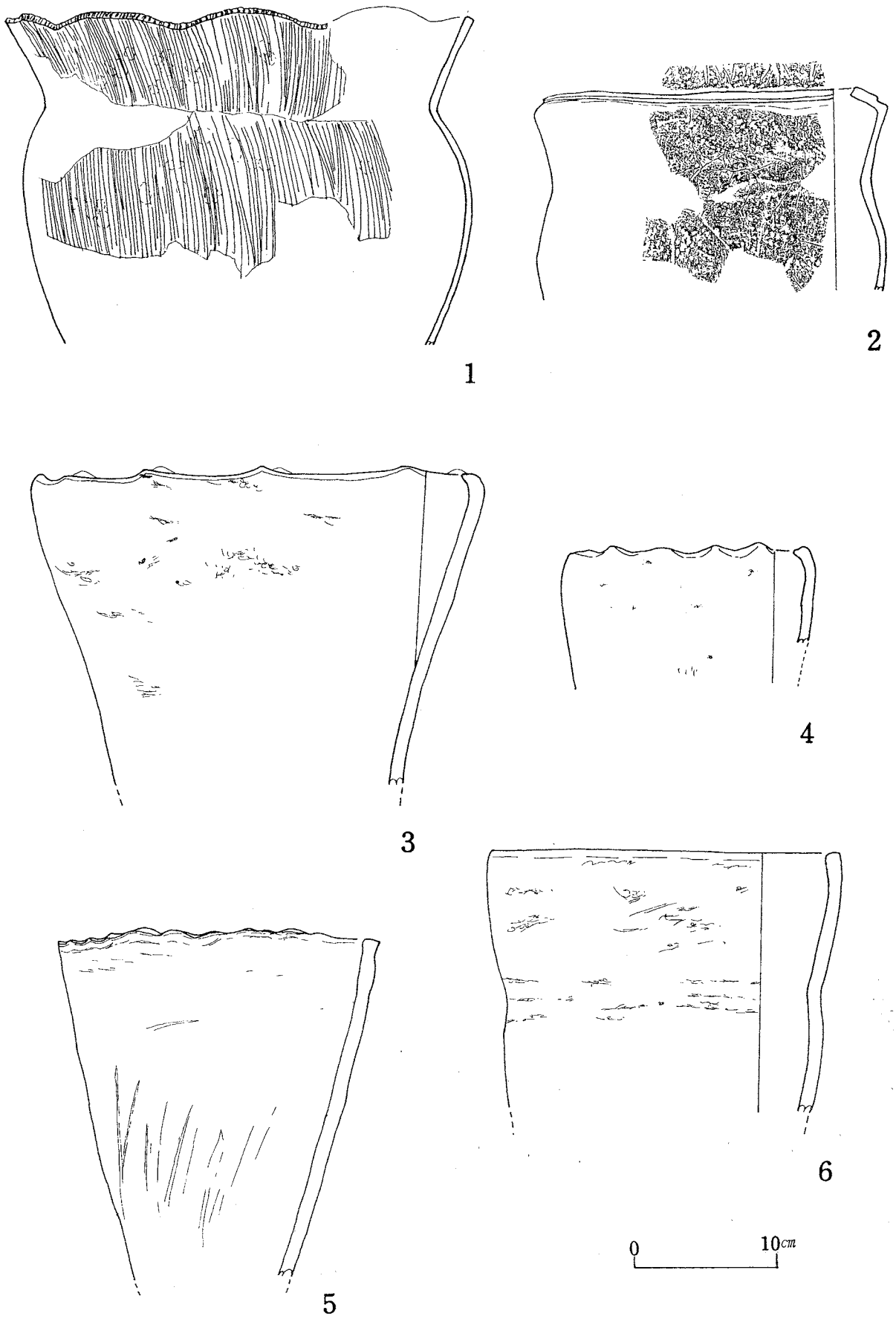

第240図　北屋敷式土器及び関連土器実測図（１）



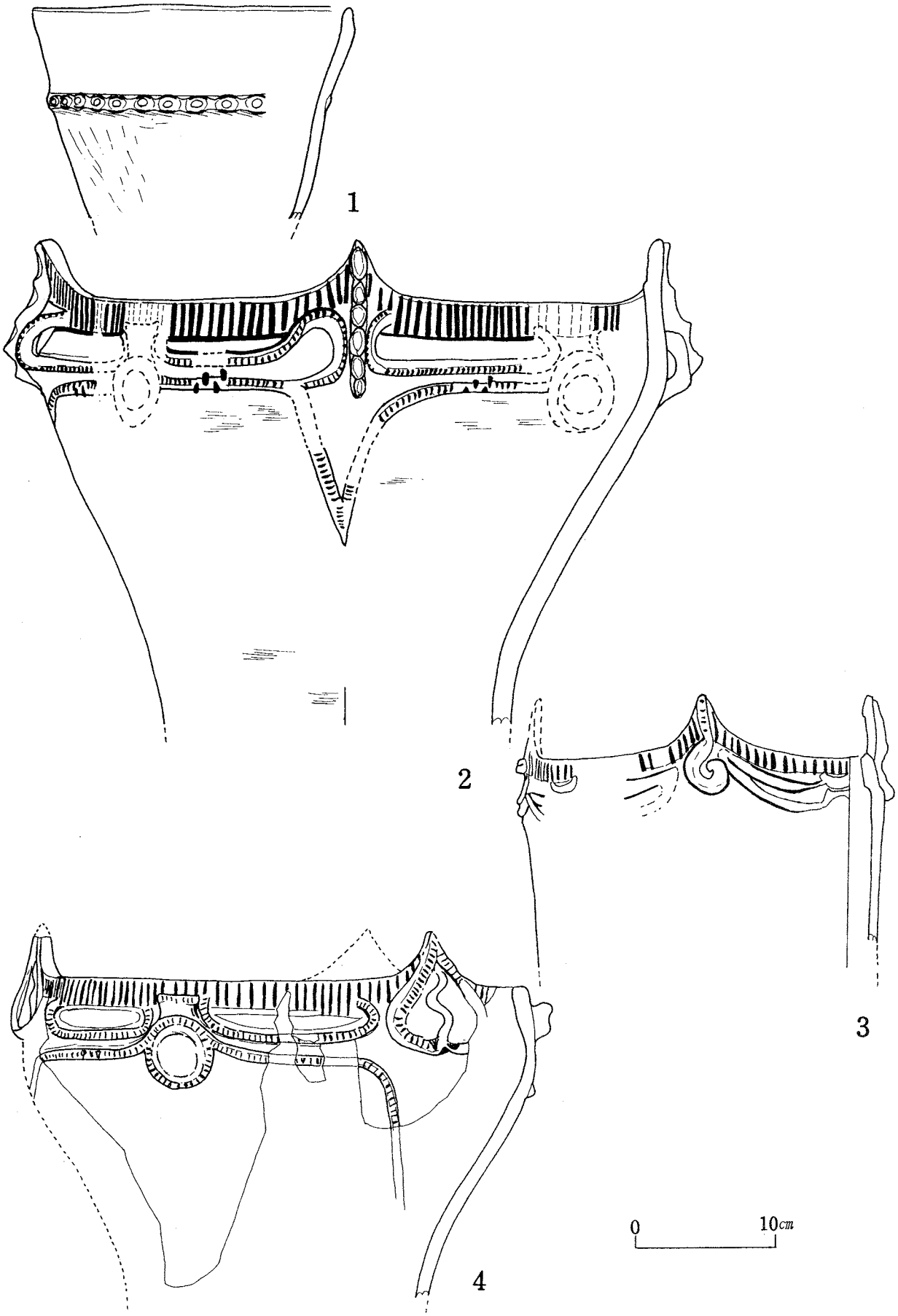

第241図　北屋敷式土器及び関連土器実測図（２）



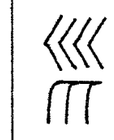
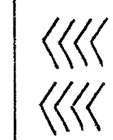
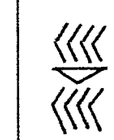
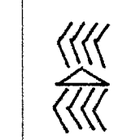
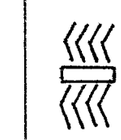
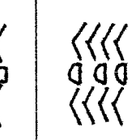
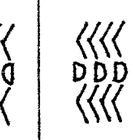
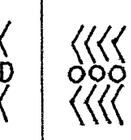
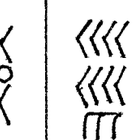
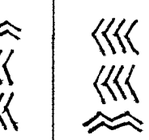
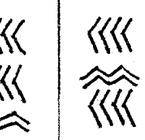
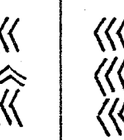
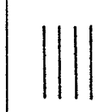
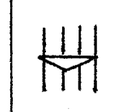
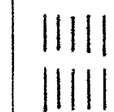
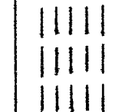
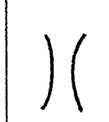
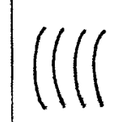
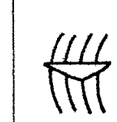
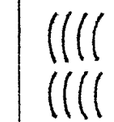
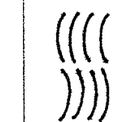
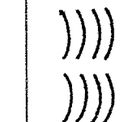
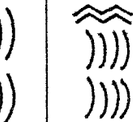
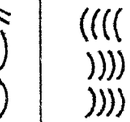
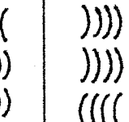
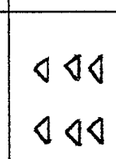
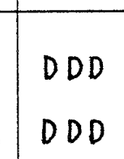
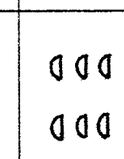
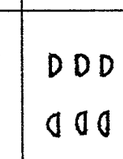
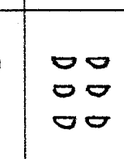
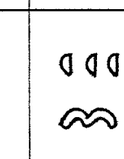
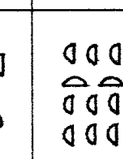
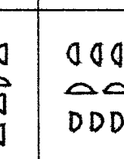
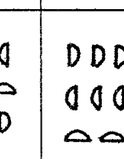
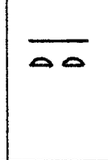
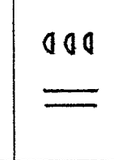
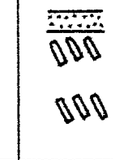
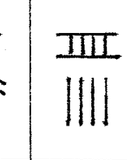
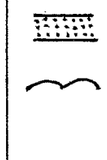
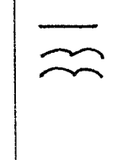
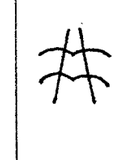
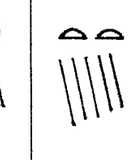
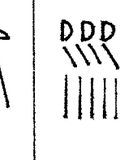
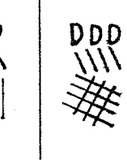
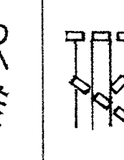
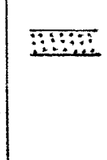
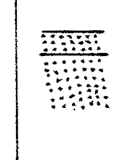
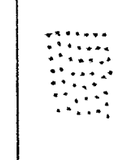
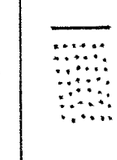
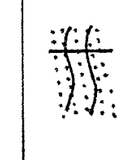
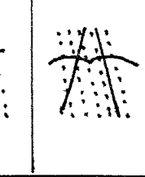

第242図　北屋敷式土器及び関連土器実測図（３）




第243図　北屋敷式土器及び関連土器実測図（４）




第244図　北屋敷式土器及び関連土器実測図（５）

| 種 / 類 | a | b | c | d | e | f | g | h | i | j | k | l | m | n | o | p | q |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  | |  |  |  | | |
| 2 |  |  |  |  | | | | | | | | | | | | | |
| 3 |  |  |  | |  |  |  |  |  |  | | | | | | | |
| 4 |  |  |  |  |  |  |  |  |  | | | | | | | | |
| 5 |  |  | |  | |  | | | | | | | | | | | |
| 6 |  |  |  | | |  |  |  |  | | | | | | | | |
| 7 |  |  |  |  |  |  | | | | | | | | | | | |

第245図　北屋敷式土器及び関連土器文様模式図

# 第Ⅴ章　結　　語

公蔵免遺跡の発掘調査は、第Ⅰ次・第Ⅱ次調査を通じて約240㎡ほどの範囲であり、その面積の割合に密度の濃いものであった。特に第Ⅱ次調査について云えば調査地点が遺物の投棄場であるならば、これらを使用した人々の住居はどのあたりにあったのだろうか。昭和57年3月頃、調査区南側の台地（畑地）より、偶然大形の深鉢形土器（底部穿孔の伏甕で曾利式Ⅱ式併行、第188図1・図版58-1）が発見された。こうした状況や地形などから判断して、おそらく調査区の東南側に集落があったものと思われる。

出土した遺物のうち、縄文時代中期のものについては特筆すべき資料がある。わけても勝坂式土器についてはⅡ式～Ⅲ式にかけてが顕著であり、これに混在している北屋敷式土器との共伴関係が注目されるところであるが、本書ではこれを裏付けるだけの積極的な根拠がないため、現段階では北屋敷式土器の時期についてはやや幅を持って考えていきたい。しかしながら、その時間差はそれほどないもののようにも思える。

北屋敷式土器については、特に加藤賢二氏や渋谷昌彦氏のご指導を頂いたが、筆者が第Ⅳ章において北屋敷式土器及び関連土器としたものの中には、明らかに県西部における大畑Ｃ2式や中原式と呼ばれるもの、さらに西日本系の船元2・3式土器が含まれている事が分かった。本書では、これらの土器を施文方法等によって第245図に見るように第1類～第7類に分類し（底部は第8類とした）、さらにａ種～ｑ種の中で細分類した。従ってこれは、北屋敷式土器等の時期そのものを考慮したものではない。

今日県東部において北屋敷式土器の出土例は増加しており、沼津市の長井崎遺跡、広合遺跡、駿東郡長泉町の桜畑上遺跡、中峰遺跡、西願寺遺跡、三島市の北ノ入遺跡、賀茂郡西伊豆町の築地河床遺跡などからそれぞれ出土している。しかし、本稿をまとめるに際し改めて北屋敷式土器に対する筆者の認識の甘さを反省している。加えて、この土器の出土状況を層位的に確実に捕らえる事が出来なかった事も残念でならない。

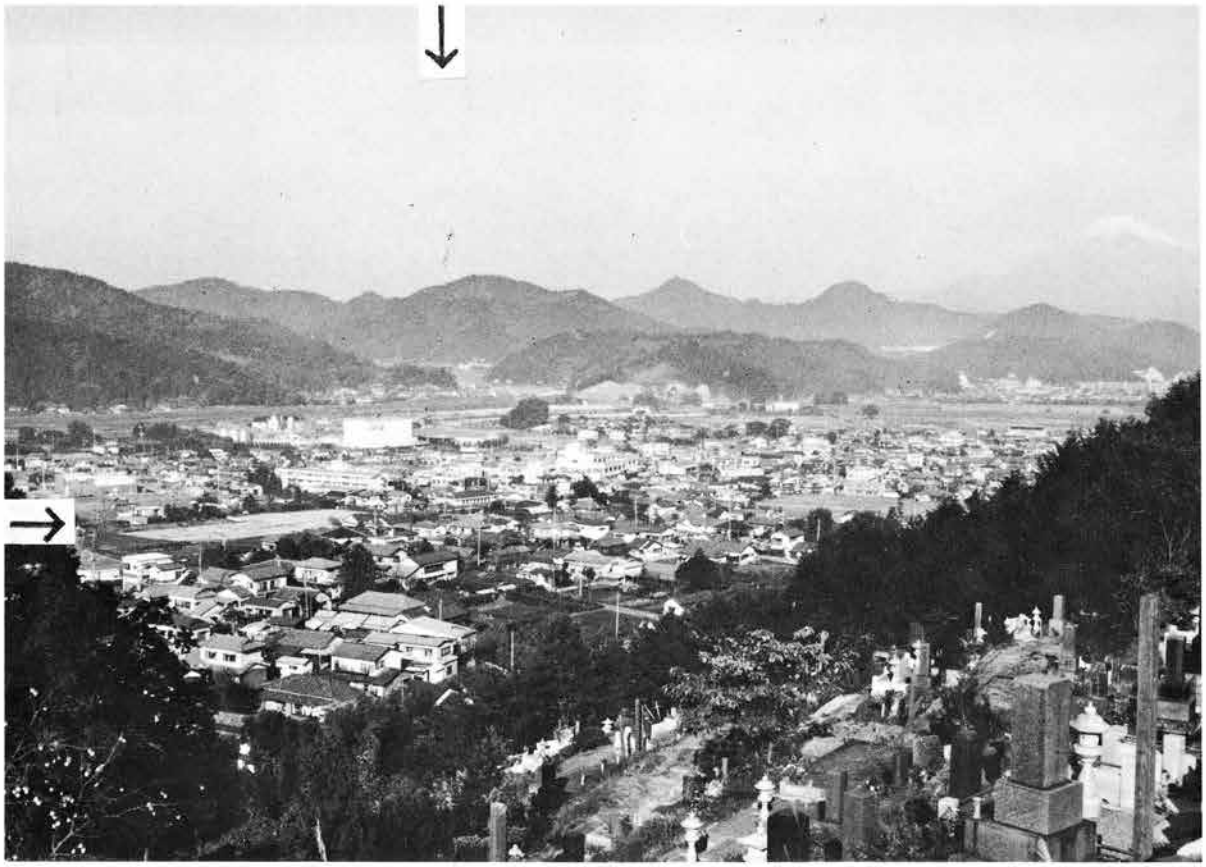
とはいえ、本稿のまとめとして云える事は、第36図や図版24・25などの状況から見ても、本遺跡における北屋敷式土器は勝坂Ⅱ～Ⅲ式土器との共伴の可能性が極めて強いものであろうと考えている。ただ、勝坂式及び曾利式土器についての十分な検討が出来なかった事も反省している。こうした事から、はなはだ不本意ではあるが結果的には本書が資料の紹介を主体としたものになってしまった事をお許し願いたい。今後また機会を捕らえて、本遺跡の勝坂式土器及び北屋敷式土器の位置付けについての再吟味を発表するつもりである。大方のご批判を頂ければ幸いである。

大仁町埋蔵文化財調査報告第11集

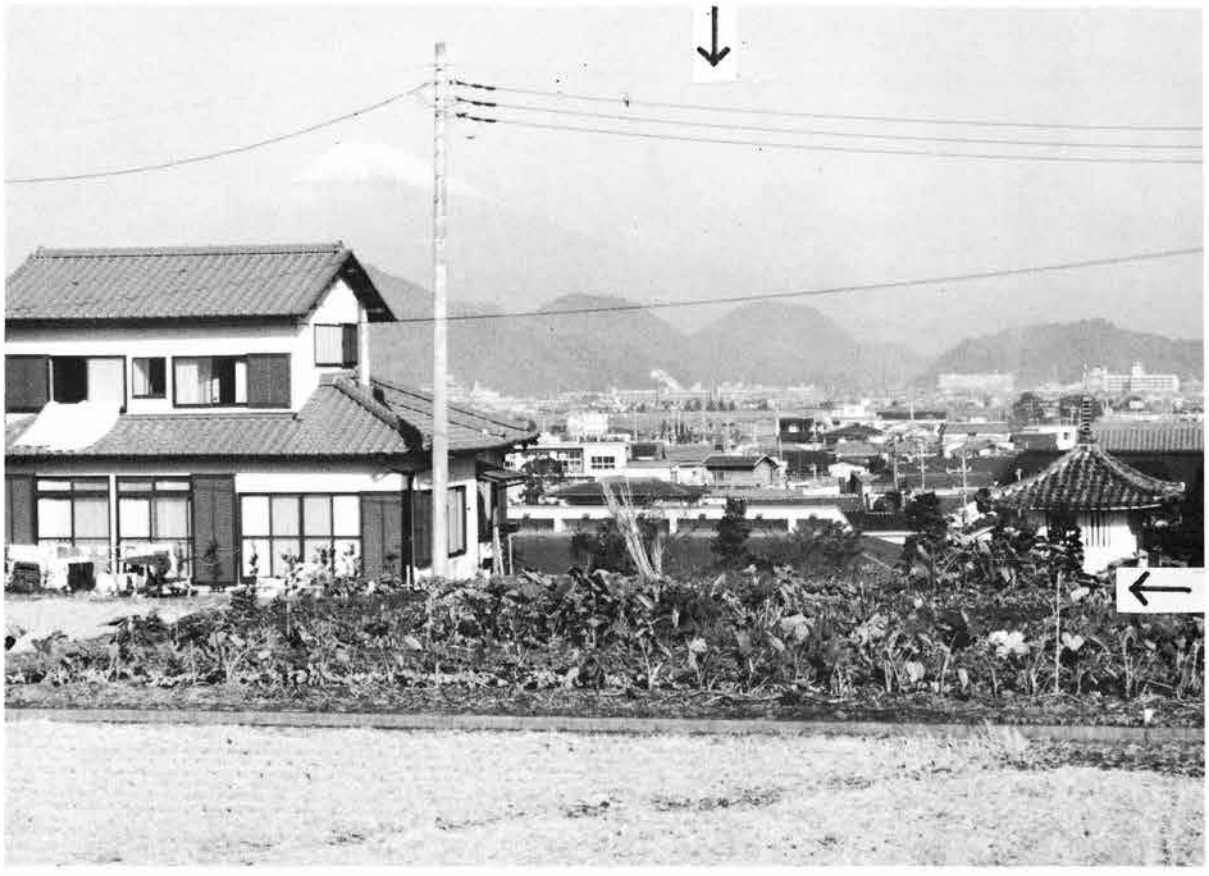
公蔵免遺跡発掘調査報告書

平成2年3月15日　印刷
平成2年3月20日　発行
編集 ／ 大仁町教育委員会社会教育課
発行 ／ 大仁町教育委員会
ＴＥＬ 0558（76）3600（代表）
印刷 ／ 岳　南　社　印　刷　所

# 図　　版



公蔵免遺跡遠景（南東側より）



公蔵免遺跡近景（南側より）

図版 2

第Ⅰ次調査区近景（東側より）

第Ⅰ次 調査風景（北西側より）

第Ⅰ次 調査風景－1（南西側より）

第Ⅰ次 調査風景－2（南東側より）

図版 4

遺物の出土状態（Ｂ－５グリッド）

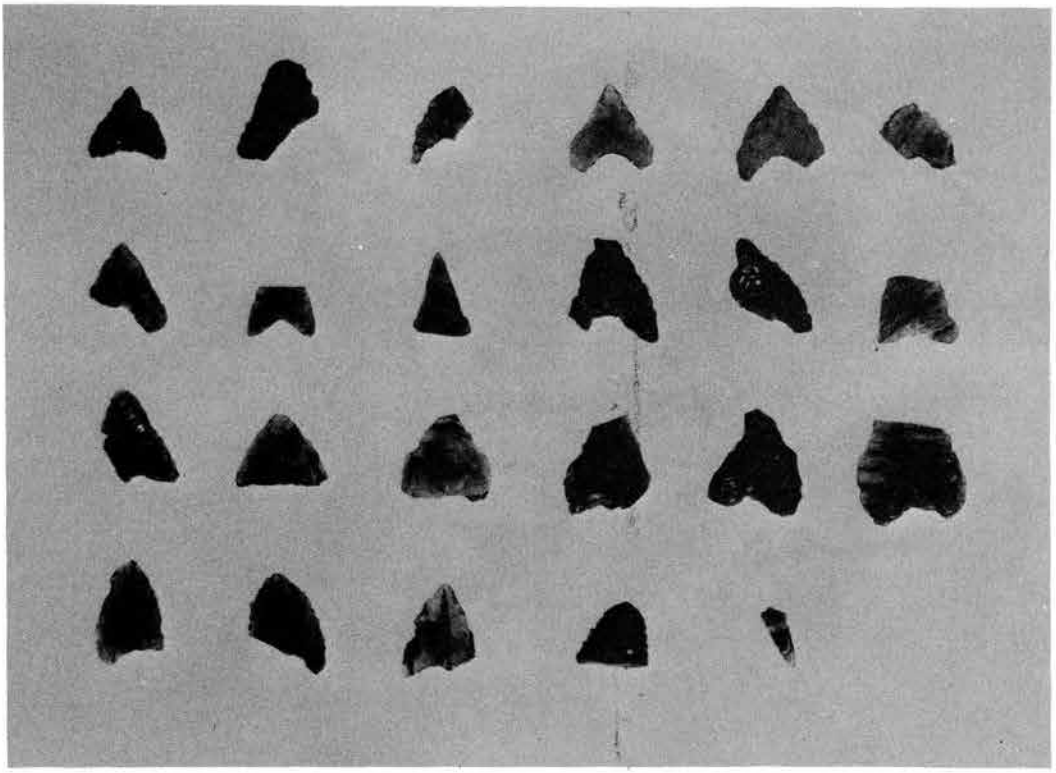
同　　上

曾利Ⅲ式土器（Ｂ－６グリッド）

磨製石斧の出土状態（Ａ－４グリッド）

図版 6

17—1



18— 2 ～ 24

19—25

26

27

第Ⅰ次調査出土の石器 (1)

19—28

29

30

31

32

33

34

35

20～ 36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

第Ⅰ次調査出土の石器 (2)

図版 8

20—46

47

21—48

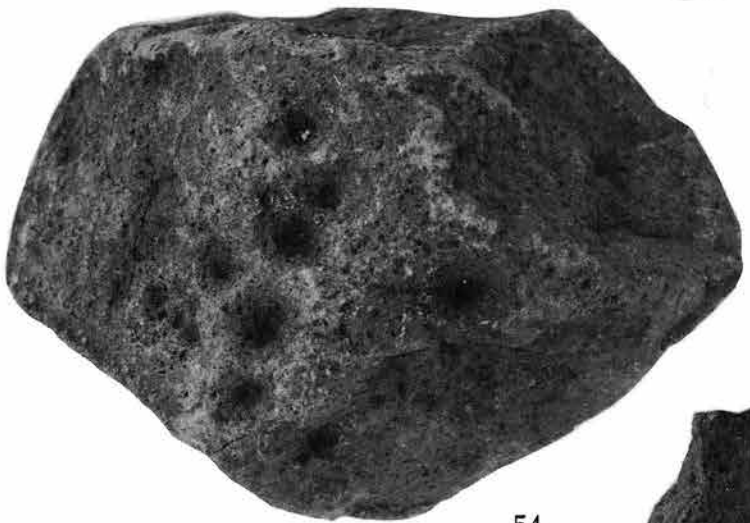
49

50

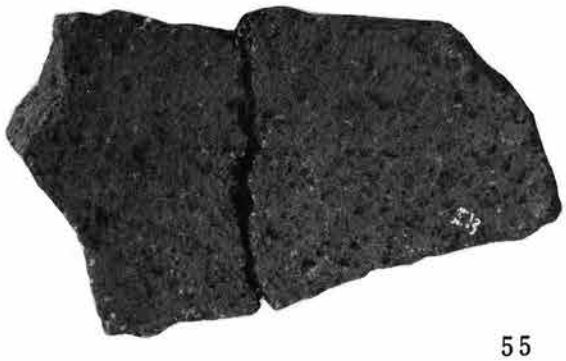
51

52

53



54



55

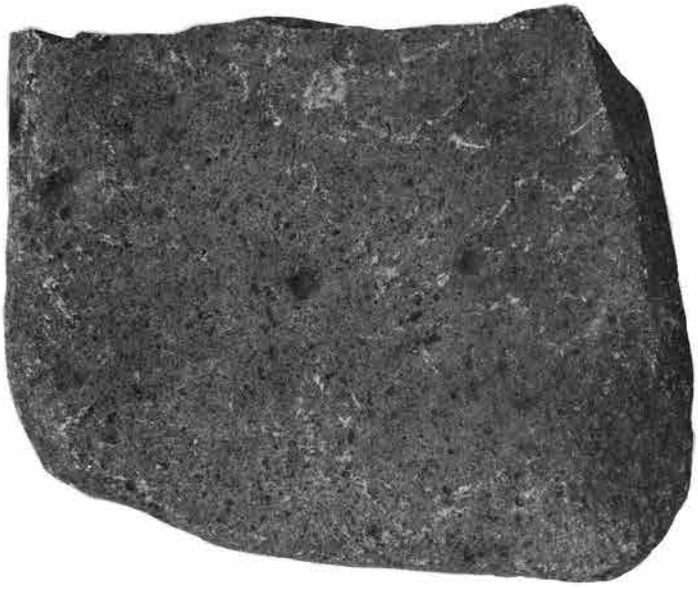
第Ⅰ次調査出土の石器 (3)

22— 56

58

59

60



57

61

62

63

64

第Ⅰ次調査出土の石器 (4)

図版10

15－5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

第Ⅰ次調査出土の土製円板

16—2

16—3

16—4

33—1

33-9

33－10

33-11

第Ⅰ次調査出土の縄文土器・土師器（甕・坩）

図版12

33—12

34—29

34—30

34—31

33 —14

33—13

33—15

34—46

33—18

34—21

34—22

34—23

34—26

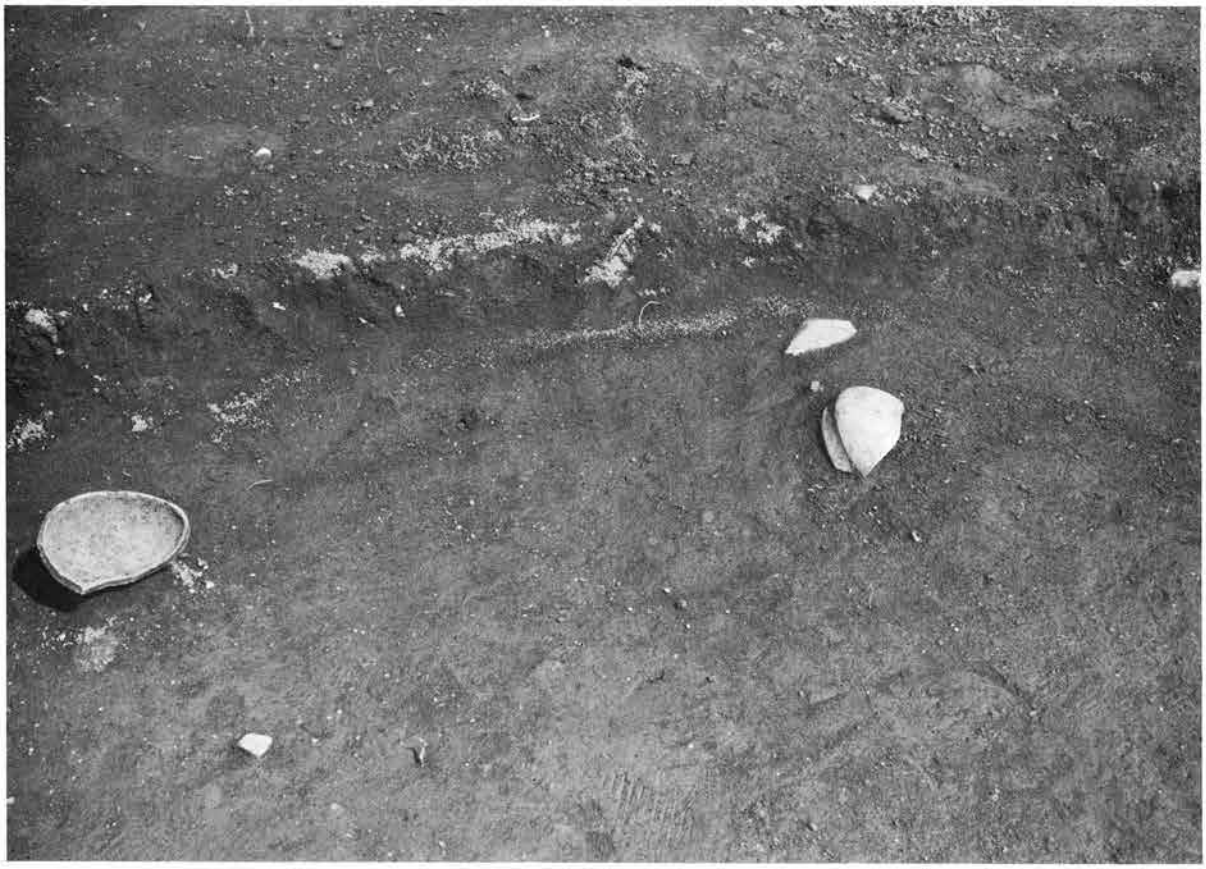
34—42

第Ⅰ次調査出土の土師器（坩、手捏土器、坏、高坏、台）

坩の出土状態（Ａ－３グリッド）

同　　上

図版14



坏の出土状態（A－3グリッド）

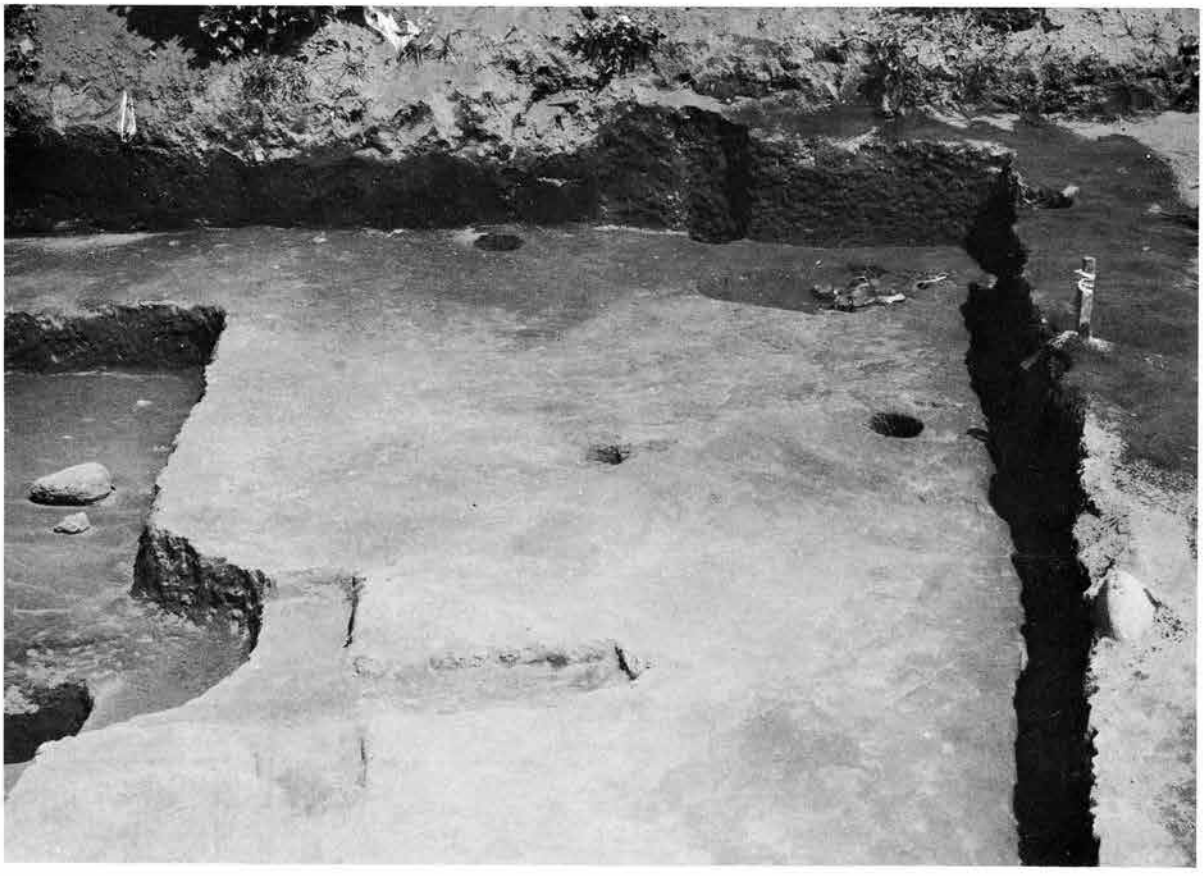
同　　上

高坏の出土状態（A－3グリッド）

高坏と坩の出土状態（A－3グリッド）

図版16

第１号、２号住居址（北西側より）



第１号住居址（西側より）

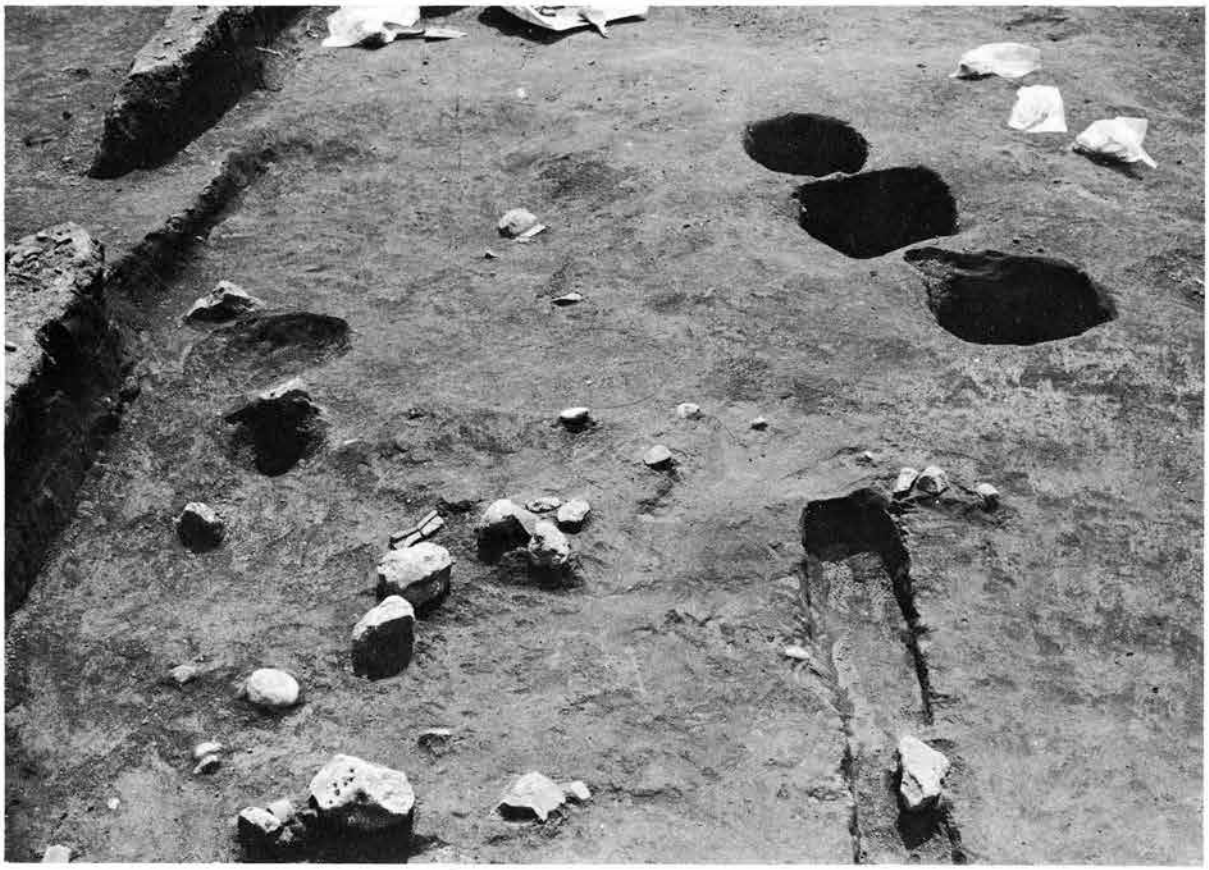
第１号住居址ピット内出土の甕（東側より）

同　　上（西側より）

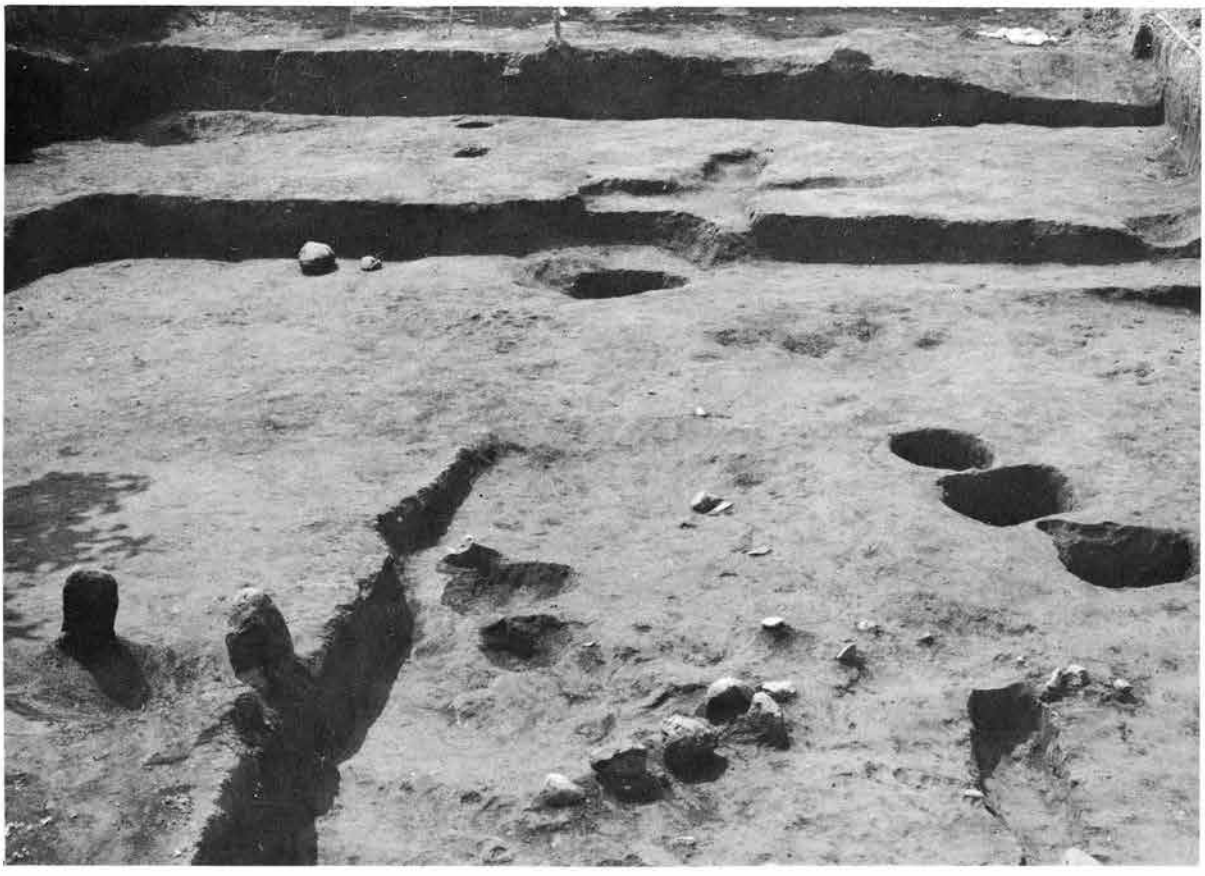
図版18

B－6グリッドの調査風景

第2号住居址検出状況



第２号 住居址（北側より）



同　　上

図版20

A－B・4グリッド内検出の竈

同　　上

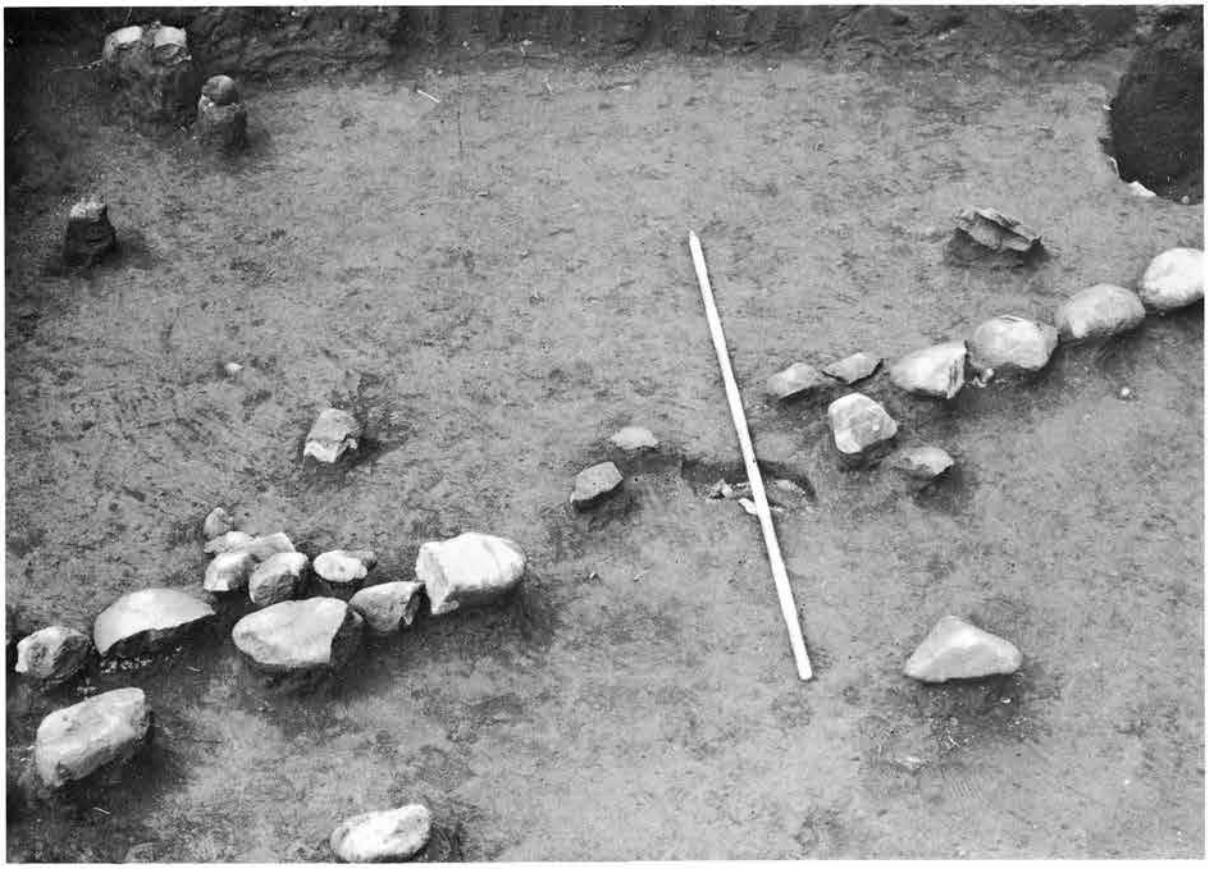
第Ⅱ次調査区近景（西側より）

同　　上（北側より）

図版22

第II次調査区近景（北側より）

調査風景（北側より）



帯状配石遺構・Dグリッド（南側より）

遺物の出土状態・Aグリッド（南側より）

図版24

遺物の出土状態・Aグリッド（南側より）

同　　上（北側より）

遺物の出土状態・Aグリッド

同　　上

図版26

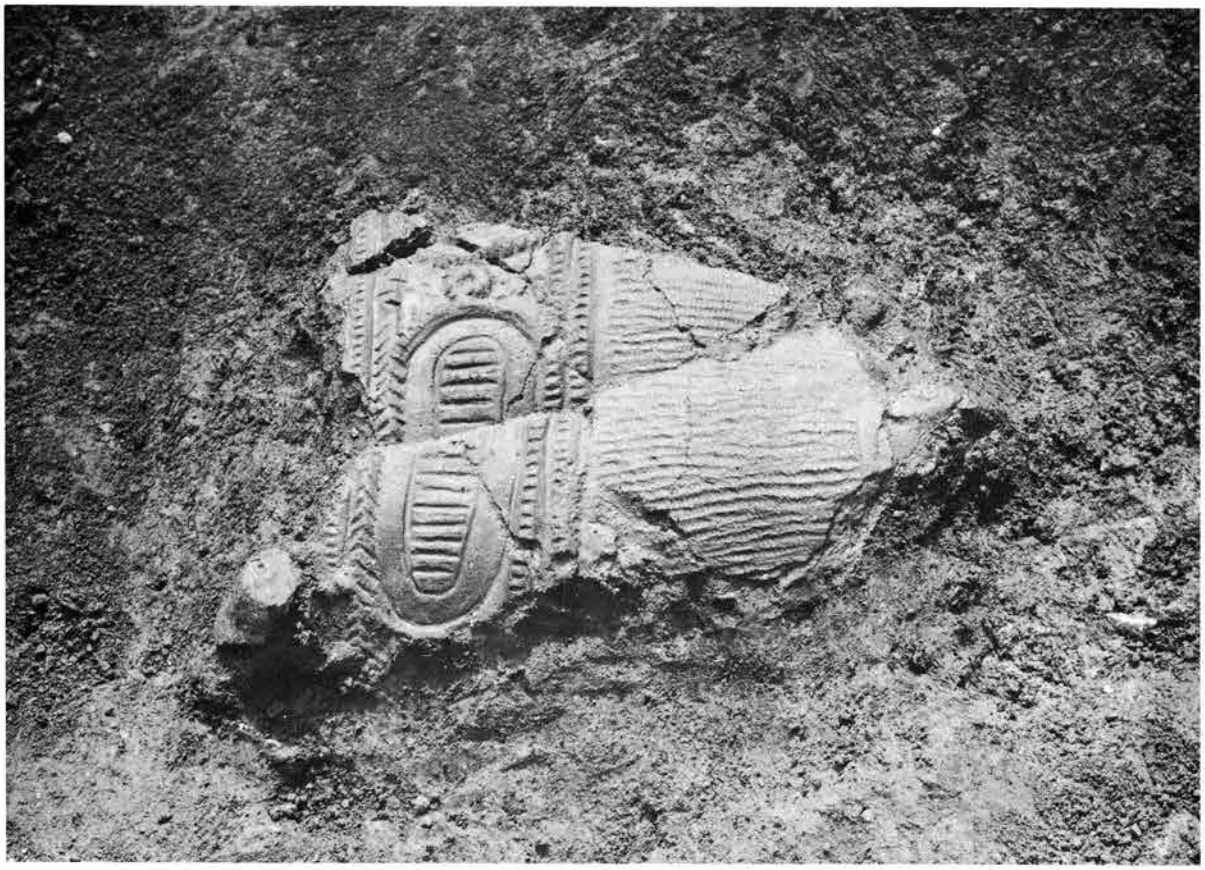
遺物の出土状態・Aグリッド

同　　上

遺物の出土状態・Aグリッド

同　　上

図版28



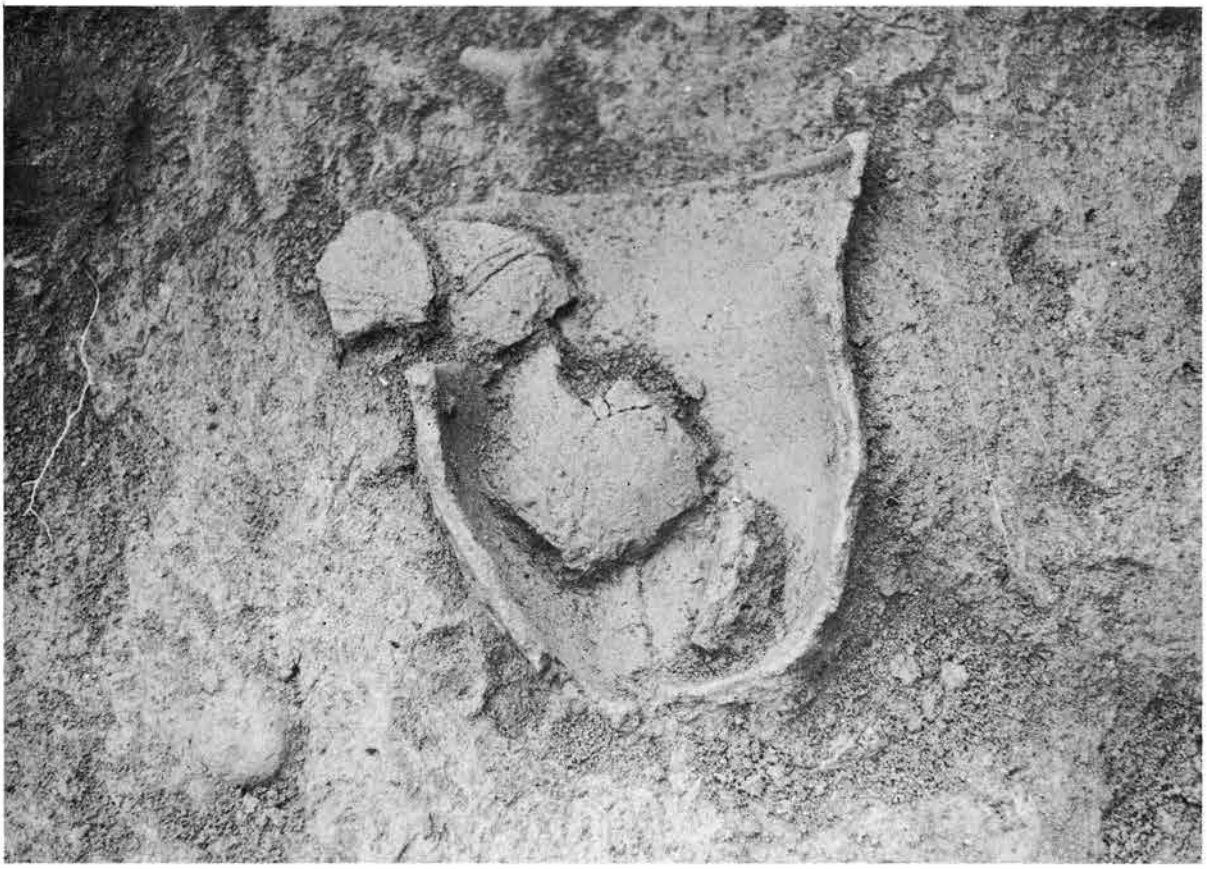
勝坂Ⅲ式土器の出土状態・Aグリッド

曾利Ⅰ式土器の出土状態・Aグリッド

曾利Ⅰ式土器の出土状態・Aグリッド

有孔鍔付土器の出土状態・Aグリッド

図版30



曾利系土器の出土状態・Aグリッド

打製石斧の出土状態・Aグリッド

174—1

174—2

174—3

174—4

174—5

174—6

第Ⅱ次調査出土の縄文土器 (1)

図版32

174—7

174— 9

175 —1

175—2

175 —3

175—4

第II次調査出土の縄文土器 (2)

175—5

175—6

176—1

176—2

176—3

176—4

176—5

第Ⅱ次調査出土の縄文土器 (3)

図版34

176—6

176—7

176—8

177—1

177—2

177—3

177—4

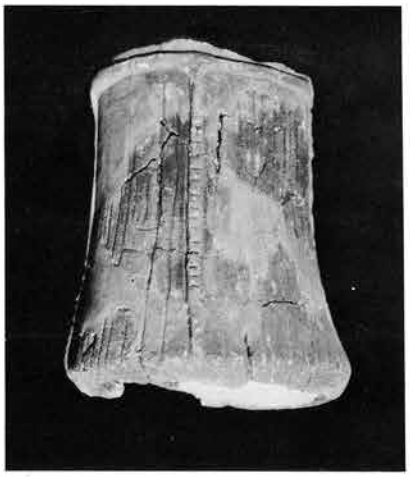
第II次調査出土の縄文土器 (4)

177—5

177—6

178—1

178—2



178—3

178—4

第II次調査出土の縄文土器 (5)

図版36

178 — 5

178—6

178—7

178—8

179－1

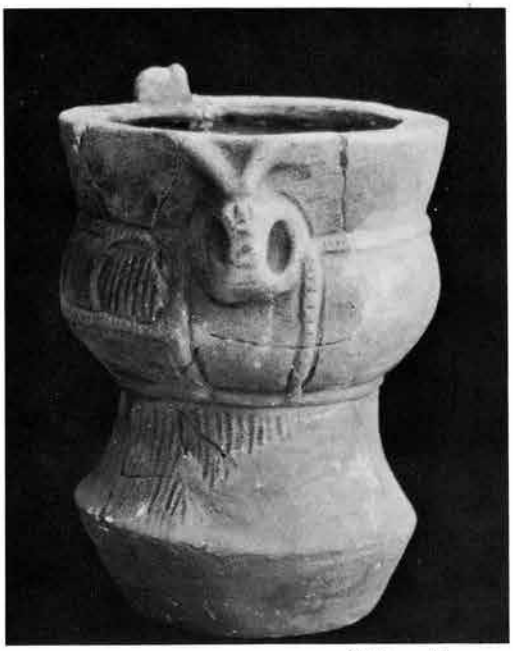
179—3

第Ⅱ次調査出土の縄文土器 (6)

179—4

179—6

179 — 9



179 — 7

179 — 10

第II次調査出土の縄文土器 (7)

図版38

180 —1

180—2

180— 3

180— 4

180— 5

第II次調査出土の縄文土器 (8)

182－1

182—3

182—5

183—1

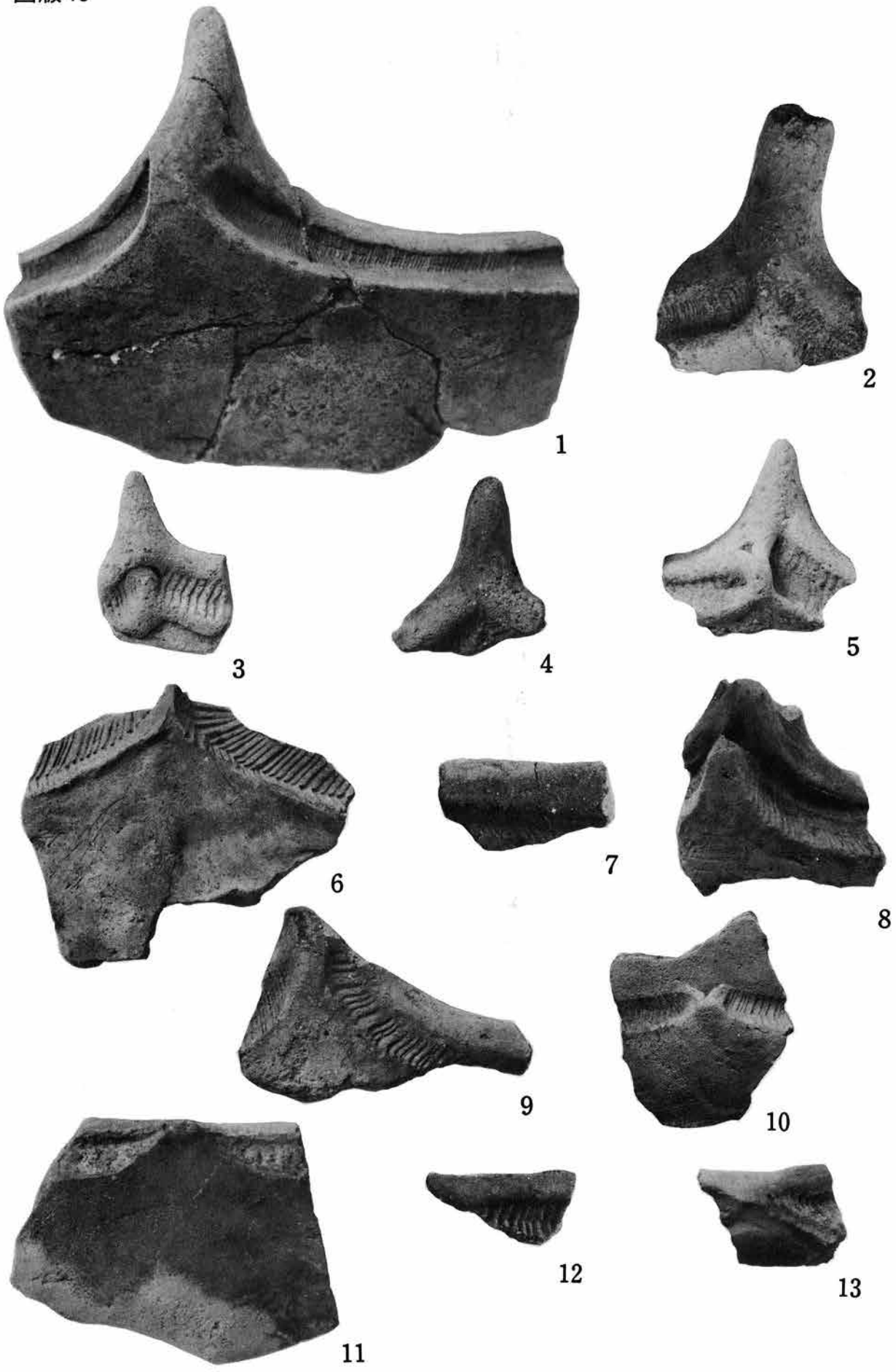
185-2

185-7

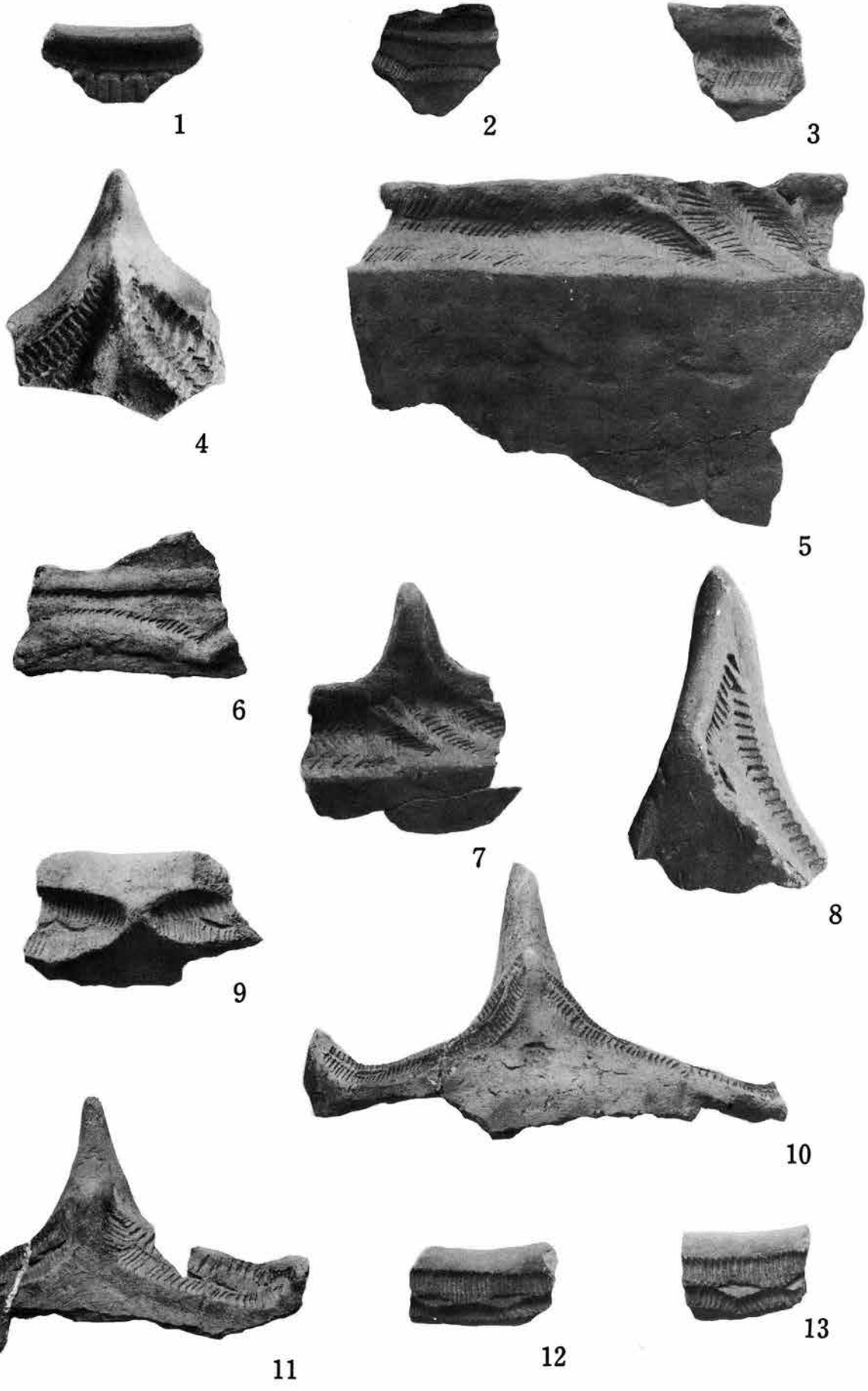
185—6

第II次調査出土の縄文土器 (9)

図版40

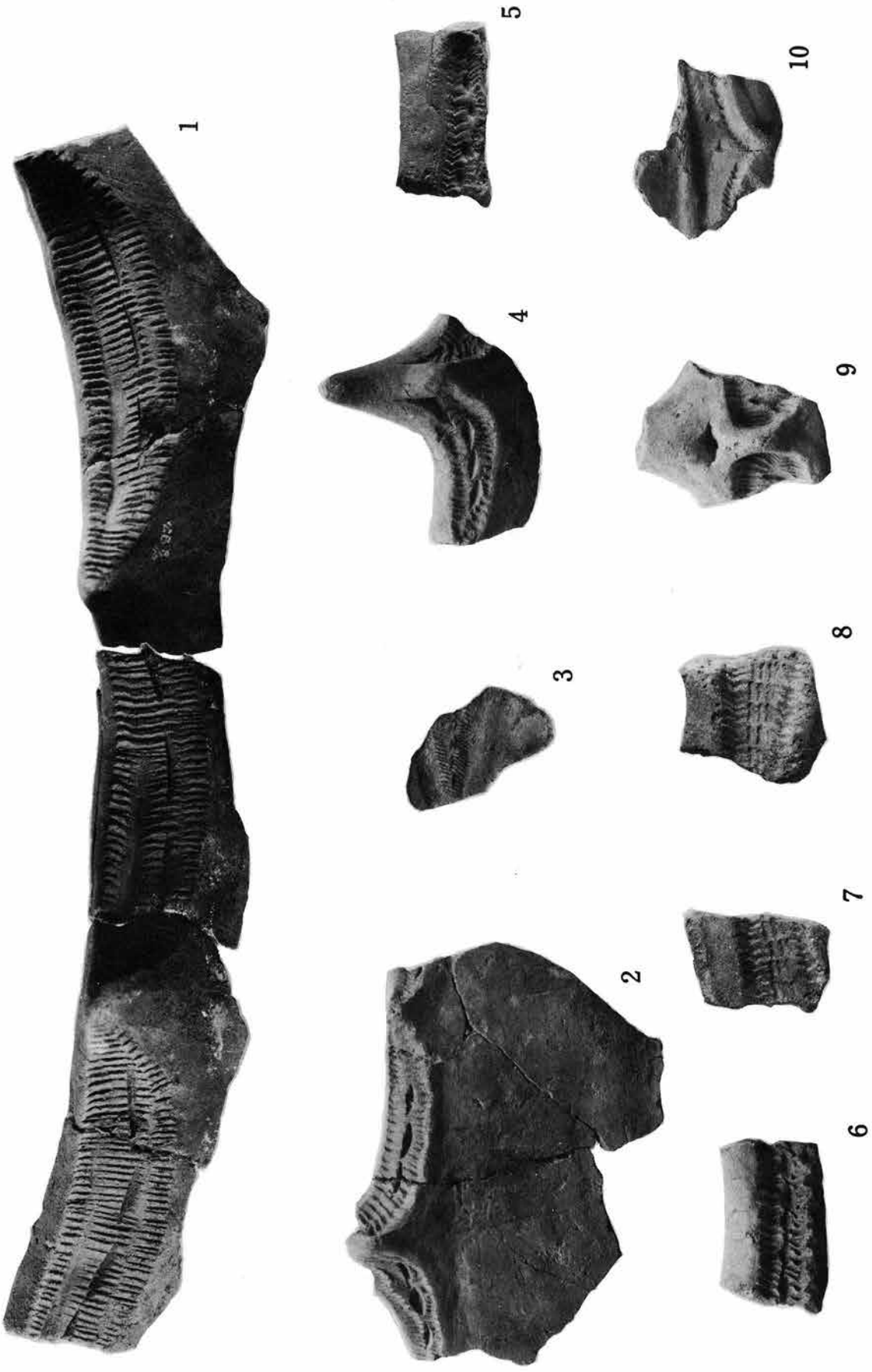



第II次調査出土の縄文土器 (10)

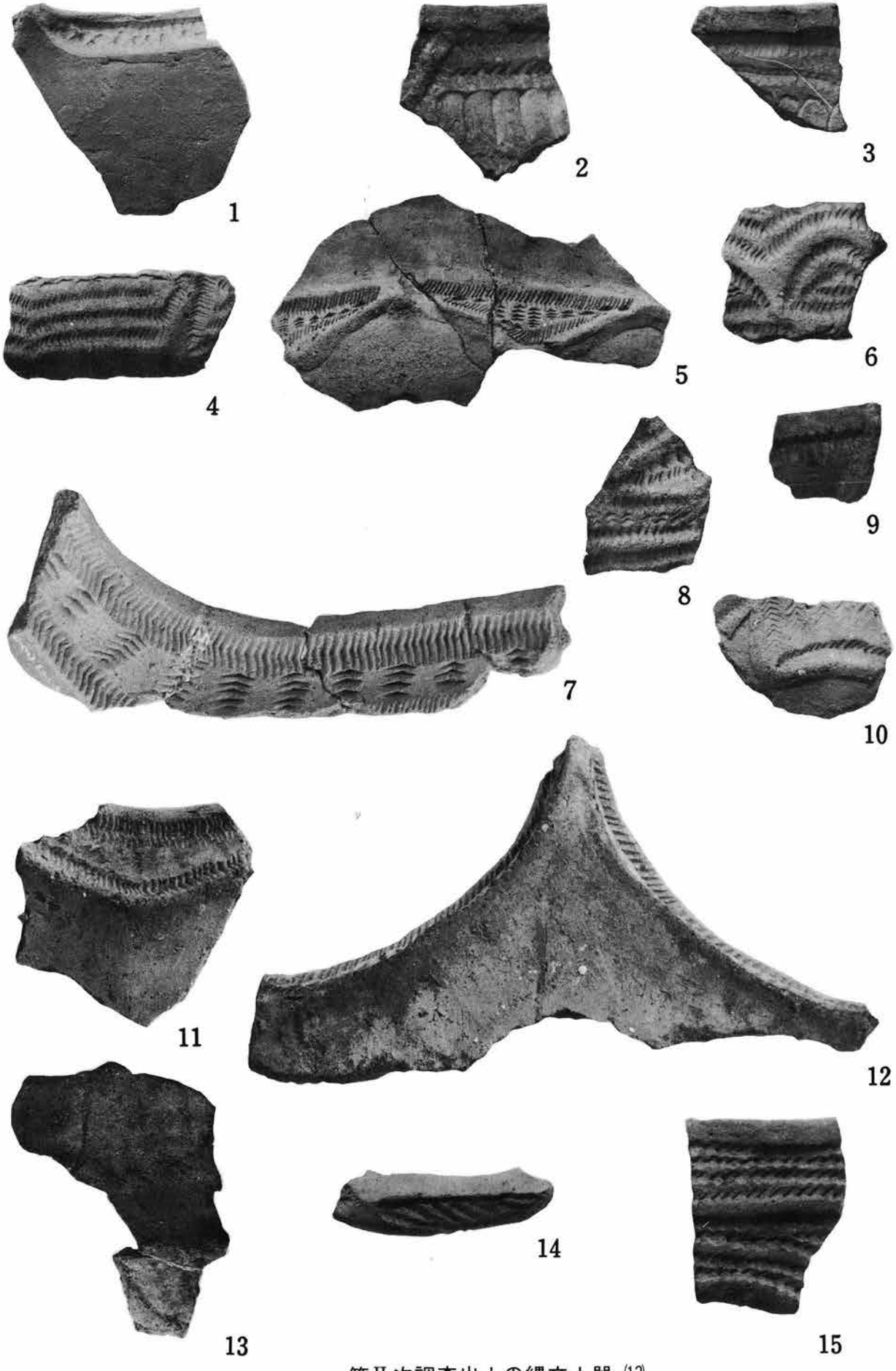



第Ⅱ次調査出土の縄文土器 (11)

図版42




第Ⅱ次調査出土の縄文土器 (12)




第Ⅱ次調査出土の縄文土器 (13)

図版44

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

第II次調査出土の縄文土器 (14)

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

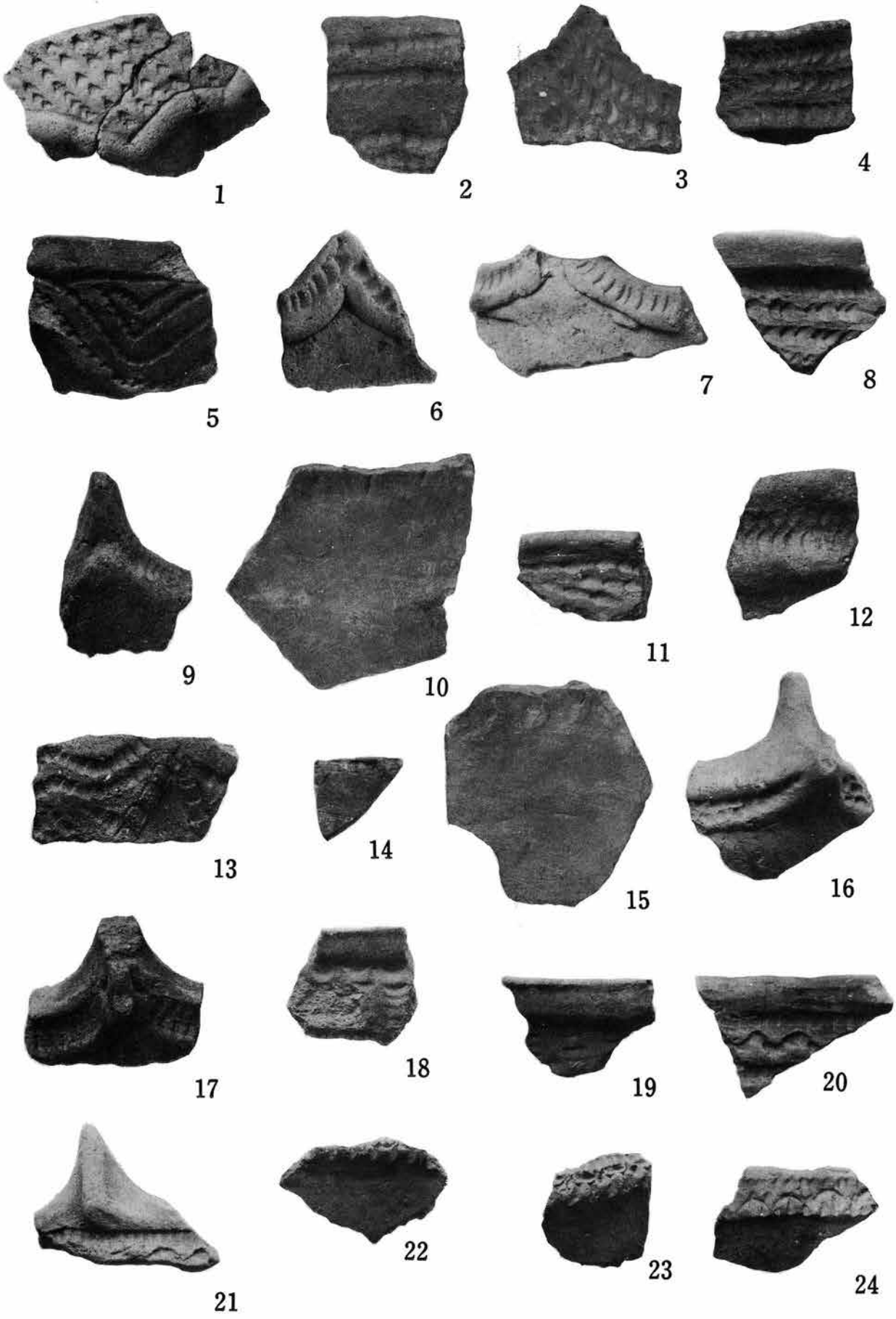
12

13

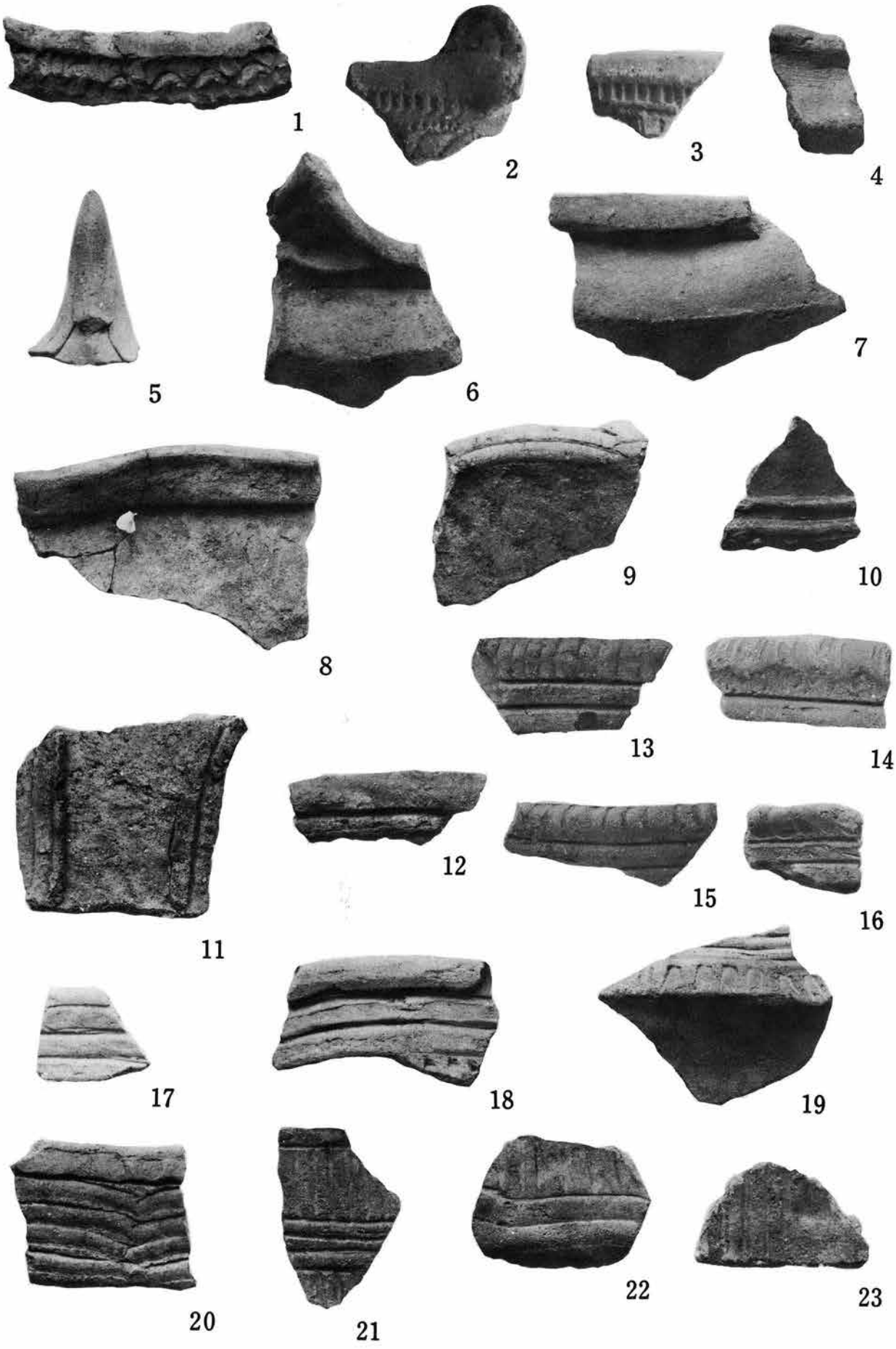
14

第Ⅱ次調査出土の縄文土器 (15)

図版46

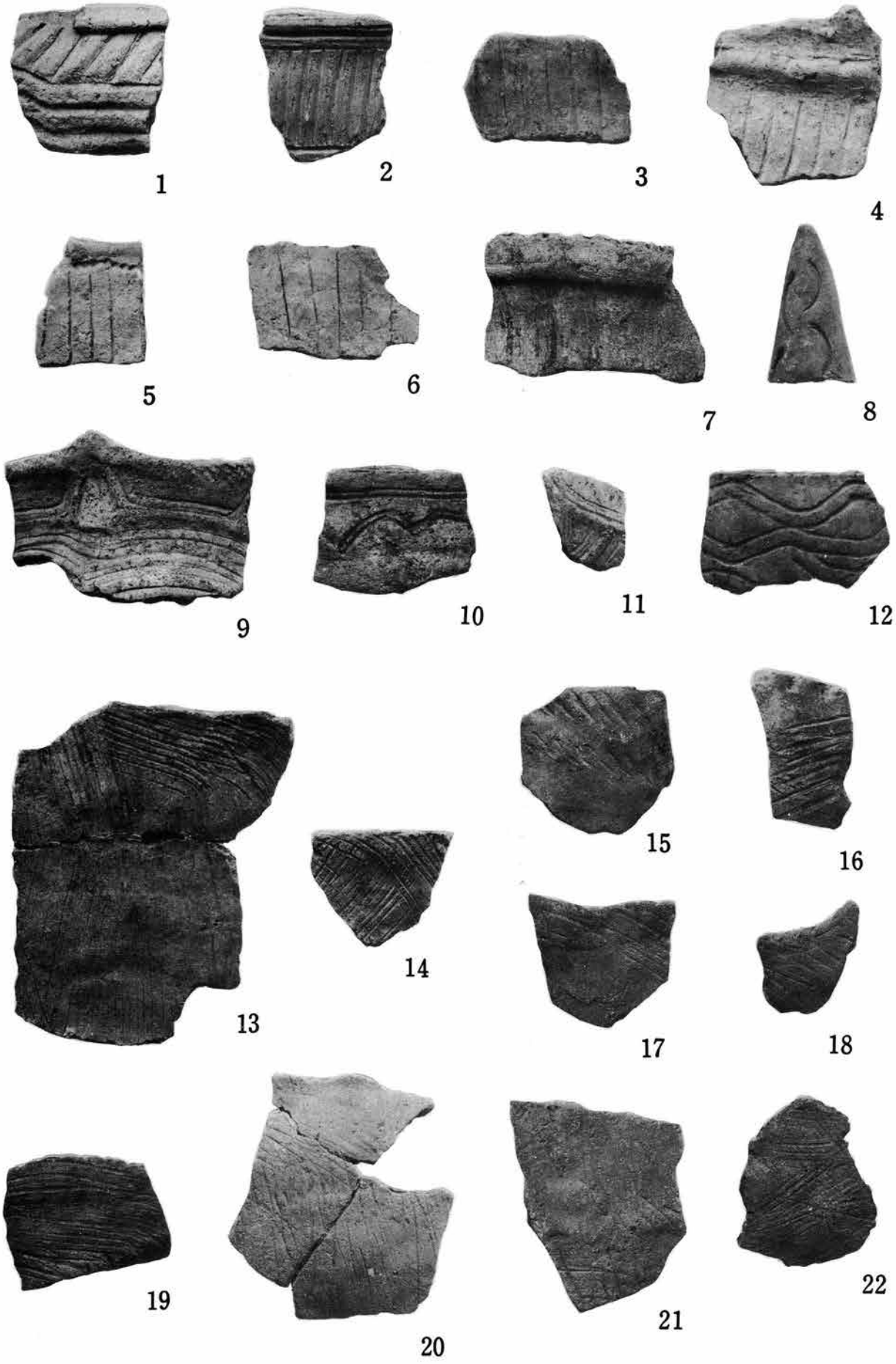



第II次調査出土の縄文土器 (16)

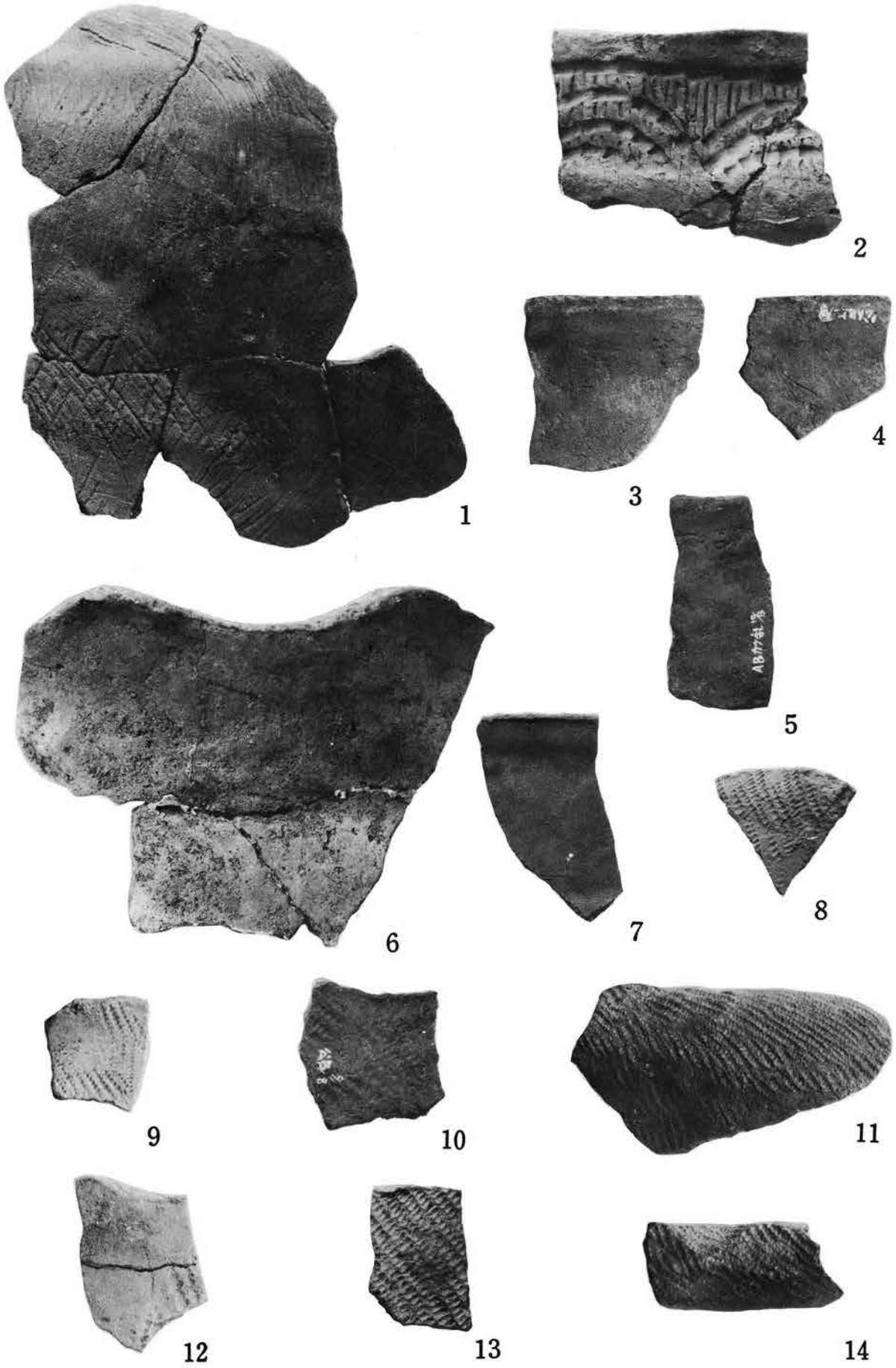



第II次調査出土の縄文土器 (17)

図版48




第Ⅱ次調査出土の縄文土器 (18)




第II次調査出土の縄文土器 (19)

図版50

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

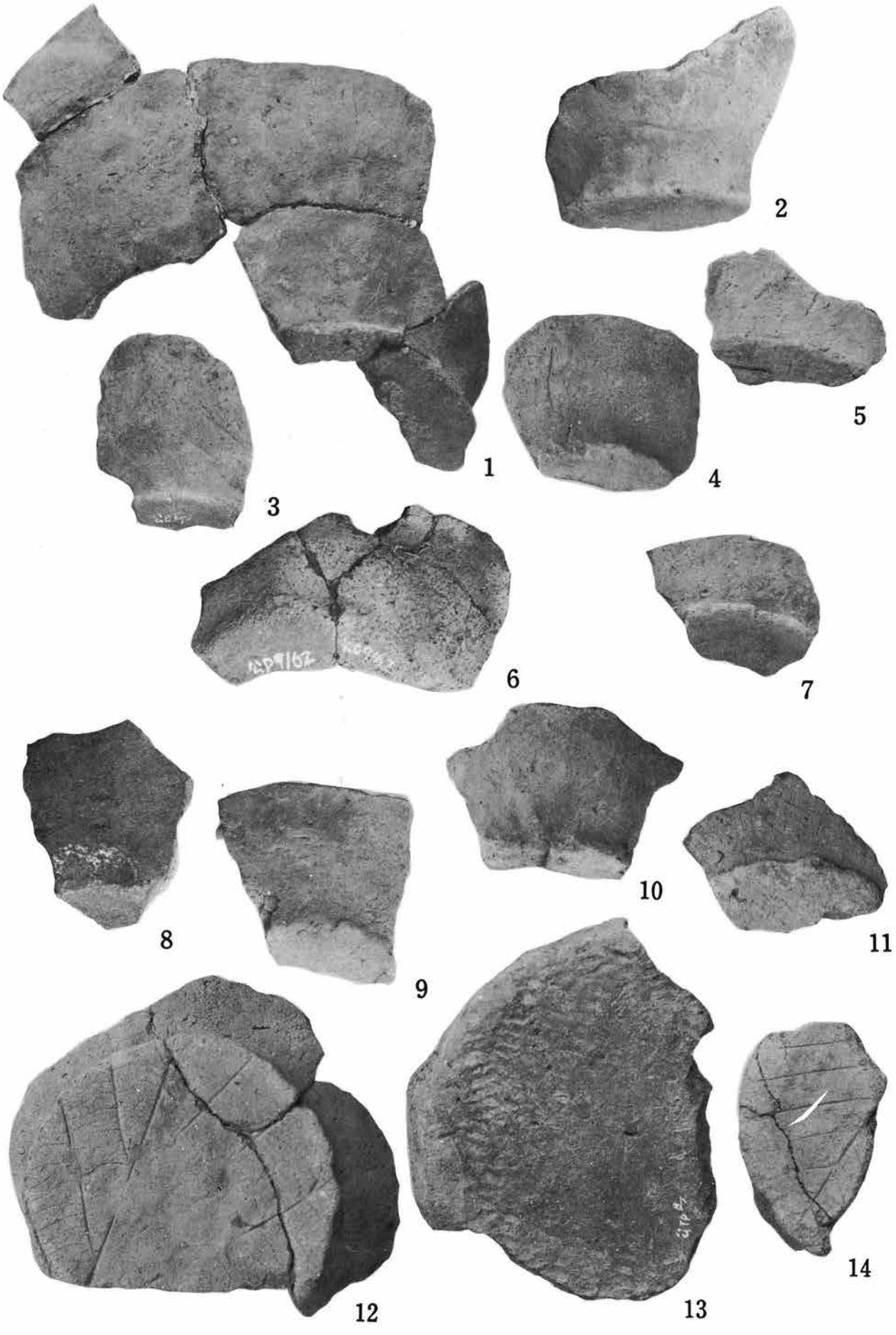
13

14

15

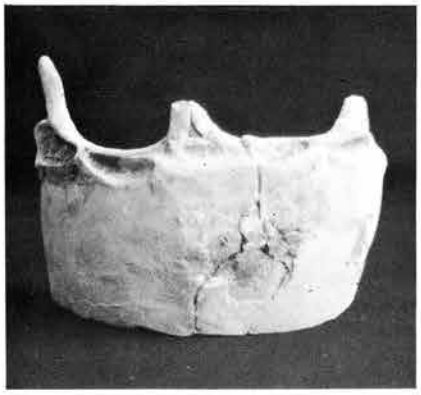
16

第Ⅱ次調査出土の縄文土器 (20)

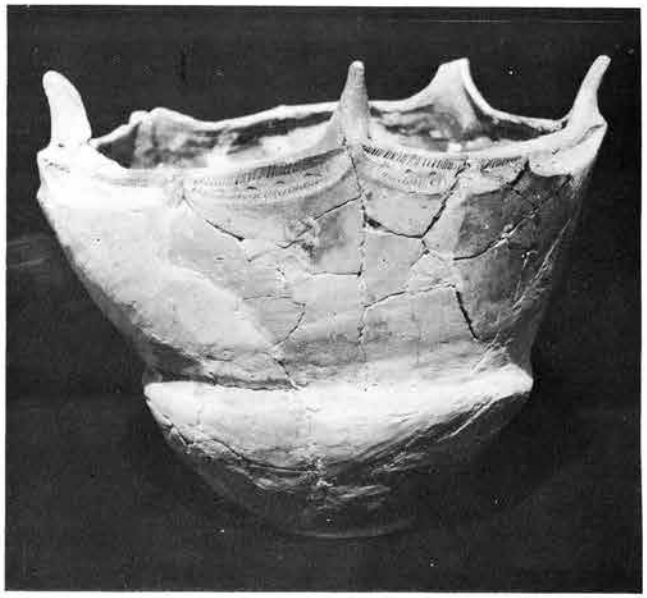



第II次調査出土の縄文土器 (21)

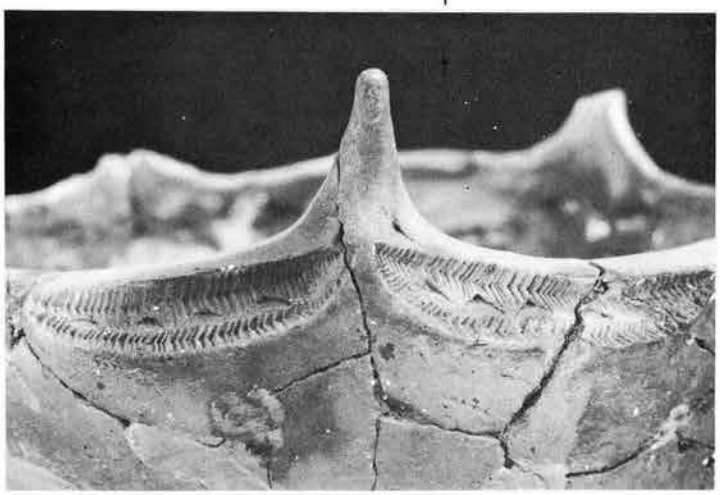
図版52



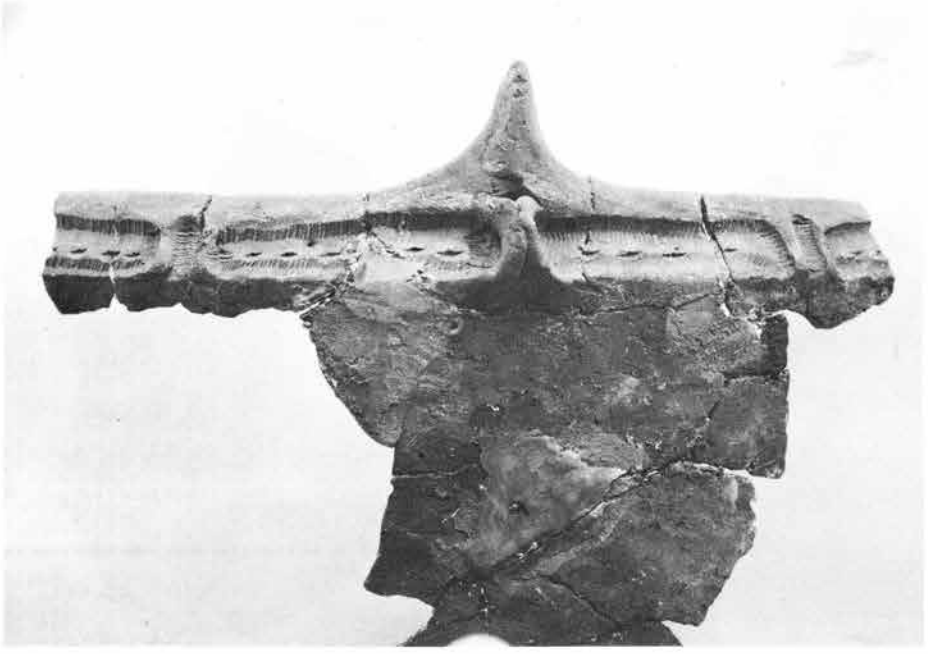
1



2-1



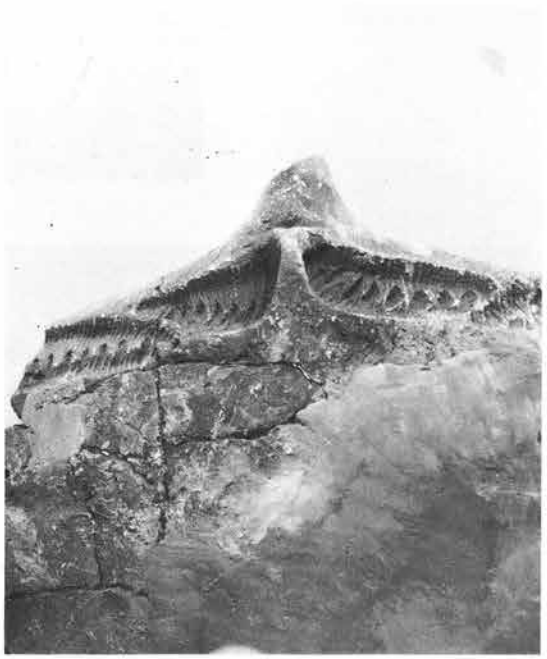
2-2



3

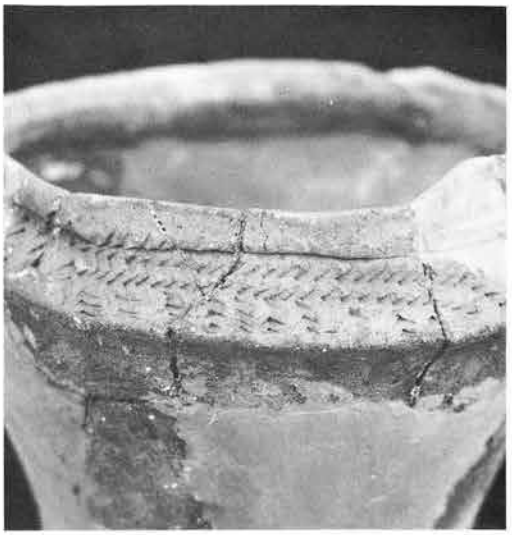
第Ⅱ次調査出土の縄文土器 (22)

1



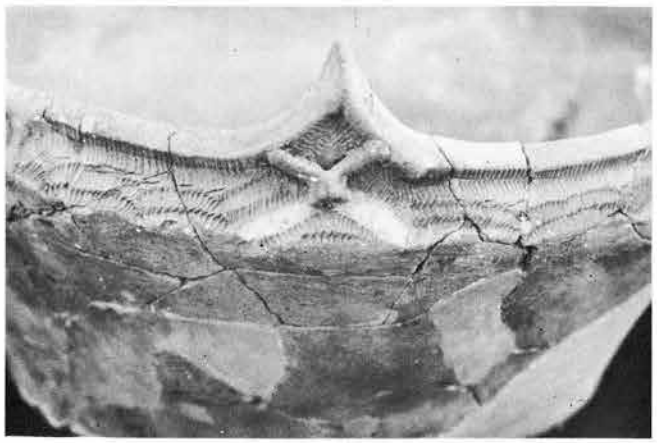
2

3-1



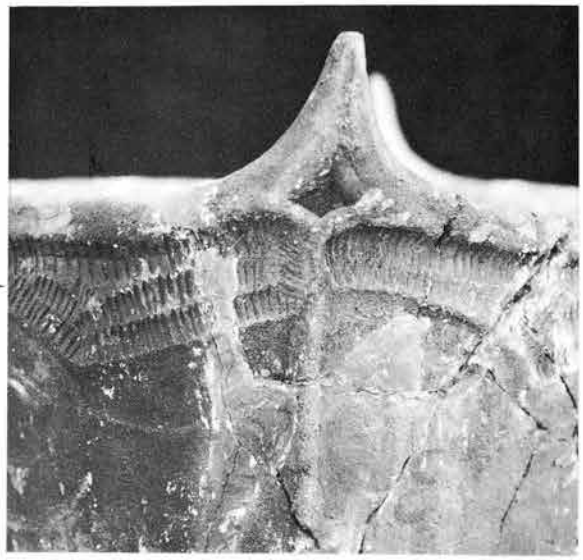
3-2

図版54



1

2-1



2-2

3-1

3-2

第Ⅱ次調査出土の縄文土器 (24)

1-1

1-2

2

3

4

5

第II次調査出土の縄文土器 (25)

図版56

4－6

5－1

5－3

5－2

5－4

第Ⅱ次調査出土の縄文土器 (26)

186—1

186—2

186—3

186—1

186—2

186—4

第II次調査出土の縄文土器 (27)

図版58

188—1

186—5

189—1

189—2

188—2

第II次調査出土の縄文土器 (28)

189—4

190—1

190—4

190—3

190—6

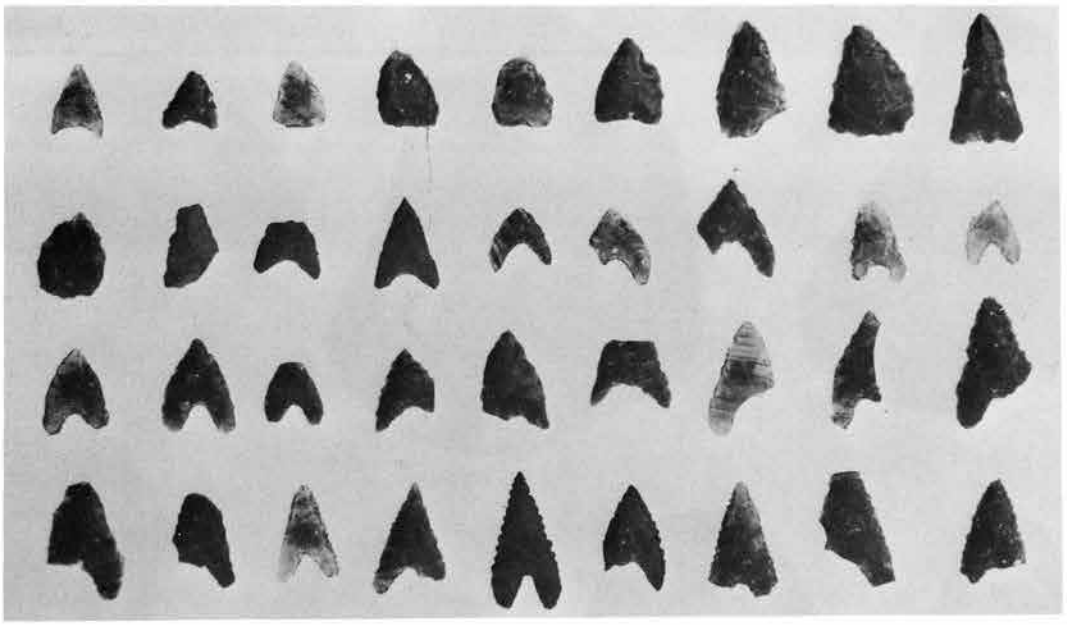
図版60

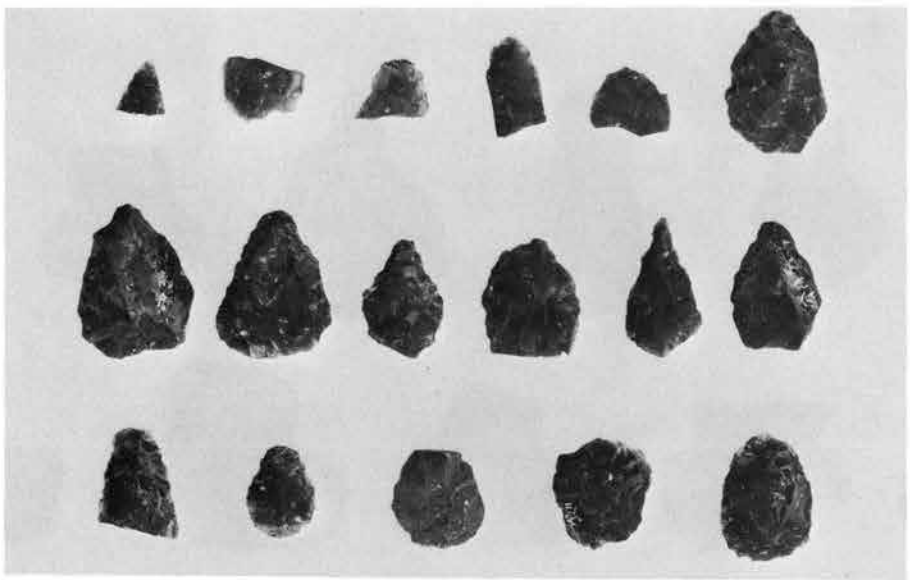
191—1

191—2

191—3

226-13

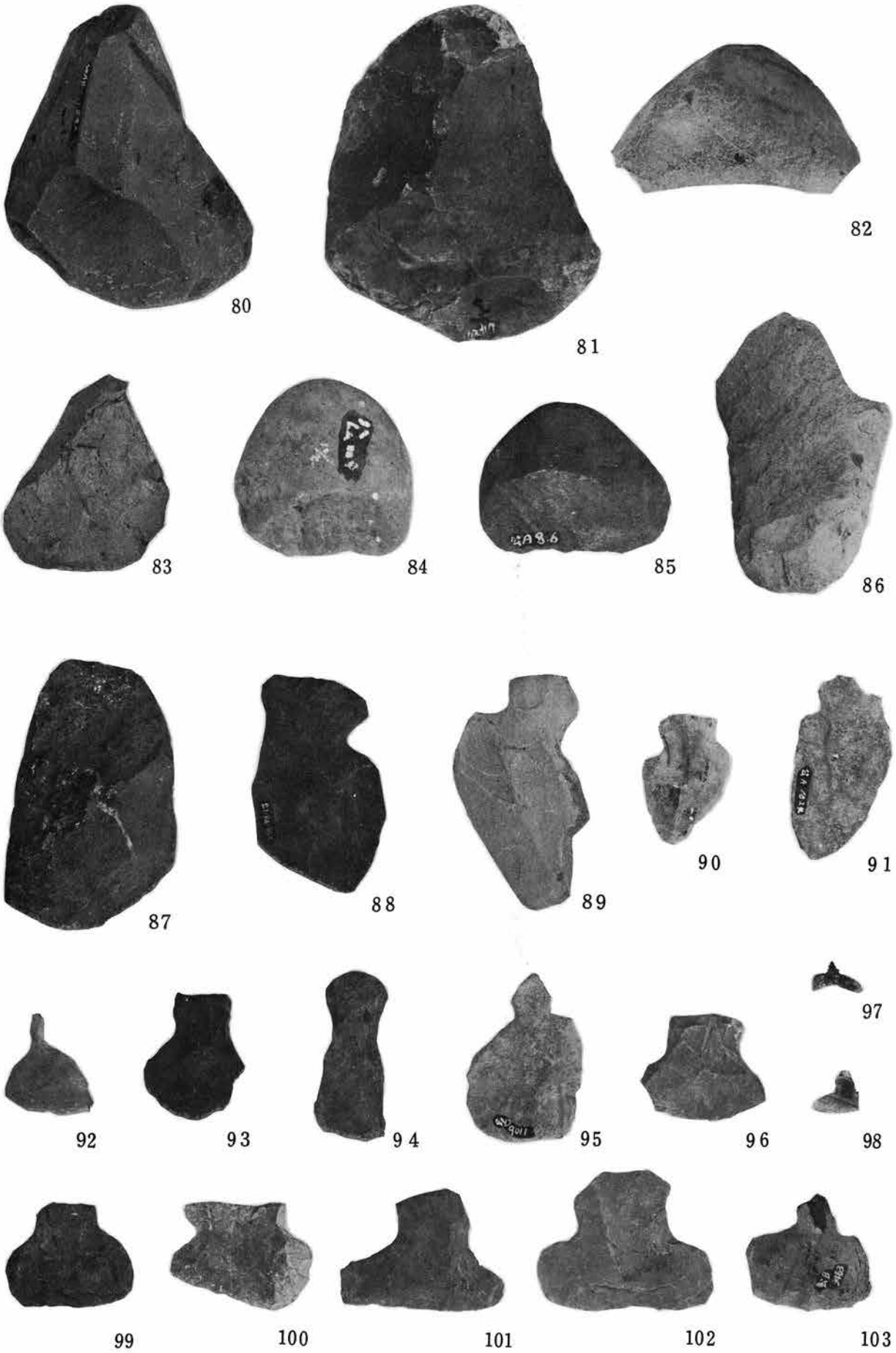




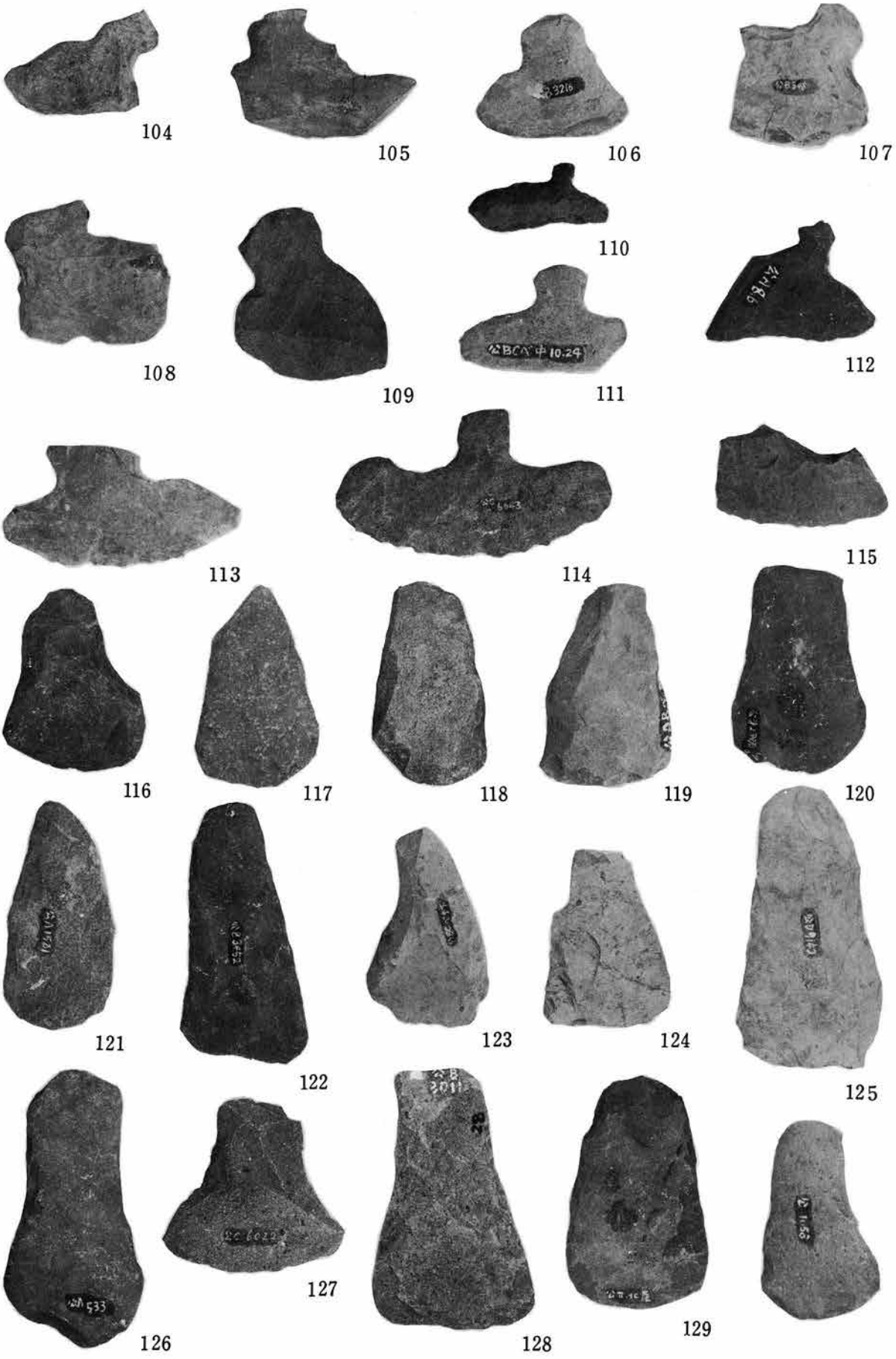
1～79

第II次調査出土の石器 (1)

図版62

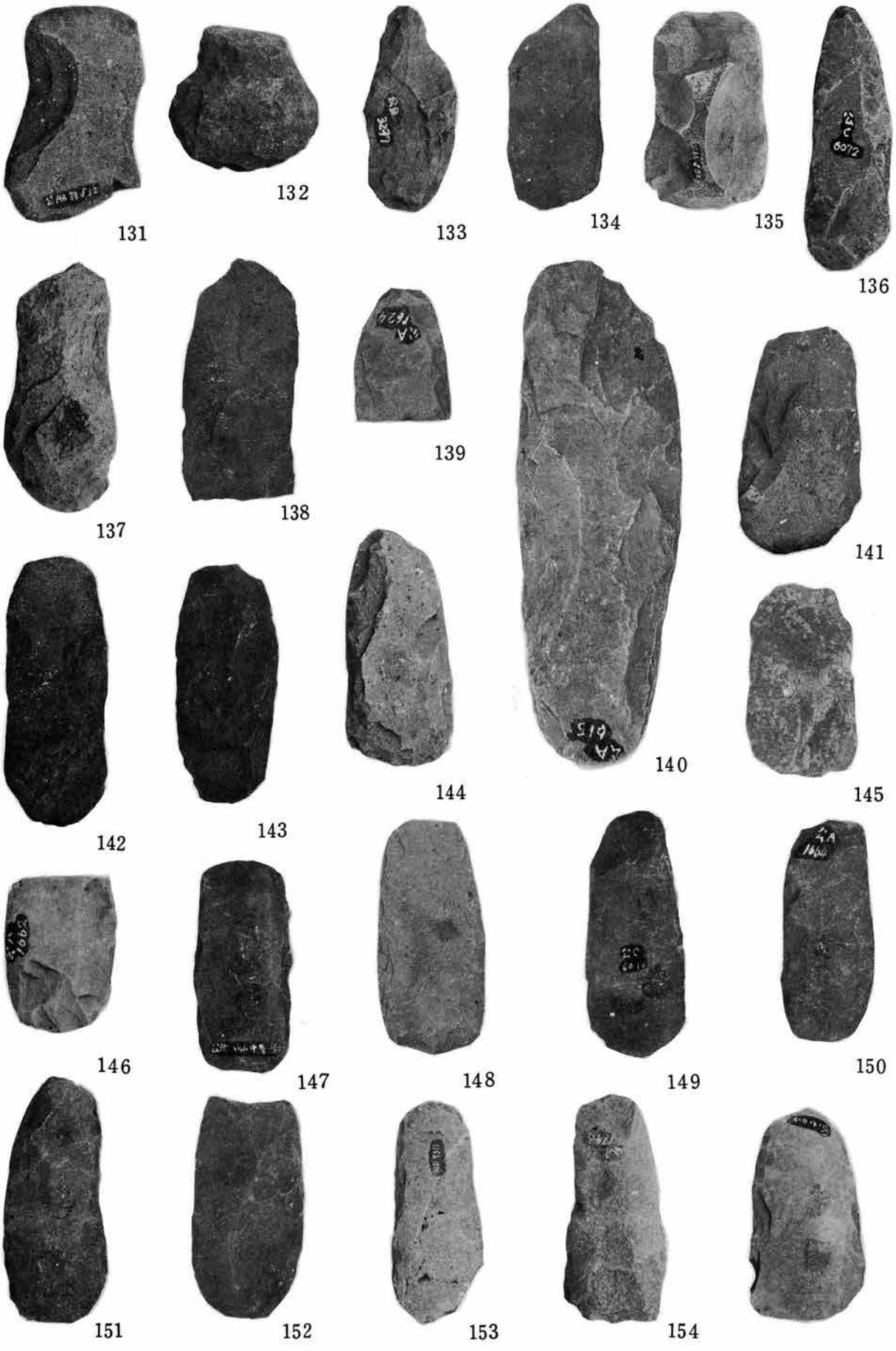



第II次調査出土の石器 (2)

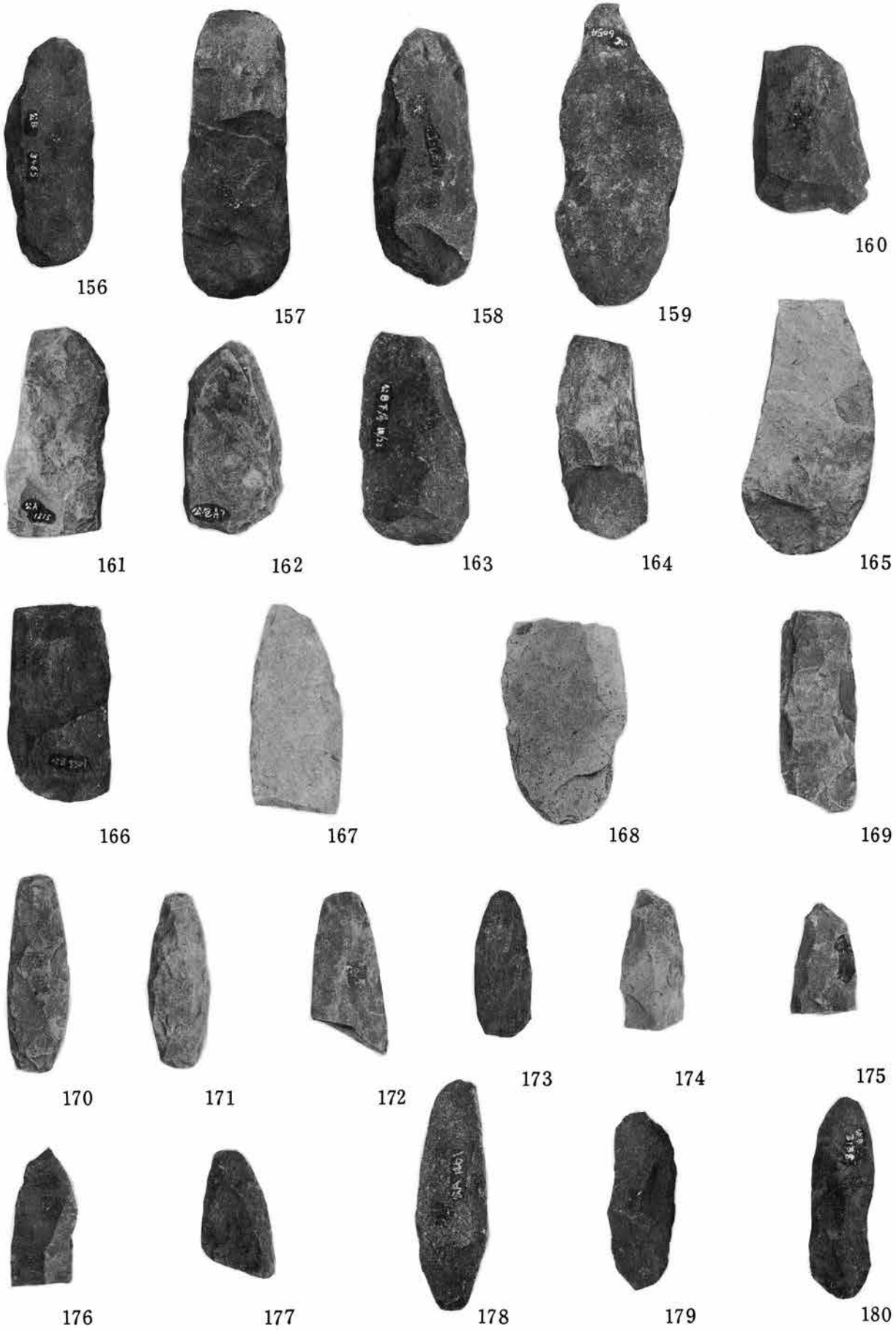



第Ⅱ次調査出土の石器 (3)

図版64




第II次調査出土の石器 (4)




第II次調査出土の石器 (5)

図版66

181 182 183 184 185 186

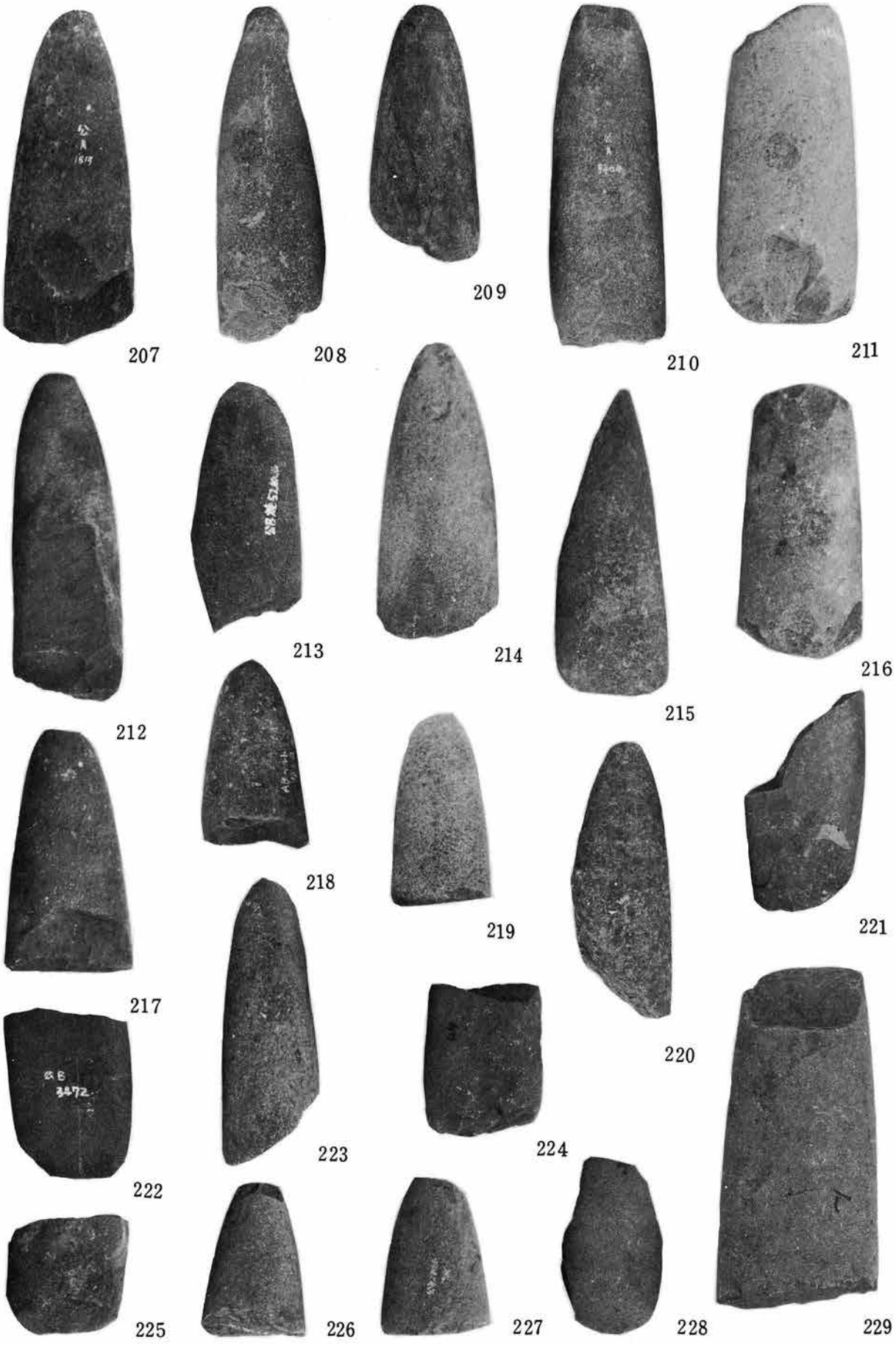
187 188 189 190 191 192

193 194 195 196 197 198

199 200 201 205 206

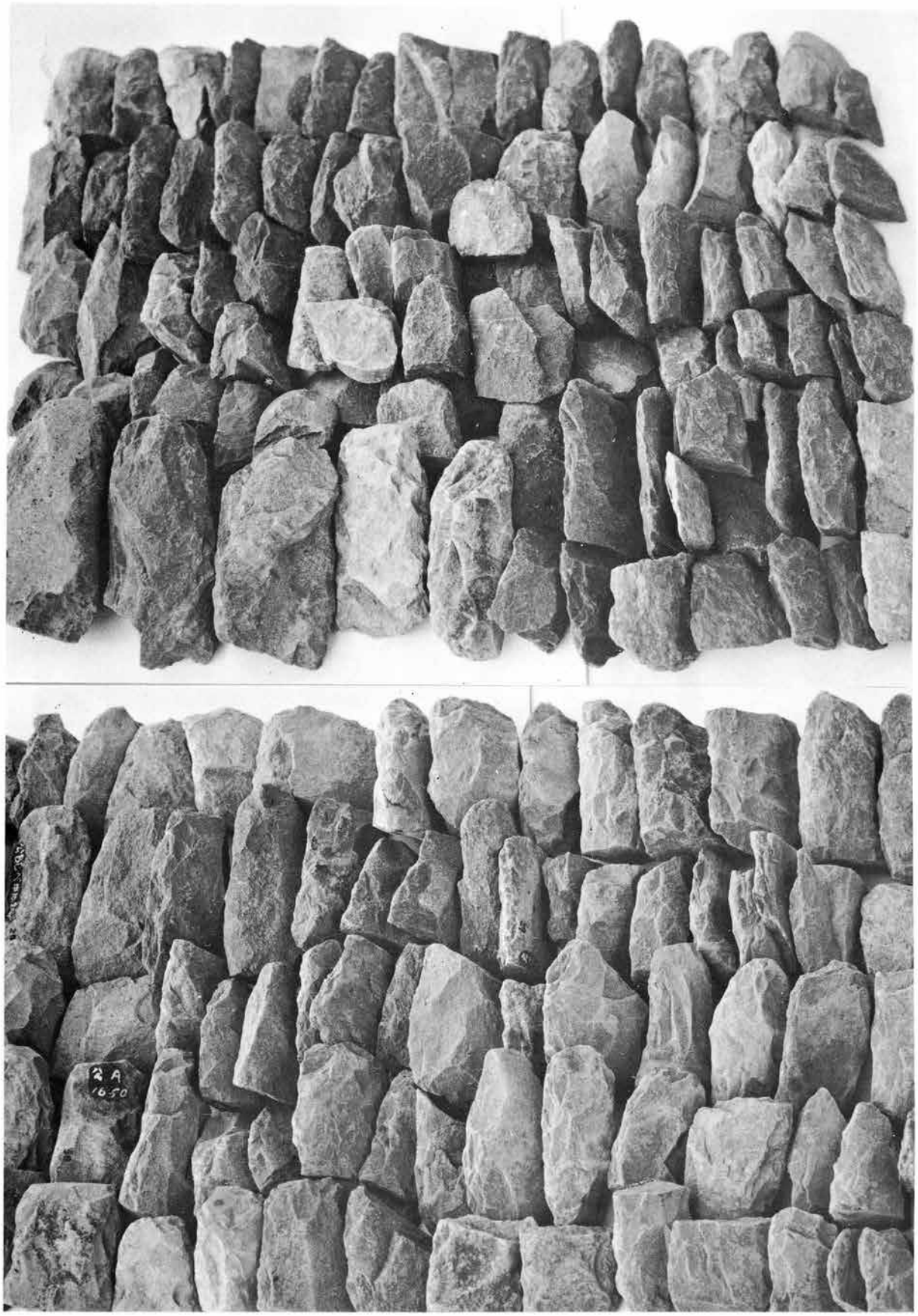
202 203 204

第II次調査出土の石器 (6)

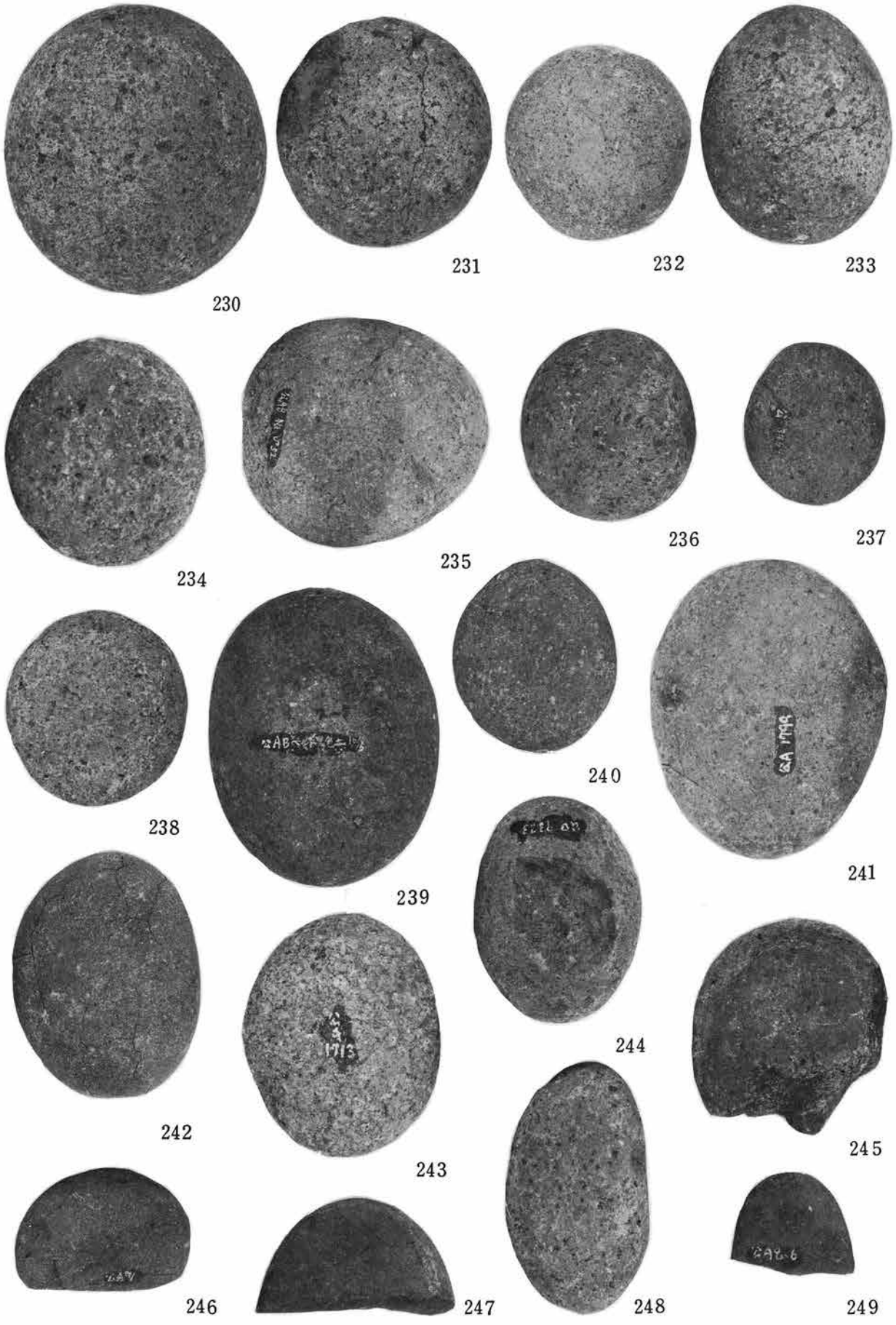



第Ⅱ次調査出土の石器 (7)

図版68

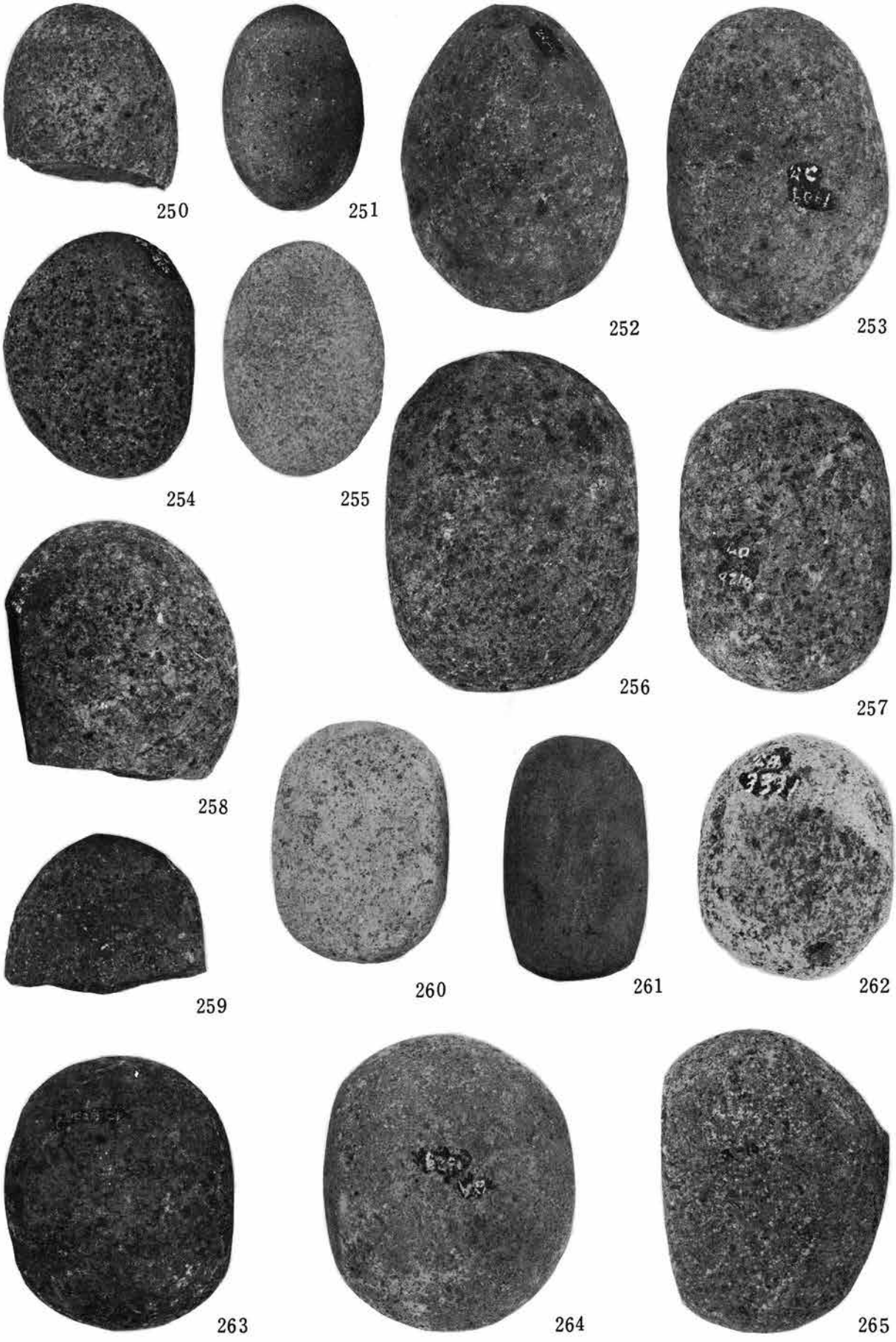


第II次調査出土の石器 (8)

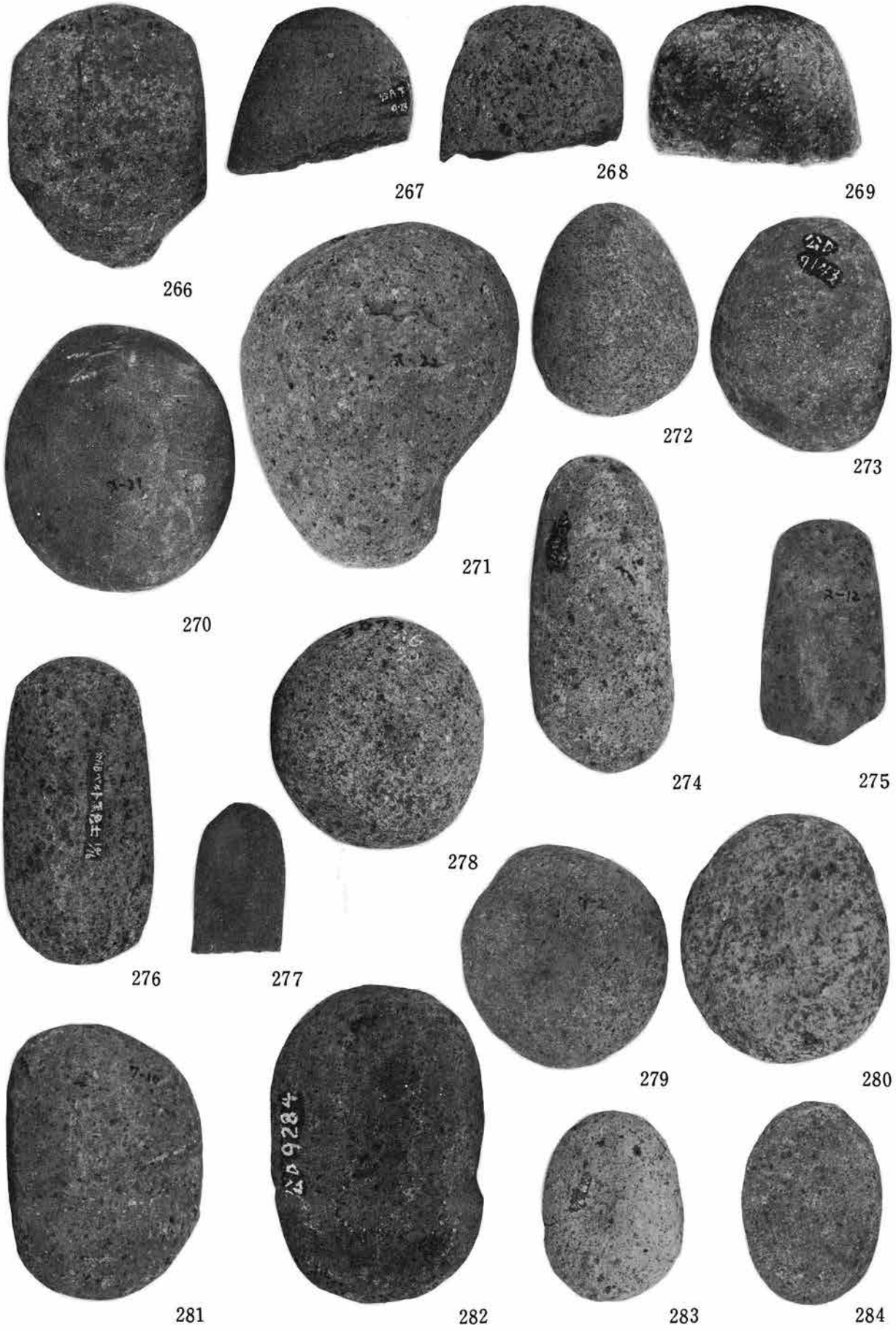



第Ⅱ次調査出土の石器 (9)

図版70




第II次調査出土の石器 (10)




第II次調査出土の石器 (11)

図版72

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

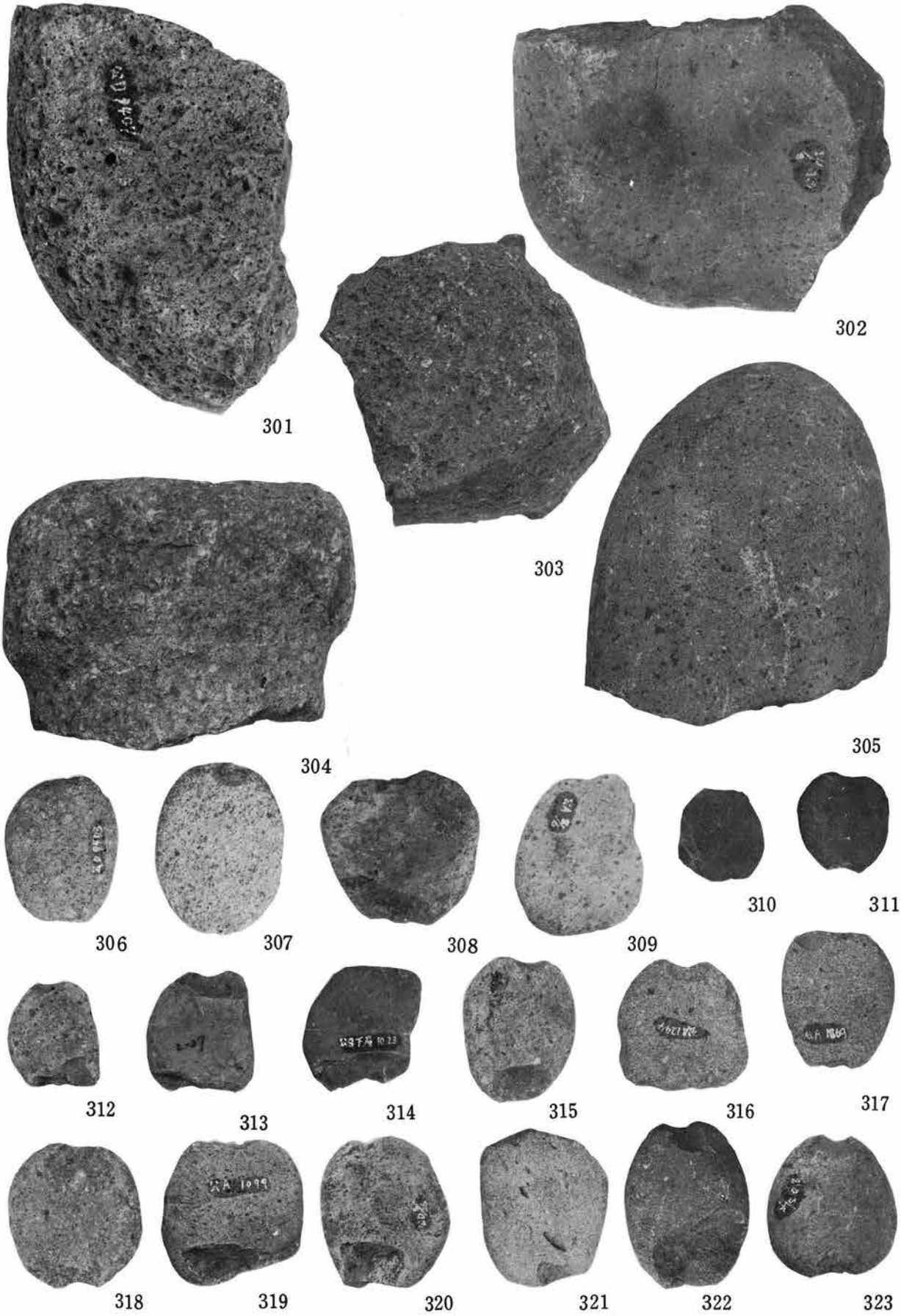
297

298

299

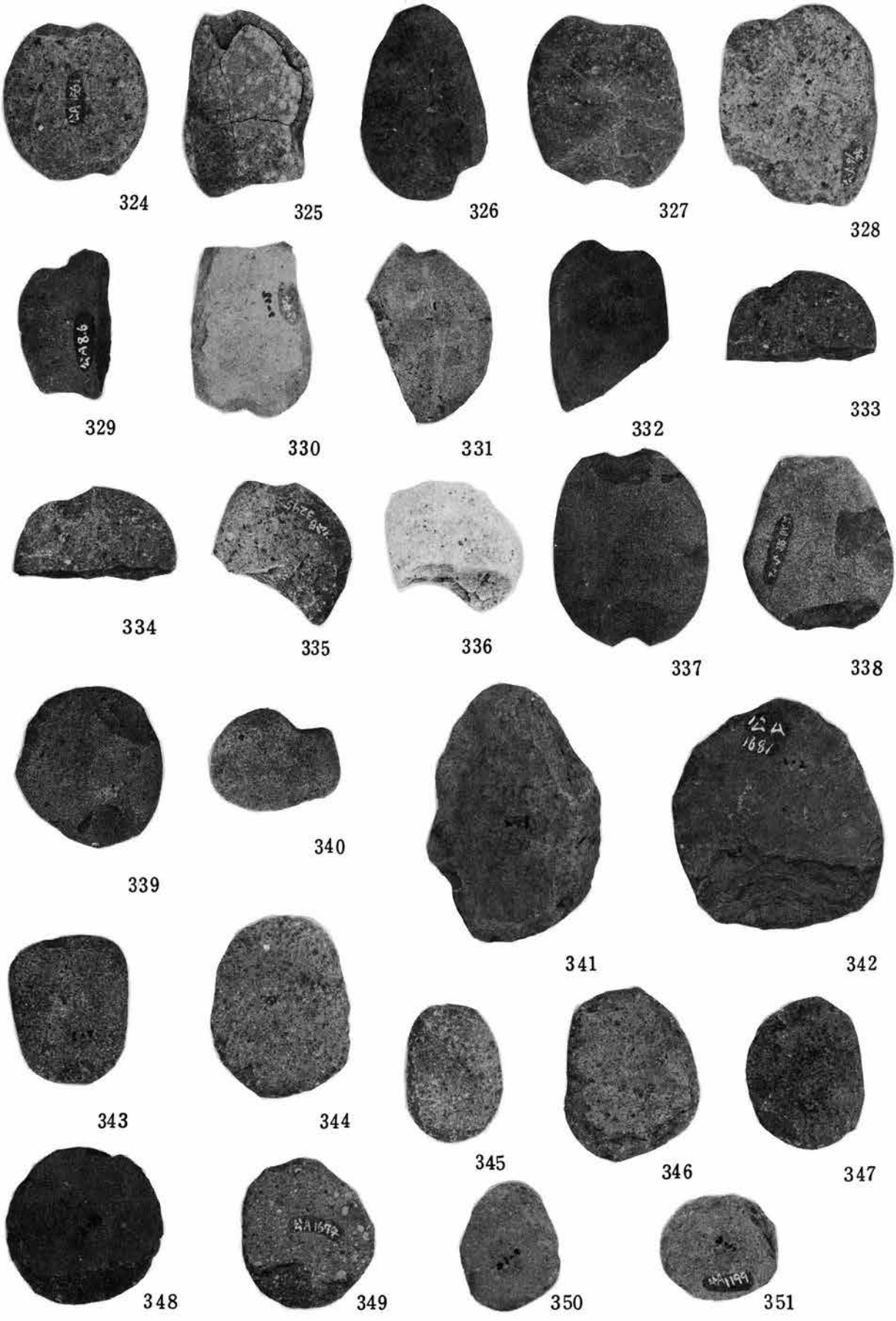
300

第II次調査出土の石器 (12)




第II次調査出土の石器 (13)

図版74




第Ⅱ次調査出土の石器 (14)

352

353

354

355

356

357

358

359

360

361

362

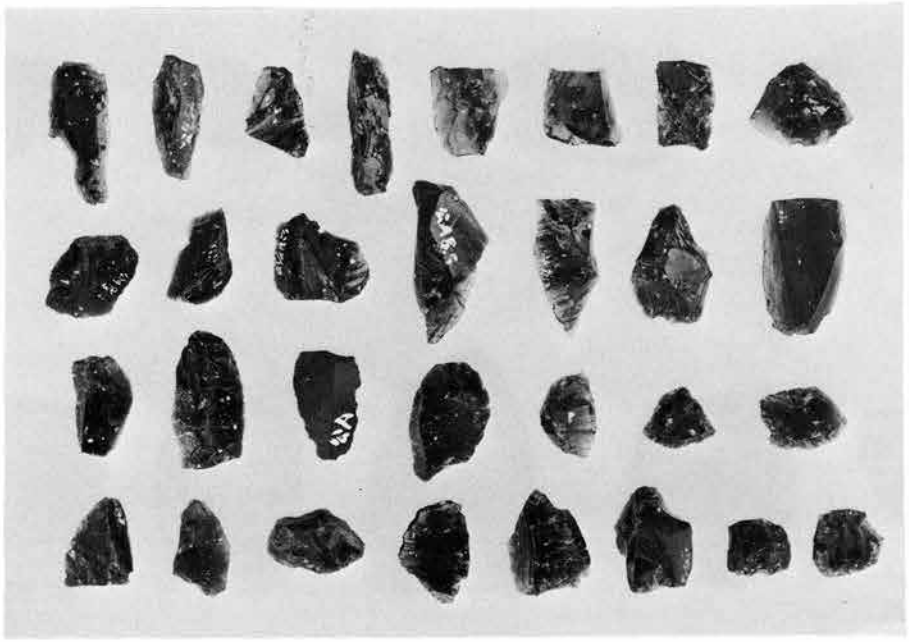
363

364

365

366

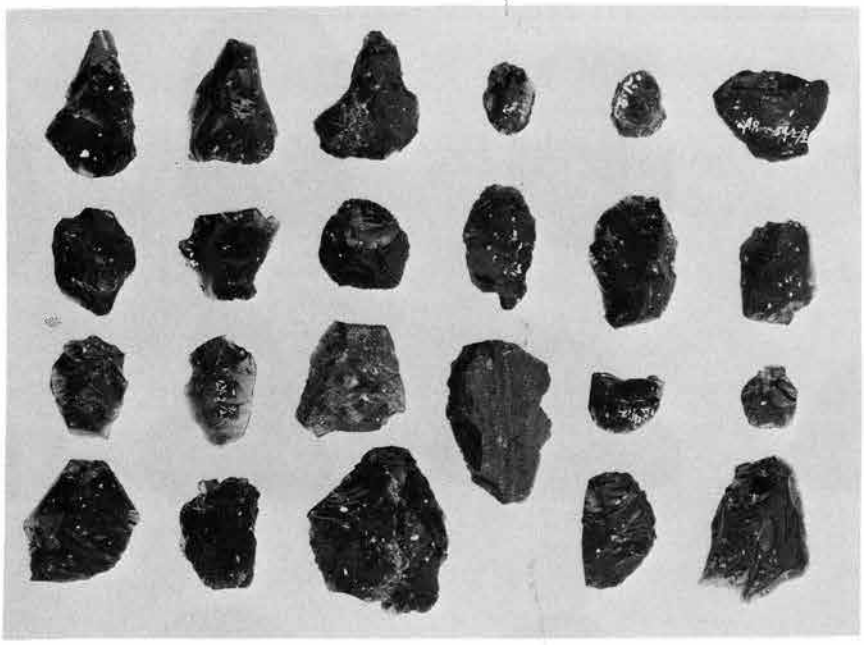
367



368 ～ 397

第Ⅱ次調査出土の石器 (15)

図版76



398　420

421

422

423

424

425

426

427

428

429

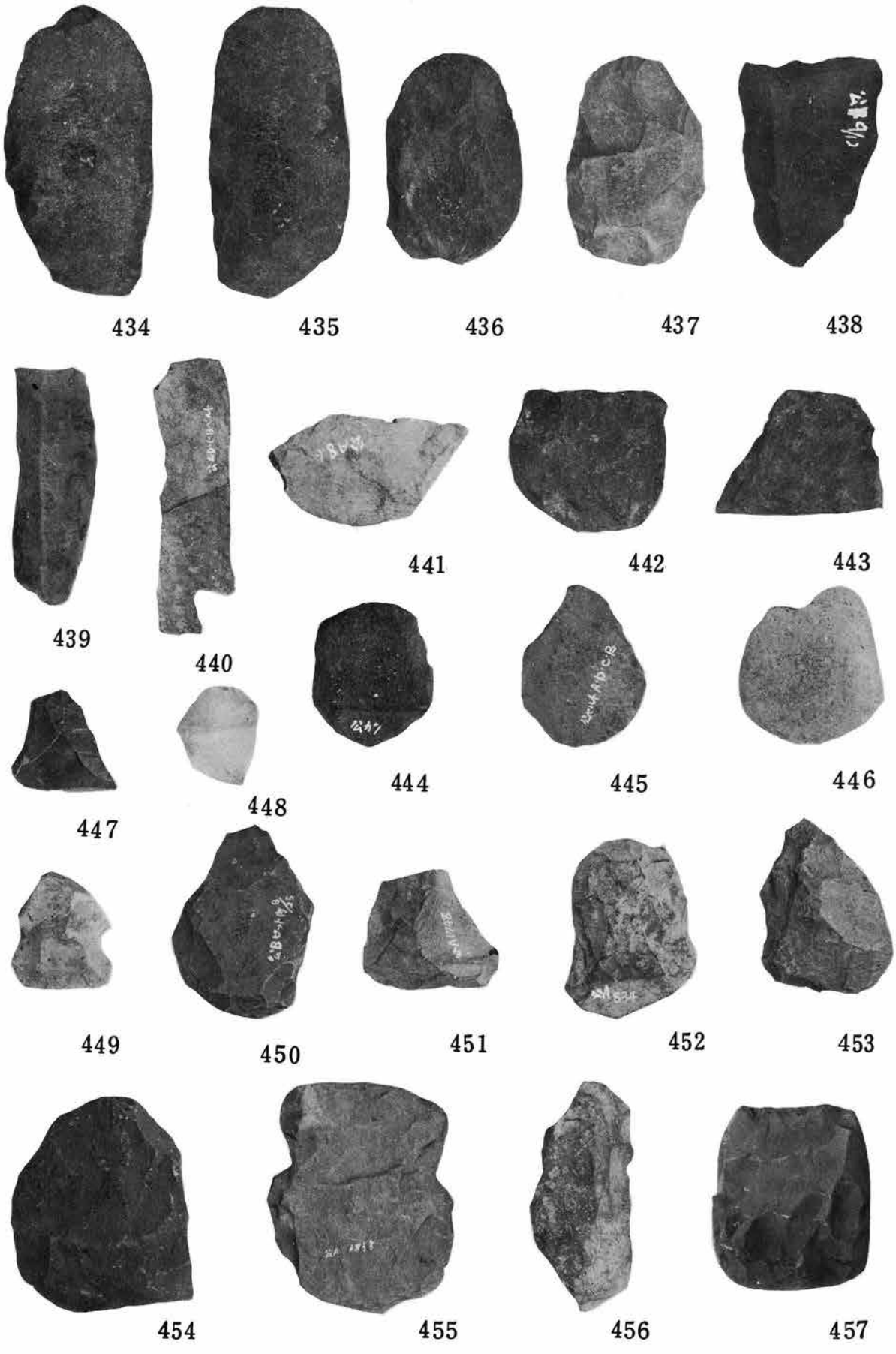
430

431

432

433

第Ⅱ次調査出土の石器 (16)



434 435 436 437 438

439 440 441 442 443

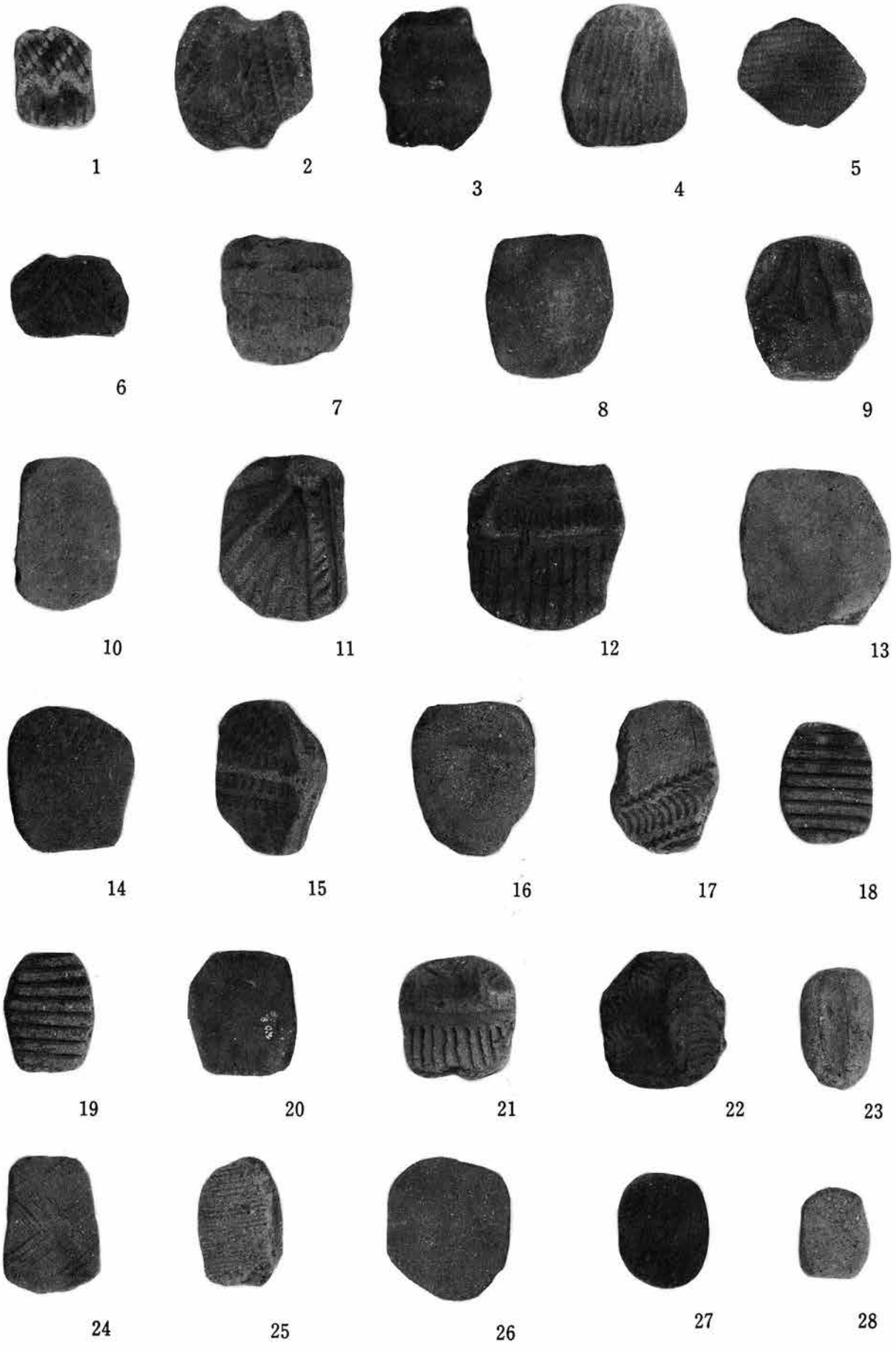
444 445 446

447 448

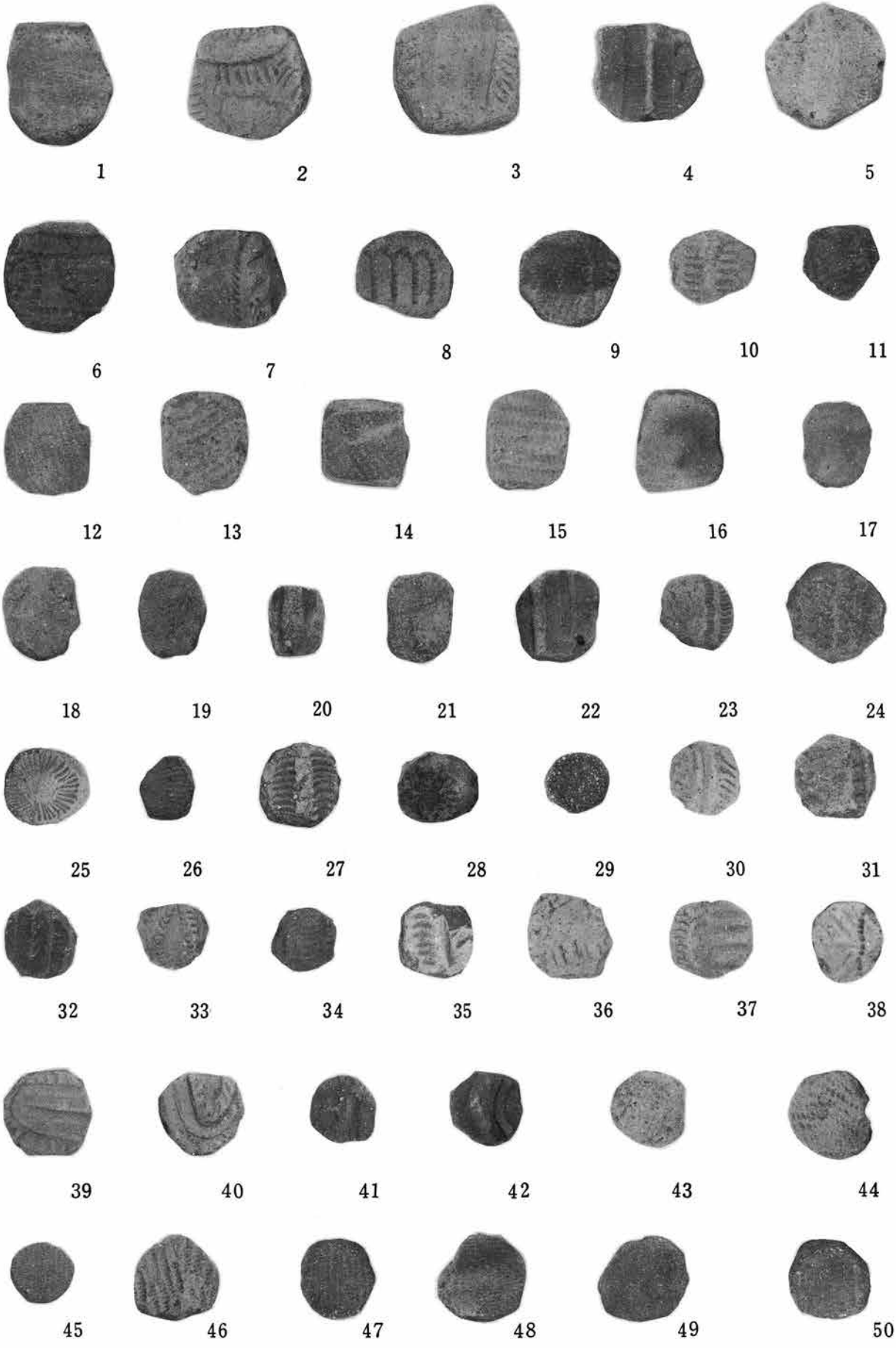
449 450 451 452 453

454 455 456 457

図版78

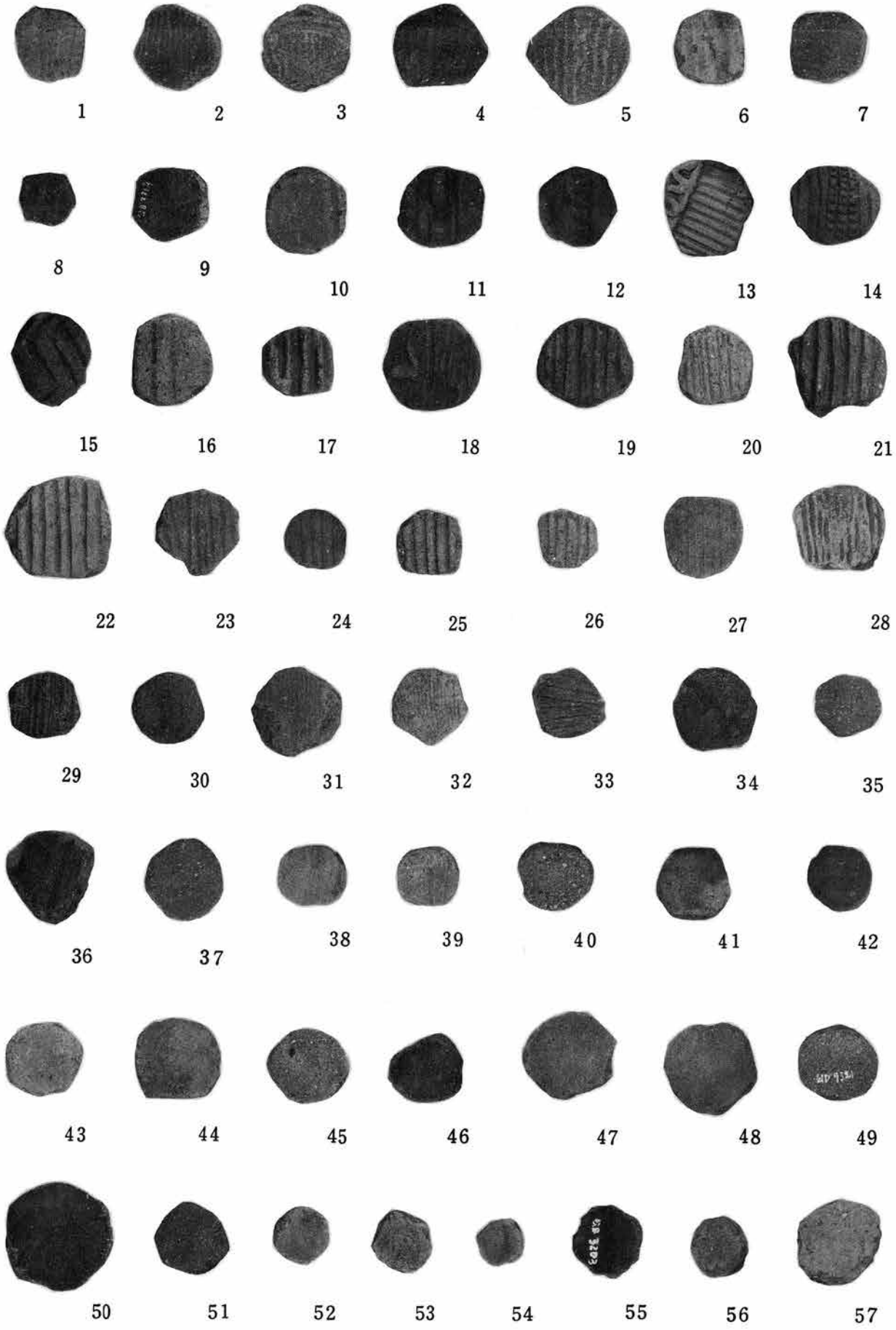



第Ⅱ次調査出土の土製円板（1）



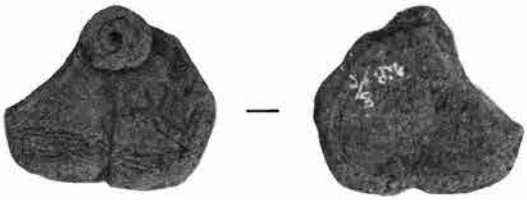

第II次調査出土の土製円板 (2)

図版80

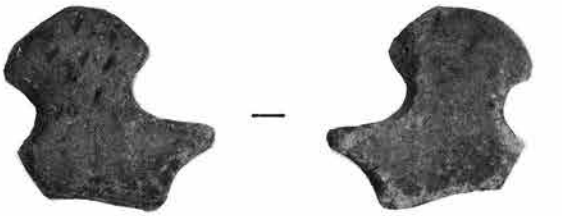



第II次調査出土の土製円板 (3)

1



4

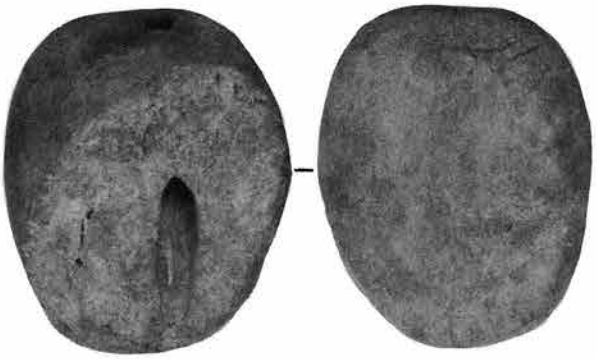


2

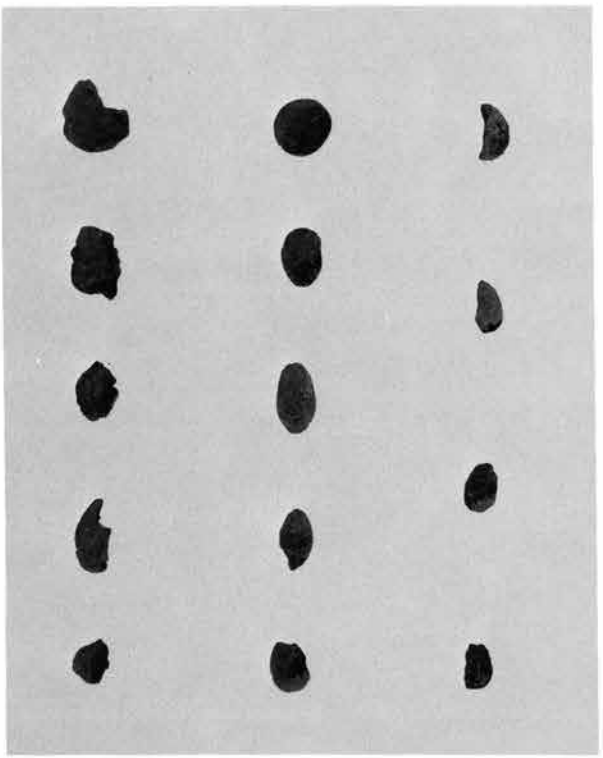
3

5

6



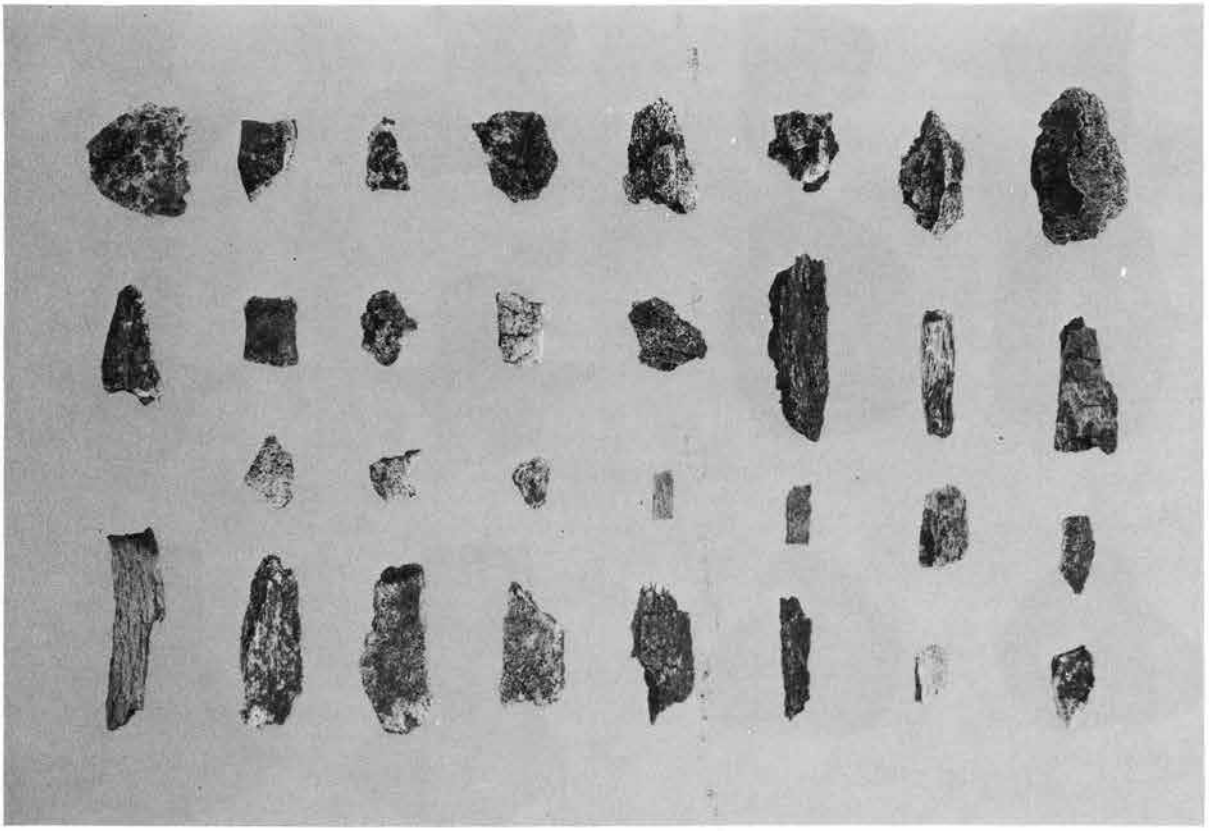
7

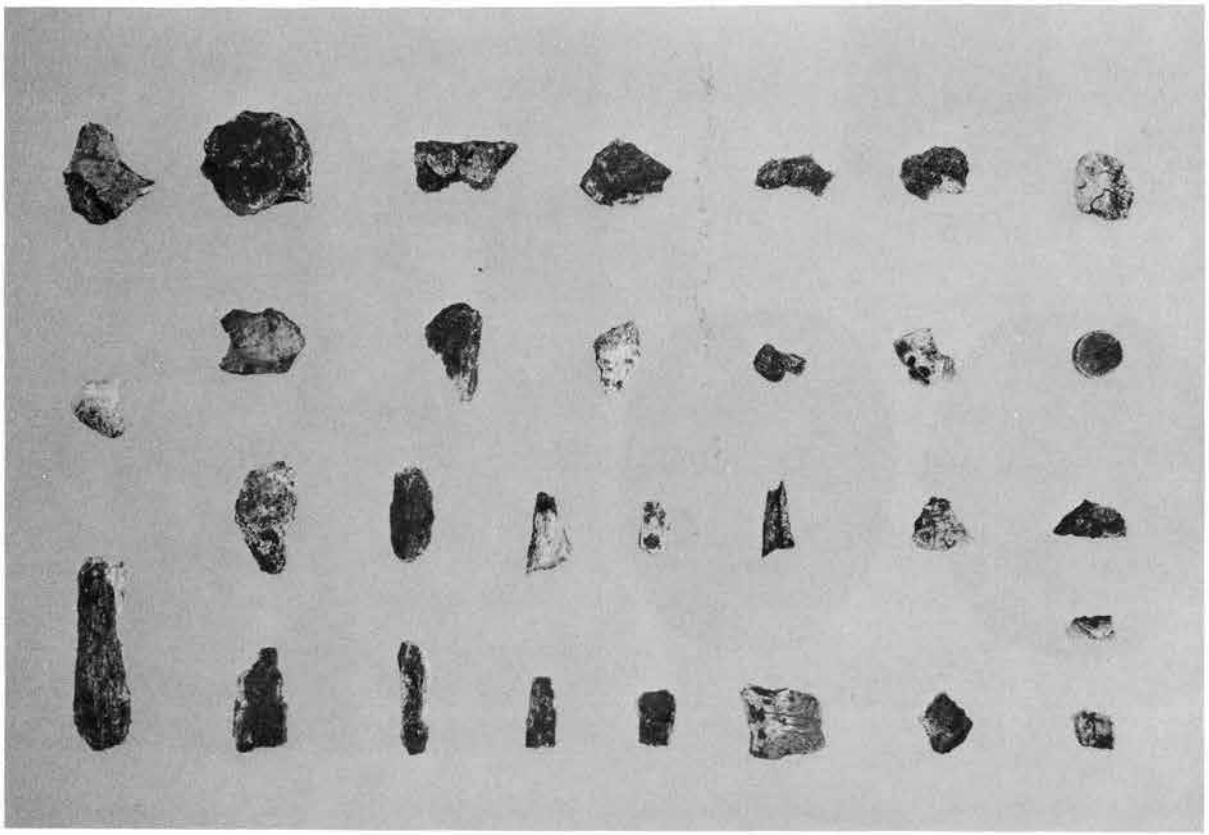


8

第Ⅱ次調査 出土の土偶、玦状耳飾、硬玉製大珠、植物遺存体

図版82





第Ⅱ次調査出土の骨片

古墳時代住居址（西南側より）

同　　上（南側より）